

石薬師東古墳群・石薬師東遺跡

発掘調査報告

—三重県鈴鹿市石薬師町—

2000・3

三重県埋蔵文化財センター



26号墳出土鹿形埴輪



45号墳出土須恵器筒形器台



63号墳出土馬形埴輪

序

昭和の初め頃、三重県消防学校の周辺には25基の古墳が存在していたようです。しかし、昭和17年に旧帝国陸軍の第一気象連隊の施設がこの地に建設され、ほとんどの古墳の盛り土は削平を受けました。その後も、公共の各種施設がたびたびこの地域に建設され、古墳を含む周辺の遺跡についても、ほぼ全壊したものと思われていました。

平成5年度に、三重県消防学校施設・設備整備事業が計画され、それに伴って試し掘りを行った結果、古墳の周溝や集落の跡が地中にまだ残されていることが判明しました。

いうまでもなく、三重県における消防・防災政策の一環としての三重県消防学校が果してきた役割は、多大なものがあります。また、平成7年1月に起こりました阪神・淡路大震災も契機となり、防災体制を一層充実させることの必要性も十分理解しております。

しかしながら、現代の開発と引き換えに今まで地下に眠っていた埋蔵文化財が破壊されてしまうことも事実です。この石薬師東古墳群・石薬師東遺跡についても同様なのです。

今回ここに発掘調査の成果を報告いたしますが、これまでに50基以上の古墳の周溝を検出するとともに、その造営計画の復元や祭祀の痕跡など様々な成果を得ることができました。また、たてがみの表現が全国的にも大変珍しい馬形埴輪も出土しました。さらに、周辺の集落跡の広がりや「幻の部隊」とも呼ばれている旧帝国陸軍の第一気象連隊の遺物も確認することができました。

本書が、文化財保護の啓発と地域の歴史研究の進展にいくばくかでもお役にたてれば幸いだと考えます。

最後になりましたが、発掘調査に際して御協力を賜わりました、石薬師町の皆様をはじめ地元の方々、および三重県環境安全部消防防災課、三重県総務部管財営繕課、三重県消防学校、(財)三重県農業開発公社、鈴鹿市教育委員会、佐佐木信綱資料館、鈴鹿市シルバー人材センター、石薬師公民館などの関係各位に厚く感謝を申し上げます。

平成12年3月

三重県埋蔵文化財センター

所長 大井興生

例　言

1. 本書は、三重県鈴鹿市石薬師町字寺東に所在する石薬師東（いしやくしひがし）古墳群および石薬師東遺跡の発掘調査報告書である。

2. 本調査は、三重県教育委員会が三重県環境安全部から執行委任を受けて、平成5年度から平成8年度の三重県消防学校施設・設備整備事業に伴って実施したものである。なお、平成5年度・平成6年度は三重県総務部から執行委任を受けた。

3. 調査は、下記の体制で行った。

調査主体　三重県教育委員会

調査担当　三重県埋蔵文化財センター

現場担当

平成5年度（第一次）　調査第一課　主　事　小林秀

　　　　　　　管理指導課　研修員　稻森剛、船越重伸、吉田利弘

平成6年度（第二次）　調査第一課　主　事　服部芳人、船越重伸

平成6年度（第三次）　調査第一課　主　事　宇河雅之、浜口元、船越重伸

平成7年度（第四次）　調査第一課　主　事　伊藤裕之、筒井正明、服部芳人

　　　　　　　技　師　日栄智子

　　　　　　　管理指導課　研修員　松葉和也

平成8年度（第五次）　調査第一課　主　事　伊藤裕之、服部芳人

　　　　　　　臨時技術補助員　山田康博、濱辺一機

　　　　　　　管理指導課　研修員　岡　聰

4. 調査にあたっては下記の方々にご指導やご協力をいただいた。なお、所属と敬称は省略させていただいた。

雨宮倉蔵、伊藤厚史、井上裕一、岡田義樹、岡安光彦、小野山節、神谷正弘、
白石太一郎、末崎真澄、高橋克壽、田坂　仁、塚田良道、中村潤子、西口壽生、
八賀　晋、甕　温子、森　浩一、森田克行

5. 発掘調査後の出土遺物の整理は、上記担当者のはかに管理指導課が行った。

6. 本書の執筆分担は、目次と文末に示したとおりである。また、三辻利一氏（奈良教育大学）には出土埴輪・須恵器の胎土分析についての御報文をいただき、（株）パリノサーヴェイによる自然化学分析の報告も掲載した。遺構写真については調査年次の担当者が、遺物の写真については主に服部芳人・船越重伸が撮影した。なお、全体の編集は服部・船越が担当した。

7. 図版を作成するにあたっては国土調査法による第VI系座標を基準とし、方位の座標は座標北を用いた。真北はN 0° 18' W、磁北はN 6° 40' W、それぞれ座標北から振れている。(平成6年)

8. 本書で報告した記録及び出土遺物は、三重県埋蔵文化財センターで保管している。

9. 写真図版の遺物番号は、実測図の番号と対応させてある。

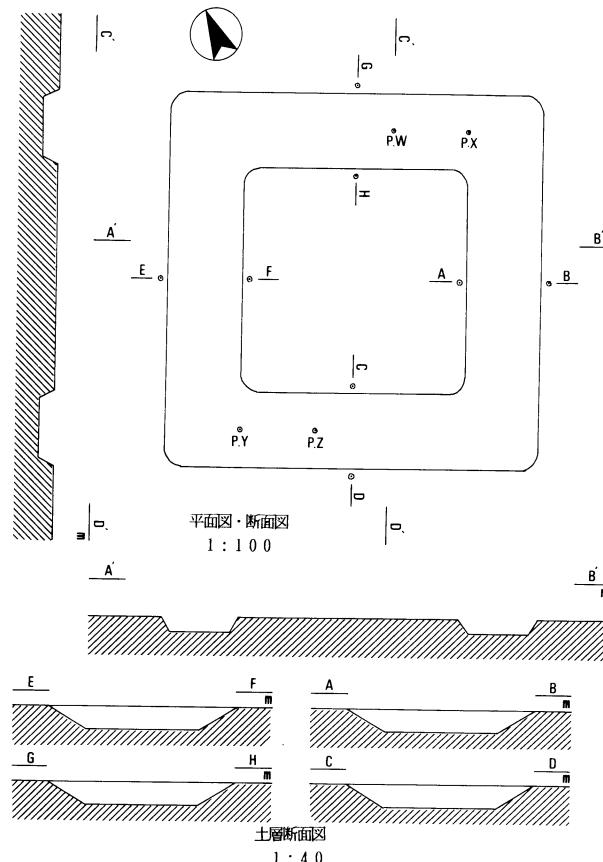
10. 当遺跡で使用した遺構表示略記号は以下の通りである。

S B = 堀立柱建物 S D = 溝 S H = 竪穴住居 S K = 土坑 S X = 墓

11. 遺物観察表の中の登録番号は、第一次調査は1,000番台、第二次調査は2,000番台、第三次調査は3,000番台、第四次調査は4,000番台、第五次調査は5,000番台を使用した。

12. 当発掘調査については、既刊『石薬師東古墳群・石薬師東遺跡（第4次）発掘調査概報－鈴鹿市石薬師町－』（三重県埋蔵文化財センター1996・3）と『石薬師東古墳群・石薬師東遺跡（第5次）発掘調査概報－鈴鹿市石薬師町－』（三重県埋蔵文化財センター1997・3）にその概要を公表しているが、本書をもって最終的な報告とする。

13. 古墳の平面図・土層断面図については、他の古墳との比較を容易にするため、概ね以下の図版凡例のように縮尺を統一した。



14. スキャニングによるデーター取り込みのため、若干のひずみが生じています。
各図の縮尺率は、スケールバーを参照ください。

本文目次

I. 前言	1
1. 調査の契機と経過	(服部芳人・吉田利弘) 1
2. 調査の方法	(服部芳人) 2
3. 調査日誌(抄)	(服部芳人・吉田利弘) 4
II. 位置と歴史的環境	(稻森 剛・船越重伸) 6
1. 地理的環境	6
2. 歴史的環境	7
3. 鈴鹿川流域の方墳	7
4. 鈴鹿川流域での埴輪出土の古墳	8
III. 調査の成果	(服部芳人・船越重伸) 9
1. 概要	9
2. 古墳の周溝	13
(1) 26号墳	13
(2) 27号墳	26
(3) 28号墳	28
(4) 29号墳	31
(5) 30号墳	35
(6) 31号墳	40
(7) 32号墳	47
(8) 33号墳	47
(9) 34号墳	48
(10) 35号墳	48
(11) 36号墳	51
(12) 37号墳	51
(13) 38号墳	53
(14) 39号墳	54
(15) 40号墳	55
(16) 41号墳	59
(17) 42号墳	59
(18) 43号墳	66
(19) 44号墳	66
(20) 45号墳	73
(21) 46号墳	77
(22) 47号墳	77
(23) 48号墳	77
(24) 49号墳	80
(25) 50号墳	84
(26) 51号墳	86
(27) 52号墳	88
(28) 53号墳	88
(29) 54号墳	92
(30) 55号墳	92
(31) 61号墳	94
(32) 62号墳	99
(33) 63号墳	99
(34) 65号墳	107
(35) 66号墳	108
(36) 67号墳	108
(37) 68号墳	111
(38) 69号墳	111
(39) 70号墳	111
(40) 71号墳	111
(41) 72号墳	119
(42) 73号墳	119
(43) 74号墳	119
(44) 75号墳	124
(45) 77号墳	124
(46) 78号墳	129
3. 古墳時代のその他の遺構	130
(1) S X 1	130
(2) S D 10	130
4. 奈良時代の遺構	
(1) S H 2	130
(2) S H 3	133
(3) S H 4	133
(4) S H 5	134
(5) S B 6	134
(6) S B 7	135
(7) S K 8	135
(8) S K 9	136
(9) S K 12	136
5. 近代の遺構	
(1) S D 11	137
IV. まとめ	139
1. 石薬師東古墳群について	(服部芳人) 139
2. 周溝内での遺物の集中について	(服部芳人) 142
3. 形象埴輪について	(服部芳人・船越重伸) 145
4. 第一気象連隊について	(服部芳人) 148
付編 I 石薬師東古墳群出土埴輪・須恵器の蛍光X線分析	(三辻利一) 216
付編 II 石薬師東古墳群の自然科学分析	(パリノサーヴェイ株式会社) 232

挿 図 目 次

第1図	調査区地区割り図	2	第54図	36号墳平面図・土層断面図	51
第2図	古墳周溝遺物取り上げ図	3	第55図	37号墳平面図・土層断面図	52
第3図	遺跡位置図	6	第56図	37号墳北溝遺物出土状況図	52
第4図	遺跡地形図	7	第57図	37号墳出土須恵器実測図	53
第5図	調査区位置図	9	第58図	38号墳平面図・土層断面図	54
第6図	遺構配置図	10	第59図	38号墳南溝遺物出土状況図	54
第7図	遺構平面図	11~12	第60図	38号墳出土須恵器・土師器実測図	55
第8図	26号墳平面図・土層断面図	13	第61図	39号墳平面図・土層断面図	56
第9図	26号墳出土須恵器実測図	14	第62図	39号墳西溝遺物出土状況図	56
第10図	26号墳出土朝顔形埴輪実測図	15	第63図	39号墳出土須恵器実測図	56
第11図	26号墳出土円筒埴輪実測図	16	第64図	40号墳平面図・土層断面図	57
第12図	26号墳出土円筒埴輪実測図	17	第65図	40号墳南溝遺物出土状況図	58
第13図	26号墳出土円筒埴輪実測図	18	第66図	40号墳出土須恵器実測図	58
第14図	26号墳出土馬形埴輪実測図	19~20	第67図	40号墳出土朝顔形円筒埴輪実測図	59
第15図	26号墳出土馬形埴輪実測図	21	第68図	40号墳出土形象埴輪実測図	60
第16図	26号墳出土鹿形埴輪実測図	22	第69図	41号墳平面図・土層断面図	61~62
第17図	26号墳出土形象埴輪実測図	23	第70図	41号墳南溝遺物出土状況図	63
第18図	27号墳平面図・土層断面図	25	第71図	41号墳出土須恵器実測図	64
第19図	27号墳出土須恵器・土師器実測図	26	第72図	42号墳平面図・土層断面図	65
第20図	27号墳出土埴輪実測図	27	第73図	42号墳東溝遺物出土状況図	66
第21図	28号墳平面図・土層断面図	29~30	第74図	42号墳出土須恵器実測図	66
第22図	28号墳北溝中央遺物出土状況図	31	第75図	43号墳平面図・土層断面図	67~68
第23図	28号墳北溝東側遺物出土状況図	31	第76図	43号墳出土須恵器実測図	69
第24図	28号墳南溝遺物出土状況図	32	第77図	44号墳平面図	69
第25図	28号墳出土須恵器・土師器実測図	33	第78図	44号墳東溝遺物出土状況図	69
第26図	28号墳出土朝顔形・円筒埴輪実測図	33	第79図	44号墳出土須恵器実測図	69
第27図	28号墳出土形象埴輪実測図	34	第80図	45号墳平面図・土層断面図	70
第28図	29号墳平面図・土層断面図	35	第81図	45号墳東溝遺物出土状況図	71
第29図	29号墳北溝遺物出土状況図	35	第82図	45号墳・47号墳出土須恵器実測図	71
第30図	29号墳出土須恵器実測図	35	第83図	45号墳北溝遺物出土状況図	72
第31図	30号墳平面図・土層断面図	36	第84図	46号墳平面図・土層断面図	73
第32図	30号墳南溝遺物出土状況図	37	第85図	47号墳平面図・土層断面図	74
第33図	30号墳北溝遺物出土状況図	38	第86図	48号墳平面図・土層断面図	75~76
第34図	30号墳西溝遺物出土状況図	38	第87図	48号墳東溝遺物出土状況図	78
第35図	30号墳南溝遺物出土状況図	38	第88図	48号墳西溝遺物出土状況図	79
第36図	30号墳出土須恵器・土師器実測図	39	第89図	48号墳北溝遺物出土状況図	80
第37図	31号墳平面図・土層断面図	41	第90図	48号墳南溝遺物出土状況図	80
第38図	31号墳西溝遺物出土状況図	42	第91図	48号墳出土須恵器実測図	81
第39図	31号墳東溝遺物出土状況図	43	第92図	48号墳出土朝顔形円筒埴輪実測図	82
第40図	31号墳出土須恵器・土師器実測図	44	第93図	48号墳出土形象埴輪実測図	82
第41図	31号墳出土須恵器実測図	45	第94図	49号墳平面図・土層断面図	83
第42図	31号墳出土円筒埴輪実測図	45	第95図	49号墳北溝遺物出土状況図	84
第43図	32号墳平面図・土層断面図	46	第96図	49号墳出土須恵器・土師器実測図	85
第44図	32号墳東溝遺物出土状況図	46	第97図	49号墳出土埴輪実測図	86
第45図	32号墳出土須恵器実測図	47	第98図	50号墳平面図・土層断面図	87
第46図	33号墳平面図	47	第99図	52号墳平面図・土層断面図	87
第47図	34号墳平面図	48	第100図	51号墳平面図・土層断面図	87
第48図	34号墳出土須恵器実測図	48	第101図	51号墳北溝遺物出土状況図	88
第49図	35号墳平面図・土層断面図	49	第102図	51号墳出土須恵器実測図	88
第50図	35号墳北溝遺物出土状況図	49	第103図	53号墳平面図	89
第51図	35号墳北溝埴輪出土状況図	50	第104図	53号墳北溝遺物出土状況図	89
第52図	35号墳出土須恵器実測図	50	第105図	53号墳出土須恵器・土師器実測図	90
第53図	35号墳出土形象埴輪実測図	50	第106図	54号墳平面図	90
			第107図	54号墳北溝遺物出土状況図	90
			第108図	55号墳平面図・土層断面図	91

第109図	54号墳・55号墳出土須恵器実測図…	92
第110図	55号墳出土埴輪実測図……………	92
第111図	61号墳平面図・土層断面図……………	93
第112図	61号墳出土須恵器実測図……………	94
第113図	62号墳平面図・土層断面図……………	94
第114図	63号墳平面図・土層断面図……………	95~96
第115図	63号墳東溝馬形埴輪出土状況図…	97
第116図	63号墳北溝遺物出土状況図…	98
第117図	63号墳西溝遺物出土状況図…	98
第118図	63号墳出土須恵器実測図……………	100
第119図	63号墳出土円筒埴輪実測図……………	101
第120図	63号墳出土形象埴輪実測図……………	102
第121図	63号墳出土形象埴輪実測図……………	103
第122図	63号墳出土形象埴輪実測図……………	104
第123図	63号墳出土馬形埴輪実測図…	105~106
第124図	65号墳平面図・土層断面図……………	107
第125図	65号墳西溝遺物出土状況図…	108
第126図	65号墳出土須恵器実測図……………	109
第127図	66号墳平面図・土層断面図……………	109
第128図	66号墳出土須恵器実測図……………	109
第129図	67号墳平面図・土層断面図……………	110
第130図	67号墳東溝遺物出土状況図…	111
第131図	67号墳出土須恵器実測図……………	112
第132図	68号墳平面図・土層断面図……………	112
第133図	69号墳平面図・土層断面図……………	112
第134図	71号墳平面図・土層断面図…	113~114
第135図	70号墳平面図・土層断面図……………	115
第136図	71号墳南溝遺物出土状況図…	116
第137図	71号墳出土須恵器実測図……………	117
第138図	71号墳出土朝顔形円筒埴輪実測図…	118
第139図	72号墳平面図・土層断面図……………	120
第140図	72号墳東溝遺物出土状況図…	120
第141図	72号墳出土須恵器実測図……………	120
第142図	73号墳平面図・土層断面図……………	120
第143図	73号墳出土須恵器実測図……………	120
第144図	71号墳出土形象埴輪実測図……………	120
第145図	74号墳平面図・土層断面図……………	121
第146図	74号墳南溝遺物出土状況図…	122
第147図	74号墳西溝遺物出土状況図…	123
第148図	74号墳西溝遺物出土状況図…	124
第149図	74号墳北溝遺物出土状況図…	125
第150図	74号墳北溝遺物出土状況図…	126
第151図	74号墳出土須恵器実測図……………	127
第152図	74号墳出土須恵器実測図……………	128
第153図	74号墳出土土師器実測図……………	129
第154図	74号墳出土形象埴輪実測図……………	129
第155図	S X 1 平面図・断面見通し図…	130
第156図	S X 1 · S D 10出土遺物実測図…	130
第157図	S H 3 平面図・土層断面図…	131
第158図	S H 3 カマド平面図…	131
第159図	S H 2 平面図・断面図…	131
第160図	S H 4 · 5 平面図・土層断面図…	132
第161図	S H 4 カマド実測図…	132
第162図	S H · S K 出土遺物実測図…	133
第163図	S B 6 実測図…	134
第164図	S B 7 実測図…	135
第165図	S K 9 実測図…	136
第166図	S D 11 実測図…	137
第167図	近代遺物実測図…	138
第168図	時期別古墳配置図 および遺物出土配置図…	140
第169図	規模別古墳配置図…	141
第170図	第一気象連隊関係建物配置図…	149

表 目 次

第1表	遺構対照表…	3
第2表	古墳一覧表…	129
第3表	時期別古墳一覧表…	140
第4表	規模別古墳一覧表…	141
第5表	時期別遺物出土位置一覧表…	143
第6表	器種別遺物出土一覧表…	144
第7表	県内の馬形埴輪出土遺跡一覧表…	148
第8表	古墳の周溝出土須恵器・土師器観察表 (1) …	150
第9表	古墳の周溝出土須恵器・土師器観察表 (2) …	151
第10表	古墳の周溝出土須恵器・土師器観察表 (3) …	152
第11表	古墳の周溝出土須恵器・土師器観察表 (4) …	153
第12表	古墳の周溝出土須恵器・土師器観察表 (5) …	154
第13表	古墳の周溝出土須恵器・土師器観察表 (6) …	155
第14表	古墳の周溝出土須恵器・土師器観察表 (7) …	156
第15表	古墳の周溝出土須恵器・土師器観察表 (8) …	157
第16表	古墳の周溝出土須恵器・土師器観察表 (9) …	158
第17表	古墳の周溝出土須恵器・土師器観察表 (10) …	159
第18表	古墳の周溝出土須恵器・土師器観察表 (11) …	160
第19表	古墳の周溝出土円筒埴輪観察表 (1) …	161
第20表	古墳の周溝出土円筒埴輪観察表 (2) …	162

第21表	古墳の周溝出土形象埴輪観察表（1）	163
第22表	古墳の周溝出土形象埴輪観察表（2）	164
第23表	古墳時代のその他の遺構・奈良時代の遺構出土遺物観察表	165
第24表	近代の遺構出土遺物観察表	165

図版目次

図版 1	調査区全景（第1次～第5次調査区）、調査区全景（第4次調査区）	166
図版 2	26号墳全景、27号墳全景	167
図版 3	調査区全景（第3次調査区）	168
図版 4	28号墳北溝遺物出土状況、28号墳南溝遺物出土状況、30号墳南溝遺物出土状況、 30号墳北溝遺物出土状況、30号墳西溝遺物出土状況、31号墳西溝遺物出土状況	169
図版 5	31号墳東溝遺物出土状況、32号墳東溝遺物出土状況、38号墳全景	170
図版 6	38号墳南溝遺物出土状況、39号墳全景、39号墳西溝遺物出土状況 調査区全景（第4次調査区）	171
図版 7	40号墳西溝～南溝、40号墳南溝遺物出土状況、41号墳全景、41号墳南溝遺物出土状況、 42号墳全景、42号墳東溝遺物出土状況、43号墳全景	172
図版 8	44号墳全景、44号墳東溝遺物出土状況、45号墳全景、45号墳東溝遺物出土状況、 49・47・45号墳全景	173
図版 9	47号墳全景、48号墳南・西溝全景、48号墳東溝遺物出土状況、48号墳南溝遺物出土状況、 48号墳西溝遺物出土状況、49号墳全景、49号墳北溝遺物出土状況、 51号墳北溝遺物出土状況	174
図版10	53号墳全景、53号墳北溝遺物出土状況、54号墳全景、55号墳全景、63号墳東溝～北溝	175
図版11	63号墳東溝馬形埴輪出土状況、63号墳北溝遺物出土状況、63号墳西溝遺物出土状況、 63号墳北溝～東溝	176
図版12	65号墳全景、65号墳西溝遺物出土状況、67号墳西溝遺物出土状況、67号墳東溝遺物出土状況、 調査区全景（第5次調査H地区）	177
図版13	調査区全景（第5次調査I地区）、71号墳全景	178
図版14	71号墳全景、72号墳東溝遺物出土状況、74号墳南溝遺物出土状況、 74号墳北溝遺物出土状況、71号墳全景	179
図版15	S X 1 遺物出土状況、S H 3 全景、S H 4・5 全景、S H 2 全景、S H 4 カマド全景	180
図版16	調査区全景（第5次調査）J地区、S B 6 全景、S D 11 全景、待避壕、第一気象連隊記念碑	181
図版17	26号墳出土遺物	182
図版18	26号墳出土遺物	183
図版19	26号墳出土遺物	184
図版20	27号墳出土遺物	185
図版21	28号墳出土遺物	186
図版22	28号墳出土遺物	187
図版23	29・30号墳出土遺物	188
図版24	31号墳出土遺物	189
図版25	31・32・35号墳出土遺物	190
図版26	37・38号墳出土遺物	191
図版27	38・40号墳出土遺物	192
図版28	40・41号墳出土遺物	193
図版29	41・42・43号墳出土遺物	194
図版30	44・45・47・48号墳出土遺物	195
図版31	48号墳出土遺物	196
図版32	49・51号墳出土遺物	197
図版33	53号墳出土遺物	198
図版34	54・55・61・63号墳出土遺物	199
図版35	63号墳出土遺物	200
図版36	63号墳出土遺物	201
図版37	63号墳出土遺物	202
図版38	63号墳出土遺物	203
図版39	63号墳出土遺物	204

図版40	63号墳出土遺物	205
図版41	63号墳出土遺物	206
図版42	65・67号墳出土遺物	207
図版43	67・71号墳出土遺物	208
図版44	71号墳出土遺物	209
図版45	71・72・73号墳出土遺物	210
図版46	74号墳出土遺物	211
図版47	74号墳出土遺物	212
図版48	74号墳・S D 10出土遺物	213
図版49	S X 1・S H 4・近代遺構出土遺物	214
図版50	近代遺構出土遺物	215

付 編 目 次

第1表	石薬師東古墳群出土埴輪胎土分析表(1)	221
第2表	石薬師東古墳群出土埴輪胎土分析表(2)	222
第3表	石薬師東古墳群出土埴輪胎土分析表(3)	223
第4表	石薬師東古墳群出土埴輪胎土分析表(4)	224
第5表	石薬師東古墳群出土埴輪胎土分析表(5)	225
第6表	石薬師東古墳群出土須恵器胎土分析表(1)	225
第7表	石薬師東古墳群出土須恵器胎土分析表(2)	226
第8表	稻生遺跡出土須恵器胎土分析表	226
第9表	寺谷古墳群出土須恵器胎土分析表	226
第1図	35号墳出土埴輪 K-Ca・Rb-Sr 分布図	227
第2図	41号墳出土埴輪 K-Ca・Rb-Sr 分布図	227
第3図	42号墳出土埴輪 K-Ca・Rb-Sr 分布図	227
第4図	43号墳出土埴輪 K-Ca・Rb-Sr 分布図	227
第5図	47号墳出土埴輪 K-Ca・Rb-Sr 分布図	228
第6図	49号墳出土埴輪 K-Ca・Rb-Sr 分布図	228
第7図	55号墳出土埴輪 K-Ca・Rb-Sr 分布図	228
第8図	63号墳出土埴輪 K-Ca・Rb-Sr 分布図	228
第9図	40号墳出土埴輪 K-Ca・Rb-Sr 分布図	229
第10図	48号墳出土埴輪 K-Ca・Rb-Sr 分布図	229
第11図	26号墳出土埴輪 K-Ca・Rb-Sr 分布図	229
第12図	27号墳出土埴輪 K-Ca・Rb-Sr 分布図	229
第13図	28号墳出土埴輪 K-Ca・Rb-Sr 分布図	230
第14図	71号墳出土埴輪 K-Ca・Rb-Sr 分布図	230
第15図	寺谷古墳群出土埴輪 K-Ca・Rb-Sr 分布図	230
第16図	石薬師東古墳群出土須恵器 K-Ca・Rb-Sr 分布図	230
第17図	稻生遺跡出土須恵器 K-Ca・Rb-Sr 分布図	231
第18図	出土埴輪別古墳群配置図	231

I. 前 言

1. 調査の契機と経過

三重県消防学校は、昭和53年4月1日に県下市町村の消防職員、防災関係者並びにその他関係団体等に所属する人達の消防教育訓練施設として、鈴鹿市石薬師町452番地に開校されたものである。

それ以前、当校は三重県合同ビル内に開設されていたが、その当時石薬師の地にあった三重県農業経営研修所および三重県鈴鹿高等看護学院の施設を転用・再利用することになり、現在地に移転した。しかし現在の建物は旧施設を転用しているために多くの不便があり、建物の老朽化も著しいことから、新築を含めた早急な施設整備が必要とされていた。

さて、三重県教育委員会では例年、国および県が行う各種公共事業に対して、関係諸機関に事業照会を行うとともに事業予定地内の文化財の確認、保護に努めている。この照会に対して、平成5年度に三重県総務部消防防災課（当時）から、三重県消防学校施設・設備整備事業計画の回答を受けた。この事業予定地内は、石薬師東古墳群（遺跡番号207-754～778）および石薬師東遺跡（遺跡番号207-727）の北西隣接地（古墳群は一部含まれる）に当たるため、三重県埋蔵文化財センターが分布調査を実施し、範囲確認のための事前調査が必要であることを平成5年3月1日付で関係機関に通知した。

そこでより詳細な遺跡の実態を把握するために、平成5年度は鈴鹿市教育委員会（第一次：6月14日～28日、第二次：8月9日～18日）が、平成6年度は三重県埋蔵文化財センターがそれぞれ担当して試掘調査を実施した。その結果、石薬師東遺跡については周知の遺跡範囲が北東方向に広がり（縄文～奈良時代の遺構・遺物を確認）、また、石薬師東古墳群については現練習グラウンドおよび消防学校施設にまでおよぶ（数基の古墳の周溝を検出）ことが確認された。結局、調査の必要面積は、15,000m²以上という膨大な広さとなった。

この取扱いについては、その保護に努めるよう三重県総務部消防防災課・三重県消防学校と、三重県

教育委員会文化振興課（当時）・三重県埋蔵文化財センターの間で再三協議を重ねたが、現状保存が困難なためにやむなく発掘調査を実施し、記録保存することになった。

発掘調査は平成5年度に、主訓練棟建設予定地部分を第一次調査として1,300m²を行った。平成6年度には、グラウンド予定地北東の外周道路部分の石薬師東遺跡を第二次調査として2,060m²を4月から6月にかけて行った。また、11月から翌年1月にかけて旧グラウンド内と排水管設置予定場所に立会調査を含めて、2,319m²を第三次調査として行った。平成7年度は、管理教育棟建設予定地等に6,300m²（A～G地区の7か所）の本調査と、給水管・電線管などの設置に伴う工事立会調査で255m²を第四次調査として行った。そして平成8年度には放水訓練場・練習グラウンド予定地などに本調査（H～M地区の6か所）と、旧管理教育棟・宿泊棟部分などの工事立会調査を含めて7,110m²を第五次調査として行った。なお、その後平成8年度末には、新消防学校施設周囲へのL形擁護壁設置に伴う工事立会調査を実施し、この事業に伴う全調査を終了した。

（第1・5図）

調査期間中の平成7年度には、三重県の機構改革に伴って、県総務部消防防災課は県環境安全部消防防災課に、県文化振興課は県文化芸術課に組織改変された。また、この年度から土工部門を（財）三重県農業開発公社に委託し、鈴鹿市シルバー人材センターの協力を得て作業員も増員した。さらに、新たな三重県消防学校施設の完成予定も平成9年4月となることから、解体・建設工事も周辺で行われ始めた。その中で消防学校の生徒の訓練も行われる等発掘の調査区を幾つかに分割せざるを得なかった。また、調査区の順番・排土置き場などについて幾度となく協議検討を重ねながら調査を実施してきた。そのため、一つの古墳周溝が幾つかの調査区に分かれて検出された例もある。

第一次調査は寒風吹きすさぶ11月から年末にかけて、第二・三次調査は平成6年度内の工事計画との

絡みで、時期を春と冬の2回に分けて調査を実施した。また、第四・五次調査では桜の開花と同時に調査を開始し、毎日消防学校生徒の訓練を真近かにしながら、周辺の旧施設の解体工事や新消防学校施設の建設工事の音を耳にしながら調査を進めた。その様な中、例年通りの梅雨、猛暑、台風、寒風など、調査にとって辛い天候の日々が多々あった。さらに輪をかけて、昭和時代の旧帝国陸軍の第一気象連隊の建物基礎や攪乱などとの格闘で、作業に携わっていただいた方々には大変な苦労をおかけした。それでも無事に調査が終了することができたのは、一重に作業に従事していただいた地元の方々の努力の賜物である。ここに御名前を記して、心から感謝の意を表したい。

(服部芳人・吉田利弘)

伊藤恵美子、伊藤和代、伊藤 鈴、伊藤玉子
植村正之、宇佐見藤子、臼井知子、打田麗子
岡いづみ、岡田佐太郎、岡田美晴、大嶋絹枝
片岡満寿子、川北純吉、川北昭二、川北澄子
川原せつ子、川北弓子、川北美栄、岸本喜美子
北川 栄、熊倉ヨシ子、黒田まさ子、桑原うた子

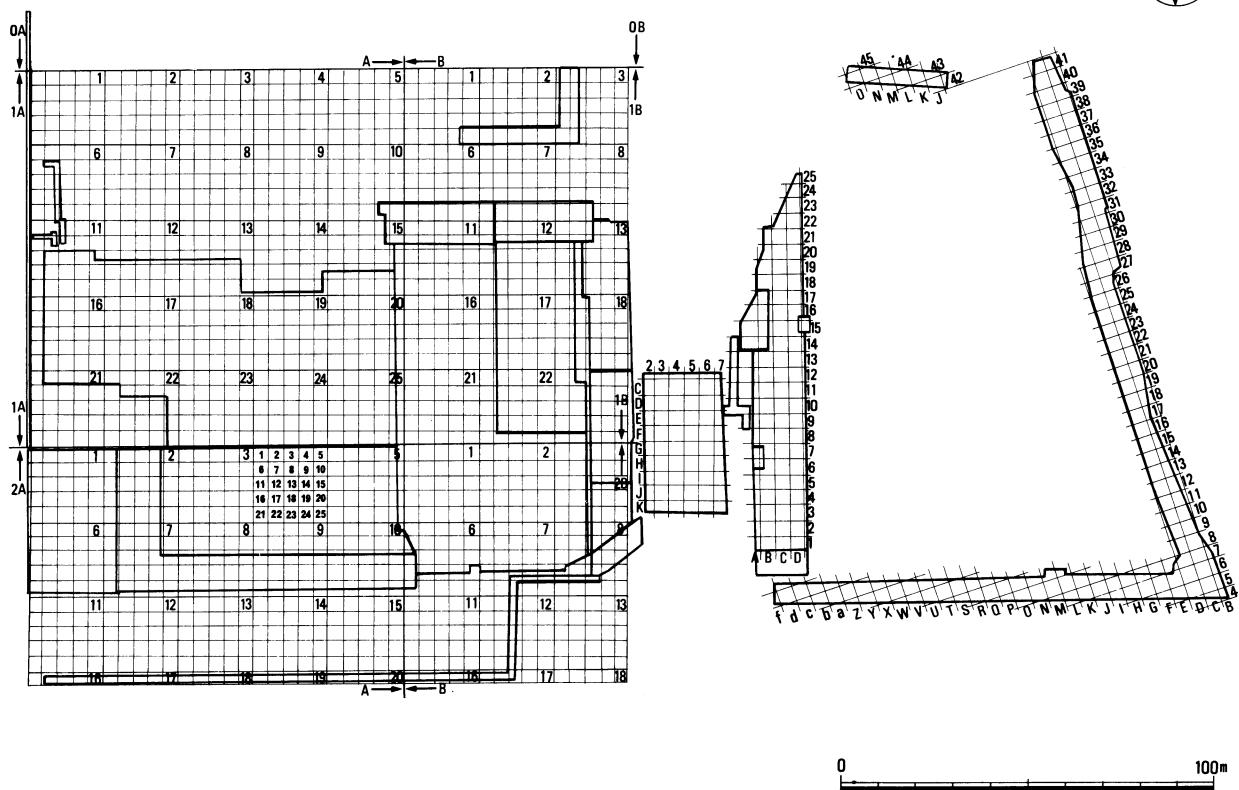
桑原淳子、小泉節子、古山美佐枝、酒井巳紀子
坂倉義也、坂本しげ子、坂本やゑの、清水はる
清水幸雄、杉野靖子、杉野正明、鈴木美恵子
田中喜代治、田中重治、辻 宏、都築利恵子
遠山節子、生川五十男、野崎さよ子、長谷川次枝
萩森俊男、林よし子、広田ツヤ子、古市玉枝
堀之内一哉、牧村正巳、松永初子、松永光治
松村鉄夫、松村幸雄、南 正美、南 美穂
宮口政子、 村居典子、森下こしづ、山口絹子
吉田淳子 (五十音順、敬称略)

(五十音順、敬称略)

2. 調査の方法

(1) 地区割り (第1図)

調査に際しての地区割りは、調査区が単独あるいは北東に離れる平成5年度（第一次調査）と平成6年度（第二次調査）および第五次調査のJ地区については、その調査区の形に応じて 4×4 mの小地区を設定し、北西方向の杭を基準に遺構略図の作成や



第1図 調査区地区割り図 (1 : 2,000)

遺物の取り上げを行った。しかし、その他の第三～五次調査に関しては、調査区が広く、しかも現練習グラウンド内にほぼ納まるため、100m四方を大地区（0 A～2 B）、20m四方を中地区（1～25）、4 m四方を小地区（1～25）として調査を行った。調査年次によって、地区割りを変えてしまったため、遺構検出時での遺物ラベル表示に混乱を来たることは否めない。今後、数年度にまたがる調査に際しては、先を見通した地区設定が必要であると反省させられた。

(2) 測量および航空写真

遺構の測量については、調査年次によって平板測量、トータルステーションによる地上測量などを併用したが、国土座標値を入れて異なる年度の調査区との合成を図った。しかし、第二・三次調査では、等高線を入れた測量を実施しておらず、一つの遺構図で、中途完成になってしまったことは反省材料である。なお、第一・三・四・五次調査では実機やラジコンのヘリコプターによる、垂直写真撮影を実施した。

(3) 遺構番号

古墳については、戦前には25基の存在が知られたいたが、第一気象連隊の施設などにより墳丘が削平を受けて消滅しており、番号の確定ができない。そこで第一次調査で検出した古墳を26号墳とし、以下順次番号を与えた。なお、周辺では民間開発に伴って鈴鹿市教育委員会が、56～60・64・76号墳を調査している。

その他の遺構については、調査年度ごとに1番から命名し、概報で既に報告したが、今回の報告で通し番号に変更した。（第1表）

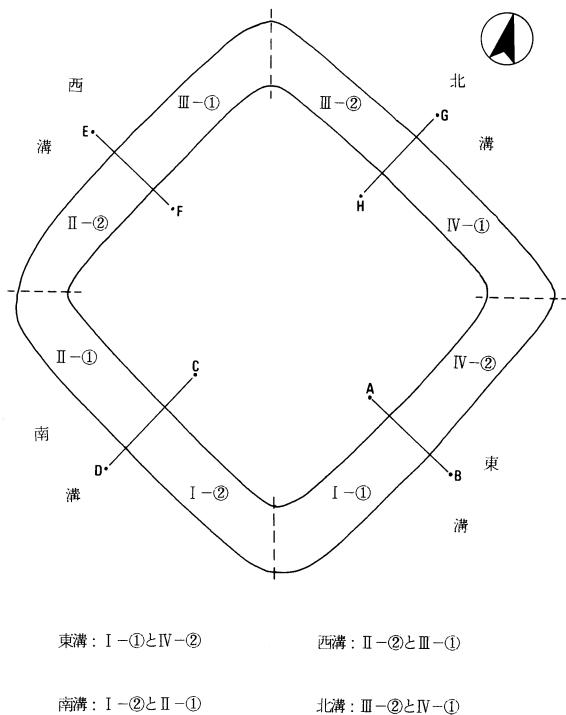
調査年次	旧遺構番号	新遺構番号
平成6年（第3次）	S X 102	S X 1
平成6年（第2次）	S H 3	S H 2
平成6年（第2次）	S H 9	S H 3
平成6年（第2次）	S H 13	S H 4
平成6年（第2次）	S H 14	S H 5
平成8年（第5次）	S B 101	S B 6
平成8年（第5次）	S B 102	S B 7
平成6年（第2次）	S K 6	S K 8
平成8年（第5次）	S K 1	S K 9
平成6年（第3次）	S D 103	S D 10
平成8年（第5次）	S D 9・10	S D 11

第1表 遺構対照表

(4) 古墳周溝の遺物取り上げ方法（第2図）

第三・四次調査では、確認されている古墳の多くが方墳であることから、周溝の各辺の中央部分で土層断面図を作成し、その土層セクションで挟まれた場所の4か所ごとに遺物の取り上げを行ってきた。すなわち、南東隅部分を周溝I・南西隅部分を周溝II・北西隅部分を周溝III・北東隅部分を周溝IVとしていた。しかし、この方法では古墳四辺のどの辺から遺物が出土したのかは判断ができない。そのため、第五次調査ではさらに各隅で分け、8分割して時計周りに①・②の枝番号を付けて、遺物の取り上げを行った。

これまで4年間の調査で、50基以上の古墳の周溝を確認しているが、ほとんどの墳形が方墳である。しかもその多くが北を主軸と考えると、東に約20°～40°傾いている。そこで、便宜上、古墳の中心から石薬師高校に向かって右上を北溝、左上を西溝、右下を東溝、左下を南溝とした。この8分割の遺物の取り上げでいくと、例えば周溝I-②と周溝II-①からの出土が南溝、周溝II-②と周溝III-①からの出土が西溝からの出土遺物となる。（服部芳人）



第2図 古墳周溝遺物取り上げ図

3・調査日誌（抄）

平成5年（第一次調査）

11月 8日 道具搬入・写真撮影・調査区設定
11月 9日 表土除去・地山面の確認
11月12日 レベル移動（県立石薬師高校グラウンド内の4等三角点49.490mから）
11月15日 地区設定・周溝を確認・包含層から、多数の埴輪片、須恵器片出土
11月24日 形象埴輪（馬形埴輪の鞍）出土
12月 6日 形象埴輪（鈴、面繫、鹿の角）出土
12月 8日 調査区全体写真撮影
12月15日 平板実測と測量
12月22日 航測と遺構全体写真撮影・作業終了

平成6年度（第二次調査）

4月18日 表土除去開始・レベル移動
4月25日 作業員投入
5月16日 S H 2 挖削
5月19日 S H 3 挖削
5月24日 S H 4 西側拡張・27号墳検出
6月 1日 27号墳から形象埴輪多数出土
6月 2日 S H 4・5 完掘
6月15日 調査区全景写真撮影
6月20日 調査区平板実測
6月24日 作業員対象説明会・調査終了

平成6年度（第三次調査）

11月 7日 表土除去開始
11月17日 作業員投入
11月28日 28号墳北溝から土師器の短頸壺出土
11月29日 29号墳北溝から須恵器の杯身・杯蓋・
　　甕出土
12月 2日 排水管埋設トレンチ調査開始
12月13日 31号墳掘削開始・S X 1 実測
12月15日 SD10 から管玉出土
12月27日 38号墳南溝から須恵器の杯身・杯蓋・
　　無蓋高杯・甕出土状況図作成
1月 5日 調査区平面図作成
～9日
1月18日 排水管埋設トレンチ立会調査

1月29日 現地説明会開催（150名参加）

1月30日 現場作業終了

平成7年度（第四次調査）

4月10日 表土除去・道具搬入
4月17日 作業員投入・41号墳検出
4月24日 42号墳より須恵器の杯身・杯蓋出土
5月 8日 45号墳より須恵器の筒形器台出土
5月25日 48号墳より円筒埴輪出土
6月 5日 C・D区の地区設定
6月 7日 49号墳より鶲形埴輪出土
6月16日 49号墳から須恵器の筒形器台片出土
6月19日 C・D区図面作成
6月20日 39号墳より須恵器の甕・有蓋高杯・土
　　師器の椀出土
6月21日 外国人研修生エリック・チェン氏視察
6月27日 49号墳全景写真撮影
7月11日 49号墳東側が造出し状になると判断・
　　28号墳形象埴輪多量に出土
7月15日 現地説明会開催（130名参加）
7月17日 28号墳より女子埴輪出土
7月18日 28号墳より武人埴輪の鞍出土
7月19日 ラジコンヘリによる写真撮影・43・
　　45・46号墳の拡張区表土掘削
7月21日 43号墳平板測量
7月25日 拡張区調査終了
8月 1日 G区53号墳検出
8月 3日 53号墳より須恵器の壺・有蓋高杯・
　　土師器の壺など出土
8月 7日 54号墳より須恵器の蓋出土
8月11日 G区終了・55号墳より女子埴輪出土
8月17日 55号墳側造り出し確認
8月25日 作業員終了
8月29日 E区・F区平板実測
9月 1日 現地協議・現地引き渡し

平成8年度（第五次調査）

4月 4日 J地区表土掘削開始・レベル移動
4月10日 J地区作業開始
4月15日 仮設雨水排水管設置場所立会調査
4月17日 掘立柱建物S B 6 検出

4月23日	仮設給水管設置場所立会調査	による写真撮影・現地測量
5月1日	屋内訓練棟東側、旧市道部分の調査について協議	10月29日 屋内訓練場現地測量終了・引き渡し・消防学校慰靈祭
5月13日	J地区写真撮影・K地区作業開始	11月7日 消防ホース干し棟部分立会調査
5月16日	J地区引き渡し・K地区63号墳から馬形埴輪出土	11月15日 71号墳写真撮影・71号墳終了
5月20日	L地区表土掘削	12月5日 遺物展示会用の遺物搬入
6月3日	63号墳周溝Ⅲ-①拡張	12月6日 現地説明会関係資料提供
6月7日	K地区作業終了・H地区・管理教育棟・宿泊棟の協議	12月10日 遺物展示会開催(佐々木信綱資料館)
6月12日	K地区引き渡し	12月14日 現地説明会200名参加(午前) スラド上映会(石薙師公民館)100名参加(午後)
6月13日	L地区40号墳写真撮影・作業終了	12月19日 I地区ラジコンのヘリコプターによる写真撮影
6月18日	L地区引き渡し	12月20日 I地区発掘調査終了・引き渡し
7月2日	H地区表土掘削開始	12月22日 遺物展示会最終日
7月10日	H地区作業開始	12月25日 遺物展示会会場撤収
7月15日	65号墳から須恵器の杯身・杯蓋など 完形で出土・梅雨明け宣言	(服部芳人・吉田利弘)
7月24日	67号墳終了・I地区調査区設定	
7月29日	消防大会のため作業中止	
7月30日	I地区表土掘削開始	
8月1日	H地区地上測量・I地区表土掘削	
8月2日	H地区測量終了・I地区杭設定	
8月6日	H地区ラジコンヘリによる写真撮影	
8月7日	H地区引き渡し	
8月23日	管理教育棟部分写真撮影・測量	
9月3日	40号墳から須恵器の有蓋高杯・短頸壺完形で出土	
9月11日	三重県議会議員消防学校視察	
9月17日	宿泊棟部分表土除去	
9月18日	宿泊棟部分引き渡し・M地区表土除去	
9月25日	M地区作業終了	
9月27日	M地区測量・ラジコンのヘリコプターによる写真撮影・引き渡し	
10月2日	屋内訓練場表土掘削	
10月16日	屋内訓練場作業開始	
10月17日	長太公民館主催「鈴鹿の歴史・文化財・産業現地学習会」成人学級・高齢者教室遺跡発掘見学会	
10月24日	屋内訓練場作業終了	
10月25日	I地区北側表土掘削	
10月28日	屋内訓練場ラジコンのヘリコプター	

II. 位置と歴史的環境

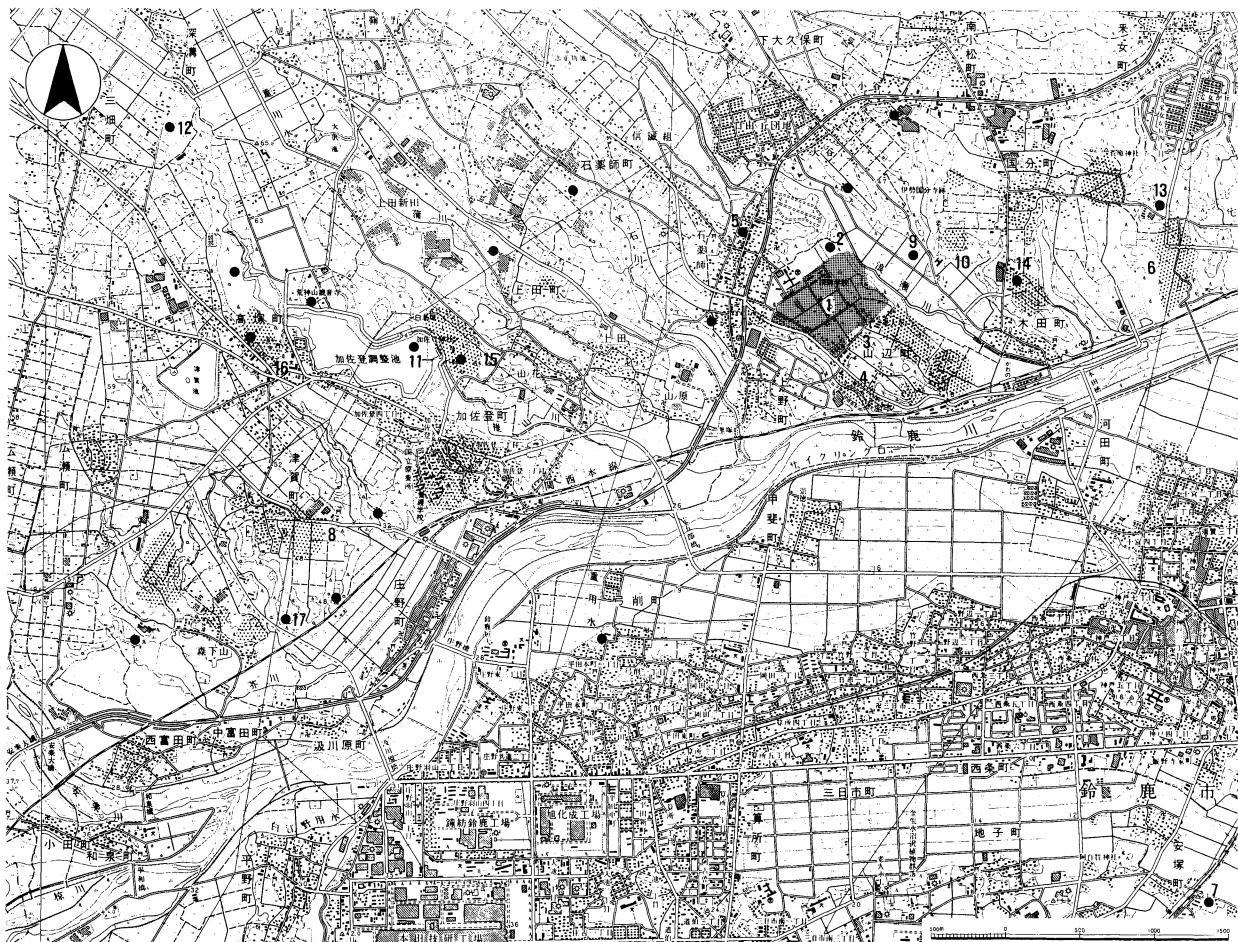
1. 地理的環境

三重県内には、鈴鹿川流域、安濃川流域、松阪地方、雲出川流域・木津川流域などの古墳密集地域が認められる。石薬師東古墳群・石薬師東遺跡（1・以下、当遺跡という）は、鈴鹿川の支流である波瀬川と蒲川の開析によって形成された標高約40mの台地上に位置し、行政上は鈴鹿市石薬師町字寺東に所在する。

鈴鹿川下流域左岸には、鈴鹿川に流れ込む多くの支流があり、これら支流の開析によつていくつもの台地が形成されている。そして、その台地上には多くの古墳や古墳群が存在する。

当遺跡も鈴鹿川の支流である浪瀬川と蒲川の開析によつて形成された台地上位面にあり、25基の古墳および弥生から古墳時代にかけての集落跡が周知の遺跡として登録されている。当遺跡の北には小規模

な開析谷があり、その谷を挟んで対岸には乗鞍古墳（2）がある。また、鈴鹿川方向へ極く浅い開析谷と、比較的大きな開析谷がそれぞれ2カ所認められる。これらの開析谷を境としてそれぞれの台地に中山古墳群（18）、口山古墳群（19）、南山古墳群（4）が、台地の南東端の崖下には山辺古墳群（20）および山辺横穴墓（21）が分布しており、これらの開析谷が何らかの自然の境界をなしているように見られる。当遺跡範囲内では、地形は三重県消防学校敷地部分を頂点とし、浪瀬川方向へと傾斜していく。学校の東側は荒れ地ではあるが3カ所の平坦部分が階段状に広がっており、その比高はそれぞれ約2mずつである。最下段の標高は約34mである。この部分が台地の先端部分にあたり、浪瀬川に向かって急激に落ち込んだ崖で、浪瀬川との比高は約23mである。平成5年度からの5次にわたる発掘調査から、台地の



第3図 遺跡位置図（1：50,000）（国土地理院『鈴鹿』1：25,000より）

縁辺部分に比較的大きな

古墳が築造されるとともに、階段状の荒れ地部分には、時期差があるものの集落が形成されていたことがわかつってきた。^{②③④⑤}

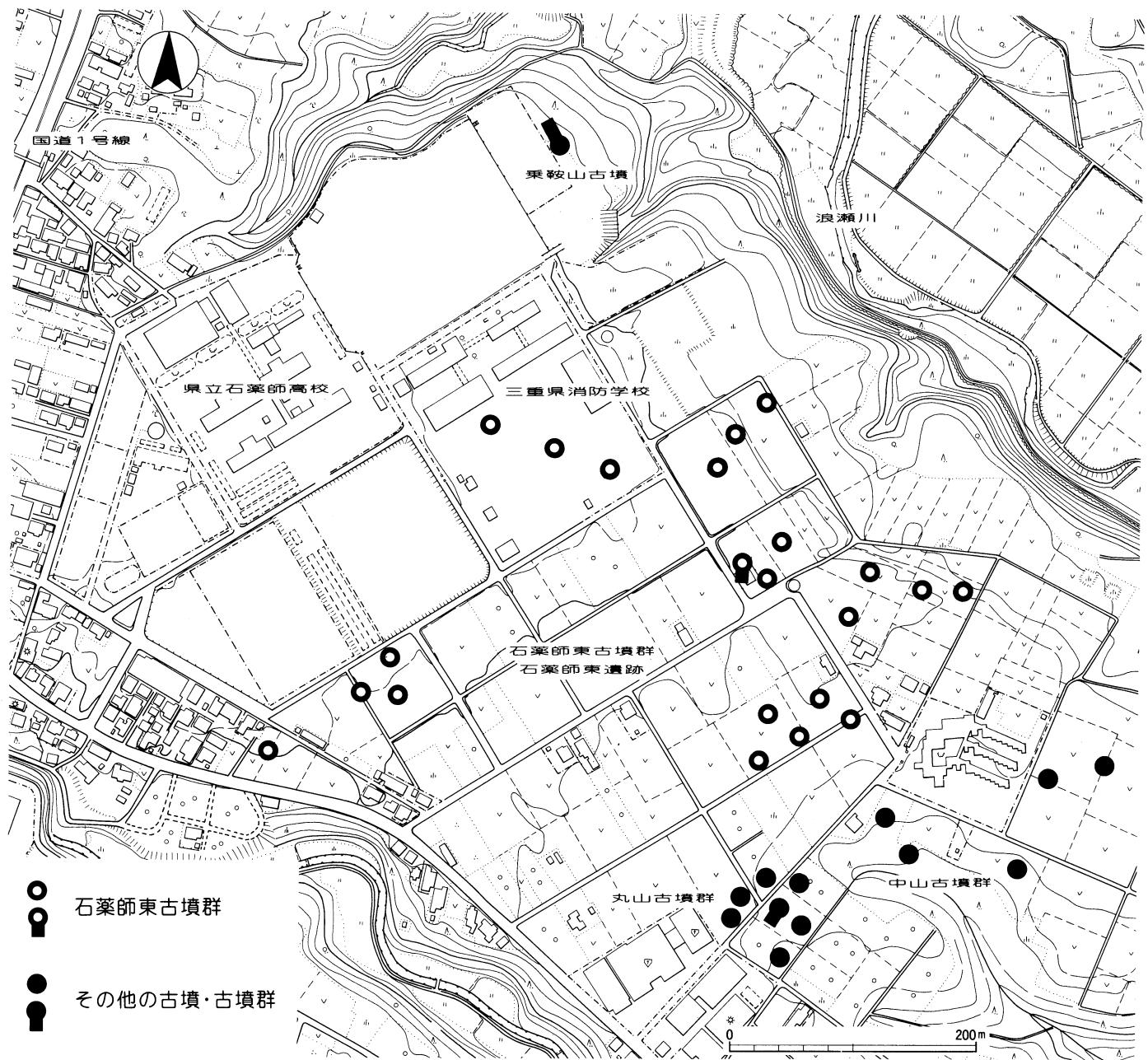
しかし、これらの古墳は太平洋戦争中に行われた旧帝国陸軍第一気象連隊関係施設の建設により全て削平を受けている。戦後、この施設は三重県農業経営研修所、三重県鈴鹿高等看護学校、養老院などに利用され、現在は三重県立石薬師高等学校、三重県消防学校が所在する。^⑥

2. 歴史的環境

鈴鹿地方が古くから畿内と東国を結ぶ交通の要衝の1つであったことは、現在の交通体系を見てもわかる。畿内と東国を結ぶルートの1つに、上野から加太峠、関、亀山を経て朝明に至るルートがある。時代とともに部分的なルート変更が行われてきたが、鈴鹿は常に主要ルート上に位置する。このような地理的条件下で、弥生時代の豊かな経済力を背景にいち早く古墳文化を導入できたものと思われ、4世紀後半には古墳の築造が開始されたとされている。

3. 鈴鹿川流域の方墳

鈴鹿地方の古墳は、地理的に7グループに分類さ



第4図 遺跡地形図（1：5,000） 乗鞍山古墳および丸山古墳群以外は推定位置（『鈴鹿市遺跡地図』より）

れる。当遺跡が所在する石薬師から高岡までの鈴鹿川下流域はその中の1つのグループを構成しており、主に鈴鹿川北岸に分布している。^⑦

鈴鹿川流域およびその周辺は、方墳の多さが目立つ地域となっている。当遺跡も主として方墳から成る群集墳で、数多くの形象埴輪を伴っていることが調査の過程で明らかになってきている。当遺跡周辺には、乗鞍古墳や丸山古墳群（3）、南山古墳群、北町古墳（5）などの前方後円墳のほか、寺田山古墳群（6・6世紀前半）、寺谷古墳群（5世紀末から6世紀前半）、6世紀後葉の方墳群が検出された北ノ添遺跡^⑨（7）、西ノ野古墳群（7世紀前半）などの方墳群がある。

そして、単独の方墳もこの地域には数多くあり、津賀平遺跡検出の方墳^⑩（8）、谷山古墳^⑪（5世紀後半）、蛸田古墳（9）、狐塚遺跡検出の方墳（10・7世紀前半）、北野古墳（11・7世紀前半）、深溝狐塚古墳（12）、塚原1号墳のほか、大鹿山5号墳（14）、高岡山2号墳、白鳥塚7号墳（15）、上高塚4号墳（16）、居敷2号墳（17）、保子里5号墳、徳原23号墳なども方墳であるといわれている。鈴鹿川流域およびその周辺では、方墳は一辺が10m前後と小規模な場合が多い。また、方墳の築造が継続して長期間にわたっていたと推定される。

4. 鈴鹿川流域での埴輪出土の古墳

鈴鹿川流域およびその周辺で円筒埴輪や形象埴輪が出土している古墳は次のとおりである。

上流域では、木ノ下古墳および山下古墳で円筒埴輪や形象埴輪が出土している。5世紀末から6世紀中葉の築造とされる木ノ下古墳では、淡輪系埴輪のほか、家形・馬形・人物埴輪などの形象埴輪があり、馬形埴輪は馬具に伴う鈴や脚部の破片である。^⑫

中流域では、方墳や円墳にも埴輪が見られるようになる。4世紀末から5世紀初頭と推定される能褒野王塚古墳では、畿内を中心に分布する鱗付朝顔形埴輪が出土している。谷山古墳（5世紀後半）、梅田古墳（6世紀前半）、保子里13号墳（6世紀前半）、城山古墳（5世紀）、西ノ野5号墳（5世紀後半）、井尻古墳（6世紀前半）などから淡輪系埴輪が出土している。そして、馬形埴輪の尻繋部分の破片が出

土した城山古墳をはじめ、西ノ野5号墳、柴戸遺跡検出の古墳（5世紀末～6世紀中）からは、形象埴輪が出土している。

下流域では、中流域に比べて埴輪を伴う古墳は少ない。6世紀初頭の富士山10号墳（21）からは淡輪系埴輪が出土している。また、富士山10号墳、丸山1号墳、茶臼山4号墳（5世紀後半）、岸岡山古墳群、寺谷古墳群からは、形象埴輪が出土している。茶臼山4号墳から出土した馬形埴輪片は、鞍をのせた飾り馬を表現しており、鞍の後輪部分から付けられた雲珠の破片、面繋が表現されている目周辺部分の破片、障泥の破片などである。^⑯岸岡山古墳群は、5世紀末から6世紀前半にかけての前方後円墳と円墳によって構成され、淡輪系埴輪や家形などの形象埴輪が出土している。^⑰寺谷古墳群は、5世紀後半から6世紀前半にかけての方墳が多く、様々な形象埴輪が出土している。^⑱

石薬師周辺の古墳は、寺田山古墳群成立以後は系列的な古墳の発展が見られない地域とされてきた。しかし、今回の調査から古墳時代のこの地域の重要性が高まってきた。この調査成果は、この地域の歴史を考える上で、数多くの資料を提供することであろう。

（稻森 剛・船越重伸）

註

- ① 國土地理院『土地条件図 四日市 1:25,000』（1969年）
- ② 三重県埋蔵文化財センター『三重県埋蔵文化財センター年報5』（1994年）
- ③ 三重県埋蔵文化財センター『三重県埋蔵文化財センター年報6』（1995年）
- ④ 服部芳人ほか『石薬師東古墳群・石薬師東遺跡（第4次）発掘調査概報』（鈴鹿市石薬師町一）三重県埋蔵文化財センター（1996年）
- ⑤ 服部芳人ほか『石薬師東古墳群・石薬師東遺跡（第5次）発掘調査概報』（鈴鹿市石薬師町一）三重県埋蔵文化財センター（1997年）
- ⑥ 鈴鹿市教育委員会『鈴鹿市史』第三巻（1989年）
- ⑦ 和田年弥「古墳文化の地域的構造とその特質—伊勢国鈴鹿地方の場合—」（『古代学研究』72、1974年）
- ⑧ 新田剛『三重県鈴鹿市南山遺跡・南山6号墳』（鈴鹿市教育委員会・鈴鹿市遺跡調査会（1991年）
- ⑨ 藤原秀樹「北ノ添遺跡発掘調査報告書」（鈴鹿市教育委員会・鈴鹿市遺跡発掘調査会（1994年）
- ⑩ 三重県埋蔵文化財センター『三重県埋蔵文化財センター年報7』（1996年）
- ⑪ 註⑨に同じ
- ⑫ 三重大学歴史研究会古代史部会『亀山市木ノ下古墳の発掘調査概要』（『考古学雑誌』第67巻第3号、1982年）
- ⑬ 三重県教育委員会・亀山市教育委員会『亀山の古墳』（1988年）
- ⑭ 駒田利治ほか「三重県亀山市井田川城山古墳発掘調査報告書」（『研究紀要第5号』三重県埋蔵文化財センター、1996年）
- ⑮ 三重県教育委員会『三重県埋蔵文化財年報19』（1989年）
- ⑯ 中森成行『鈴鹿市国分町・富士山10号墳調査概要』鈴鹿市教育委員会（1978年）
- ⑰ 春日井恒『茶臼山古墳』四日市市遺跡調査会（1996年）
- ⑲ 鈴鹿市教育委員会『鈴鹿市史』第二巻（1980年）
- ⑲ 鈴鹿市教育委員会『第5回鈴鹿市埋蔵文化財展海の考古学』（1995年）
- ⑳ 三重県埋蔵文化財センター『三重県埋蔵文化財年報4』（1993年）
- ㉑ 鈴鹿市教育委員会『第4回鈴鹿市埋蔵文化財展～最近の調査～』（1994年）

III. 調査の成果

1. 概要（第6・7図）

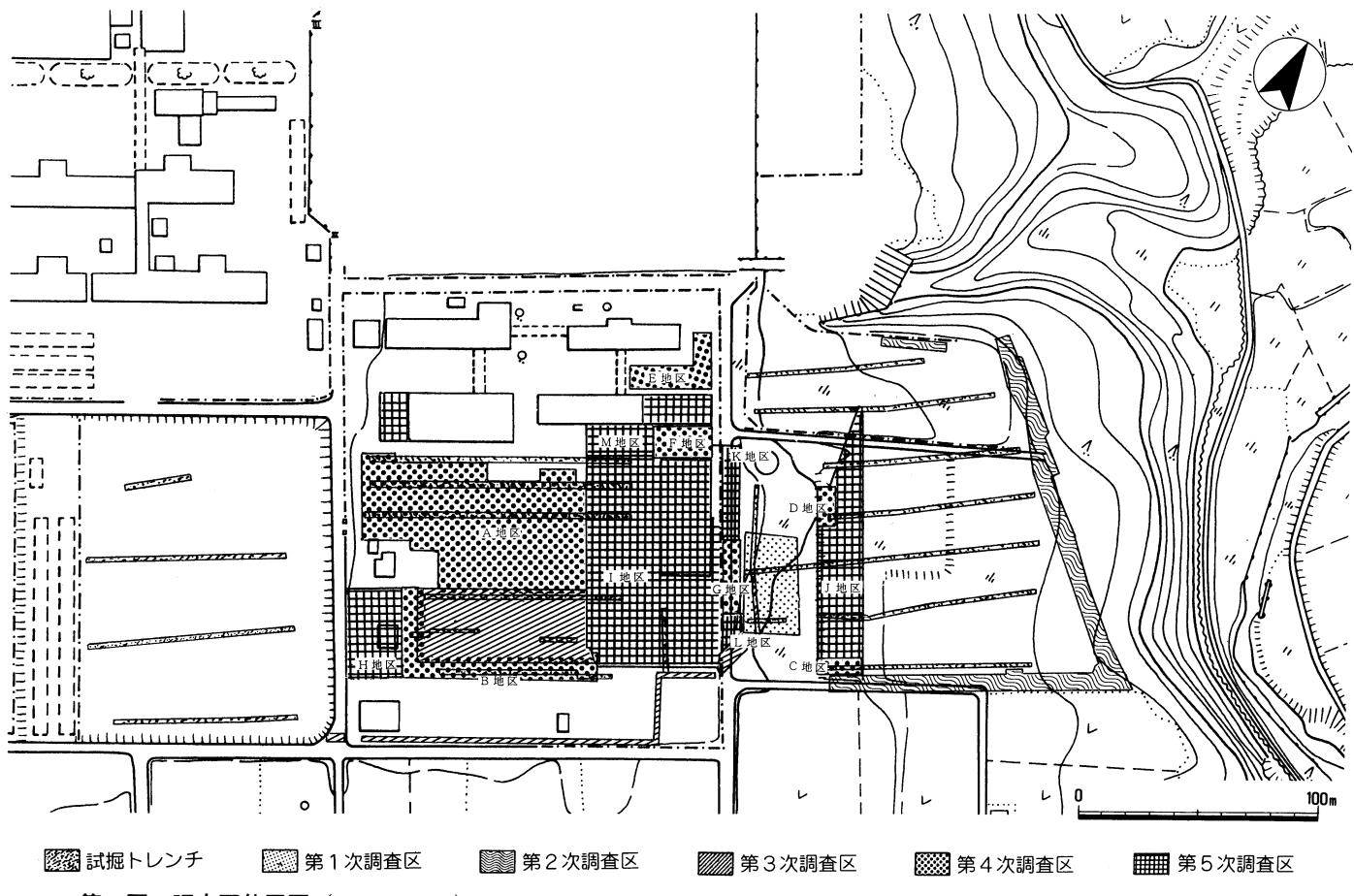
平成5～8年度の4年間、五次にわたって約19,000m²の面積の調査を行ってきた。検出した遺構は、古墳46基（周溝のみの確認）・土器棺墓1基、奈良時代の竪穴住居6基・掘立柱建物2棟・土坑・溝などである。また、幻の部隊とも呼ばれた旧帝国陸軍第一気象連隊の建物跡、待避壕跡も確認された。

古墳の墳丘は第一気象連隊や後の各種施設の建設によってすべて削平を受け、主体部は一切検出できなかった。墳形は、円墳が4基でその他はすべて方墳である。特に方墳の規模は、一辺約4.0mの古墳（54号墳）から約18.0mの古墳（26号墳）まで様々であるが、規模や方向がおおむね一定する古墳が存在するなど、何らかの企画性を持って造営された様相が窺える。

周溝からは、須恵器・土師器・円筒埴輪・形象埴

輪などが出土した。須恵器には、筒形器台（45・49・63・71号墳）・子持瓶（67・74号墳）など特異な器種も存在する。また、周溝の底に須恵器・土師器が据え置かれたような状態で出土した古墳（38・65号墳など）や、甕がその場で意図的に破碎された古墳（31・67号墳など）もある。周溝内での何らかの祭祀の痕跡を示す可能性があり、興味深い。

形象埴輪には、家形（40号墳）・動物（26・49・63号墳）・人物（28・35・63号墳）など様々存在する。その多くは破片での出土であるが、全体像が分かるほど復元可能なものもいくつかある。全体的には線刻や竹管文などを用いて、写実的に表現されたものが多い。特に、63号墳から出土した馬形埴輪は、頭部のたてがみ部分が大きく表現され、写実的な馬具を持つ飾り馬として全国的にも注目される。また、26号墳から出土した鹿形埴輪は、県内でも数例しか

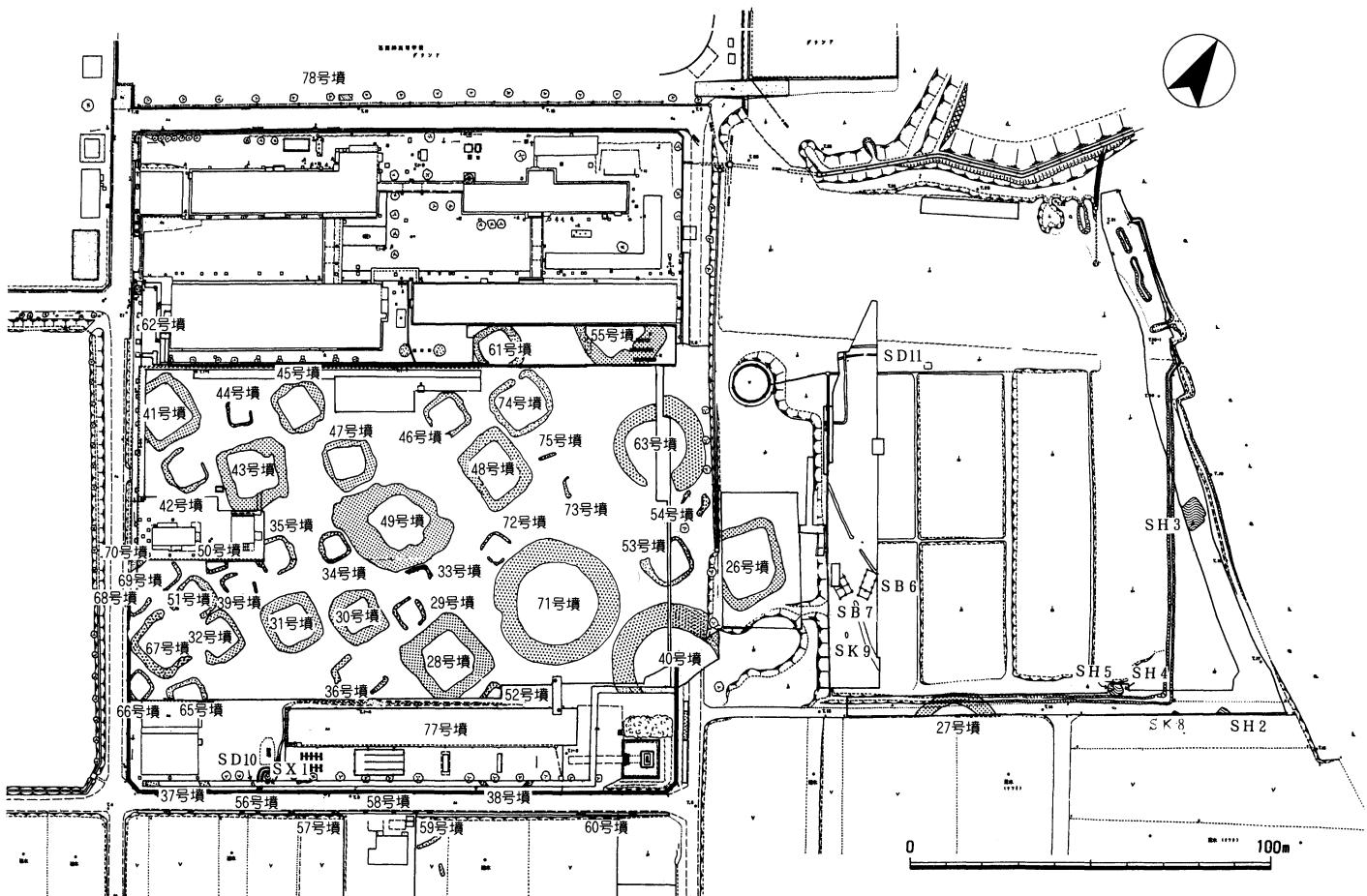


見つかっておらず、貴重な資料である。

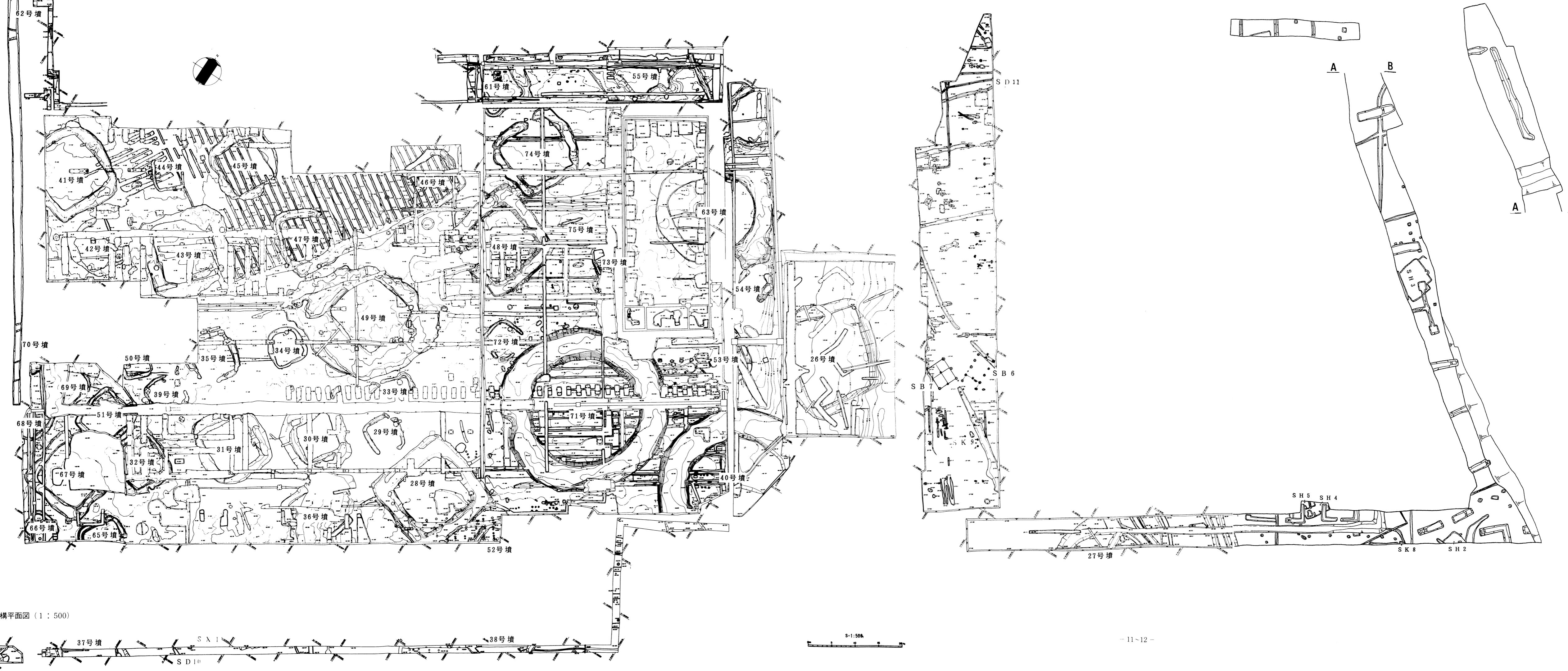
一方、古墳群が検出された北東側は一段下低くなつており、そこからは奈良時代の竪穴住居・掘立柱建物が確認された。さらに、調査区の全体で昭和時代の旧陸軍関係の各種遺構を確認し、軍用食器などの遺物も出土した。

調査前の現況は、大半が消防学校の訓練用グラウンドで、北東側の一段低い部分は荒れ地であった。グラウンド内は、一面アスファルト舗装（約10cm）されており、その下に約10cmの礫石が敷かれている。礫石の下は、黄褐色の整地土が10~20cm程度あり、その下が赤褐色粘質土の地山となる。なお、調査区の東へ向かうにつれて黄褐色の整地土と地山の間に暗褐色土が入る。この暗褐色土には、磨滅の著しい埴輪片や瓦・コンクリートや礫が混入しており、昭和時代の造成土と考えられる。古墳・奈良時代の遺構確認は、前述の赤褐色粘質土を検出面として行った。なお、荒れ地部分の層位は、整地土の下は旧耕作土で、その下は赤褐色粘質土の地山となる。

以下に各遺構・遺物の説明を行うが、古墳の規模については周溝の内法、方位については座標北を基準に計測した。また、古墳時代の遺物の時期については、周溝の底近くで出土した須恵器を中心に陶邑窯跡群の田辺編年^③を参考に判断した。詳細については、古墳一覧表（第2表）・遺物観察表（第8~24表）を参照されたい。



第6図 遺構配置図（1：2,000）



第7図 遺構平面図 (1 : 500)

2. 古墳の周溝

(1) 26号墳

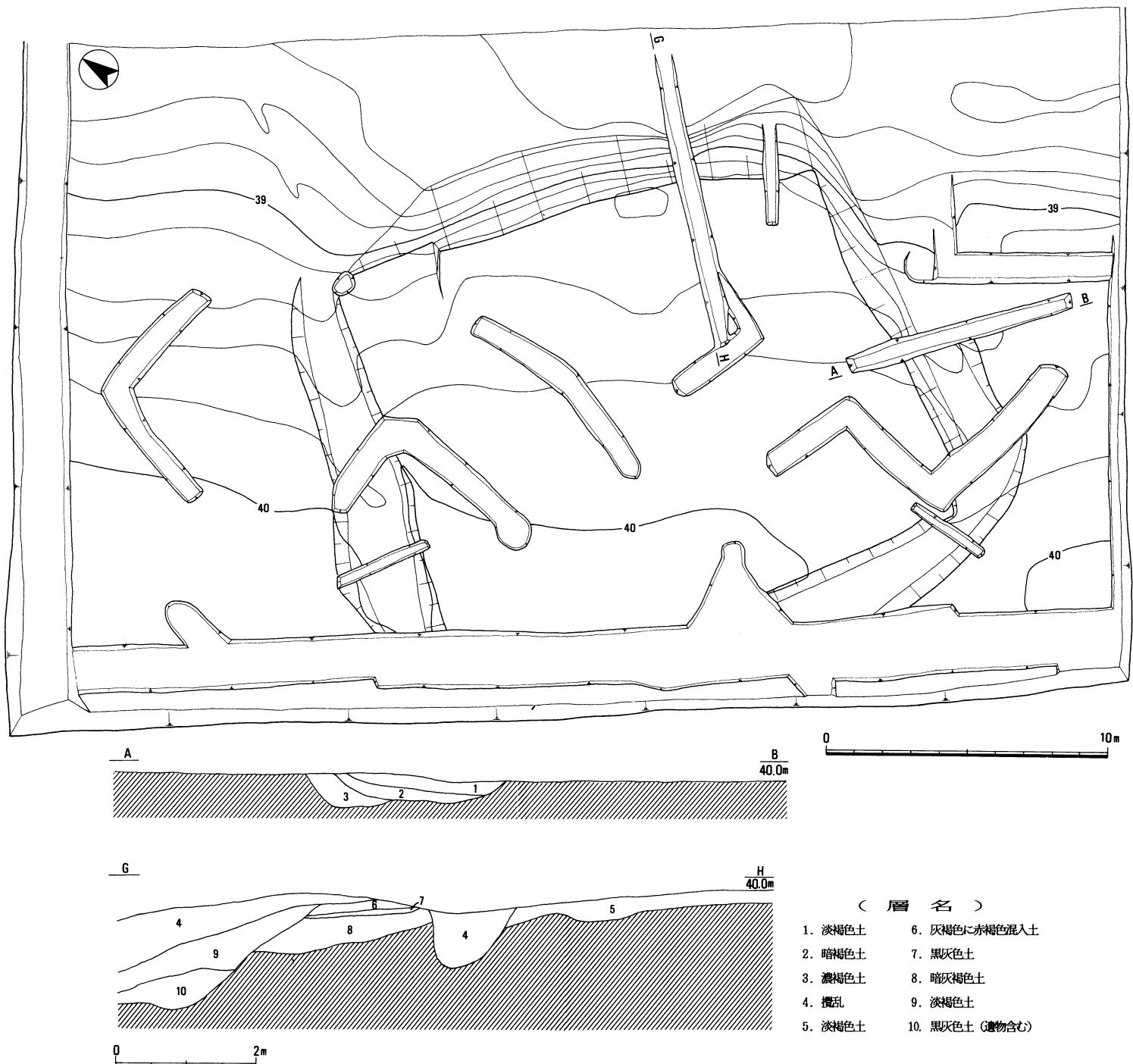
A 遺構 (第8図・図版2)

第1次調査区で検出した方墳である。規模は、東西17.5m、南北15mで、西側周溝と南側周溝の一部は、攪乱と著しい削平を受けているため、ほとんど検出できなかった。東溝部分は、自然地形を利用す

る形で造られており、外肩部は存在しない。残存部の最大値は、周溝幅が約2.4m、深さが0.2mである。

B 遺物出土状況

須恵器・土師器・朝顔形埴輪・円筒埴輪・形象埴輪があり、ほぼ周溝全面から出土している。いずれも全形を窺えるものは少なく、破片が大半である。



第8図 26号墳平面図 (1:200)・土層断面図 (1:80)

周辺からの混入の可能性が考えられ、出土遺物の全てが当古墳に伴うものであるかは疑問が残る。

形象埴輪は、東溝の墳丘末端付近から周溝底面にかけての斜面部分から出土しており、馬形埴輪2個体(60・61)、鹿形埴輪1個体(63)が確認できる。また、その他に人物、器財、家形埴輪の破片と考えられるものもある。

C 出土遺物 (第9~17図・図版17~19)

須恵器 (1~16)

4・7・11は包含層出土遺物、その他は周溝出土遺物である。

杯蓋 (2・10) 2は、天井部は丸みを持ち、天井部と口縁部の境に明瞭な稜がみられる。10は、天井部と口縁部の境の稜線は短い。

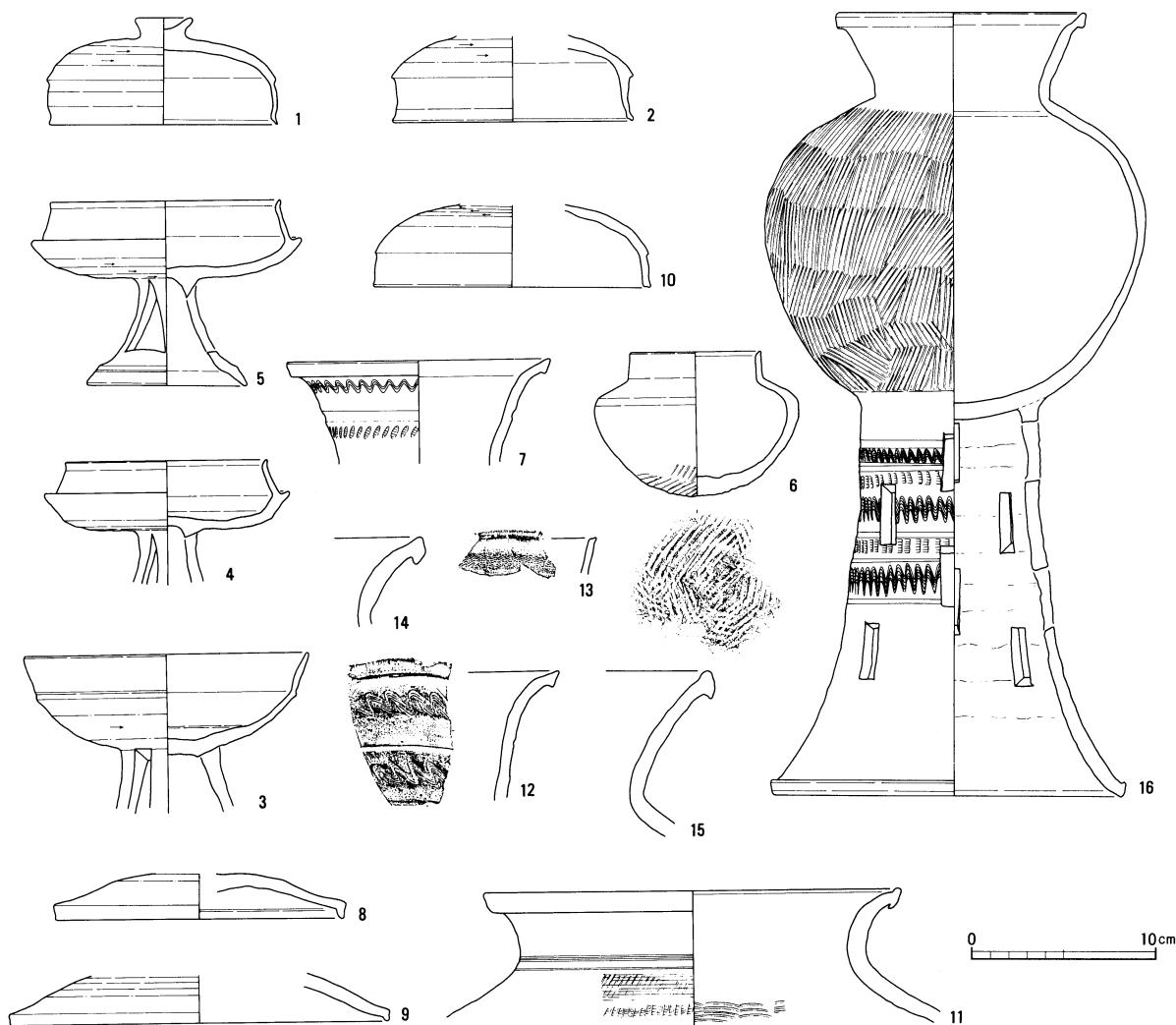
有蓋高杯 (1・4・5) 1は、天井部は丸みを持

ち、天井部と口縁部の境に明瞭な稜がみられる。4・5は、杯部は浅く扁平で、たちあがり部は高く内傾し、口縁部は外反する。口縁端部は、シャープさに欠ける。脚部は短脚で三角形透孔が三方向にみられる。5の脚端部は丸く仕上げ、近くに1条の凸線を巡らしている。

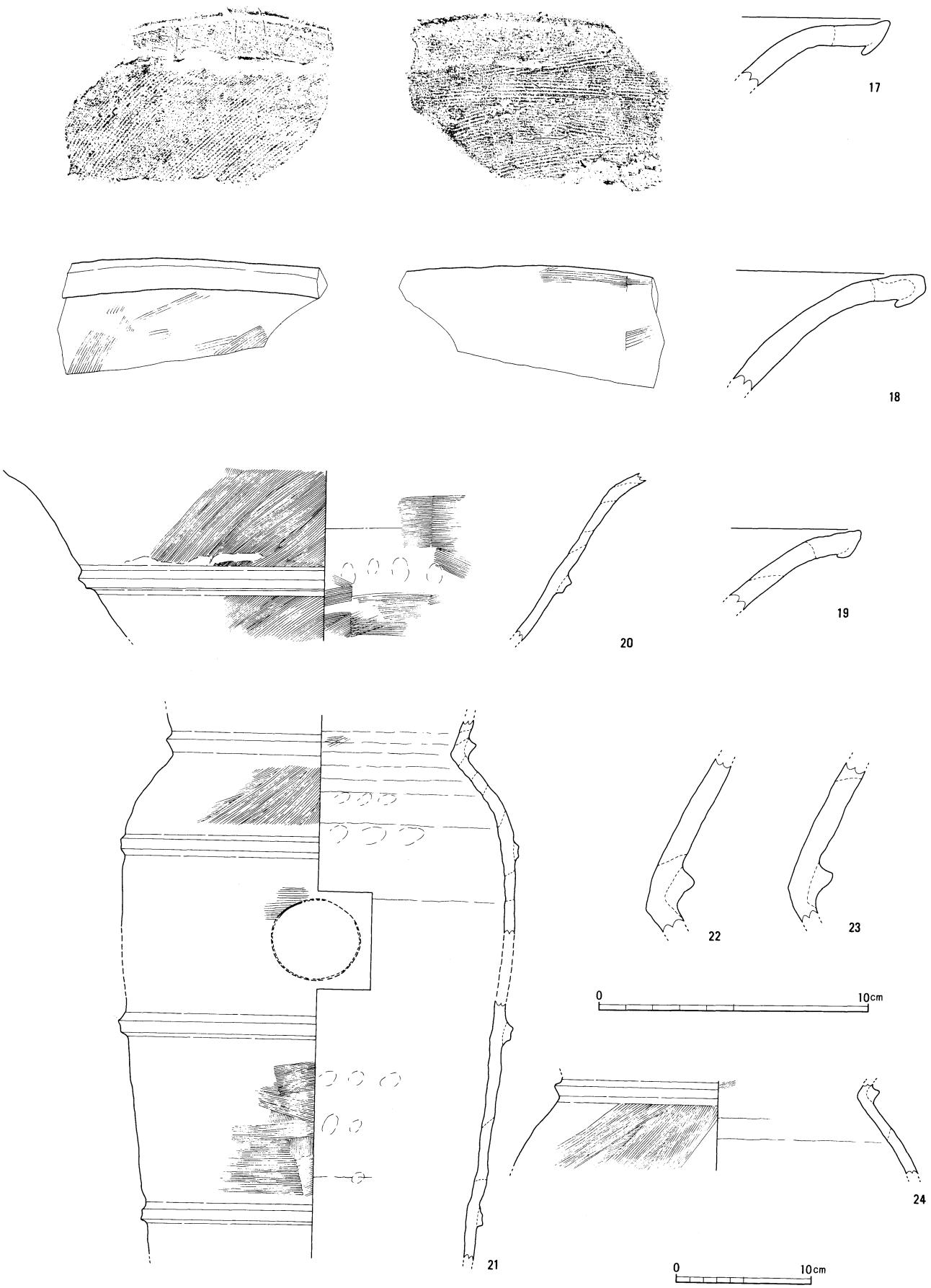
無蓋高杯 (3) 口縁部は外上方にひらき、口縁端部は丸くおさめる。口縁部と底部の境には明瞭な稜がある。脚は「ハ」の字状に開くものと思われ、長方形透孔が三方向にみられる。

小型短頸壺 (6) 口頸部は短く垂直に立ち上がり、口縁端部は内傾する。肩の張りが著しく、底部外面にはタタキが残る。

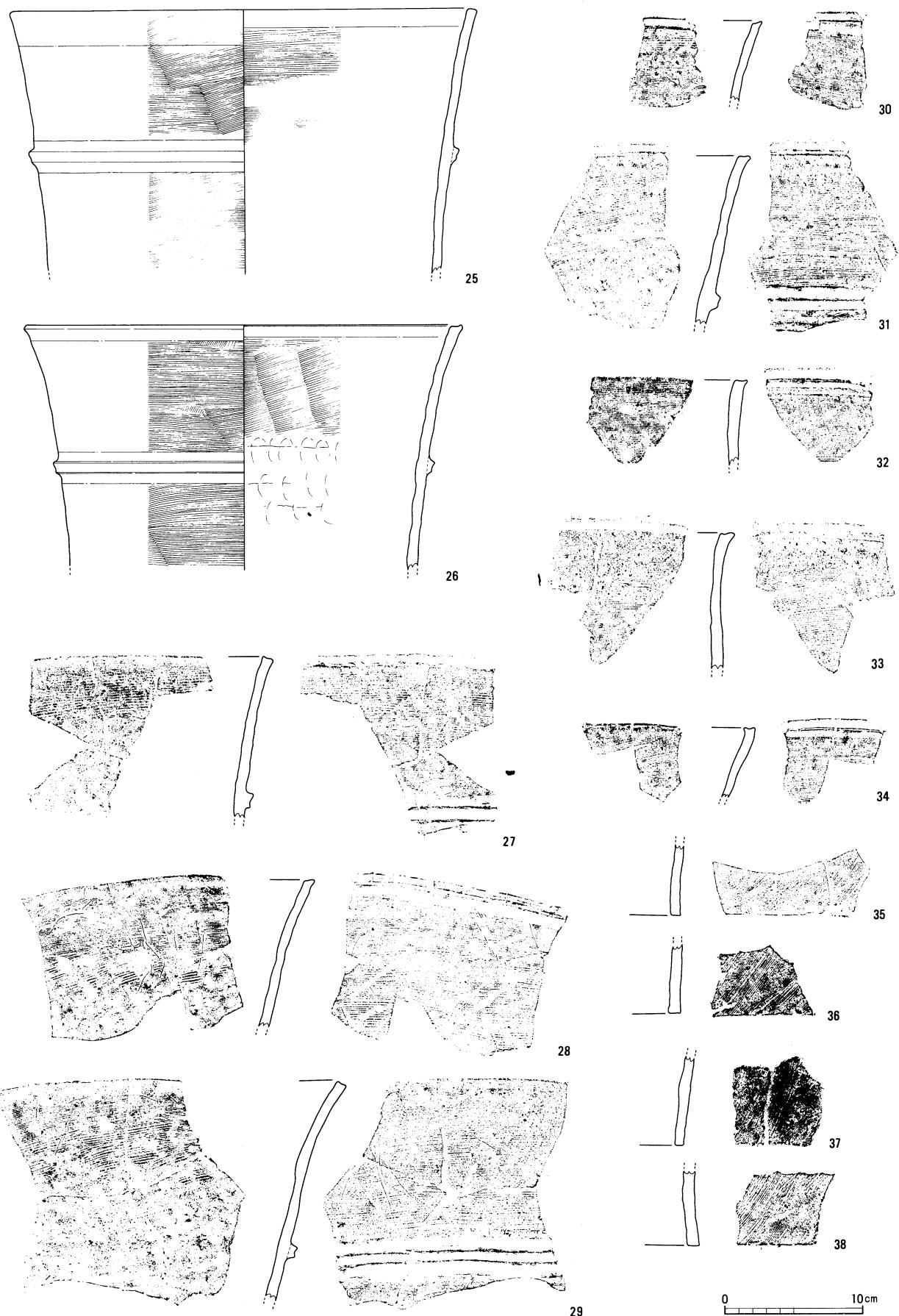
壺 (7) 口縁部は外反し、口縁端部を上下に引き出す。口頸部は、波状文、櫛目刺突列で飾る。一部



第9図 26号墳出土須恵器実測図 (1 : 4)



第10図 26号墳出土朝顔形埴輪実測図（17～20・22・23は1：2、21・24は1：4）



第11図 26号墳出土円筒埴輪実測図 (1 : 4)

に自然釉がみられる。

壺（11・14・15） いずれも口縁部が外反し、口縁端部が垂下する。11は、体部外面に擬格子タタキ目、内面には円弧状の当て具痕が残る。

長頸壺（12） 口縁部は外反し、口縁端部を上下に引き出す。口頸部は、2列の波状文で飾り、その間に1条の凹線が巡る。

台付壺（16） 脚は裾部で「ハ」の字状に開き、三段・四方向に長方形透孔がある。脚上部は、波状文、刺突文、簾状文で飾る。壺部と脚部との接合部から脚部上部にかけての外面にはヘラ状工具によるナデがみられ、脚部内面には粘土の輪積み痕が残る。6

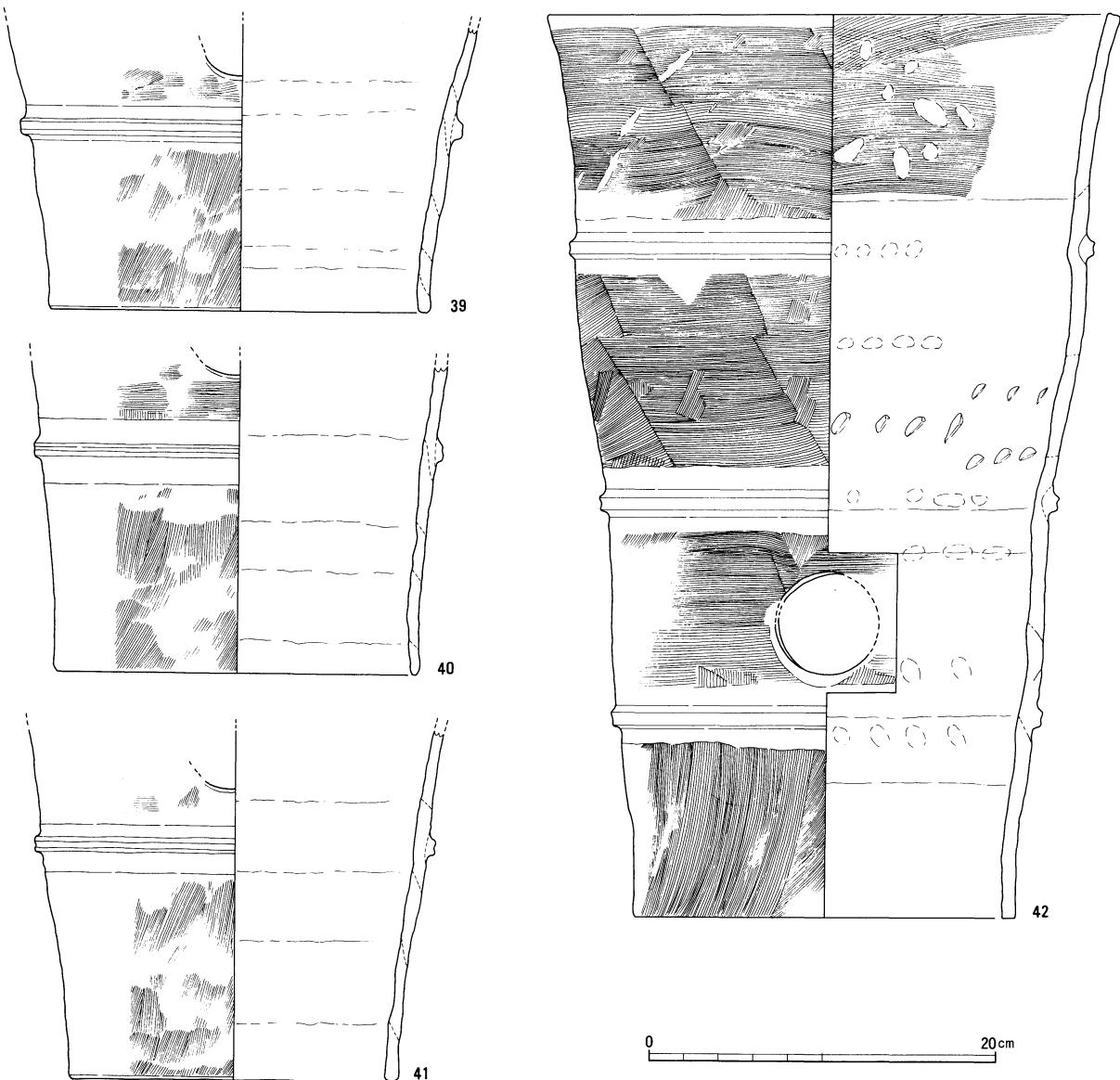
世紀前半代のものと考えられる。

埴輪（17~59）

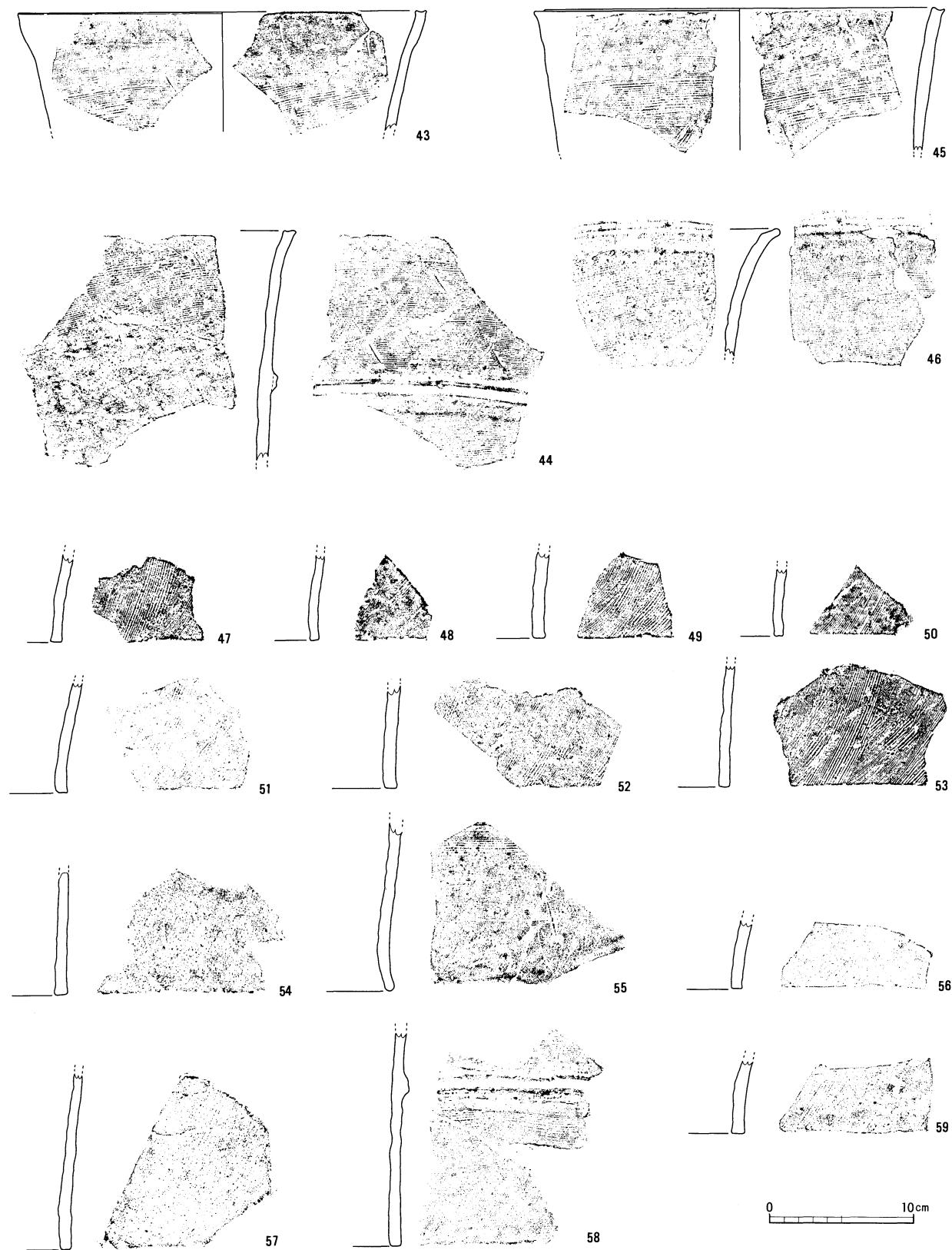
17~20・22~24・26・27・38~42・51・59は包含層出土遺物。その他は周溝出土遺物である。

朝顔形埴輪（17~24） 周溝から出土しているが、すべて破片である。ただし、20・21により辛うじて全形を窺うことができ、5条の突帯で6段に区切られていたものと推定できる。後述する円筒埴輪とは異なり、土師質のものしか確認できなかった。

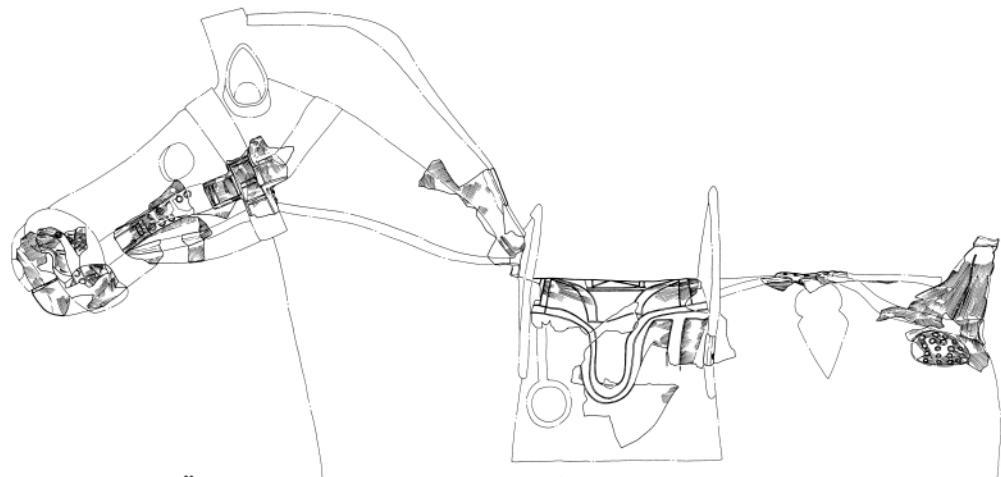
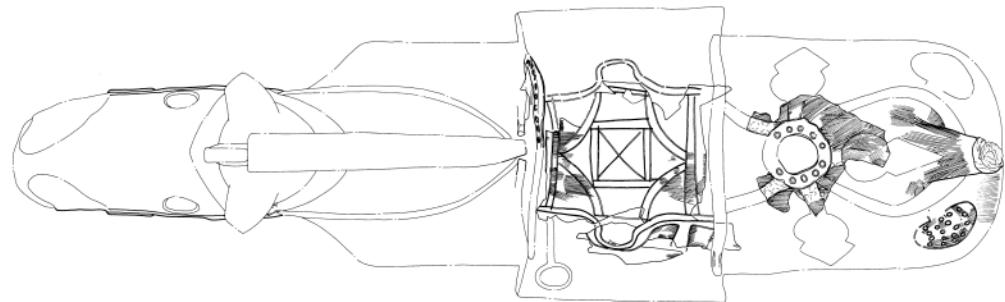
20は、斜め上方にまっすぐのびた後、口縁部付近で外反する。断面がM字状の突帯が貼り付けられている。21は、肩部はあまり張らず、緩やかな曲面を



第12図 26号墳出土円筒埴輪実測図（1：4）



第13図 26号墳出土円筒埴輪実測図（1：4）



第14図 26号出土馬形埴輪実測図 (1 : 4)

0 30 cm

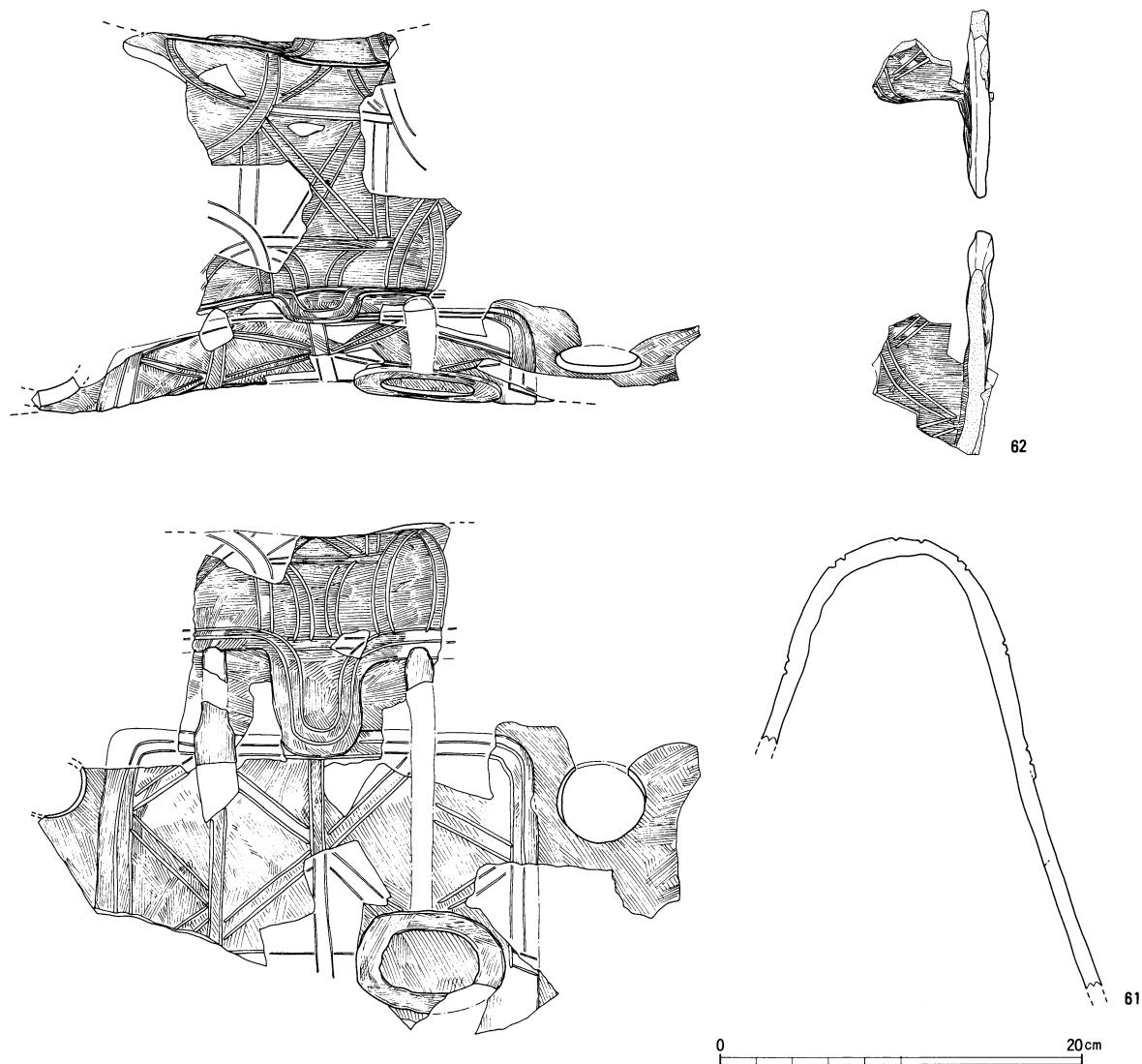
描いて円筒部に至る。また、肩部から斜め上方にのびる頸部が僅かに残る。肩部から頸部にかけての屈曲部には、断面が三角形の突帯が貼り付けられている。円筒部には、断面がM字状の突帯が3条貼り付けられ、第4段には推定径6cmの円形の透孔が穿たれている。第6段には、B種ヨコハケを施している。

17~19は、斜め上方にまっすぐのびた後、口縁部付近で外反する。口縁端部を17・19は折り返した後、ヨコナデにより面をつくるが、18は貼り付けている。円筒埴輪（25~59） 包含層および周溝から多量に出土している。土師質と須恵質のものがあり、すべて破片である。接合に努めた結果、42の1個体のみ復元することができた。3条の突帯で4段に区切ら

れていたことがわかる。

口縁端部は、すべて丁寧なヨコナデにより調整されており、その形態は①端部をナデにより比較的平坦に調整するもの、②端部にナデによる凹面を持たせ、外に引き出すもの、③端部が浅い凹面を持ち、外傾するものの3種類程度に分類できる。46の口縁部は、緩やかに外反し、端部を丸くおさめている。また、突帯の断面形は①M字状のもの、②台形状のものの2種類に分けられるが、M字状のものが大部分を占めている。底部の端部は概ね平坦な面を持つ。底部に段を持つ、いわゆる「淡輪技法」を用いたものは確認できなかった。

39~41の粘土紐同士の接合面の傾きは、内面側が



第15図 26号墳出土馬形埴輪実測図（1：4）

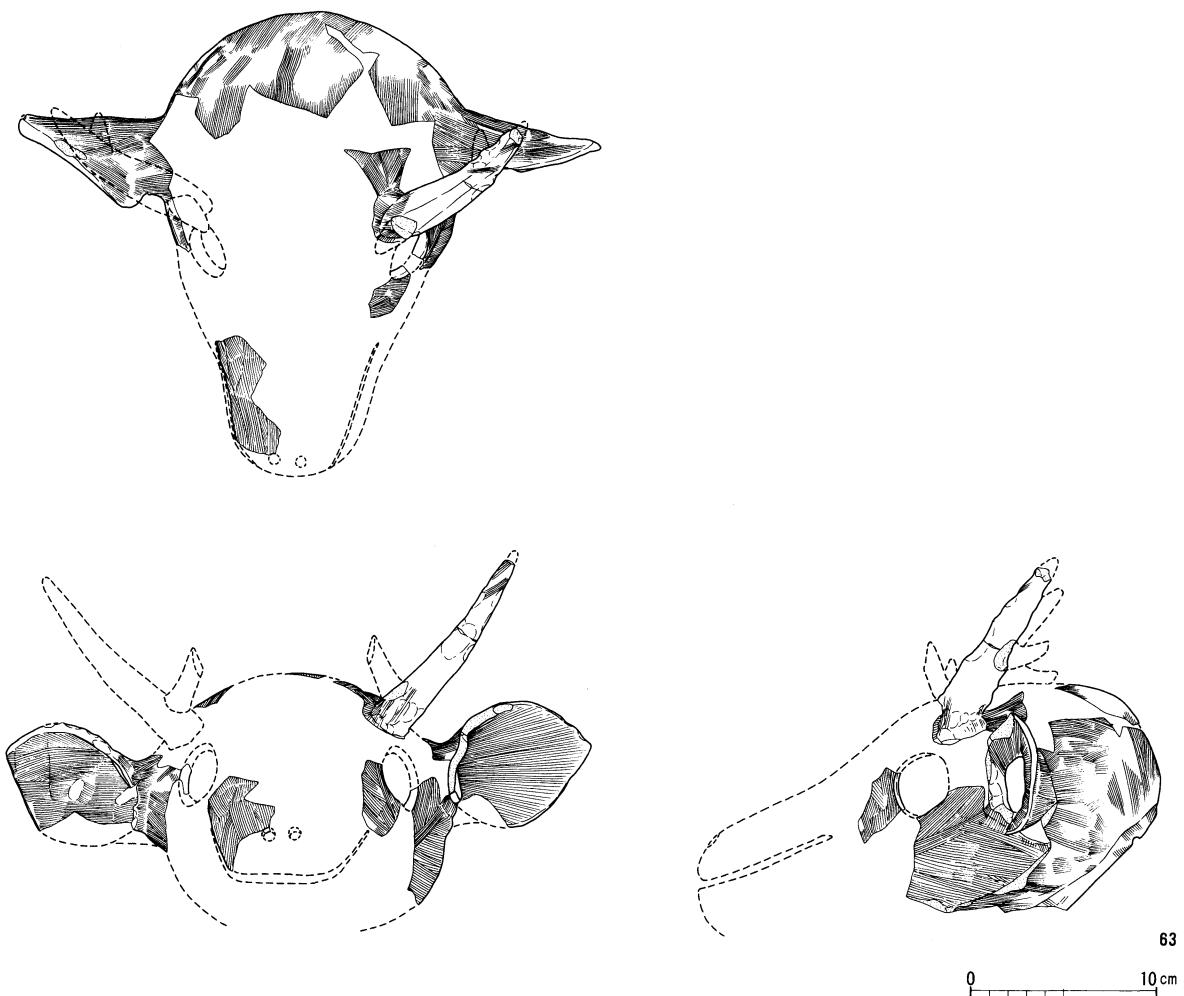
高く外面側が低い外傾接合となっていることから倒立技法が用いられた可能性がある。42は、須恵質で唯一口縁部から底部まで残っている。断面がM字状の3条の突帯で4段に区切られ、第2段に径6cmの円形の透孔が開けられている。外面はB種ヨコハケが施され、内面はハケ・オサエとともにヘラケズリがみられる。粘土接合痕は上部は内傾接合、下部は外傾接合されており、倒立技法により製作されたものと思われる。

形象埴輪 形象埴輪の出土は周溝東溝部分からである。これら埴輪片の大部分は墳丘末端から周溝底面にかけての斜面部分に堆積していた淡褐色土層、黒灰色土層から出土している。馬形埴輪2個体(60・61)、鹿形埴輪1個体(63)が確認でき、そのほかに人

物、器財埴輪や家形埴輪の破片と考えられるものもある。

馬形埴輪(60・61) 60は、頭部の一部、たてがみ、鞍、雲珠、尻、尾の部分を残している。赤褐色の土師質で器壁は比較的薄い。各部位ともにはば全面にハケ調整が行われている。焼成は全体的に良好であるが、鞍の下半分は同一個体とは考えられないほど不良である。

頭部は口を含む下顎および両側面の面繫部分、鏡板の一部、辻金具が確認できた。口はヘラで一文字に切り込むことにより表現しており、左の鼻孔の一部が残っていた。また、右側の面繫直上に目が1/4程度残っている。面繫は粘土紐を貼り付けており、縫い目を表現していると思われる線刻がある。前よ

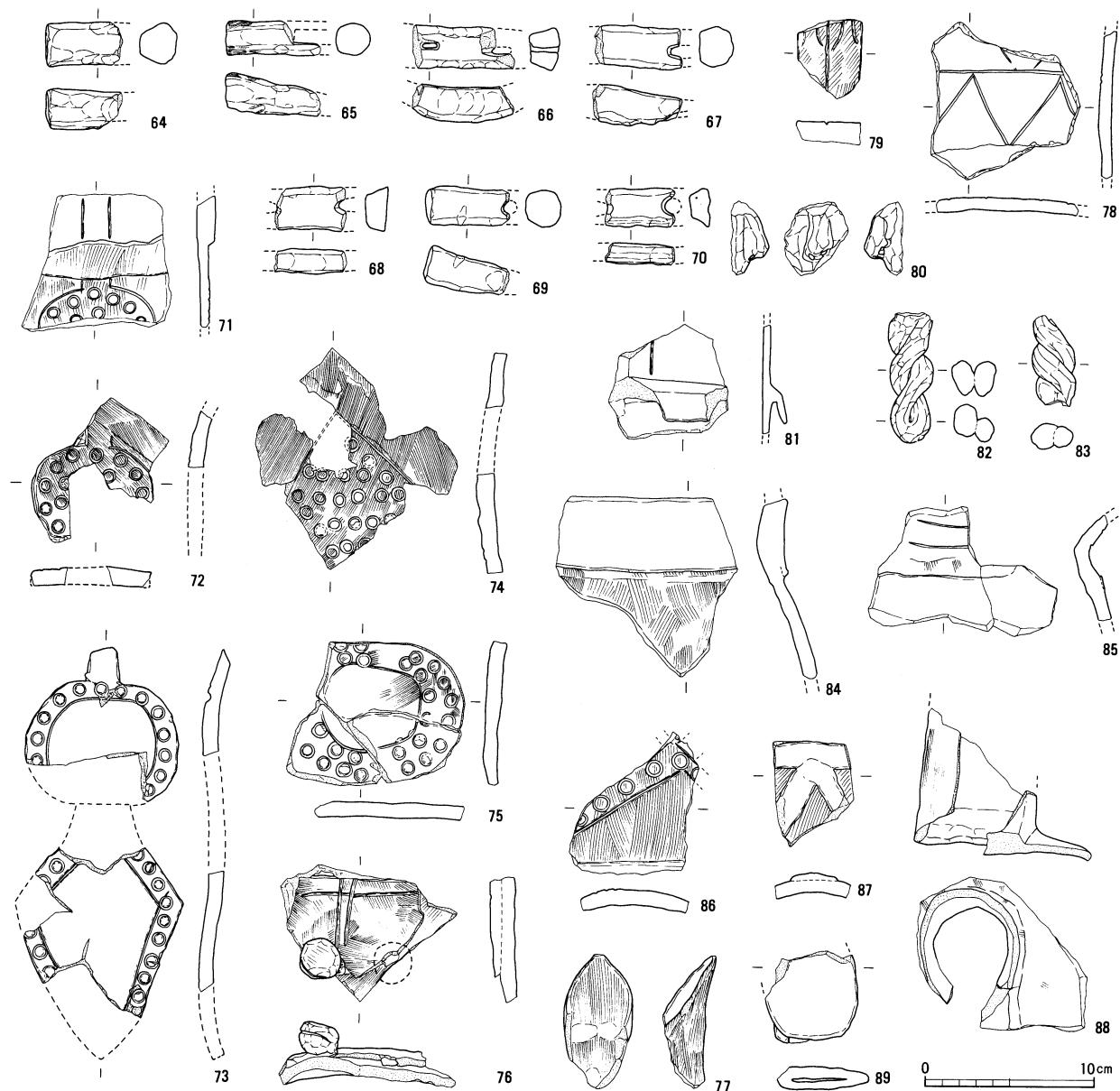


第16図 26号墳出土鹿形埴輪実測図(1:4)

りの1区画に竹管文が見られる。鞍は前輪が1/2程度、後輪は極わずかな残りであるが、ともにやや内側に傾斜し、覆輪は両側に折り返したのち調整し、外側に円形の竹管文が並ぶ。前輪外面側下端部には細く平たい粘土紐が貼り付けられている。鞍には革の縫い目と思われる直線と曲線が線刻によって表現されている。雲珠は環状に粘土紐を貼り付け、その上面に竹管文を施している。尻部には、線刻と竹管文で杏葉が表現されている。尾は先端部が欠損して

いるが長さは10cm以上、付け根部分の直径は約7cm。尾を結んだ革紐を細い粘土紐で表現している。尾の付け根部分には剥離面が帯状に認められ、貼り付けられていた尻繁が剥離したものと思われる。尾のやや左下すぐに円形の透孔がある。

61は、たてがみや鞍を除き、大部分が欠損している。須恵質で器壁は比較的薄い。前輪の一部と考えられる部分と鞍が残る。ほぼ全面にハケ調整が見られる。前輪は1/3程度が残っており、覆輪には模様



第17図 26号墳出土形象埴輪実測図（1：4）

はなく外側にのみ折り返されている。鞍には縫い目と思われる直線と曲線が線刻で表現されており、鐙は粘土紐を貼り付けて表現している。障泥の両側に円形の透孔がある。鞍の上部最小幅は12.5cmで極端に狭い形状をしている。

剣菱形杏葉（73）　身の一部分が欠損している。周囲を2本の線刻で囲み、中に竹管文がほどこされている。

雲珠（76）　円形の粘土板を貼り付け、十字状の線刻が認められる。粘土板の外周には鈴が1個残存しており、また鈴が着いていたと思われる剥離痕も1カ所認められることから複数個の鈴が粘土板の外周に着いていたと思われる。須恵質である。

耳（77）　内外面ともにハケメで調整するが、端部はナデている。須恵質である。

杏葉（72・74・75）　線刻と竹管文で杏葉を表現している。72は、須恵質である。帯状の剥離痕が認められることから、革紐の表現がされていたと考えられる。

鹿形埴輪（63）　雄鹿の耳を含む後頭部と口の一部左目の1/3、角が1本出土している。須恵質で、外面は褐色、内面は暗青灰色である。ほぼ全面にハケ調整が見られる。後頭部は、頭頂部から首になだらかに続かず、頭部から頸部にかけての部分がくびれている。角は、耳の横に貼り付けられている。2カ所の割れがあることから、2つの枝があったと考えられる。付け根部分も含め比較的写実的に表現している。

人物埴輪（80・82～89）　全形を窺えるものはなく、

破片のみである。

美豆良（82・83）　ともに須恵質で、83は赤味が強い褐色、82は褐色である。粘土紐を棒状にのばした後、半分に折り、ねじっている。

鼻（80）　2個の刺突穴により鼻孔を表現している。

脚帶（87）　脚帶は、粘土紐を貼り付けて表現している。

櫻（86）　線刻と竹管文で表現している。

足（88・89）　88は、足先部分の破片である。先端部には指が表現されている。89は、男子全身立像の踝から甲にかけての破片である。台の一部も残っている。

女子像（84・85）　85は、首から肩にかけての部分で、首の部分に横方向の直線の線刻が2条認められる。84は、大帶の部分で帶は粘土紐を貼り付けて表現している。

鞆（79）　破片であるが、線刻で鞆を表現している。

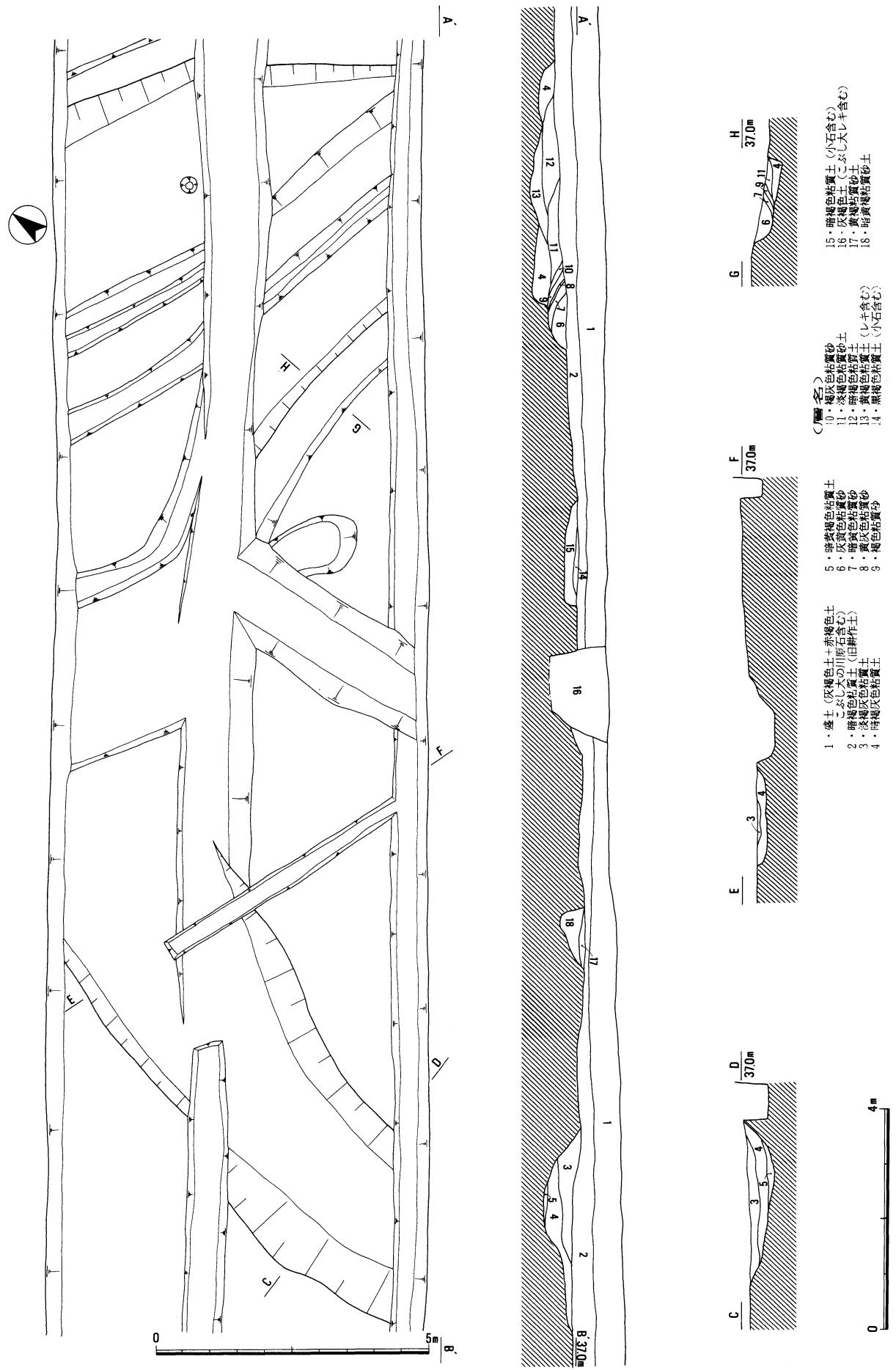
器財埴輪（78）

盾（78）　盾の一部分と考えられる破片で、全形は窺えない。焼成は不良で、器壁は非常に薄く、縦・横の両方向ともに非常に緩やかな曲率をもつ。線刻で模様が描かれている。

家形埴輪（81）　全形を窺えるものなく、断面が鍵形の突帯部分の破片のみを図示しておく。

不明埴輪（64～70）　家形埴輪の堅魚木と考えられるが、全形を窺えるものはない。65～67は、長方形の孔が開けられており、断面は台形状である。68～70は円形の孔が開けられ、69のみ断面は円形状である。

（船越重伸）



第18図 27号墳平面図 (1 : 100)・土層断面図 (1 : 100)

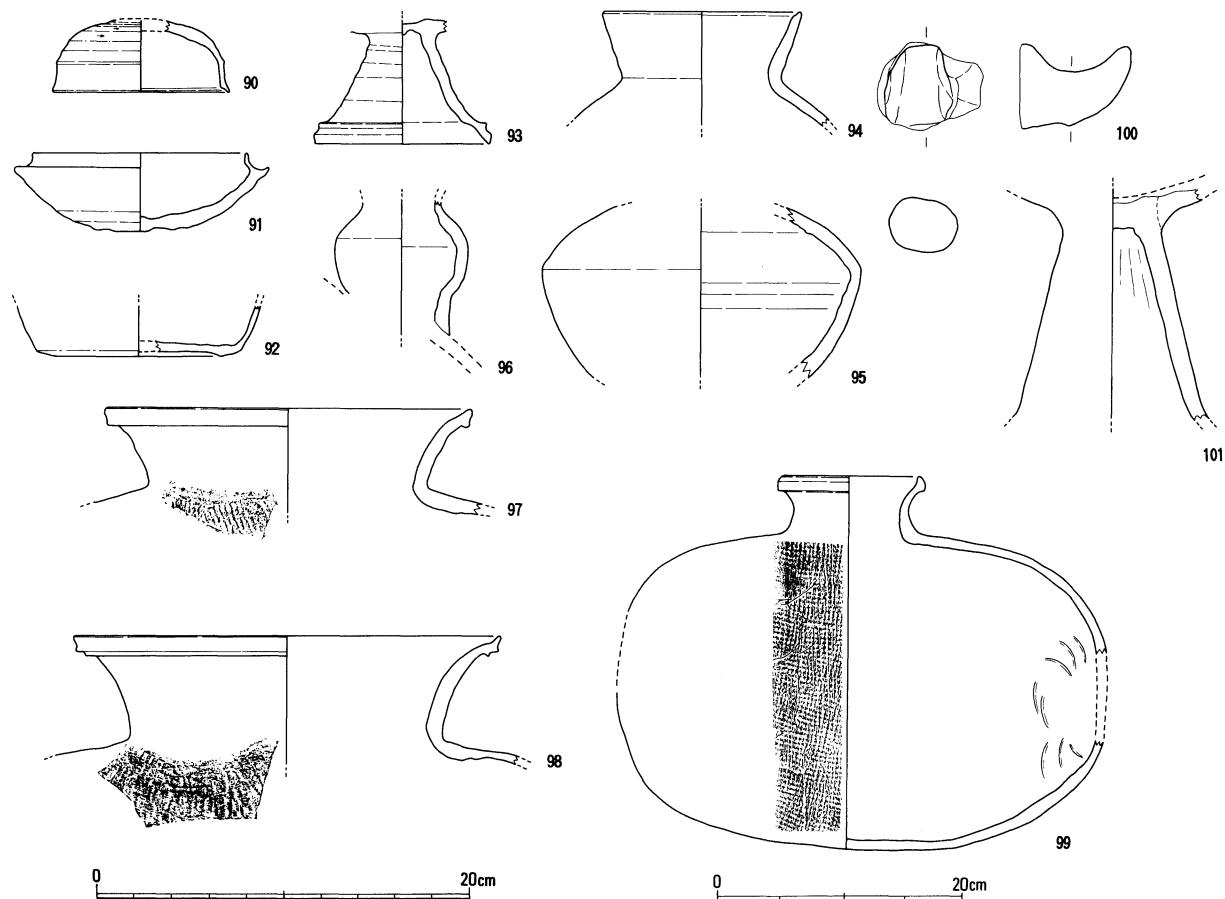
(2) 27号墳

A 遺構 (第18図・図版2)

台地の東縁辺部分で検出した。26号墳の東側に当たる。調査区の幅が3.5mと狭いため、全貌は判然としないが、直径約20mの円墳と思われる。検出中はSD16と称していたが、古墳の周溝と判断して27号墳と改める。周溝の西側部分は、比較的残存は良いが、北側部分や調査区の中央部分は昭和時代のヒューム管や耕作溝などによって一部が壊されている。周溝内側はやや垂直に掘削されるが、外側は傾斜が緩やかになる。周溝幅は西側部分で3.0m、残存の深さは0.6mである。

B 出土遺物 (第19・20図・図版20)

須恵器・土師器・円筒埴輪・形象埴輪があり、西溝から多く出土した。大半が細片であり、周辺からの混入の可能性が考えられ、全てが当古墳の時期を示すものとは思われない。須恵器には杯身・蓋・高杯・壺・子壺・甕・横瓶、土師器には把手・高杯があり、形象埴輪には武人埴輪と思われるものも含まれる。



第19図 27号墳出土須恵器・土師器実測図 (99は1:6、その他1:4)

須恵器 (90~99)

蓋 (90) 天井部は丸味を持ち、稜は小さい。口径に対して、器高は高い感がある。短頸壺の蓋になろうか。

杯身 (91・92) 91は、水平に伸びる短い受部に内傾する短い立ち上がりが付く。92は、周辺からの混入であろう。

高杯 (93) 脚部は「ハ」の字に開き、端部は段をつくり下方へ折り曲げる。

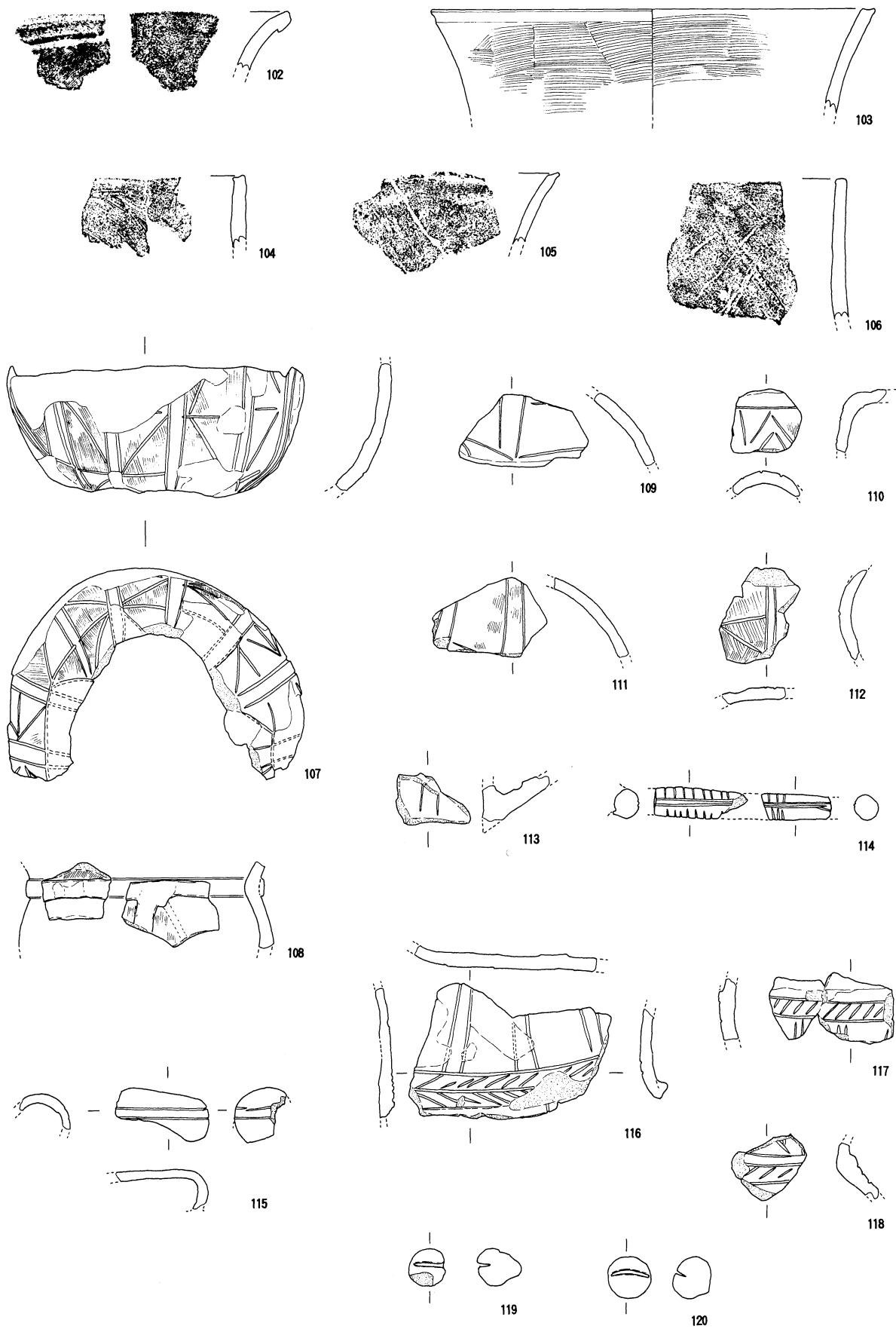
壺 (94~96) 94の口縁は、直線的に「く」の字に屈曲する。95は、肩が張る胴部片で、長頸壺になろうか。96は、装飾壺の子壺の破片である。

甕 (97・98) 口頸部は緩やかに外上方に開き、口縁端部は上下に引き出される。97の端部は、丸くおさまる。

横瓶 (99) ほぼ完形に復元された口頸部は外反して、口縁端部は上に引き出され、丸く仕上げる。体部内面には、同心円の充て具痕跡が残る。

土師器 (100~101)

把手 (100) 甕か甕の把手と思われる。



第20図 27号墳出土埴輪実測図 (1:4)

高杯 (101) 脚部は細く内側に絞り目痕跡が残る。裾部は欠損しているが、折れ曲がって広がっていたものと思われる。

埴輪 (102~120)

朝顔形埴輪 (102) 口縁端部は下方へ折り曲げ、肥厚させる。

円筒埴輪 (103~106) 土師質で、口縁部分の破片が多い。103~105は口縁端部を窪ませ、106は丸くおさめる。外面にはB種ヨコハケが施される。

人物埴輪 (107~120) 107は、武人埴輪の大脚部と思われる。表面全体をハケ調整を施した上に、2本のヘラガキ並行線を何帯か縦位に配し、この間に1本のヘラガキ沈線による三角形を並べる。108は、脚結の部分の破片である。109~112は、2本の線刻表現や断面の湾曲状況から、107の武人埴輪の一部の可能性がある。114は、上面に2本の線刻がこれに直交する形で数本の線刻が施される。弓の破片と思われる。115は、人物埴輪の靴先の部分である。中空で、前面には縦長三角形の穿孔が施される。116は、2本と3本の線刻が直交する形で施され、3本の間には綾杉状の線刻がある。人物埴輪の櫛の表現と思われる。117・118は116と同じような線刻があり、同一個体の可能性がある。119・120は鈴である。中実であり、一端に切れ込みを入れる。人物に伴うかどうかは不明である。

(3) 28号墳

A 遺構 (第21図・図版3・6)

後述する71号墳の南側で検出した。墳形は方墳で、規模は東西方向12.3m、南北方向12.0mである。南東隅の一部だけ調査区外である。周溝の内側と外側のラインは直線的で、内外側ともに概ね垂直に掘り込まれている。周溝幅は3.1~3.32mで、残存の深さは0.42~0.56mである。

B 遺物出土状況 (第22~24図・図版4)

北溝の東寄りの外側に近い場所から、土師器の短頸壺が7個体、L字状に据え置かれた状態で出土した。6個体(121・123)は正立の状態で、他の1個体(122)はうつ伏せの状態である(第23図)。その西側、北溝のほぼ中央では須恵器の甕(135)がその場で破碎されたような状態で出土した(第22図)。西

溝からは、円筒埴輪が転落した状態で出土した。また、南溝からは須恵器の杯身(128)・杯蓋(124)・壺・器台(136)などをはじめ円筒埴輪(139)・形象埴輪が多く出土した(第24図)。特に、形象埴輪には女子埴輪(148~150)・武人埴輪が背中に背負う鞍(145)や弓(146)などがある。形象埴輪が出土したのは南溝だけで、武人埴輪はやや東寄りから、女子埴輪はほぼ中央に集中している。

C 出土遺物 (第25~27図・図版21・22)

土師器 (121~123)

短頸壺 (121~123) 口縁を「く」の字に短く外反させる。底部はやや平底を呈する。体部は、121・122はやや偏平で、123は球形を呈する。

須恵器 (124~135)

杯蓋 (124・125) 124の口縁はほぼ垂直に下がり、端部に内傾する段を有する。天井部はやや丸みを帶び、稜は短くやや鋭い。

杯身 (126~129) 立ち上がりは内傾気味で、その端部は丸く仕上げる。受け部は短く水平で、全体的に偏平な感がある。

無蓋高杯 (130・131) 「ハ」の字に開く脚部で、端部はやや厚く下方に下げる。杯部は浅く、内湾させてから口縁部を外反させる。

甕 (132) 口縁部は外反して後、段をなしてさらに外方へ屈曲させる。口頸部は太く、口径と体部最大径はほぼ同じである。

短頸壺 (133) 口縁は垂直に立ち、肩部が張る。口縁下半から体部上半にカキメを施す。

壺 (134) 口縁を外反させ、端部は丸く仕上げる。体部上半にはカキメを施す。

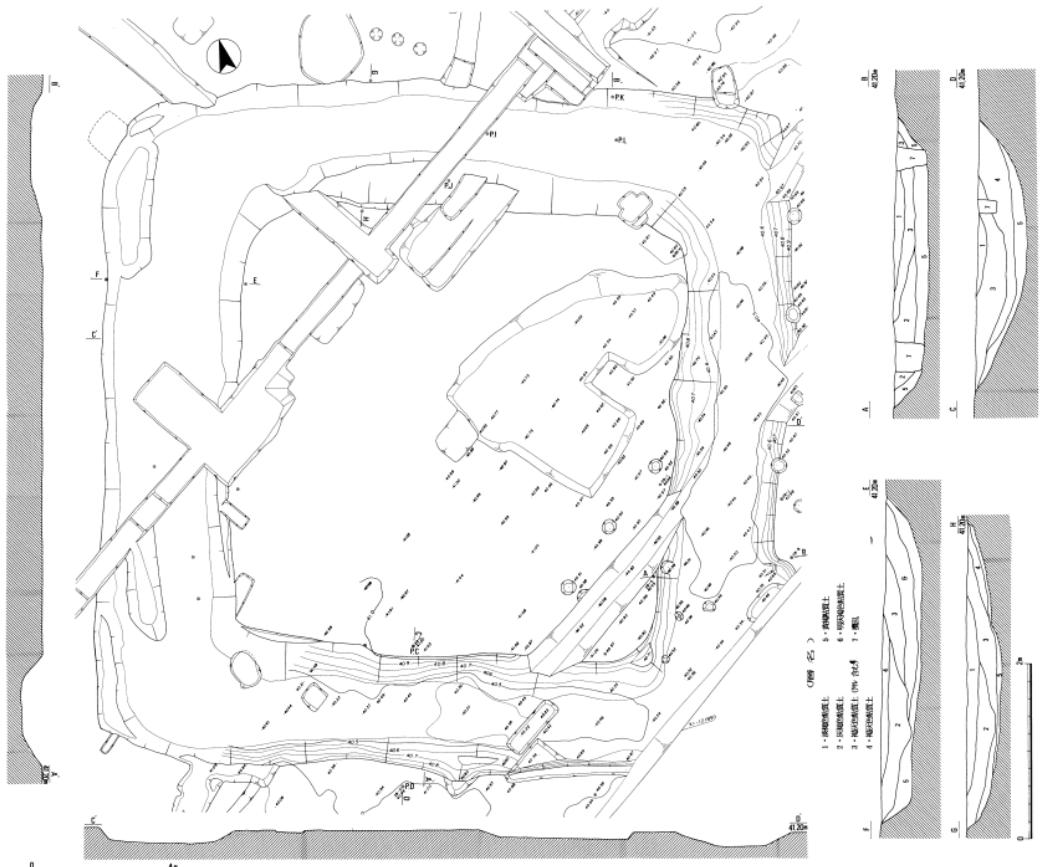
甕 (135) 口縁を大きく外反させ、端部は下方にやや屈曲させる。

器台 (136) 口縁を開かせた後、さらに外反させる。端部はやや細く、丸く仕上げる。

埴輪 (137~150)

朝顔形埴輪 (137) 口縁は大きく外反し、端部は小さく下方へ折り曲げる。外面調整は、粗いナナメハケを施し、内面は外面よりはやや細かいハケメを施す。突帯の突出は低い。

円筒埴輪 (138~144) ほぼ垂直に立つ筒部で、口縁の端部は平坦な面を持つ。底部端部も、口縁端部同



第21図 28号填平面図 (1:100)・土層断面図 (1:40)

様に平坦な面を持つ。外面調整は、細かいB種ヨコハケが大半であるが、143はやや粗い。内面調整は、ヨコハケ・ユビオサエ・ナデなどが施される。また、突帯の突出は低い。

人物埴輪(145~150) 145は、武人埴輪が背中に背負う鞍である。奴駒形で板状を呈する。6本の矢印の線刻で、矢を表現する。またその下には直弧文風の模様を2本の線刻で表現する。146は、棒状の埴輪で、側面に「X」と5本の線刻が施される。弓を形どったものと考えられ、上面全体を窪ませる。147は、武人の手の部分で、籠手の痕跡が残る。148は、女子埴輪の髪の部分である。ふくらと折り曲げたいわゆる島田髪の半分で、中空である。外面には細かいハケメが施され、両側面には楕円形の穿孔がなされる。149は人物の腕で、断面は楕円形で中空である。150は、女子埴輪で、上半身が復元された。総高53.0cmである。頭には長さ20cmの中空で、折り曲げられた島田髪がのせられる。やや上向き加減の顔は、下膨れでふくらと丸みを帯び、首には円形の粘土を貼り付けてネックレスを表現する。右肩か

ら幅広の「袈裟状衣」を左脇で輪になるように、貼り付けて表現される。幅約2.0cmの帯には綾杉文が線刻され、前面で結ぶ。両脇は中空であるが、欠損しており形状は不明である。

D 遺物の時期

南溝の周溝底から出土した須恵器の杯身(128)・杯蓋(124)や器台(136)から判断して、TK47型式に相当するものと思われる。

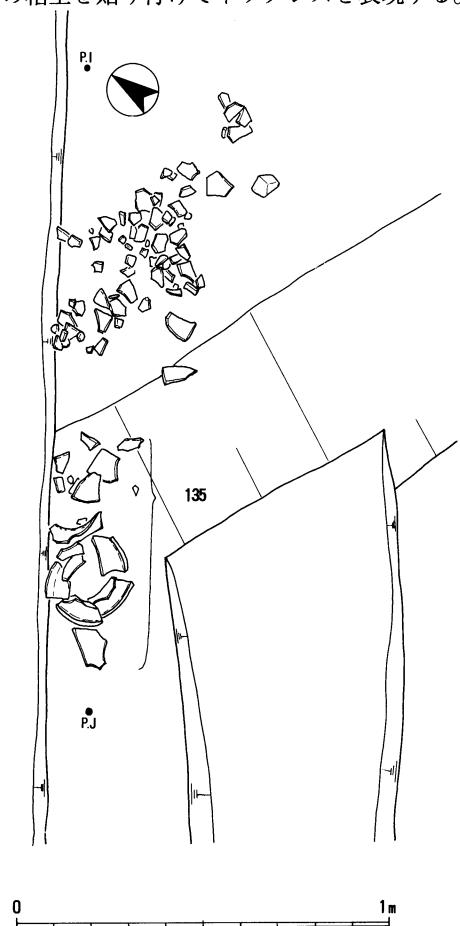
(4) 29号墳

A 遺構 (第28図・図版3)

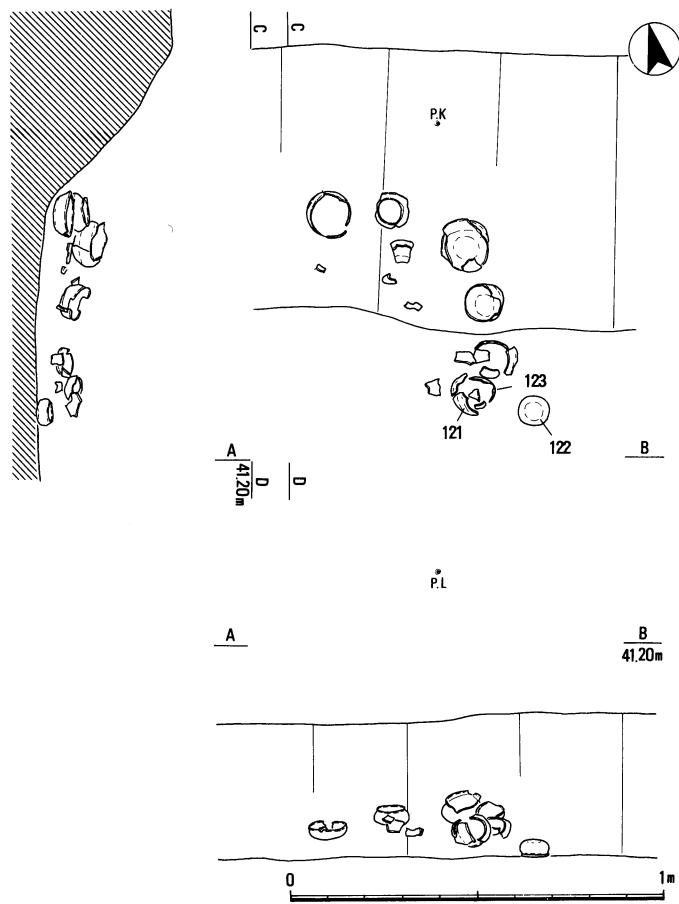
28号墳の西側で検出した。東西方向7.0m、南北方向6.0mの東西にやや長い方墳である。周溝が浅く、北西隅と南溝の大半は途切れる。周溝の幅は0.8~1.0mとほぼ一定で、残存の深さは、0.17~0.25mである。

B 遺物出土状況 (第29図)

北溝のほぼ中央から須恵器の杯蓋(151)・杯身(152)・壺(153)が1個体ずつ出土した。なお、杯蓋は開かれた状態での出土である(第29図)。



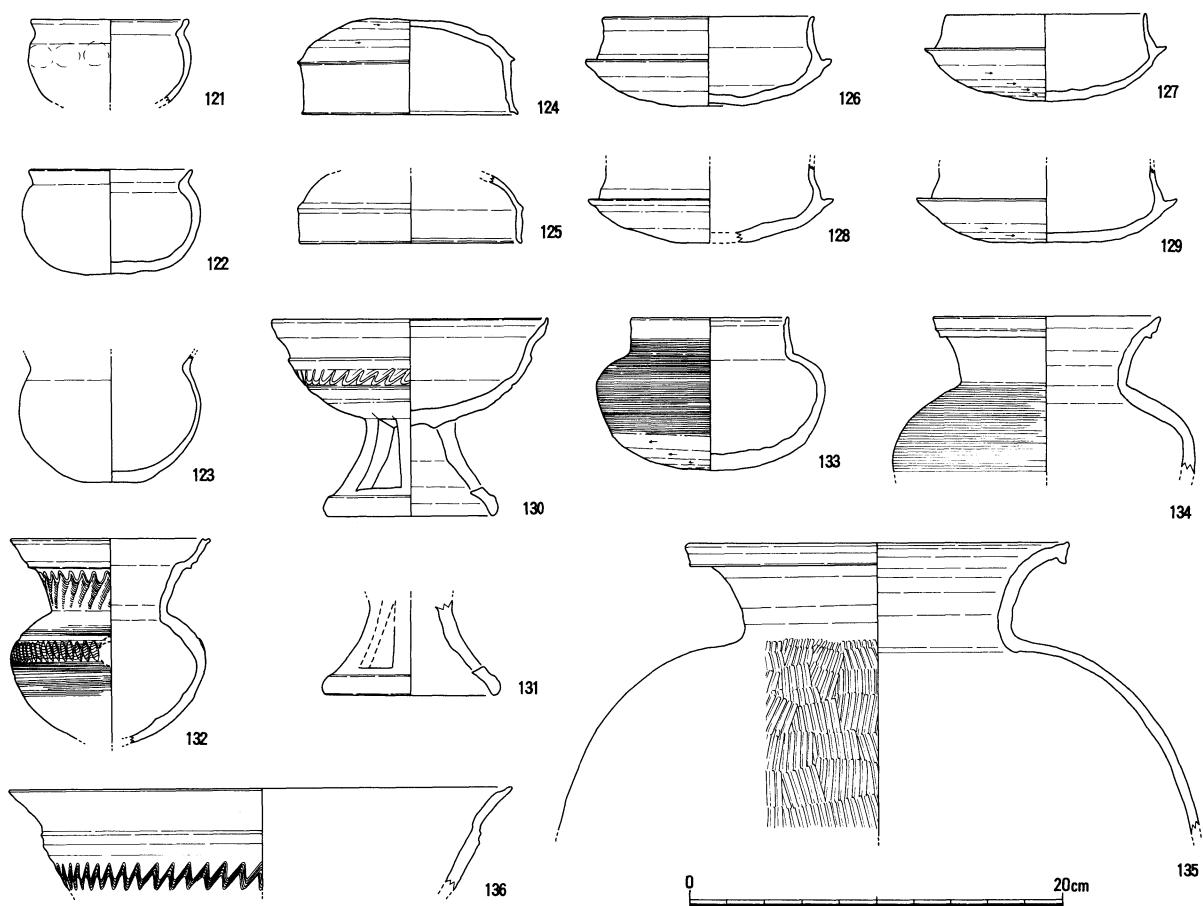
第22図 28号墳北溝中央遺物出土状況図 (1 : 20)



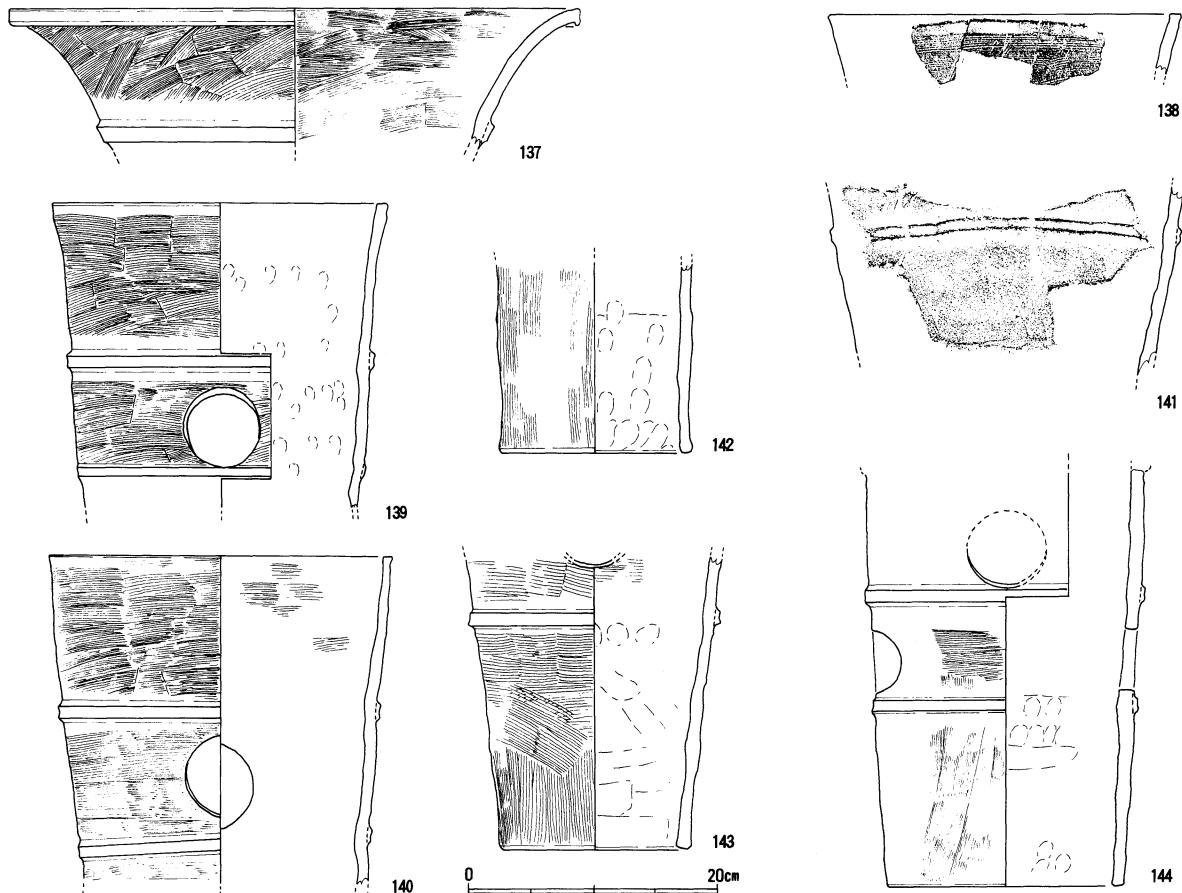
第23図 28号墳北溝東側遺物出土状況図 (1 : 20)



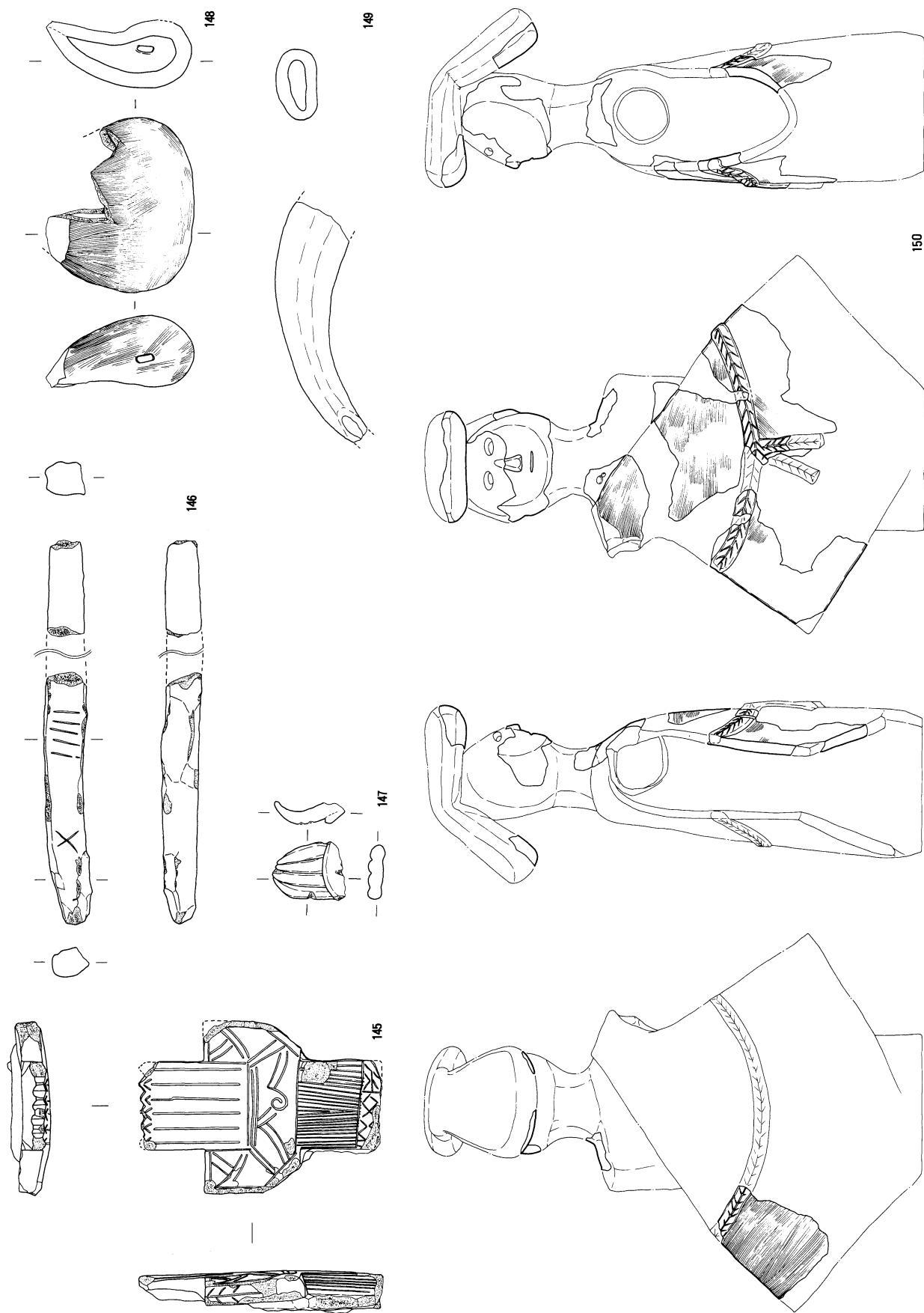
第24図 28号墳南溝遺物出土状況図 (1 : 20)



第25図 28号墳出土須恵器・土師器実測図（1：4）



第26図 28号墳出土朝顔形・円筒埴輪実測図（1：4）



第27図 28号墳出土形象埴輪実測図 (150は1:6、その他は1:4)

C 出土遺物 (第30図・図版23)

須恵器 (151~153)

杯蓋 (151) 天井部は丸みを持ち、口縁部はほぼ垂直に下がる。稜は短く、やや鋭さに欠ける。

杯身 (152) 底部は丸く、立ち上がりはやや内傾する。口縁端部の内側は、浅く窪む。

壺 (153) 口縁部は外反して後、段をなしてさらに外方へ屈曲させる。口頸部は太く、胴部の肩はやや張る。

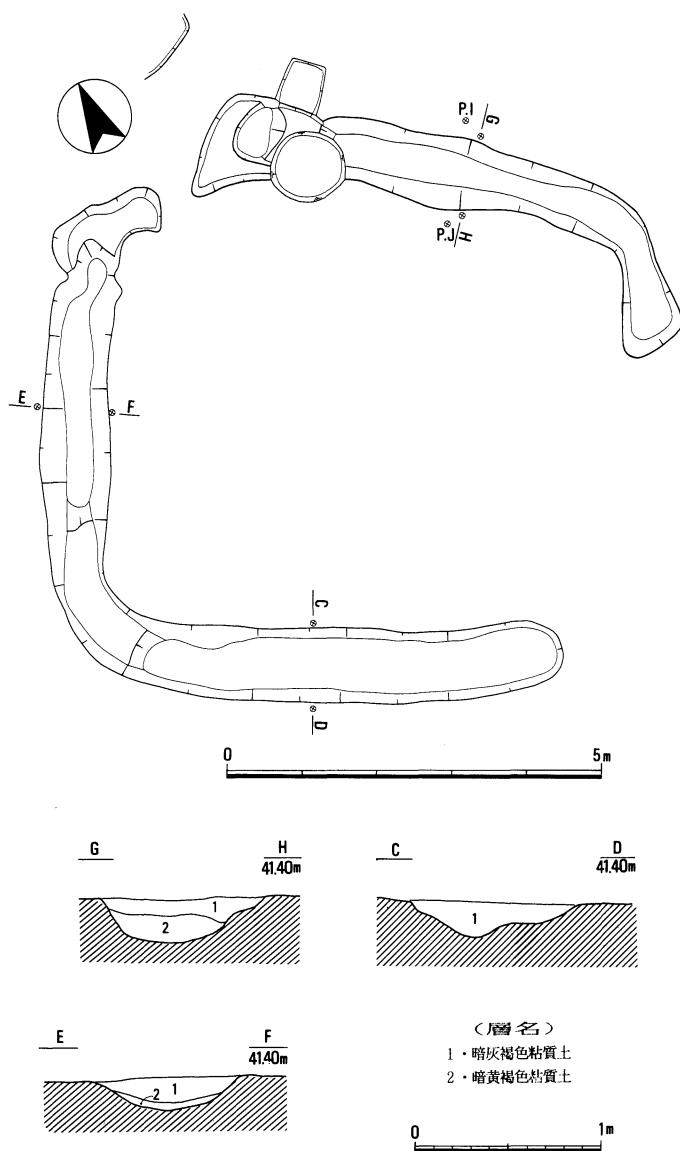
D 遺物の時期

これらの須恵器はTK 23型式の時期に相当するものと思われる。

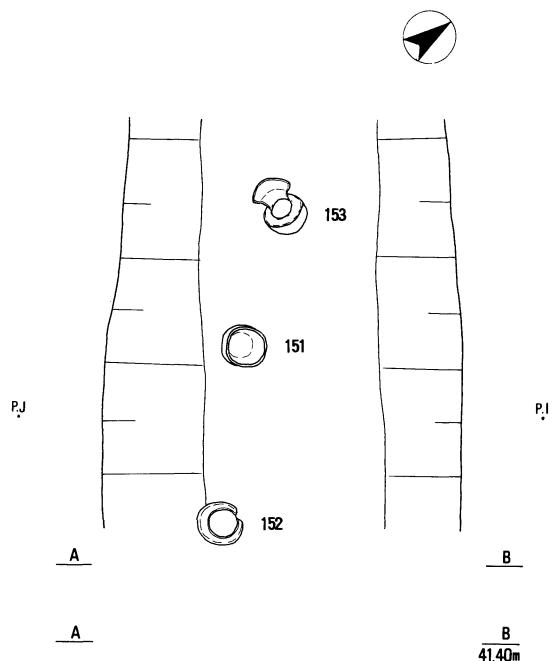
(5) 30号墳

A 遺構 (第31図・図版3)

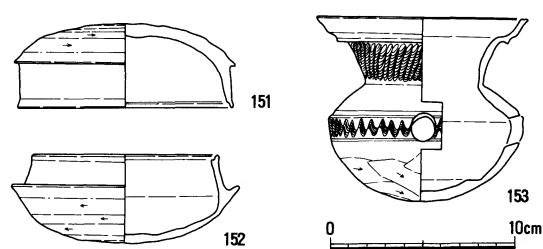
29号墳の南側で検出した。東西方向7.5m、南北方向8.0mの方墳であるが、平面形は南溝内側辺が短く、北溝内側辺がやや長い台形である。周溝の内側は直線的で、垂直に深く掘り込まれる。周溝の外側は、弧を描く感がある。周溝幅は2.5~4.0mであるが、東西溝の方が南北溝より幅が広い。残存の深さは0.28~0.55mで東溝の中央は深い。なお、西溝内の南側に2.0×1.0mの堀り残された島状の部分が存在するが、このようなものは他の古墳では確認されていない。



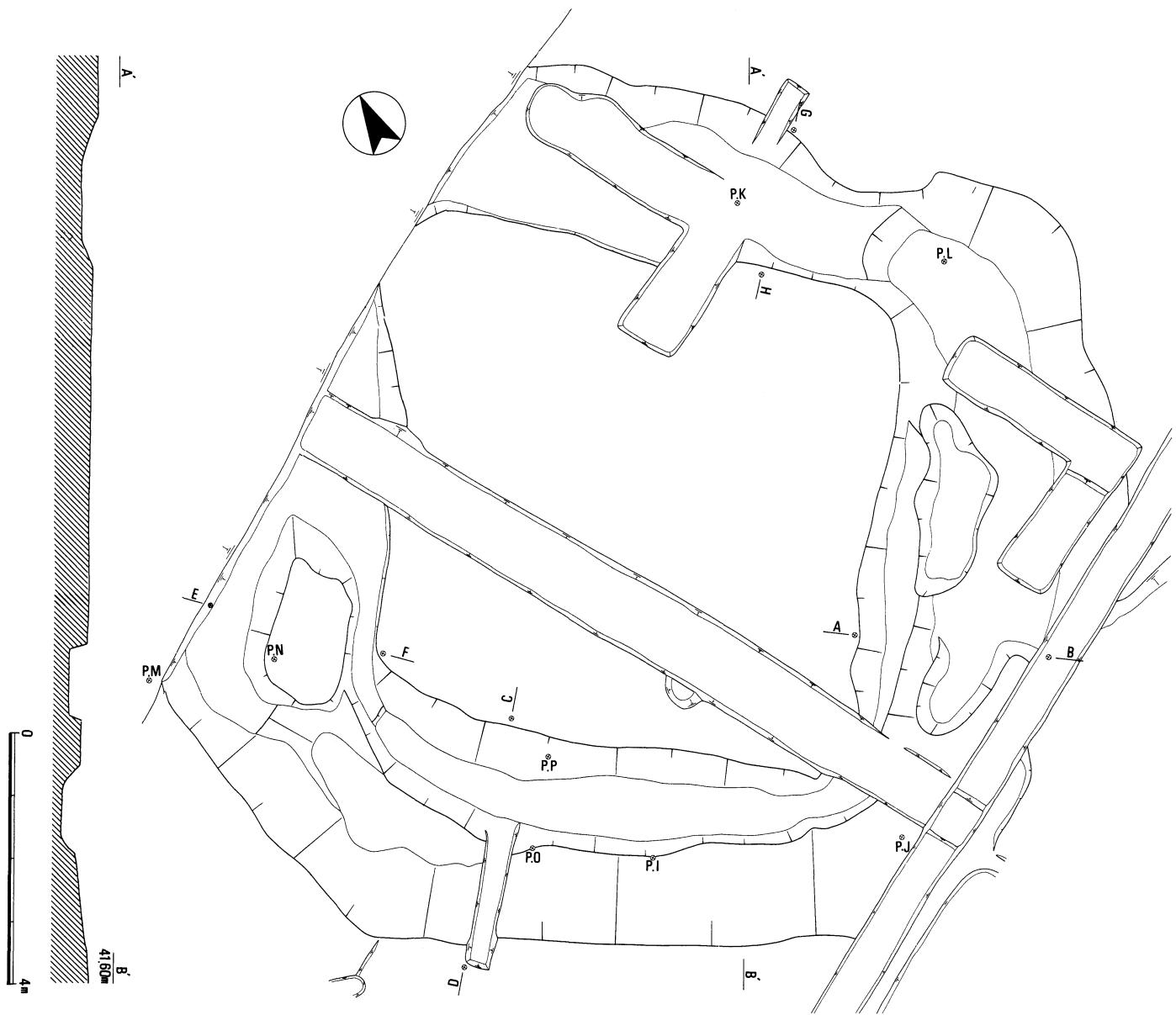
第28図 29号墳平面図 (1 : 100)・土層断面図 (1 : 40)



第29図 29号墳北溝遺物出土状況図 (1 : 20)

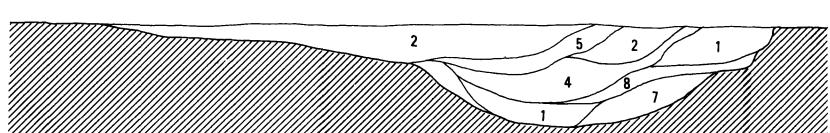
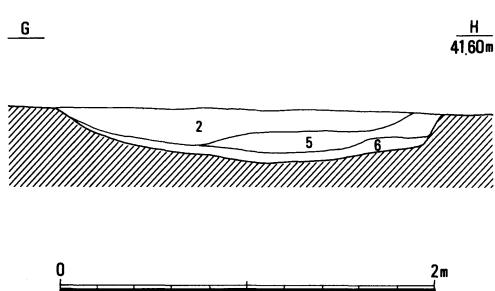
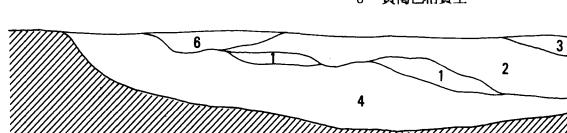


第30図 29号墳出土須恵器実測図 (1 : 4)

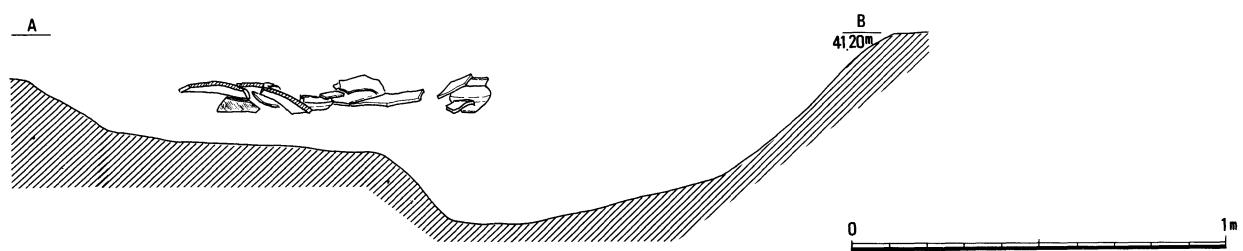
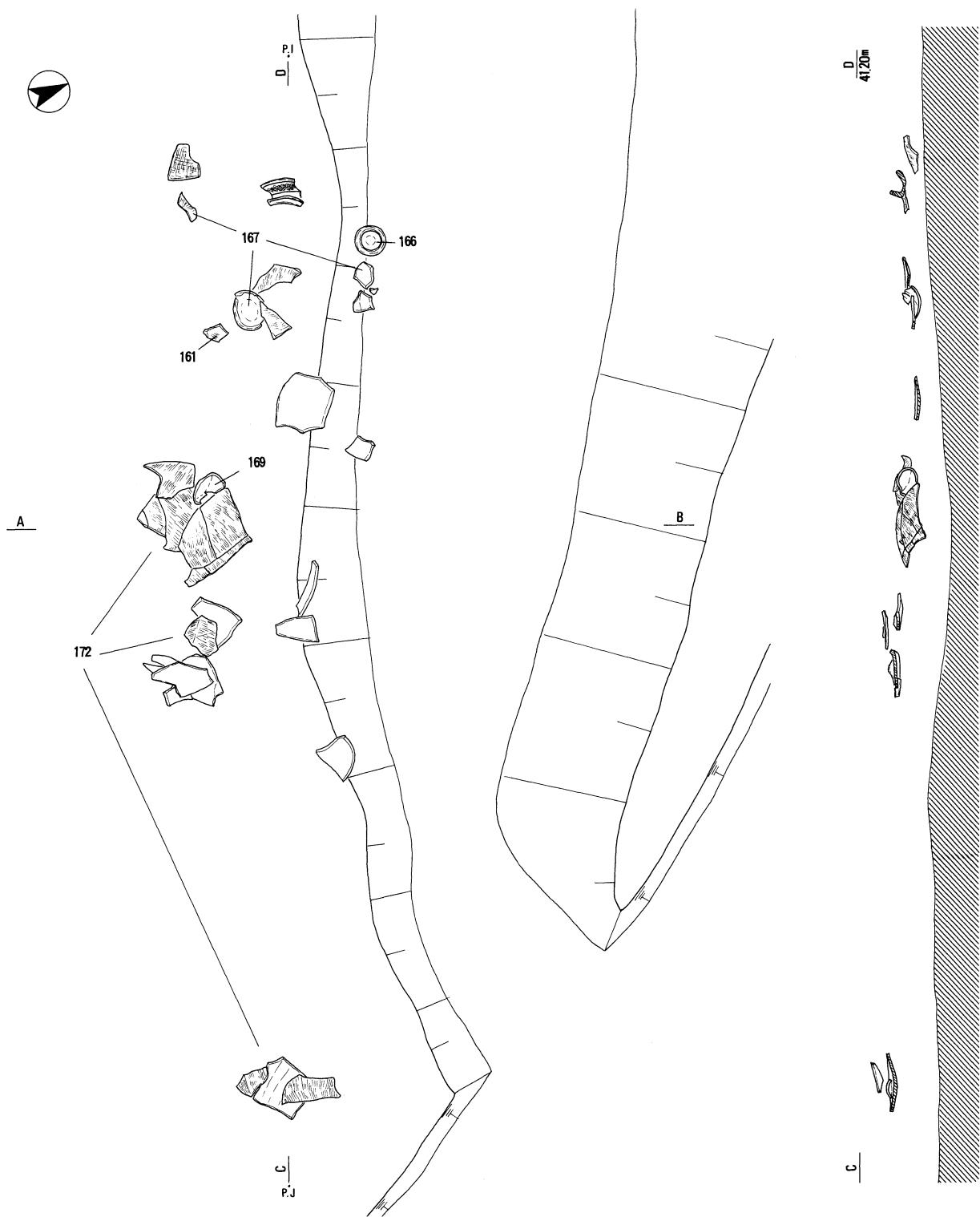


(断面名)

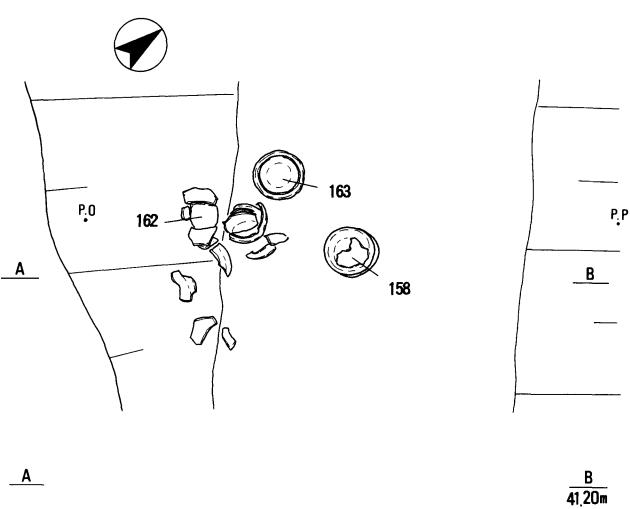
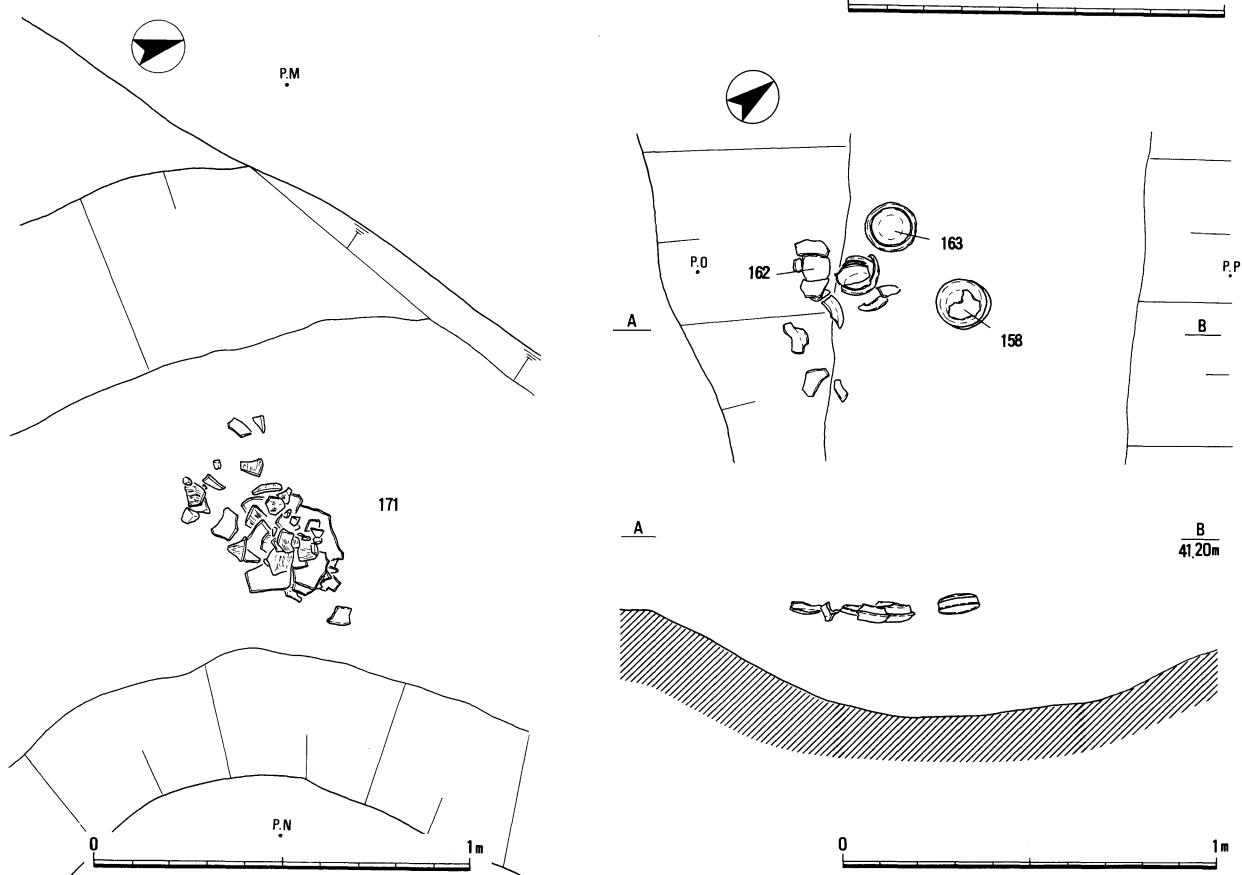
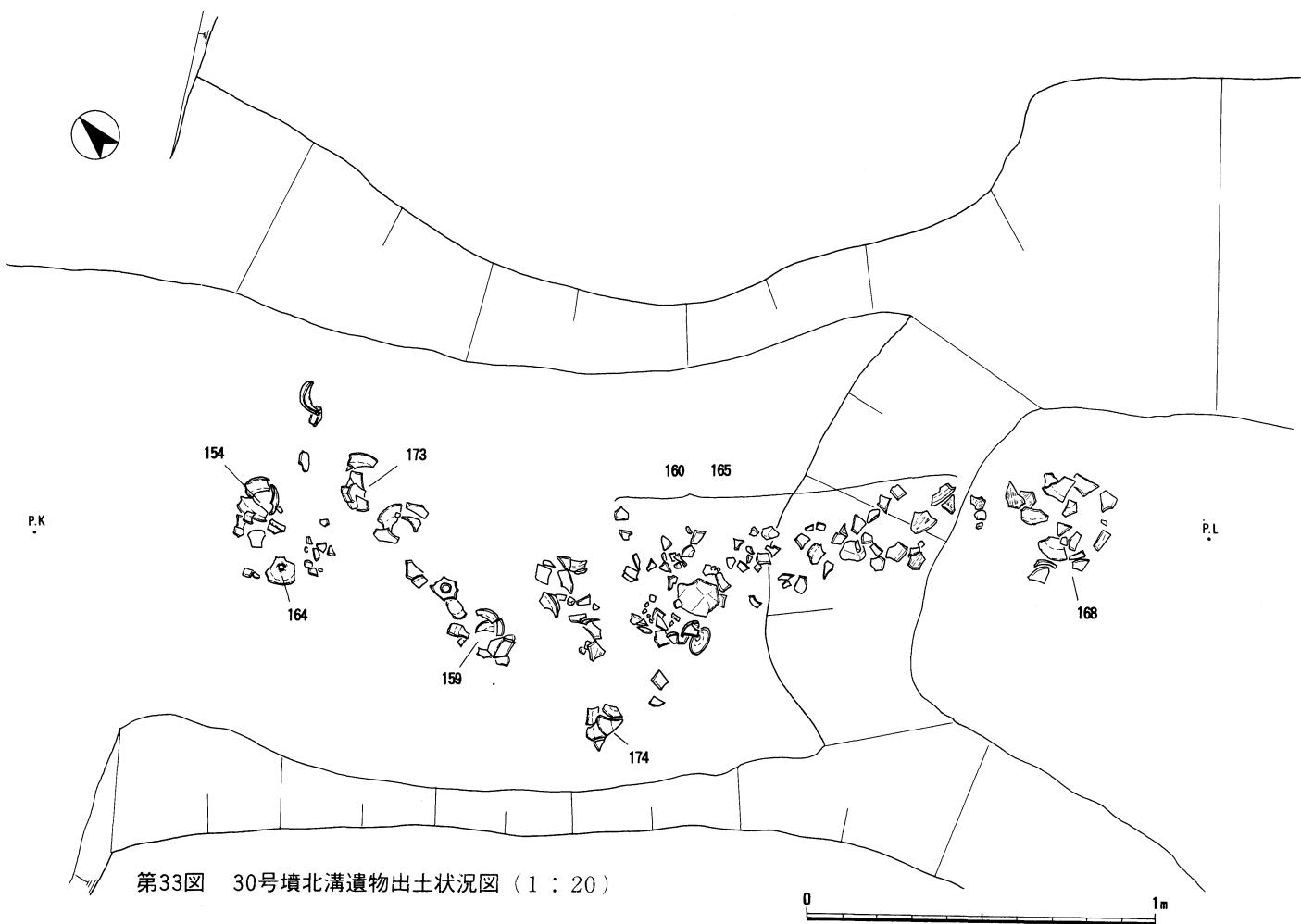
- | | |
|----------------------------|-----------------------------|
| 1・黒褐色粘質土 | 4・黄褐色+黒褐色を中心とする
灰褐色粘質土含む |
| 2・灰褐色粘質土
(~5mm炭化物含む) | 5・暗灰褐色粘質土 |
| 3・褐灰色粘質土
(~1cmくされ岩若干含む) | 6・淡褐色粘質土 |
| | 7・暗黃褐色粘質土 |
| | 8・黄褐色粘質土 |

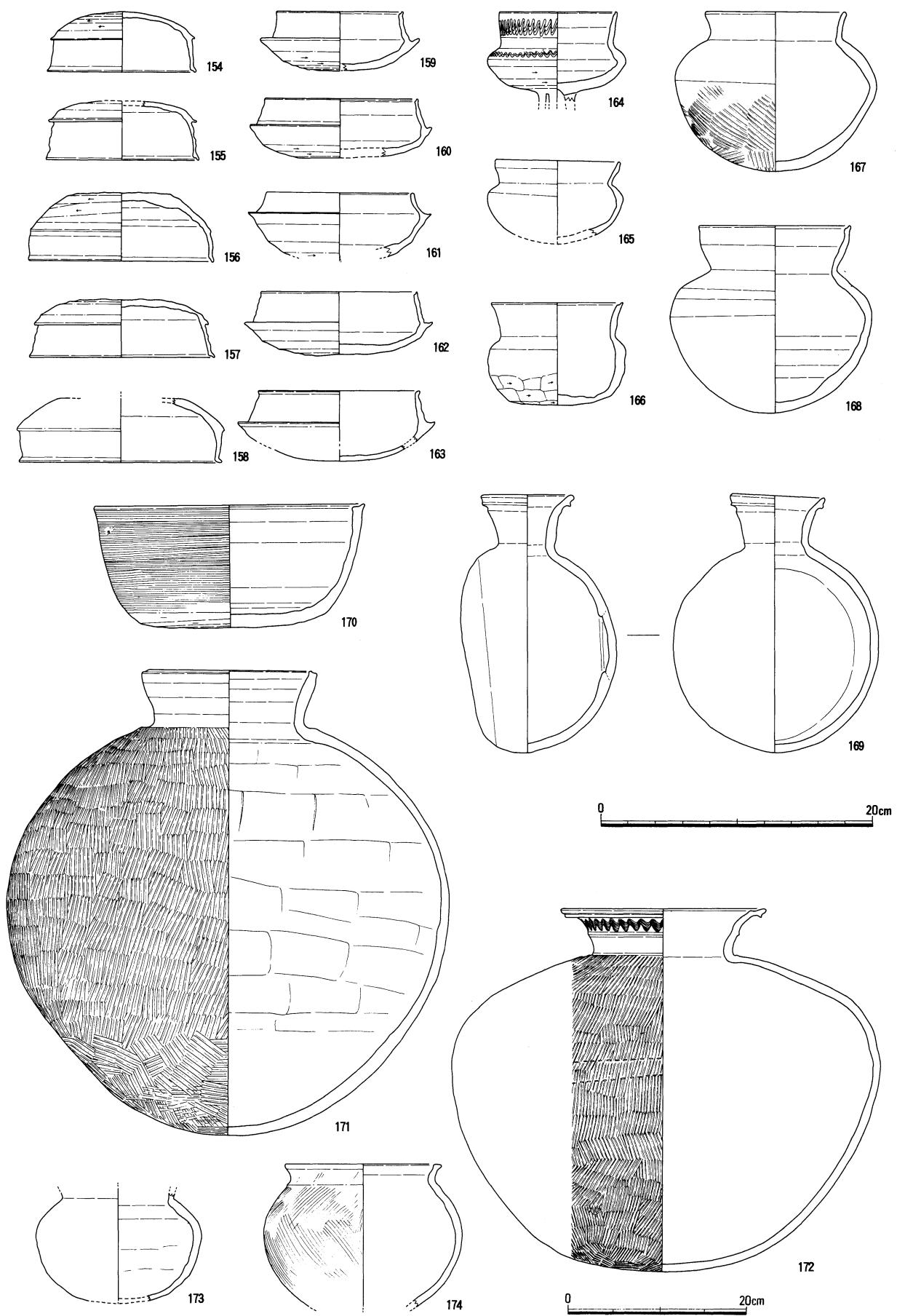


第31図 30号墳平面図 (1:100)・土層断面図 (1:40)



第32図 30号墳南溝遺物出土状況図 (1 : 20)





第36図 30号墳出土須恵器・土師器実測図 (172は1:6、その他は1:4)

B 遺物出土状況（第32～35図・図版4）

南溝の西寄り、周溝底から浮いた状態で須恵器の杯身（162・163）・杯蓋（158）が（第35図）、その東寄りでは杯身（161）・短頸壺（166）・壺（167）・提瓶（169）・甕（172）などが出土した（第32図）。甕については、割れて散らばった状態である。また、西溝の島状部分の西からは須恵器の甕（171）がその場で割られたような状態で出土した（第34図）。なお、この甕の周辺からは、須恵器の鉢（170）が出土している。また、北溝の東寄りからは、須恵器の杯身（159・160）・杯蓋（154）・壺（168）・短頸壺（165）・脚付短頸壺（164）、土師器の短頸壺（173）・台付甕（174）などが細かく割れ散らばった状態で出土した（第33図）。

C 出土遺物（第36図・図版23）

須恵器（154～172）

杯蓋（154～158） 154と155は、口径約11.0cmで、天井部は丸く稜も鋭い。156～158は、口径約14.0cm前後と大きく、稜や口縁端部はあまい。

杯身（159～163） 159は、口径約9.5cmと小さく、160～163は、口径約11.0cmと大きい。

短頸壺（164～166） 164は、脚付きで口縁部と肩部に波状文を巡らし、体部は偏平である。

壺（167・168） 167は、体部下半にタタキを施し、168は、口縁部がやや内湾する。

鉢（170） 体部外面にはカキメを施し、口縁端部には凹面を持つ。171の甕とセットになる可能性が考えられ、出土した場所から考えて、周溝内で甕棺として利用されたものかもしれない。

提瓶（169） 口縁をゆるやか外反させ、端部は下方に肥厚させる。前面は丸みを持ち、背面は平坦である。なお、前面の内側には、円盤状のものをはめ込んだ痕跡が残る。

甕（171・172） 172は、肩部が大きく張り、口縁端部は外方に大きく開く。

土師器（173～174）

壺（173） 口縁部が欠損するが、短頸壺になろうか。やや偏平な体部の内部には、粘土紐の痕跡が残る。

台付甕（174） 球形の体部で、口縁は短く外反し、その端部は肥厚する。脚部は欠損する。

D 遺物の時期

北溝出土の杯身（159）・杯蓋（154）などはTK47型式と考えられ、また、南溝出土の杯身（162・163）・杯蓋（158）は周溝底から浮いた状態で出土しているが、MT15型式に相当すると考えられる。

(6) 31号墳

A 遺構（第37図・図版3）

30号墳の南側で検出した。規模は東西方向、南北方向ともに10.0mの方墳であるが、平面形は北溝内側辺が短く、南溝内側辺がやや長い台形である。周溝内側は直線的で、外側はやや弧を描く感があり、30号墳との類似性が感じられる。周溝幅は1.7～3.2mで、西溝と北溝はやや広い。残存の深さは0.24～0.65mである。

B 遺物出土状況（第38・39図・図版4・5）

西溝からは須恵器の有蓋高杯蓋（189～191）・有蓋高杯（193～197）・短頸壺（200・201）・甕（207）、土師器の壺（202・203）が、墳丘裾から転落したような状態で、周溝底からは浮いて出土した（第38図）。また、東溝からは須恵器の杯身（180～188）・杯蓋（175～179）・甕（198）・甕（208～212）、土師器の壺（204・205）が、周溝の底でその場に据え置かれた様な状況で出土した（第39図）。その中でも、杯身・杯蓋は北寄りに、甕は南寄りに集中する。なお、甕（212）は意図的に内側、すなわち凹面向上向きした状態での出土である。周溝内の何らかの祭祀の痕跡と考えられるが、相対する周溝で異なる器種の須恵器が集中することは、非常に興味深い。

C 出土遺物（第40～42図・図版24・25）

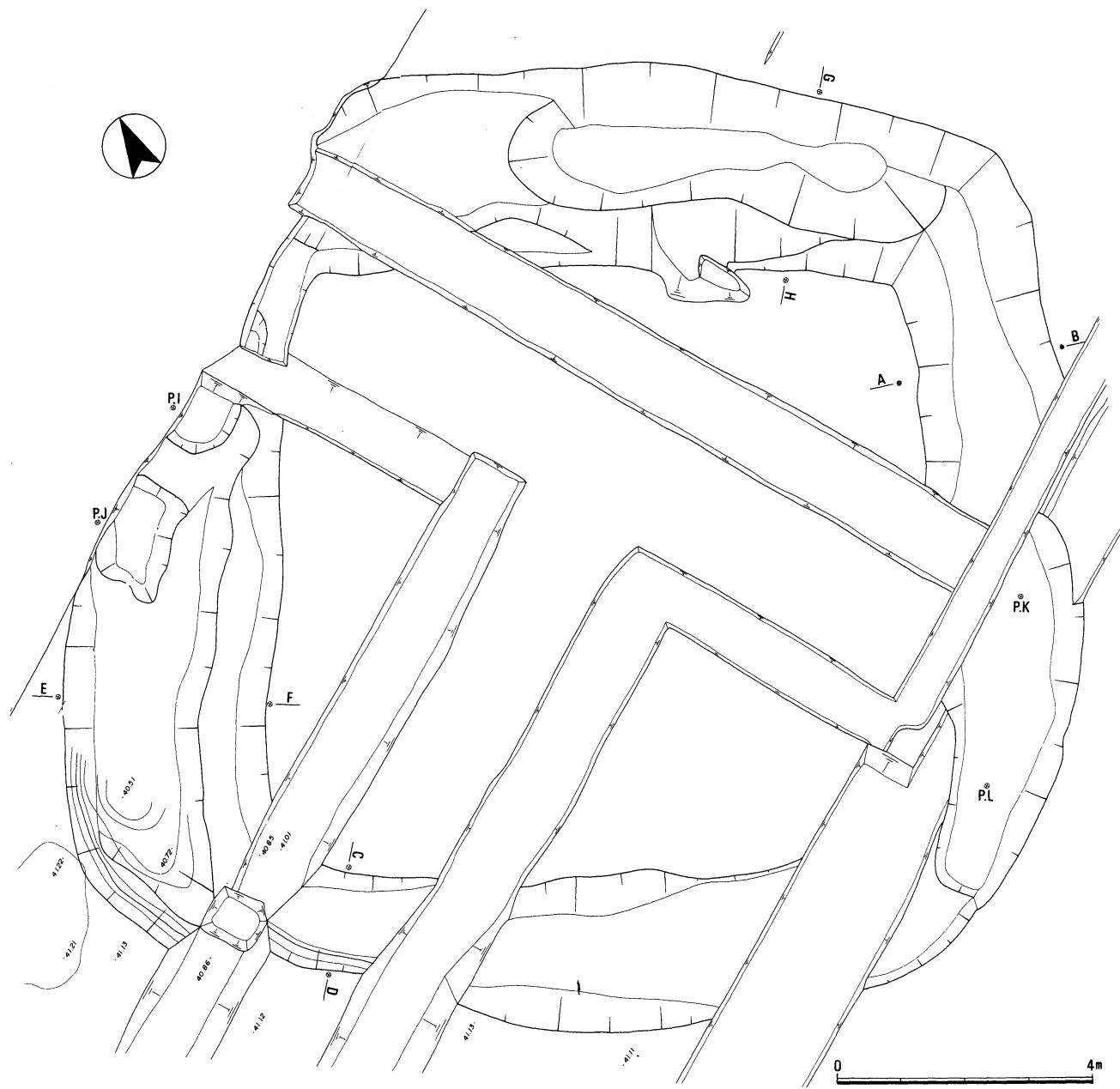
須恵器（175～212）

杯蓋（175～179） 天井部は丸く、口縁部が垂直になるものが多い。口径は12cm前後である。

杯身（180～188） 底部は丸く、口縁部は垂直に立ち上がる。受け部はやや長いものが多い。

有蓋高杯（189～197） 蓋は、やや器高の高く、中央に突起状のつまみが付く。身は、長方形の三方スカリシがあるもの（194）とないもの（193・195～197）がある。また、脚部は「八」の字に広がり、端部を下方に折り曲げる（193～196）と、直線的に開くもの（197）がある。

甕（198・199） 198は、口縁部が大きく外へ開き、

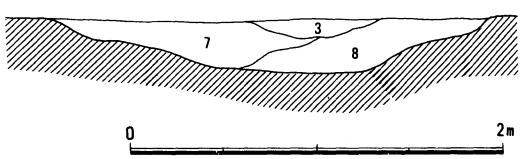
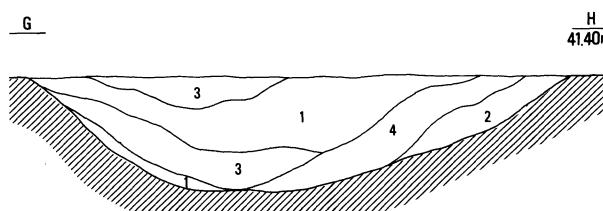
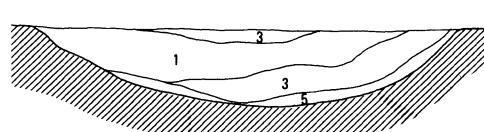
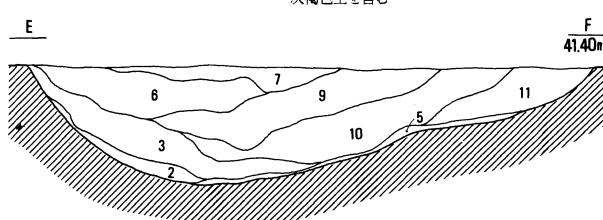


1・灰褐色粘質土
(～5mm炭化物含む)
2・黄褐色+黒褐色粘質土を中心
に灰褐色土を含む

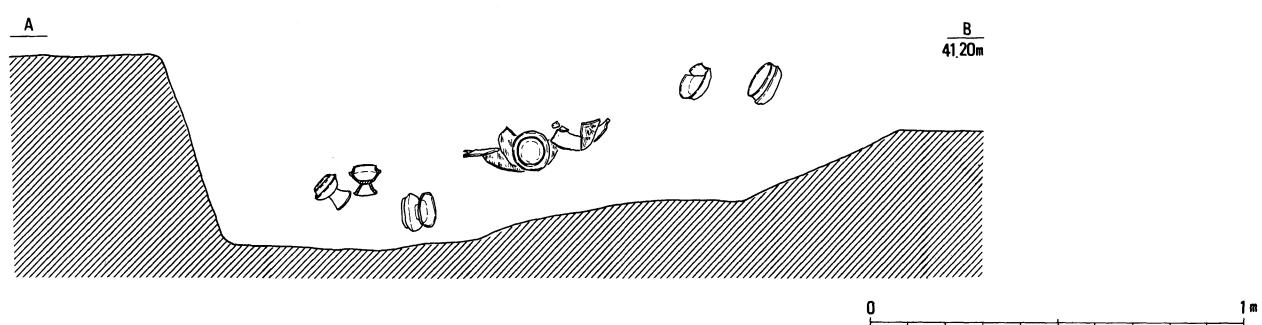
3・暗灰褐色粘質土
4・暗黃褐色粘質土
5・黃褐色粘質土

(層名)
6・暗灰褐色+暗黃褐色ブロック
粗く混入炭化物含む若干粘質
7・灰褐色粘質土
(ややクサレる)

8・濃灰褐色粘質土
9・褐灰色粘質土(クサレ・炭化物混入)
10・淡褐灰色粘質土
11・暗褐灰色(黄褐色土ブロック混入)



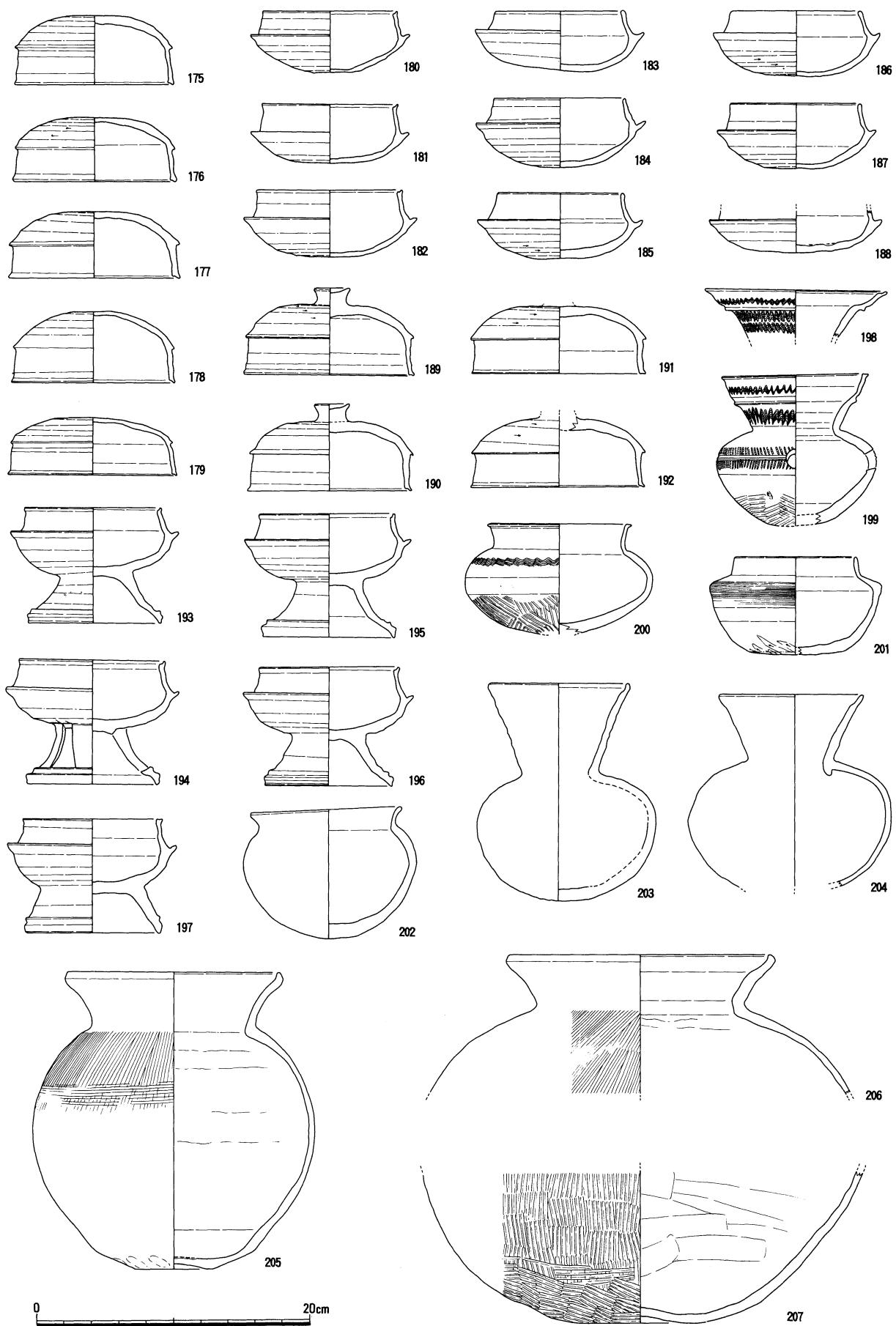
第37図 31号墳平面図(1:100)・土層断面図(1:40)



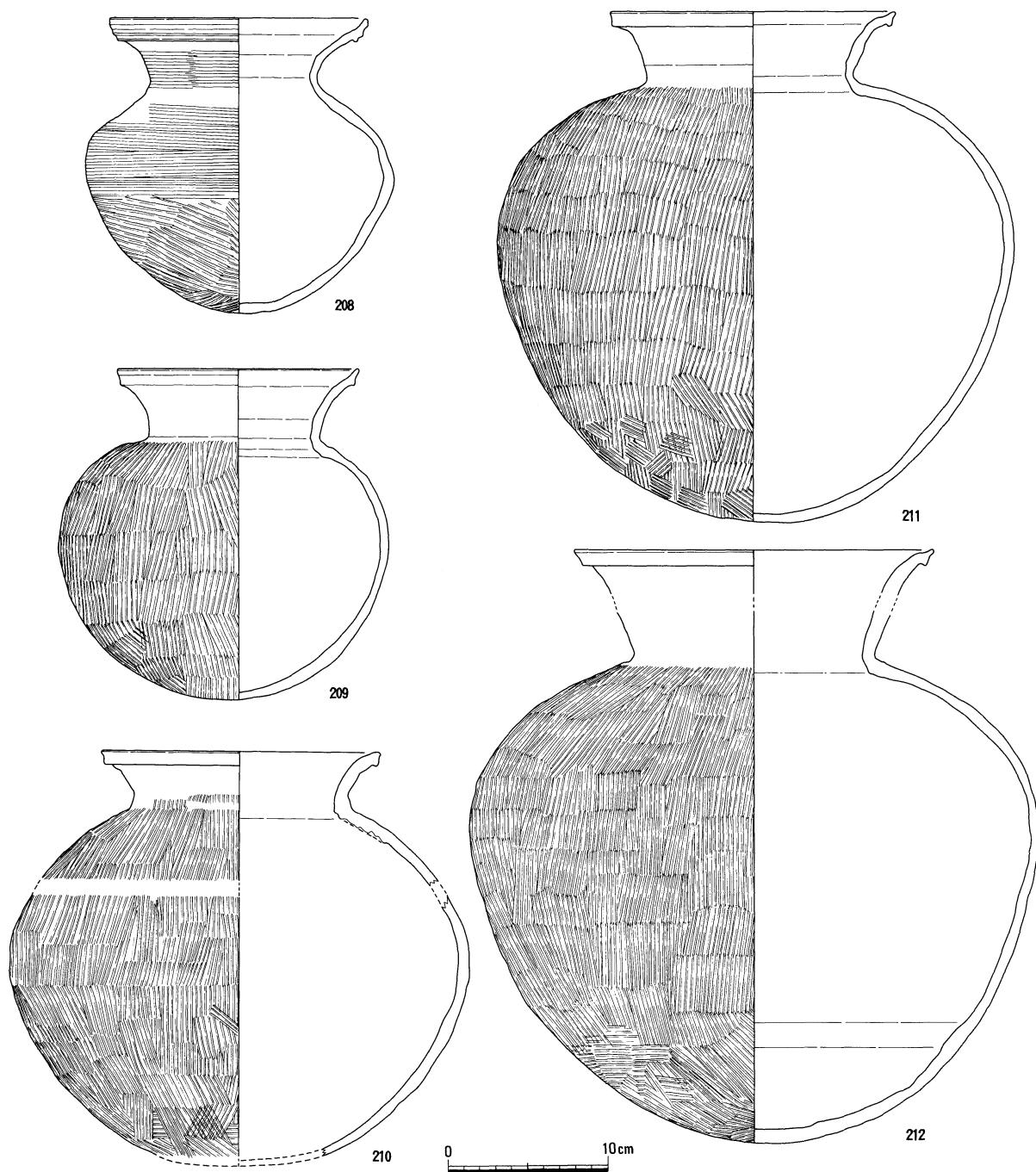
第38図 31号墳西溝遺物出土状況図 (1 : 20)



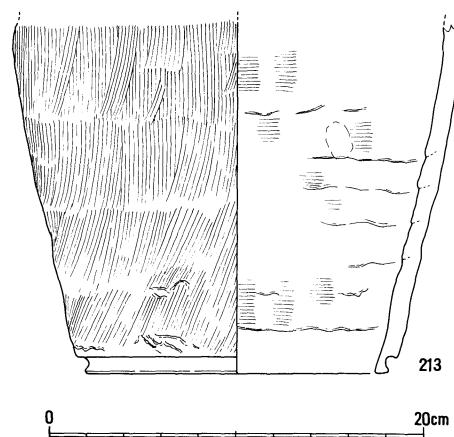
第39図 31号墳東溝遺物出土状況図 (1 : 20)



第40図 31号墳出土須恵器・土師器実測図 (1 : 4)



第41図 31号墳出土須恵器実測図 (1 : 4)



第42図 31号墳出土円筒埴輪実測図 (1 : 4)

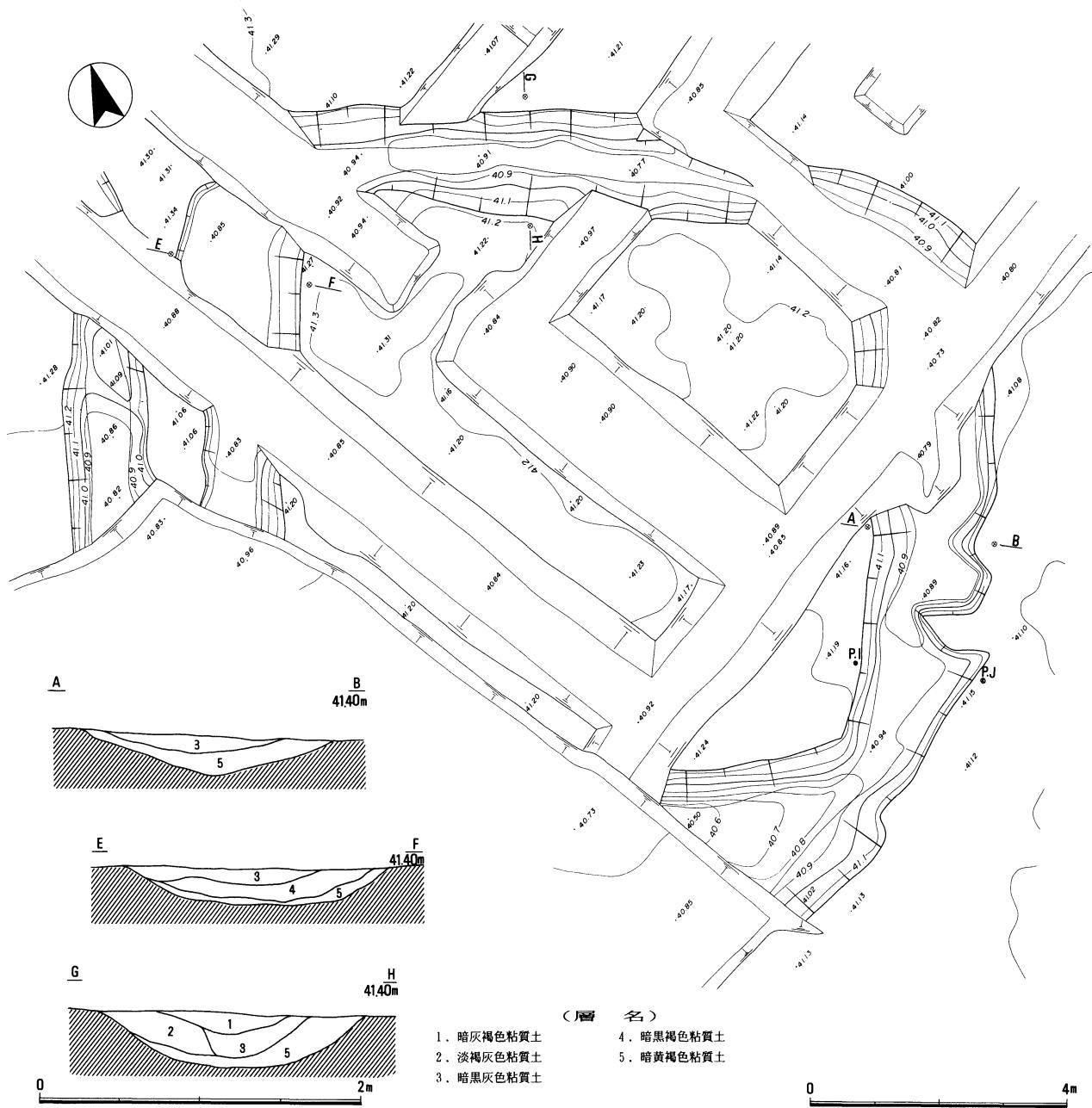
199は上方に開く。199は、口縁径と体部径はほぼ同じである。

短頸壺 (200・201) 200は体部が偏平で、201は肩部が張る。

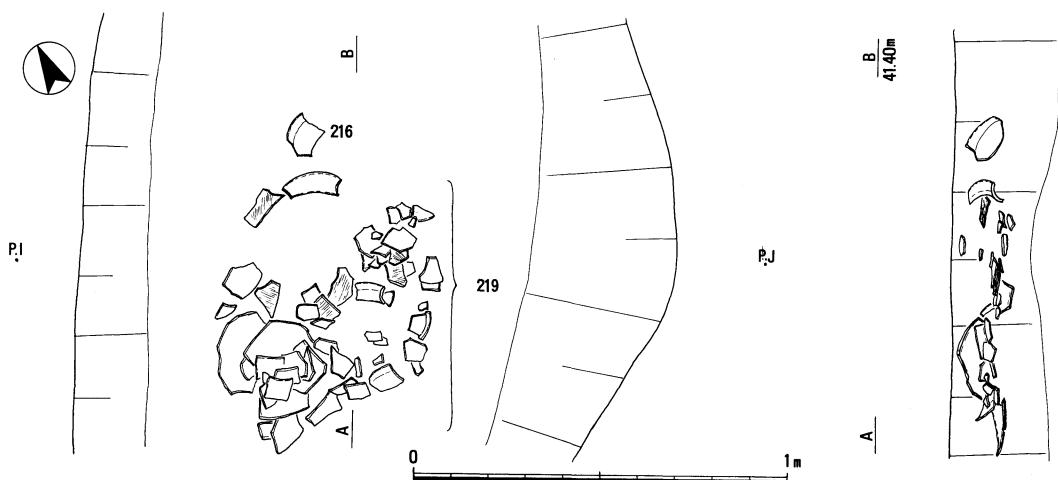
甕 (206~212) 脊部が球形のものが多く、口径が16cm前後のもの (208~210) と 20cmを越えるもの (206・207・211・212) がある。208は、頸部から脣部上半にかけてカキメを施す。

土師器 (202~205)

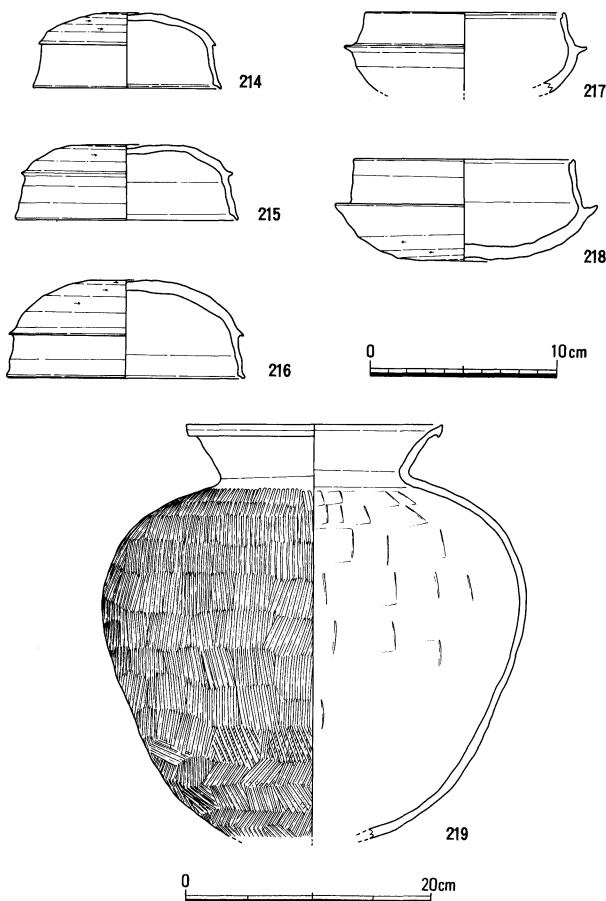
壺 (202~205) 205は底部がやや上げ底である。



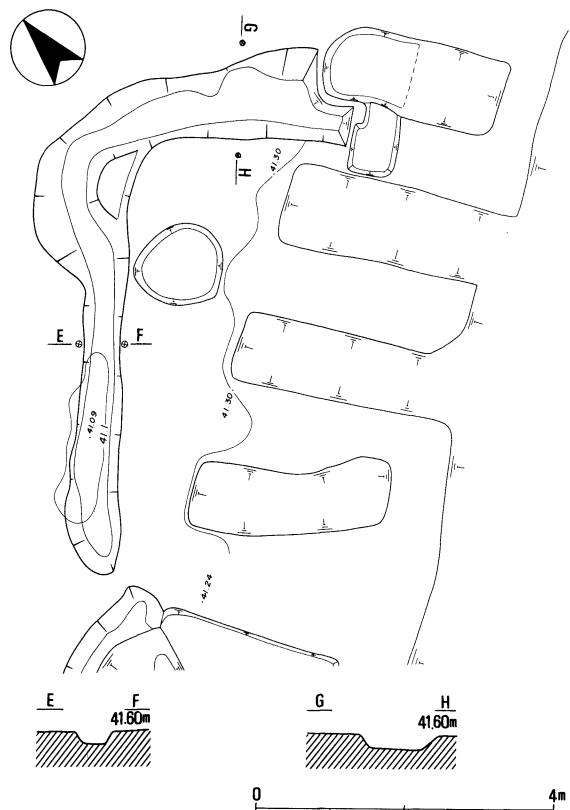
第43図 32号墳平面図 (1 : 100)・土層断面図 (1 : 40)



第44図 32号墳東溝遺物出土状況図 (1 : 20)



第45図 32号墳出土須恵器実測図 (219は1:6、その他は1:4)



第46図 33号墳平面図 (1:100)

埴輪 (213)

円筒埴輪 (213) 北溝の掘削中に出土した。底部の外側が内側に段を持つ、いわゆる「淡輪技法」である。外面には縦方向のハケメを施し、内面には幅約2cmの粘土紐の接合痕跡が残る。

D 遺物の時期

東溝の周溝底から出土した杯身・杯蓋の形状や調整技法から判断して、TK47型式に相当するものと考えられる。

(7) 32号墳

A 遺構 (第43図・図版6)

31号墳の南側で検出した。南西隅部分は、第一補助棟による建設で攪乱を受けているが、東西方向9.0m、南北方向8.5mの規模の方墳である。昭和時代の攪乱のため周溝は何ヵ所か分断されてはいるが、周溝の内側が直線的で、外側は弧を描く感がある。東溝の外側だけはややいびつである。周溝幅は1.55～1.7mで、残存の深さは0.22～0.34mである。

B 遺物出土状況 (第44図・図版5)

東溝の南寄りから須恵器の杯身(218)・杯蓋(216)・甕(219)が出土した(第44図)。甕についてはその場で割られた状況での出土である。

C 出土遺物 (第45図・図版25)

須恵器 (214～219)

杯蓋(214～216) 214は、口径がやや小さく、215・216は、口径が大きい。

杯身(217・218) やや口径の大きいものである。

甕(219) 体部は肩が張り、底部はややすぼまる形状である。口縁端部は、下方に屈曲させる。

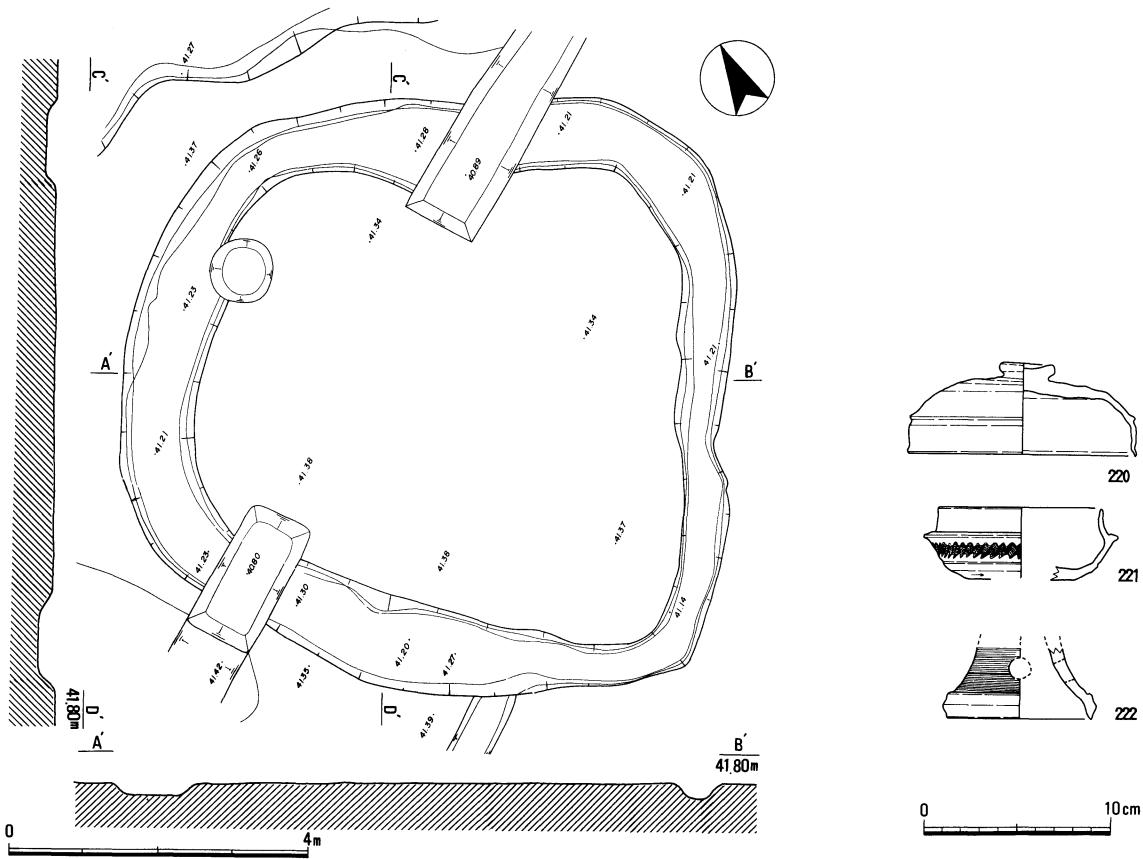
D 遺物の時期

杯身(216)・杯蓋(218)・甕(219)から判断して、TK47型式に相当するものと思われる。

(8) 33号墳

A 遺構 (第46図・図版3)

29号墳の北側で検出した。規模が小さいためか、周溝の西溝と北溝の一部しか検出できていない。おそらく、一辺6.0m前後の方墳になるものと思われる。周溝幅は0.5～1.3mで、残存の深さは0.15mである。なお、出土遺物はない。



第47図 34号墳平面図 (1 : 100)

第48図 34号墳出土須恵器実測図 (1 : 4)

(9) 34号墳

A 遺構 (第47図・図版3)

後述の49号墳の南側で検出した。東西方向 6.2 m、南北方向 5.9m の規模の方墳である。周溝の平面形態はやや台形状を呈する。49号墳の南溝に隣接する。周溝幅は 0.85~1.1m で、残存の深さは 0.1~0.8 m である。

B 遺物出土状況

周溝の掘削時に、南溝から須恵器の有蓋高杯(220・221)・脚部(222)などが出土した。

C 出土遺物 (第48図)

須恵器 (220~222)

有蓋高杯 (220~222) 220は、中央が窪む偏平なつまみが付く。221は、体部に波状文を施す。222は脚部にカキメを施す。

D 遺物の時期

TK 47型式に相当しようか。

(10) 35号墳

A 遺構 (第49図・図版3)

34号墳の南西側で検出した。東西方向 8.2m、南北方向 7.7m の方墳である。周溝の南西隅は調査区外であるが、全体に四隅は狭く浅い。特に、南東隅は途切れている。周溝の内側は直線で、外側は若干弧を描く。周溝幅は 0.9~1.55m で、残存の深さは 0.2~0.28m である。

B 遺物出土状況 (第50・51図)

北溝の東隅付近から人物埴輪 (225) が細片で (第51図)、ほぼ中央から須恵器の甕・土師器の壺が出土した (第50図)。また南溝から周溝掘削時に須恵器の有蓋高杯 (223)・甕 (224) が出土した。

C 出土遺物 (第52図・図版25)

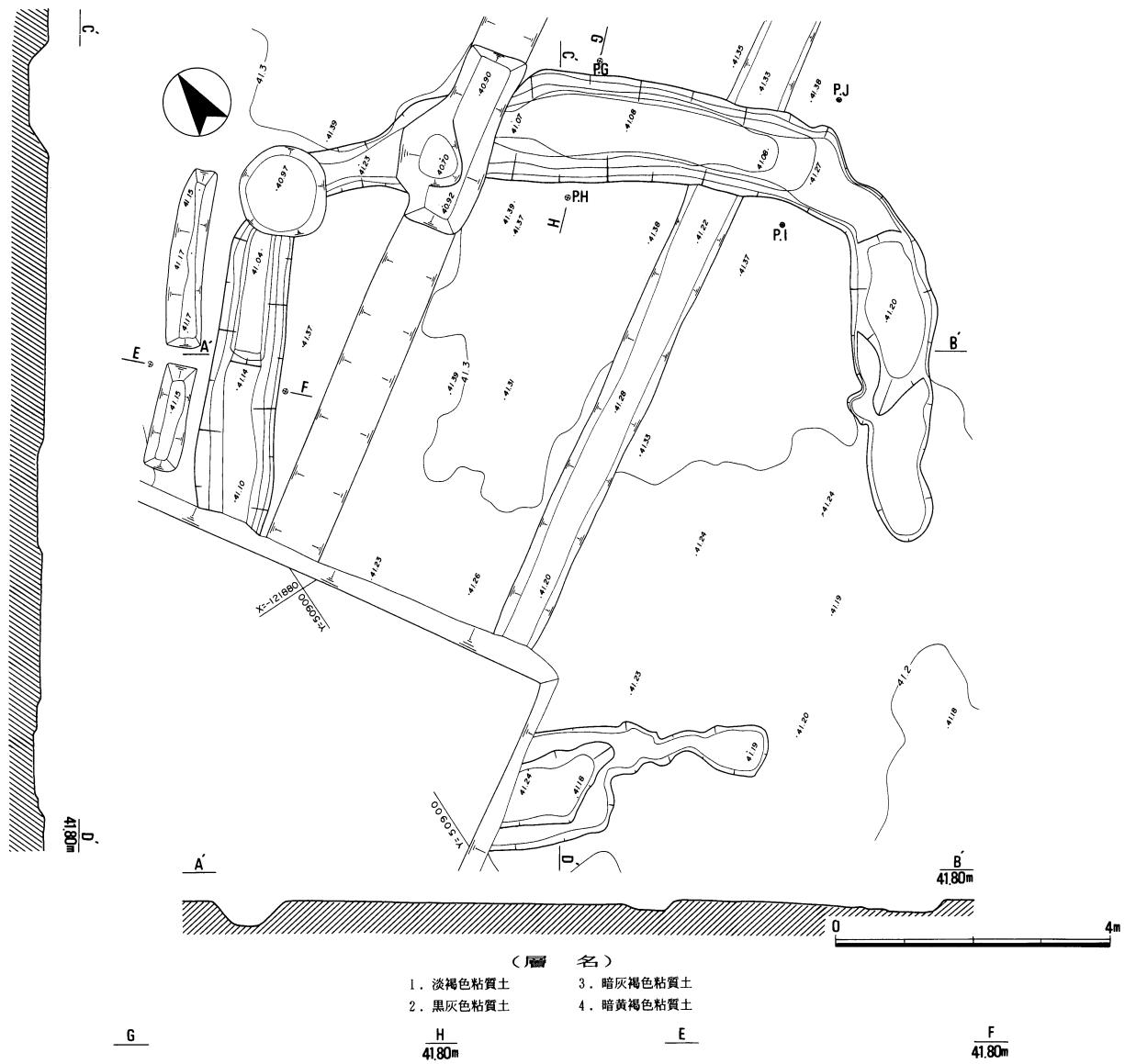
須恵器 (223・224)

有蓋高杯 (223) 杯部は深く、「ハ」の字に開く脚部が付く。端部は下方へ屈曲させる。

甕 (224) 口縁部に波状文を施し、端部は丸い。

埴輪 (225)

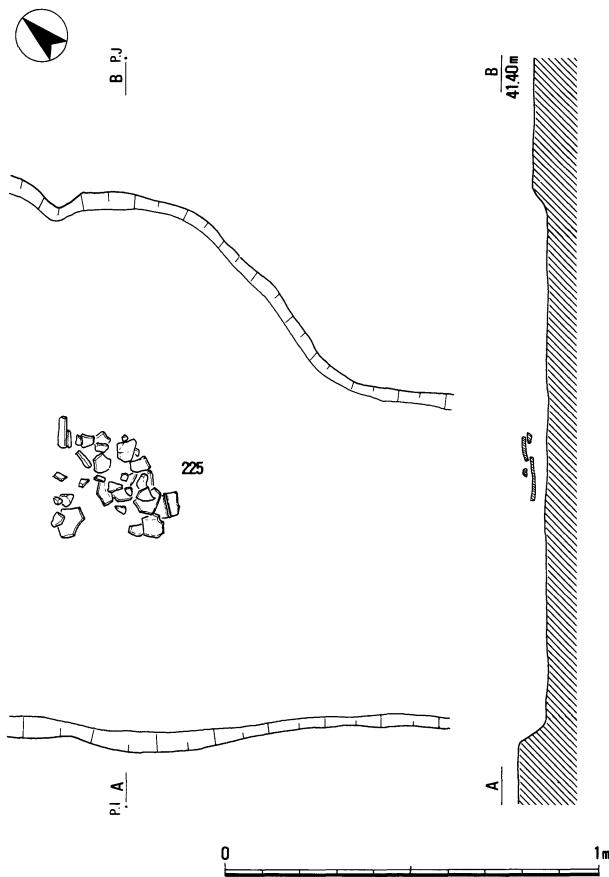
人物埴輪 (225) 口の下から上半身の破片であるが、総高 50.8cm に復元された。正面を向いた男子埴輪で、口の下に縦横の線刻で鯨面を施す。左肩は欠損する



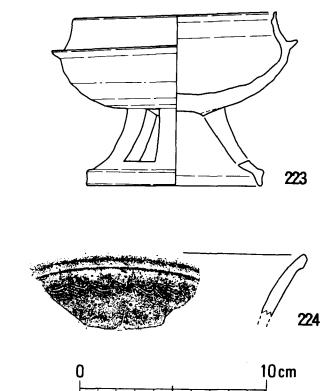
第49図 35号墳平面図 (1 : 100)・土層断面図 (1 : 40)



第50図 35号墳北溝遺物出土状況図 (1 : 20)



第51図 35号墳北溝埴輪出土状況図 (1 : 20)

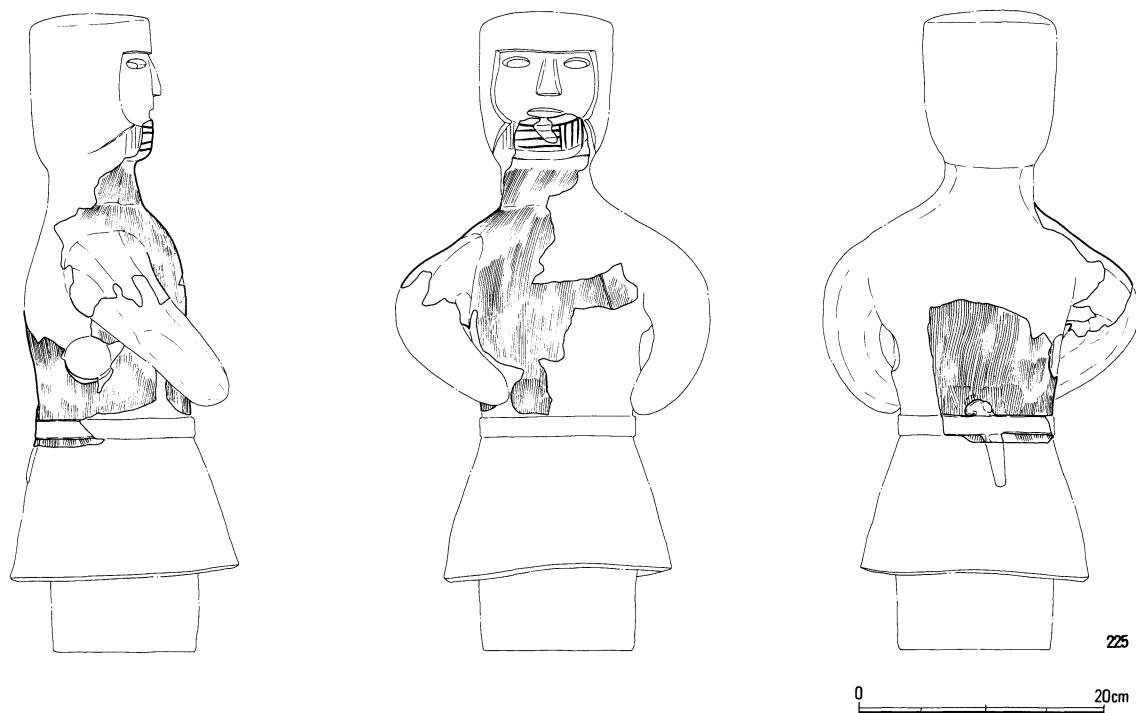


第52図 35号墳出土須器実測図 (1 : 4)

が、両腕は下げるものと思われる。腰帯の後には、鎌もしくは小刀をさす。外面には細かい縦方向のハケメを施し、横腹部分には円形の透孔があけられる。馬飼を表現したものであろうか。

D 遺物の時期

他の古墳出土の有蓋高杯から判断して、T K47型式に相当するものと思われる。

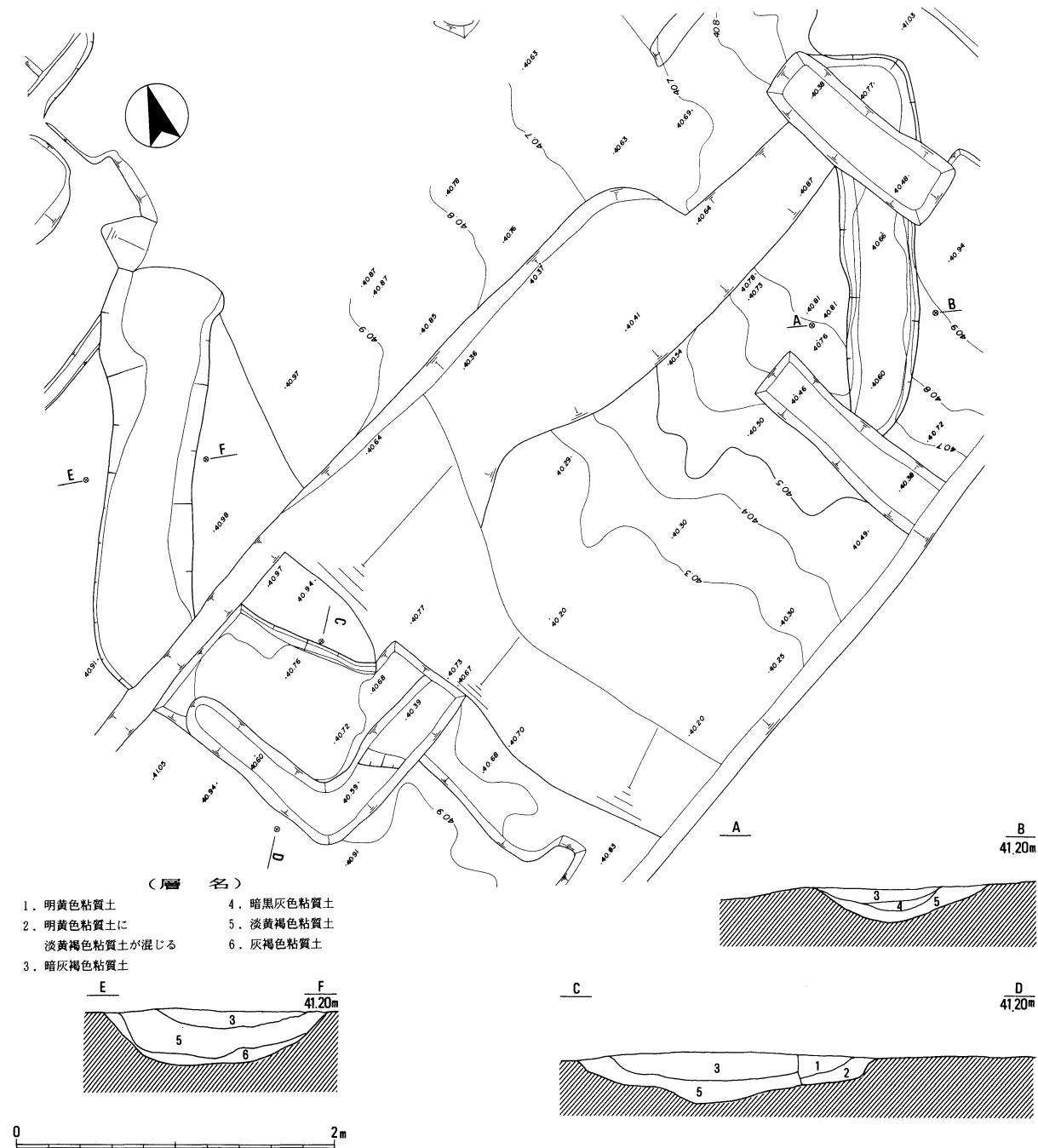


第53図 35号墳出土形象埴輪実測図 (1 : 6)

(11) 36号墳

A 遺構 (第54図・図版6)

30号墳の東側で検出した。この古墳のほぼ中央には南北方向に昭和時代の攪乱があり、検出できたのは、東溝の一部と南西隅の部分だけである。東西方向は10.3m、南北方向の規模は不明である。周溝幅は1.1~2.0mで、残存の深さは0.22~0.32 mである。遺物は、南溝から須恵器の甕片が出土したにとどまる。



第54図 36号墳平面図 (1 : 100) ・土層断面図 (1 : 40)

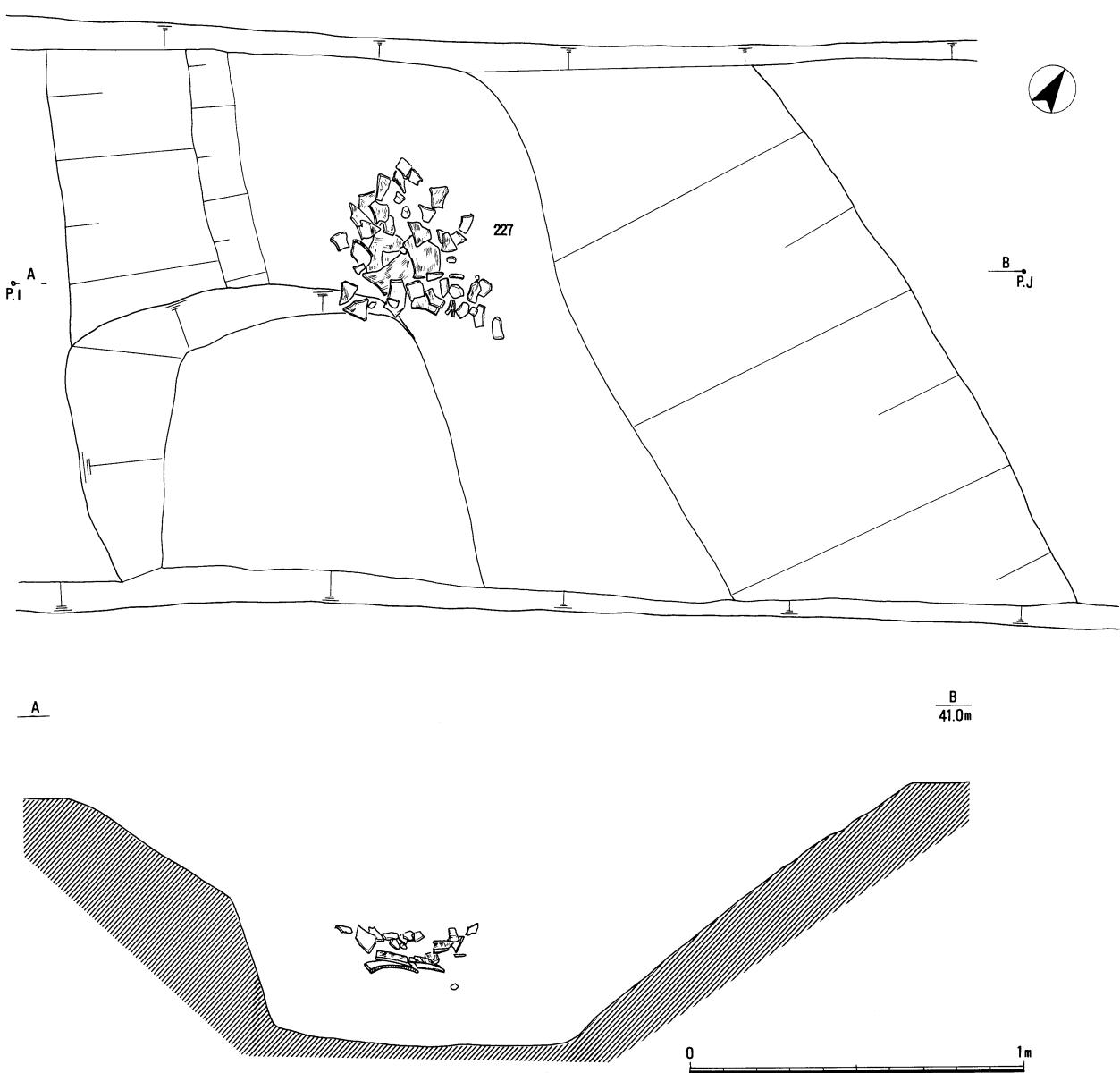
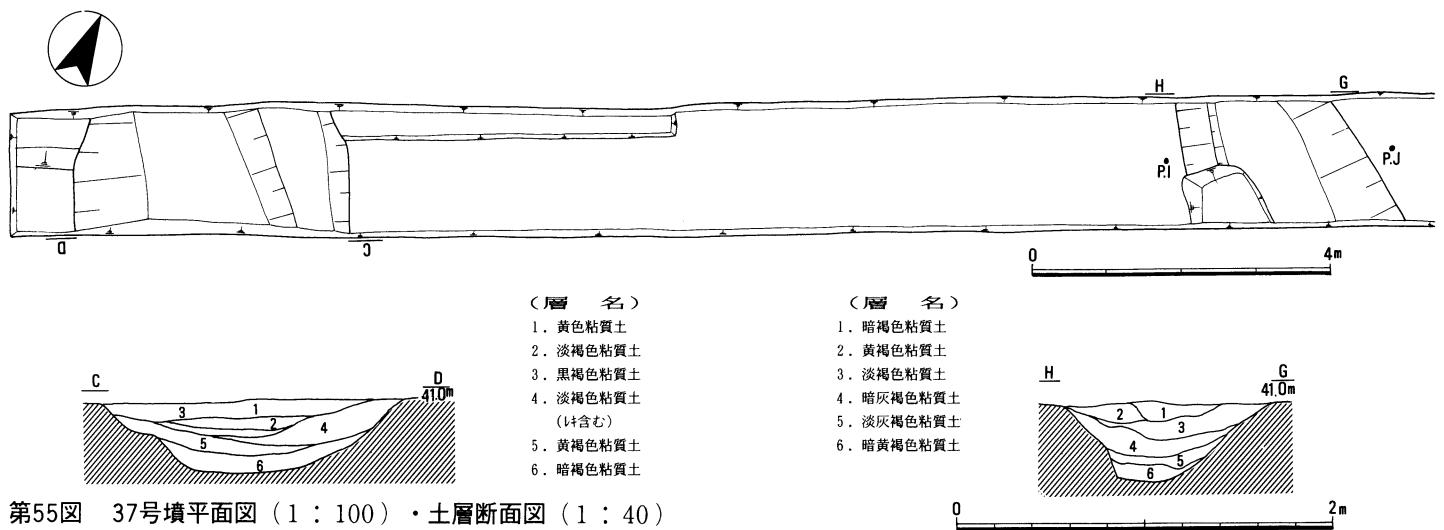
(12) 37号墳

A 遺構 (第55図)

調査区が排水路部分で、幅が狭いため全貌は判然としないが、方墳の北溝・南溝を確認したものと思われる。規模は、南北方向で11.2m、東西方向は不明である。周溝幅は2.5~3.7mで、残存の深さは0.6~0.8mである。

B 遺物出土状況 (第56図)

遺物は、北溝から須恵器の甕 (227) がその場で割



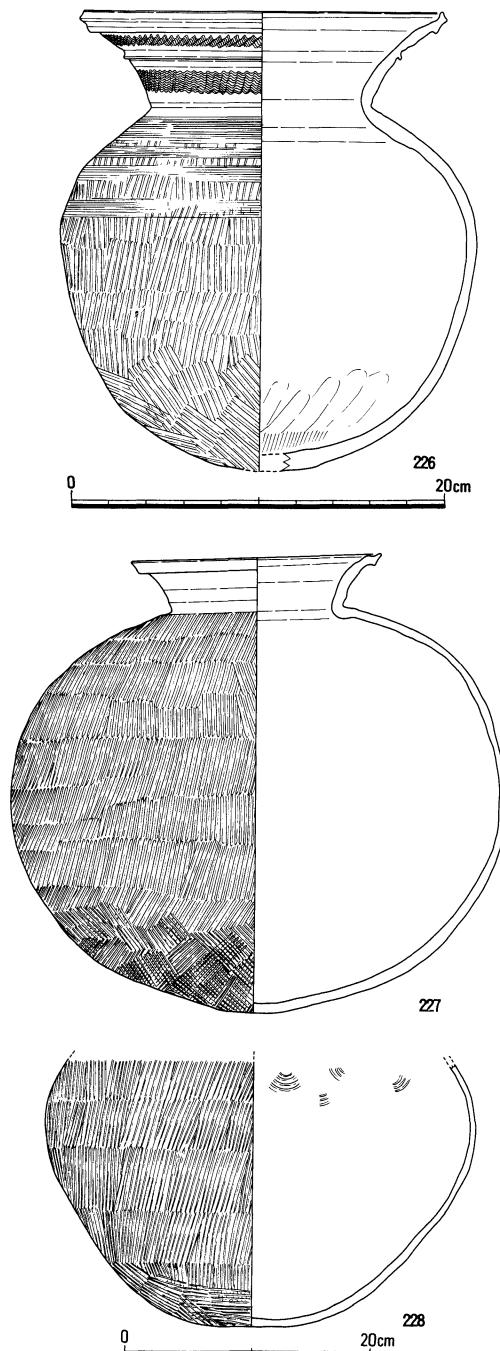
第56図 37号墳北溝遺物出土状況図 (1 : 20)

られた状況で出土した（第56図）。なお、南溝からも須恵器の甕（226・228）が出土している。

C 出土遺物（第57図・図版26）

須恵器（226～228）

甕（226～228） 226は、口縁の中央に鋭い突帯を巡らし、その上下に波状文を施す。227は、胴部が球形で、口縁端部の先端は細く仕上げる。



第57図 37号墳出土須恵器実測図
(226は1:4、その他は1:6)

D 遺物の時期

これらの甕は、TK47型式に相当するものと思われる。

(13) 38号墳

A 遺構（第58図・図版5）

37号墳と同じ排水路部分の調査区で確認したもので、全貌は判然としないが、方墳の東溝・南溝を検出したものと思われる。規模については、不明である。周溝幅は1.2～1.5mで、残存の深さは0.2～0.25mである。

B 遺物出土状況（第59図・図版6）

南溝の周溝底から須恵器の杯蓋4個体（229～232）・杯身4個体（232～236）・無蓋高杯1個体（237）・甕1個体（238）、土師器の高杯1個体（239）が、甕を中心にして、かたまって据え置かれた状態で出土した（第59図）。杯身・杯蓋の内1個体（229・233）は、密閉状態での出土である。なお、須恵器・土師器の高杯の2個体ともに、脚部が折れて杯部を伏せた状態である。出土状況から考えて、周溝内の祭祀の痕跡を示しているものと思われる。

C 出土遺物（第60図・図版26）

須恵器（229～239）

杯蓋（229～232） 口径約14.5cm前後で、稜は甘く口縁端部内面に浅い凹面を持つ。

杯身（233～236） 全体的に器高は低く、立ち上がりは内傾する。底部外面にヘラ状工具で、5～6本の線刻が施され興味深い。なお、229の杯蓋と233の杯身が密閉状態で出土した。

無蓋高杯（237） 杯部は浅く内弯し、口縁部は緩やかに外反する。脚部には、四方向の長方形スカシが施され、端部は下方に屈曲させる。

甕（238） 肩が張る胴部の下半には、刺突文が施される。口頸の基部が広く、口縁部最大径は胴部より大きい。

土師器（239）

高杯（239） 須恵器を模倣した様な杯部である。

D 遺物の時期

無蓋高杯と甕はやや古い様相を呈するが、杯身・杯蓋は、MT15型式に相当するものと思われる。

(14) 39号墳

A 遺構 (第61図・図版6)

35号墳の南側で検出したが、南東隅および東溝は昭和の攪乱溝によって削平を受け確認することができなかった。規模は、東西方向6.2m、南北方向6.6mである。周溝の北西隅は途切れる。周溝幅は0.75mで、残存の深さは0.2mである。

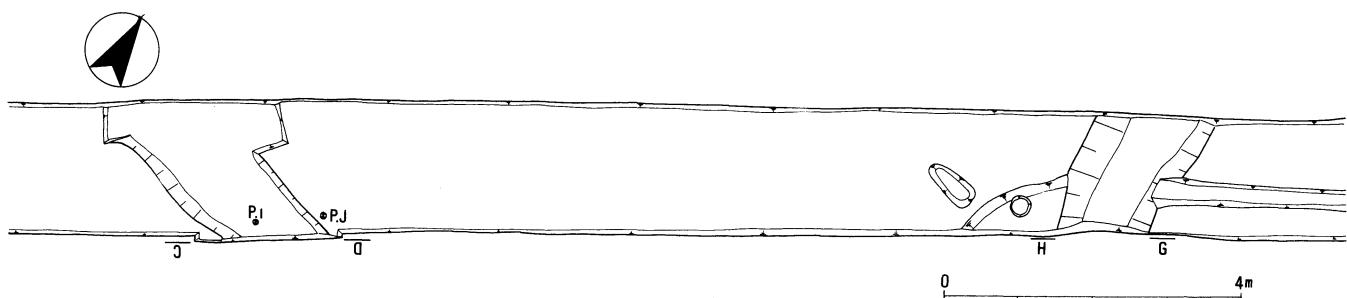
B 遺物出土状況 (第62図・図版6)

西溝のほぼ中央から須恵器の有蓋高杯 (240～244)・甕と、土師器の椀 (245) が周溝の底に据え置かれた状態で出土している (第62図)。何らかの祭祀の可能性が考えられる。

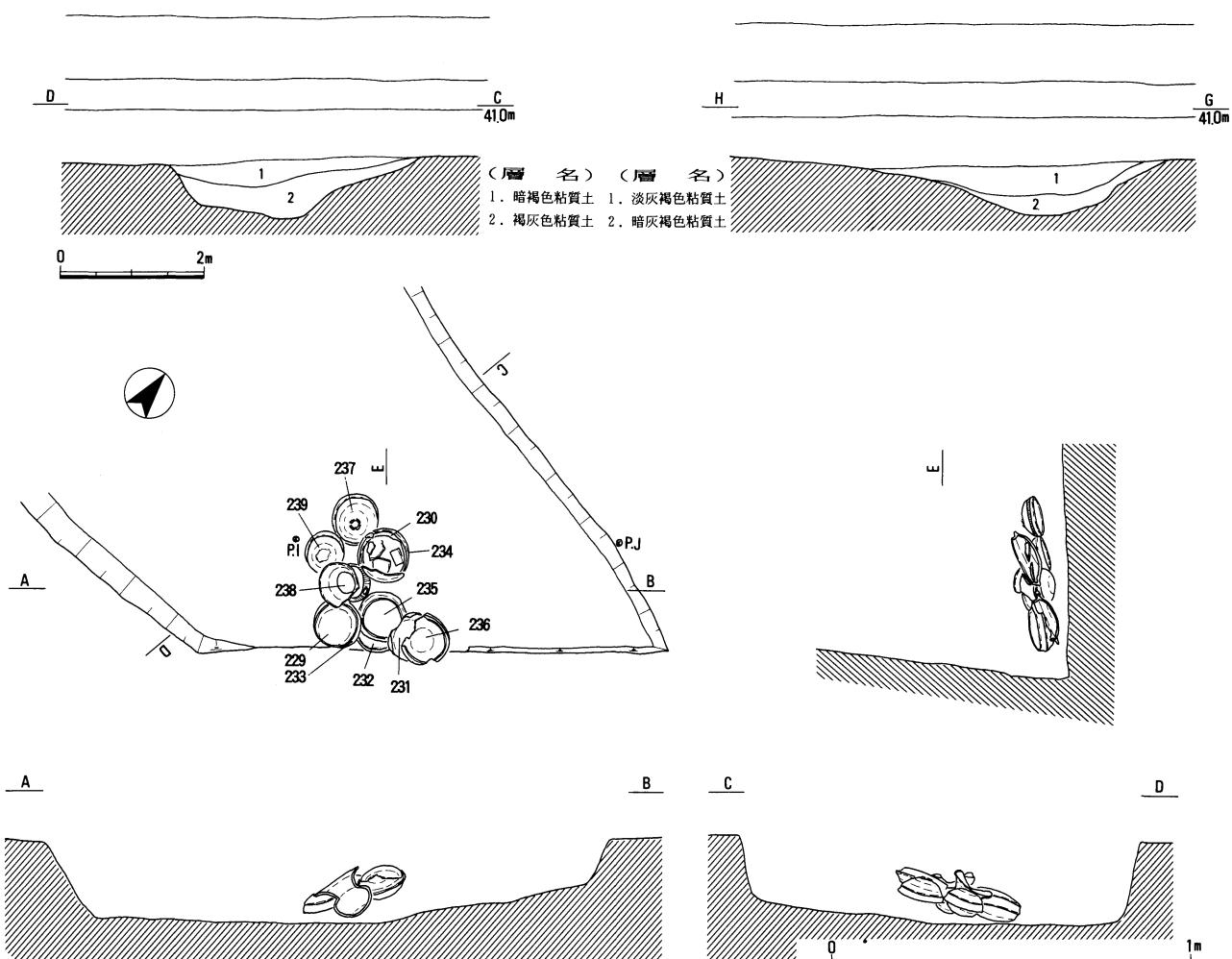
C 出土遺物 (第63図)

須恵器 (240～244)

有蓋高杯 (240～244) 杯部が浅く、脚部は「ハ」の字を開く。端部は下方内側に屈曲させ、先を尖ら



第58図 38号墳平面図 (1 : 100)・土層断面図 (1 : 40)



第59図 38号墳南溝遺物出土実測図 (1 : 20)

せるものがある。

土師器 (245)

椀 (245) 底部外面にヘラ削りを施し、口縁端部の内面には、段を持つ。

D 遺物の時期

有蓋高杯の蓋は稜の部分が明瞭でなく、杯部は浅く受け部が短いなど、MT15型式に相当するものと思われる。

(15) 40号墳

A 遺構 (第64図・図版7・13・14)

26号墳の南側で検出した。北側と東側は調査区外であるが、直径約20mの円墳と考えられる。周溝は内外側ともになだらかに掘り込まれ、幅は6.3~7.0mと他の古墳と比べると広い。周溝の残存の深さは北側については、削平を受け0.28mと深いが、他の部分は0.70mと深い。

B 遺物出土状況 (第65図・図版7)

出土遺物には、須恵器・円筒埴輪・形象埴輪がある。中でも、南溝底の墳丘に近い部分から、須恵器

の有蓋高杯7個体 (246~259)・無蓋高杯1個体 (260)・短頸壺2個体 (263・264) が、ほぼ完形の状態でまとめて出土した (第65図)。有蓋高杯7個体の内、1個体 (246・253) は蓋が密閉された状態での出土である。また、その南側には須恵器の甕が細かく割られた様な状態で散らばっている。また、北溝からは形象埴輪の家形埴輪 (270) が出土した。

C 出土遺物 (第66~68図・図版27・28)

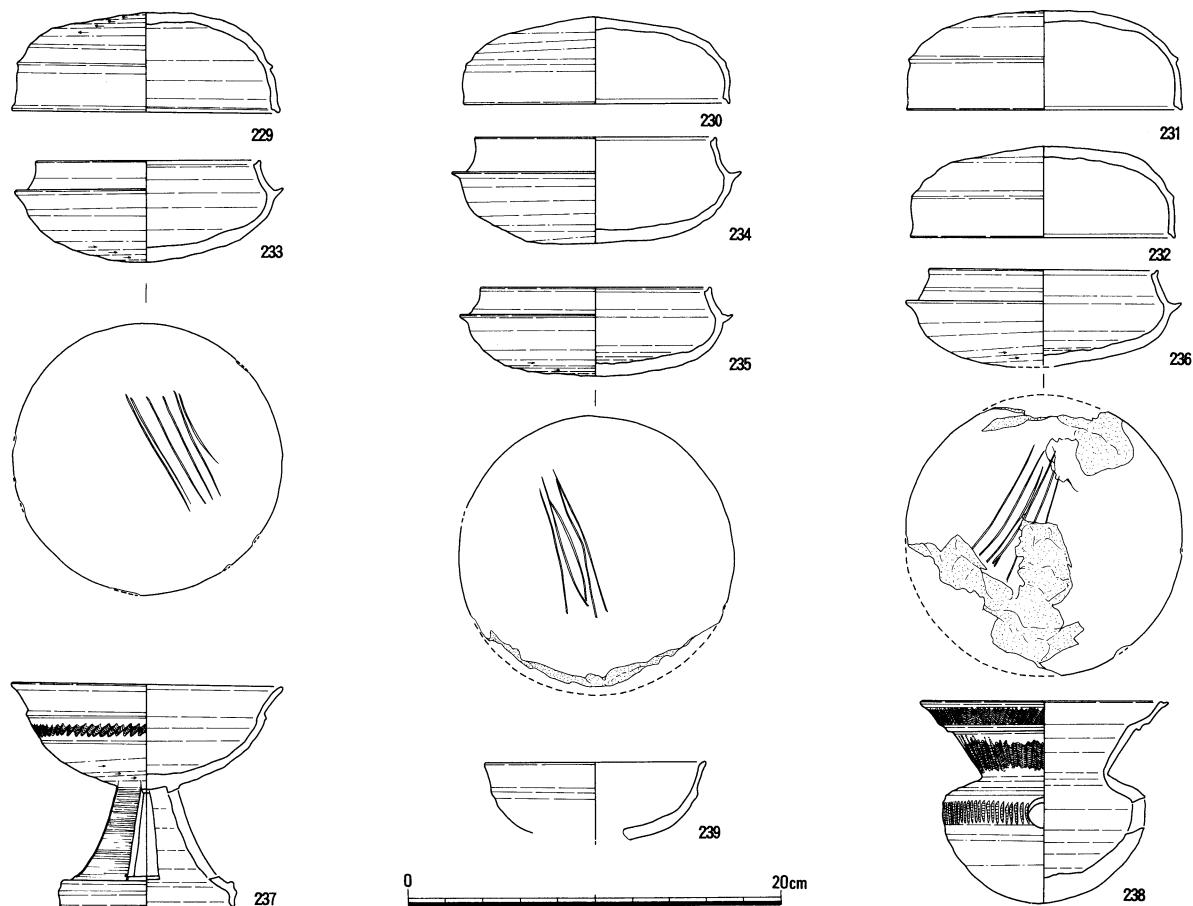
須恵器 (246~265)

有蓋高杯蓋 (246~252) 全体的に器高の高い蓋が多く、稜はやや鋭い。また、口縁部はやや内弯気味のものも見られる。中央を窪ませる偏平なつまみが付く。

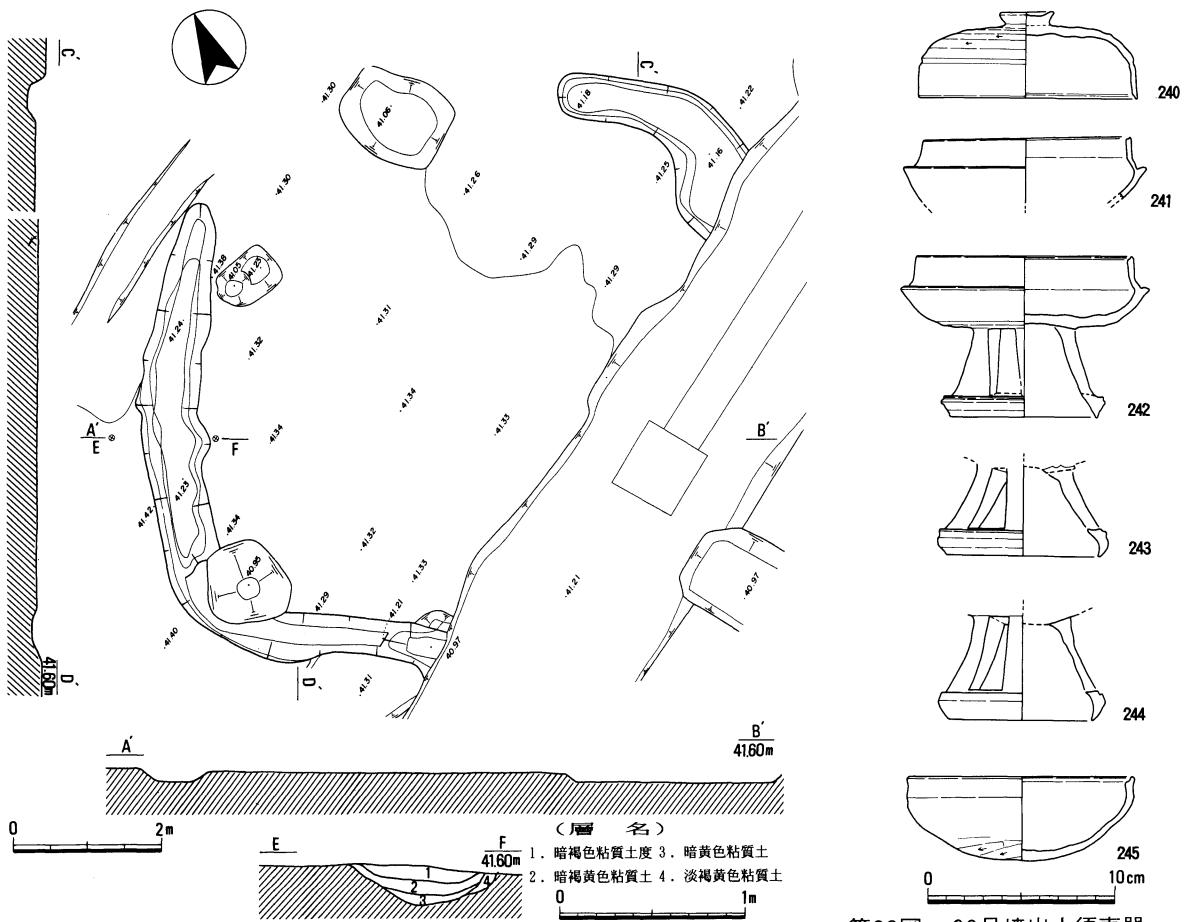
有蓋高杯 (253~259) 脚部は「八」の字に広がり、端部は肥厚させるものが多い。立ち上がりは内傾し、端部の内面に凹面を持つ。

無蓋高杯 (260) 杯部は、浅く広い。脚部に大きめの円形の透孔を三方に穿つ。

壺 (262) 口縁端部は、内側へ折り曲げ、体部下半にはタタキの痕跡が残る。

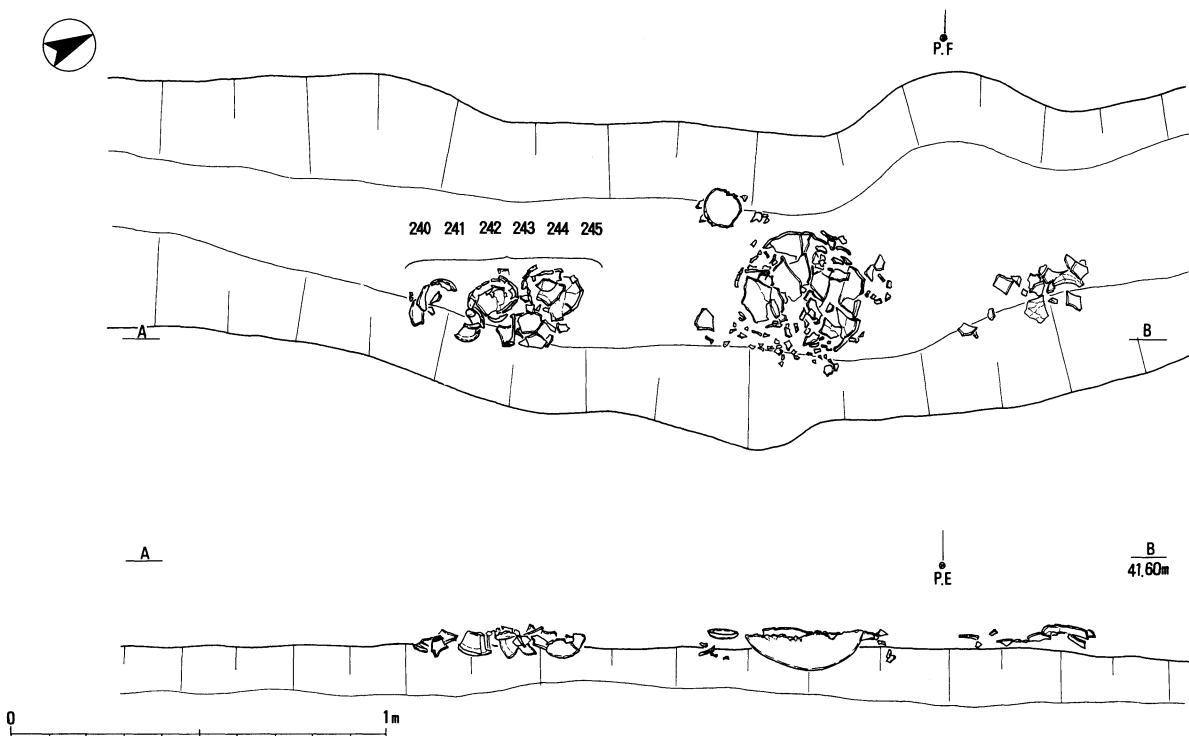


第60図 38号墳出土須恵器・土師器実測図 (1 : 4)

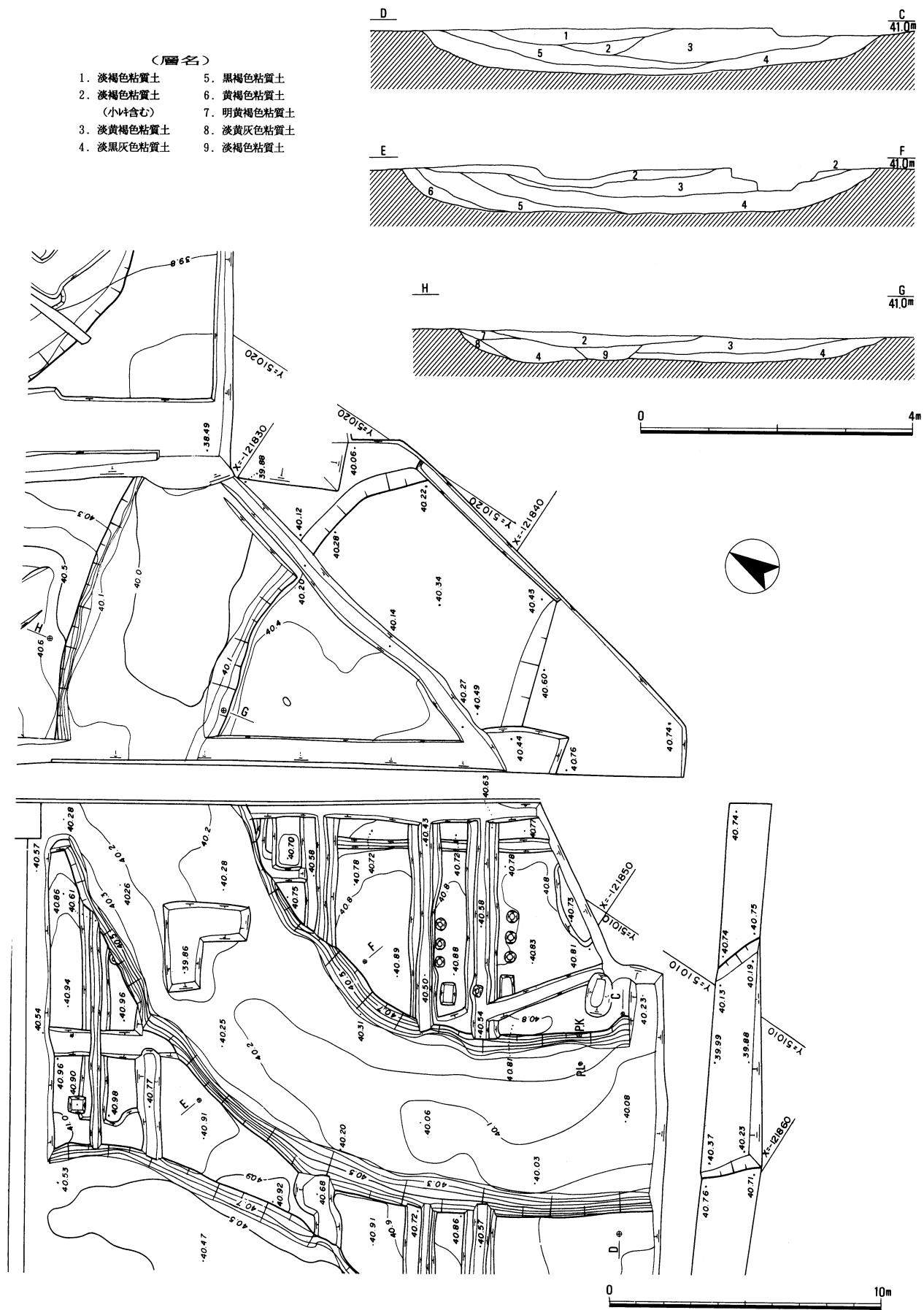


第61図 39号墳平面図 (1 : 100)・土層断面図 (1 : 40)

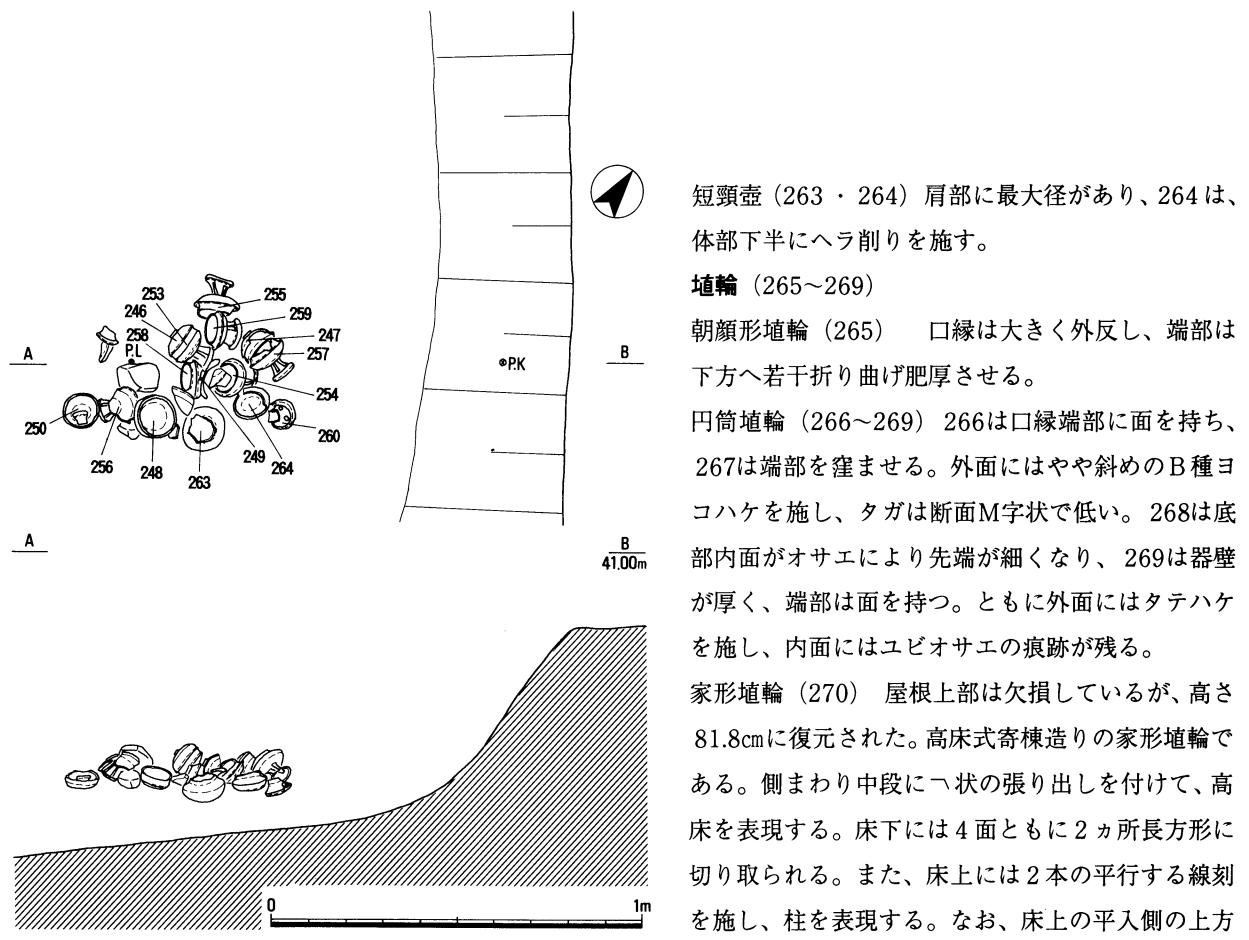
第63図 39号墳出土須恵器・
土師器実測図 (1 : 4)



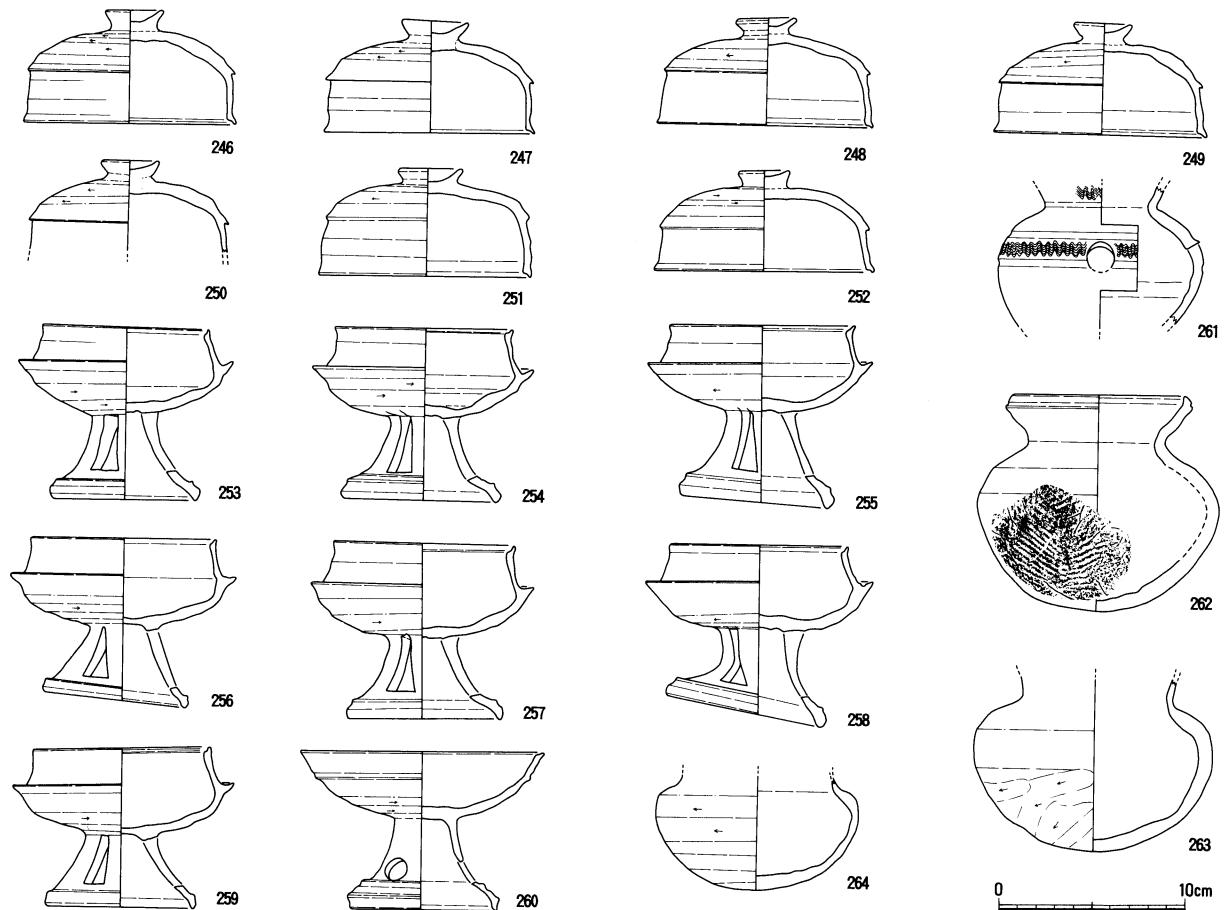
第62図 39号墳西溝遺物出土状況図 (1 : 20)



第64図 40号墳平面図 (1 : 200) · 土層断面図 (1 : 80)



第65図 40号墳南溝遺物出土状況図 (1 : 20)



第66図 40号墳出土須恵器実測図 (1 : 4)

D 遺物の時期

有蓋高杯蓋は天井部が丸く、稜はやや鋭いなどTK 47型式の杯蓋と類似することから、この時期に相当するものと思われる。

(16) 41号墳

A 遺構 (第69図・図版1・6・7・8)

調査区の南西隅で検出した。南溝と西溝の一部は調査区外となるために、全掘はできない。東西方向13.5m、南北方向12.6mのやや東西方向に長い方墳である。周溝の内側は直線的であるが、外側は曲線である。特に北溝は東・西隅が狭く、中央が広い弧を描く感がある。また、周溝の断面形はU字形で、深さは四隅が浅く、東溝の北部分がやや深い。周溝幅は1.8~2.65mで、残存の深さは0.3~0.45mである。

B 遺物出土状況 (第70図・図版7)

南溝の東寄りから須恵器の甕・器台が出土している。なお、甕については周溝底で、その場で割られた状態での出土である(第70図)。また、東溝からは須恵器の甕、北溝からは須恵器の杯身・有蓋高杯・瓶・壺がそれぞれ周溝底からは浮いた状態で出土している。

C 出土遺物 (第71図・図版28・29)

須恵器 (271~289)

杯蓋 (271) 天井部は欠損し、稜は短くあまい。

杯身 (272~275) 底部は丸く、立ち上がりは内傾し、端部は丸くおさめる。274の底部外面にはヘラ状工具による線刻が施される。

有蓋高杯 (276~280) 杯部分は深いものが多く見ら

れる。やや太い脚部には長方形スカシが三方に開けられ、直線的に「ハ」の字に開き、端部は下方に屈曲させる。279は、細い脚部に円形スカシが三方に開けられ「八」の字に広がり、端部を下方に屈曲させる。

瓶 (282) 頸部が太く、やや肩の張る胴部の上半に円形透かしが開けられる。

甕 (284~287) 口頸部はゆるやかに外半し、端部は下方へ屈曲させ、丸みを帯びるものが多い。

器台 (288・289) 同一個体になるものと思われる。台部は浅く、口縁端部は外方へ緩やかに屈曲させる。中央に、2条の波状文を施す。脚部は、ゆるやかに外半し、端部付近で内湾させる。透窓は4段あり、最上段は長方形その他は三角形で、千鳥状に配置される。

D 遺物の時期

杯身・杯蓋はMT 15型式に相当しうが、周溝底から出土した器台・甕から判断すると他の遺物については、概ねTK 47型式くらいと考えられる。

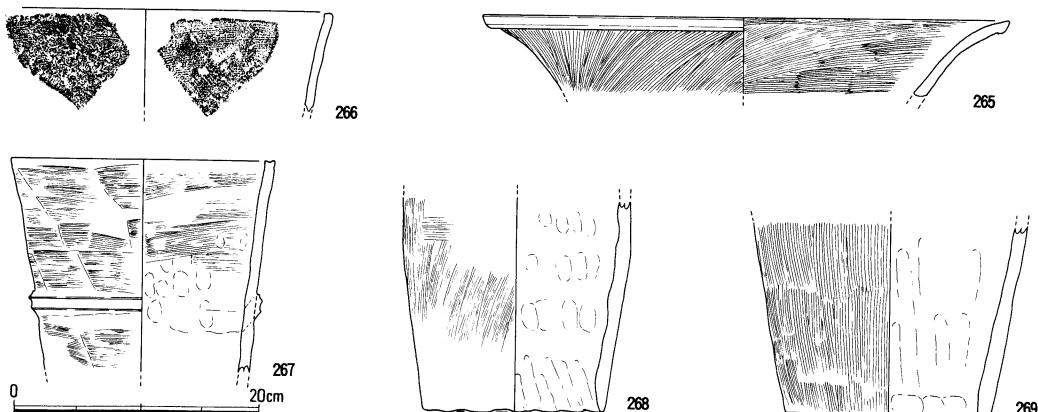
(17) 42号墳

A 遺構 (第72図・図版1・6・7)

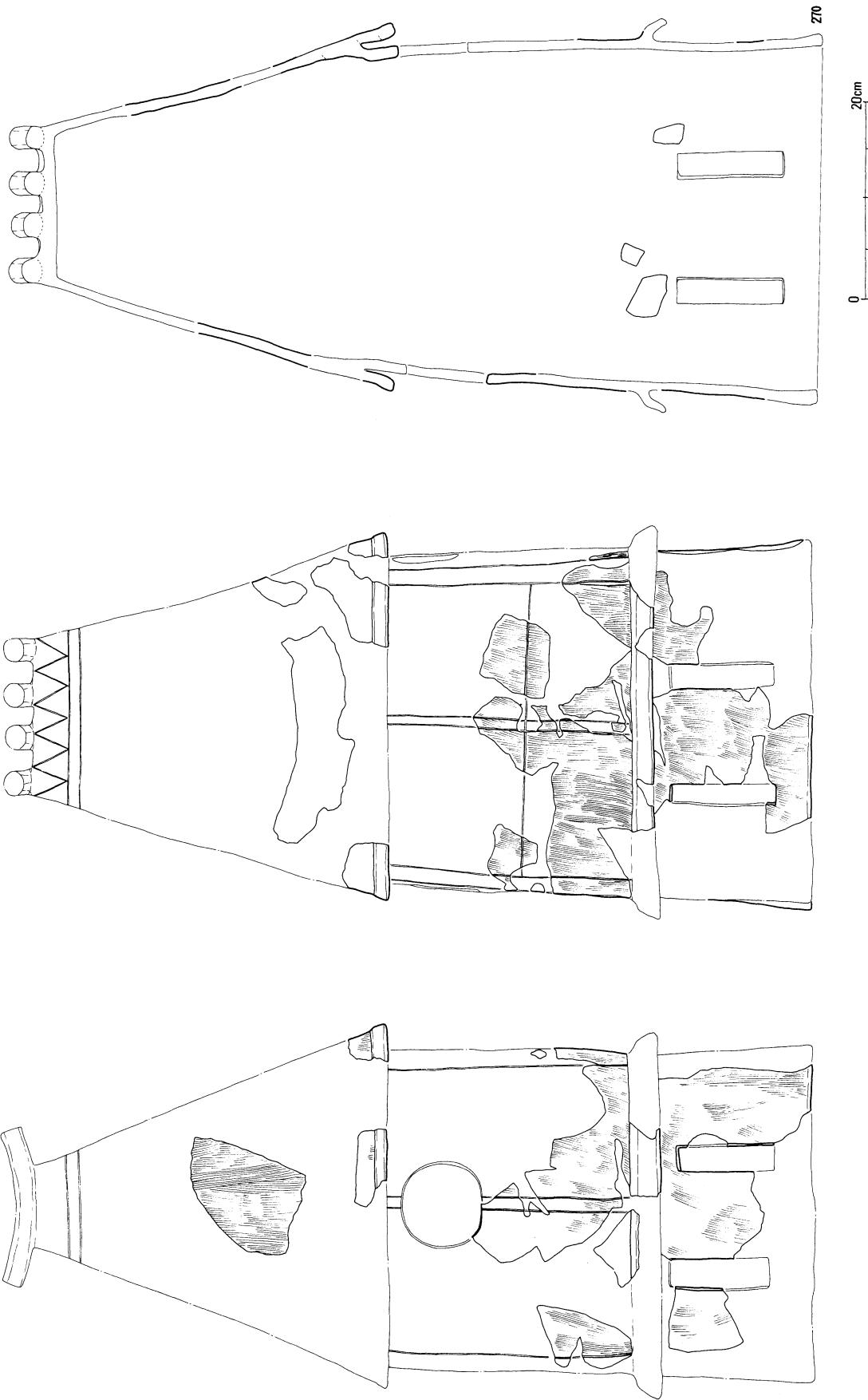
41号墳の東側で検出した。北溝が昭和時代の攪乱により確認ができず、南北方向の規模は不明であるが、東西方向の規模は9.3mの方墳である。南東隅の周溝の幅は狭いが、全体的には幅は、1.15~2.0mで、残存の深さは0.18~0.2mである。

B 遺物出土状況 (第73図・図版7)

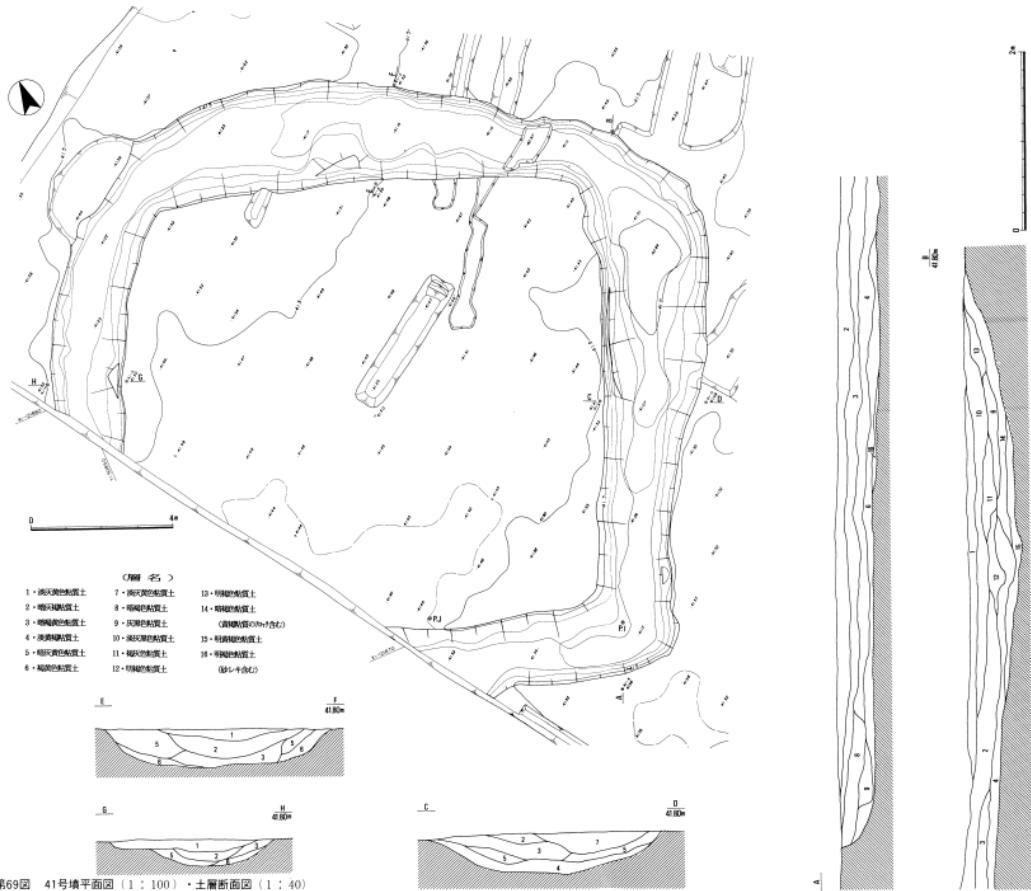
東溝のやや南寄りの墳丘側で、須恵器の杯身2個体(290・291・杯蓋1個体(290)が周溝の底で並ん



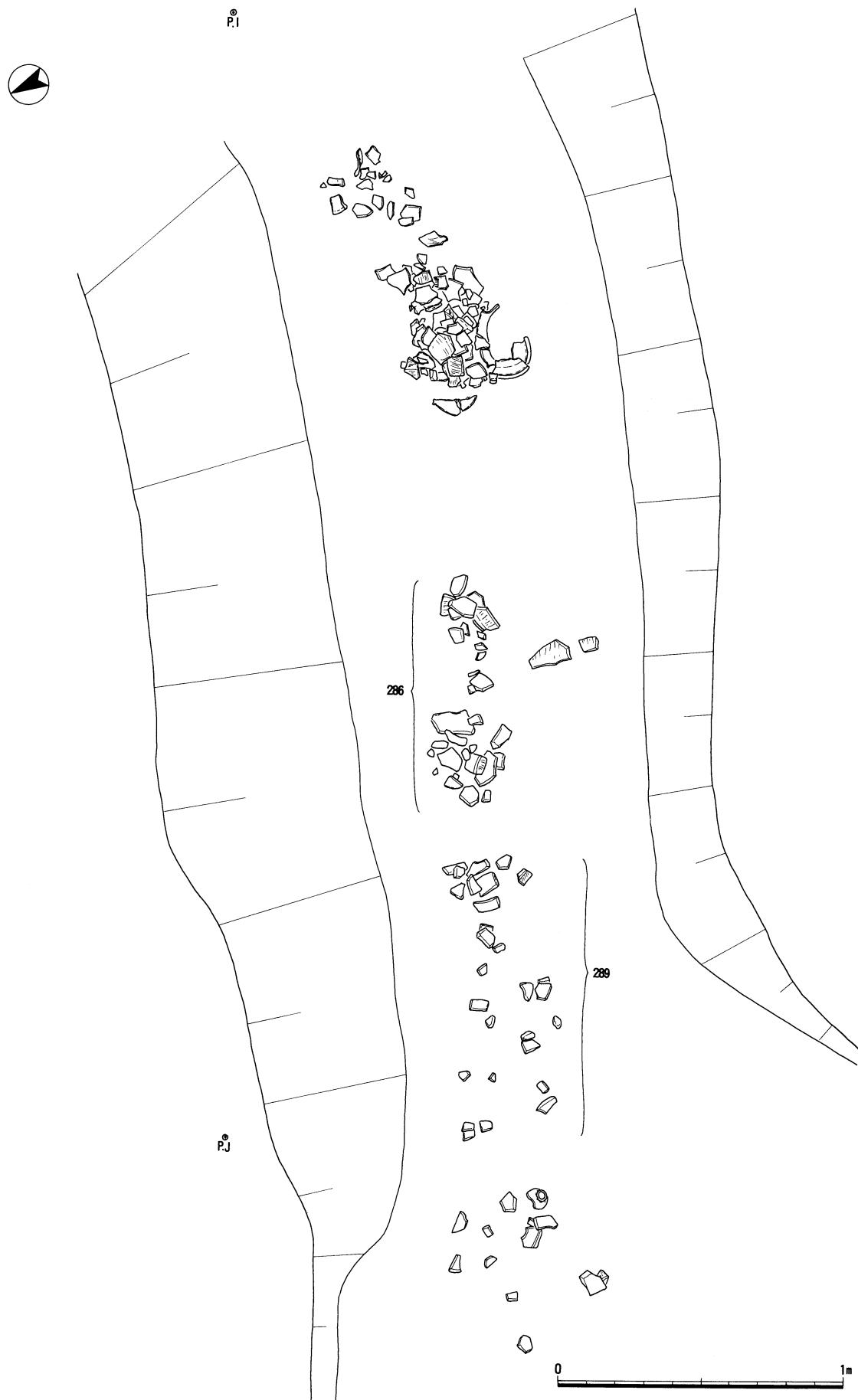
第67図 40号墳出土朝顔形・円筒埴輪実測図 (1 : 6)



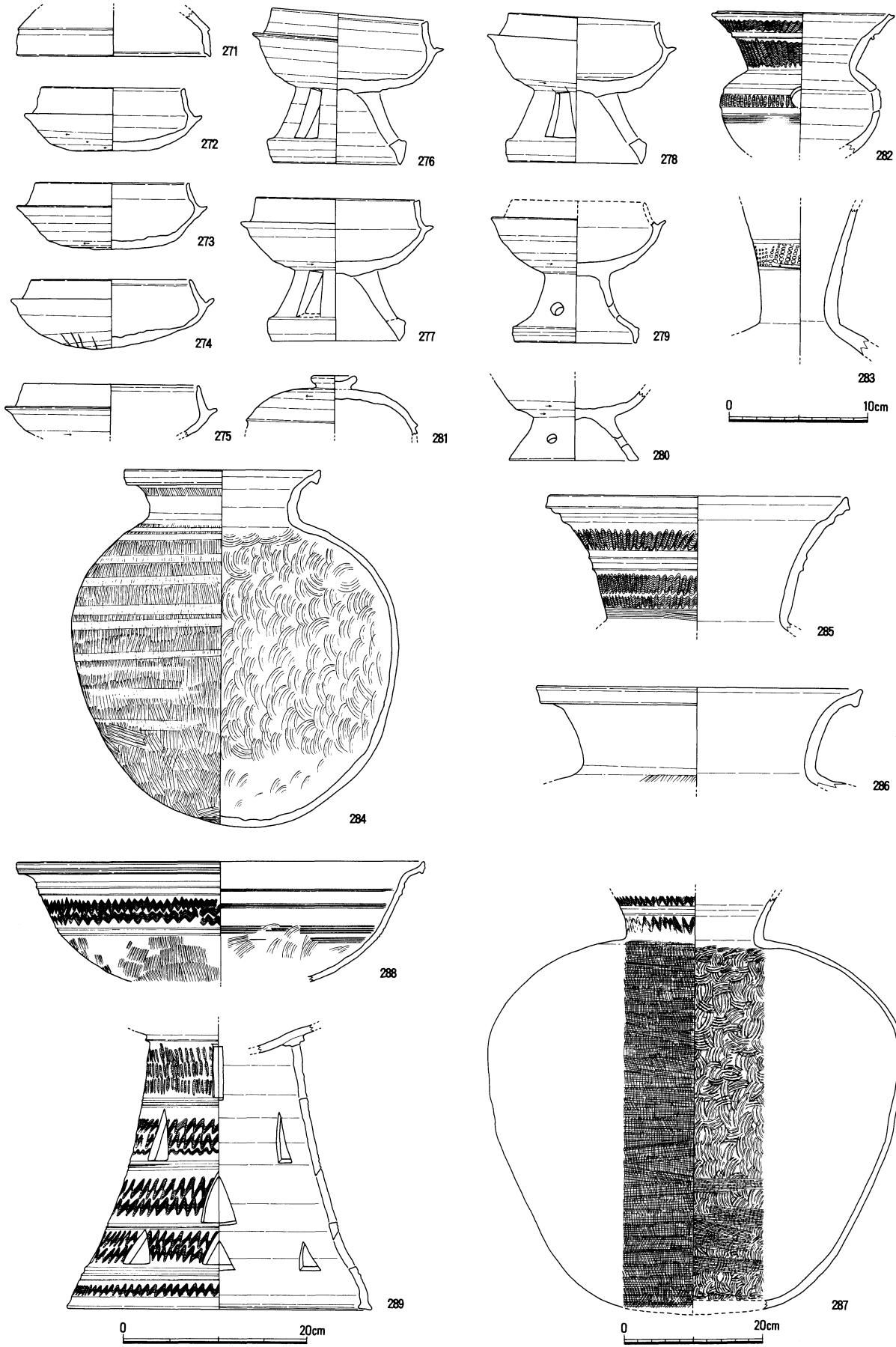
第68図 40号墳出土形象埴輪実測図 (1 : 6)



第69図 41号墳平面図(1:100)・土層断面図(1:40)



第70図 41号墳南溝遺物出土状況図 (1 : 20)



第71図 41号墳出土須恵器実測図 (287は1:8、284・288・289は1:6、その他は1:4)

で出土した。杯身は正立状態、杯蓋は倒立状態での出土である（第73図）。

C 出土遺物（第74図・図版29）

須恵器（290～292）

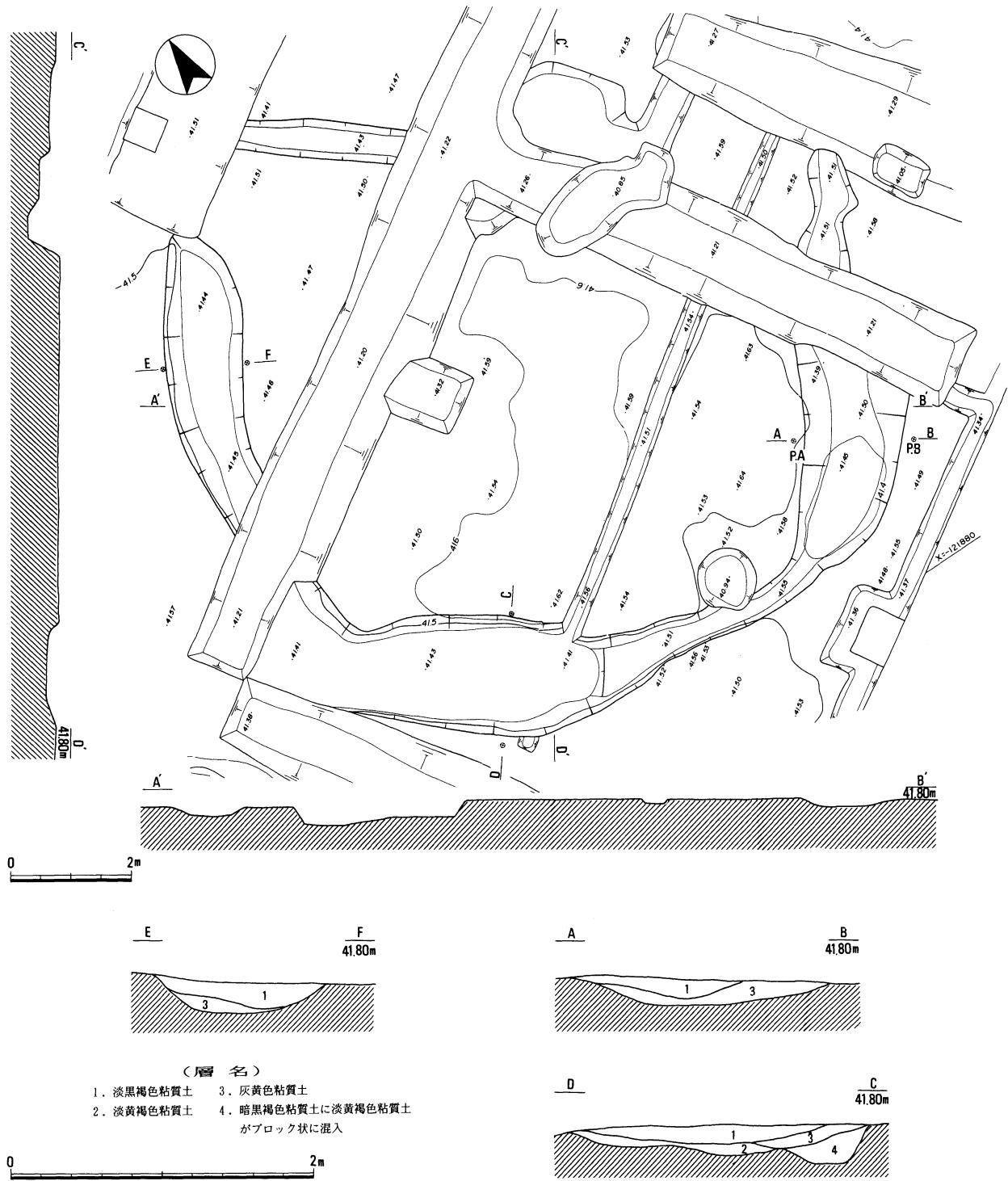
杯蓋（290）天井部は平らで、稜はやや甘い。口縁

は垂直に下がる。

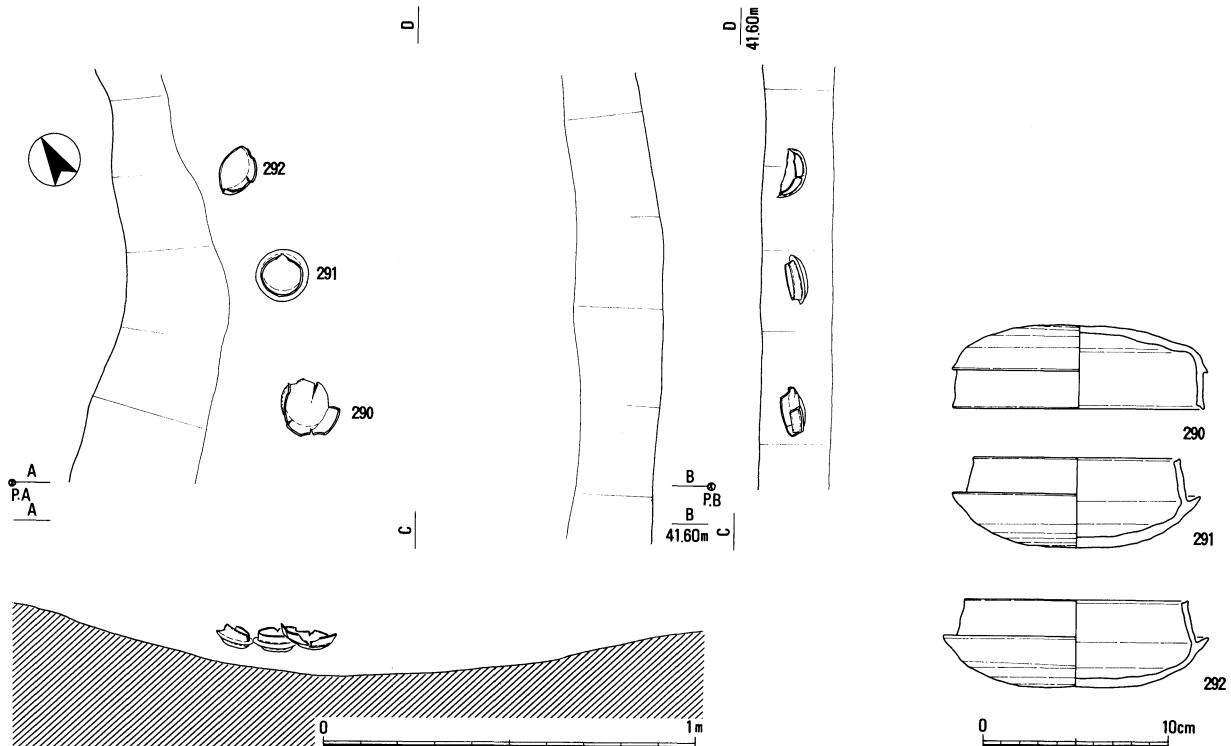
杯身（291・292）やや器高の低い杯部で、立ち上がりは長く内傾する。

D 遺物の時期

T K23型式に相当するものと思われる。



第72図 42号墳平面図（1：100）・土層断面図（1：40）



第73図 42号墳東溝遺物出土状況図 (1 : 20)

第74図 42号墳出土須恵器実測図 (1 : 4)

(18) 43号墳

A 遺構 (第75図・図版1・6・7・8)

42号墳の北東側で検出した。西溝の北隅は、昭和時代の攪乱によって周溝がいびつになる。41号墳・42号墳と比べると周溝の外側もやや直線的で、幅が一定の感があるが、東溝の外側は弧を描く。東西10.0m、南北11.8mの規模を測る。周溝幅は1.9~2.65m、残存の深さは0.2~0.3mである。

B 遺物出土状況

北溝からは有蓋高杯(298~309)・醜(310)・短頸壺(312)・壺(315)が、東溝からは杯蓋(296)・短頸壺(313)・壺(314)が出土しているが、まとまった出土状況は見られない。

C 出土遺物 (第76図・図版29)

須恵器 (293~319)

杯蓋 (293~296) 器高は低く、稜が短く丸いものが多い。

有蓋高杯蓋 (298~301) 稜はあまく、偏平なつまみが付く。

有蓋高杯 (302~309) 脚部のスカシには、長方形と円形の2種類がある。また長方形のスカシを有するものの脚部は「八」の字にゆるやかに広がるもの

(302・303)と、直線的に開くもの (304・305) がある。ともに端部は下方へ屈曲させる。

醜 (310) やや肩の張る球形の体部に、粗い波状文を施す。

短頸壺 (311~313) 口縁端部内面を凹ませ、313は口縁部から体部にかけて細かいカキメを施す。

壺 (314・315) 315は体部にカキメを施し、やや肩が張る。

甕 (318) 口縁は「く」の字に外反し、端部の上方へ折り曲げる。

器台 (319) 深い形状の器台である。

D 遺物の時期

周溝底近くからの出土遺物に欠けるため、明確に時期を決める資料に乏しいが、杯蓋の器高が低く、稜は短く鋭さに欠けることからMT15型式くらいと思われる。

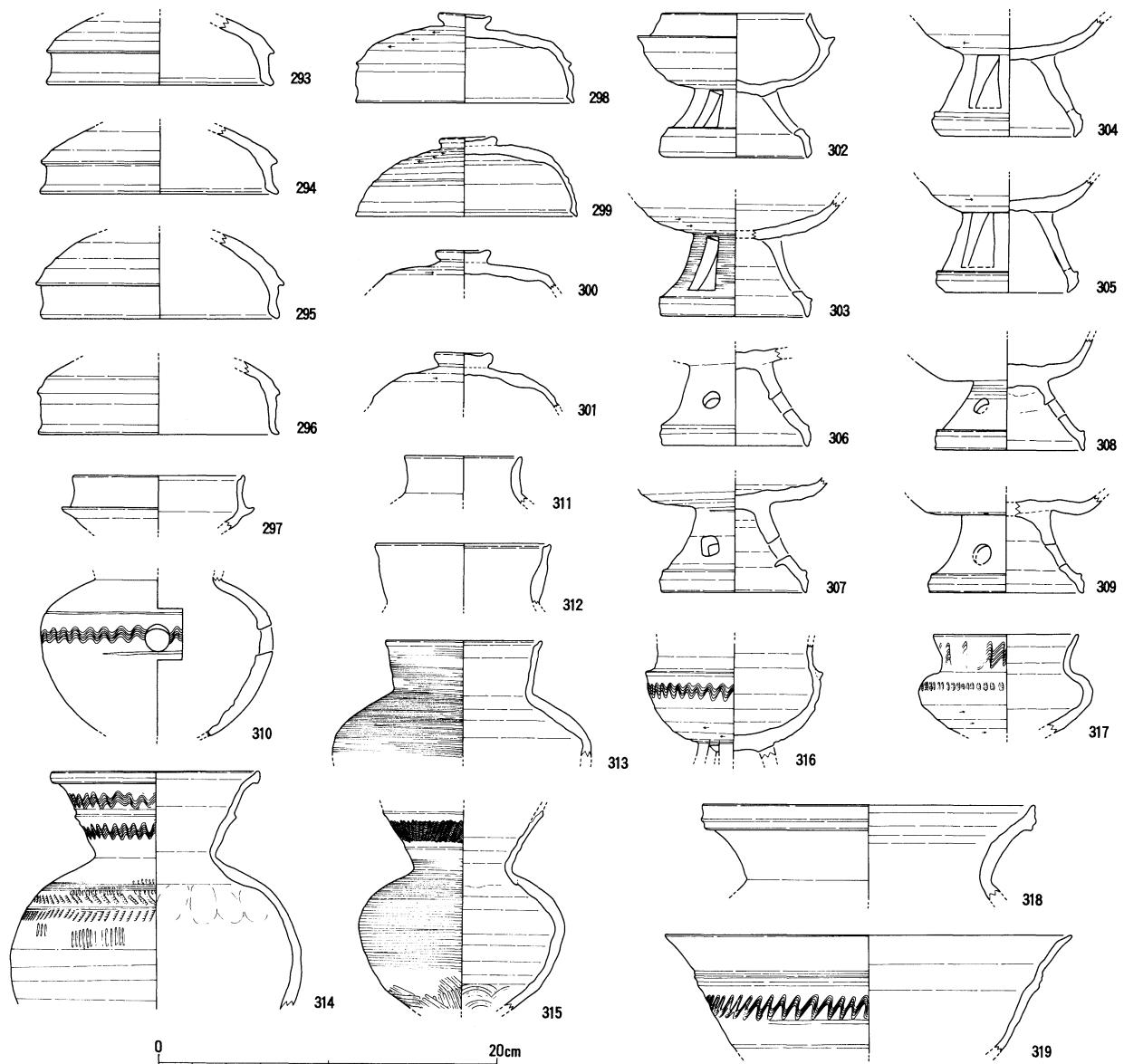
(19) 44号墳

A 遺構 (第77図・図版1・6・8)

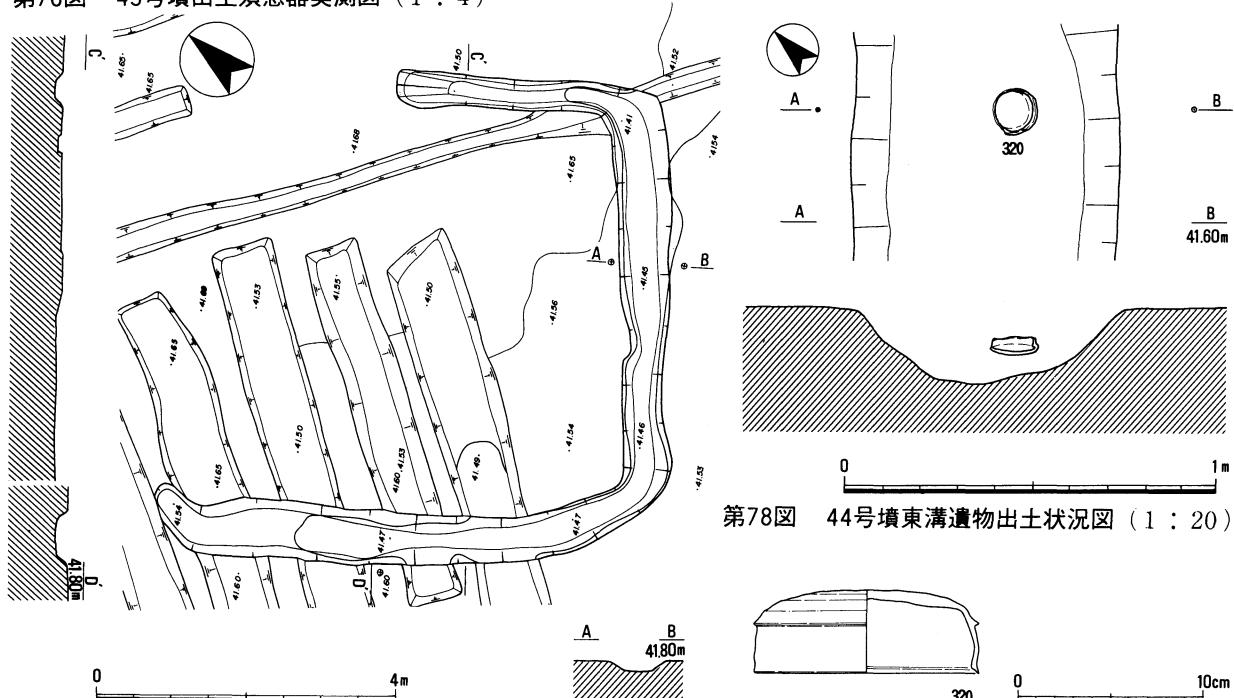
41号墳の北東側で検出した。西溝および北溝の西半分は検出できなかった。規模は、東西方向6.0m、南北方向5.6mの方墳である。周溝の幅も0.6mと



第75图 43号坑平面图 (1:100) · 土层断面图 (1:40)

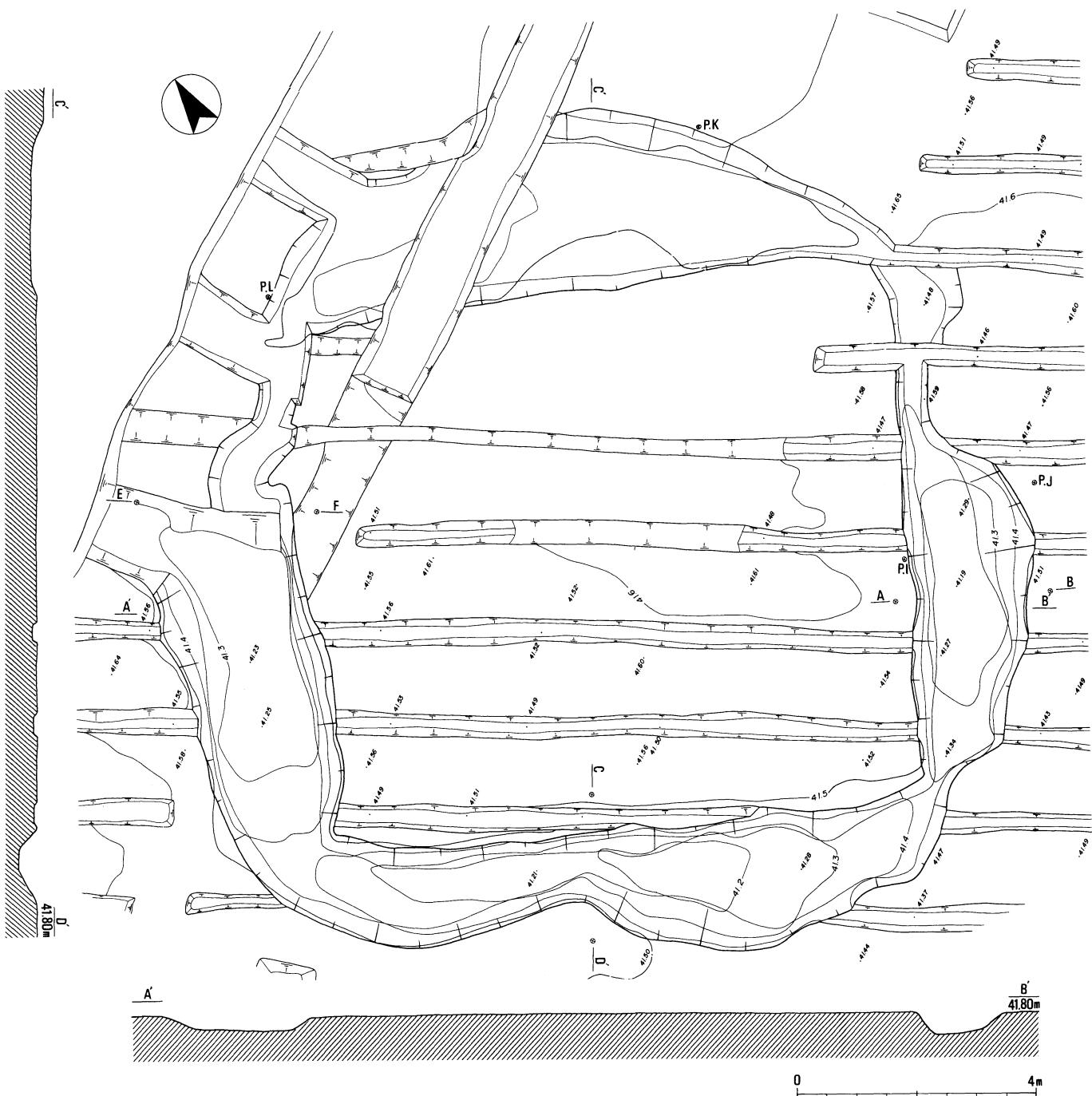


第76図 43号墳出土須恵器実測図 (1 : 4)



第77図 44号墳平面図 (1 : 100)

第79図 44号墳出土須恵器実測図 (1 : 4)

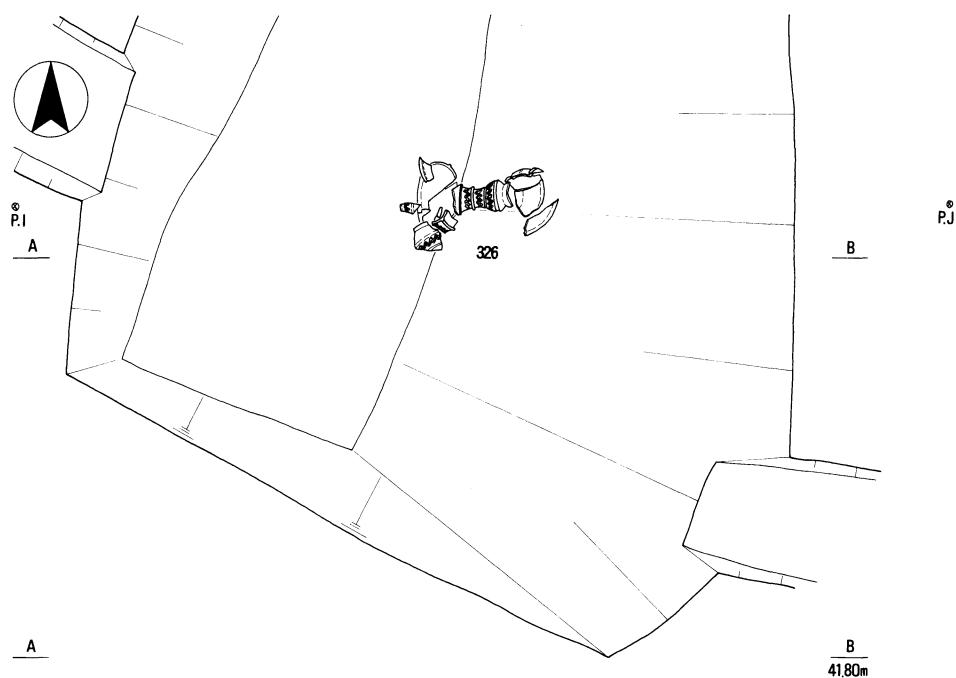


(層名)

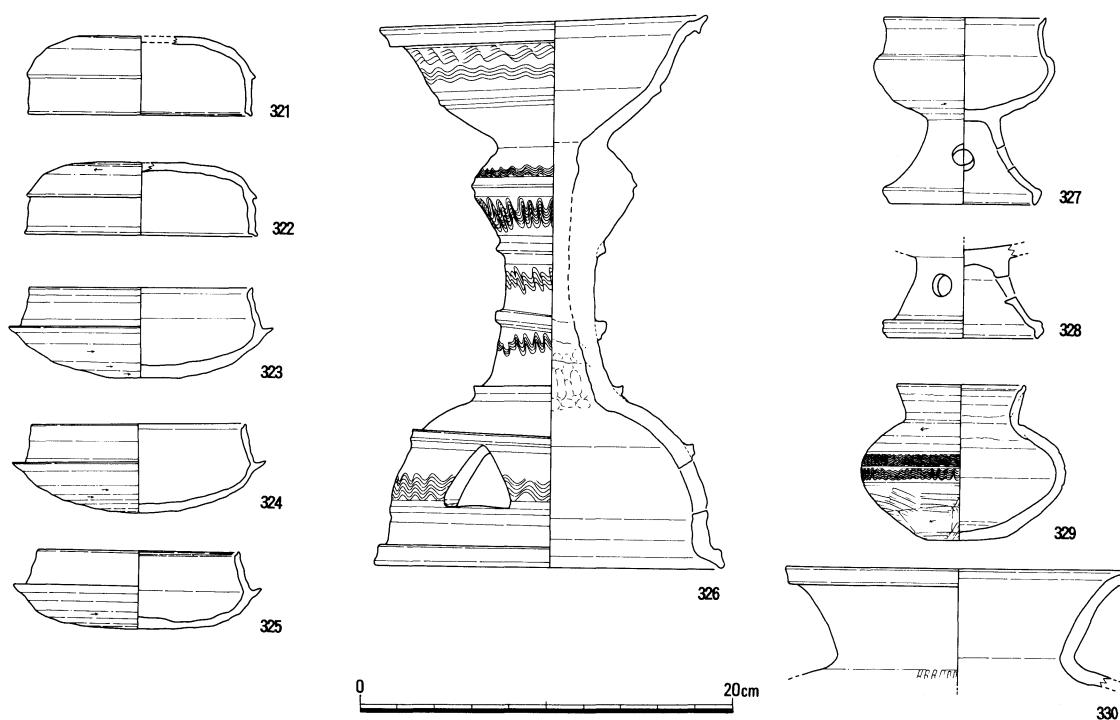
1. 淡黒褐色粘質土	3. 暗黄褐色粘質土
2. 淡褐黄色粘質土	4. 暗褐黄色粘質土

0 2m

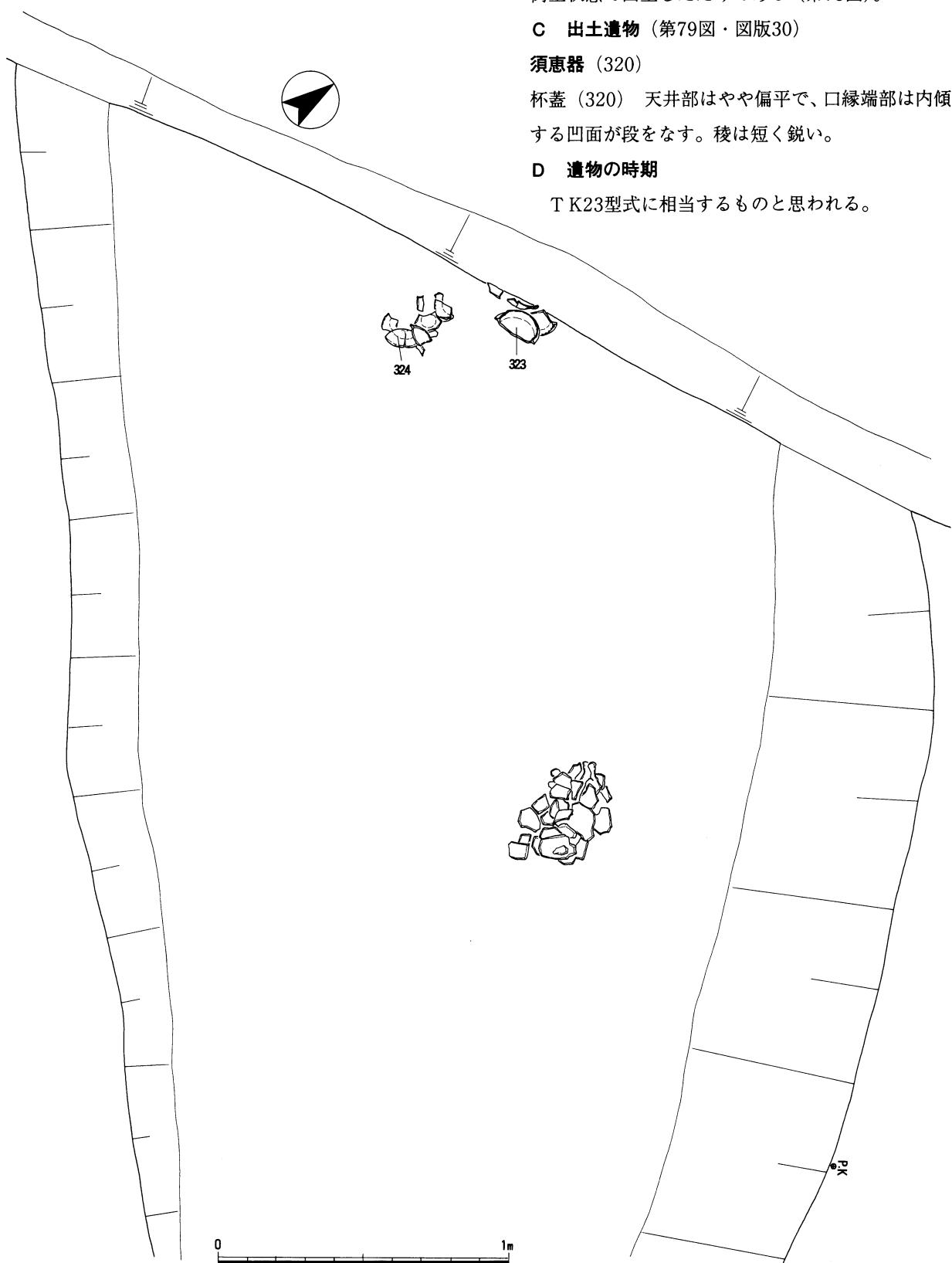
第80図 45号墳平面図(1:100)・土層断面図(1:40)



第81図 45号墳東溝遺物出土状況図 (1 : 20)



第82図 45号墳・47号墳出土須恵器実測図 (1 : 4) (321~326は45号墳・327~330は47号墳)



第83図 45号墳北溝遺物出土状況図 (1 : 20)

狭く、残存の深さも0.15~0.20cmと浅い。

B 遺物出土状況 (第78図・図版8)

東溝の北寄りから、須恵器の杯蓋(320)1個体が倒立状態で出土しただけである(第78図)。

C 出土遺物 (第79図・図版30)

須恵器 (320)

杯蓋(320) 天井部はやや偏平で、口縁端部は内傾する凹面が段をなす。稜は短く鋭い。

D 遺物の時期

TK23型式に相当するものと思われる。

(20) 45号墳

A 遺構 (第80図・図版1・6・8)

44号墳の北東側で検出した。東西方向10.2m、南北方向9.0mで、やや長方形を呈する方墳である。周溝の形態は41号墳・42号墳と同様、内側は直線的で外側は曲線的である。北溝は外側に弧を描くが、東溝・南溝は中央部分が狭く、周溝の深さもこの部分が浅くなる。また、周溝断面形は概ね内側が垂直に掘り下げられ、外側は傾斜が緩やかである。周溝幅は1.55~2.2mで、残存の深さは0.15~0.30mで

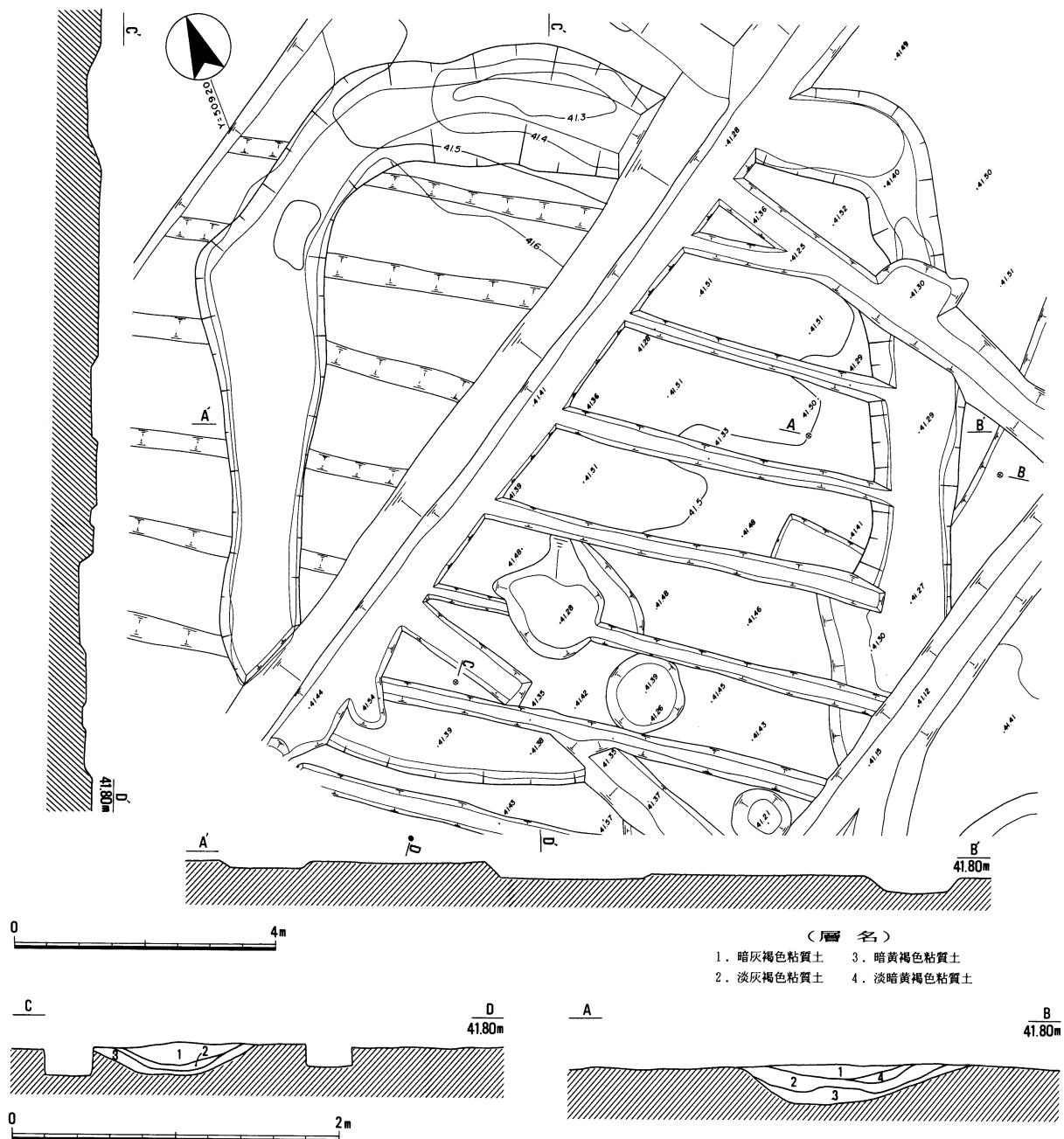
ある。

B 遺物出土状況 (第81・83図・図版8)

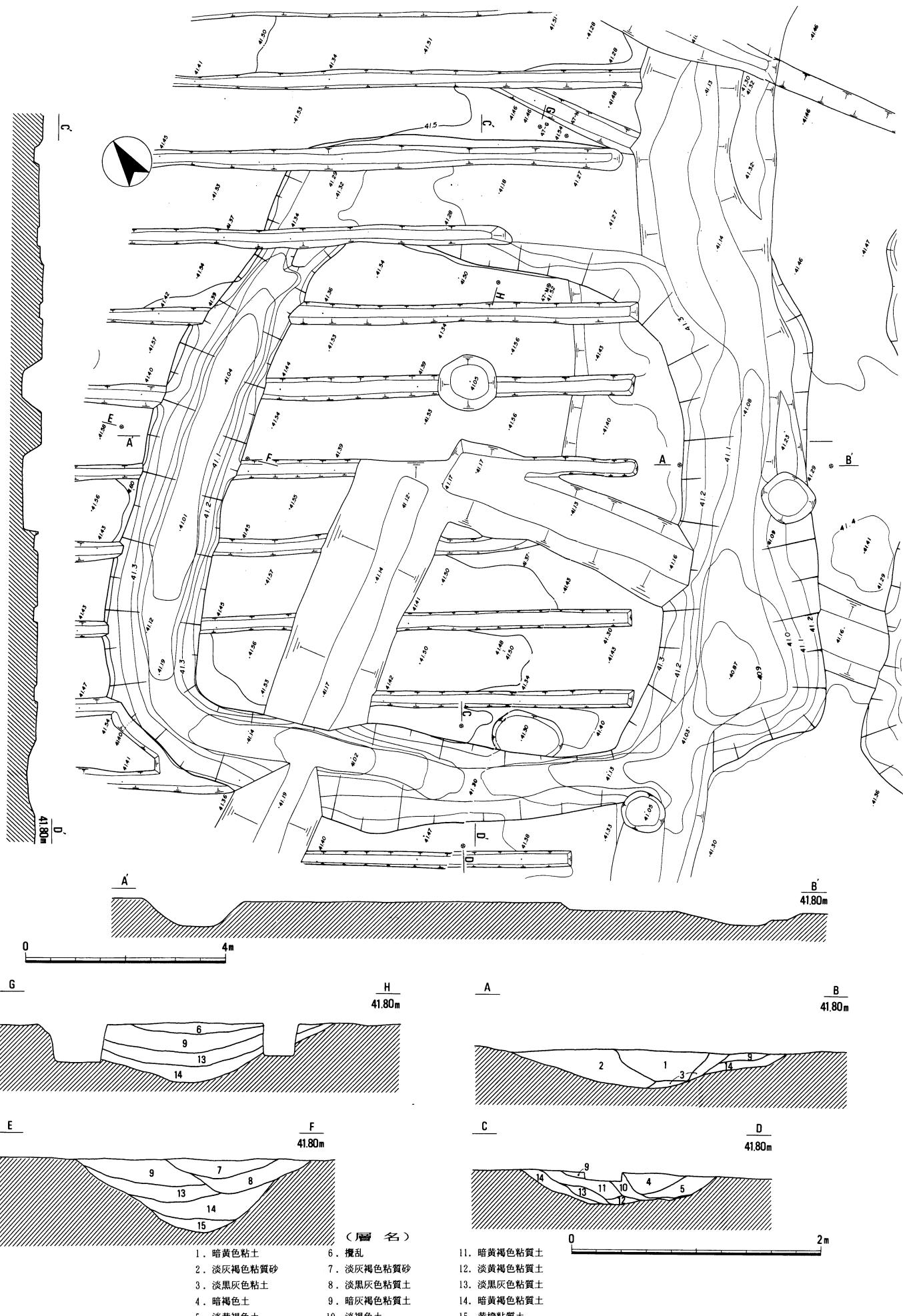
東溝のほぼ中央から須恵器の筒形器台(326)1個体がほぼ完形で出土した。この筒形器台が、墳丘に据え置かれていたと仮定するならば、東溝に倒れた状態、すなわち口縁を東に向いている(第81図)。また、北溝のほぼ中央の周溝底から土師器の壺、須恵器の杯身(323・324)が出土した(第83図)。

C 出土遺物 (第82図・図版30)

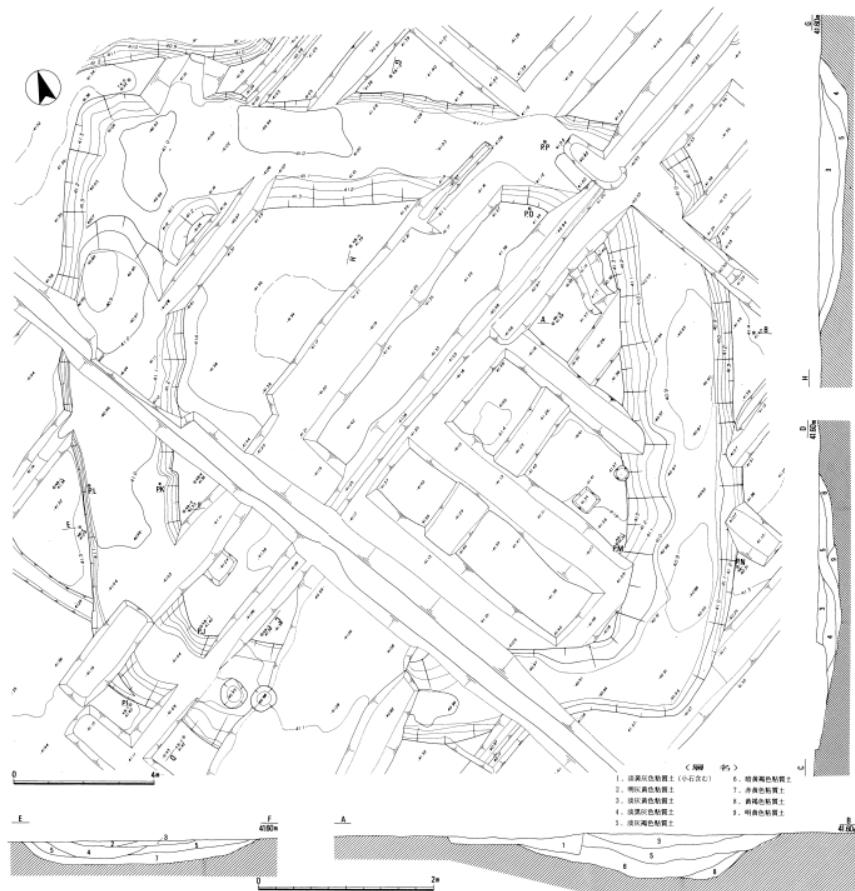
須恵器(321~326)



第84図 46号墳平面図(1:100)・土層断面図(1:40)



第85図 47号墳平面図 (1:100)・土層断面図 (1:40)



第86圖 48號地塊平面圖 (1:100) · 土層斷面圖 (1:40)

杯蓋 (321・322) 天井部は平らで、器高はやや低い。稜は短く、あまい。

杯身 (323~325) 立ち上がりは高く、底部はやや丸みをおびる。口縁端部内面は、浅く窪ませる。

筒形器台 (326) やや深い杯部で、口縁端部は上下に肥厚させる。筒部上部を膨らませ、4条の突帯を巡らしその間に、粗い波状文を施す。台部は大きく内湾させ、端部を外方へ屈曲させる。三角形の透孔が三方向にあけられる。後述する49・71号墳からもこの器種は出土しているが、筒部から台部への屈曲は緩やかで、波状文も粗雑な感がある。

D 遺物の時期

杯身・杯蓋の口径がやや大きく、蓋の稜が鋭さに欠けることなどから、MT15型式に相当するものと思われる。

(21) 46号墳

A 遺構 (第84図・図版1・6)

後述する48号墳の西側で検出した。東溝および南溝は、家畜増殖基地農場の耕作溝によって攪乱を受けているため判然とはしないが、東西方向8.7m、南北方向8.2mの規模である。墳形は方墳で、周溝の内外側ともに直線的で幅は一定の感がある。周溝幅は1.0~1.4mで、残存の深さは0.20mである。

B 遺物出土状況

東溝から土師器の椀片が、西溝から須恵器の甕片が出土したにとどまる。

(22) 47号墳

A 遺構 (第85図・図版1・6・8・9)

45号墳の東側で検出した。東溝は、家畜増殖基地農場の耕作溝がほぼ重なって掘られているため東西方向の規模は判然としないが約9.0mであろうと思われる。南北方向は9.6mである。平面的には、北側が狭い台形状を呈する方墳である。周溝幅は1.55~2.4m、残存の深さは0.25~0.60cmである。南溝の中央部分が浅く、西溝は深く掘られる。

B 遺物出土状況

東溝から須恵器の甕が、西溝から須恵器の脚付短頸壺・短頸壺が周溝底から浮いた状態で出土した。

C 出土遺物 (第82図・図版30)

須恵器 (327~330)

脚付短頸壺 (327・328) 327は体部が偏平で、口縁部はやや長く外反する。脚部は「八」字に広がり、端部は下方に屈曲させる。

短頸壺 (329) 体部の最大径はほぼ中央で、平底を呈する。体部下半にはタタキの痕跡が残る。

甕 (330) 口縁部は大きく外反し、端部は下方に屈曲させ先端は丸くさせる。

D 遺物の時期

他の古墳と比較する杯身・杯蓋がなく判断に苦しむが、甕 (330) の口縁が丸みを帯びること、当古墳の東西に存在する45・49号墳と中心間が一直線に並ぶことから、同時期のMT15型式と考えられる。

(23) 48号墳

A 遺構 (第86図・図版1・6・9)

46号墳の東側で検出した。東西方向12.0m、南北方向12.3mの方墳である。周溝は、内外側ともに直線的である。周溝幅は2.5~3.2m、残存の深さは0.28~0.50mである。西溝の北寄りがやや深い感がある。

B 遺物出土状況 (第87~90図・図版9)

東溝の中央やや南寄りから須恵器の甕 (346) がその場で割られた様な状態で、また円筒埴輪が墳丘裾から周溝内にずれ落ちたような状態で出土した(第87図)。南溝の西側、周溝の隅では須恵器の甕 (345) が、(第90図)、西溝の中央からは須恵器の杯蓋・杯身 (335)・甕 (344)、円筒埴輪などが出土した。円筒埴輪は4個体以上あり、墳丘裾から周溝へずれ落ちたような状態での出土である(第88図)。また、北溝の中央やや東寄りから須恵器の杯身 (334・336)・杯蓋 (331)・無蓋高杯 (338)・短頸壺 (342)・椀 (343) が細かく割られた状態で出土した(第89図)。

C 出土遺物 (第91~93図・図版30・31)

須恵器 (331~347)

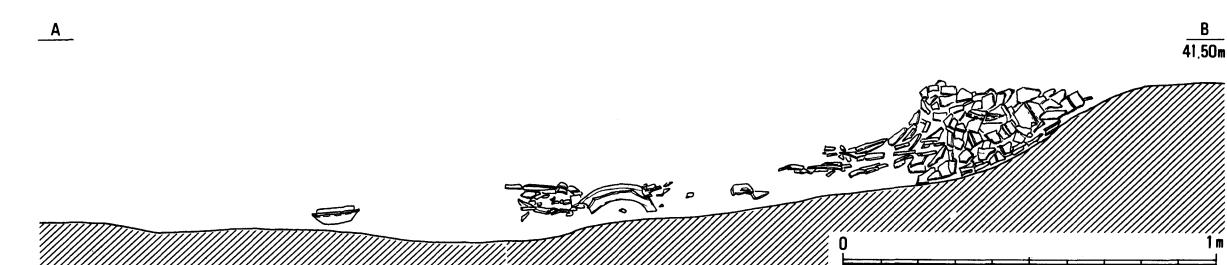
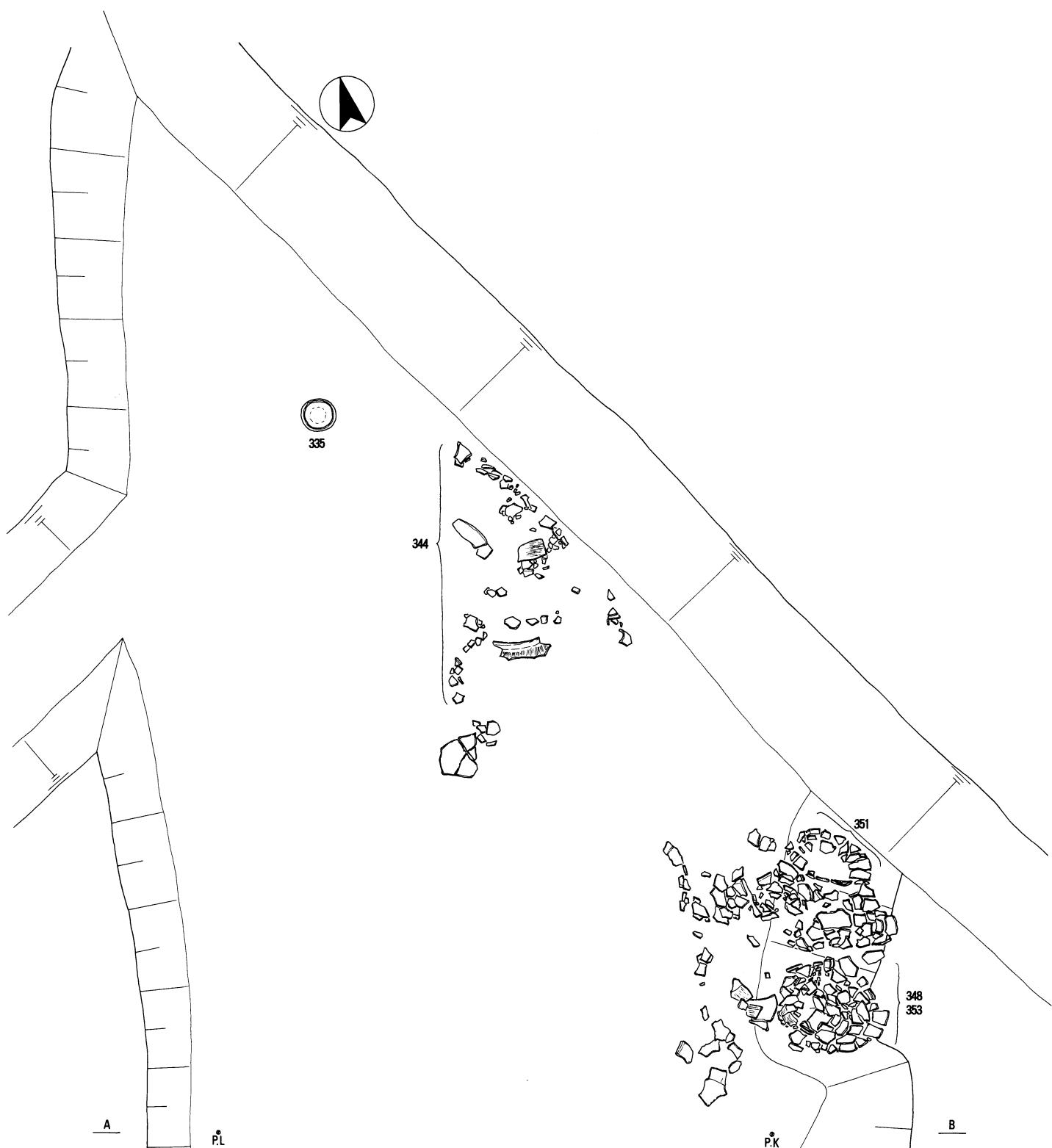
杯蓋 (331~333) 天井部は丸く、稜はやや鋭さを欠く。

杯身 (334~336) 口径は約10cmと小さく、底部は丸みをおびる。受け部は短く、外上方にのびる。

無蓋高杯 (338) 杯部は浅く、口縁は外へ大きく開く。脚部は「ハ」の字に開き、長方形透孔が4方向



第87図 48号墳東溝遺物出土状況図 (1 : 20)



第88図 48号墳西溝遺物出土状況図 (1 : 20)

に開けられる。

壺（339・340）外反する口縁部がさらに段をなして外上方の端部へつづく。口径は、体部最大径とほぼ同じである。体部の上半には刺突文が施される。

短頸壺（341・342）342は、体部下半にタタキの痕跡が残り、上半には刺突文が施される。

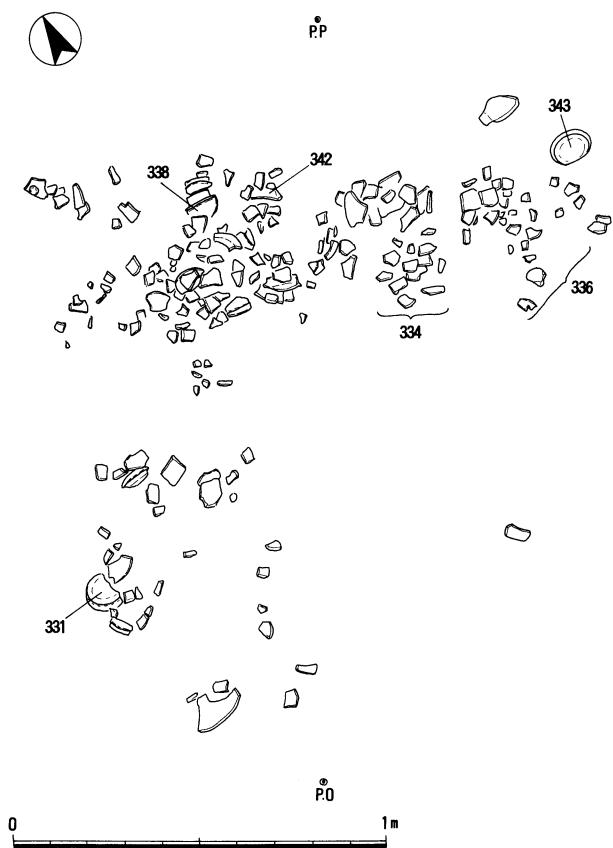
椀（343）口縁部は直立し、端部は丸くおさめる。体部は口縁基部から内湾しながら下り、底部は平底を呈する。体部下半には静止ヘラ削りがなされる。

甕（344～347）347は、口縁部の形態が特異で、偏平な短頸壺状を呈する。蓋が伴う可能性も考えられる。体部は球形で、内面下半にはヘラケズリ調整がなされる。

埴輪（348～356）

朝顔形埴輪（348）口縁は大きく外反し、端部は面をつくる。突帯は低く、断面形はM字状を呈する。

円筒埴輪（349～353）349～351は口縁端部を窪ませ、内面側を尖らせる。外面には細かいB種ヨコハケを施し、349・351・352には1段目に「」()の



第89図 48号墳北溝遺物出土状況図（1：20）

ヘラ記号が線刻される。突帯の断面形はM字状で、やや高い。

人物埴輪（354～355）354は、人物埴輪の腕の部分で中空である。剥離が著しく調整は不明である。355は人物埴輪の顔の部分である。

家形埴輪（356）356は家形埴輪の堅魚木と思われる。

D 遺物の時期

周溝内から出土した遺物の中で、338の無蓋高杯や343の椀などはやや古い様相を呈するが、杯身・杯蓋などからTK47型式に相当すると思われる。



第90図 48号墳南溝遺物出土状況図（1：20）

(24) 49号墳

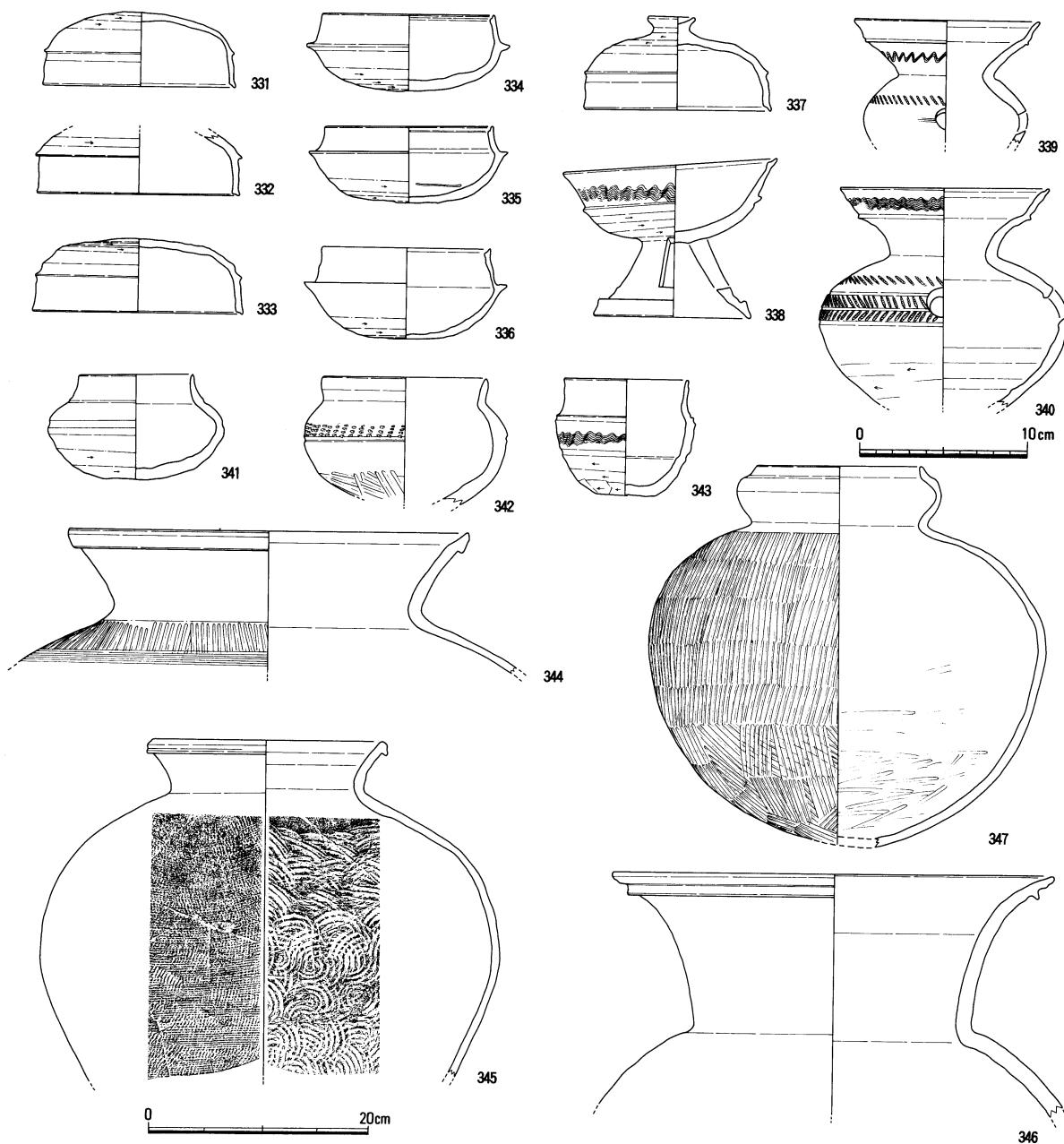
A 遺構 (第94図・図版1・6・8・9)

48号墳の南側で検出した。東西方向13.4m、南北方向13.0mの規模である。周溝の内側は直線的であるが、外側は各溝それぞれいびつである。周溝幅は3.7~8.04m、残存の深さは0.30~0.48mである。特に南溝は幅が広い。また、この古墳は東側の中央やや北寄りに造り出しを持つ方墳である。昭和時代の溝によって攪乱を受けるため全貌は判然としないが、幅約5m、長さ約2.5mの規模の造り出しが

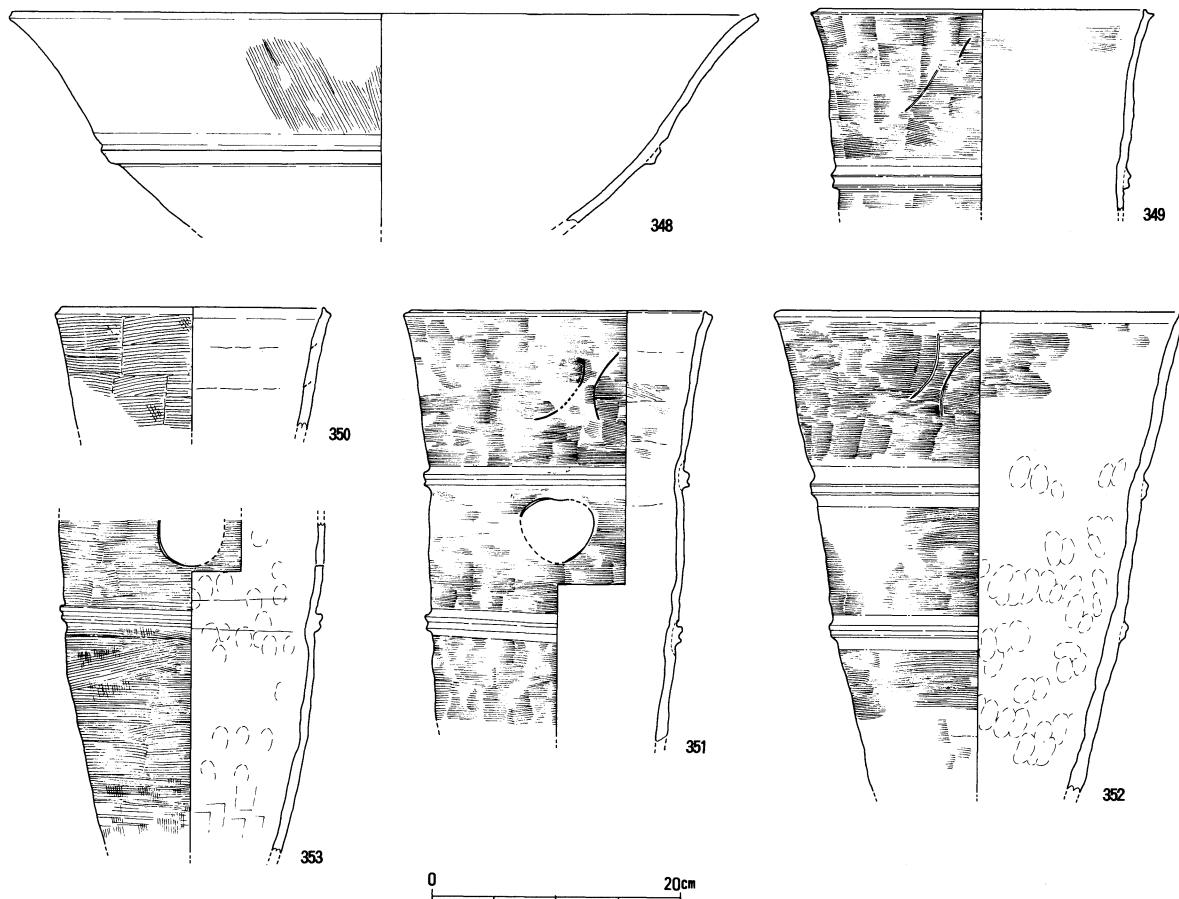
われる。なお、45・47号墳と古墳の中心が一直線上になり非常に興味深い。

B 遺物出土状況 (第95図・図版9)

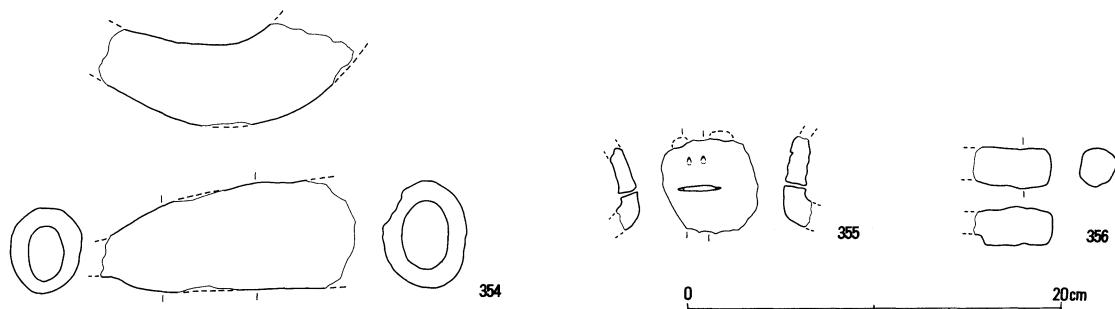
周溝からは様々な遺物が多量に出土している。須恵器の杯身・杯蓋・高杯・甕・偏平短頸壺・甕・器台、土師器の壺などの他、円筒埴輪・形象埴輪もある。形象埴輪には、人物埴輪・鶏形埴輪・馬形埴輪・家形埴輪がある。特に北溝中央の西寄りでは、須恵器の有蓋高杯(363~366)・甕(373)などが出土(第95図)し、東溝からは須恵器の筒形器台(378・379)



第91図 48号墳出土須恵器実測図 (345・346は1:6、その他は1:4)



第92図 48号墳出土朝顔形・円筒埴輪実測図 (1 : 6)



第93図 48号墳出土形象埴輪実測図 (1 : 4)

が多くの破片で出土した。

C 出土遺物 (第96・97図・図版32)

須恵器 (357~380)

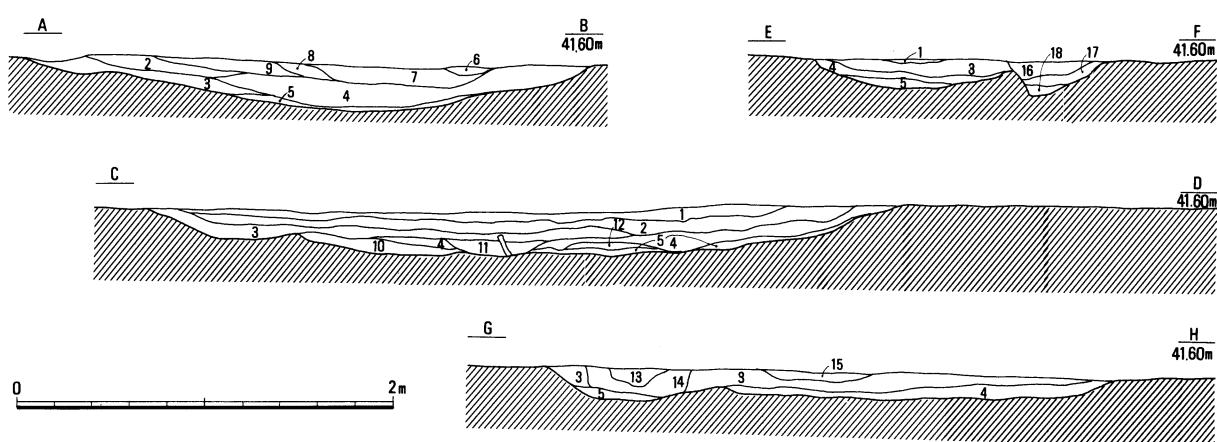
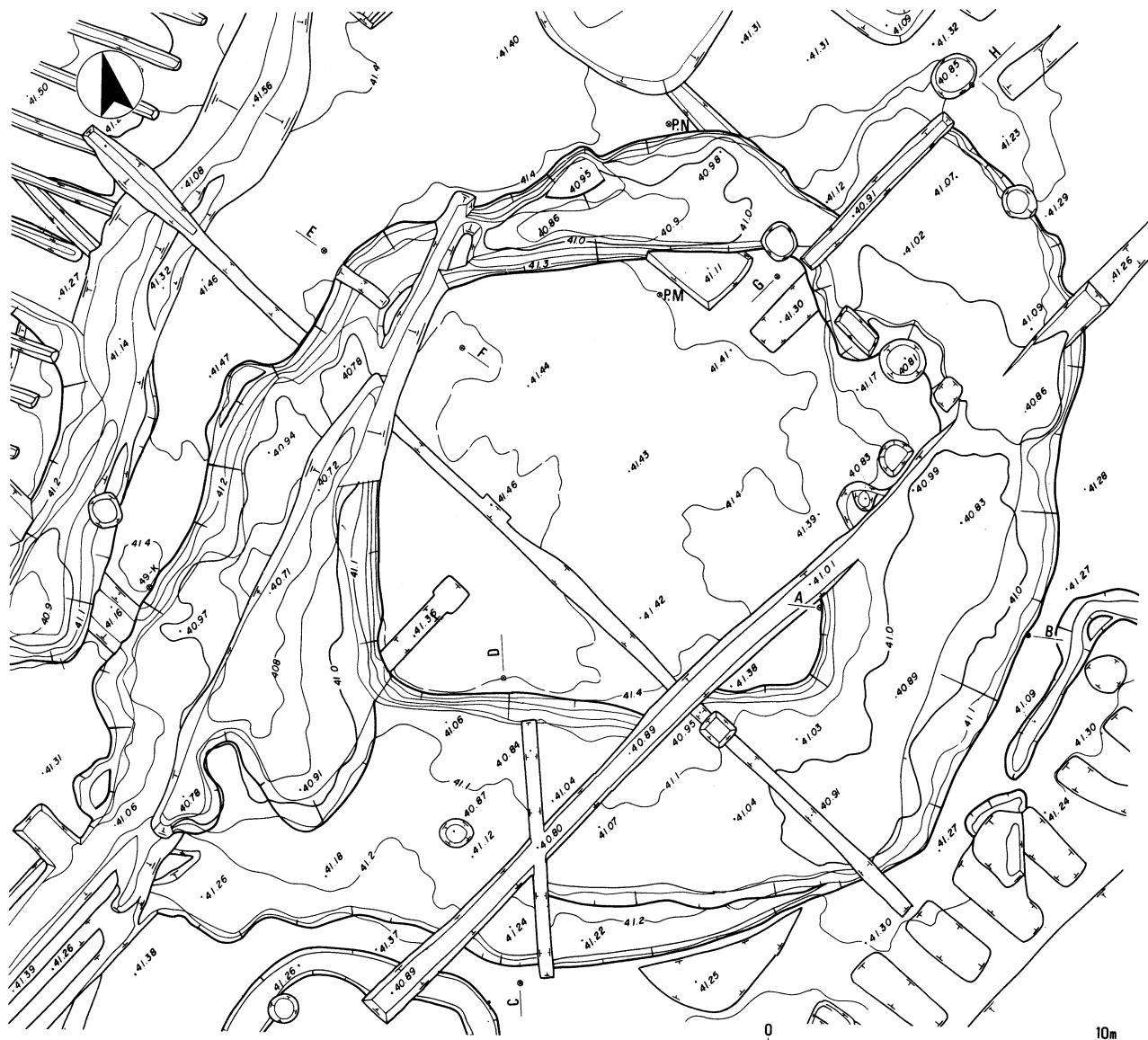
杯蓋 (357~359) 天井部が丸く、稜は形だけのものが多い。

有蓋高杯 (363~369) 363・364・368・369の脚部は「八」の字に長く開き、365~367の脚部は短く開く。脚部が短いものは、端部を下方に屈曲させて、先端を細くさせる。

翫 (372・373) 太い頸部から大きく外反し、段をな

してさらに端部へといたる。同一個体の可能性がある。

器台 (376~379) 378・379は筒形器台である。細い筒部から外側に直角に屈曲させ、台部にいたる。筒部には円形透孔が3段に8方向、台部は凹線により3段に分けられ、上2段には長方形、下の1段には三角形透孔が4方向に並んであけられる。台部の1段目には刺突孔文がその他細かい波状文を巡らす。378は接点がないが、同一個体の杯部になろう。



(層名)

- | | | | | | |
|------------|------------|------------|------------|------------------|-------------|
| 1. 淡褐灰色粘質土 | 4. 暗黄褐色粘質土 | 7. 暗黑褐色粘土 | 10. 暗赤橙粘質土 | 13. 淡黄灰色粘土（小け含む） | 16. 淡黑褐粘質土 |
| 2. 暗灰褐色粘質土 | 5. 暗褐黄色粘質土 | 8. 明灰黄色粘質土 | 11. 暗黑灰粘質土 | 14. 暗灰褐色粘土（小け含む） | 17. 暗黑灰粘質土 |
| 3. 淡黄褐粘質土 | 6. 暗黄褐色粘土 | 9. 暗灰黄色粘質土 | 12. 淡黑褐粘質土 | 15. 淡灰黄色粘土 | 18. 暗灰黄色粘質土 |

第94図 49号墳平面図 (1:200)・土層断面図 (1:80)

土師器（380）

甕（380） 口縁部は外反し、端部を肥厚させる。体部にはヘラ削りを施す。

埴輪（381～393）

朝顔形埴輪（381） 口縁端部の先端が細くなり、内側には粘土紐の接合痕跡が残る。

円筒埴輪（382） 直線的名体部で、口縁端部の中央を窪ませる。突帯は断面M字状でやや高い。

家形埴輪（383） 堅魚木である。断面は台形を呈する。

人物埴輪（384～390） 384は人物埴輪の島田鬚の破片で、内側に折り曲げて肥厚させる。385は櫛の部分。386は円形の穿孔がなされ、耳かと思われる。387は偏平な円形のものである。人物埴輪のネックレスか。388は美豆良の破片である。先端を捩じらせる。389は下げ美豆良と思われる。先端は尖らせ、内側に貼り付けられた痕跡が残る。390は人物の腕で、中実の造りで指の痕跡が残る。

鶏形埴輪（391） 頭部の破片である。短い鶏冠を指でつまみ表現する。雌鳥と思われ、眼は竹管文で施される。

馬形埴輪（392・393） 392は偏平なつくりで、馬形埴輪の辻金具を表現したものか。393は馬形埴輪の耳の破片である。

D 遺物の時期

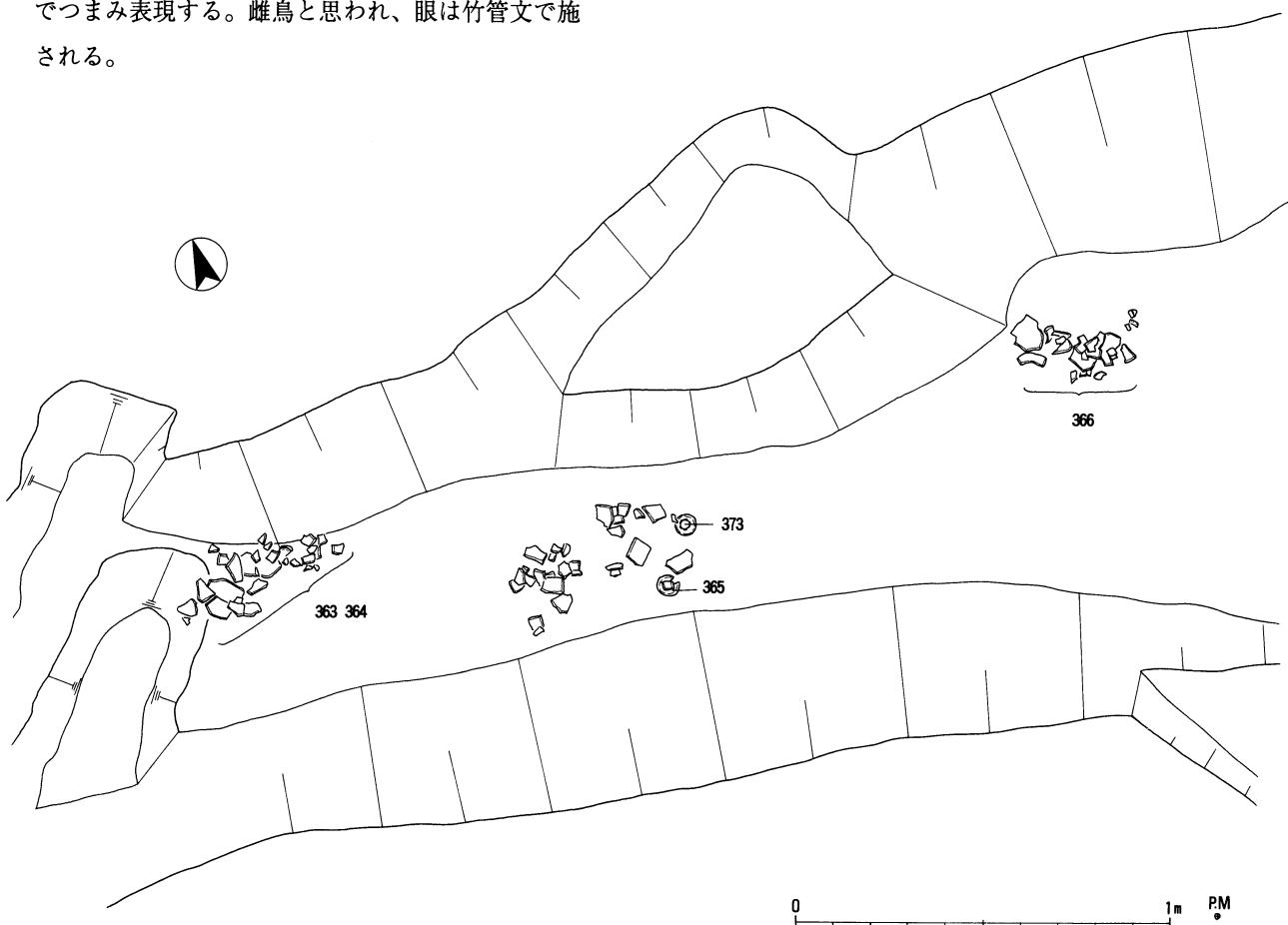
筒形器台は、前述の45号墳出土例と比べると古い様相を呈するが、杯蓋の稜が形骸化しており、MT15型式に相当するものと思われる。

(25) 50号墳

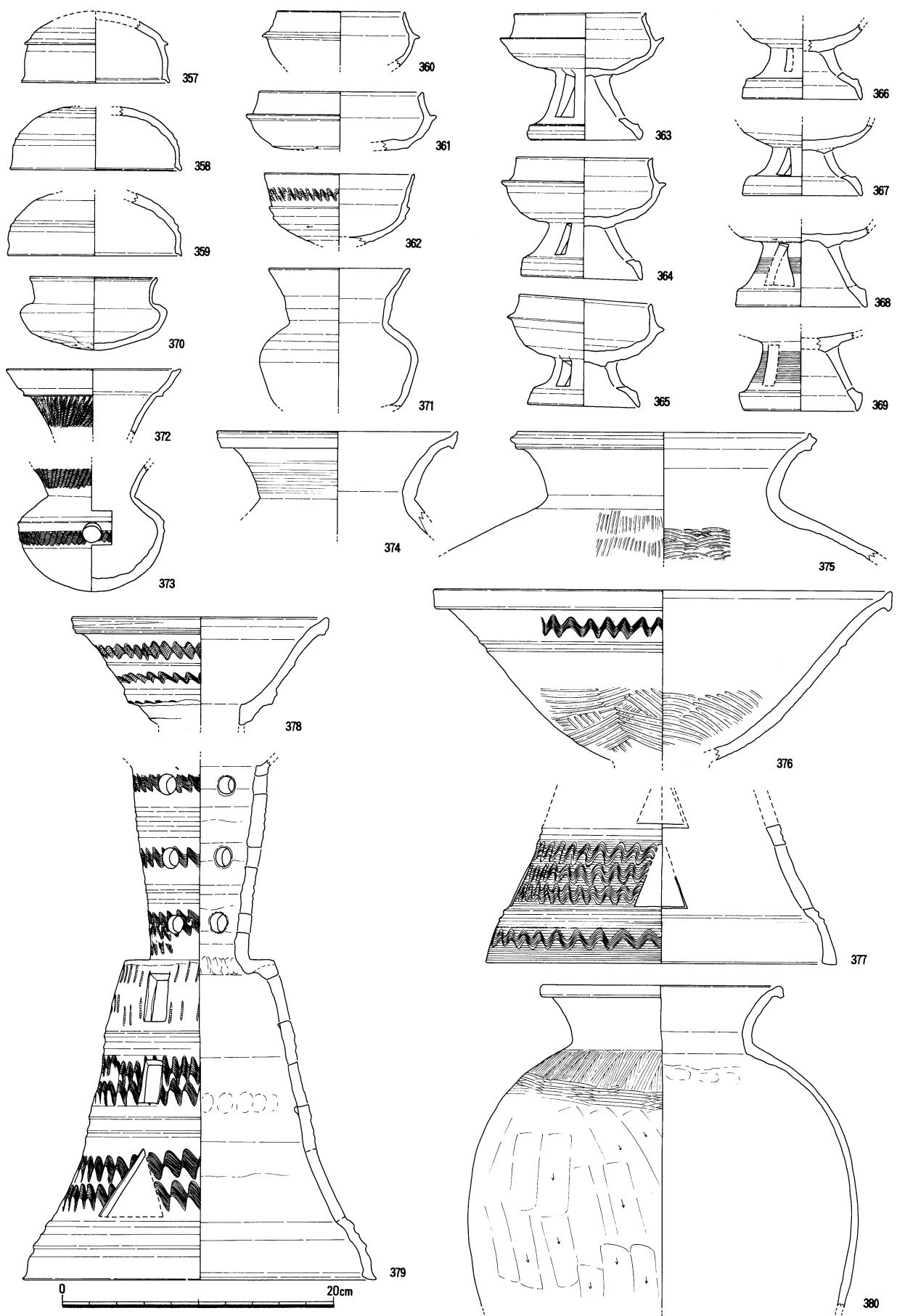
A 遺構（第98図・図版6）

39号墳の西側で検出した。方墳の東側半分程度の確認で、西側については調査区外である。東西方向の規模は不明であるが、南北方向は5.1mである。周溝の幅は0.80m、残存の深さは0.20mである。なお、遺物は出土していない。

PN



第95図 49号墳北溝遺物出土状況図（1：20）



第96図 49号墳出土須恵器・土師器実測図 (1 : 4)

(26) 51号墳

A 遺構 (第100図・図版6)

32号墳の西側で検出した。東西方向8.3m、南北方向8.4mの方墳である。周溝幅は0.6～1.14mで、残存の深さは0.20mである。北溝の西側はやや深い。古墳の中央を東西に県立看護学校当時の排水管が走り、また、南溝部分は旧第1補助棟によって攪乱さを受ける。

B 遺物出土状況 (第101図・図版9)

北溝の西側で須恵器の甕 (395) が出土した (第101図)。他の古墳でも確認しているように、この須恵器についても、その場で意図的に割られた状態での出土である。なお、西溝は67号墳の西溝と、北溝は

32号墳の北溝と一直線となり、古墳間は狭い。

C 出土遺物 (第102図・図版32)

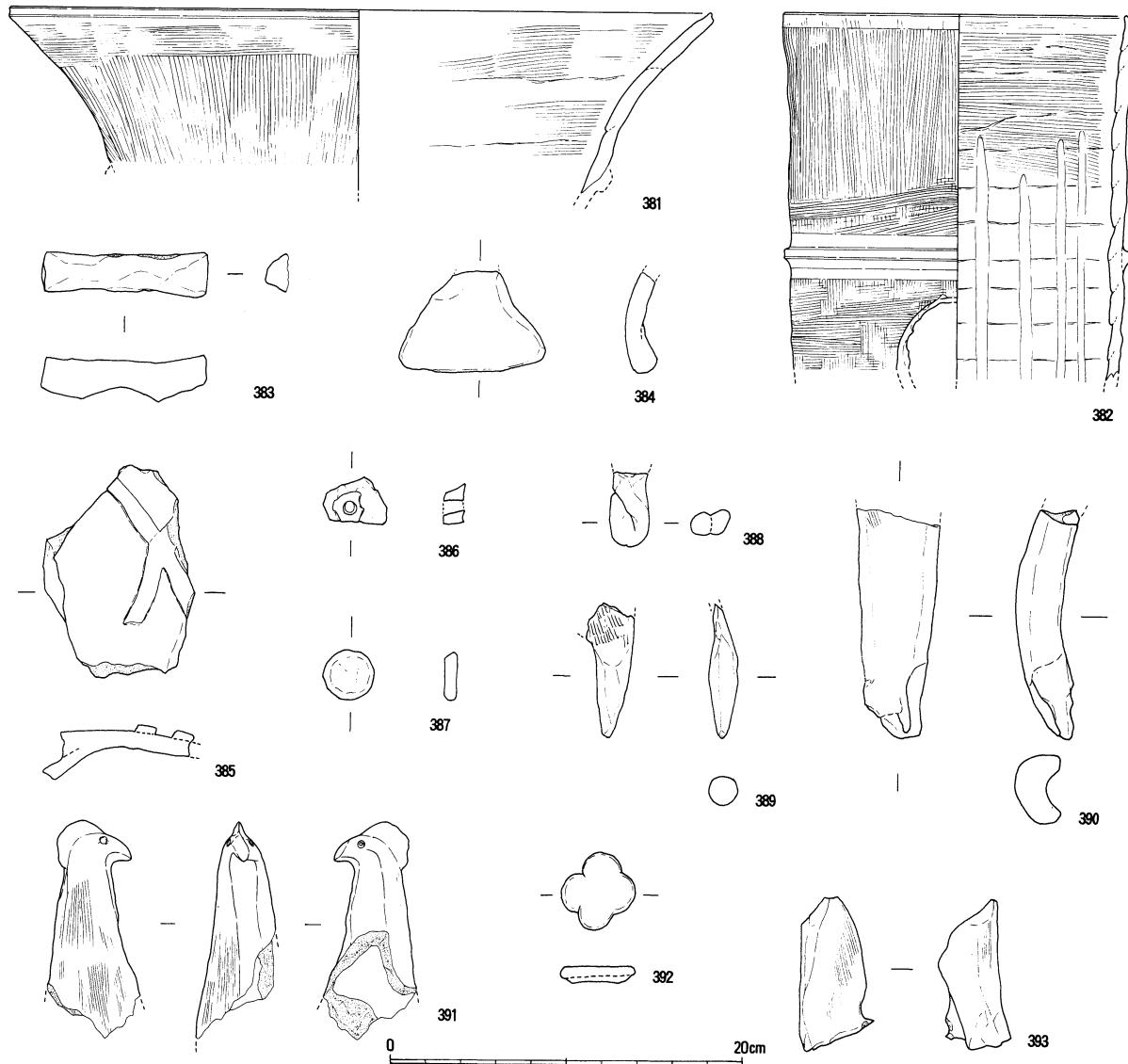
須恵器 (394・395)

杯蓋 (394) 天井部が平らで、器高の低い蓋になろうか。稜は短く鋭さに欠ける。

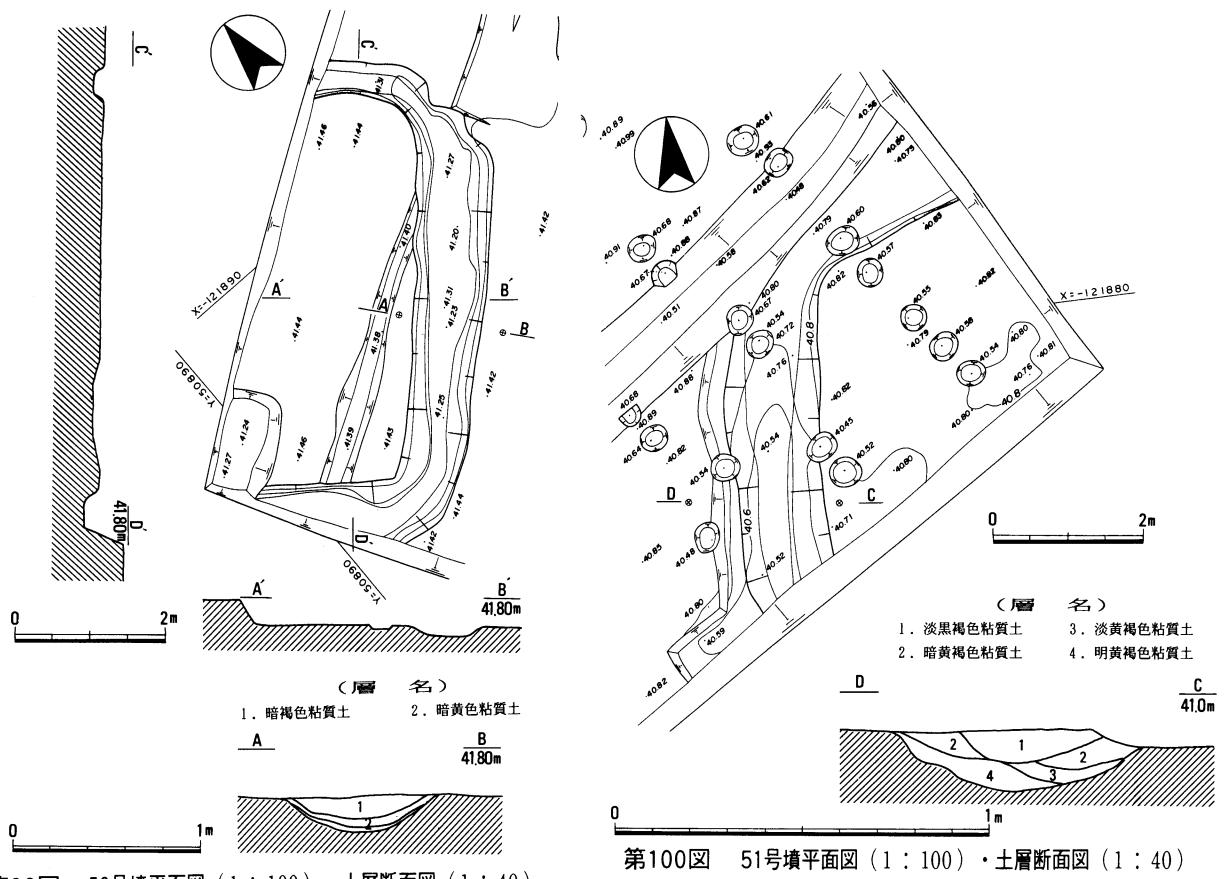
甕 (395) 口縁部は大きく外反し、端部内面はややくぼむ。体部は球形である。

D 遺物の時期

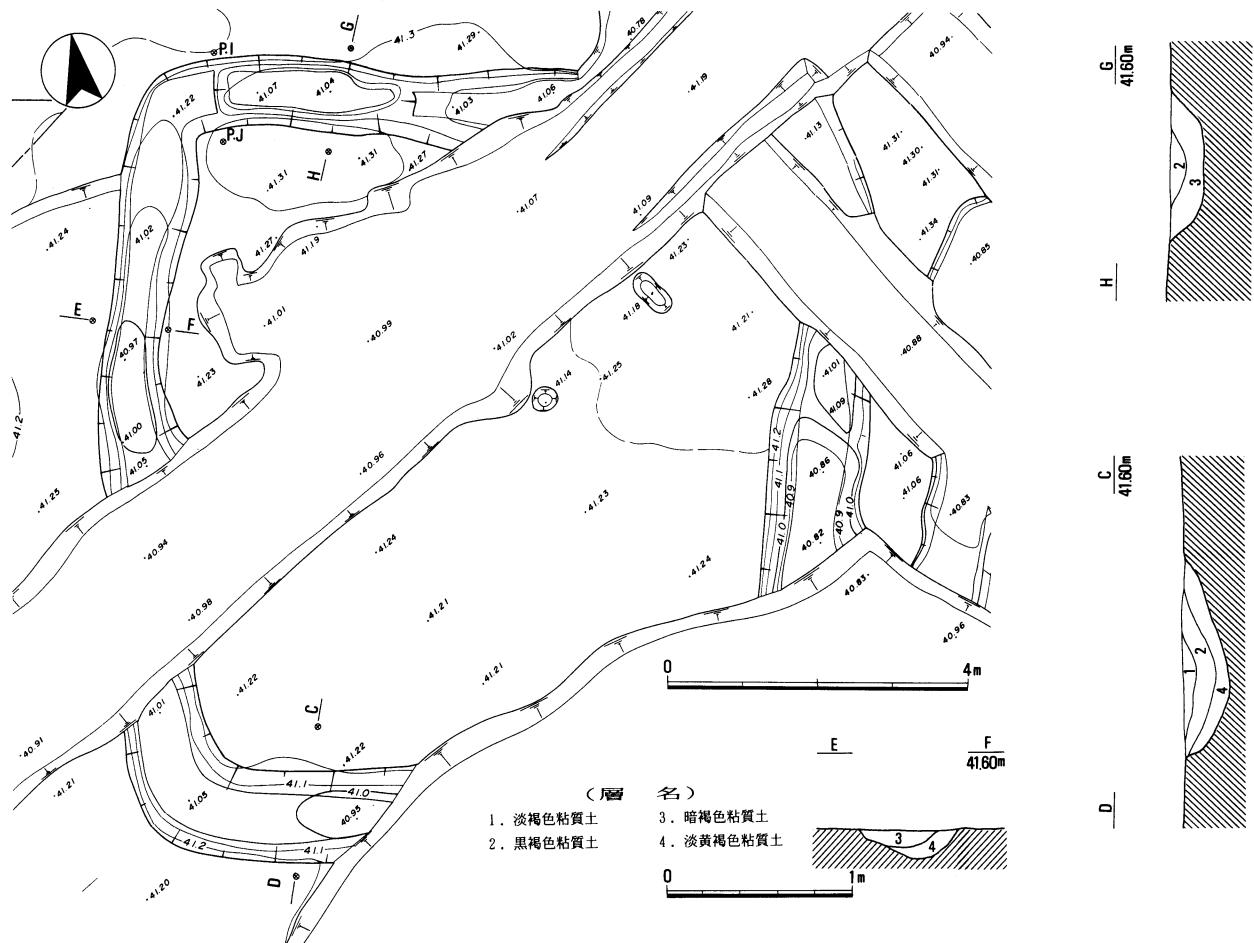
TK 47型式に相当するものと思われる。



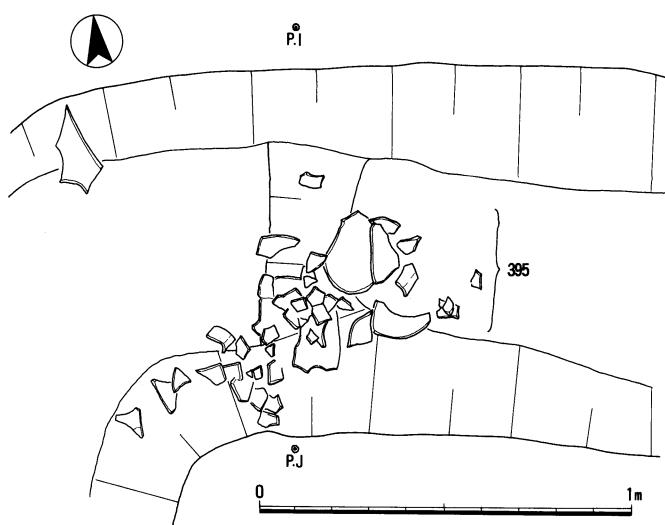
第97図 49号墳出土埴輪実測図 (1:4)



第98図 50号墳平面図 (1:100)・土層断面図 (1:40)



第99図 52号墳平面図 (1:100)・土層断面図 (1:40)



第101図 51号墳北溝遺物出土状況図 (1 : 20)

(27) 52号墳

A 遺構 (第99図・図版6)

28号墳の東側で検出した。方墳の北溝と西溝の一部を確認しただけで、他の部分は調査区外である。規模は不明であるが、西溝の周溝幅は1.3m、残存の深さは0.32mである。

B 出土遺物

西溝を検出中に、須恵器の甕片が出土したにとどまる。時期は不明である。

(28) 53号墳

A 遺構 (第103図・図版10)

26号墳の南側で検出した。旧屋内訓練場の基礎や昭和時代の攪乱が多く、検出できたのは北溝と東溝・南溝の一部である。東西方向は7.0m、南北方向は7.3mの方墳である。周溝幅は北溝で0.92m、残存の深さは0.2mである。

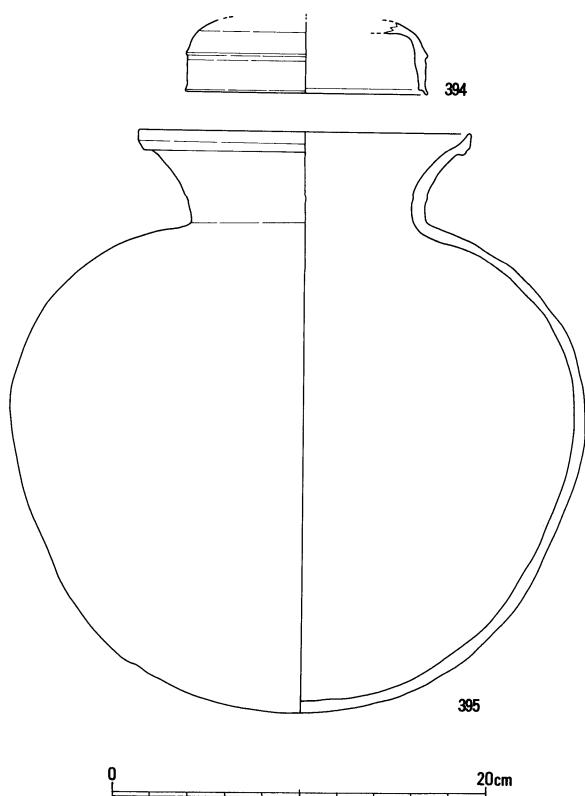
B 遺物出土状況 (第104図・図版10)

北溝の中央から須恵器の杯身(396・397・有蓋高杯(398~411)・甕(417)・短頸壺(413~415)・壺(416)の他、土師器の壺(417)がまとまって出土した(第104図)。これらの遺物は、周溝の底に据え置かれたような状態で出土しており、完形品も多い。周溝内の祭祀が考えられそうである。

C 出土遺物 (第105図・図版33)

須恵器 (396~416)

杯身 (396・397) 口径が小さく、短い受け部で端部は丸い。



第102図 51号墳出土須恵器実測図 (1 : 4)

有蓋高杯 (398~411) 蓋には2種類(A・B)の形態がある。一つは、天井部が丸くやや器高が高いもの(398~401)である。稜から丸く内湾して口縁にいたり、偏平なつまみが付く(A類)。これに対してB類は、天井部が平らで、稜から直線的に下がり端部を内傾させる。これには中央が大きく凹むつまみが付く(402~405)。身にも2種類の形態がある。一つはやや深い杯部に、「ハ」の字に開く脚部で端部は下方へ屈曲させるもの(406・407)である。これにはA類の蓋が伴うものと思われる。もう一つは、杯部が浅く「八」の字に広がる脚部のもの(408~411)で、これはB類の蓋が伴うものと思われる。

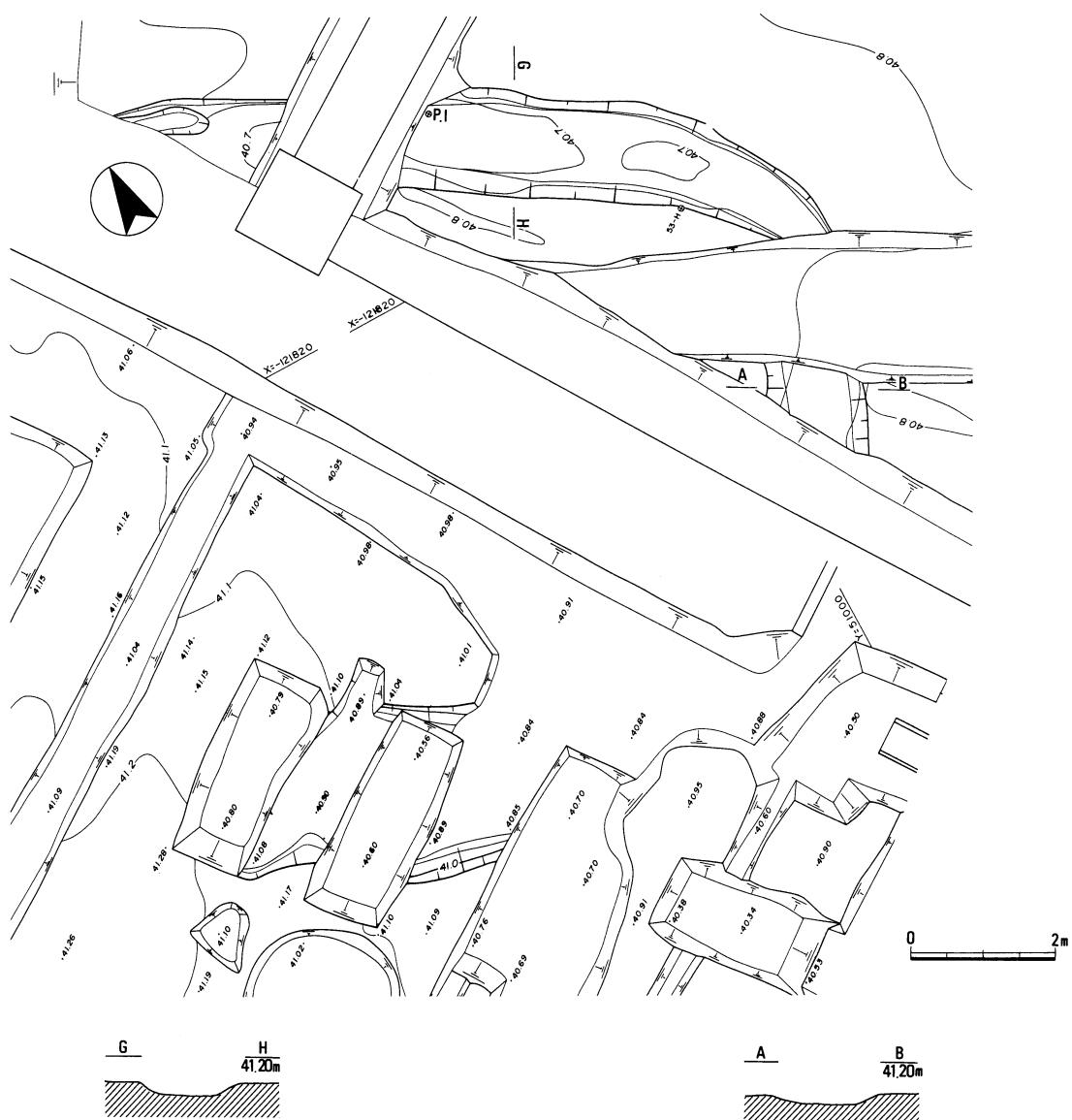
甕 (412) 体部は球形で、外反する口縁がさらに段をなして端部へづく。

短頸壺 (413~415) 413・414は415に比べる小型で、体部の肩がやや張る。

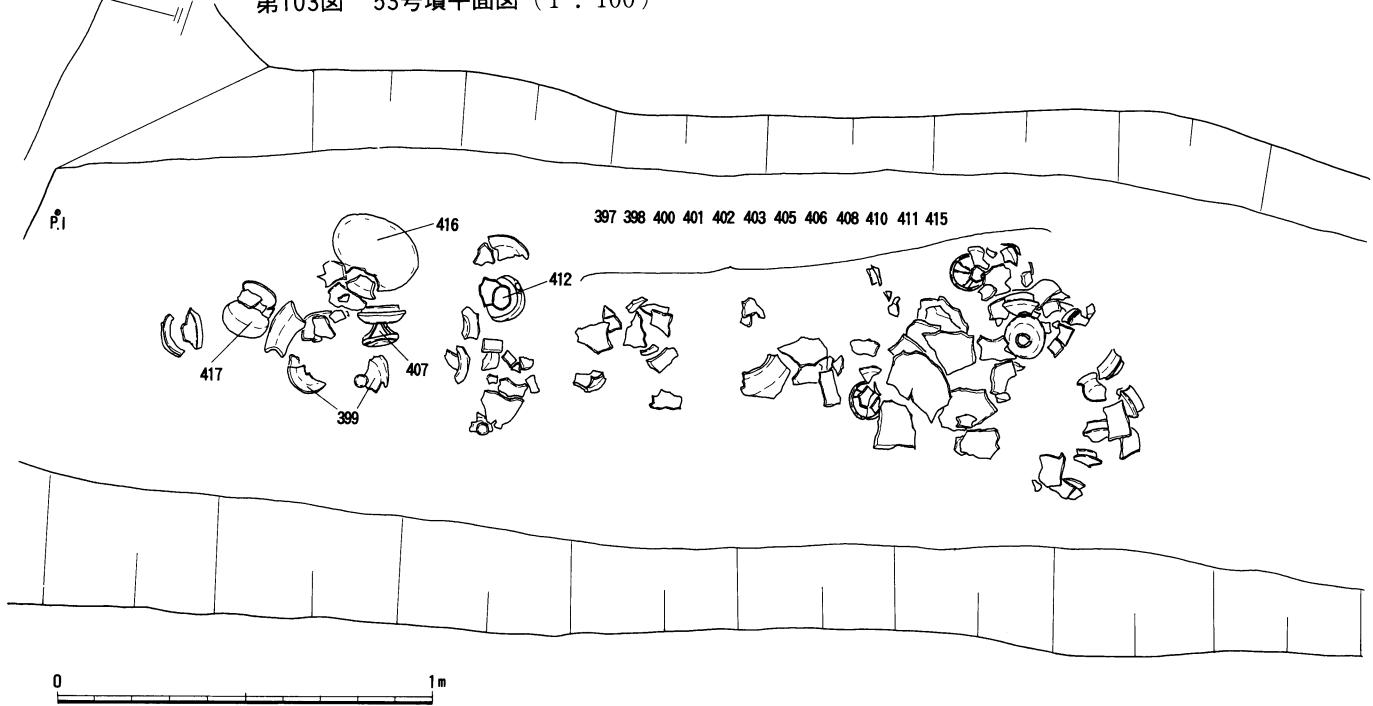
壺 (416) 球形の体部で、口縁は大きく外反し、端部の先端はやや尖らせる。外面にはタタキの後、カキメを施す。

土師器 (417)

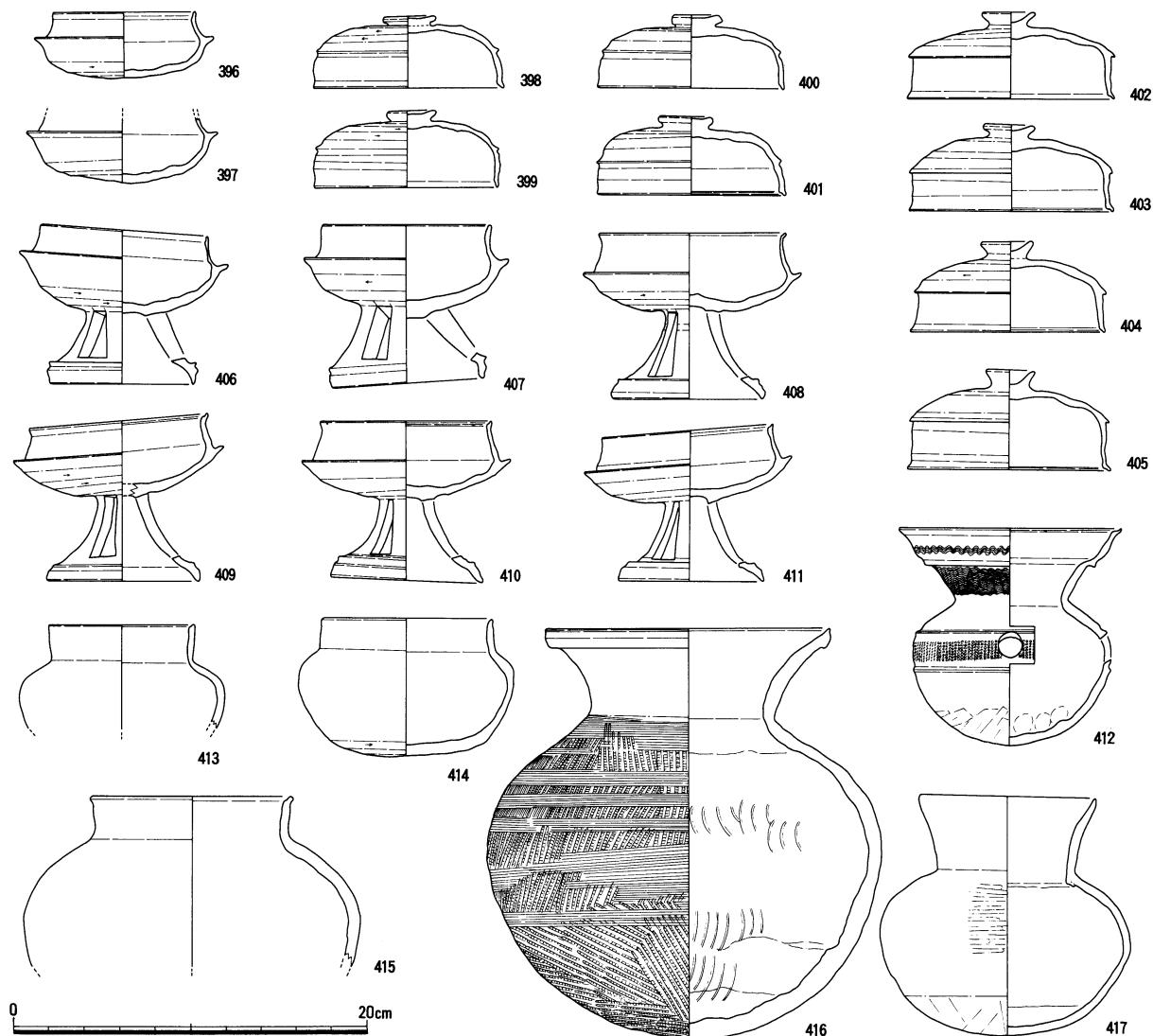
壺 (417) 頸部が広く、体部はやや偏平である。



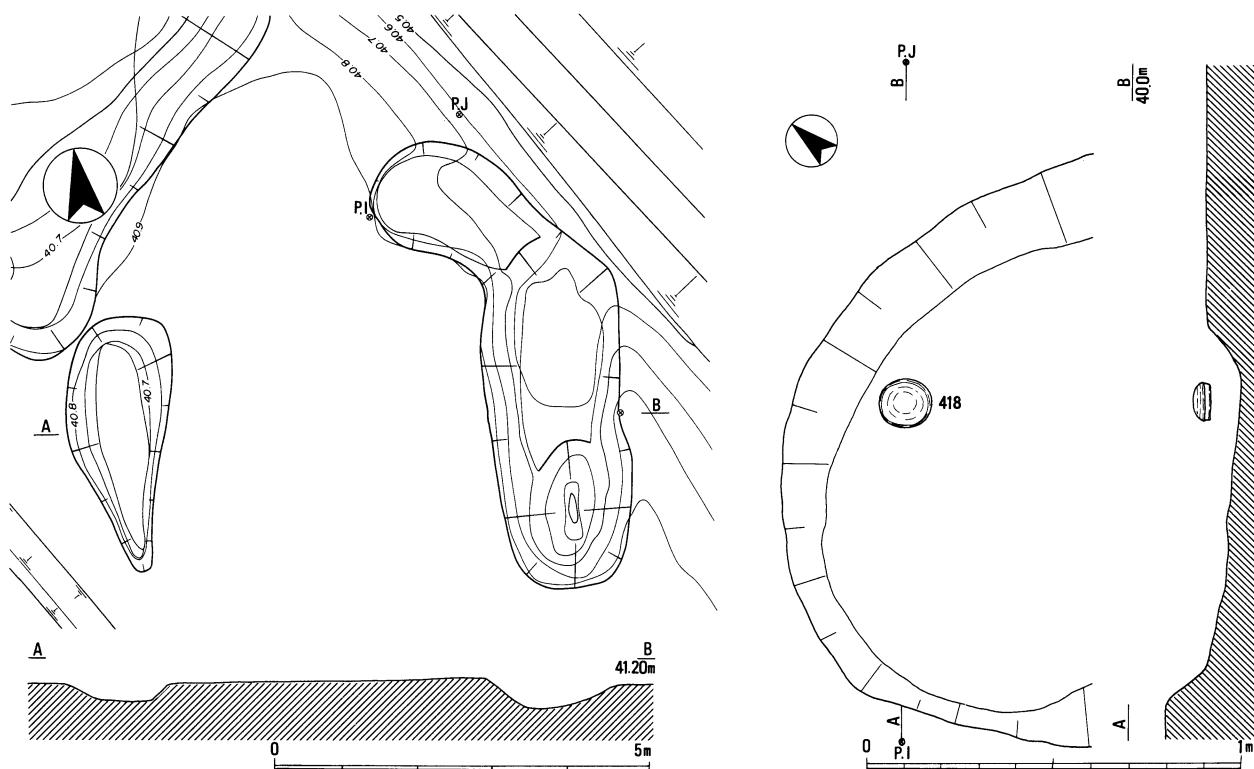
第103図 53号墳平面図 (1 : 100)



第104図 53号墳北溝遺物出土状況図（1：20）

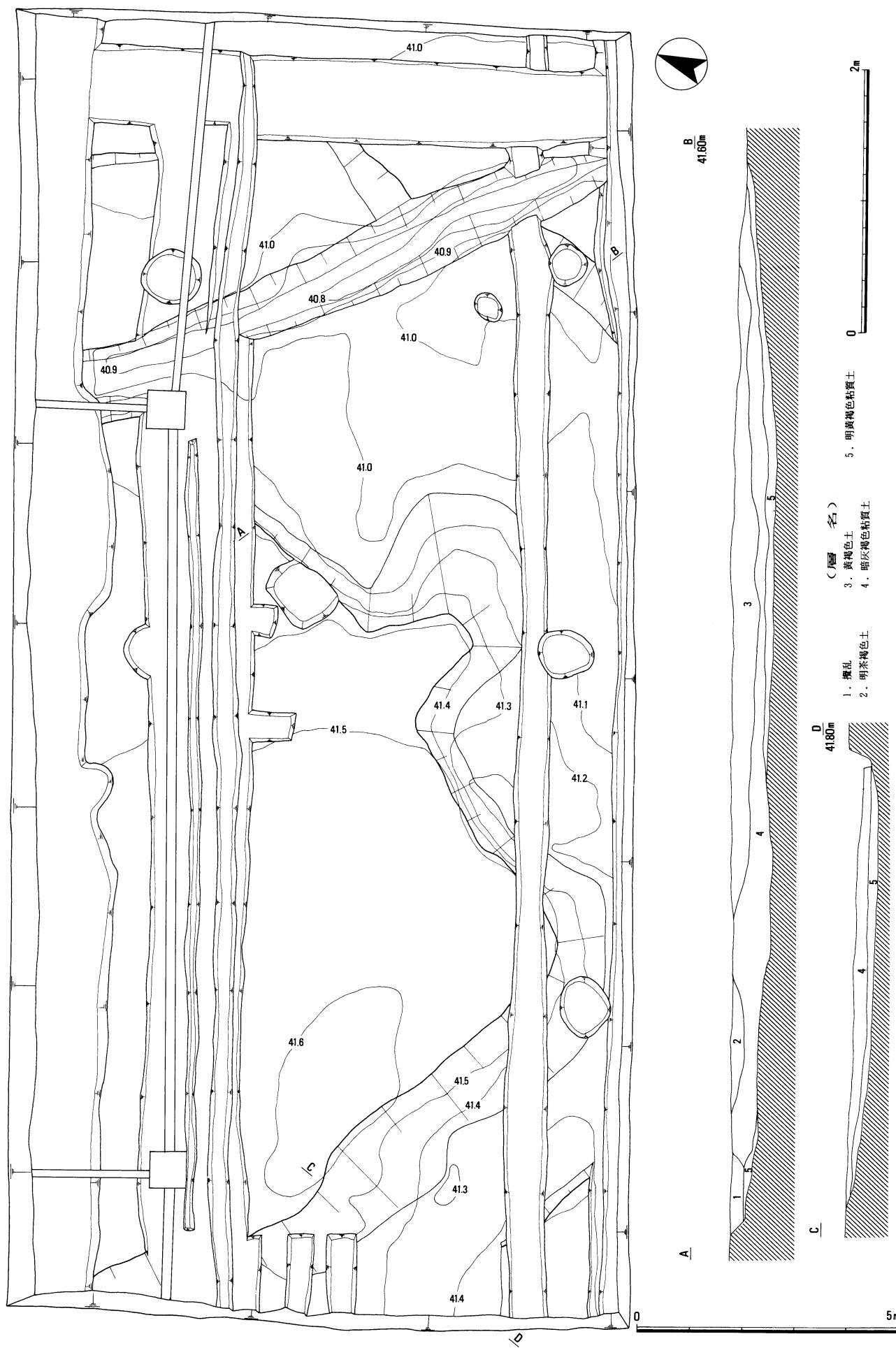


第105図 53号墳出土須恵器・土師器実測図 (1 : 4)



第106図 54号墳平面図 (1 : 100)





第108図 55号墳平面図（1：100）・土層断面図（1：40）

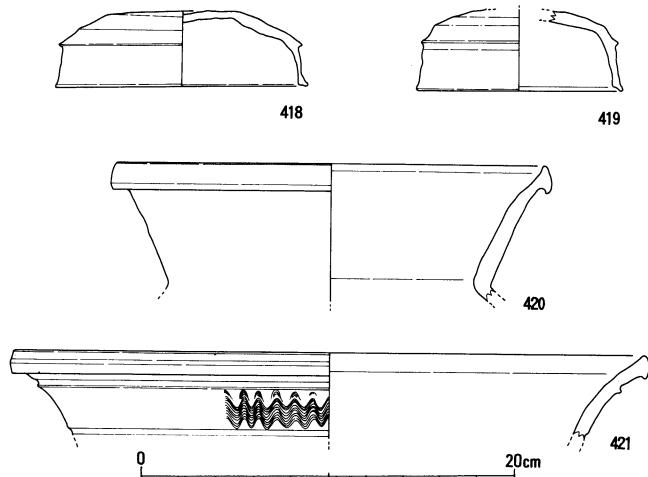
D 遺物の時期

周溝内出土の有蓋高杯の脚部・杯部の形状や調整技法は前述の40号墳と類似する。そのため同時期であるTK47型式に相当するものと思われる。

(29) 54号墳

A 遺構 (第106図・図版10)

53号墳の北西側で検出した。東溝・西溝と北溝の一部の検出である。南北方向の規模は不明であるが、東西方向は4.2mである。この古墳群では、最小の部類である。周溝幅は東溝で1.6m、残存の深さは0.28mで、特に南東隅が深い。古墳の方向も他の古墳群と異なりやや異質な存在である。単独の土坑墓か、あるいは後述の63号墳の東側の造り出しの一部



第109図 54号墳・55号墳出土須恵器実測図 (1:4)
[418は54号墳、その他は55号墳]

の可能性も考えられるが、一応単独の古墳として報告する。

B 遺物出土状況 (第107図)

須恵器の杯蓋 (418) が1点蓋された状態で、北溝の東寄りから出土したにとどまる (第107図)。

C 出土遺物 (第109図・図版34)

須恵器 (418)

杯蓋 (418) 天井部が平らで、短く鋭い稜を有し、口縁は直下に下る。端部は細く平面をなす。なお、天井部に他の須恵器の重ね焼き痕跡が明瞭に残る。痕跡の大きさは、高杯の脚部径程度である。

D 遺物の時期

TK23型式に相当しようか。

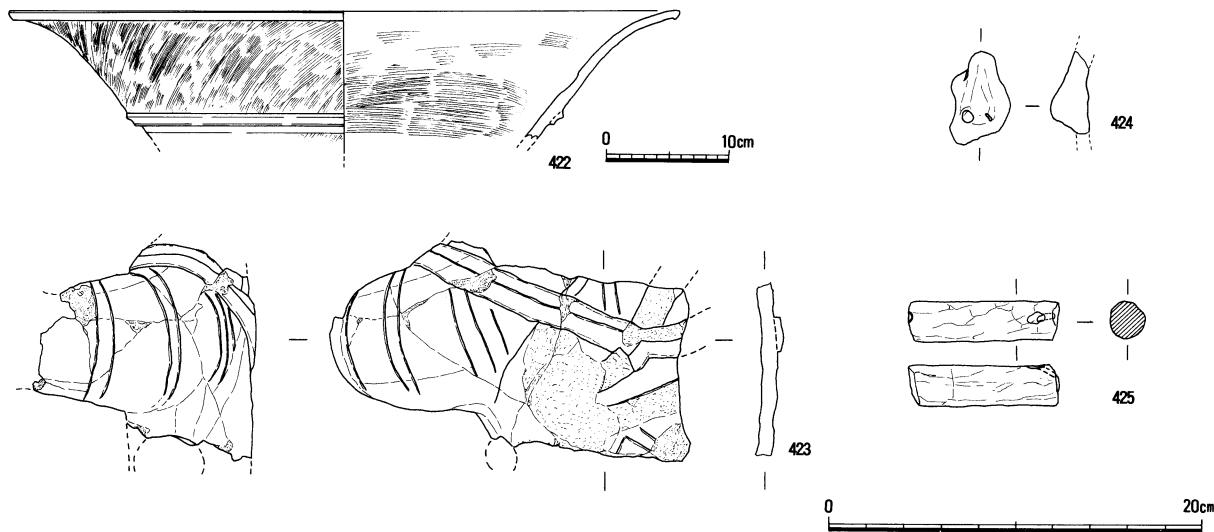
(30) 55号墳

A 遺構 (第108図・図版10)

後述する63号墳の西側で検出した。旧宿泊棟の建設に伴う攪乱や旧陸軍の第一気象連隊の基礎で周溝の全貌は検出できていない。確認できたのは東溝と南溝および北溝の一部である。東西方向の規模は不明であるが、南北方向は約13.7mの方墳である。また、東溝のほぼ中央に幅、長さともに2mの造り出しを持ち、規模・平面形態は49号墳に非常に類似する。

B 遺物出土状況

遺物は、須恵器の杯身・杯蓋・甕・高杯・器台、土師器の甕などであるが破片が多い。また、円筒埴



第110図 55号墳出土埴輪実測図 (422は1:6、その他は1:4)

輪・形象埴輪も出土している。特に、形象埴輪は南溝から南東隅部分から多く出土しており、その中に人物埴輪の胴体部分（423）や顔の部分（424）、家形埴輪の堅魚木（425）が含まれる。

C 出土遺物（第109・110図・図版34）

須恵器（419～421）

杯蓋（419）天井部は丸く、やや器高の高い蓋である。稜は短く、あまい。

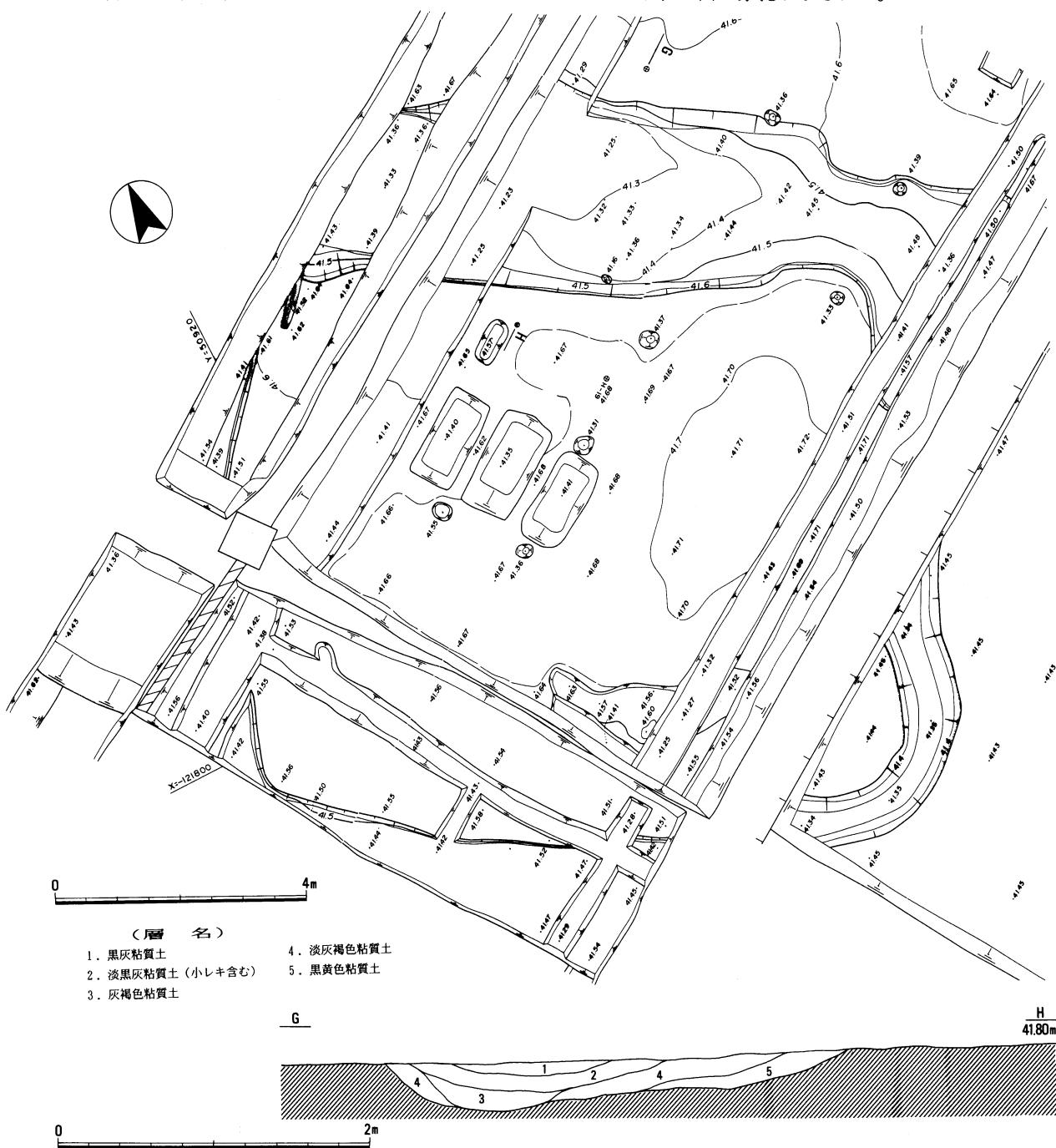
甕（420・421）口縁部はゆるやかに外反し、端部は下方へ屈曲させ丸く仕上げる。

埴輪（422～425）

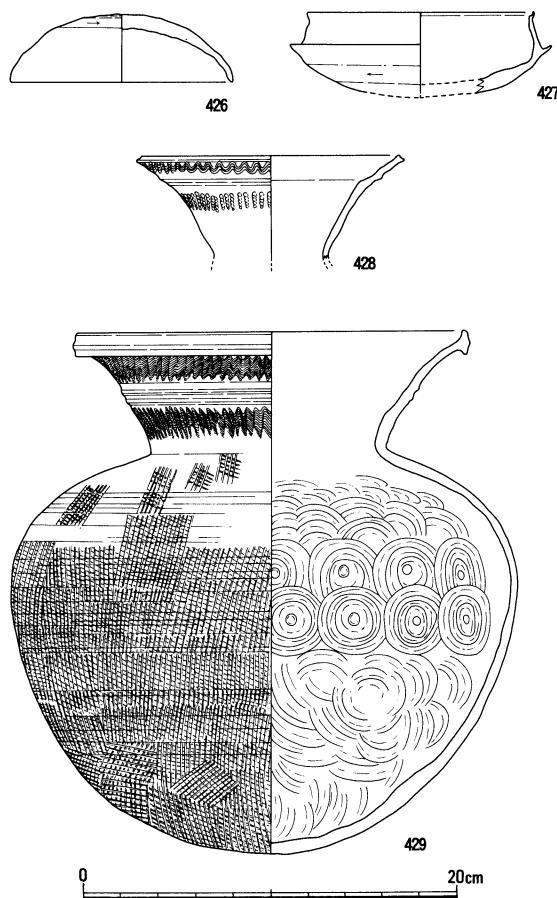
朝顔形埴輪（422）口縁が大きく外反し、端部は小さく下方へ屈曲させる。内外面ともに細かいハケメを施す。

人物埴輪（423・424）423は、櫂をかけた人物埴輪の左肩から背中の部分である。櫂の下には2～3本の線刻が施される。424は、人物埴輪の鼻の部分である。

家形埴輪（425）425は、家形埴輪の堅魚木と思われるが、上面に穿孔がなされる。



第111図 61号墳平面図（1：100）・土層断面図（1：40）



第112図 61号墳出土須恵器実測図 (1 : 4)

D 遺物の時期

須恵器については、周溝の底からの出土ではないが、TK47型式に相当するものと思われる。

(31) 61号墳

A 遺構 (第111図)

後述する74号墳の西側で検出した。既存のU字溝や宿泊棟の排水管などにより周溝は分断されるが、概ね全貌を確認できた。規模は東西方向10.0m、南北方向9.0mで、若干東西に長い方墳である。周溝の幅は1.0~3.0mあり、北溝がやや広い。残存の深さは0.1~0.3mである。

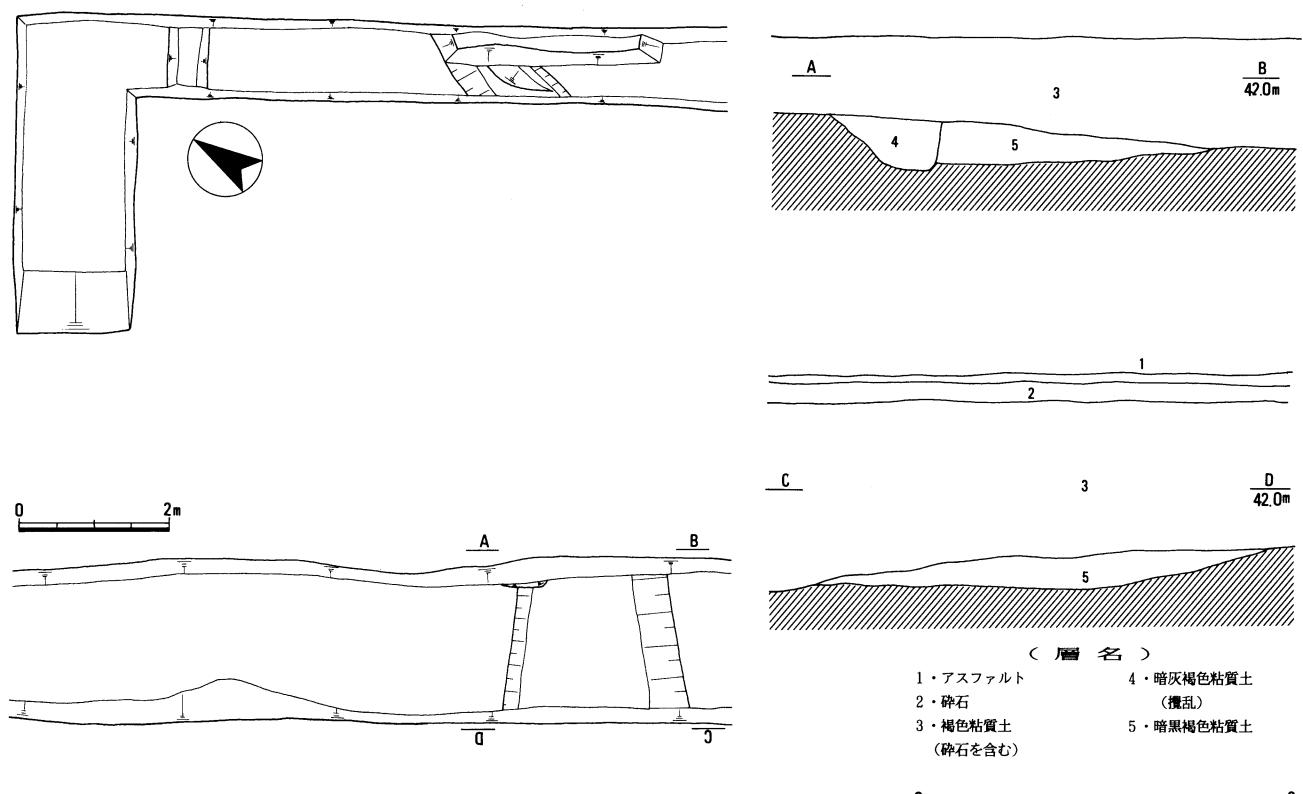
B 遺物出土状況

北溝から須恵器の杯身・杯蓋・壺・甕、土師器の高杯が出土した。甕(429)だけが周溝底から出土しており、他については当古墳に伴わない可能性もある。

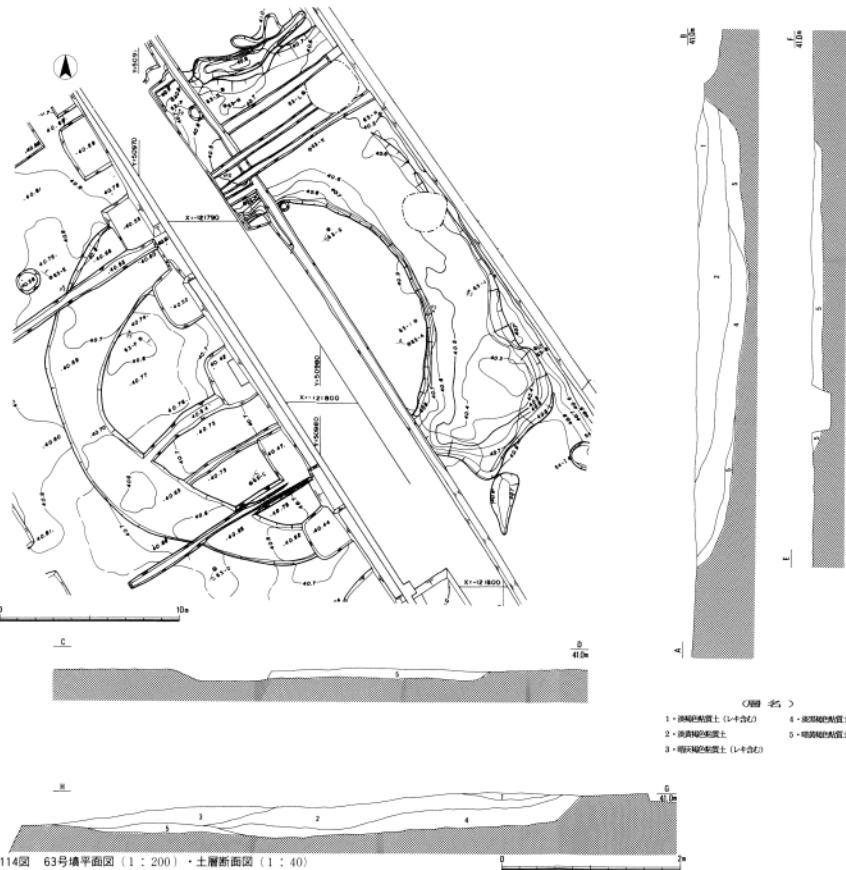
C 出土遺物 (第112図・図版34)

須恵器 (426~429)

杯蓋 (426) 天井部が丸く、器高の低い蓋で、稜は認められない。



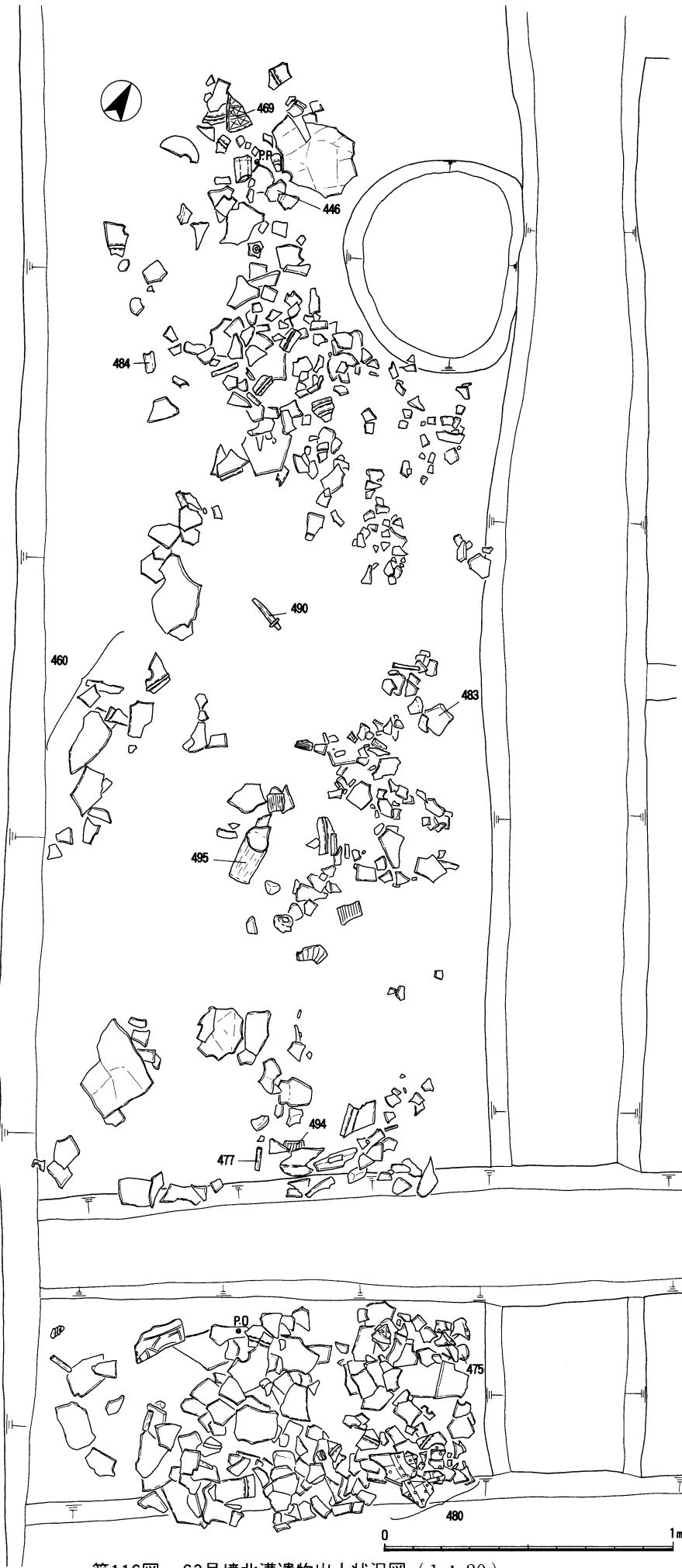
第113図 62号墳平面図 (1 : 100)・土層断面図 (1 : 40)



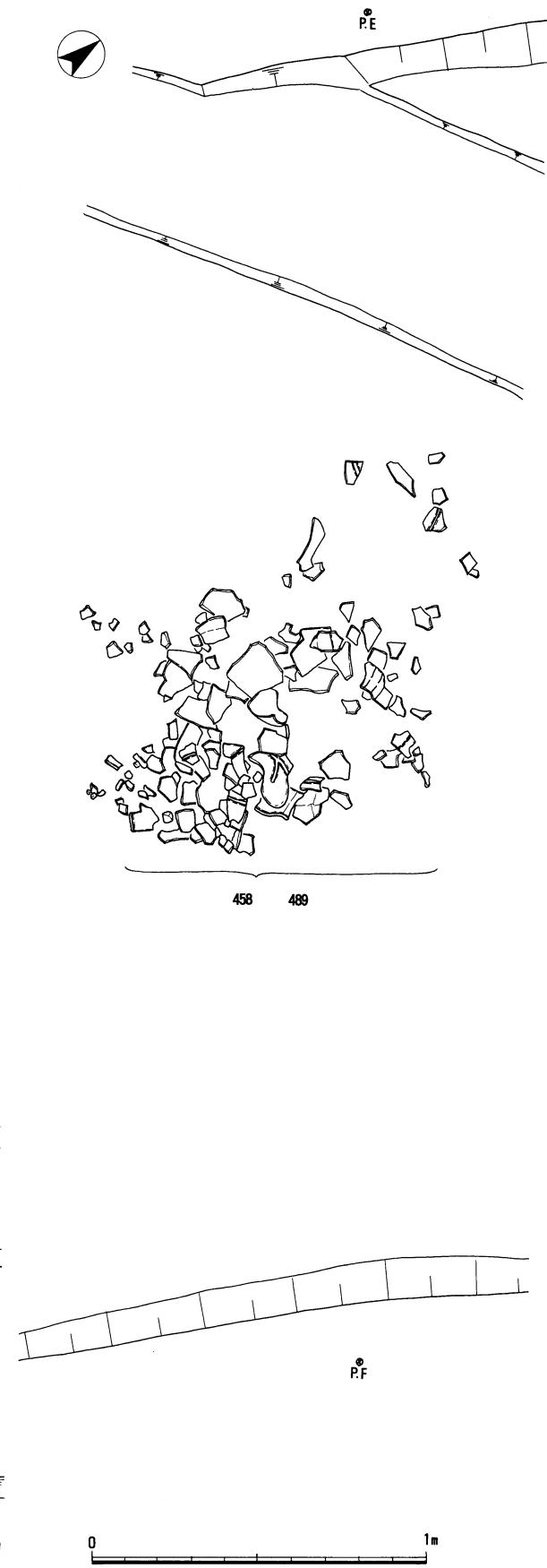
第114図 63号填平面図 (1:200)・土層断面図 (1:40)



第115図 63号墳東溝馬形埴輪出土状況図 (1 : 20)



第116図 63号墳北溝遺物出土状況図 (1 : 20)



第117図 63号墳西溝遺物出土状況図 (1 : 20)

杯身（427）底部は丸く、立ち上がりは長く垂直で、端部は先端を細くする。

甕（428）口縁は外反し、さらに小さな段をもって端部いたる。

甕（429）口縁は大きく外反し、端部は上下に屈曲させる。体部は、肩部がやや張り、内面には同心円のあて具痕跡が明瞭に残る。

D 遺物の時期

甕は口縁の凸帯に鋭さが消え、内面の同心円あて具痕跡が残るなど、TK47型式に相当するものと思われる。

（32）62号墳

A 遺構（第113図）

41号墳の北西部分で検出した。旧管理教育棟の西側の給水管設置およびL形擁壁設置に伴う立会調査で確認した。規模や方位など不明であるが、方墳の東溝と考えられる。周溝幅は1.0～2.4mで、残存の深さは0.2mである。円筒埴輪・形象埴輪片が出土した。

（33）63号墳

A 遺構（第114図・図版10・11）

26号墳の西側で検出した。旧屋内訓練場の建物基礎によって周溝はほぼ南北方向で2分割されるが、概ね全貌は確認できた。墳形は円墳で、規模は直径15.0mである。東側周溝部分が南へつながらず、また前述の54号墳の西溝の位置から考えると、東側に造り出しを持つ可能性がある。周溝は、北側が特に昭和時代のケーブル管設置の溝や攪乱でいびつである。周溝幅は3.6～5.9m、残存の深さは東から北溝にかけては0.5m程度あるが、南から西溝にかけての部分は旧屋内訓練場の削平によって0.1mしか残っていない。

B 遺物出土状況（第115～117図・図版11）

出土遺物には、須恵器・円筒埴輪・形象埴輪がある。特に形象埴輪には、馬形埴輪・家形埴輪・鹿形埴輪・人物埴輪（男子・女子）など豊富である。なお、馬形埴輪（496）は東溝（第115図）・武人埴輪（480）・家形埴輪・鹿形埴輪（490）は北溝（第116図）・人物埴輪（489）は西溝（第117図）からの出

土である。東溝から北溝にかけての形象埴輪は、周溝最下層の暗黄褐色粘質土から出土した。この層は、古墳築造後の早い段階で埋まったものと思われ、形象埴輪の出土場所は墳丘上の近い地点を示していると考えられる。

また、須恵器は北溝で、概ね完形に近い状態で出土している。しかしながら、出土した層位は暗黄褐色粘質土より上層の淡黒褐色粘質土を間に挟む、淡黄褐色粘質土からである。これは、ある程度周溝が埋まってから後に、この場所に据え置かれた可能性が考えられる。器種には、杯身（443～445）・杯蓋（435・436）・無蓋高杯（450）・甕（453・454）などがあるが、この古墳の築造年代を示す資料とは判断したい。なお、筒形器台（458）は、西溝の周溝底から出土しており、周りには人物埴輪（489）がある（第117図）。

C 出土遺物（第118～123図・図版34～41）

須恵器（430～458）

杯蓋（430～437）430～433は、天井部が丸く、稜は短い。431～433は、口径が大きい。434～437は、稜の痕跡がなく、天井部から口縁部にかけてなだらかなカーブを描く。端部は丸くおさめる。

杯身（438～445）438の立ち上がりは、長い。439～445の立ち上がりは短く内傾する。器高は低く、底部は丸い。

蓋（446～448）447は口径が15.6cmと大きく、天井部から口縁にかけてなだらかにカーブを描く、つまりは偏平な算盤玉状に、中央が窪む形状である。

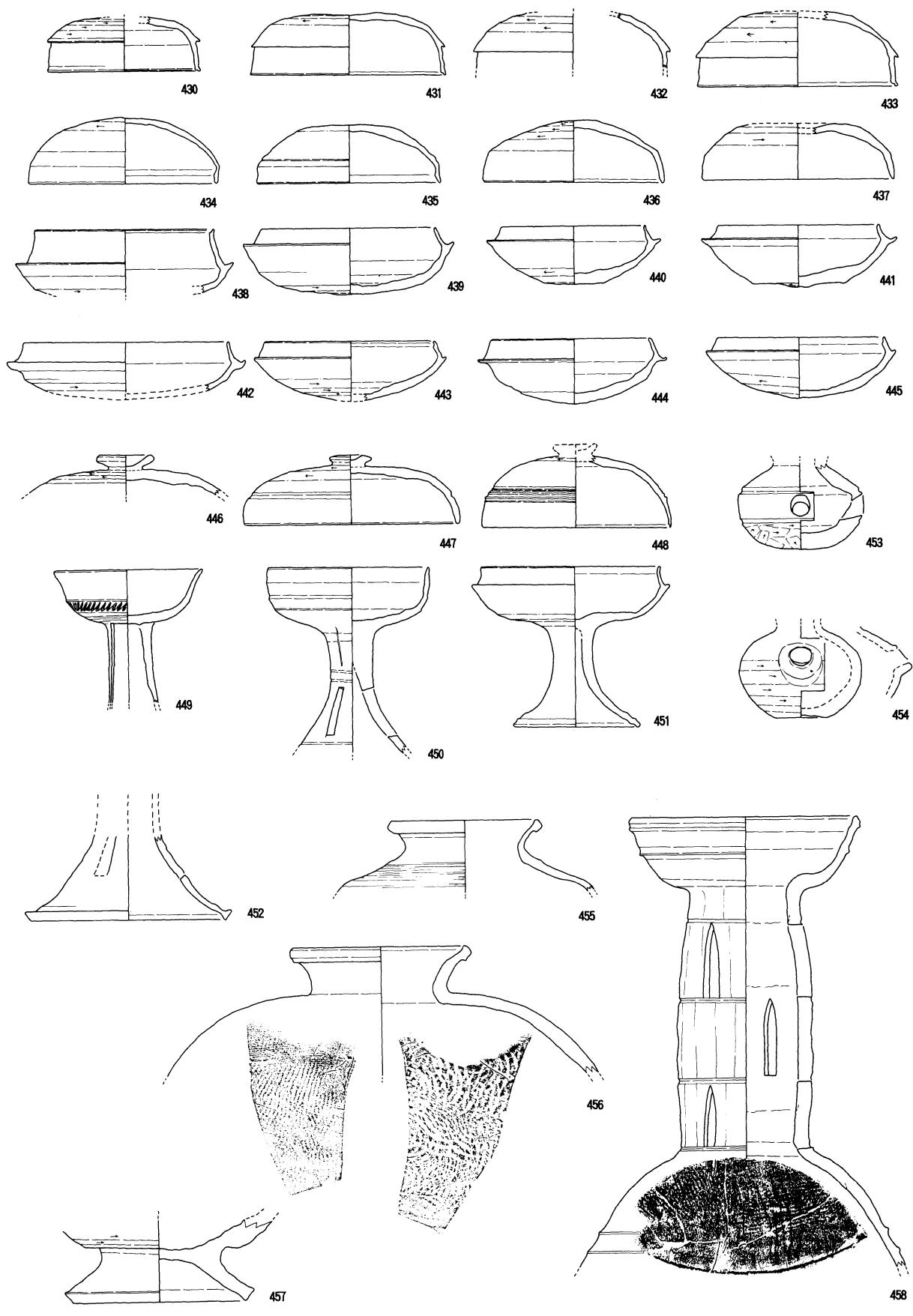
高杯（449～452）無蓋高杯と有蓋高杯があるが、いずれも長脚である。449は東溝の馬形埴輪（496）を検出中に出土した。

甕（453・454）ともにやや小型で、体部は偏平で底部は平底状を呈する。454の口は外側にやや突出する。

甕（455・456）口縁は短く「く」の字に外反し、端部は玉縁状に肥厚させる。

筒形器台（458）若干中ぶくれ状の筒部から緩やかに屈曲して杯部にいたる。台部は内湾気味に大きく開く。筒部には上部を尖らせた長方形の透孔が千鳥状に配される。

埴輪（459～465）

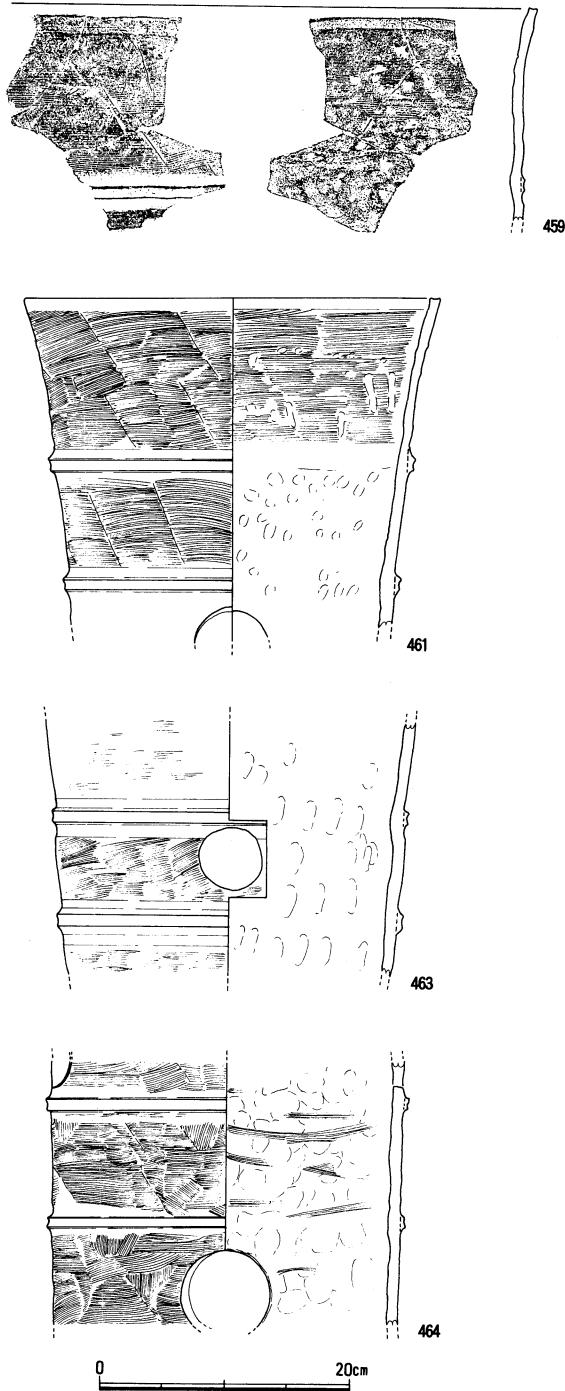


第118図 63号墳出土須恵器実測図 (1 : 4)

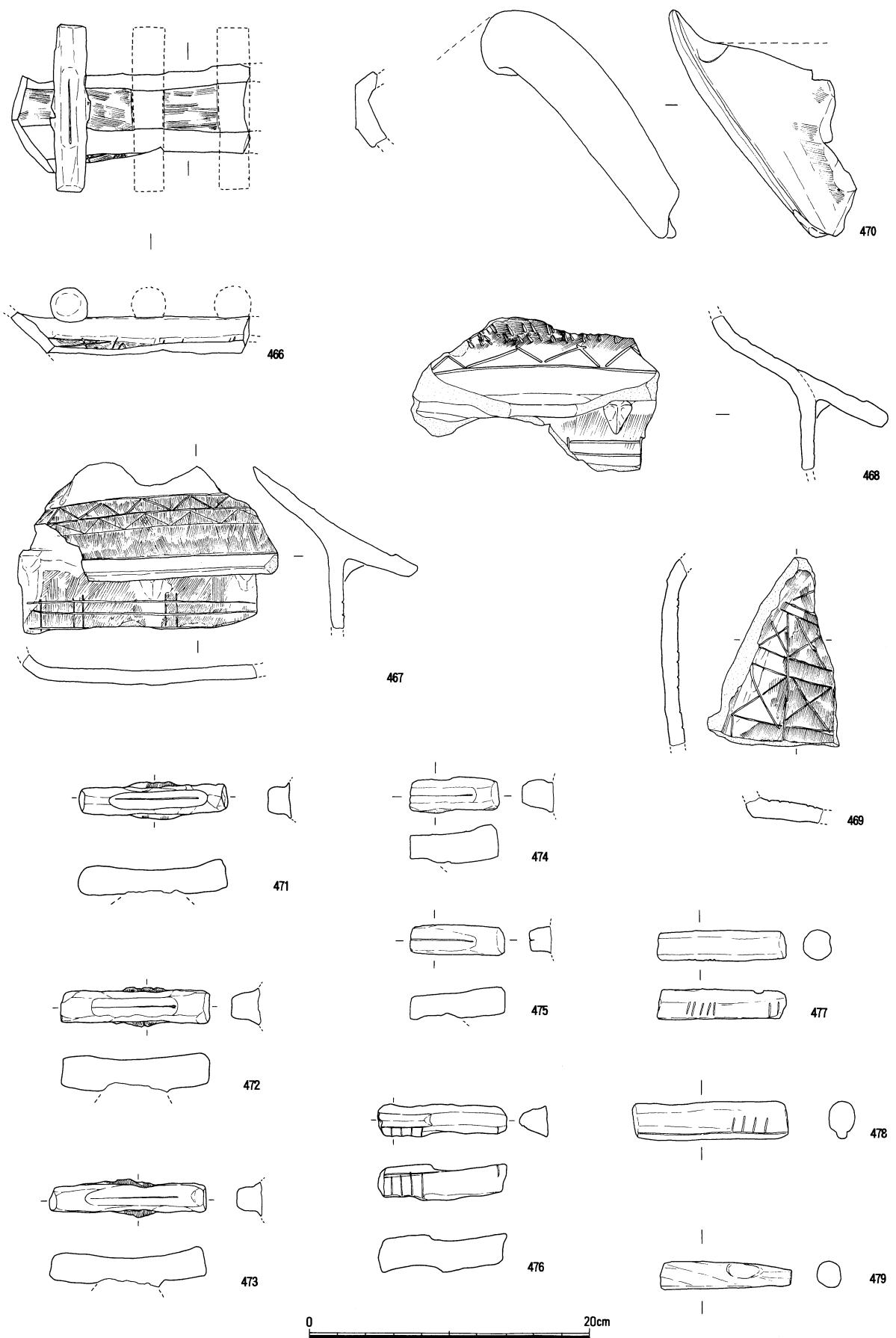
円筒埴輪（459～465） 全体を復元できるものはないが、突帯が3条に巡り4段に区切られた可能性がある。突帯は低く、断面はM字状を呈する。下から2段目に円形の透孔が2方向あけられる。口縁・底部とともに端部は面を持つものが多い。外面には幅の広いB種ヨコハケが若干斜め方向に施され、内面には指オサエの痕跡が残る。

家形埴輪（466～479） 466～470は家形埴輪の屋根もしくは壁の部分である。466には堅魚木の剥離し

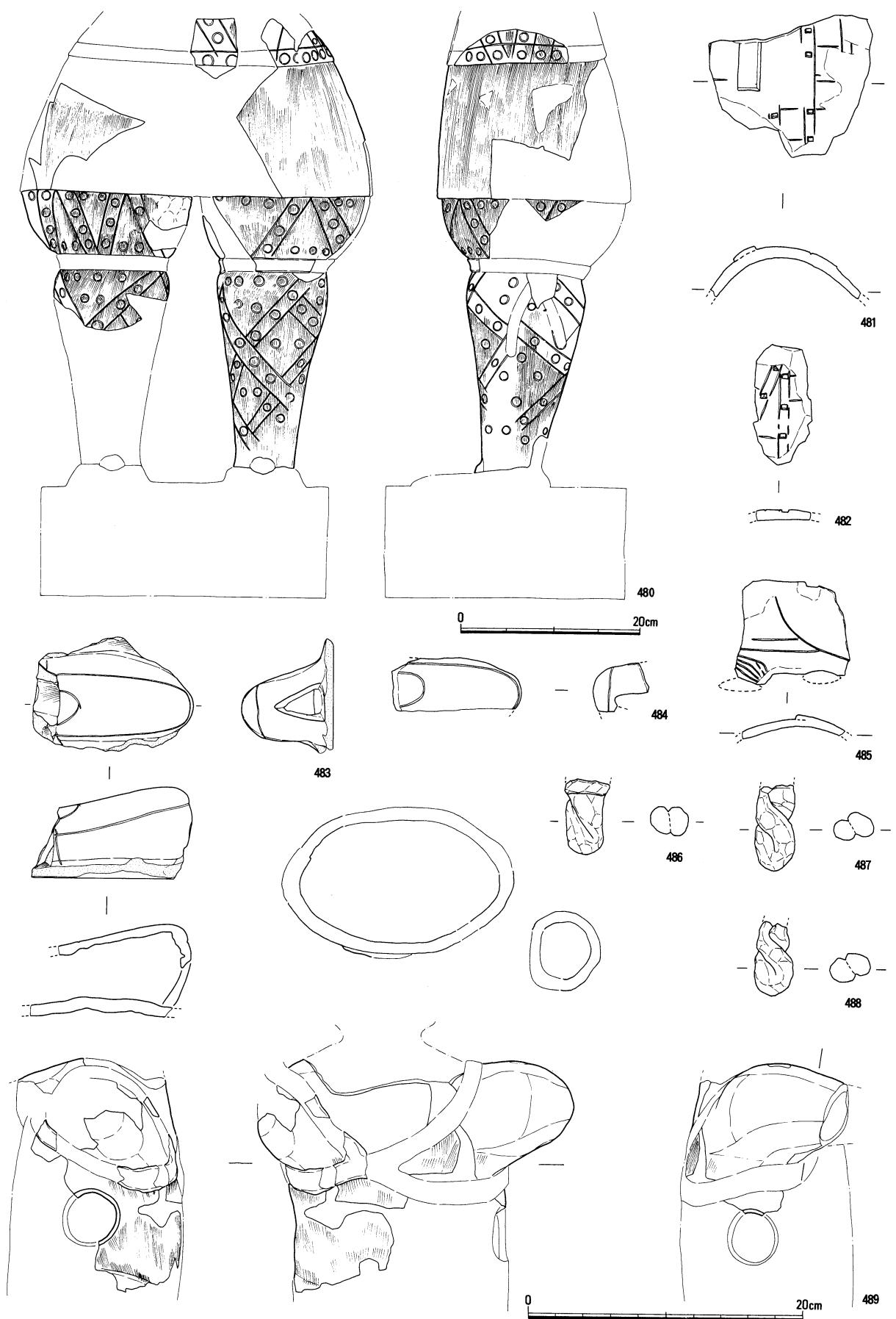
た痕跡が残る。467・468の屋根の部分には鋸歯文、壁の部分には2本の線刻で柱の表現をする。同一個体の可能性がある。470は切妻の家形埴輪の破風形の部分である。471～475は、堅魚木である。上面を滑らかに窪ませ、線刻を本体と平行に1本施す。断面形は台形を呈する。477・478は断面が円形を呈し、本体に直交する形で、線刻が数本施される。弓の可能性も考えられる。479も同じく断面円形の棒状のものである。鹿の角の可能性もある。



第119図 63号墳円筒埴輪実測図（1：6）



第120図 63号墳出土形象埴輪実測図 (1 : 4)

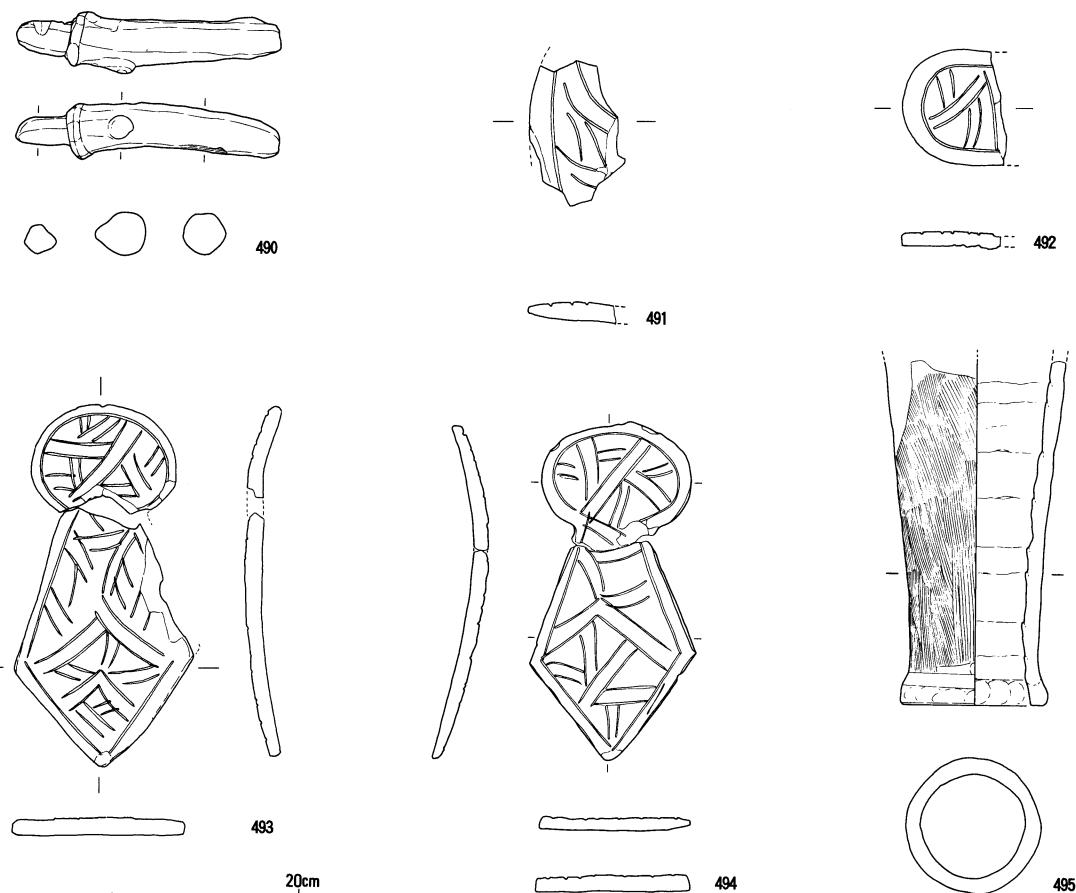


第121図 63号墳出土形象埴輪実測図 (480は1:6、その他は1:4)

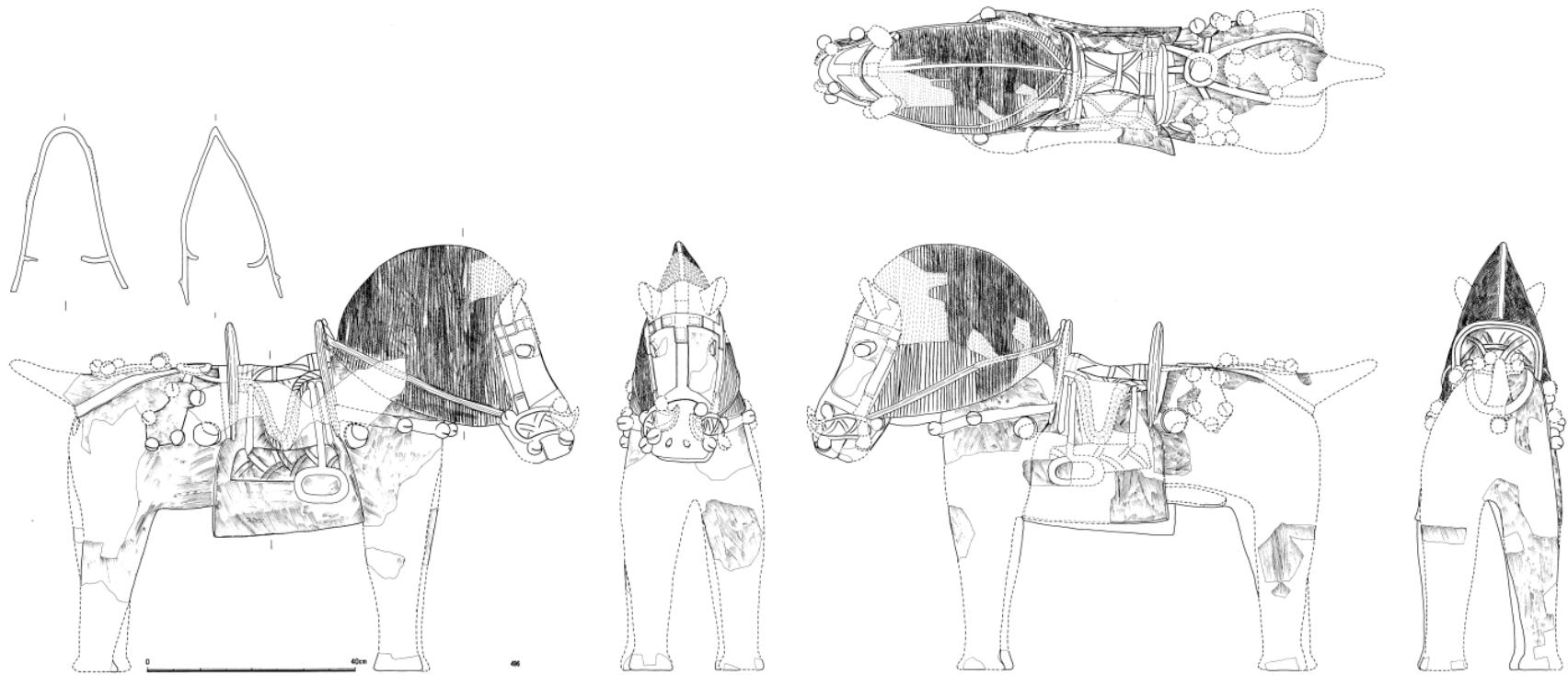
人物埴輪（480～489） 480は盛装した男子の下半身である。足先は欠損しているが、腿から踝にかけて2本の平行した線刻を斜めに交わらせ、紐状の模様の袴を表現する。袴の全面には、直径1.1cmの竹管文を施す。幅約2.5cmの脚結の結び目は、両側外面で行われたと思われる、左足には剥離した痕跡が残る。また、上衣にも同様の文様が施されるが、草摺に相当する部分にはハケメ調整がなされるだけで無文である。481・482は武人埴輪の挂甲の部分と思われる。小札をつなぐ革紐を線刻で、組紐を四角形の刺突文によって表現する。483・484は靴先の部分であろうと思われる。つま先前面には三角形の穿孔がなされ、外面には線刻が施される。480の靴先になる可能性もある。485は男子埴輪の顔の破片である。右目上に入墨が線刻で表現される。486～488は美豆良の破片で、粘土紐を半分に折り捩じらせる。489は人物埴輪の背中から肩の部分である。櫛の剥離痕跡が残り、背中やや左側で交わさせる。また、両脇下に円形スカシが開けられる。

鹿形埴輪（490） 490は鹿形埴輪の角である。若干湾曲し、短い枝が1つ表現される。はめこみ式である。

馬形埴輪（491～496） 491は鞍、492はF字状鏡板の破片と思われる。ともに直弧文風の線刻が施される。493と494は馬形埴輪の剣菱形杏葉である。断面は若干反り、表面には鞍・鏡板同様の直弧文風の線刻が施される。なお、内面には剥離痕跡が残る。495は馬形埴輪の脚部である。下端は段をつくり、蹄の表現をする。内側には輪積みをした粘土紐の接合痕跡が残る。496は頭部の後ろが特異な形状の馬形埴輪である。体長110.0cm、総高80.0cmで、鏡板・鞍・鈴・杏葉などを備えた、飾り馬である。首を傾ける顔面を鼻革・額革の2つのベルトで覆い、鈴付きのF字形鏡板が取りつく。目は上側を膨らませ、瞼の表現をする。頭部後ろの形状は、上側は大きく外に、下部は緩やかに弧を描く。断面形は山形を呈し、馬面からは段をつくる。外面には、細かいハケメを施した後、粗い線刻を縦方向に施す。手綱はこ

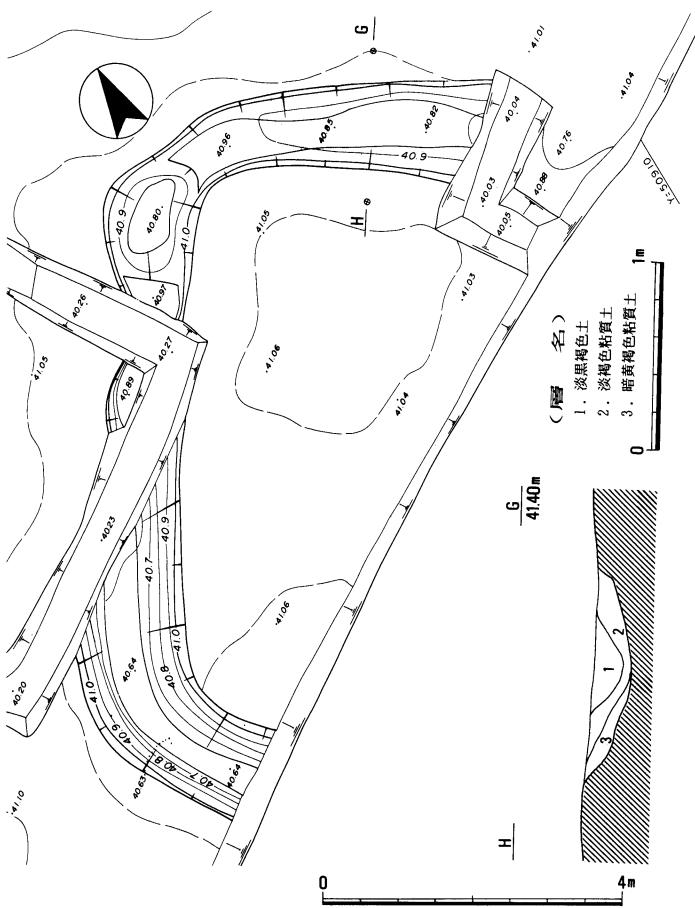


第122図 63号墳出土形象埴輪実測図（1：4）



第123圖 63號墳出土馬形埴輪実測図（1：6）

の線刻の上に表現され、前輪の前で捩じらせて終わる。胸繫は足の上部に表現され、前輪の下部に取りつく。なお、胸繫の表面に鈴が付けられる。鞍部は前輪・後輪が垂直にたてられ、ともに外側に2本の線刻で直弧文風に施される。障泥の吊り下げ帯は、鞍轡下端の綾杉文を施した紐状の部分から下がる。帯の上部は半円形を呈しており、孔を通して外側に出てきているようである。また、帯の下部は先端が尖り、この部分に外側の障泥を小振りにした形の線刻が施される。この線刻の外側に、楕円形の輪鎧が貼り付けられる。なお、障泥は正面から見て右側は幅23.0cm、左側はやや大きく幅27.0cmである。尻繫の環で表現された雲珠からは左右と尾方向の三方に5つの鈴が付けられた剣菱形杏葉が垂れ下がる。脚部は下にいくにつれ細くなり、段をつくることで蹄を表現する。尻尾については欠損しており、短く切り革紐で縛る表現に復元をした。なお、前足の胸繫下と後輪の後方の両側面に、尻尾の下に円形透しが穿孔される。



第124図 65号墳平面図 (1:100)・土層断面図 (1:40)

D 遺物の時期

須恵器については、北溝の周溝底から浮いた状態で出土した杯身・杯蓋・甌はTK43型式くらいと思われる。しかし、馬形埴輪のはじめ多くの形象埴輪は5世紀末頃と考えられるため、大きな時期の開きが存在する。須恵器によって時期を決めるに苦慮するが、筒形器台・甌などから判断して、5世紀末から6世紀前半と幅をもって考えることにする。

(34) 65号墳

A 遺構 (第124図・図版12)

67号墳の東側で検出した。方墳の西側約2分の1程度が確認でき、他の部分については調査区外である。南北方向の規模は7.5mで、東西方向は不明である。昭和の待避壕および旧陸軍の第一気象連隊の建物基礎によって周溝は分断されている。周溝幅は1.06~1.12m、残存の深さは0.2mである。

B 遺物出土状況 (第125図・図版12)

西溝から須恵器の杯身(504~511)・杯蓋(497~503)・高杯・甌(512)などが出土した。杯身・杯蓋は西溝のほぼ中央から、高杯・甌は西溝の北側からの出土である。これらの遺物は周溝埋土の上層、黒褐色粘質土からの出土であり、周溝がある程度埋まつた後、据え置かれた可能性がある。なお、上記の須恵器の杯蓋はすべて開かれた状態での出土である(第125図)。現存では杯身5個体・杯蓋5個体であるが、昭和時代の待避壕によって削平を受けているため当時のままではないものと思われるが、祭祀の痕跡を示す可能性が考えられる。

C 出土遺物 (第126図・図版42)

須恵器 (497~512)

杯蓋(497~503) 天井部は丸く、稜は短く鋭さに欠ける。口縁端部には内傾する明瞭な段を有する。

杯身(504~511) 立ち上がりは短く内傾し、口縁端部には明瞭な段をもつ。底部は丸い。

甌(512) 口縁は大きく外反し、段をなしてさらに端部へつづく。体部はやや偏平で、波状文は雑な感がある。

D 遺物の時期

MT15型式に相当するものと思われる。

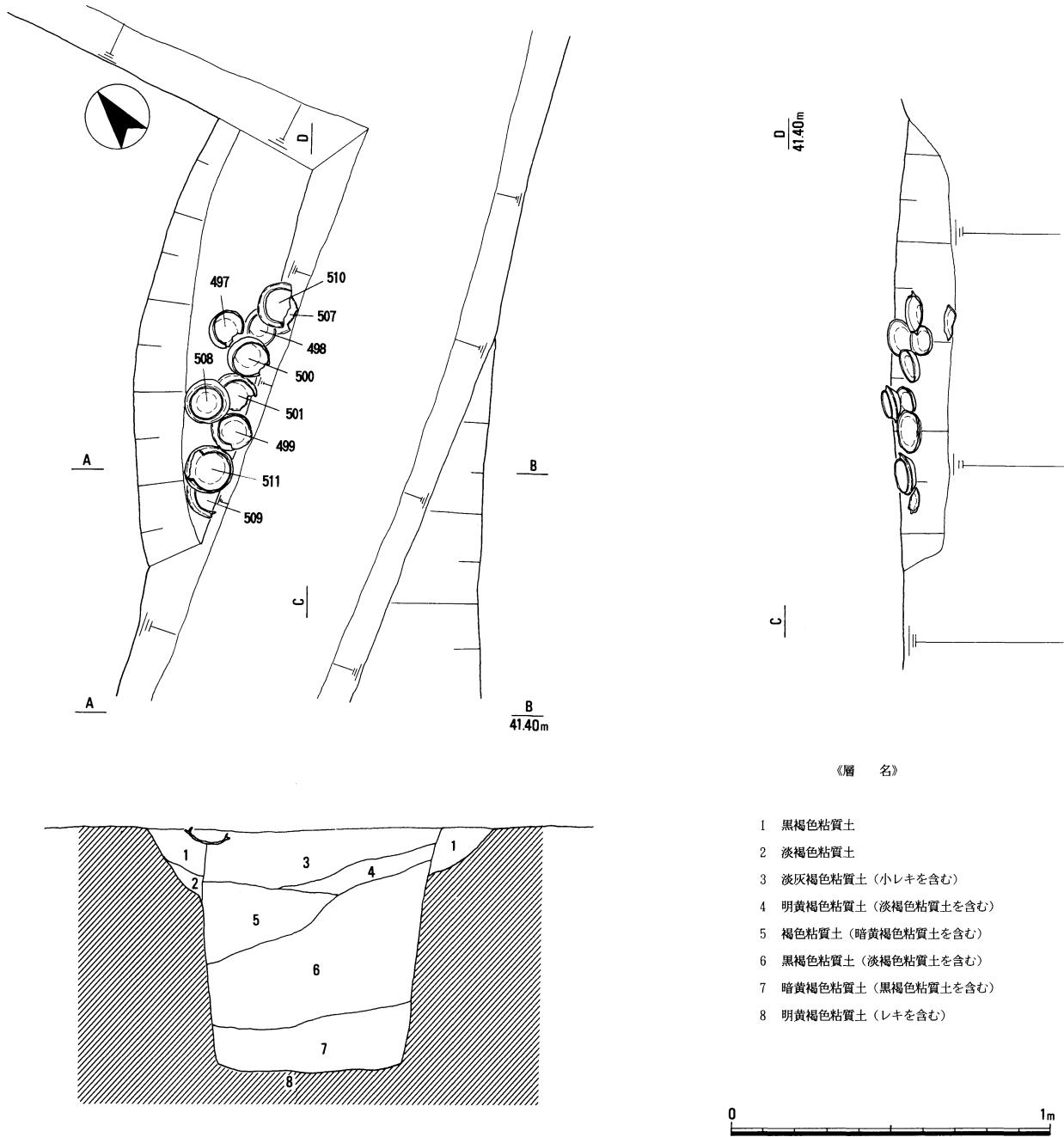
(35) 66号墳

A 遺構 (第127図・図版12)

65号墳の南西側で検出した。南東隅部分は調査区外である。東西方向は5.5m、南北方向は5.2mの方墳である。この古墳も昭和時代の待避壕や、既存の水道管・排水管などによって周溝は分断される。周溝の幅は0.68m、残存の深さは0.2mである。

B 遺物の出土状況

西溝から須恵器の杯蓋(513)が出土したにとどまる。



第125図 65号墳西溝遺物出土状況図 (1 : 20)

C 出土遺物 (第128図)

須恵器 (513)

杯蓋 (513) 天井部は丸く、稜は短くて鋭さに欠ける。口縁端部には内傾する明瞭な段を有する。

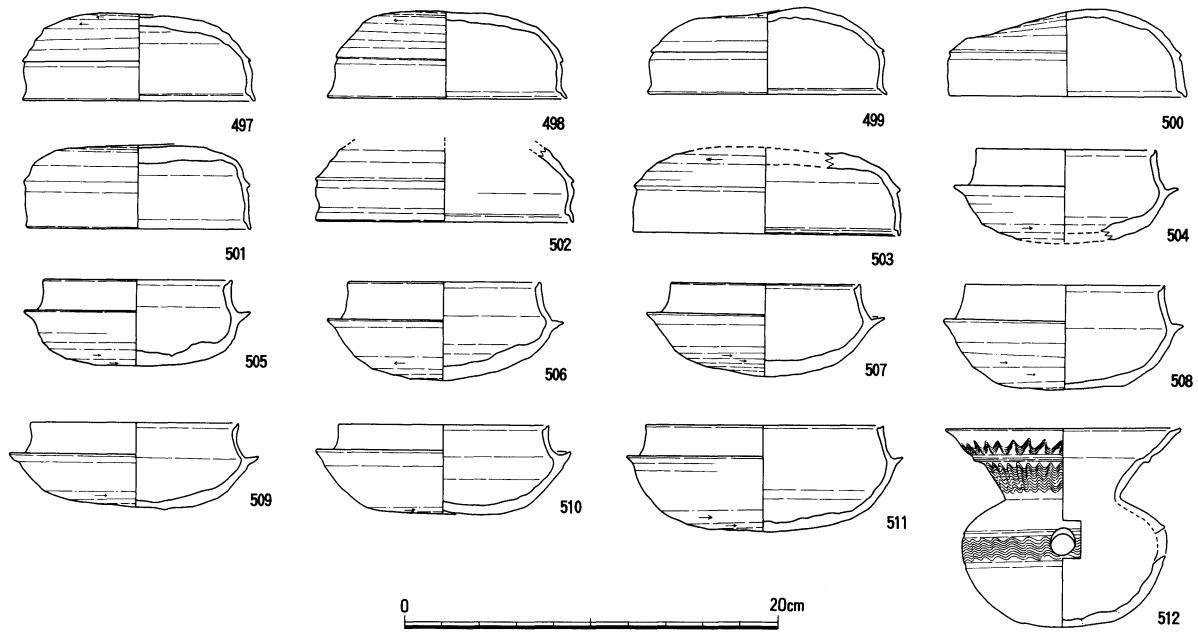
D 遺物の時期

MT15型式に相当するものと思われる。

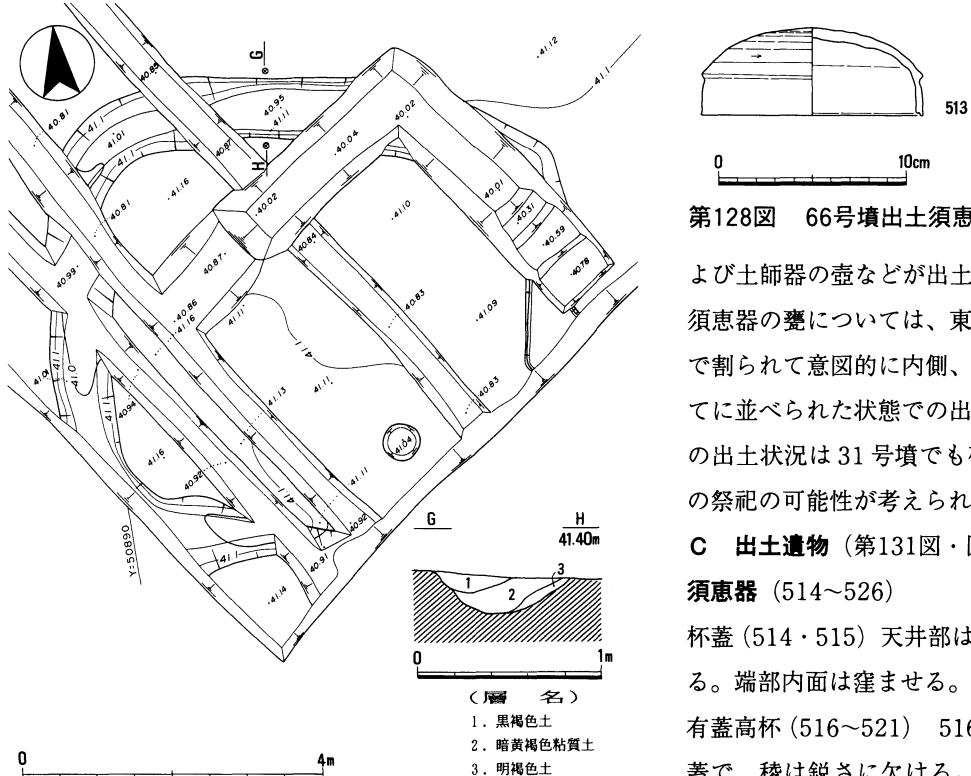
(36) 67号墳

A 遺構 (第129図・図版12)

66号墳の北側で検出した。旧第1補助棟による攪



第126図 65号墳出土須恵器実測図 (1 : 4)



第127図 66号墳平面図 (1 : 100)・土層断面図 (1 : 40)

乱のため北溝については確認はできず、南北方向の規模は不明である。墳形は方墳で、東西方向の規模は11.5mを測る。周溝の幅はほぼ一定で、幅1.8~2.7m、残存の深さは0.18~0.20mである。

B 遺物出土状況 (第130図・図版12)

東溝から須恵器の有蓋高杯・壺・子持壺・甕、お

第128図 66号墳出土須恵器実測図 (1 : 4)

より土師器の壺などが出土した (第130図)。特に、須恵器の甕については、東溝の南寄りから、その場で割られて意図的に内側、すなわち凹面を上向きにして並べられた状態での出土である。このような甕の出土状況は31号墳でも確認されている。何らかの祭祀の可能性が考えられる。

C 出土遺物 (第131図・図版43)

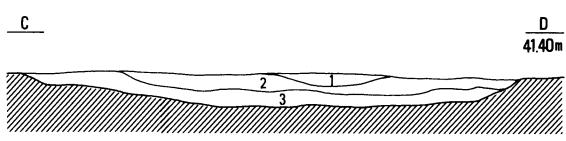
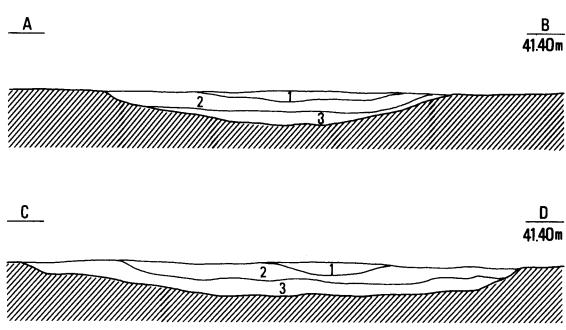
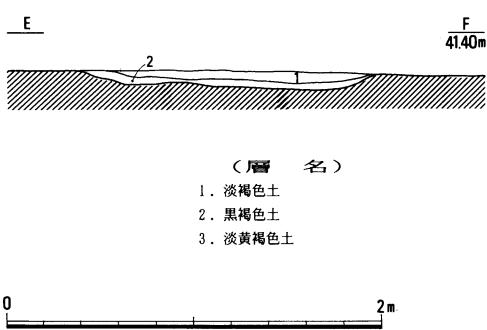
須恵器 (514~526)

杯蓋 (514・515) 天井部は丸く、器高は高い感がある。端部内面は窪ませる。

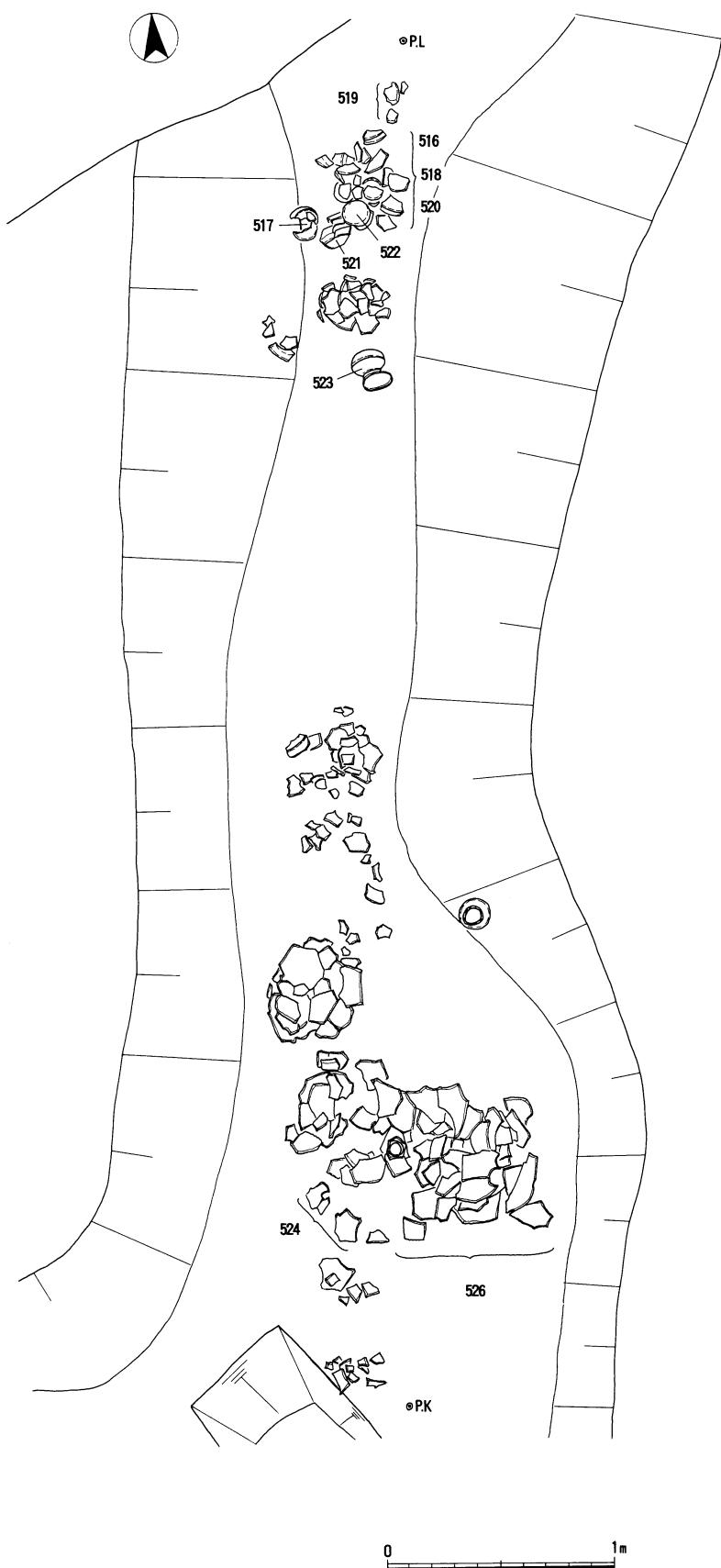
有蓋高杯 (516~521) 516~518は、天井部が丸い蓋で、稜は鋭さに欠ける。519~521は「八」の字状に短く広がる脚部で、端部は外方に屈曲させ、さらに下方へ折り曲げられる。

壺 (522・523) 広い口頸部から、大きく外反する口縁部を有する。口径は、体部最大径とほぼ同じである。

子持壺 (524) 丸い肩部に4個体のやや偏平な小壺を配する。なお、子壺の底部は空洞にして、貼り付



第129図 67号墳平面図 (1 : 100) · 土層断面図 (1 : 40)



第130図 67号墳東溝遺物出土状況図 (1 : 20)

けられる。

甕 (525・526) 526は、大型の甕で底部はやや尖った感がある。

D 遺物の時期

T K47型式に相当するものと思われる。

(37) 68号墳

A 遺構 (第132図・図版12)

67号墳の西側で検出した。昭和時代の攪乱溝が多く、確認できた部分は東溝に限られる。規模については不明であるが、周溝幅は0.9m、残存の深さは0.1mである。遺物は、東溝から土師器片が出土したにとどまる。

(38) 69号墳

A 遺構 (第133図・図版12)

51号墳の西側で検出した。昭和時代の攪乱のため、確認できたのは、北溝と東溝の一部に限られる。東西方向の規模は不明であるが、南北方向はおそらく7.5m程度であろう。周溝幅は0.6m、残存の深さは0.1mである。遺物は、北溝から須恵器の杯身片が出土したにとどまる。

(39) 70号墳

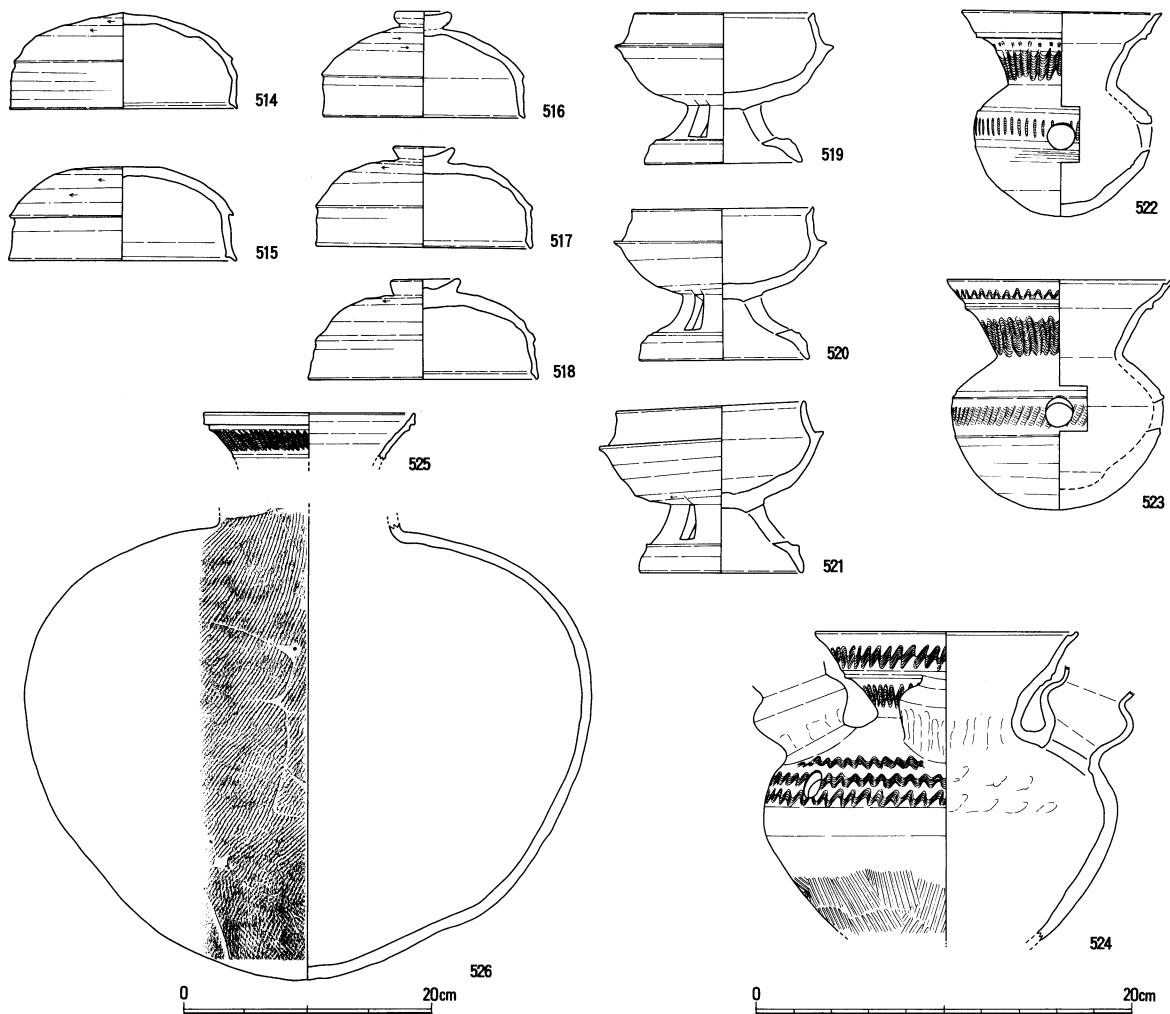
A 遺構 (第135図・図版12)

第5次調査とL形擁壁設置に伴う立会調査で確認した。67号墳の西側に当たる。南北方向の規模は不明であるが、東西方向は6.0mの方墳であろうと思われる。周溝幅は、1.5~4.0mで東溝が広い。残存の深さは、0.6mである。出土遺物は東溝から須恵器の甕片・土師器片・円筒埴輪片がある。

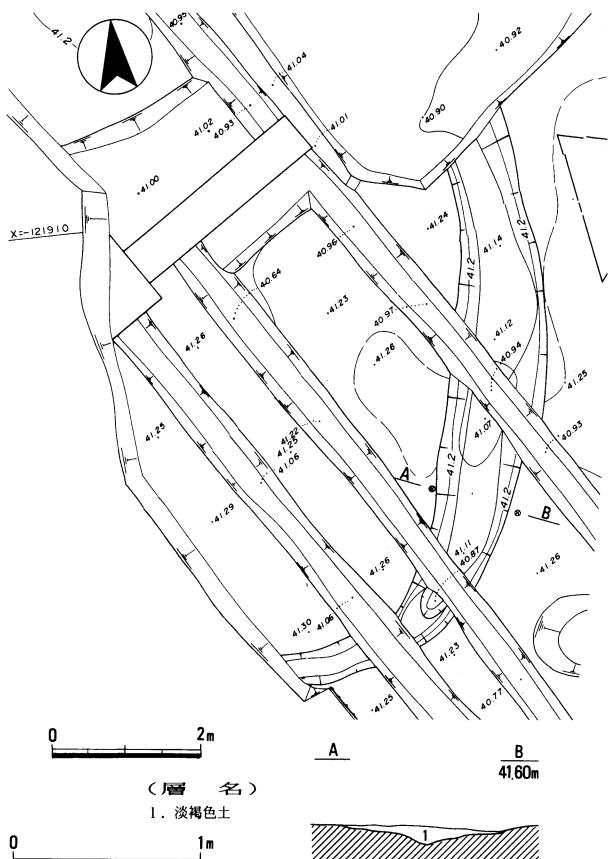
(40) 71号墳

A 遺構 (第134図・図版13・14)

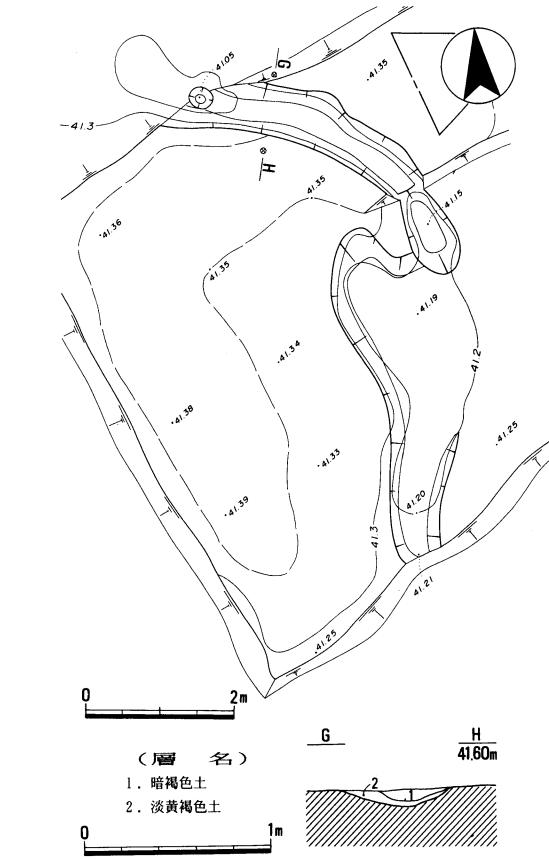
28号墳の北側で検出した。直径23.0mの円墳である。この古墳は、調査で確認できた中では最大の規模である。南西側の周溝外側はやや内側に入り込み、この部分の周溝は狭い。しかし全体的には、周溝の幅は5.6~7.3mと広く、残存の深さも0.5~0.88mと深い。



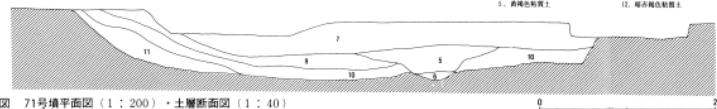
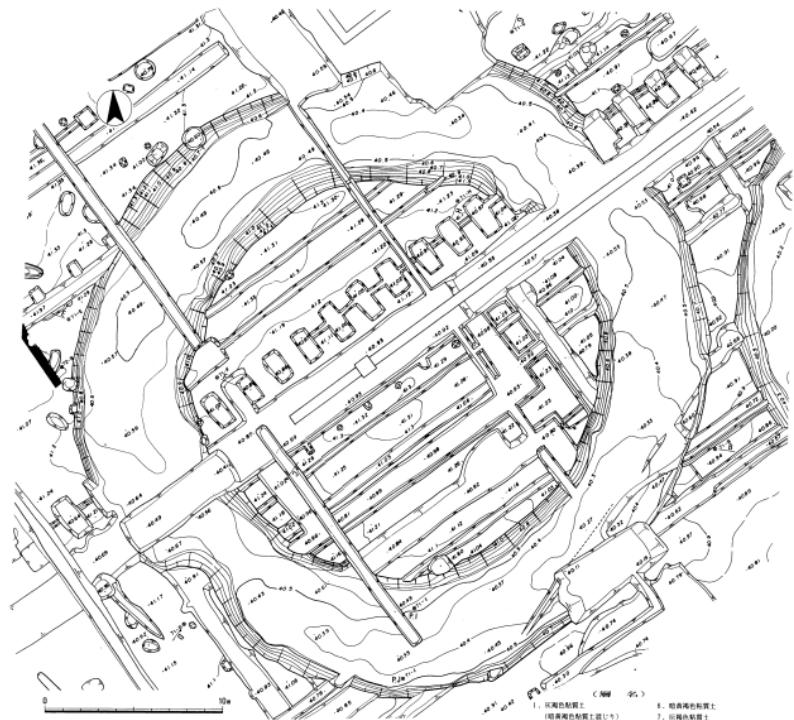
第131図 67号墳出土須恵器実測図 (526は1:6、その他は1:4)



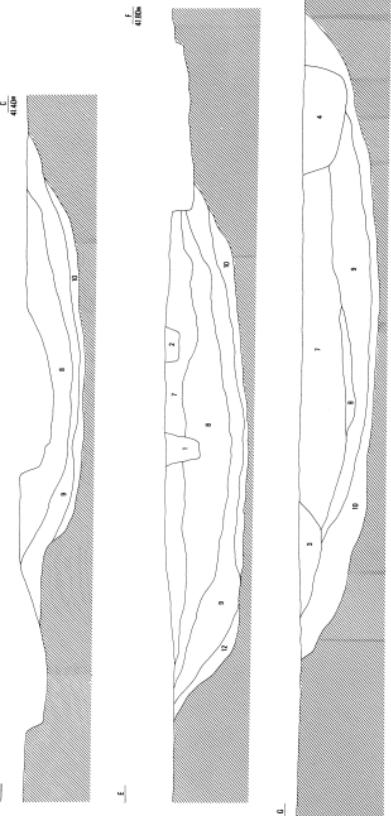
第132図 68号墳平面図 (1:100)・土層断面図 (1:40)



第132図 69号墳平面図 (1:100)・土層断面図 (1:40)



第134図 71号填平面図 (1:200)・土層断面図 (1:40)



B 遺物出土状況（第136図・図版13）

遺物には、須恵器・土師器・円筒埴輪・形象埴輪がある。須恵器には、有蓋高杯蓋（527～531）・有蓋高杯（535～542）・脚付短頸壺（532～546）・短頸壺（547）・壺（548・549）・器台（552）など器種は多く、南溝で集中して出土した（第136）。須恵器・土師器の出土量の対して、圧倒的に円筒埴輪の出土量は多く、整理箱に50箱は優に越える。また、形象埴輪には人物埴輪（573～575）・家形埴輪（576）がある。

C 出土遺物（第137・138・144図・図版44・45）

須恵器（527～556）

蓋（527～534） 527～531は、有蓋高杯の蓋になると思われる。天井部が丸く、稜は比較的鋭さに欠ける。これに対して532～534は、口径が小さく丸い天井部から曲線を描き口縁にいたる。天井部にはカキメを施す。短頸壺の蓋になろうか。

有蓋高杯（535～542） 脚部は「ハ」の字状に開き、端部は下方へ屈曲させる。カキメを施し、脚部径は大きいものが多い。

短頸壺（543～547） 547は、口縁部に波状文を、肩部には刺突文を施す。

壺（548・549） 口縁部に細かい波状文を施す。

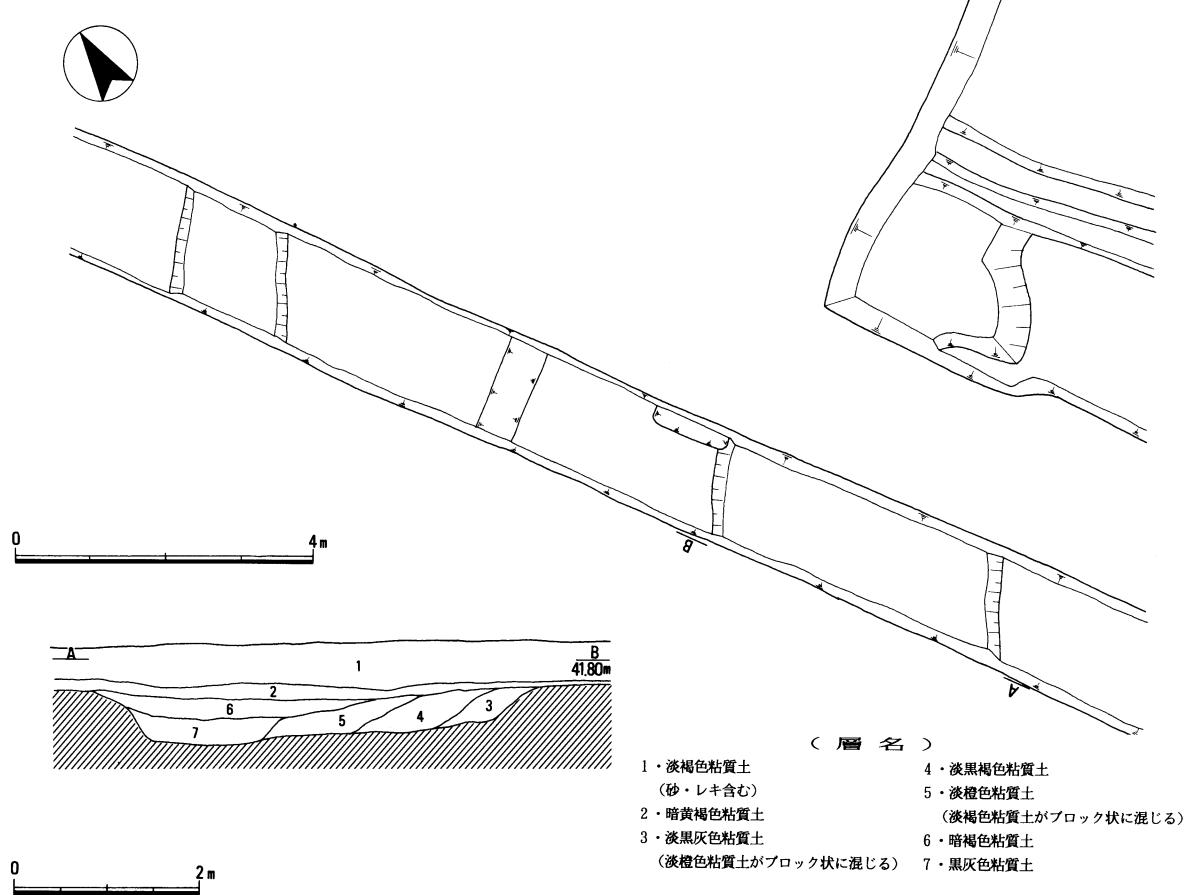
壺（551） 体部に対して口縁部が狭い、徳利状の壺である。底部は欠損のため形状は不明である。

器台（552～556） 552・553は、緩やかに外反して、端部付近で内方へやや屈曲させる。端部は平坦な面をつくる。554～556は、筒形器台で接点はないが、おそらく同一個体であろう。細長い筒部の上部に、偏平な壺胴部状の表現をさせる。筒部には少なくとも3条施し、その間に2条の波状文を巡らす。筒部の下半は外側に屈曲させ、さらに径を拡大し「ハ」の字を開く。

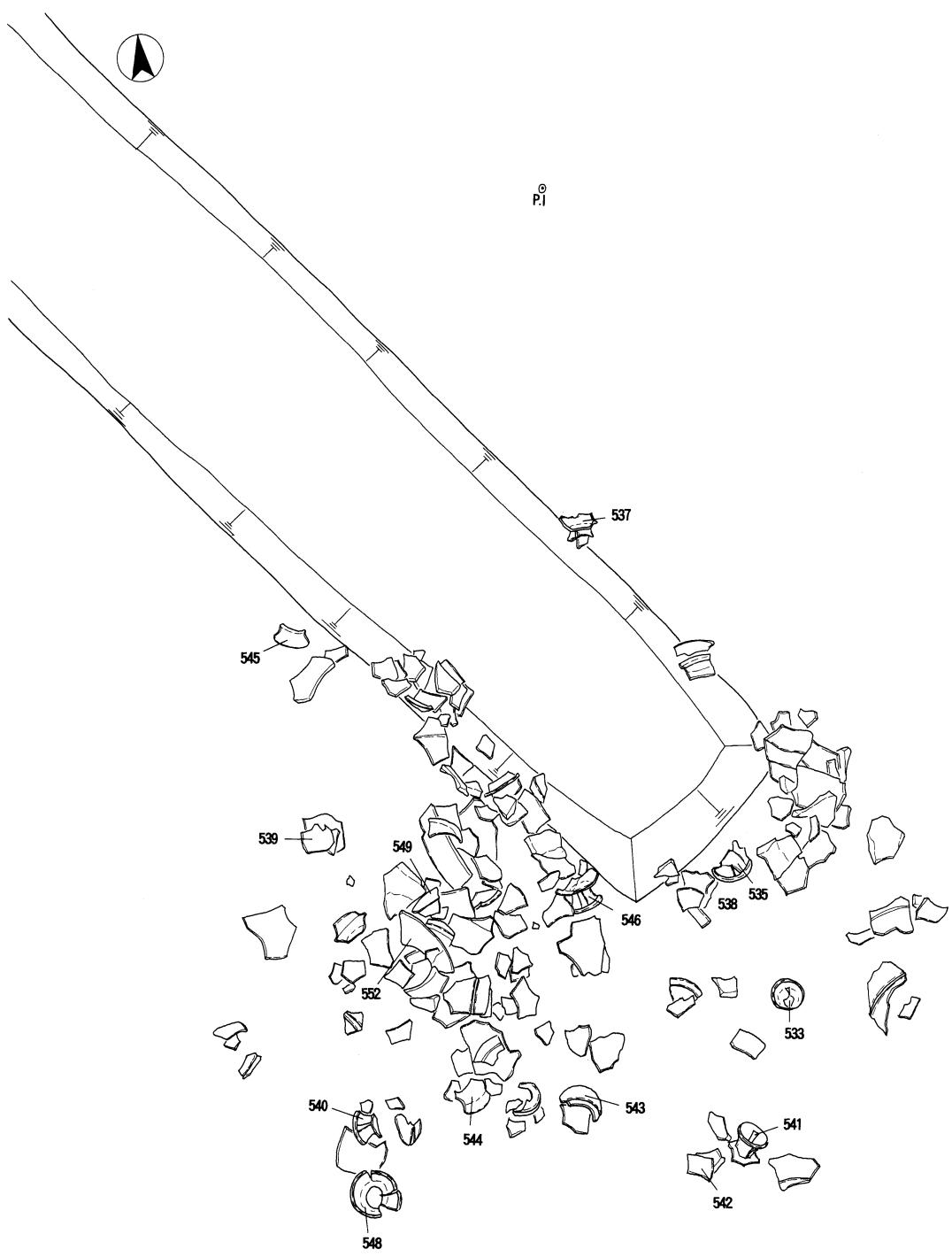
埴輪（558～576）

朝顔形埴輪（558～560） 558は口縁端部を上に肥厚させ、559は端部を折り曲げる。

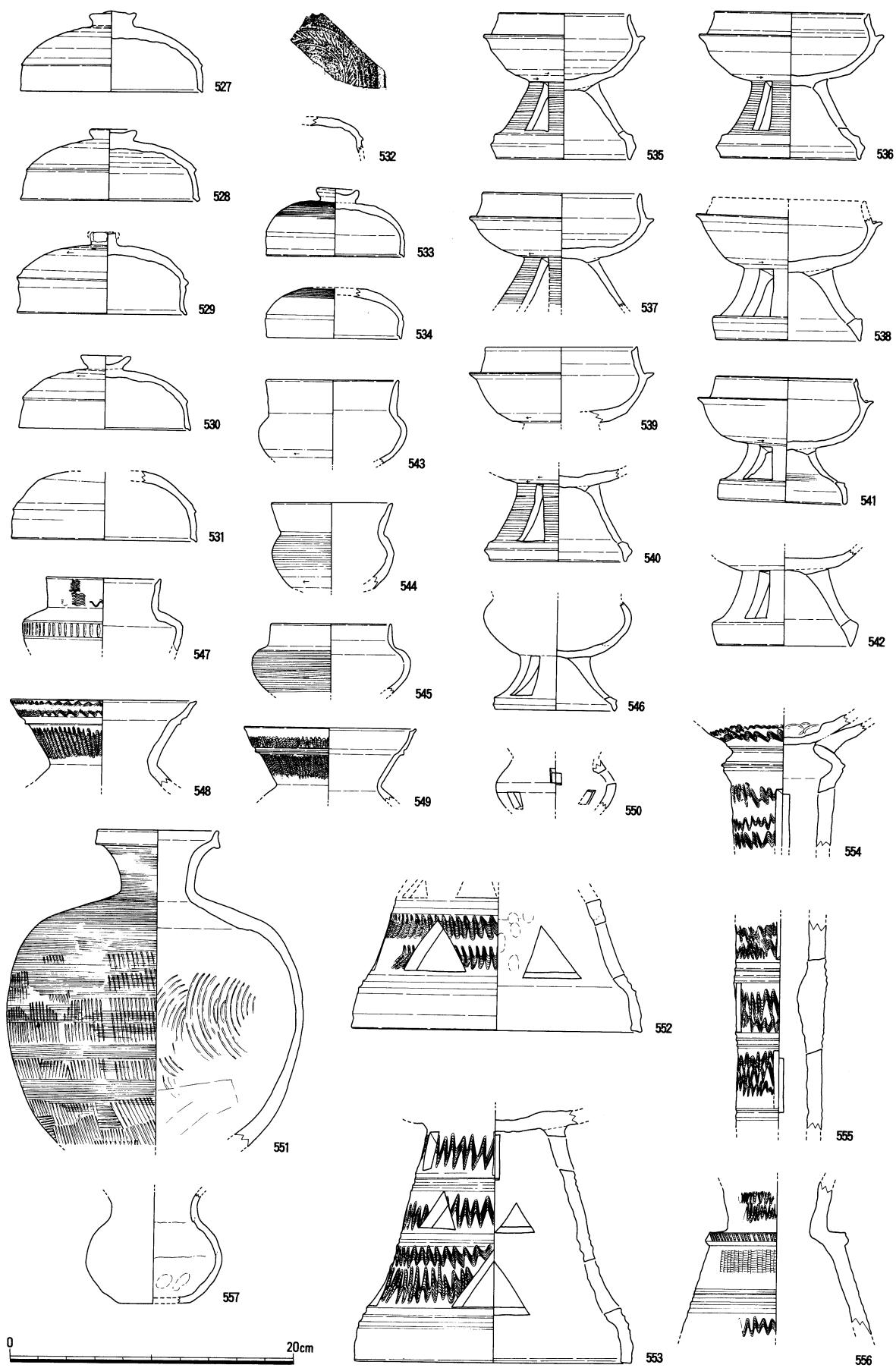
円筒埴輪（561～568） 口縁端部の形状が分かるものは少ないが、561は上面を窪ませる。底部の形状には大きく3つの種類が存在する。562～565は平坦



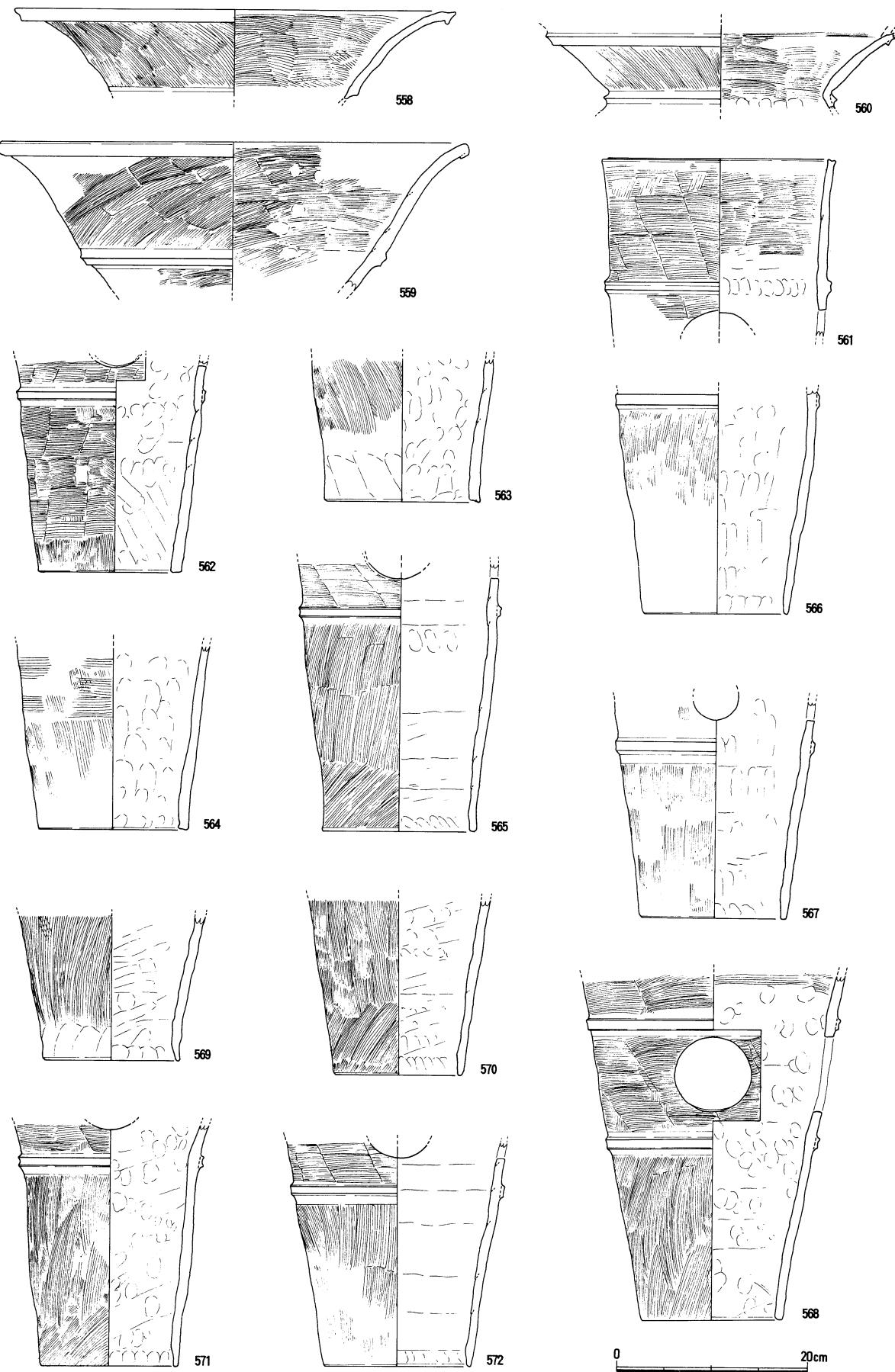
第135図 70号墳平面図（1：100）・土層断面図（1：40）



第136図 71号墳南溝遺物出土状況図 (1 : 20)



第137図 71号墳出土須恵器実測図 (1 : 4)



第138図 71号墳出土朝顔形・円筒埴輪実測図（1：6）

な面を持ち、566～568は端部を丸くおさめる。また、569～572は指オサエによって内面を窪ませる。最下段の外側にはタテハケを施し、第2段目などにはやや幅の広いB種ヨコハケを若干斜め方向に施すものが多い。なお、タガについては低く、断面はM字状を呈する。

人物埴輪（573～575）573は人物埴輪の鼻周辺の部分である。574は腹で、おそらく巫女埴輪が手にするものと思われる。575は断面円形の棒状のもので、片側を肥大させ、面取りを行う。

家形埴輪（576）576は、堅魚木である。

D 遺物の時期

他の古墳と時期を比較する杯身・杯蓋がないが、蓋の稜の形状・有蓋高杯の脚部に施されるカキメなどから考えて、MT15型式に相当するものと思われる。なお、筒形器台については古い様相を呈する可能性がある。

(41) 72号墳

A 遺構（第139図・図版13・14）

71号墳の西側で検出した。東西方向に6.0m、南北方向に6.5mの方墳である。周溝の幅は0.55～0.8m、残存の深さは0.06～0.2mで、北東隅と南西隅の周溝は途切れる。

B 遺物出土状況（第140図・図版14）

東溝の中央、底からは浮いているが、須恵器の杯身（577）が正立状態で1個体出土し（第140図）、また南溝からは土師器の壺片が出土した。

C 出土遺物（第141図・図版45）

須恵器（577）

杯身（577）立ち上がりは内傾し、口縁端部の内面には段を有する。

D 遺物の時期

TK23型式に相当するものと思われる

(42) 73号墳

A 遺構（第142図・図版13）

71号墳の北西側で検出しが、旧屋内訓練場の建設に伴う攪乱のため、南溝の一部しか確認できていない。規模については不明であるが、墳形は方墳と思われる。周溝幅は0.9m、残存の深さは0.3mで

ある。周溝を検出中に須恵器の杯身・杯蓋・有蓋高杯（578・579）と土師器の台付甕の脚部（580）が出土した。

B 出土遺物（第143図・図版45）

須恵器（578～580）

有蓋高杯（578・579）578は、杯部が深く、脚部は短く「ハ」の字を開く。端部は平坦である。579の脚部は「八」の字に広がり、端部は下方に屈曲させる。また、脚部上方にはカキメを施す。

土師器（580）

台付甕（580）「ハ」の字を開き、端部内面はやや肥厚させる。

C 遺物の時期

TK47型式に相当するものと思われる。

(43) 74号墳

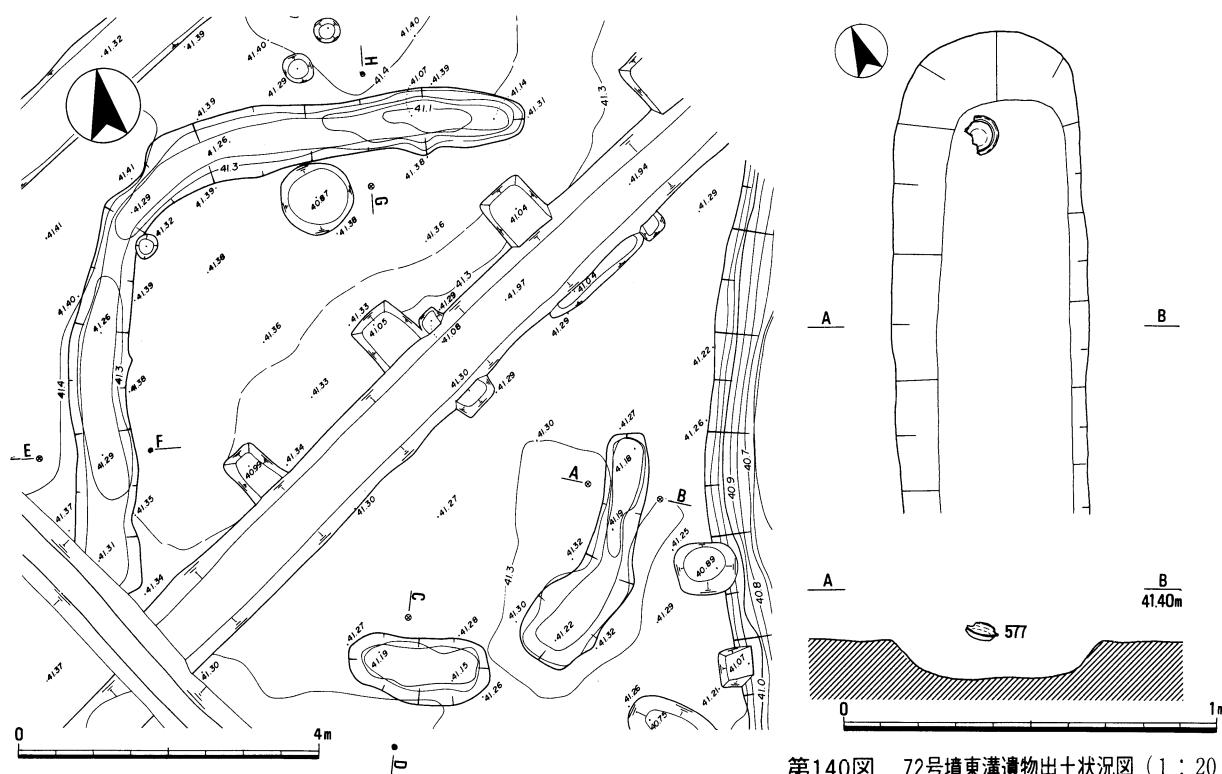
A 遺構（第145図・図版13）

48号墳の北西側で検出した。東西方向に10.5m、南北方向に11.0mの方墳である。周溝の内側は直線的であるが、外側については曲線で弧を描く感がある。なお、西溝の中央北寄りで周溝が途切れる。周溝幅は1.6～2.6mで、東北隅と南西隅はやや狭い。また、残存の深さは0.3～0.5mで、南溝の東側が深い。

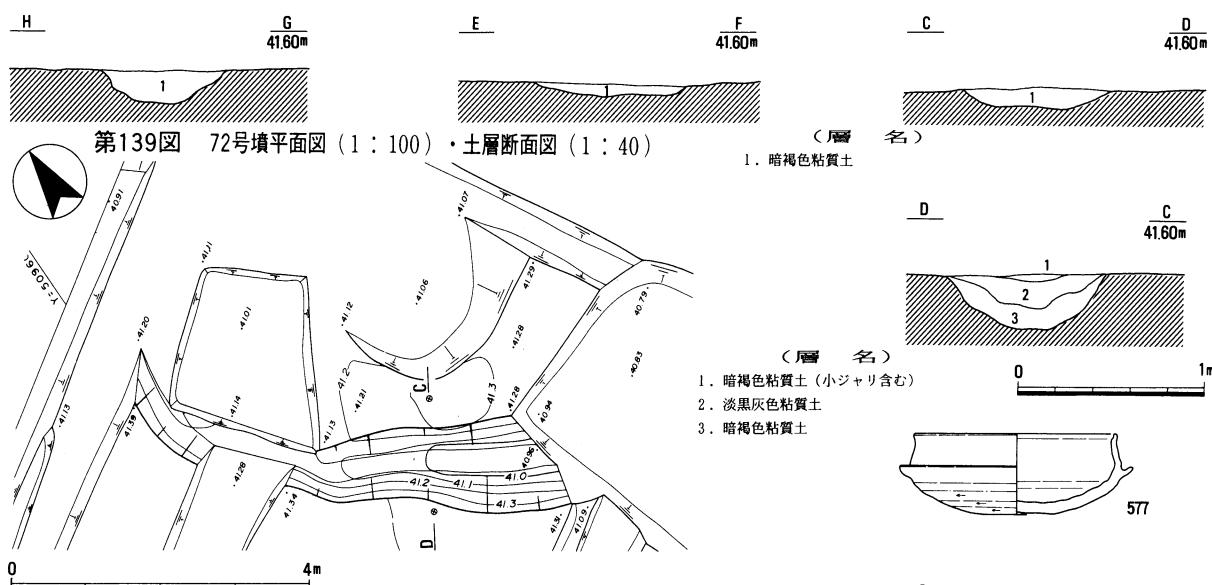
B 遺物出土状況（第146～150図・図版14）

須恵器が大半で、その器種も豊富である。概ねどの四辺の溝からも出土したが、東溝からの出土は少ない。出土した器種を溝別に見ていくと、南溝東寄りからは須恵器の壺（618）・甕（624・625）、土師器の台付甕（628・629）が（第146図）、西溝の周溝が途切れる部分の南からは須恵器の無蓋高杯（592）・甕が（第147図）、また北からは須恵器の杯蓋（581～583）・有蓋高杯（598）・脚付短頸壺（607）、土師器の台付甕（630）が出土した（第148図）。これらは周溝の底からの出土である。なお、北溝からは須恵器の無蓋高杯（593・595）・有蓋高杯（591・596・597・599・602・605・606）・器台（611・612）・短頸壺（614）・壺（613・615・616）・甕（621・626）など各器種が出土している（第149・150図）が、大半は周溝底から浮いた状態である。

C 出土遺物（第151～154図・図版46～48）

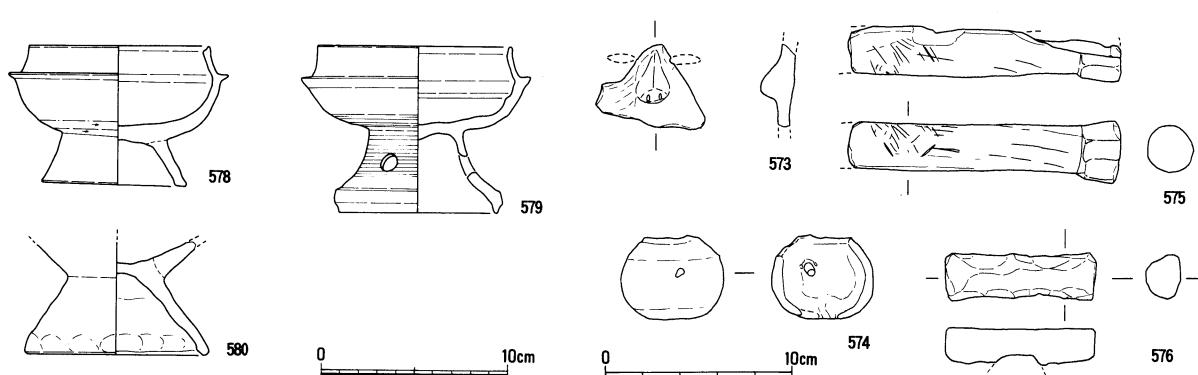


第140図 72号墳東溝遺物出土状況図 (1:20)



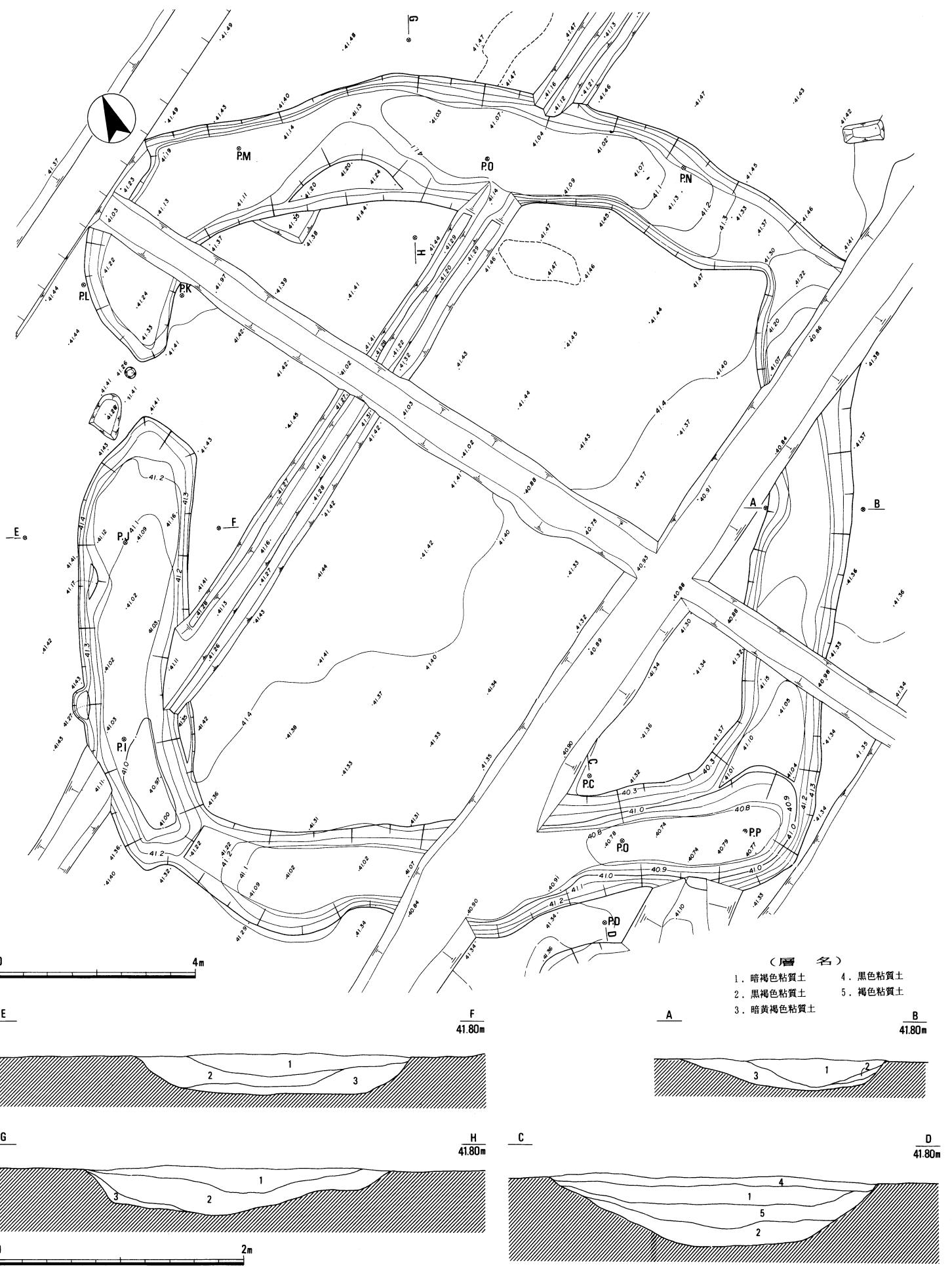
第139図 72号墳平面図 (1:100)・土層断面図 (1:40)

第141図 72号墳出土須恵器実測図 (1:4)

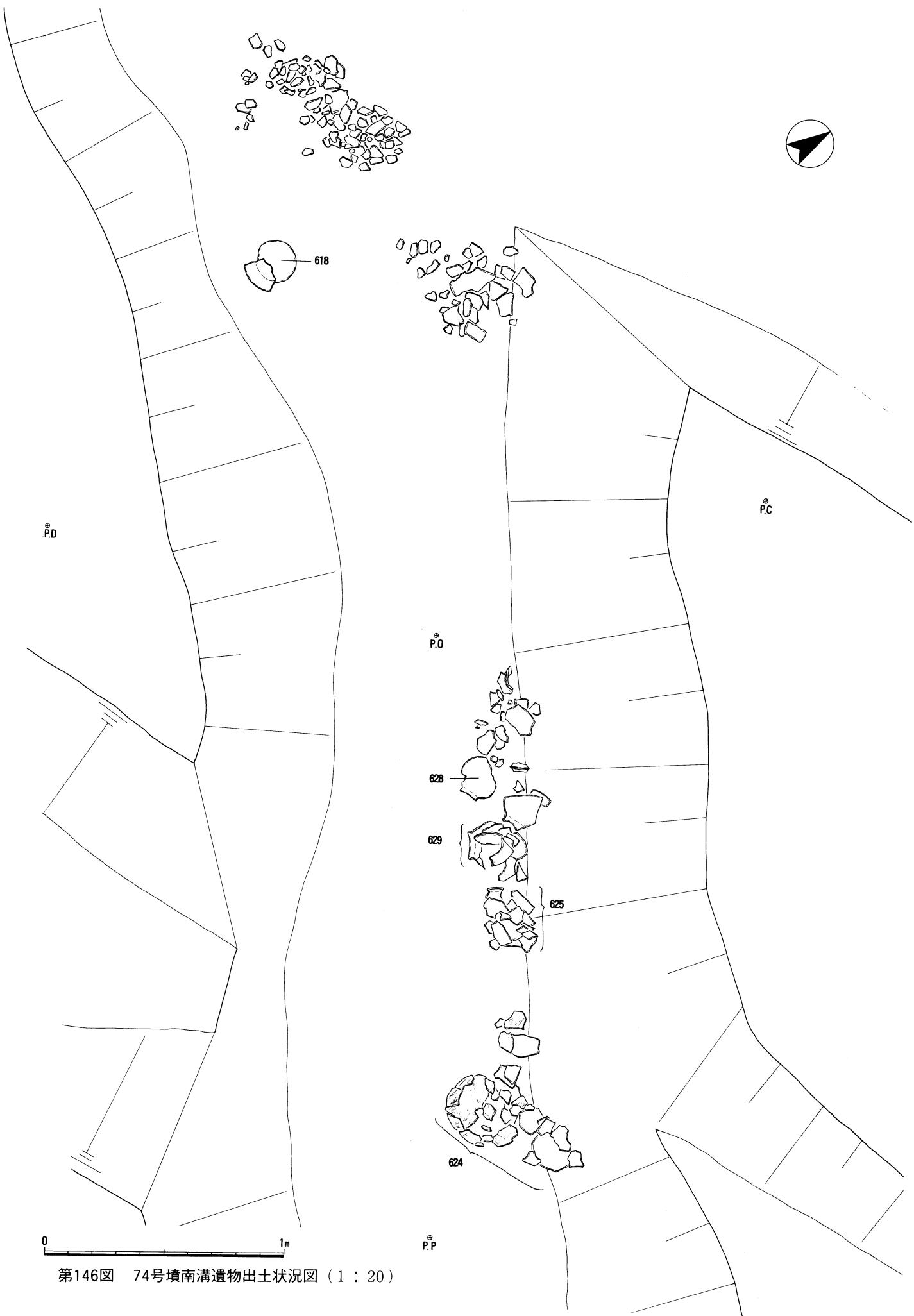


第143図 73号墳出土須恵器実測図 (1:4)

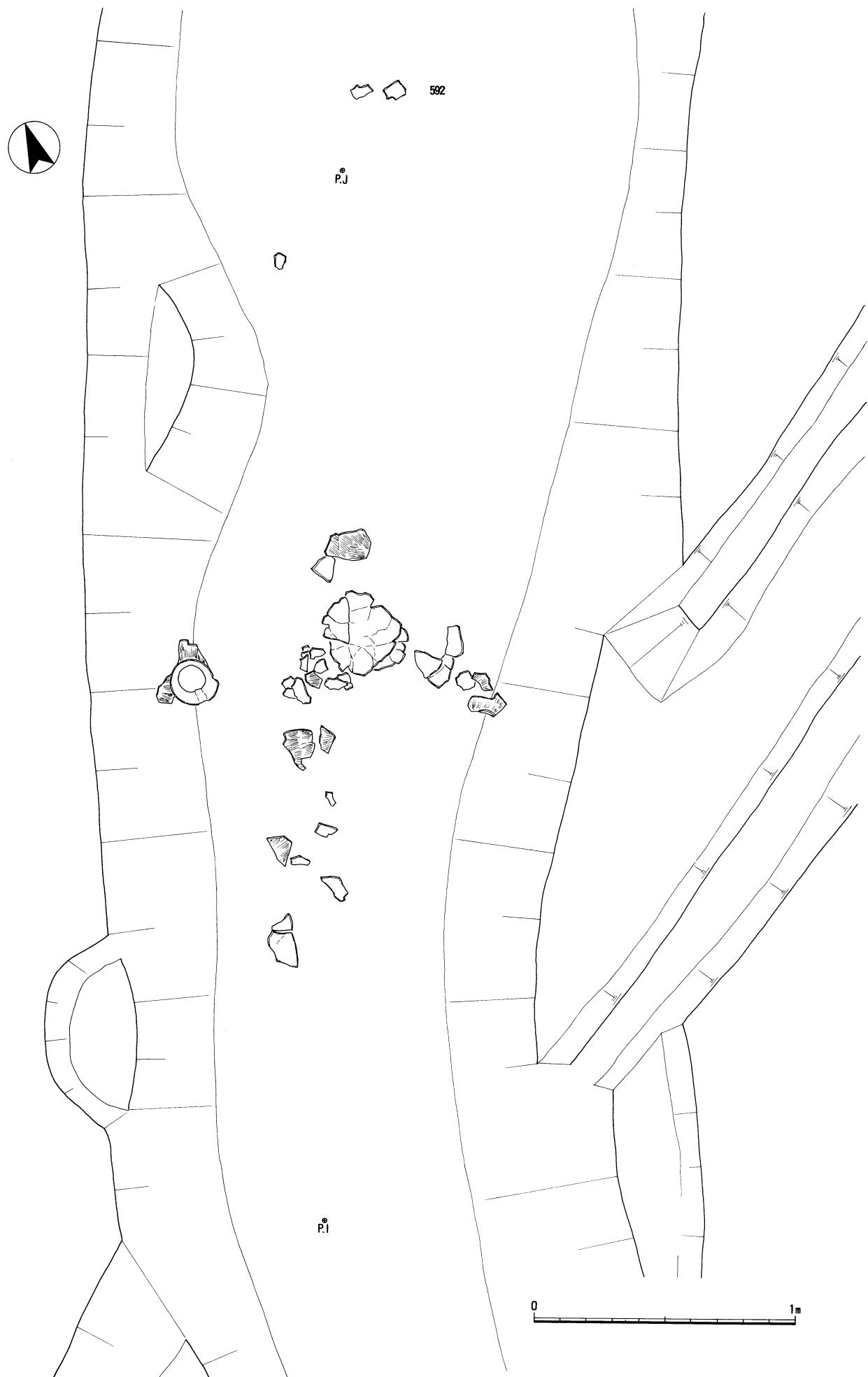
第144図 71号墳出土形象埴輪実測図 (1:4)



第145図 74号墳平面図（1：100）・土層断面図（1：40）



第146図 74号墳南溝遺物出土状況図 (1 : 20)



第147図 74号墳西溝遺物出土状況図 (1 : 20)

須恵器 (581~627)

杯蓋 (581~583) 天井部は丸く、やや短い稜から口縁部は垂直に下がる。いずれもつまみに相当する部分が欠損しているため、有蓋高杯の蓋の可能性も残される。

杯身 (584・585) 584は底部が丸く、やや深い感がある。

有蓋高杯蓋 (586~591) 586・587は口縁が短くやや内湾する口縁である。つまみは偏平で、中央部がやや突出する。これに対して588~591は、口径が小さく、口縁は直線的である。つまみは、中央を大きく窪ませる。

無蓋高杯 (592~595) 杯部は比較的浅く、口縁は広く外反するものが多い。脚部は長く、「八」の字に広がり、端部を下方へ屈曲させる。

有蓋高杯 (596~606) 比較的杯部は深く、脚部は短く、カキメを施すものが多い。

脚付短頸壺 (607) 偏平な体部に、「く」の字に屈

曲する口縁を有し、端部内面は窪ませる。

壺 (608・609) 口径基部は比較的大く、口縁は大きく外反し、段をなして端部へ続く。体部の肩部はやや張る。

子持壺 (610) 前述の67号墳出土の子持壺と比べると肩部が張り、この部分に小さい短頸壺が4か所に配される。なお、短頸壺の底部には円形の穿孔がなされる。67号墳と比べると親壺に施される波状文は細かい。

器台 (611・612) 611の杯部は浅く、口縁端部は緩やかに外反し、端部は上方へ屈曲させる。台部上半には波状文を1条巡らし、下半にはタタキの痕跡が残る。612は「八」の字状に開き、端部を下方へ屈曲させる。屈曲部分の上方には刻み目を施した凸帯がめぐる。

壺 (613~617) 613は蓋が付く壺である。614は偏平な体部の短頸壺である。

甕 (618~627) 口縁端部を、623や624は上方へ、626や627は上下に折り曲げる。体部は肩部は張るものが多く、621や624はタタキの後カキメを施す。

土師器 (628~631)

台付甕 (628~631) 口縁部は短く「く」の字に外反させ、端部を肥厚させる。また、脚部は「ハ」の字に開き端部を内面に折り曲げる。

埴輪 (632)

人物埴輪 (632) 人物埴輪の腕の部分で、中空である。

D 遺物の時期

時期を判断するための指標となる杯身・杯蓋は少ないが、西溝の底近くで出土した有蓋高杯や南溝出土の甕などを他の古墳と比較して、TK47型式に相当するものと思われる。

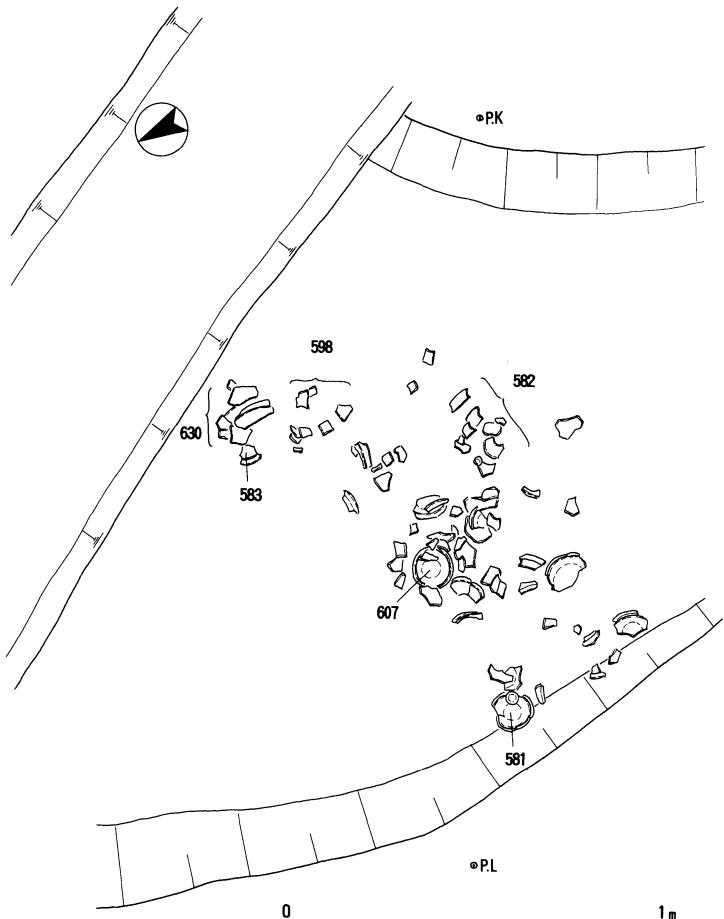
(44) 75号墳

A 遺構

73号墳と74号墳の間で検出した。周溝の1辺の確認であり、規模は不明である。また、出土遺物もない。

(45) 77号墳

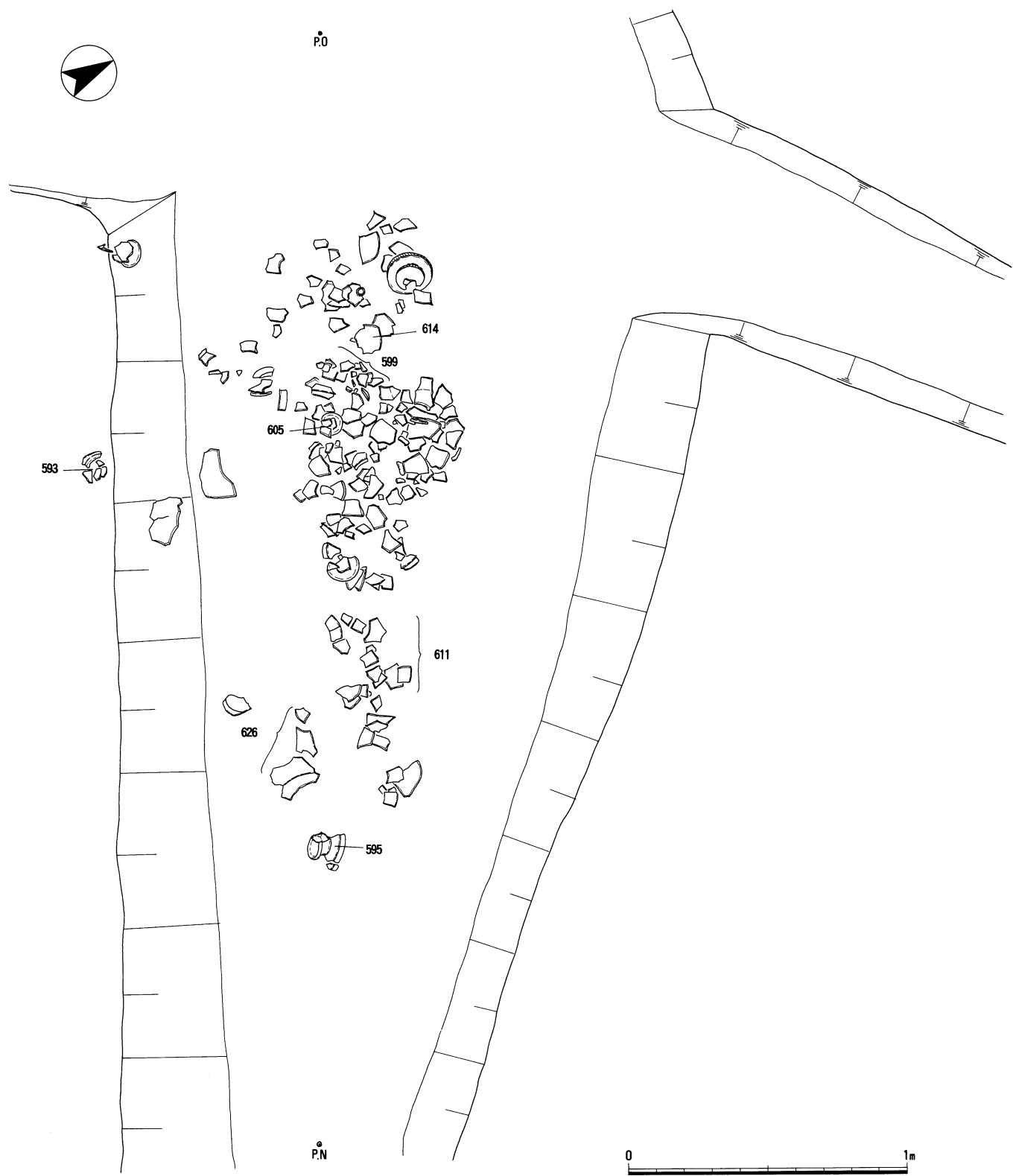
A 遺構



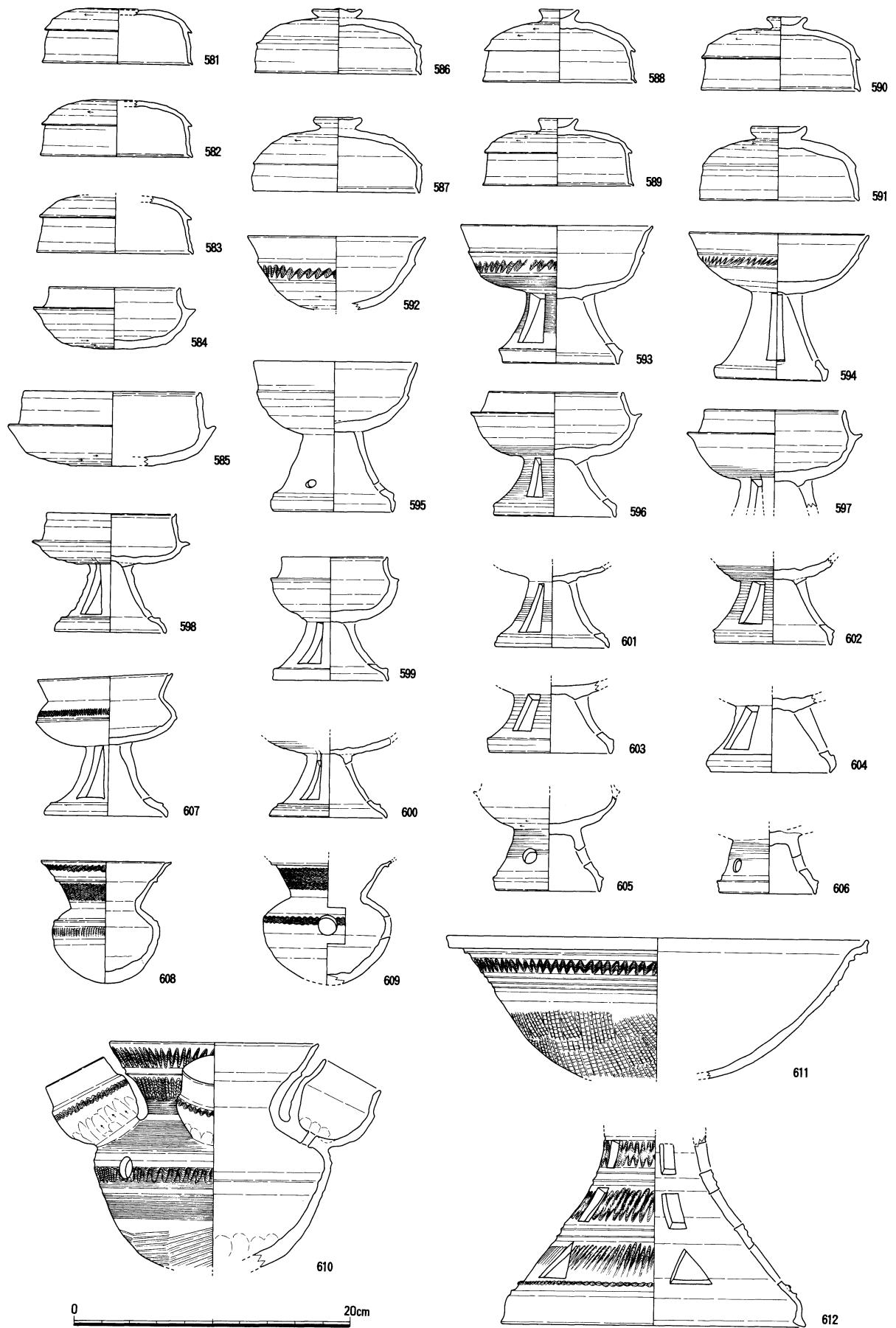
第148図 74号墳西溝遺物出土状況図 (1 : 20)



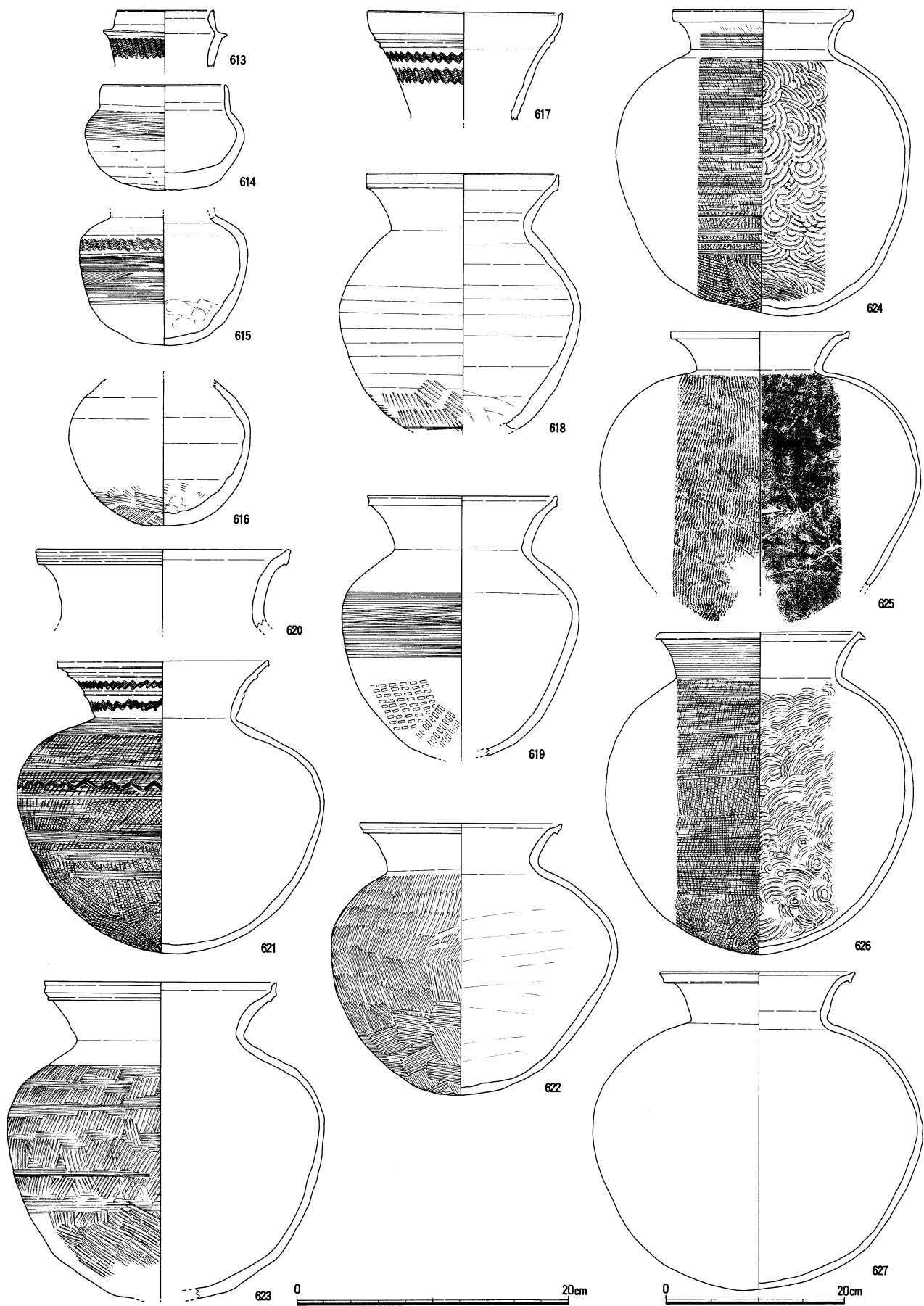
第149図 74号墳北溝遺物出土状況図 (1 : 20)



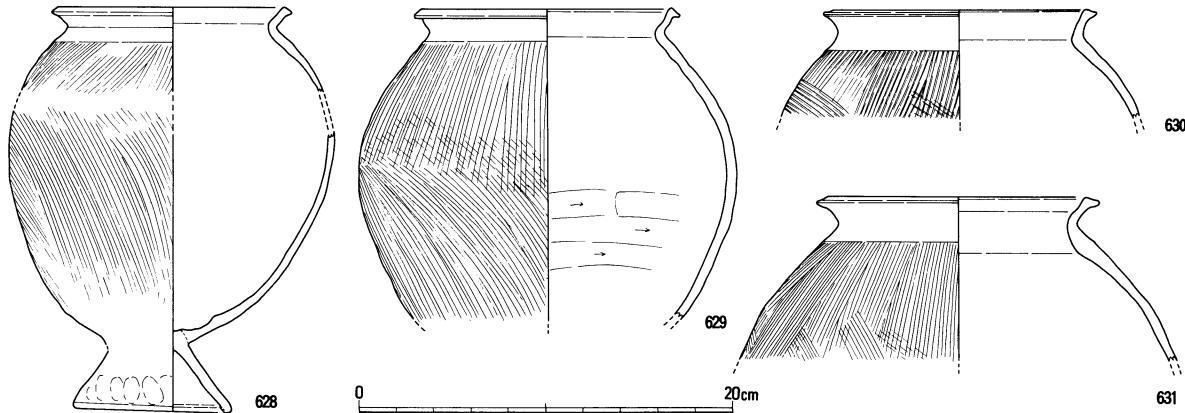
第150図 74号墳北溝遺物出土状況図 (1 : 20)



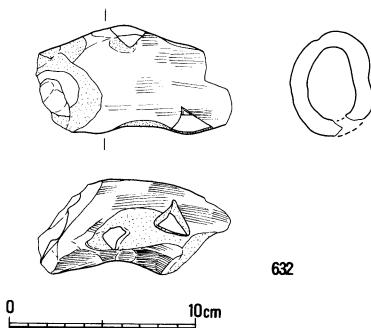
第151図 74号墳出土須恵器実測図 (1 : 4)



第152図 74号墳出土須恵器実測図 (624~627は1:6、その他は1:4)



第153図 74号墳出土土師器実測図 (1 : 4)



第154図 74号墳出土形象埴輪実測図 (1 : 4)

消防訓練用の施設解体に伴う立会調査で確認した。

場所は38号墳の西側に当たり、平面での検出はできなかったが、南側の土層断面で周溝を確認した。残存の周溝幅は1.1m、深さは0.2mである。
なお、出土遺物はない。

(46) 78号墳

A 遺構

石薬師高等学校のグラウンド整備事業に伴う試掘調査において、東西方向の周溝1条を確認した。出土遺物には須恵器片・埴輪片がある。

号墳	墳形	規模(東西)	規模(南北)	周溝幅(m)	周溝深(m)	方位(N° E)	出 土 墓 容 情	周島編年	出土土師器	円筒・斬頭形埴輪	形象埴輪	備 考
26 方墳	17.5	15.0	2.4	0.1~0.2	41	杯盤・無蓋高杯・有蓋高杯・短頭盤・壺・台付壺・壺・長頭盤		MT15	円筒	馬・鹿・家・人物		
27 方墳	20.0	20.0	3.0	0.6	-	杯身・杯蓋・高杯・壺・蓋・頭盤		MT15	高杯・把手	円筒・斬頭形	武人・馬・津・鉈	
28 方墳	12.3	12.0	3.1~3.32	0.42~0.56	17	杯身・杯蓋・無蓋高杯・壺・短頭盤・壺・頭・鋸台		TK47	短頭盤	円筒・斬頭形	馬・雙手・弓・人物	
29 方墳	7.0	6.0	0.8~1.0	0.42~0.56	25	杯身・杯蓋・壺		TK23	なし	なし		
30 方墳	7.5	8.0	2.5~4.0	0.28~0.65	23	杯身・杯蓋・短頭盤・壺・鋸台		TK47	台付壺	円筒		
31 方墳	10.0	10.0	1.7~3.2	0.24~0.65	27	杯身・杯蓋・有蓋高杯・壺・短頭盤・壺		TK47	壺	円筒		
32 方墳	9.0	8.5	1.65~1.7	0.22~0.34	31	杯身・杯蓋・壺		TK47	なし	なし		
33 方墳	6.0	6.0	0.5~1.3	0.15	33	壺		不規	なし	なし		
34 方墳	6.2	5.9	0.85~1.1	0.1~0.8	38	有蓋高杯		TK47	なし	なし		
35 方墳	8.2	7.7	0.9~1.55	0.2~0.28	34	有蓋高杯・壺		TK47	壺	円筒	人物	
36 方墳	不明	10.3	1.1~2.0	0.22~0.32	20	壺		不明	なし	なし		
37 方墳	不明	11.2	2.5~3.7	0.6~0.8	33	壺		TK47	なし	なし		
38 方墳	不明	1.2~1.5	0.2~0.25	18	杯身・杯蓋・無蓋高杯・壺		MT15	高杯	なし			
39 方墳	6.2	6.6	0.75	0.2	29	有蓋高杯・壺		MT15	壺	なし		
40 方墳	20.0	20.0	6.3~7.0	0.28~0.7	-	有蓋高杯・無蓋高杯・壺・短頭盤・壺・壺		TK47	なし	円筒・斬頭形	家	
41 方墳	13.5	12.6	1.8~2.65	0.3~0.45	27	杯身・杯蓋・有蓋高杯・壺・壺・鋸台		TK47	なし	円筒		
42 方墳	9.3	不明	1.15~2.0	0.18~0.2	33	杯身・杯蓋		TK23	なし	なし		
43 方墳	10.0	11.8	1.9~2.65	0.2~0.3	33	杯身・有蓋高杯・壺・短頭盤・壺・鋸台		MT15	なし	円筒		
44 方墳	6.0	5.6	0.6	0.15~0.2	49	杯盤		TK23	なし	なし		
45 方墳	10.2	9.0	1.65~2.2	0.15~0.3	33	杯身・杯蓋・簡形鋸台		MT15	壺	なし		
46 方墳	8.7	8.2	1.0~1.4	0.2	24	壺		不規	壺	なし		
47 方墳	9.0	9.6	1.55~2.4	0.25~0.6	41	脚付短頭盤・短頭盤・壺		MT15	なし	円筒		
48 方墳	12.0	12.3	2.5~3.2	0.28~0.5	14	杯身・杯蓋・無蓋茶杯・壺・短頭盤・壺・壺		TK47	なし	円筒・斬頭形	人物・家	
49 方墳	15.4	13.0	3.7~8.04	0.3~0.48	25	杯身・杯蓋・有蓋高杯・壺・短頭盤・壺・鋸台		MT15	壺	円筒・斬頭形	家・人物・壺・馬	東側に通り出し
50 方墳	不明	5.1	0.8	0.2	37	壺		不明	なし	なし		
51 方墳	8.3	8.4	0.6~1.14	0.2	24	杯盤・壺		TK47	なし	なし		
52 方墳	不明	1.3	0.32	0.2	8	壺		不規	なし	なし		
53 方墳	7.0	7.3	0.92	0.2	25	杯身・有蓋高杯・壺・短頭盤・壺		TK47	壺	なし		
54 方墳	4.2	不明	1.6	0.28	71	杯盤		TK23	なし	なし		
55 方墳	不明	13.7	3.34~8.16	0.3~0.16	12	杯身・杯蓋・高杯・鋸台		TK47	壺	円筒・斬頭形	人物・家	東側に通り出し
61 方墳	10.0	9.0	1.0~3.0	0.1~0.3	26	杯身・杯蓋・壺・壺		TK47	高杯	なし		
62 方墳	不明	1.0~2.4	3.2	0.2	不明	なし		不規	なし	円筒・形象		
63 方墳	10.5	15.0	3.6~5.9	0.1~0.5	-	杯身・杯蓋・無蓋高杯・有蓋高杯・壺・壺・簡形鋸台		TK43	なし	円筒	家・人物・壺・馬	東側に通り出し
65 方墳	不明	7.5	1.06~1.12	0.2	34	杯身・杯蓋・壺・高杯		MT15	なし	なし		
66 方墳	5.5	5.2	0.68	0.2	10	杯盤		MT15	なし	なし		
67 方墳	11.5	不明	1.8~2.7	0.18~0.2	5	杯盤・有蓋高杯・壺・子持壺・壺		TK47	壺	なし		
68 方墳	不明	不明	0.9	0.1	8	なし		不規	不規片	なし		
69 方墳	不明	7.5	0.6	0.1	8	杯身		不規	なし	なし		
70 方墳	6.0	不明	1.5~4.0	0.6	不規	壺		不規	不規片	円筒		
71 方墳	23.0	23.0	5.6~7.3	0.5~0.88	-	有蓋高杯・短頭盤・脚付短頭盤・壺・壺・鋸台・簡形鋸台		MT15	不規片	円筒	人物・家形	
72 方墳	6.0	6.5	0.55~0.8	0.06~0.2	10	杯盤		TK23	壺	なし		
73 方墳	不明	不明	0.9	0.3	24	杯身・杯蓋・有蓋高杯		TK47	台付壺	なし		
74 方墳	10.5	11.0	1.6~2.6	0.3~0.5	24	杯身・杯蓋・有蓋高杯・無蓋高杯・壺・子持壺・壺・脚付短頭盤・短頭盤		TK47	台付壺	なし	人物	
75 方墳	不明	不明	4.1	なし				不規	なし	なし		
77 不明	不明	不明	1.1	0.2	不規	なし		不規	なし	なし		
78 不明	不明	不明	不明	不明	不明	埴輪片		不規	なし	埴輪片		

第2表 古墳一覧表

3. 古墳時代のその他の遺構

(1) S X 1

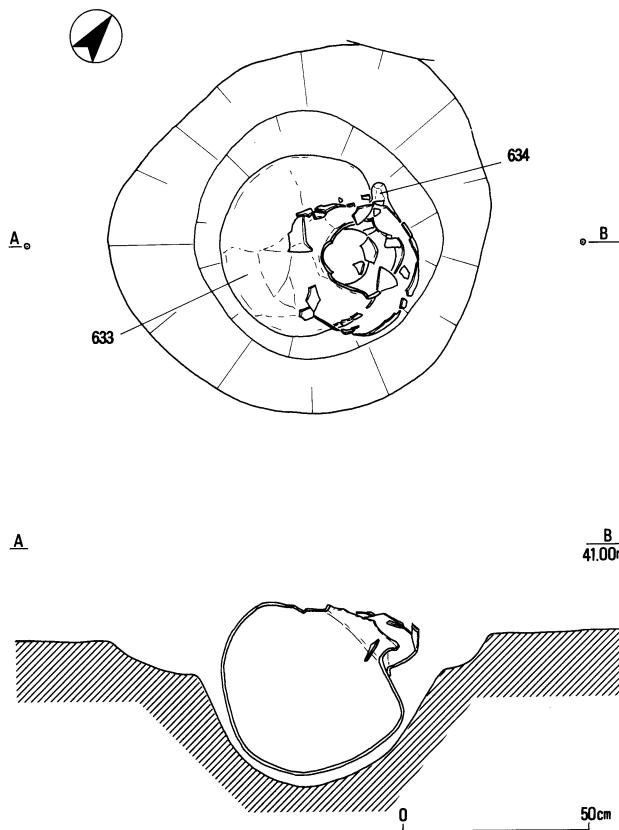
A 遺構 (第155図・図版15)

排水管移部分の調査区で、37号墳と38号墳の間で検出した。径約1mの不整円形の土坑である。土坑内には須恵器甕が土師器鍋で蓋をされて埋められていた。土坑墓の可能性が考えられたため、リン・カルシウム分析を行ったところ、甕内の底部の埋土で他の部分よりも高い値が認められたことから、土器棺墓と判断した。

B 出土遺物 (第156図・図版49)

須恵器甕 (633) ほぼ完形で出土した。口縁部はわずかに外反し、端部は上方へ屈曲させる。体部は肩が張っている。内面は同心円文のあて具痕が明瞭に残る。肩部には直径約10.0cmの重ね焼き痕跡が3カ所認められ、脚付きの高杯のような小型の土器を重ね焼きしたものと思われる。

土師器鍋 (634) 甕の蓋に使用されていたものである。保存状態が悪く、把手部分のみしか図示できなかつた。



第155図 S X 1 平面図・断面見通し図 (1 : 20)

(2) S D10

A 遺構 (第7図)

37号墳の東側で検出した東西方向の溝で、幅は0.7m、深さは0.3mである。検出部分の中央付近から管玉が1点出土した。

B 出土遺物 (第156図・図版48)

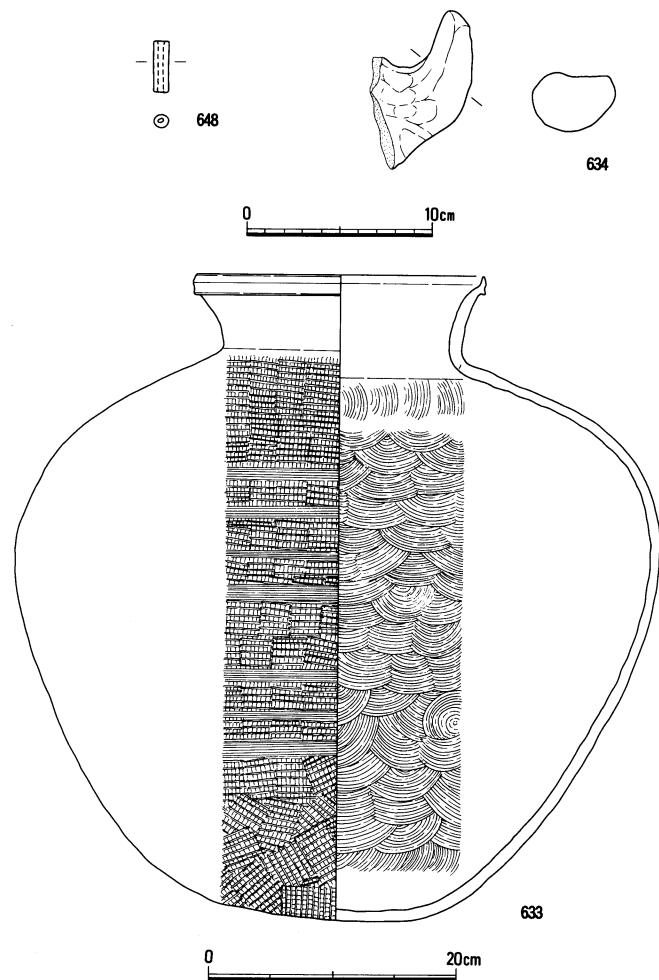
管玉 (648) 径0.8cm、長さ2.2cm、重さ2.79gの碧玉製である。

4. 奈良時代の遺構

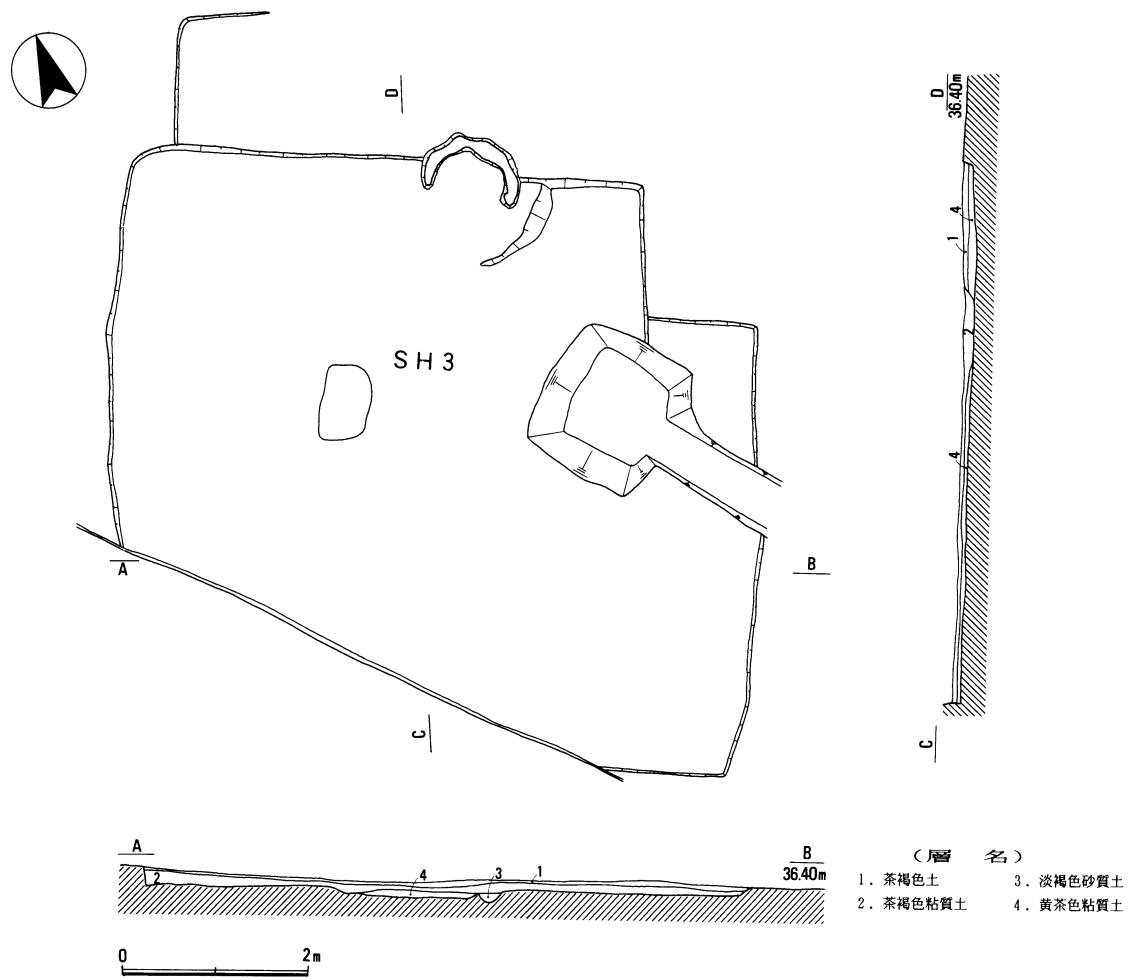
(1) S H 2

A 遺構 (第159図・図版15)

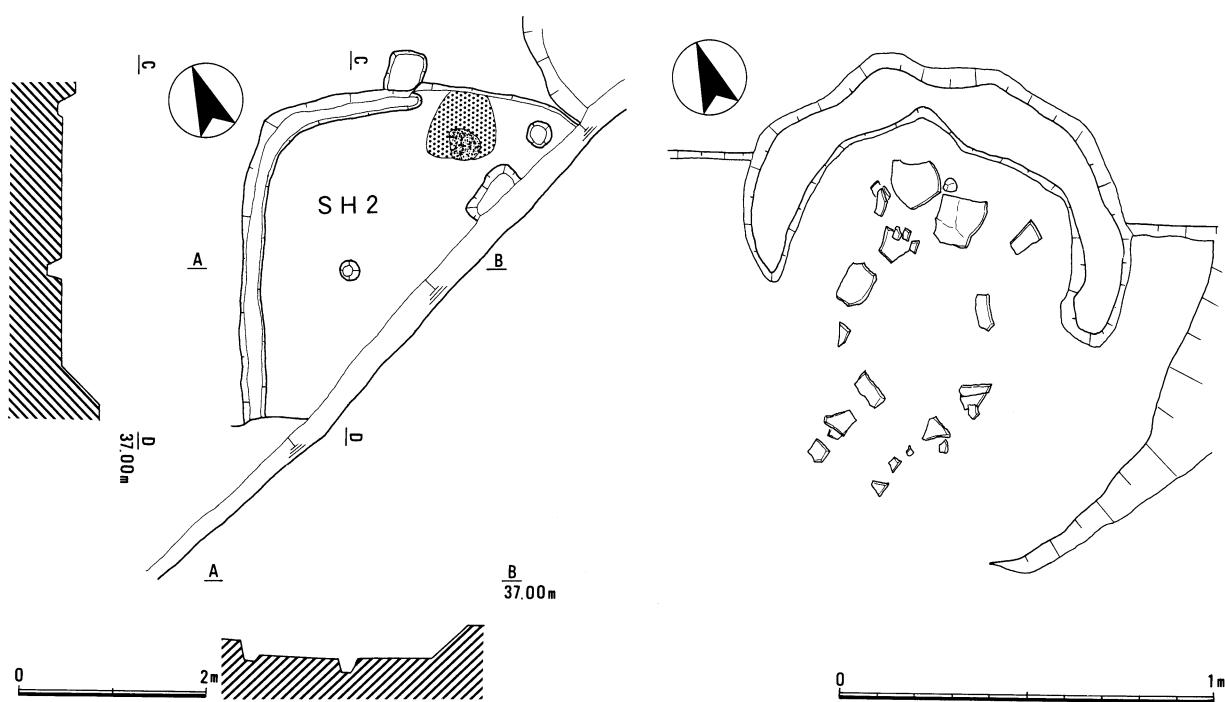
平成6年度、第2次調査区の北東隅で検出した堅穴住居である。住居全体の北西部、約3分の1を確認した。平面形はほぼ正方形と思われる。東西方に3.7m以上、南北方向に3.5m以上の規模である。北壁の中央付近に竈と推定される焼土が存在す



第156図 S X 1・S D10 出土遺物実測図
(633は1:6、その他は1:4)
〔684はS D 10、その他はS X 1〕

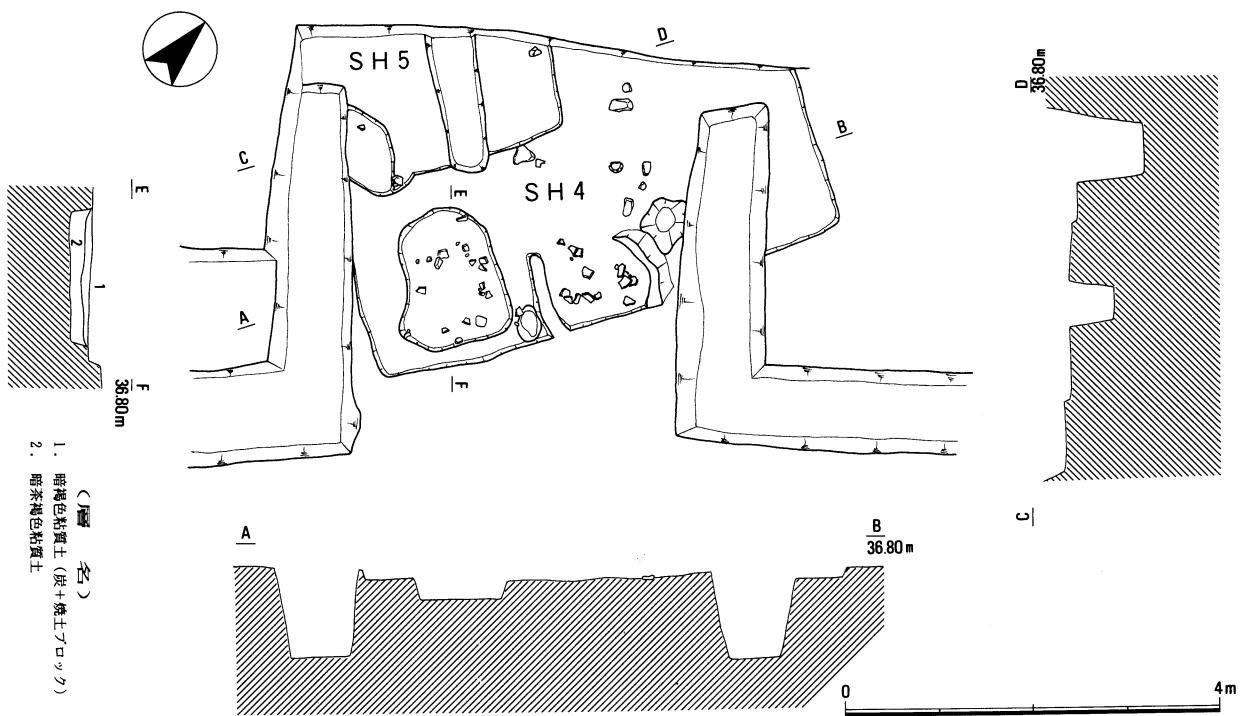


第157図 SH 3 平面図・土層断面図 (1 : 80)

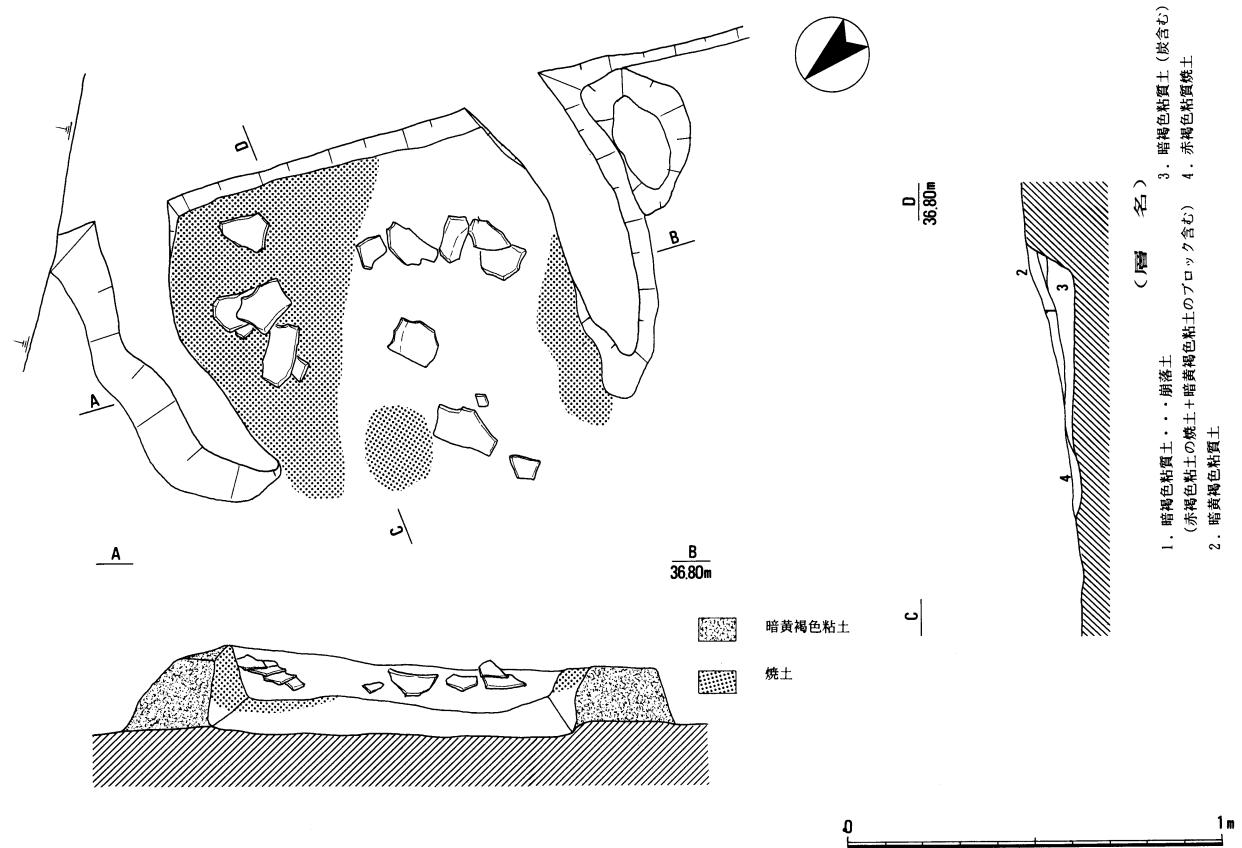


第158図 SH 3 カマド平面図・断面図 (1 : 20)

第159図 SH 2 平面図・断面図 (1 : 80)



第160図 SH 4・5 平面図・土層断面図 (1 : 80)



第161図 SH 4 カマド実測図 (1 : 20)

る。その焼土の南側には貯蔵穴と思われる土坑がある。なお、西側と北側には幅25cmの周溝がめぐる。主柱穴は北西部分の1つを検出した。出土遺物は、土師器の甕片があるだけである。

(2) SH 3

A 遺構 (第157図・図版15)

平成6年度、第2次調査区の北側ほぼ中央で検出した。削平が著しく竪穴住居の残存は、約10cm程度である。規模は、東西方向に7.0m、南北方向に7.0m以上で、平面形は正方形を呈するものと考えられる。3棟の竪穴住居が重複しているが、遺構の切り合い関係からこのSH3が一番新しいと考えられる。北壁のやや東よりに竈が存在する。この竈の中から、土師器の長胴甕の破片が出土した。なお、周溝と主柱穴は確認されなかった。

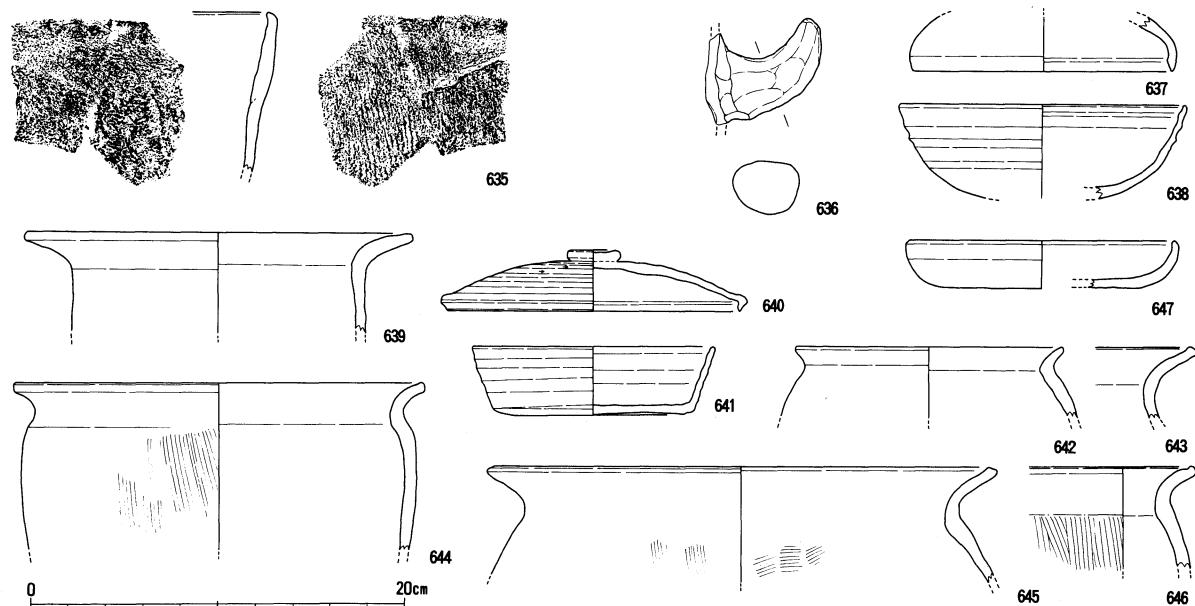
B 出土遺物 (第162図)

須恵器 (637・638)

杯蓋 (637) 丸みを帯びて、口縁部との境が明瞭でない。

杯身 (638) 底部から口縁部にかけては、ゆるやかに内湾しながら開く。底部を欠いているが、丸みをもった器形や口縁端部の形状などから無蓋高杯の可能性も考えられる。

(3) SH 4



第162図 SH · SK出土遺物実測図 (1:4)

A 遺構 (第160図・図版15)

S H 2の南西約30mの場所で検出した。南西部分は、S H 5によって切られる。東西規模は不明であるが、南北の規模は5.2mである。東壁の中央に竈が存在し（第161図）、その内側の北側はよく焼けている。裾部分は比較的の残存が良く、規模は東西に0.8m、南北に1.5mである。また、竈の南側には、東西1.0m、南北0.8mの楕円形の形状の貯蔵穴が存在する。出土遺物には、須恵器の杯蓋、土師器の甕・皿がある。なお、東・南壁の一部は、昭和時代の待避壕によって削平を受ける。

B 出土遺物 (第162図・図版49)

須恵器 (640・641)

杯蓋 (640) 天井部が直線的に口縁部へ至る。口縁部は、折り曲げている。内面にかえりを有しない。中央部が窪むつまみがつく。

杯身 (641) 平坦な底部から外傾しながら真直に口縁部に至る。口縁端部は丸くおさめている。

土師器 (642~647)

甕 (642~646) 642を除き。口縁部は外反し、口縁端部は上方にわずかに突出する。頸部から体部にかけては、642・645はゆるやかな曲線で移行するが、643・644・646は、底部に向かって真直にのびることから長胴甕の可能性がある。

杯 (647) 平坦な底部から内湾しながら口縁部に至る。口縁端部は丸くおさめる。

(4) S H 5

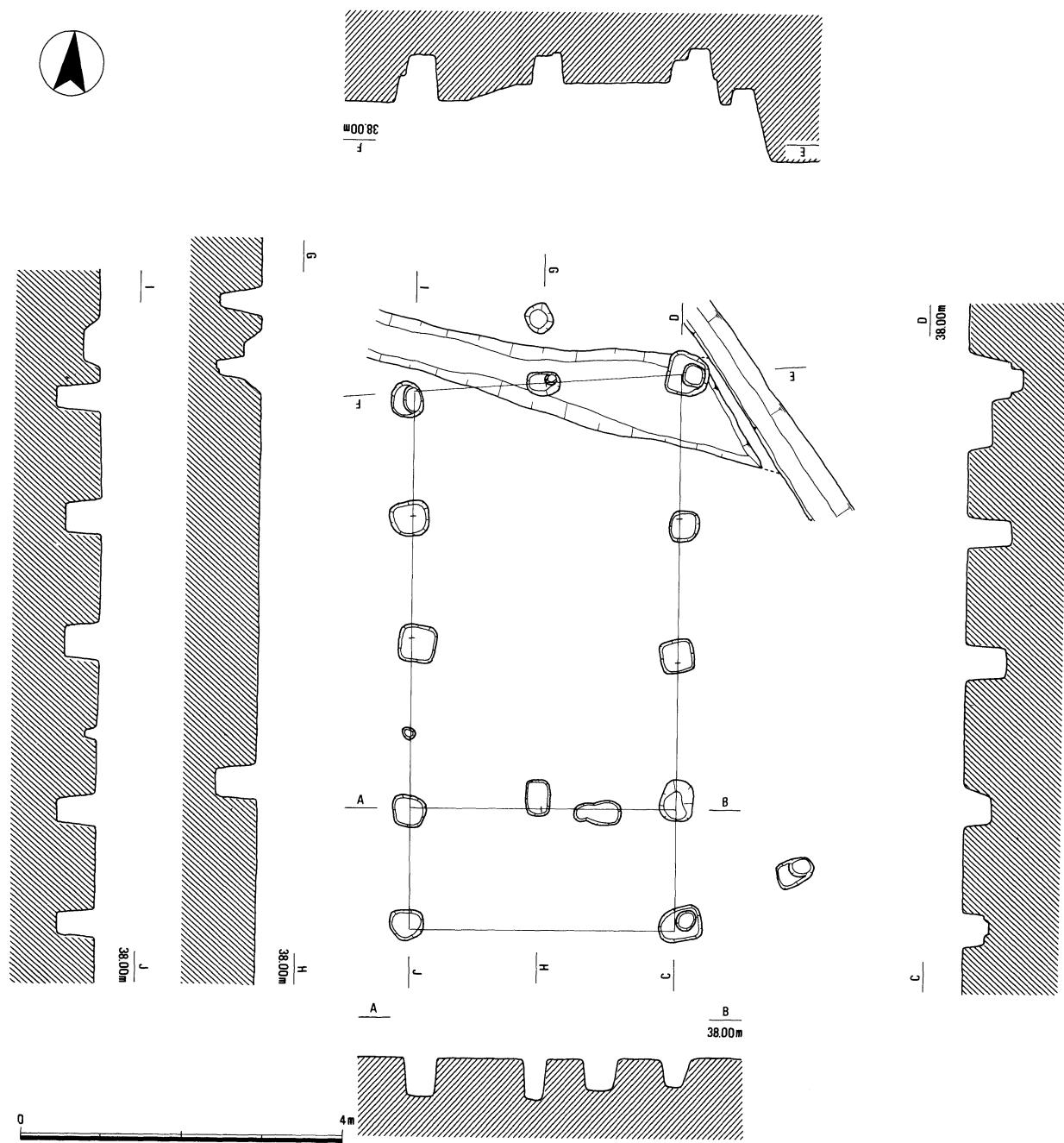
A 遺構 (第160図・図版15)

S H 4 を切る形で検出した。南壁に竈と考えられる焼土が存在したが、裾部分は確認されなかった。この部分は浅い土坑状を呈する。なお、主柱穴の部分は昭和時代の待避壕によって削平を受ける。出土遺物には、須恵器片、土師器の甕・把手がある。

(5) S B 6

A 遺構 (第163図・図版16)

第5次調査のJ地区中央部、南寄りで検出した掘立柱建物である。3間×2間の南北棟で、棟方向はN 6° Eである。桁行は5.10mで梁行は3.30mである。柱間は、桁行西側で北から 1.50m+1.50m+2.10m、東側は1.80mの等間となり、不揃いである。梁行は、1.65mの等間である。柱掘形は、一辺約40cmの隅丸方形で、深さは検出面から50~60cmである。掘形の埋土は暗褐色の粘質土で、柱痕跡は明確でないものがほとんどである。出土遺物は、土師器の細片にとどまる。なお、南面には1.5mの柱間の廂がある。



第163図 S B 6 実測図 (1 : 80)

取り付き、北面には棟持柱と思われる柱穴も存在する。

(6) S B 7

A 遺構 (第164図・図版16)

S B 6 の西側で検出した。東柱はやや中心を外れるが、2間×2間の総柱建物である。N 33°W の東西棟で、桁行は4.80mで柱間2.40mの等間、梁行4.20mで柱間2.10mの等間である。柱掘形は一辺約40cm程度の隅丸方形のものが多く、深さは検出面から40～50cmである。柱痕跡は明確でないものがほとんど

である。なお、出土遺物は土師器の細片にとどまる。

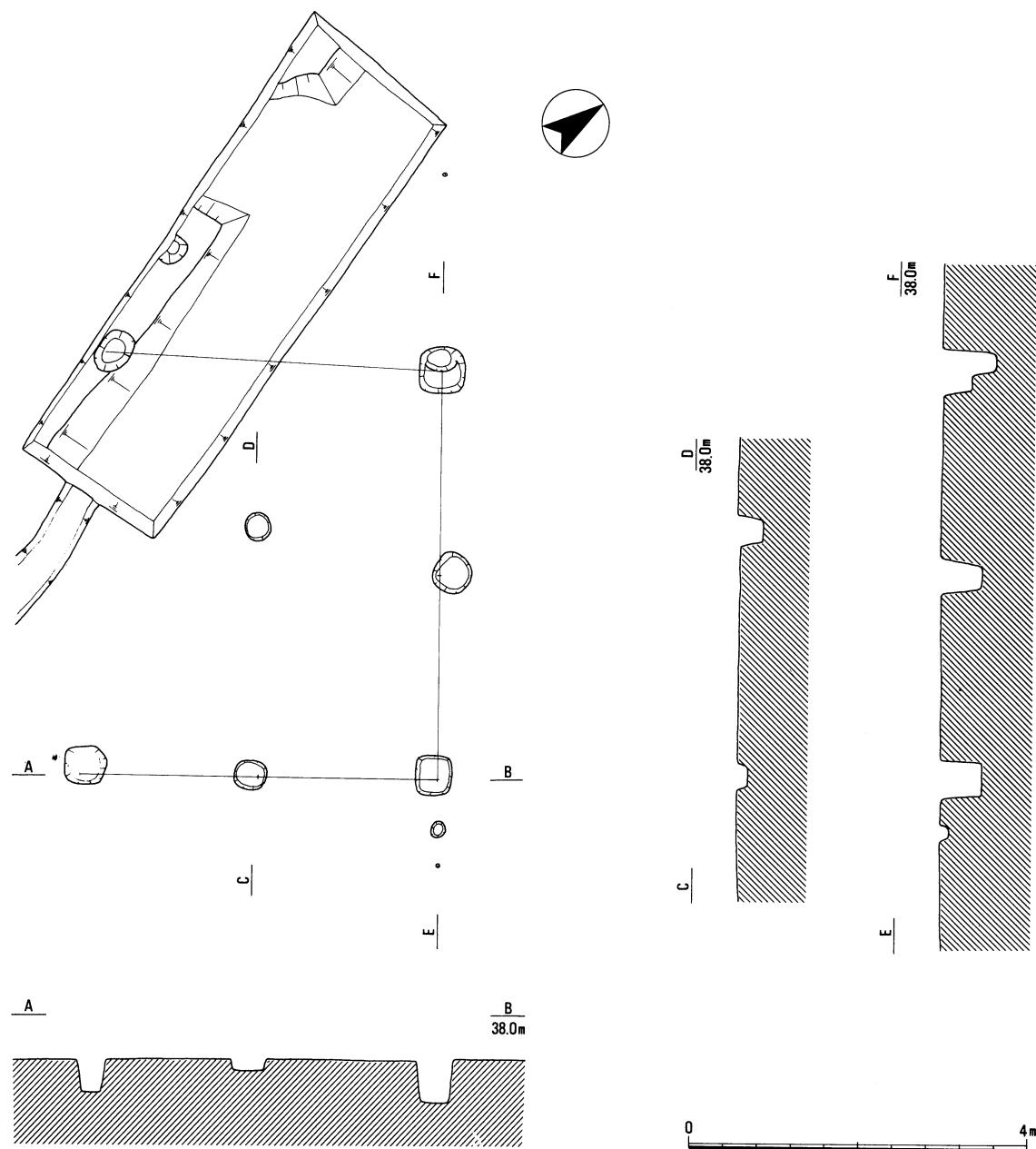
(7) S K 8

A 遺構 (第7図)

S H 3 の西側で検出した1.0m以上×0.6m以上の方形の土坑と考えられる遺構である。ただし、大部分が調査区外であることや甌(635)や把手(636)などが出土していることを考慮すると竪穴住居のコーナー部分の可能性もある。

B 出土遺物 (第162図)

土師器 (635)



第164図 S B 7 実測図 (1 : 80)

甕（635）口縁部分である。やや開き気味に立ち上がる。

(8) SK9

A 遺構（第165図・図版16）

第5次調査のJ地区南側のほぼ中央で検出した。南北に90cm、東西に55cmの楕円形を呈する。検出面からの深さは10cmである。検出時には土坑全面が焼土であり、竪穴住居の竈あるいは炉と予想された。そのため周辺での竪穴住居の掘形や周溝などの検出を試みたが、結果的には判然とはしなかった。南側で数個の柱穴は検出しているが、主柱穴とは断定しがたい。したがって単独の焼土坑として報告する。なお、南北方向に断面断ち割り調査を行った結果、焼土は南側で厚く約6.0cm程度堆積しており、北側は薄い。土坑の南側を中心に長期間被熱を受けたものと思われる。遺物は、土師器の甕片が少量出土したにとどまり、詳細な時期の確定はできないが、奈良時代の所産のものであろう。

(9) SK12

A 遺構（第7図）

SK8の西側で検出した。東西方向約1.0m、南北方向約0.6mの楕円形の土坑である。残存の深さは、約0.3mで、垂直に掘り込まれる。掘削中に、土師器の甕が出土したにとどまる。

B 出土遺物（第162図）

土師器（639）

甕（639）口縁部は大きく外反し、口縁端部外面は少し面を持つ。頸部から体部にかけてはほぼ真直にのびていることから長胴甕の可能性も或る。

5. 近代の遺構

(1) SD11

A 遺構（第166図・図版16）

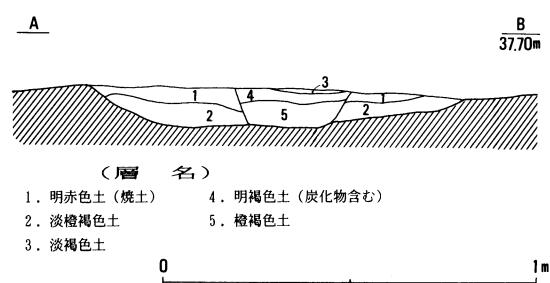
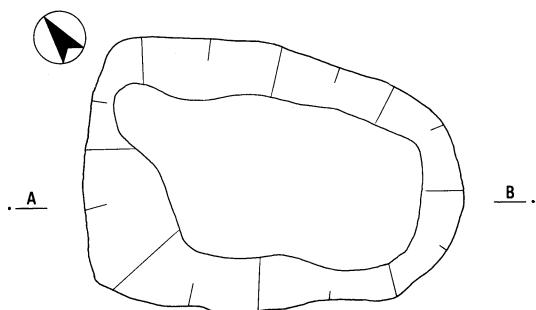
J地区の北側でほぼ東西方向に検出した。幅30cm深さ40cmの溝で、約7m確認した。この溝には、陶器製のU字管が埋設されており、その管を板状の石で蓋がなされている。管の長さは30cmで、短辺は凹凸を造り、噛み合わさる。板状の石は、30cm×15cm

厚みは約3cmである。同様なU字管を設置した溝が南側でも検出された。この溝は20m程南北方向に走り、直角に西へ折れ曲がる。調査当初は、陸軍関係の暗渠排水路と判断していたが、聞き取り調査により、第1気象連隊の本部から無線室へ繋ぐケーブル線設置の管と判明した。本部は調査区から南へ約250mに、また無線室は東に約100mの所に置かれていたとのことである。なお、昭和25年勃発の朝鮮戦争時に、地元の方々がケーブル線を引き抜き、金銭と交換したことである。^⑨

B 出土遺物（第167図・図版50）

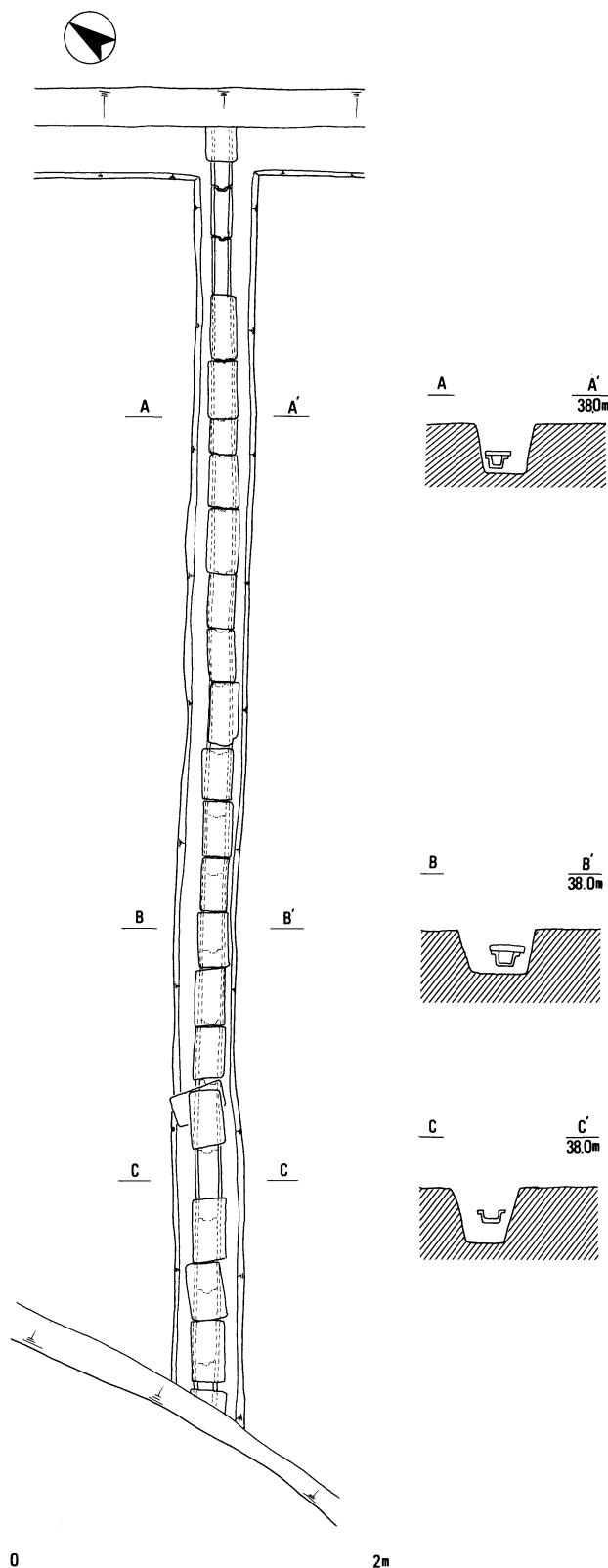
SD11からはU字管が出土した。その他、各種遺構の検出中や、昭和時代の攪乱を掘削中に軍用食器・瓦・ガラス瓶・土管などが出土したが、主な遺物のみを報告する。

軍用食器（649～653）陶磁器製の碗と皿である。口縁内面に旧陸軍章である星印が、底部外面の中央に「名陶」と青色に染め付けされる。どれも口縁は玉縁状で、大きさに3種類ある。649は汁物に、650・651は御飯茶碗に、652は皿として使用された。「名陶」とは、現在の（株）鳴海製陶所の前身である名古屋製陶のことである。^⑩



第165図 SK9 実測図 (1:20)

瓦 (654~661) 平瓦であるが、凸面の中央に 2 cm × 6 cm の大きさの刻印がなされる。この刻印には「群馬 2」「埼玉 11」「埼玉 30」「埼玉 35」「埼玉 75」



第166図 S D 11 実測図 (1 : 40)

の文字が見える。

陶器小碗 (662~665) やや上げ底の底部外面に、「岐 388」・「岐 682」の刻印が見られる。化粧容器として使用されたものか。

陶器土管 (666・667) 陶器製の U 字管である。短辺には凹凸を造り、他と組み合わさるようになる。裏側には径 5 cm の円形の中に、“實用新案 209609・杉江製陶所”と刻印されている。

(註・参考文献)

- ① 鈴鹿市教育委員会で調査を行った市道・民間宅地部分の古墳 56・57・58・59・60・64・76 号墳の 7 基を含めると計 53 基になる。
- ② 形象埴輪全般については、塙田良道氏に多くの御助言を頂いた。
- ③ 田辺昭三『陶邑古窯跡群』I (平安学園考古学クラブ・1966 年)
- ④ 墓内には、1.0p2O5mg/g 前後のリン酸および 0.4C0.4CaO mg/g 前後のカルシウム含量が認められた。リン酸のいわゆる天然賦存量の上限は、約 3.0 P2O5 mg/mg/g 程度と推定される。(EOWEN, 1983; BOLT-BRUGGENWERT, 1980; 川崎ほか, 1991; 天野ほか, 1991)。また、人為的な影響を受けた既耕地では 5.5P2O5mg/g (黒ボク土の平均値) という報告例がある (川崎ほか, 1991)。一方、カルシウム含量の天然賦存量は普通 1 ~ 50 CaOmg/g (藤賀, 1991) とされるが、その範囲はリン酸よりも明らかに大きい。これを著しく越える数値が得られた場合には、カルシウムの富化を指摘できる。今回の分析結果では、壺内埋土のリン酸およびカルシウム含量は天然賦存量を著しく越える値ではない。しかし、リン酸含量は対照試料より高い含量が認められ、特に底部で高かった。この点は、底部にリン酸成分が蓄積し、残留していたことを示唆するものと思われる。壺内の土壤は周囲の土壤と同様な土質であったことから、壺内にリン酸成分に富む遺体あるいは遺骨が存在していたことが考えられる。これらから、壺は墓として利用されたと考えられる。なお、天然賦存量よりも含量が少なかった理由として、成分の多くが蓄積後に外部へ染み出てしまったこと洗骨を経たために埋納された遺骨が少なかったことなどが考えられる。

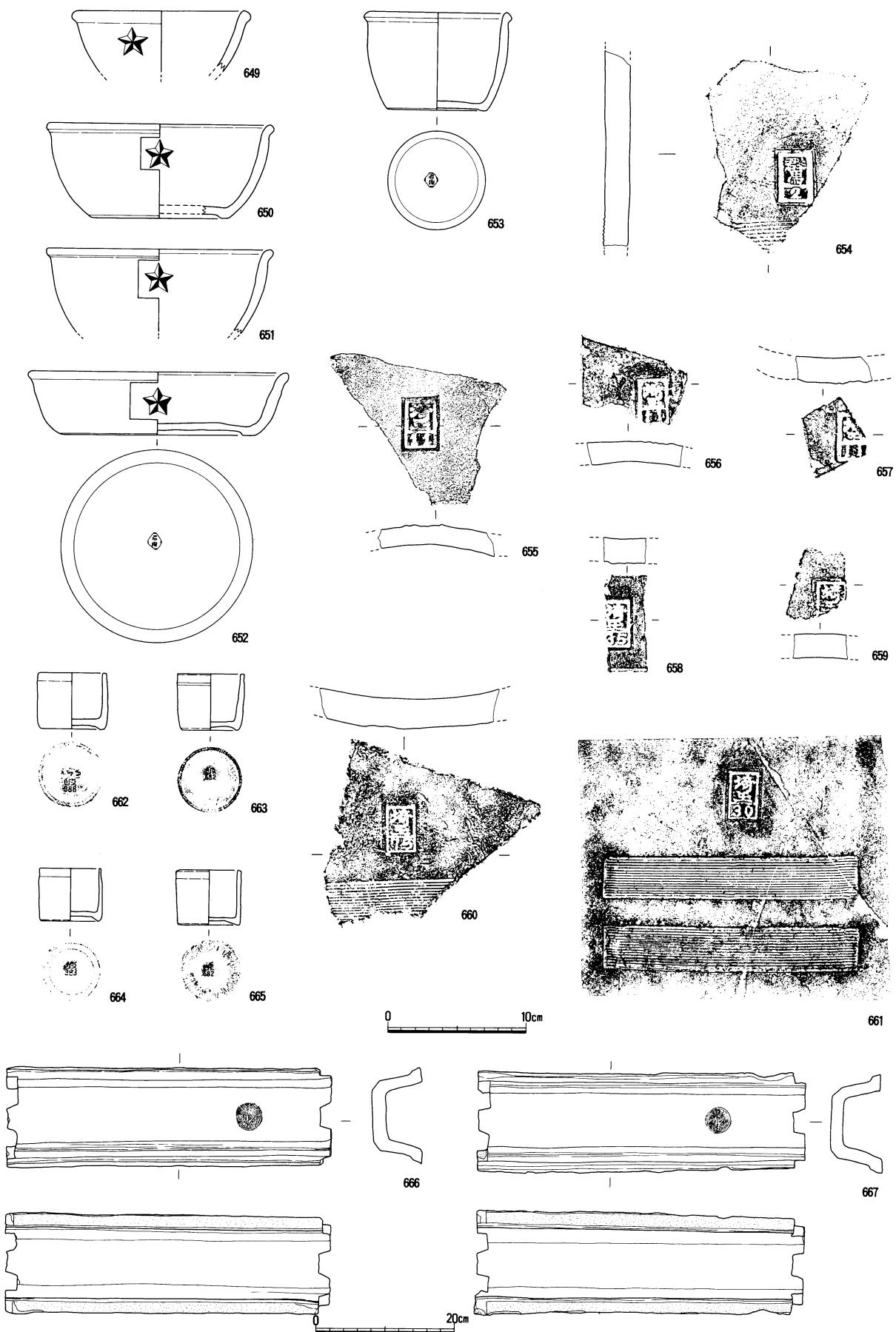
今回の調査では、壺内埋土について底部を含め複数の場所について、成分含量を調査することができた。埋葬後の遺体は、土壤中の様々な作用により分解されてしまうことが多い、その成分は下方に流走する。また、成分が残留する場所は底部を中心に局所的であることが多いが、今回のような壺内埋葬に関する調査を行う場合には、底部を含めて複数の場所について調査を行い、含量比較を行うことが望まれる。

(パリノサーヴェイ株式会社)

- ⑤ 鈴鹿市石薬師町在住の雨宮倉蔵氏に御教示を頂いた。雨宮氏は、当時第一気象連隊の炊事班長であった。
- ⑥ 名古屋製陶は、昭和 13 年に名古屋市北区弦月町に最新鋭のトンネル窯を整備した工場を建設した。第二次大戦中の昭和 18 年、住友財閥に買収され南区へ移転、終戦後鳴海製陶として独立した。総務課広中氏の御教示によると、名古屋製陶で軍用食器を製造していたとは聞いていないが、近くに陸軍造兵廠があり、その関係から製造していたのかもしれないとのことである。なお、鳴海製陶の元社長である石原清氏の御教示によると、当時名古屋製陶では軍用食器を作成していたという。また、星印・名陶の青色は酸化コバルトの粉 (呉須) を使用して、1,300 °C で焼くこと残ることである。
- ⑦ 陶磁器の底に同様な番号が付けられた皿が愛知県名古屋市見晴台遺跡でも出土している。それによると、この番号は「商工省の製造許可によって、生産量、品目等に制限を受け」、「その許可認定として、生産者に番号制が実施され」付けられたものという。なお、岐 388 は土岐津陶磁器工業組合、岐 682 は妻木陶磁器工業組合、生産者は仙石周太郎氏であるという。

伊藤厚史『見晴台遺跡発掘調査報告書 近代編』名古屋市見晴台考古資料館 1992

および伊藤厚史氏本人より貴重なご教示をいただいた。



第167図 近代遺物実測図（666・667は1：8、その他は1：4）

IV. まとめ

平成5年度から8年度まで継続して4年間行われてきた、石薬師東古墳群・石薬師東遺跡の調査の総面積は、19,000m²を越える。検出された古墳の周溝は46基を数え、筒形器台・子持壺など特異な器種の須恵器も出土した。その他の須恵器についても、周溝内での祭祀の痕跡を示す例もいくつか存在する。

また、形象埴輪の中には頭部のたてがみの表現が非常に珍しい馬形埴輪や鹿形埴輪が出土するなど、様々な貴重な成果が得られることができた。さらに、旧帝国陸軍の第一気象連隊という戦争考古学の対象となる、遺構・遺物についても確認することができた。すでに報告済の概報の内容と重なる部分も多くあるが、これらいくつかの成果を若干検討することで総括としたい。

1. 石薬師東古墳群について

昭和の初め頃、鈴木敏雄氏の詳細な研究で石薬師東古墳群には25基の古墳の存在が確認されていた。^①しかし、昭和17年に建設された旧陸軍の第一気象連隊の施設や後の各種施設の建設などによってほとんどの墳丘は削平を受けてしまった。これまでの発掘調査では、周溝のみの検出で、主体部は一切確認されていない。また、石室の痕跡や石材などは全く確認できず、主体部は木棺直葬であった可能性が高い。4年間の調査で検出した古墳の周溝は46基で、周辺の鈴鹿市教育委員会の調査分を含めると53基を確認したことになる^②。これらの調査区は台地の北側部分に当たるため、地形を勘案すると南側部分にかけてはまだ古墳群が広がることが想定され、その数はさらに増えるものと思われる。

46基の内訳を墳形で分けると、方墳42基・円墳4基となり、圧倒的に方墳が多い古墳群である。なお、この4基の円墳（27・40・63・71号墳）であるが、台地の中央部ではなく、東側縁辺部に偏る傾向が窺える。また、これらの円墳は方墳に比べると規模も大きいものが多い。

築造時期について まず、古墳群の築造時期について検討を加えることにする。前述の様に、主体部

が一切検出されていないために時期を決める確かな資料に欠けるが、周溝の底から出土した須恵器の杯身・杯蓋を中心に46基の各古墳を検討した結果、おおむね田辺編年のTK23～MT15型式の時期（5世紀後半～6世紀前半）にかけて順次、古墳が造営されたことが推定できた。

位置について 次に、時期別の古墳の位置を見ていくことにする（第3表・第168図）。まず、TK23型式の時期の古墳は、1カ所に集中せずに点在する。また、墳形は方墳で、規模は小さいものが多い。それが、TK47型式の時期になると数は増加し、調査区の北西部（48・74号墳など）と南西部（30・31号墳など）の、大きく2カ所に集中する。墳形は方墳が大半であるが、規模は大きくなる傾向がある。さらにMT15型式の時期になると、TK47型式の集中する2か所の間に古墳が造営され、この古墳群最大の円墳である71号墳も存在する。

全体的に見てみると、小規模の方墳から造営が始まり、5世紀末から一挙に造営される古墳の数が多くなる。また、墳形は方墳から円墳へ、規模も大きくなる傾向が読み取れそうである。

さらにもう少し詳しく古墳の位置について見てみることにする。概報でも若干述べたが、空閑地帯の存在についてである。その具体的な場所は、45・47・49号墳と46号墳・48号墳との間のことである。調査で確認できた46基の古墳は、割合隙間なく存在しているにもかかわらず、この部分には古墳が存在しない。しかも、45・47・49号墳の中心は、ほぼ東西方向に一直線になり、この空閑地帯はこれに平行する。一方、49・55号墳は同規模の方墳であるが、ともに東側に造り出しを持つ。これは、東側を正面とする意識が働いていたものだと仮定すると、空閑地帯の東西方向は、東から西への墓道的な役割を持つ可能性も考えられる。なお、空閑地帯の東側にはこの古墳群最大の円墳である71号墳が存在し、TK47型式の30・31・32・67号墳の並びの方向は、予め71号墳の存在を意識しているかのようでもある。

規模について 次に、古墳の規模について検討を

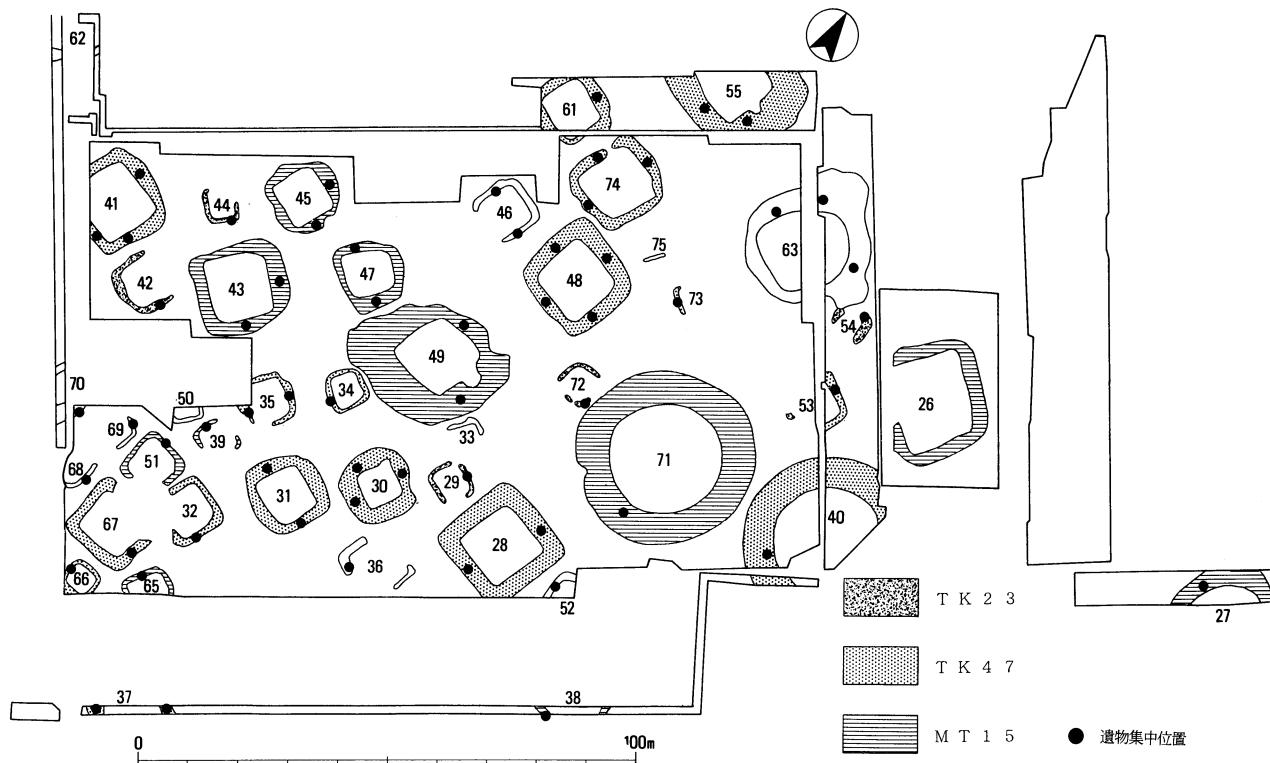
加えることにする。これも既に概報で述べたことがあるが、特に方墳については、ある一定の企画性が考えられそうである。具体的な数字をあげると、一辺の長さが6.0m・7.5m・9.0m・10.5m・12.0m・13.5mと大きくこの6種類の大きさに分類が可能である（第4表・第169図）。ここでの数値は、周溝の内法間の長さである。古墳の規模を測定する場合、周溝の中心間を基準にすることが多いが、今回調査を行った古墳の周溝の平面形態を観察してみると、周溝内側のラインが直線的で外側は弧を描く様な状況が多く見られる。これは、古墳の築造に際して内側を基準に規模を決めたのではないかと判断し、ここでは内法間の長さを測定した。当然墳丘の削平があり、築造当時そのものの数値ではないことは明らかである。しかも、墳丘が一様に削平された

事が証明されなければ一概には言えないことである。それでもなお、6種類の大きさに何らかの基準がありそうである。すなわち、上記の6種類の長さは、すべて1.5mの倍数となることである。この1.5mというのは、女性が両手を一杯ひろげた長さ、いわゆる小尋に相当する。当時、古墳の築造に小尋を使用したとは即断できないが、何らかの物指が存在していたことは十分に考えられる。他の古墳群を含め、検討を加えていかなければならない課題である。

なお、位置については同規模の古墳が1カ所に集中することはないが、特にTK47型式の段階で大きく2カ所に古墳群が集中するそれぞれの場所に、各規模の古墳が存在する。規模の違いは、男女・階層・血縁などを反映していることは十分に考えられるが、言及することははできない。（服部芳人）

田辺編年	古 墳 番 号
TK 23	29・42・44・54・72
TK 47	28・30・31・32・34・35・37・40・41・48・53・ 55・61・66・67・73・74
MK 15	26・27・38・39・43・45・47・49・51・65・71

第3表 時期別古墳一覧表

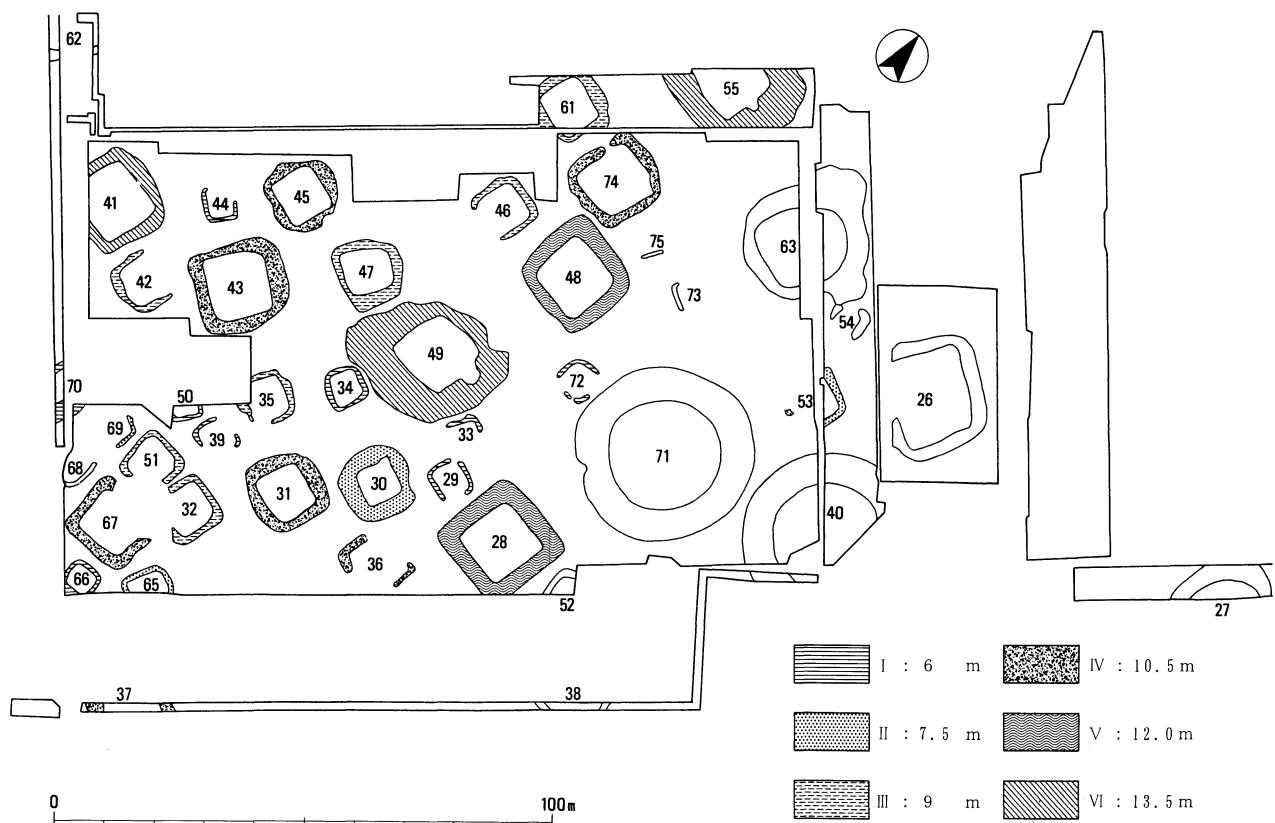


第168図 時期別古墳配置図および遺物出土位置図 (1 : 1,500)

分類	番号	墳形	規模 (m)	須惠器の時期
I	2 9	方墳	6. 0 × 7. 0	TK 2 3
	4 4	方墳	6. 0 × 5. 6	TK 2 3
	7 2	方墳	6. 0 × 6. 5	TK 2 3
	3 4	方墳	6. 2 × 5. 9	TK 4 7
	6 6	方墳	5. 2 × 5. 5	TK 4 7
	3 9	方墳	6. 2 × 6. 6	MT 1 5
	3 3	方墳	6. 0 × -	不明
	5 0	方墳	- × 5. 1	不明
	7 0	不明	6. 0 × -	不明
	3 0	方墳	7. 5 × 8. 0	TK 4 7
II	5 3	方墳	7. 0 × 7. 3	TK 4 7
	6 5	方墳	- × 7. 5	MT 1 5
	6 9	方墳	- × 7. 5	不明
	4 2	方墳	9. 3 × -	TK 2 3
III	3 2	方墳	9. 0 × 8. 5	TK 4 7
	3 5	方墳	8. 2 × 7. 7	TK 4 7
	6 1	方墳	10. 0 × 9. 0	TK 4 7
	5 1	方墳	8. 3 × 8. 4	MT 1 5
	4 7	方墳	9. 0 × 9. 6	MT 1 5
	4 6	方墳	8. 7 × 8. 2	不明
	3 1	方墳	10. 0 × 10. 0	TK 4 7
IV	3 7	方墳	10. 5 × -	TK 4 7
	6 7	方墳	11. 5 × 10. 0	TK 4 7
	7 4	方墳	10. 5 × 11. 0	TK 4 7
	4 3	方墳	10. 0 × 11. 8	MT 1 5
	4 5	方墳	10. 2 × 9. 0	MT 1 5
	3 6	方墳	10. 3 × -	不明
	2 8	方墳	12. 3 × 12. 5	TK 4 7
V	4 8	方墳	12. 0 × 12. 3	TK 4 7
	4 1	方墳	13. 5 × 12. 6	TK 4 7
	5 5	方墳	- × 13. 7	TK 4 7
	4 9	方墳	13. 4 × 13. 0	MT 1 5
	5 4	方墳	4. 2 × -	TK 2 3
	4 0	円墳	21. 0 × 21. 0	TK 4 7
	7 3	方墳	- × -	TK 4 7
VI	2 6	方墳	17. 5 × 15. 0	MT 1 5
	2 7	円墳	20. 0 × 20. 0	MT 1 5
	3 8	方墳	- × -	MT 1 5
	7 1	円墳	23. 0 × 23. 0	MT 1 5
	5 2	方墳	- × -	不明
	6 2	方墳	- × -	不明
	6 3	円墳	15. 0 × 15. 0	不明
VII	6 8	方墳	- × -	不明
	7 5	方墳	- × -	不明
	7 7	方墳	- × -	不明
	7 8	方墳	- × -	不明

I : 6 m II : 7. 5 m III : 9 m IV : 10. 5 m V : 12. 0 m VI : 13. 5 m
 * 規模 (m) は、東西方向×南北方向に統一し、周溝間の内法で計測。

第4表 規模別古墳一覽表



第169図 規模別古墳配置図（1：1,500）

2. 周溝内の遺物の集中について

周溝内から多くの遺物が出土しているが、特に須恵器・土師器については、周溝の底に完全な形で据え置かれたか、あるいは意図的にその場で割られた状態での出土例が多く見られる。そこで、その行われた場所と器種についての検討を加えてみたい。

(1) 場所について

46基の古墳の内、周溝内から遺物が出土した40基の古墳について考えることにする。まず、どの方向の溝で集中するのかを表と図にしてみた（第5表・第168図）。結果的には、特定の辺の周溝だけに遺物が集中するようなことはないが、何らかの傾向がありそうである。

既に概報で、遺物の集中する溝に2つの傾向が存在することを示唆した。1つはL字状の2辺の溝に集中するL字グループと、もう1つは相対する辺の溝に集中する対面グループである。L字グループの古墳の平面形態は、周溝の内側のラインが直線的で外側のラインは曲線で弧を描いたり湾曲するものが多く、時期は5世紀後半である。また対面グループの古墳は、周溝の幅は概ね一定で、時期は6世紀前半であるとした。基本的に遺物が集中する溝に2つのグループがあることは変わりないが、時期と平面形態については若干再考を加える。

まず、4辺の内接する2辺、すなわちL字状の周溝に遺物が集中する古墳（L字グループ）には、43・45・49号墳などがある。これらの古墳は北溝と東溝に遺物の集中が見られ、時期については田辺編年のMT15型式に相当する。これらの周溝の平面形態については、内側ラインが直線的で、外側ラインが弧を描いたり湾曲するものが多い。

次に、南溝と北溝あるいは東溝と西溝という相対する辺に遺物の集中する古墳（対面グループ）には、28・31・35号墳などがある。これらの古墳の時期については、田辺編年のTK47型式に相当する。平面形態については、周溝幅が一定のものや外側が弧を描くものなどがある。

この2つのグループ以外に、周溝の1辺だけに遺物が集中する古墳がある。29・42・44号墳などである。これらの古墳は、規模が小さいものが多く、削平を受け4辺の溝全てが確認できたわけではないた

め、1辺のみの出土であるとは断定はできないが、古墳の時期については、田辺編年のTK23型式である。

以上、遺物の集中する場所の検討をしてきたが、時期によって場所の違いが存在する可能性がある。すなわち、TK23型式の段階は周溝の1辺、TK47型式の段階は相対する2辺の周溝、MT15型式の段階では、L字状の溝にそれぞれ遺物が集中する傾向がある。特に、45・49号墳の遺物が集中する辺が北溝と東溝であるということは、墓道的な役割であると考えた空閑地帯と古墳群の正面は東側を意識したと考えたことを傍証するものと思われる。

(2) 器種について

周溝から出土した遺物を、器種別に検討を加えることとする（第6表）。まず、須恵器の甕についてである。46基の古墳の中には、須恵器の甕が周溝の底で意図的に割られた状態で出土したものが多く見られた。

その中で、まず67号墳出土の甕について見てみることにする。この古墳の東溝の南寄りから出土した甕は、内面の凹面を上にして二重三重に重ねられた状態であった。その場に置かれて割られただけであればこのようになる可能性は少なく、割るという行為の後、意図的に重ねなければ成り得ない出土の状況である。この甕の周辺からは子持甕が、また北に4mほど離れて須恵器の有蓋高杯・甕がかたまって出土している。

もう一つ同じような甕の出土例として、31号墳がある。この古墳も東溝の南寄りで出土している。甕は少なくとも5個体あるが、その内の1個体だけが67号墳と同じように内面の凹面を上にして二重三重に重ねられた状態で出土した。その周辺にはおおむね完形の須恵器の杯身・杯蓋・甕が甕を取り囲むようにかたまっている。なお、杯蓋についてはすべて開かれた状態である。このまとまりの南側には土師器の壺2個体・須恵器の甕4個体が並べられたような状態で出土した。この31号墳と67号墳はともにTK47型式の段階で、同じ東溝で甕の出土が見られ、しかも規模も類似するなど非常に興味深い。

他の甕が出土した古墳については、その場で割られただけの状態である。しかし、大半の甕はほ

時 期	番 号	東 溝	西 溝	南 溝	北 溝	備 考
TK 23	29				○	北溝で須恵器杯身・杯蓋・甌
	42	○				東溝で須恵器杯身・杯蓋
	44	○				東溝で須恵器杯身
	54				○	北溝で須恵器杯蓋
	72	○				東溝で須恵器杯身1個体
TK 47	28			○	○	北溝で土師器短頸壺が7個体L字状に並ぶ
	30		○	○	○	
	31	○	○			
	32	○				
	34			○		
	35			○	○	
	37			○	○	
	40			○		南側で有蓋高杯・無蓋高杯・短頸壺が集中する
	41	○		○	○	
	48	○	○	○	○	
	53				○	
	55	○		○		
	61				○	
	66		○			
MT 15	67	○				
	73			○		
	74		○	○	○	
	26					
	27		○			
	38			○		
	39		○			
	43	○			○	
	45	○			○	東溝で須恵器筒形器台
	47	○	○			
TK 43	49	○			○	
	51				○	
	65		○			西溝で須恵器杯身・杯蓋
	71			○		
	63	○	○		○	
	36			○		
	52		○			
	46	○	○			
	68	○				
	69				○	
不 明	70	○				

第5表 時期別遺物出土位置一覧表

古墳番号・器種	東溝	西溝	南溝	北溝	備考
2 6	須恵器				
2 7	須恵器	杯身・杯蓋・高杯 壺・甕・横瓶・子壺			
	土師器	高杯・把手			
2 8	須恵器		杯身・杯蓋・壺・器台	甕	北溝の土師器短頸壺は7個体がL字状に並ぶ
	土師器			短頸甕	
2 9	須恵器			杯身・杯蓋・甕	杯蓋は開かれる
3 0	須恵器	甕・鉢	杯身・杯蓋・壺 短頸甕・甕・提瓶	杯身・杯蓋 脚付短頸壺・短頸甕・壺	
	土師器			台付甕・短頸甕	
3 1	須恵器	杯身・杯蓋・甕・甕	有蓋高杯・短頸甕・甕		
	土師器	壺	壺		
3 2	須恵器	杯身・杯蓋・甕			
3 4	須恵器		有蓋高杯		
3 5	須恵器		有蓋高杯・甕	甕	
	土師器			壺	
3 6	須恵器		甕		
3 7	須恵器		甕	甕	
3 8	須恵器		杯身・杯蓋 無蓋高杯・甕		須恵器杯身4個体・杯蓋4個体・無蓋高杯1個体・甕1個体・土師器高杯1個体
	土師器		高杯		
3 9	須恵器	有蓋高杯・甕			
	土師器	椀			
4 0	須恵器		有蓋高杯・無蓋高杯 短頸甕・甕		有蓋高杯7個体・無蓋高杯1個体・短頸甕2個体
4 1	須恵器	甕	甕・器台	杯身・有蓋高杯 甕・甕	
4 2	須恵器	杯身・杯蓋			杯身2個体・杯蓋1個体
4 3	須恵器	杯蓋・短頸甕・壺		有蓋高杯・甕 短頸甕・壺	
4 4	須恵器	杯蓋			杯蓋1個体正立状態
4 5	須恵器	筒形器台		杯身	
	土師器			壺	
4 6	須恵器	甕			
	土師器	椀			
4 7	須恵器	甕	短頸甕・脚付短頸甕		
4 8	須恵器	甕	杯身・杯蓋・甕	杯身・杯蓋 無蓋高杯・短頸甕・椀	
4 9	須恵器	筒形器台		有蓋高杯・甕	
5 1	須恵器			甕	
5 2	須恵器	甕			
5 3	須恵器		杯身・有蓋高杯 甕・壺・短頸甕		
	土師器			壺	
5 4	須恵器			杯蓋	
5 5	須恵器	甕	杯蓋		
6 1	須恵器			杯身・杯蓋・甕・甕	
	土師器			高杯	
6 3	須恵器	甕	筒形器台	杯身・杯蓋・無蓋高杯 有蓋高杯・甕	
6 5	須恵器		杯身・杯蓋・甕・高杯		杯身5個体・杯蓋5個体
6 6	須恵器		杯蓋		
6 7	須恵器	有蓋高杯・甕 子持甕・甕			
	土師器	壺			
6 8	土師器	土師器片			
6 9	須恵器			杯身	
7 0	須恵器	甕			
	土師器	土師器片			
7 1	須恵器		有蓋高杯・甕 脚付短頸甕・短頸甕・器台		
7 2	須恵器	杯身			杯身1個体正立状態
	土師器	壺			
7 3	須恵器		杯身・杯蓋・有蓋高杯		
	土師器			台付甕	
7 4	須恵器	杯身・杯蓋・無蓋高杯 有蓋高杯・脚付短頸甕・甕		壺・甕	無蓋高杯・有蓋高杯 短頸甕・甕・器台
	土師器		台付甕	台付甕	

第6表 器種別遺物出土一覧表

ば完形に復元が可能であったため、意図的にその場で割られたと考えてよいであろう。なお、甕が出土した場所については、各溝の中央ではなく、左右どちらかに偏る傾向がある。

甕を中心とする儀礼は、横穴式石室墳の場合は石室前部周辺や羨道部周辺、木棺直葬墳であれば墳頂部などによく行われる。またその場所から、死者の通路を画するものであり、現世と死者の世界を隔絶する儀式「コトドワタシ」を表したものであるとも考えられている。^{④⑤}この石薬師東古墳群でのいくつかの甕の出土状況は、周溝内でこのような儀式が行われたことを物語るものと考える。

最後に、甕以外の器種の出土例をいくつか見てみることにする。まず38号墳である。この古墳の南溝の周溝底からは、須恵器の杯身4個体・杯蓋4個体・無蓋高杯1個体・醜1個体と土師器の高杯1個体がかたまって出土した。醜を中心にして、杯身・杯蓋と高杯が周囲を取り囲むような出土状況である。杯身・杯蓋の1個体は密閉されるが、他の杯蓋は開かれた状態である。また、高杯は須恵器・土師器とともに脚部が折れた状態である。

65号墳の西溝からは、須恵器の杯身・杯蓋が5個体据え置かれた状態で出土した。出土状況は、周溝埋土下層（暗黄褐色粘質土）の上、黒褐色粘質土の中からで、底からは若干浮いた位置であるが、杯蓋はすべて開かれて上を向いている。周溝は昭和時代の待避壕によって分断されるが、この杯身・杯蓋の出土場所の待避壕を挟んだ北側からは須恵器の醜・無蓋高杯が出土した。

この38・65号墳の2つの古墳は、ともに周溝での何らかの祭祀の痕跡を示すものと思われるが、杯身・杯蓋・醜・無蓋高杯という共通した器種がある。なお、29号墳の北溝や31号墳の東溝からは無蓋高杯はないが、杯身・杯蓋・醜という器種が出土している。この杯身・杯蓋・醜という組み合わせは、祭祀行為の1つの器種構成の可能性が考えられる。

次に、40号墳を見てみることにする。この古墳の南溝からは、須恵器の有蓋高杯7個体・短頸壺2個体・無蓋高杯1個体が、ほぼ完形でかたまって出土した。またその南側には、須恵器の甕が細かく割られて散らばったような状況で出土した。また、31号

墳の西溝からは須恵器の有蓋高杯の身5個体・蓋3個体・短頸壺2個体・甕1個体、土師器の壺2個体が周溝から浮いた状態で出土した。有蓋高杯の蓋については、開かれた状態での出土である。

この40・31号墳の2つの古墳からは、有蓋高杯・短頸壺という共通した器種が出土している。この有蓋高杯・短頸壺という組み合わせも、1つの器種構成の可能性が考えられる。特に31号墳については、東溝からは杯身・杯蓋・醜が、西溝からは有蓋高杯・短頸壺という違う器種構成の出土状況が見受けられ、非常に興味深い。

以上いくつかの古墳を見てきたが、周溝内から出土した遺物の器種構成には、杯身・杯蓋・醜という組み合わせと有蓋高杯・短頸壺という組み合わせの2つが、石薬師東古墳群では存在する。この違いが何を意味するのかは分からぬが、ここで各種の須恵器祭式の内、俗に言う「六文銭」と呼ばれる土器埋納行為と比較してみることにする。この「六文銭」祭式については、須恵器が木棺内に納められることはなく、墳丘裾・墓壙上・墓壙内などの位置で行われ、6世紀前半代の古墳に多く見られる。器種の構成は杯身・杯蓋を主体として、高杯・醜・椀・小型壺を添え、死者個人あての最後の一食分の膳が供えられた痕跡である^⑥。

石薬師東古墳群で見られた2つの器種構成の内、杯身・杯蓋と有蓋高杯に食物を、醜と短頸壺に飲物を入れることで、死者個人への一食分の膳が供えられたと考えると「六文銭」祭式と非常に共通する。これまで、須恵器の甕や各器種の出土状況をいくつか見てきた。須恵器の甕だけが出土した古墳、「六文銭」祭式の器種だけが出土した古墳や甕と「六文銭」祭式の器種が同じ場所で出土した古墳など様々存在する。いずれにせよ、ここ石薬師東古墳群では周溝内で祭祀が行われた可能性は十分に考えられる。周溝内で行われたことから考えると、遺物の出土した場所を検討することで、各古墳への墓道を復元する手掛かりになるものと思われる。（服部芳人）

3. 形象埴輪について

周溝からは、様々な形象埴輪が出土した。その中の内、鹿形埴輪と馬形埴輪について、若干検討を加

えることにする。

鹿形埴輪は、全国的に見ても出土例が少ないと形象埴輪である。今回の調査で26号墳および63号墳の2基の古墳から1個体ずつ鹿形埴輪が出土しており、この古墳群内において複数個体の鹿形埴輪が存在していたことが推定される。26号墳では角を含む頭部が、63号墳では角が出土している。どちらも全形が窺えないので推測の域を出ないが、この2つの出土遺物を比較すると、26号墳出土遺物は須恵質で写実的な表現がとられているのに対して、63号墳出土遺物は土師質で表現力が弱い。しかし、ここで注目しておきたい相違点は、頭部と角の接合方法である。形象埴輪について全国的な出土例を網羅的に掲載した資料は少なく確実なことは言えないが、管見に触れた限りにおいては、「はめ込み式」が一般的である。26号墳出土遺物が貼り付けているのに対して、63号墳出土遺物は「はめ込み式」になっていることである。この製作方法の相違は、何を示すものか現時点では不明であり、類例の増加を待って検討を加えたい。

(船越重伸)

次に、63号墳出土の馬形埴輪について、見てみることにする。この馬形埴輪は、周溝から細かく割れた状態で出土した。この古墳は、東側に造り出しを持つと考えられるため、出土した位置はその北側に当たる。復元すると、全長約110cm、総高約80cmの大きさとなり、鏡板・鞍・鈴・杏葉などを備える飾り馬で、どの馬具も非常に写実的な表現である。

まず、この馬形埴輪の時期について、脚部の表現から見てみる。脚部は、細い円筒形で下部にいくにつれてすぼまり、段を伴って蹄が表現されている。ここで脚部での表現に着目した、若松良一氏の時期編年を参考にしてみる。^⑤氏は、脚部の形態を4つ(A類～D類)に分類されている。初期(5世紀中頃)の脚部は、蹄・脛など非常に写実的に模倣している(A類)が、時期が下るにつれて蹄を段で明瞭に表現(B類)するようになる。さらに、太い円筒状で蹄の表現がなくなり(C類)、脚部後側に三角形の切れ込みを入れる(D類)ようになる(6世紀後半)。この分類によると、本例は「B類」に相当し、時期については5世紀中葉の後半とされている。蹄の表現にやや明瞭さが欠けるため、時期は若干下る可能

性がある。

次に、馬具の組み合わせ関係から見てみる。馬具そのものについての編年をそのまま利用できるとは限らないが、写実的であることから考えて埴輪工人は実物を見て作成したことは十分に考えられる。

馬具の編年については、これまで多くの人々によってなされている。中でも、小野山節氏による研究は、馬具各部位の形態や装着の違いが時期差を示していることを明らかにし、今日の編年の基本ともなっている。その後、さらに氏は剣菱形杏葉に伴うF字形鏡板、雲珠の組合せと編年についても明らかにしている。それによると、剣菱形杏葉を伴う馬具は、^⑥5世紀後半から6世紀中頃までであるという。

この馬形埴輪は、F字形鏡板と剣菱形杏葉の組み合わせ関係と、前述の脚部の表現から考えて、5世紀後半と考へるのが妥当であろう。

最後に、頭部から頸部にかけての部分について述べることにする。この部分の上部は大きく外に、下部は緩やかに弧を描き、外面には粗い線刻を縦方向に施す。また、断面形は山形を呈し、馬面からは段をつくる。この部分であるが、一体何を表現したものであろうか。

通常、馬形埴輪のこの部分はたてがみを表現し、上方に刈り揃えられ、その先端を結び飾られる場合が多く、断面形は線状あるいは、T字状を呈する。しかし、この馬形埴輪については、断面形が山形を呈する。ここで考えられるのは、上方へ刈り揃えることなく、下方へ長く伸ばしたたてがみの表現か、この部分に何か別の物を被せたものの表現かであろう。いずれにしても、管見に触れた限りでは日本に類例がなく、特異な表現であることに変わりはない。時代や地域を越えるが、中国の唐や元の時代の俑に、たてがみをなびかせる表現のものがある。縦の線刻が髪の表現と理解すれば妥当であろう。しかし、どのたてがみも後ろの背中側になびかせることで表現するものである。しかし、この馬形埴輪は、前の馬面側になびかせてある。ただし、後ろへなびかせることで手綱が宙に浮いてしまうのを防ぐために、前の馬面へ持っていたと考えれば不自然ではなくなる。

なお、長く伸ばしたたてがみの表現と考えた場合

でも、下部が緩やかに弧を描くことから、刈り揃えているようにも見える。馬のたてがみに何らかの手を加えることの意味も、今後考えていく必要がある。

次に何かの被りものとするならば、馬胃の表現とも考えらる。馬胃に実例としては、日本では和歌山県の大谷古墳・^⑨埼玉県の将军塚古墳・滋賀県の甲山古墳の3例がある。このいずれも、馬面全面に覆い被せる形である。しかし、この馬形埴輪については、全面覆い被せる表現ではない。この部分の表面は馬面から段をつくり、頭部の後ろ部分に笠状のものを被せた様にも見受けられる。

また、この馬形埴輪は馬具・鞍など非常に写実的に表現され、この部分も同様に表現されているはずである。鉄などの硬いものであれば、鉄などの表現があつても不思議ではない。縦方向の粗い線刻から考えて、植物質・纖維質などの被りものの可能性もある。たてがみか被りものか、いずれにせよ類例の増加を待つて検討を加えたい。
(服部芳人)

4. 第一氣象連隊について^⑩

古墳の周溝や他の遺構検出に伴い、旧帝国陸軍の第一氣象連隊の遺構も確認している。そもそもこの第一氣象連隊の発足は、1942年（昭和17）年11月のことである。当時、岐阜県各務原市の陸軍中部131部隊航空気象部隊において気象兵養成教育を行っていたが、新しく第一氣象連隊（第3中隊と第5中隊の2隊）を編成することになり、鈴鹿市石薬師町に新兵舎を建設することになった。ここには、30数棟の兵舎が建てられていたとされるが、この連隊が飛行部隊の作戦を左右する秘密機関であったため、終戦後すべての資料が焼却処分になった。当第一氣象連隊を証明するものは、防衛庁防衛研究所の旧陸軍組織図にその名が見える以外何もなく、「幻の部隊」とも呼ばれている。

今回の発掘調査において、これらの兵舎の建物跡の他、待避壕跡や溝跡などを確認している。

建物跡としては、古墳群が検出された場所に少なくとも5棟存在する（第170図）。建物の基礎は幅約1mのコンクリートを使用し、両側面には巾木と碎石で固定している。この5棟の建物の規模はほぼ

同じで、東西約50m・南北約15mあり、建物の性格は『一氣連戦友会誌』と『戦争を忘れた日本』の建物配置図を参考にすると、北側2棟は通信講堂・南側2棟は気象器材講堂であったと思われる。さらに、建物周辺には直径約1m、深さ約80cmの円形の土坑が幾つか並んで検出された。これらについては、兵舎の建物に伴う柱穴の可能性が考えられる。なお、昭和21年撮影の米軍写真にはこれらの建物は写っていないため、終戦後すぐに取り壊されたものと思われる。

待避壕もいくつか検出された。待避壕とは、防空壕の一種である。豎穴状に素掘りされ、上部の構造を持たず、小型で数人が入れる程度のものであり、空襲の爆風や機銃掃射から身を守る塹壕に近いものである。この待避壕は、東京都東久留米市の神明山南遺跡や同じく自由学園南遺跡などにおいて、調査されている。これらの遺跡で確認された待避壕は、幅は約1m、長さは3.5~4.6m、深さは約0.7m（遺構検出面は、現地表より約0.5m）である。また、両短辺に階段状の出入口を設けている。

石薬師東古墳群の調査で確認できた待避壕は、平面形に、長方形・L字形・コの字形の3種類がある。その中で長方形のものは、いずれも幅が約1m、長さは約4m、深さは約1.5mである。全てを掘削したわけではないが、両短辺から階段状に掘られ、降りられるようになっており、上記の遺跡例と類似する。掘削中に陸軍の軍用食器や、建物の瓦などが出土したものもある。なお、防衛庁防衛研究所図書館における聞き取り調査によると、この様な待避壕には上部に丸太数本を直交して並べることが多いとのことである。
(服部芳人)

(註)

- ① 鈴木敏雄 「鈴鹿郡石薬師村古墳誌」『三重県鈴鹿郡石薬師村考古誌考補記』 1911
 ② 鈴鹿市教育委員会調査の市道部分・民間宅地部分において、56・57・58・59・60・64・76号墳の7基を含める。
 ③ 石部正志・田中英夫・宮川涉・堀田啓一 「前方後円墳築造企画の基準と単位」『考古学ジャーナル特集・古墳の企画性』 No.150・6月号
 ニューサイエンス社 1978
 ④ 龍田博 「後期古墳に埋納された土器」『考古学研究 第23巻第4号』 1977
 ⑤ 伊達宗泰 「古墳壇丘上祭祀の問題—「新沢子塚古墳群の事例を中心として—」』『櫛原考古学研究所論集 第6冊』 1984
 ⑥ 楠元哲夫 「六文鏡-古墳における須恵器祭式成立の意義とその背景」『考古学と生活文化』同志社大学考古学シリーズV 1992
 「六文鏡」の具体的(定式化した)な例として、杯蓋あるいは身を二列に並列し、各三組、連続状(かの真田の旗標)に配置するとある。
 ⑦ 註⑥と同じ
 ⑧ 若松良一 「人物・動物埴輪」『古墳時代の研究9 古墳III 墓輪』雄山閣 1992
 ⑨ 小野山節 「馬具と乗馬の風習」『世界考古学体系3 日本III』平凡社 1959
 ⑩ 小野山節 「古墳時代の馬具」『日本馬具大鑑 第1巻 古代上』日本中央競馬会 1990
 ⑪ 「馬のシルクロード展」—日本の馬文化とその源流をたずねて— 根岸競馬記念公園馬の博物館 1985
 ⑫ 橋口隆康ほか 『増補 大谷古墳』同朋舎出版 1985
 ⑬ 「埼玉県将軍塚古墳出土の馬胃」『調査研究報告 第4号』埼玉県立さきたま資料館 1991
 ⑭ 「一気隊戦友会会誌」一気隊戦友会編集委員会 1979
 特別幹部候補生の展開と任務『戦争を忘れた日本』一気隊戦友会出版部 1996
 ⑮ 戸沢充則・山崎丈ほか 『神明山南遺跡』東久留米市教育委員会 1994
 ⑯ 山崎丈 『東久留米市における防災避難の調査—アラビア森林に眠る戦争遺跡』『明日への文化財 第38号 特集 戦後50年—戦争遺跡』文化財保存全国協議会 1996
 ⑰ 前述の兩宮氏によると、群馬・埼玉の刻印瓦については知らないが、第一氣象連隊は突貫工事で建設されたため、その地方の瓦を再利用した可能性も考えられる。なお、建設工事は現在の大林組の前身が担当したことである。また、防衛省防衛研究所図書館における聞き取り調査においても、刻印瓦の存在は知らないが、群馬県・埼玉県が陸軍に献納した可能性は考えられることがある。

番号	遺跡名	所在地	遺構	時期	規模	備考
1	茶臼山4号墳	四日市市大字泊山字盆井		5世紀後半		
2	丸山1号墳	鈴鹿市河田町	前方後円墳		41.5m	
3	木ノ下古墳	亀山市木ノ下字宮前	帆立貝	5世紀末~6世紀中葉	30.5m	馬形2・家形 人物(男)・淡輪
4	城山古墳	亀山市河合町	前方後円墳		40m	人
5	寺谷3号墳	鈴鹿市郡山町字西谷山663-222	方墳	5世紀末~6世紀初	12m	周溝内祭祀
6	寺谷6号墳	鈴鹿市郡山町字西谷山663-222	円墳	5世紀後半	17.5m	周溝内祭祀
7	寺谷17号墳	鈴鹿市郡山町字西谷山663-222	方墳	5世紀末~6世紀初	10.3m	周溝内祭祀
8	稻葉3号墳	津市野田字稻葉	円墳	5世紀末or6世紀初	18m	男女不明あり 木棺直葬
9	稻葉5号墳	津市野田字稻葉	円墳	5世紀末or6世紀初	15m	男女不明あり 木棺直葬
10	丸岡C2号墳	安芸郡安濃町妙法寺字丸岡		5世紀末~6世紀初		石室か?
11	中ノ庄遺跡	一志郡三雲町中ノ庄	溝	5世紀末		家・男女不明2・女3
12	清水谷5号墳	一志郡嬉野町天花寺字清水谷				
13	上出遺跡	松阪市駅部田町花岡	方墳	5世紀末~6世紀初	12m	家・男女不明2
14	八重田7号墳	松阪市八重田町向山	円墳	5世紀後半	14.4m/14.8m	馬形2・樋・男女不明2
15	常光坊谷4号墳	松阪市岡本町	円墳		17.5m	馬2・淡輪 木棺直葬
16	東山5号墳	松阪市立野町東山	円墳		16m	
17	花岡所在古墳	松阪市小黒田町(飯南郡花岡町大字花岡)	円墳			人物(巫女)頭・腕
18	口南戸古墳	松阪市立野町口南戸	円墳	5世紀末	20m	家・人物
19	狼谷古墳	松阪市岡本町字狼谷	円墳	5世紀末	18.5m	人物・鳥
20	神前山1号墳	多気郡明和町上村	帆立貝	5世紀後葉	38m	家1・蓋3
21	キラ土古墳	上野市佐那具キラ土	前方後円墳	6世紀前葉	50m	鶏1

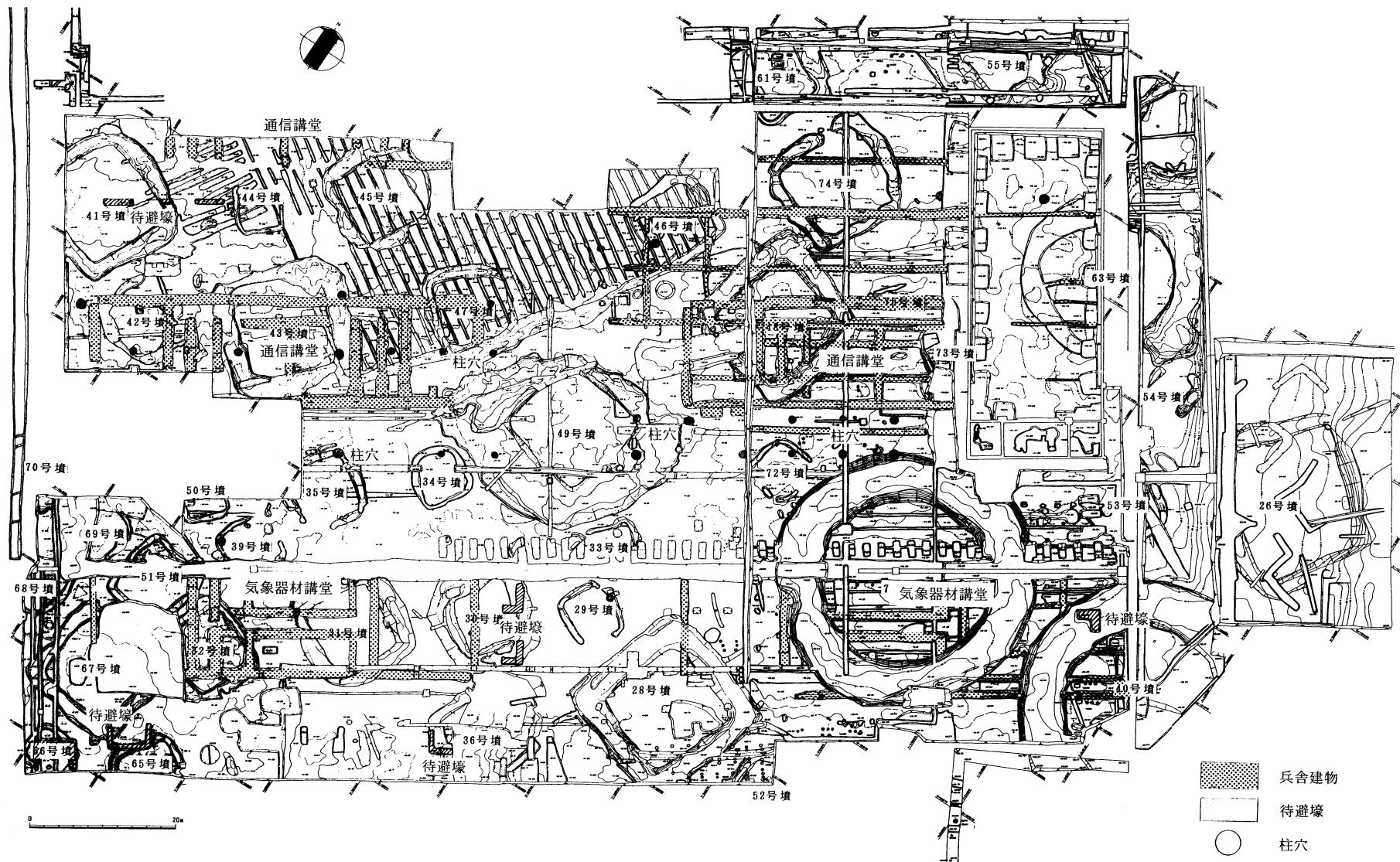
第7表 県内の馬形埴輪出土遺跡一覧表

(参考文献)

- 春日井恒『茶臼山古墳群—電力供給用地に伴う茶臼山4号墳発掘調査報告書』四日市市遺跡調査会 1996
- 鈴木敏雄 「鈴鹿郡石薬師村古墳誌」 1911
- 『鈴鹿市遺跡地図』 鈴鹿市教育委員会 1987
- 三重大学歴史研究会始古代部会 「亀山市木ノ下古墳の発掘調査概要」『考古学雑誌 第67巻第3号』 1982
- 『三重県埋蔵文化財年報4』 三重県教育委員会 1974
- 『三重県埋蔵文化財年報4』 三重県教育委員会 1974
- 『第4回鈴鹿市埋蔵文化財展～最近の調査～』 鈴鹿市教育委員会 1994
- 5に同じ
- 5に同じ
- 『三重県埋蔵文化財年報15』 三重県教育委員会 1985
- 『第16回津の町のうつりかわり展—古墳時代の津—』 津市教育委員会 1988
- 竹内英昭 「伊勢地方の埴輪事情」『天花寺山』 一志郡・嬉野町教育委員会 1991
- 8に同じ
- 10 『中南勢開拓地域遺跡地図』 三重県文化財連盟 1971
- 鈴木敏則 「伊勢の淡輪系円筒埴輪」『Mie history vol.3』 三重歴史文化研究会 1991
- 浅生悦生・田中秀和 「第1編 考古編」『安濃町史 資料編』 安濃町 1994
- 原始古代部会 「長谷山群集墳分布調査報告」『ふひと 40』 三重大学歴史教室・同研究会 1983
- 11 谷本銳次 『中ノ庄遺跡発掘調査報告』 三重県教育委員会 1972
- 12 『図説 津・久居の歴史 上巻(旧石器時代→江戸時代)』 郷土出版 1988
- 『三重県埋蔵文化財年報18』 三重県教育委員会 1988
- 13 下村登良男ほか 『松阪市史 第2巻 資料編 考古』 松阪市 1978
- 13に同じ
- 下村登良男 『八重田古墳群発掘調査報告書』 松阪市教育委員会 1981
- 15 『常光坊谷古墳』『中部平成台団地埋蔵文化財発掘調査報告書』 松阪市教育委員会 1990
- 16 13に同じ
- 中村憲一 「松尾の遺跡」『松阪史跡探訪』 1975
- 17 鈴木敏雄 『三重の遺跡と遺物 第1集』 楽山文庫 1949
- 18 『口南戸古墳発掘調査報告書』 松阪市教育委員会 1991
- 19 『狼谷古墳』『中部平成台団地埋蔵文化財発掘調査報告書』 松阪市教育委員会 1990
- 20 下村登良男 『神前山1号墳発掘調査報告書』 三重県教育委員会 1981
- 原始古代部会 「多気郡神前山古墳について」『ふひと 25』 三重大学歴史研究会 1966
- 21 早瀬保太郎 『伊賀史概説 上巻』 日光出版 1973
- 『上野市遺跡地図』 上野市教育委員会 1971

第170図 第一気象連隊関係建物配置図 (1 : 800)

- 149 -



No	登録番号	器種	遺出土位置	口径 cm	器高 cm	その他 cm	調整技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
1	1017-04	須恵器 有蓋高杯	26号墳 北溝	12.5	5.8	つまみ径 3.25	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	~2mm 砂粒多く含む	良	7.5Y6/0 灰	口縁: 1/8	
2	1017-01	須恵器 有蓋高杯	26号墳 東溝	13.2	-	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	~2mm 砂粒	良	N-6/0 灰	口縁: 1/6	
3	1018-02	須恵器 無蓋高杯	26号墳 東溝	15.6	-	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	~2mm 砂粒	良	N-4/0 灰	口縁: 1/4	長方形スカシ三方
4	1018-03	須恵器 有蓋高杯	26号墳	11.1	-	受部径 13.4	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	細砂粒含む	良	5Y2/1 黒	口縁: 1/11 受部: 1/4	三角形スカシ三方
5	1018-01	須恵器 有蓋高杯	26号墳 東溝	12.6	10.0	脚部径 8.8	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ		良	5Y2/1 黒	口縁: 1/16 底部: 3/4	三角形スカシ三方
6	1018-04	須恵器 短頸壺	26号墳 東溝	7.2	7.8	体部径 11.2	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・底部タキ	~3mm 砂粒	良	7.5Y6/1 灰	口縁: 1/10	
7	1018-05	須恵器 壺	26号墳	14.4	-	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ	~1mm 砂粒	良	2.5Y3/1 黒褐	口縁: 1/4	
8	1017-01	須恵器 杯	26号墳 北溝	16.0	-	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/3ロクロケズリ	微砂粒	良	10YR7/3 にぶい黄橙	口縁: 1/8	
9	1018-01	須恵器 杯	26号墳 北溝	20.8	-	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	~4mm 砂粒多く含む	良	2.5Y 暗灰黄	口縁: 1/8	
10	1017-03	須恵器 杯	26号墳 南溝	15.2	-	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	~2mm 砂粒	良	10G Y 緑灰	口縁: 1/8	
11	1017-07	須恵器 壺	26号墳	22.8	-	-	内: ロクロナデ・タタキ 外: ロクロナデ・タタキ	~1mm 砂粒 砂粒多く含む	良	10BG4/1 暗青灰	口縁: 1/8	
12	1018-03	須恵器 長頸壺	26号墳 東溝	-	-	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ	~5mm 砂粒	良	5Y7/2 灰白		
13	1017-05	須恵器 高杯	26号墳 北溝	-	-	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ	微砂粒	良	7.5Y4/1 灰		
14	1017-06	須恵器 壺	26号墳 北溝	-	-	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ	~1mm 砂粒	良	7.5Y4/1 灰		
15	1018-04	須恵器 壺	26号墳 北溝	-	-	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ	~1mm 砂粒 砂粒少し含む	良	2.5Y7/3 淡黄		
16	1015-01	須恵器 台付壺	26号墳 南溝	13.7	41.8	底部径 19.5	内: ロクロナデ・ナデ 外: ロクロナデ・タタキ	細砂粒少量含	良	5BG4/1 暗灰青	口縁: 完存	ひすみ大きい
17	2002-03	須恵器 杯	27号墳 西溝	9.4	3.8	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・ロクロケズリ	やや密 ~1.5mm砂粒	良	N6/0 灰白	口縁: わずか	
18	2004-01	須恵器 杯身	27号墳 西溝	11.5	4.2	受部径 13.6	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・ヘラケズリ・1/3未調整	密	良	N6/0 灰	ほぼ完形	
19	2007-05	須恵器 杯身	27号墳 西溝	-	-	底部径 9.0	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・ロクロケズリ	やや密	良	7.5Y6/1 灰		
20	2005-03	須恵器 脚部	27号墳 西溝	-	6.6	脚部径 9.4	内: ロクロナデ・ナデ 外: ロクロナデ・ナデ	密	良	N7/0 灰白 2.5Y2/1 黒	1/3	
21	2007-03	須恵器 壺	27号墳 西溝	10.7	-	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ	やや密	良	N4/0 灰 7.5YR4/2 灰褐		
22	2007-01	須恵器 壺	27号墳 西溝	-	-	体部径 17.2	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・ロクロケズリ	やや密	良	N8/0 灰白 10Y6/1 褐灰		
23	2008-06	須恵器 壺	27号墳 西溝	-	-	体部径 7.1	内: ナデ 外: ナデ	やや密	良	N6/0 灰		
24	2013-02	須恵器 壺	27号墳 西溝	19.5	-	-	内: ロクロナデ・オサエ 外: ロクロナデ・タタキ・オサエ	密	良	N5/0 灰 N4/0 灰	口縁: 1/3	
25	2013-01	須恵器 壺	27号墳 西溝	22.8	-	-	内: ロクロナデ・オサエ 外: ロクロナデ・タタキ・オサエ	密	良	10BG6/1 青灰 7.5YR6/3 にぶい褐		
26	2001-01	須恵器 瓶	27号墳 西溝	11.8	29.6	体部径 39.0	内: ロクロナデ・同心円タタキ 外: ロクロナデ・格子タタキ・カキメ	やや密	良	N4/0 灰白	口縁: 2/3	
27	2008-05	土師器 把手	27号墳 西溝	-	-	把手長 6.0	内: ナデ 外: ナデ	やや粗 ~3mm砂粒	良	2.5Y8/3 淡黄		
28	2007-02	土師器 高杯	27号墳 西溝	-	-	-	内: ナデ 外: ナデ・オサエ	やや粗	良	7.5YR7/6 橙		
29	3044-04	土師器 短頸壺	28号墳 北溝	8.4	-	体部径 8.8	内: ナデ 外: ナデ	粗	不良	5YR5/8 明赤褐 5YR6/8 橙	口縁: 1/5	周溝IV Na.7
30	3042-03	土師器 短頸壺	28号墳 北溝	8.8	5.6	体部径 9.6	内: ナデ 外: ナデ	やや粗 ~2mmの石	並	5YR6/8 橙	完形	Na.8
31	3044-05	土師器 短頸壺	28号墳 北溝	-	-	体部径 9.6	内: ナデ 外: ナデ	粗	不良	5YR6/8 明赤褐		Na.7
32	4018-02	須恵器 杯	28号墳 南溝	11.6	5.1	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	細砂粒含む	良	2.5Y7/2 灰	1/3	周溝I Na.7 第4次概報Na.3.7
33	3038-01	須恵器 杯	28号墳 北溝	12.0	-	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ	微砂粒少量含	良	2.5Y6/1 黄灰	口縁: 1/6	
34	4003-08	須恵器 杯	28号墳 南溝	11.4	4.8	受部径 13.2	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	細砂粒多量含	良	5Y5/1 灰	1/3	第4次概報Na.3.8
35	3044-03	須恵器 杯	28号墳 北溝	10.8	4.6	受部径 13.0	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	やや粗	並	2.5Y7/3 浅黄 5Y7/1 灰白 N5/0 灰	受部: 1/4	
36	4043-05	須恵器 杯	28号墳 南溝	-	-	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	細砂粒を含む	良	N6/0 灰		周溝I Na.1.1
37	3044-02	須恵器 杯	28号墳 北溝	-	-	受部径 14.0	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	やや密	良	5Y6/1 灰 7.5Y5/1 灰	1/2	
38	4003-02	須恵器 杯	28号墳 東溝	14.9	10.5	脚部径 9.4	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/3ロクロケズリ	砂粒多く含む	良	N6/0~5/0 灰	口縁: 2/3 脚部: 2/3	周溝IV Na.4 第4次概報Na.3.9
39	4042-07	須恵器 脚部	28号墳 東溝	-	-	脚部径 9.0	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ	細砂粒を含む	良	N6/0 灰	底部: 1/4	長方形スカシ三方
40	3024-02	須恵器 甕	28号墳 北溝	10.6	-	体部径 10.4	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・ロクロケズリ・ナデ	やや密 ~1.5mm砂粒	良	N7/0 灰白 N6/0 灰	口縁: 7/8	

第8表 古墳の周溝出土須恵器・土師器観察表 (1)

No.	登録番号	器種	遺構 出土位置	口径 cm	器高 cm	その他 cm	調整技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考	
133	3024-01	須恵器 短頸蓋	28号墳 北溝	8.5	8.1	体部径 12.2	内: ロクロナデ・ナデ 外: ロクロナデ・ロクロケズリ・カキメ	やや密 ~2mm砂粒	良	7.5Y6/1 2.5Y8/3	灰 淡黄	口縁: 1/3	
134	4055-01	須恵器 蓋	28号墳 南溝	12.1	-	体部径 16.2	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・カキメ	粗 ~7mmの小石	良	2.5Y6/1	黄灰	周溝I Na.1	
135	3031-01	須恵器 甕	28号墳 北溝	20.5	-	-	内: ロクロナデ・ナデ 外: ロクロナデ・タタキ	~2mm細砂粒	良	5Y5/1	灰	口縁: 3/4 周溝IV Na.1	
136	4046-01	須恵器 器台	28号墳 南溝	27.0	-	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ	細砂粒を含む	良	N4/0 N7/0 2.5Y4/2	灰 灰白 暗灰黄	周溝II Na.11	
151	3023-01	須恵器 杯蓋	29号墳 北溝	11.6	4.5	-	内: ロクロナデ・ナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	やや粗 ~2mm砂粒	良	N6/0 2.5GY6/1	灰 オリーブ灰	ほぼ完形 周溝III Na.2	
152	3023-02	須恵器 杯身	29号墳 北溝	9.8 ~ 10.2	4.75	受部径 12.2	内: ロクロナデ・ナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	やや粗 ~1.5mm砂粒	良	N7/0	灰白	ほぼ完形 周溝III Na.3	
153	3023-03	須恵器 甕	29号墳 北溝	11.4	9.8	体部径 10.5	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・ケズリ	やや密 ~2mm砂粒	良	N6/0~4/0 5BG7/1	灰 明青灰	ほぼ完形 周溝III Na.1	
154	3017-01	須恵器 杯蓋	30号墳 北溝	11.0	4.45	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	密 ~2mm砂粒	良	10Y7/1 N5/0	灰白 灰	口縁: 5/6 周溝IV Na.3.5	
155	3022-01	須恵器 杯蓋	30号墳 東溝	11.2	4.2	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	細砂粒	良	2.5Y6/2	灰黄	口縁: 1/4	
156	3020-01	須恵器 杯蓋	30号墳	13.7	5.0	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	砂粒多く含む	良	10Y5/1	灰		
157	3022-02	須恵器 杯身	30号墳 北溝	13.6	4.4	-	内: ロクロナデ・ナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	細砂粒	良	5Y7/1 5Y5/1	灰白 灰	口縁: 1/4	
158	3022-04	須恵器 杯蓋	30号墳 南溝	14.8	-	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	微砂粒	不良	10YR6/6	明黄褐	口縁: 1/2 周溝I Na.2	
159	3017-01	須恵器 杯身	30号墳 北溝	9.3	4.3	受部径 10.8	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	密 ~1.3mm砂粒	良	5Y7/1 N4/0	灰白 灰	ほぼ完形 周溝IV Na.10	
160	3020-02	須恵器 杯身	30号墳 北溝	11.4	4.3	受部径 13.4	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロナデ	細砂粒	やや不良	5Y5/1	灰	口縁: 1/3 周溝IV Na.15	
161	3044-01	須恵器 杯身	30号墳 南溝	10.8	-	受部径 13.6	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/3ロクロケズリ	粗 ~1mm砂粒	良	N6/0	灰	口縁: 1/4 周溝I Na.8	
162	3022-05	須恵器 杯身	30号墳 南溝	11.4	4.6	受部径 14.0	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	細砂粒	良	2.5Y7/3	浅黄	口縁: 1/8 周溝I Na.4	
163	3022-06	須恵器 杯身	30号墳 南溝	11.8	-	受部径 14.6	磨滅が激しく、調整不明	微砂粒	不良	10YR7/4	にぶい黄橙	口縁: 1/8 周溝I Na.1	
164	3020-05	須恵器 脚付短頸蓋	30号墳 北溝	8.8	-	体部径 10.0	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・ロクロケズリ	砂粒多く含む	良	2.5Y3/1	黒褐	口縁: 3/4 周溝IV Na.4 長方形スカシ三方	
165	3022-03	須恵器 短頸蓋	30号墳 北溝	9.1	6.1	体部径 10.0	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ	細砂粒	良	2.5Y7/1	灰白	口縁: 1/4 周溝IV Na.15	
166	3017-03	須恵器 短頸蓋	30号墳 南溝	9.7	7.45	体部径 10.2	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・ヘラケズリ	密 ~2mm砂粒	良	7.5YR6/1 N4/1 10BG6/1	灰 灰 青灰	ほぼ完形 周溝I Na.1	
167	3018-01	須恵器 短頸蓋	30号墳 南溝	10.4	11.6	体部径 14.8	内: ロクロナデ・ナデ 外: ロクロナデ・タタキ	やや密 ~2mm砂粒	良	2.5GY5/1 N5/0	オリーブ灰 灰	口縁: 1/8 周溝I Na.2.5.7	
168	3017-05	須恵器 蓋	30号墳 北溝	11.2	13.6	体部径 14.8	内: ロクロナデ・ナデ 外: ロクロナデ・ナデ	やや密 ~2mm砂粒	良	N6/0~4/0	灰	口縁: 1/3 周溝IV Na.11	
169	3021-01	須恵器 瓶	30号墳 南溝	6.8 ~ 7.0	19.0	厚み 11.0	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ	細砂粒	良	5Y6/2	灰オリーブ	口縁: 7/8 周溝I Na.11	
170	3020-04	須恵器 砵	30号墳 西溝	19.8	9.0	~ 9.5	内: ロクロナデ 外: カキメ・ロクロケズリ	砂粒多く含む	良	7.5YR4/2	灰褐	ほぼ完形	
171	3031-01	須恵器 甕	30号墳 西溝	13.0	34.1	体部径 33.0	内: ロクロナデ・ナデ 外: ロクロナデ・タタキ	~1mm微砂粒	良	5Y7/1	灰白		
172	3019-01	須恵器 甕	30号墳 南溝	22.7	39.2	体部径 47.2	内: ロクロナデ・ナデ 外: ロクロナデ・タタキ	微砂粒	良	2.5Y6/2 2.5Y4/1~8/2	灰黄~灰 白	周溝I Na.1.2ほか	
173	3020-03	土師器 蓋	30号墳 北溝	-	-	体部径 12.2	内: ヨコナデ・ナデ 外: ヨコナデ・ナデ	細砂粒	良	5YR6/8	橙	体部: 1/4 周溝IV Na.7 粘土紐痕跡	
174	3017-04	土師器 台付甕	30号墳 北溝	11.5	-	体部径 14.6	内: ヨコナデ・ナデ 外: ナデ・ハゲヌ	やや密 ~1.5mm砂粒	良	10YR8/4	浅黄橙	口縁: 1/4 周溝IV Na.12	
175	3006-01	須恵器 杯蓋	31号墳 東溝	11.5	5.0	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	微砂粒少量含	良	5Y6/1 2.5Y5/1 2.5Y6/2	灰 黄灰 灰	口縁: 4/5 周溝I Na.15	
176	3003-01	須恵器 杯蓋	31号墳 東溝	12.0	4.7	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	やや密 ~1.5mm砂粒	良	7.5Y6/1 N7/0	灰 白	口縁: 3/4 周溝I Na.1.9	
177	3005-04	須恵器 杯蓋	31号墳 東溝	12.6	5.4	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	細砂粒少量含	やや良	5Y8/1	灰白	周溝I Na.9	
178	3006-03	須恵器 杯蓋	31号墳 東溝	12.0	5.2	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	微砂粒少量含	やや不良	2.5Y8/3 2.5Y7/3 2.5Y8/2	淡黄 浅黄 灰白	口縁: 5/8 周溝I Na.1.0	
179	3006-02	須恵器 杯蓋	31号墳 東溝	11.6 ~ 12.4	4.2	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	微砂粒少量含 ~7mm小石	やや不良	2.5Y7/1	灰白	口縁: 7/8 周溝I Na.1.2	
180	3006-05	須恵器 杯身	31号墳 東溝	9.9	4.4	受部径 11.6	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	微砂粒少量含	良	5Y6/1 N6/0	灰	口縁: 3/4 周溝I Na.2.3	
181	3005-03	須恵器 杯身	31号墳 東溝	10.0	4.2	受部径 11.6	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	細砂粒少量含	やや不良	2.5Y6/2	灰黄	口縁: 5/8 周溝I Na.8	
182	3006-07	須恵器 杯身	31号墳 東溝	10.4 ~ 10.6	4.8	受部径 10.6	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	砂粒少量含む	良	5Y6/1	灰	完形 周溝I Na.2.0	
183	3005-02	須恵器 杯身	31号墳 東溝	9.7	4.4	受部径 12.2	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	細砂粒少量含	良	2.5Y6/2 2.5Y5/1	灰黄 灰	ほぼ完形 周溝I Na.2.2	
184	3006-04	須恵器 杯身	31号墳 東溝	9.6	5.0	受部径 12.3	内: ロクロナデ・ナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	微砂粒少量含	不良	5Y8/1 5Y6/1 5Y7/1	灰白 灰 白	口縁: 1/2 周溝I Na.1.3	
185	3003-02	須恵器 杯身	31号墳 東溝	9.3	4.8	受部径 12.0	内: ロクロナデ・ナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	密 ~2mm砂粒	良	N7/0 7.5Y4/1 7.5Y3/1	灰 灰 オリーブ黒	口縁: 2/3 周溝I Na.1.6	
186	3003-03	須恵器 杯身	31号墳 東溝	9.5	4.7	受部径 12.2	内: ロクロナデ・ナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	密 ~1.5mm砂粒	良	N7/0 2.5GY6/1~4/1	灰 オリーブ灰~暗オリーブ灰	完形 周溝I Na.1.1	

第9表 古墳の周溝出土須恵器・土師器観察表(2)

No	登録番号	器種	遺構	口径 cm	器高 cm	その他 cm	調整技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
187	3008-06	須恵器 杯身	3号墳 東溝	8. 9 9. 6	4. 7	受部径 11. 1 2. 6	内: ロクロナデ・ナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	~3mm小石	良	5Y6/1 灰	完形	周溝I Na 1.4
188	3008-03	須恵器 杯身	3号墳 東溝	-	-	受部径 12. 6	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	~1mm微砂粒	やや不良	5Y8/2 灰白	口縁: 1/7	周溝I Na 2.1
189	3008-02	須恵器 有蓋高杯蓋	3号墳 西溝	12. 5	6. 3	つまみ径 2. 6	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	~2mm細砂粒	良	10Y6/1 灰	口縁: 7/8	周溝III Na 1.3
190	3002-02	須恵器 有蓋高杯蓋	3号墳 西溝	12. 0 ~ 2. 6	6. 3	つまみ径 2. 6	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	砂粒	良	N7/0 灰白 6/0 灰 10YR7/6 明黄褐	ほぼ完形	周溝III Na 1.0
191	3003-05	須恵器 有蓋高杯蓋	3号墳 西溝	12. 7	4. 9	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	やや粗 ~3mm砂粒	良	N7/0 灰白 N4/0 灰	ほぼ完形	周溝III Na 1.4
192	3042-01	須恵器 有蓋高杯蓋	3号墳 西溝	12. 7	-	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	やや粗 ~2mm小石	良	N7/0 灰白	口縁: 1/2	
193	3001-02	須恵器 有蓋高杯	3号墳 西溝	9. 8 ~ 10. 3	8. 5	脚部径 9. 8	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	微砂粒多量含	やや不良	N7/0 灰白	完形	周溝III Na 8
194	3002-01	須恵器 有蓋高杯	3号墳 西溝	10. 4 ~ 10. 6	8. 95	脚部径 9. 5	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	砂粒少量含	やや不良	N4/0~6/0 灰	ほぼ完形	周溝III Na 1.長方形スカシ三方
195	3001-01	須恵器 有蓋高杯	3号墳 西溝	9. 8 ~ 10. 3	8. 85	脚部径 9. 6	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	微砂粒少量含	良	N6/0 灰	ほぼ完形	周溝III Na 9
196	3001-03	須恵器 有蓋高杯	3号墳 西溝	10. 2 ~ 10. 4	8. 6	脚部径 9. 5	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	微砂粒少量含	良	N4/1.5/1 灰 5Y8/2 灰白	ほぼ完形	周溝III Na 6
197	3001-04	須恵器 有蓋高杯	3号墳 西溝	9. 8 ~ 10. 5	8. 2 ~ 8. 4	脚部径 9. 9	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	微砂粒多量含 3~5mm小石	良	N7/0 灰白 10YR6/6 明黄褐	ほぼ完形	周溝III Na 7
198	3005-01	須恵器 足	3号墳 東溝	13. 3	-	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ	細砂粒少量含	良	2.5Y6/2 黄 2.5Y3/2 黒褐	口縁: 5/8	周溝I Na 1.7
199	3004-02	須恵器 足	3号墳 東溝	10. 6 ~ 10. 8	10. 8	体部径 11. 6	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・タタキ	~1mm微砂粒	良	5Y5/1 灰	口縁: 1/6 体部: 7/8	
200	3004-01	須恵器 短頸壺	3号墳 西溝	10. 5	8. 0	体部径 13. 7	内: ロクロナデ・ナデ 外: ロクロナデ・タタキ	やや密 ~2.5mm砂粒	良	N7/0 灰白 N4/0 灰	口縁: 2/3	周溝III Na 3
201	3003-04	須恵器 短頸壺	3号墳 西溝	9. 0	7. 1	体部径 12. 5	内: ロクロナデ・ナデ 外: ロクロナデ・ヘラケズリ・カキメ	やや粗 ~3.5mm砂粒	良	N7/0 灰白~ N5/0 灰	口縁: 1/4	周溝III Na 5
202	3008-01	土師器 壺	3号墳 西溝	9. 1 ~ 9. 6	11. 0	体部径 12. 6	磨滅が著しく不明	~2mm細砂粒	良	5YR6/8 橙	口縁: 1/6 体部: 完形	周溝III Na 2
203	3014-01	土師器 壺	3号墳 西溝	10. 4	15. 7	体部径 13. 2	磨滅が著しく不明	細砂粒	良	5YR5/8 明赤褐		周溝III Na 4
204	3014-02	土師器 壺	3号墳 東溝	10. 6	-	体部径 15. 0	内: ナデ 外: ナデ	細砂粒	良	7.5YR7/4 にぶい橙	口縁: 1/4	周溝I Na 7
205	3034-01	土師器 壺	3号墳 東溝	15. 9	21. 6	体部径 20. 6	内: ヨコナデ・ナデ 外: ヨコナデ・ハケメ・オサエ	細砂粒	良	7.5YR7/6 橙	口縁: 1/2	周溝I Na 6
206	3033-01	須恵器 壺	3号墳 北溝	19. 6	-	-	内: ヨコナデ・オサエ 外: ヨコナデ・ハケメ	細砂粒多量含	良	10YR7/4 にぶい黄橙	口縁: 1/3	
207	3008-01	須恵器 壺	3号墳 西溝	-	-	-	内: 板ナデ・ナデ 外: タタキ	~2mm砂粒	良	10YR6/1 灰	底部: 完形	周溝III Na 1.2
208	3007-01	須恵器 壺	3号墳 東溝	16. 0	18. 2	体部径 18. 2	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・カキメ・タタキ	微砂粒	良	10YR6/3.6/4 にぶい黄 N7/0 灰白 N4/0 灰	口縁: 5/8	周溝I Na 2
209	3010-01	須恵器 壺	3号墳 東溝	15. 0	20. 4	体部径 20. 6	内: ロクロナデ・ナデ 外: ロクロナデ・タタキ	細砂粒	良	5Y5/1 灰	口縁: 1/2	周溝I Na 5
210	3012-01	須恵器 壺	3号墳 東溝	17. 6	-	体部径 28. 8	内: ロクロナデ・ナデ 外: ロクロナデ・タタキ					周溝I Na 4
211	3011-01	須恵器 壺	3号墳 東溝	17. 8	30. 5	体部径 32. 2	内: ロクロナデ・ナデ 外: ロクロナデ・タタキ	細砂粒	良	5Y2/1 黒	ほぼ完形	周溝I Na 3
212	3013-01	須恵器 壺	3号墳 東溝	22. 6	-	体部径 37. 0	内: ロクロナデ・ナデ 外: ロクロナデ・タタキ	細砂粒	良	2.5Y6/1 黄灰 5Y6/1 灰		周溝I Na 1.8
214	4010-01	須恵器 杯蓋	3号墳 東溝	10. 1	4. 1	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	密 微砂粒含む	良	7.5Y6/1灰		第4次概報Na 4.0
215	4007-04	須恵器 杯蓋	3号墳 東溝	12. 0	4. 0	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	微砂粒少量含	良	5Y7/1 灰白 N5/0 灰 5Y6/1灰	1/2	第4次概報Na 4.1
216	4007-05	須恵器 杯蓋	3号墳 東溝	12. 8	5. 2	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	微砂粒少量含	良	5Y6/1.5/1 灰	1/3	周溝I Na 3 第4次概報Na 4.2
217	4042-04	須恵器 杯身	3号墳 東溝	10. 6	-	受部径 13. 0	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ	細砂粒含む	良	2.5Y6/1 黄灰	口縁: わずか	
218	4007-03	須恵器 杯身	3号墳 東溝	12. 0	5. 4	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	細砂粒少量含	良	2.5Y7/2 灰黄 10YR6/3 にぶい黄橙	ほぼ完存	周溝IV Na 2 第4次概報Na 4.3
219	4023-01	須恵器 杯身	3号墳 東溝	20. 5	-	体部径 34. 0	内: 口縁ロクロナデ・体部工具ナデ 外: ロクロナデ・体部タタキ	細砂粒多量含	良	2.5Y5/1 黄灰	口縁: ほぼ完存 他: 1/5	周溝I Na 4 第4次概報Na 4.4
220	4003-04	須恵器 有蓋高杯蓋	3号墳 南溝	12. 2	4. 9	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	細砂粒多量含	良	N5/0 灰 2.5Y7/1灰白	1/2	第4次概報Na 3.6
221	4044-03	須恵器 有蓋高杯	3号墳 南溝	8. 9	-	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	微砂粒含む	良	N6/0 灰	わずか	
222	4042-08	須恵器 脚部	3号墳 南溝	-	-	脚部径 7. 8	内: ロクロナデ 外: カキメ	細砂粒含む	良	2.5Y8/2 灰白	1/2	
223	3042-02	須恵器 有蓋高杯	3号墳 南溝	11. 0	9. 3	脚部径 9. 5	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	やや密 ~2mmの小石	良	2.5Y7/1 灰白	口縁: 1/4	Na 1
224	3034-02	須恵器 杯身	3号墳 南溝	-	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ	細砂粒	良	5Y5/1 灰	口縁: 1/4	Na 2	
225	3025-01	須恵器 杯身	3号墳 西溝	19. 6	24. 5	体部径 22. 3	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・タタキ	~1mm 微砂粒多量含	良	5Y4/1 灰	口縁: 1/4	
226	3030-01	須恵器 杯身	3号墳 東溝	10. 0	31. 2	体部径 39. 6	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・タタキ	~2mm細砂粒	良	5Y6/1 灰	口縁: 3/4	
227	3039-01	須恵器 杯身	3号墳 西溝	-	-	体部径 34. 4	内: 同心円タタキ	密	良	7.5Y5/1 灰		

第10表 古墳の周溝出土須恵器・土師器観察表 (3)

No	登録番号	器種	遺構 出土位置	口 径 cm	器 高 cm	その 他 cm	調整技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考	
228	3037-03	須恵器 杯蓋	3号墳 南溝	14.3	5.4	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	~1mm 微砂粒多量含	不良	2.5Y8/1 5Y5/1灰	ほぼ完形	No.7	
230	3038-04	須恵器 杯蓋	3号墳 南溝	14.3	4.1	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	細砂粒少量含	やや 不良	7.5Y6/1 灰	口縁:1/2	No.1	
231	3038-01	須恵器 杯蓋	3号墳 南溝	14.8	5.3	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	微砂粒少量含	やや 不良	2.5Y8/2 灰白	口縁:3/4	No.4	
232	3024-03	須恵器 杯蓋	3号墳 南溝	14.2	4.9	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	細砂粒少量含	不良	7.5Y8/1 灰白	口縁:5/8	No.8	
233	3037-01	須恵器 杯身	3号墳 南溝	12.1	5.4	受部径 14.4	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	~1mm 微砂粒	不良	5Y8/1 5Y5/1 灰白~ 灰	完形	No.7 底部外面ヘラ記号	
234	3038-02	須恵器 杯身	3号墳 南溝	13.0	5.7	受部径 15.6	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	細砂粒少量含	良	5Y6/1 灰	ほぼ完形	No.1	
235	3038-02	須恵器 杯身	3号墳 南溝	12.4	4.8	受部径 14.6	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	~1mm 微砂粒	不良	5YR8/2 灰白	口縁:3/8	No.5 底部外面ヘラ記号	
236	3028-01	須恵器 杯身	3号墳 南溝	12.3	5.2	受部径 14.8	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	~1mm 微砂粒	不良	5YR8/2 灰白	口縁:1/4	No.3 底部外面ヘラ記号	
237	3029-02	須恵器 無蓋高杯	3号墳 南溝	14.0	11.6	脚部径 9.4	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・ロクロケズリ	~1mm 微砂粒	良	5Y5/1 灰	ほぼ完形	No.2 長方形スカシ四方	
238	3029-01	須恵器 足	3号墳 南溝	13.3	10.7	体部径 10.9	内:ロクロナデ・オサエ 外:ロクロナデ・ロクロケズリ	~1mm 微砂粒	良	5Y5/1 5Y8/1 灰白~ 灰白	ほぼ完形	No.6	
239	3026-05	土師器 高杯	3号墳 南溝	12.0	-	-	磨滅が著しく不明	細砂粒少量含	良	10YR7/4 に bei 黄橙		No.9	
240	4010-03	須恵器 有蓋高杯	3号墳 西溝	11.7	4.4	つまみ径 2.9	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	密 ~1.5mm砂粒	良	7.5Y6/1 灰		周溝III No.5 第4次概報No.4.5	
241	4064-04	須恵器 有蓋高杯	3号墳 西溝	11.1	1	-	受部径 13.0	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ	やや密	良	2.5Y7/1 灰白	口縁:3/4	周溝III No.5
242	4008-04	須恵器 有蓋高杯	3号墳 西溝	11.4	8.6	脚部径 7.8	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・1/4ロクロケズリ	微砂粒含む	良	5Y6/1 灰		周溝III No.5 長方形スカシ三方 第4次概報No.4.6	
243	4054-02	須恵器 有蓋高杯	3号墳 西溝	-	-	脚部径 8.2	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ	やや粗 ~3mm小石	良	2.5Y7/1 灰白	脚部:3/4	周溝III No.5 長方形スカシ三方	
244	4054-03	須恵器 有蓋高杯	3号墳 西溝	-	-	脚部径 7.6	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ	やや密	良	5Y7/1 灰白	脚部:1/2	周溝III No.5 長方形スカシ三方	
245	4064-05	土師器 椀	3号墳 西溝	12.0	4.5	-	内:ナデ 外:ナデ・ケズリ	やや粗	良	5YR6/8 橙	口縁:1/4	周溝III No.4	
246	5110-01	須恵器 有蓋高杯	4号墳 南溝	11.3	6.0	つまみ径 3.2	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・ロクロケズリ	密 ~1.5mm砂粒	良	N7/0 N5/0 4/0 灰	完形	周溝II-① No.6 Na.5と密閉	
247	5013-01	須恵器 有蓋高杯	4号墳 南溝	11.2	6.0	つまみ径 3.6	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・ロクロケズリ	粗 ~2.5mm小石	良	N6/0 灰 外:N7/0 灰白	口縁:1/2	周溝II-① No.4 第5次概報No.3.3	
248	5012-01	須恵器 有蓋高杯	4号墳 南溝	11.6	5.8	つまみ径 3.4	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・ロクロケズリ	やや粗 ~3mm小石	良	10YR7/1 灰白	完形	周溝II-① No.10 第5次概報No.3.5	
249	5012-02	須恵器 有蓋高杯	4号墳 南溝	11.5	5.9	つまみ径 3.2	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・ロクロケズリ	やや粗 ~2mm小石	良	5Y8/1 灰白	口縁:1/2	周溝II-① No.6 第5次概報No.3.4	
250	5013-02	須恵器 有蓋高杯	4号墳 南溝	-	-	つまみ径 3.2	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・ロクロケズリ	粗 ~1.5mm小石	良	N7/0 灰白 外:N8/0 灰白	2/3	周溝II-① No.13 第5次概報No.3.6	
251	5072-02	須恵器 有蓋高杯	4号墳 南溝	11.5	5.7	つまみ径 3.35	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・ロクロケズリ	やや粗 ~3mm砂粒	良	N5/0 灰	ほぼ完形	周溝II-①	
252	5042-01	須恵器 有蓋高杯	4号墳 西溝	11.7	5.4	つまみ径 2.6	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・ロクロケズリ	やや密	良	5Y7/1 5Y6/1 灰白	1/2	周溝III-①	
253	5110-03	須恵器 有蓋高杯	4号墳 南溝	8.8	9.25	脚部径 7.6	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・ロクロケズリ	密 ~1.5mm砂粒	良	N7/0 N5/0 4/0 灰	完形	周溝II-① No.6 Na.4と密閉	
254	5009-01	須恵器 有蓋高杯	4号墳 南溝	9.1	9.2	脚部径 8.35	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・ロクロケズリ	密 微砂粒含む	良	N8/0 灰白	完形	周溝II-① No.5 長方形スカシ三方 第5次概報No.3.8	
255	5009-03	須恵器 有蓋高杯	4号墳 南溝	9.9	9.4	脚部径 8.5	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・ロクロケズリ	やや密	良	7.5Y7/1 灰白	口縁:4/5 脚部:完存	周溝II-① No.7 長方形スカシ三方 第5次概報No.4.1	
256	5011-02	須恵器 有蓋高杯	4号墳 南溝	10.0	9.0	脚部径 7.5	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・ロクロケズリ	やや密 ~5mm小石	良	N4/0 灰	口縁:1/3 脚部:2/3	周溝II-① No.12 長方形スカシ三方 第5次概報No.4.0	
257	5009-02	須恵器 有蓋高杯	4号墳 南溝	9.3	9.5	脚部径 8.25	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・ロクロケズリ	やや密	良	N8/0 灰	口縁:4/5 脚部:完存	周溝II-① No.3 長方形スカシ三方 第5次概報No.3.7	
258	5011-01	須恵器 有蓋高杯	4号墳 南溝	9.6	9.65	脚部径 8.5	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・ロクロケズリ	やや密 ~4mm小石	良	5Y6/1 灰	完形	周溝II-① No.9 長方形スカシ三方 第5次概報No.3.9	
259	5009-04	須恵器 有蓋高杯	4号墳 南溝	9.0	8.5	脚部径 8.0	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・ロクロケズリ	密	良	7.5Y6/1 灰 N4/0 灰	口縁:完存	周溝II-① No.8 長方形スカシ三方 第5次概報No.4.2	
260	5011-03	須恵器 無蓋高杯	4号墳 南溝	13.2	8.4	脚部径 7.9	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・ロクロケズリ	やや密 ~4mm小石	良	N7/0 灰白	口縁:1/3 脚部:完存	周溝II-① No.11 円形スカシ三方 第5次概報No.4.3	
261	5072-04	須恵器 足	4号墳 南溝	-	-	体部径 11.0	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ	やや粗 ~2mm砂粒	良	5Y/0 灰	体部:ほぼ完形	周溝II-①	
262	5073-03	須恵器 蓋	4号墳 南溝	9.5	11.5	体部径 13.0	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・タタキ	密	良	N5/0 灰	口縁:1/2	周溝II-①	
263	5012-03	須恵器 短頸蓋	4号墳 南溝	-	-	体部径 12.8	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・ロクロケズリ後ナデ	やや密 ~2mm小石	良	2.5Y7/1 灰白	体部:ほぼ完形	周溝II-① No.1 第5次概報No.4.5	
264	5012-04	須恵器 短頸蓋	4号墳 南溝	-	-	体部径 11.0	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・ロクロケズリ	やや密 ~4mm小石	良	5Y6/1 灰	体部:1/2	周溝II-① No.2 第5次概報No.4.4	
271	4028-01	須恵器 杯蓋	4号墳 北溝	14.8	-	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ	やや粗 ~2.5mm砂粒	良	N7/0 灰白 2.5GY6/1 緑灰	口縁:1/3		
272	4037-03	須恵器 杯身	4号墳 北溝	10.3	4.5	受部径 13.7	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	細砂粒含む	良	N-2/0 黒 5Y6/1 灰	口径:5/8 受部:1/2	第4次概報No.1	
273	4030-01	須恵器 杯身	4号墳 北溝	11.0	4.7	受部径 13.7	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	密 ~1.5mm砂粒	良	N5/0 灰	口縁:1/8		
274	4027-04	須恵器 杯身	4号墳 北溝	11.5	5.0	受部径 14.5	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	細砂粒含む	良	7.5Y7/1 灰白 N7/0 灰白 N6/0 灰	口径:3/8 受部:1/2	周溝IV 底部外面ヘラ記号 第4次概報No.2	

第11表 古墳の周溝出土須恵器・土師器観察表 (4)

No	登録番号	器種	遺出土位置	横 cm	口 cm	径 cm	高 cm	その他の cm	調整技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考	
275	4030-02	須恵器 杯身	4 1号墳	12. 5	—	受部径 15. 2	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	密 ~1. 5mm砂粒	良	10Y7/1 N7/0	灰白 灰白	口縁: 1/8			
276	4005-01	須恵器 有蓋高杯	4 1号墳 北溝	11. 1	10. 2	脚部径 9. 1	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/4ロクロケズリ	微砂粒含む	良	5Y7/1 5Y6/1	灰白~ 灰	口縁: 3/4 底部: 7/8	長方形スカシ三方 第4次概報No.5		
277	4008-03	須恵器 有蓋高杯	4 1号墳 北溝	11. 6	10. 1	脚部径 9. 2	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/4ロクロケズリ	密 微砂粒含む	良	5Y6/1	灰	口縁: 1/2	長方形スカシ三方 第4次概報No.3		
278	4027-01	須恵器 有蓋高杯	4 1号墳 北溝	10. 7	10. 6	脚部径 9. 5	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/4ロクロケズリ	細砂粒含む	良	5Y7/1	灰白	口縁: 3/8 底部: 5/6	長方形スカシ三方 第4次概報No.4		
279	4030-04	須恵器 有蓋高杯	4 1号墳 北溝	—	—	脚部径 8. 7	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・ロクロケズリ	やや粗 ~1. 5mm砂粒	良	N6/0 N7/0	灰 灰白	脚部: 1/6	円形スカシ三方		
280	4030-03	須恵器 脚部	4 1号墳 北溝	—	—	脚部径 9. 2	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・ロクロケズリ	やや密 ~1. 5mm砂粒	良	10Y6/1 N5/1	灰 灰	脚部: 2/3	円形スカシ三方		
281	4028-08	須恵器 有蓋高杯蓋	4 1号墳	—	—	つまみ径 3. 3	内: ロクロナデ・ナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	やや粗 ~2mm砂粒	良	10Y6/1 N7/0	灰白 灰白	口縁: 1/4			
282	4028-01	須恵器 頭部	4 1号墳 北溝	13. 1	—	体部径 11. 5	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ	~1mm 微砂粒含む	良	N4/0 N5/0	灰~ 5Y6/1	口縁: 3/4	第4次概報No.6		
283	4031-01	須恵器 頭部蓋	4 1号墳 北溝	—	—	頭部径 5. 7	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ	密 微砂粒含む	良	N7/0 N6/0	灰白 灰	頭部: 3/4			
284	4057-01	須恵器 蓋	4 1号墳 東溝	21. 0	38. 0	体部径 35. 0	内: ロクロナデ・同心円タタキ 外: ロクロナデ・タタキ後ナデ	やや密	良	2. 5Y7/2	灰黄	口縁: 7/8	周溝IV No.6		
285	4055-02	須恵器 蓋	4 1号墳	21. 2	—	—	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ	やや密 ~7mm小石	良	2. 5Y5/1	黄灰	口縁: 3/8			
286	4054-01	須恵器 蓋	4 1号墳 南溝	23. 4	—	—	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・タタキ	密 微砂粒含む	良	5Y5/1	灰	口縁: 完形	周溝I No.3		
287	4040-01	須恵器 蓋	4 1号墳 東溝	—	—	体部径 59. 0	内: ロクロナデ・同心円タタキ 外: ロクロナデ・タタキ後カキメ	やや密	良	N6/0	灰	体部: 1/4			
288	4008-01	須恵器 器台	4 1号墳 東溝	44. 0	—	—	内: ロクロナデ 外: 1/2タタキ	細砂粒含む	良	10YR7/2~7/3 10YR7/1 10YR3/1	口縁: 1/4	周溝I・IV No.2・3 No.8と同一個体 第4次概報No.7			
289	4011-01	須恵器 器台	4 1号墳 南溝	—	—	底部径 32. 8	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ	やや密 ~2mmの砂粒	良	10YR7/2 10YR7/1	にい黄橙 灰白	底部: 3/4	周溝I・IV No.2・3 No.7と同一個体 第4次概報No.8		
290	4025-03	須恵器 蓋	4 2号墳 東溝	13. 6	4. 5	—	内: ロクロナデ 外: ロクロケズリ	密 ~3mmの砂粒	良	2. 5Y5/2	暗灰黄	1/2	周溝IV No.1 第4次概報No.9		
291	4025-01	須恵器 身	4 2号墳 東溝	11. 1	4. 75	—	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	密 ~3mmの砂粒	良	10YR6/3	にい黄橙	ほぼ完形	周溝IV No.2 第4次概報No.10		
292	4025-02	須恵器 身	4 2号墳 東溝	12. 0	4. 65	—	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	密 ~3mmの砂粒	良	2. 5Y7/2	灰黄	1/4	周溝IV No.3 第4次概報No.11		
293	4028-03	須恵器 杯蓋	4 3号墳	13. 2	—	—	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・ロクロケズリ	粗 ~1. 5mm砂粒	良	N6/0	灰	口縁: 1/5			
294	4032-04	須恵器 杯蓋	4 3号墳	14. 0	—	—	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・ロクロケズリ	密 微砂粒	良	10Y6/1 10Y5/1	灰 灰				
295	4028-04	須恵器 杯蓋	4 3号墳	13. 8	—	—	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・ロクロケズリ	やや粗 ~1. 5mm砂粒	良	N7/0	灰白	口縁: 1/12			
296	4028-02	須恵器 杯蓋	4 3号墳 東溝	14. 2	—	—	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・ロクロケズリ	やや密 ~1mm砂粒	良	N5/0 N3/0	灰 暗灰	口縁: 1/8			
297	4032-08	須恵器 杯身	4 3号墳	10. 0	—	受部径 11. 4	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ	密 微砂粒	良	10Y6/1 N6/0	灰	口縁: 1/4			
298	4027-02	須恵器 有蓋高杯蓋	4 3号墳 北溝	12. 9	5. 3	—	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	細砂粒含む	良	N5/6	灰	2/3	周溝IV No.3 第4次概報No.12		
299	4005-02	須恵器 有蓋高杯蓋	4 3号墳 東溝	13. 1	4. 7	—	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/3ロクロケズリ	密 ~1mmの砂粒	良	5Y6/1	灰	1/8	第4次概報No.13		
300	4032-01	須恵器 有蓋高杯蓋	4 3号墳 北溝	—	—	つまみ径 3. 2	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・ロクロケズリ	密 ~1mm砂粒	良	7. 5Y6/1	灰		周溝III No.3		
301	4032-02	須恵器 有蓋高杯蓋	4 3号墳 北溝	—	—	つまみ径 3. 4	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・ロクロケズリ	密 ~1mm砂粒	良	N6/0	灰		周溝III No.3		
302	4054-01	須恵器 有蓋高杯	4 3号墳	8. 7	8. 5	脚部径 8. 5	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・ロクロケズリ	やや粗 ~5mm砂粒	良	7. 5Y6/1	灰	口縁: 1/10	長方形スカシ三方		
303	4005-03	須恵器 有蓋高杯	4 3号墳 北溝	—	—	脚部径 8. 8	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・ロクロナデ	密 ~1mmの砂粒	良	N5/0	灰	1/2	周溝III No.1 長方形スカシ三方 第4次概報No.15		
304	4034-04	須恵器 有蓋高杯	4 3号墳 北溝	—	—	脚部径 8. 0	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・ロクロケズリ	密 微砂粒	良	7. 5Y6/1	灰	脚部: 1/4	周溝III No.3 長方形スカシ三方		
305	4034-05	須恵器 有蓋高杯	4 3号墳 北溝	—	—	脚部径 7. 3	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・ロクロケズリ	密 微砂粒	良	7. 5Y6/1	灰	脚部: 1/6	周溝III No.1 長方形スカシ三方		
306	4034-01	須恵器 脚部	4 3号墳 北溝	—	—	脚部径 8. 5	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ	密 微砂粒	良	N7/0	灰白	脚部: 3/4	周溝IV No.2 円形スカシ三方		
307	4028-02	須恵器 脚部	4 3号墳 東溝	—	—	脚部径 8. 8	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・ロクロケズリ	微砂粒含む	良	N6/0	灰	1/2	周溝I No.1 円形スカシ三方 第4次概報No.14		
308	4034-02	須恵器 脚部	4 3号墳 北溝	—	—	脚部径 8. 05	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ	密 微砂粒	良	N6/0	灰	脚部: 1/5	周溝III No.1 円形スカシ三方		
309	4034-03	須恵器 脚部	4 3号墳 北溝	—	—	脚部径 9. 2	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・ロクロケズリ	密 微砂粒	良	5Y6/1	灰	脚部: 1/4	周溝III No.3 円形スカシ三方		
310	4033-01	須恵器 頭部	4 3号墳 北溝	—	—	体部径 13. 7	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ	密 微砂粒	良	N4/0 5Y3/2	灰 オリーブ黒		周溝III No.1		
311	4029-05	須恵器 短頸蓋	4 3号墳	6. 8	—	—	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ	やや密 ~1. 5mm砂粒	良	N6/0	灰 10Y7/1	灰白	口縁: 1/2		
312	4033-05	須恵器 短頸蓋	4 3号墳 北溝	10. 3	—	—	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ	密 微砂粒	良	10GY5/1	緑灰		周溝III No.3		
313	4006-01	須恵器 短頸蓋	4 3号墳 東溝	9. 3	—	—	内: ロクロナデ 外: カキメ	密 ~1mmの砂粒	良	N6/0	灰	1/3	周溝I No.1 第4次概報No.19		
314	4028-01	須恵器 蓋	4 3号墳 東溝	12. 4	—	体部径 17. 2	内: ロクロナデ/頭部ビュオサエ 外: ロクロナデ・1/4ロクロケズリ	微砂粒多く含む	良	5Y6/1	灰	2/3	周溝I No.1 第4次概報No.20		

第12表 古墳の周溝出土須恵器・土師器観察表（5）

No	登録番号	器種	遺 墓 出土位置	口 径 cm	器 高 cm	そ の 他 cm	調 整 技 法 の 特 徴	胎 土	焼 成	色 調	残 存	備 考	
315	4008-03	須恵器 蓋	4.3号墳 北溝	-	-	体部径 11.2	内: ロクロナデ 外: カキメ・1/4タタキ	密 ~1mmの砂粒	良	N5/0 灰	体部: 1/2 頭部: 完存	周溝III No.3 第4次概報No.18	
318	4005-04	須恵器 脚付蓋	4.3号墳 東溝	-	-	体部径 10.4	内: ロクロナデ 外: 1/2ロクロケズリ	密 ~1mmの砂粒	良	N4/0 灰	3/4	周溝I No.1 第4次概報No.17	
317	4006-02	須恵器 脚付短頸蓋	4.3号墳	8.6	-	体部径 10.3	内: ロクロナデ 外: 1/2ロクロケズリ・ロクロナデ	密 ~1mmの砂粒	良	5Y6/1 灰	1/4	第4次概報No.16	
318	4033-03	須恵器 蓋	4.3号墳	19.6	-	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ	密 微砂粒	良	7.5Y6/1 灰 7.5Y5/1 灰	口縁: 1/8		
319	4033-02	須恵器 器台	4.3号墳	24.0	-	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ	密 微砂粒	良	7.5Y7/1 灰白 N3/0 暗灰	口縁: 1/6		
320	4015-05	須恵器 杯	4.4号墳 東溝	12.4	4.4	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	密 ~3mmの砂粒	良	10YR6/2 灰黄褐	ほぼ完形	第4次概報No.21	
321	4033-03	須恵器 杯蓋	4.5号墳 北溝	12.0	4.2	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	密 微砂粒	良	5Y7/1 灰白	口縁: 1/5		
322	4038-01	須恵器 杯蓋	4.5号墳 北溝	12.3	3.8	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	密 ~1.5mm砂粒	良	N7/0 灰白 5Y7/1 灰白 5Y4/1 灰	口縁: わずか		
323	4007-01	須恵器 杯身	4.5号墳 北溝	12.0	4.8	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	砂粒多く含む	良	5Y7/1・7/2 灰白 2.5Y6/3 にぶい黄色	口縁: 5/8	周溝IV No.2 第4次概報No.23	
324	4007-02	須恵器 杯身	4.5号墳 北溝	11.6	4.8	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	砂粒含む	良	5Y7/1・6/1 灰白 2.5Y7/2 灰白	受部: 5/8	周溝IV No.3 第4次概報No.22	
325	4038-02	須恵器 杯身	4.5号墳 北溝	9.8	4.1	受部径 13.3	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	密 ~1mm砂粒	良	2.5GYZ/1 明オリーブ灰 5GYZ/1 暗オリーブ灰	口縁: 2/5		
326	4024-01	須恵器 箱形器台	4.5号墳 東溝	17.6	2.8	~7	底部 18.8 29.5	内: ロクロナデ・簡部ユビオサエ 外: ロクロナデ	やや粗 ~1.5mm砂粒	良	5Y7/1 灰白 5Y6/1 灰 1.0v2/1	3/4	周溝IV No.1 第4次概報No.24
327	4013-02	須恵器 脚付短頸蓋	4.7号墳 西溝	8.6	9.05	7.8	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/5ロクロケズリ	やや粗 ~1.5mm砂粒	良	N4/0 灰	口縁: 1/3 底径: 完存	第4次概報No.25	
328	4003-05	須恵器 脚部	4.7号墳 西溝	-	-	脚部径 9.6	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ	細砂粒含む	良	N5/0 灰	7/8	円形スカシ孔 第4次概報No.26	
329	4018-02	須恵器 短頸蓋	4.7号墳 西溝	7.0	8.3	体部径 11.0	内: ロクロナデ 外: 1/4ロクロケズリ・1/4タタキ	密 ~1mm微砂粒	良	5Y5/1 灰	口縁: 3/4 その他: 完存	底部外面へラ記号 第4次概報No.27	
330	4003-01	須恵器 蓋	4.7号墳 東溝	18.4	-	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ	砂粒多く含む	良	10Y5/1 灰	2/3	周溝IV No.1 第4次概報No.28	
331	5024-02	須恵器 杯蓋	4.8号墳 北溝	11.7	4.45	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	やや粗 ~4mm砂粒	良	N4/0 灰 N5/0 灰白	全体: 2/3	周溝IV-① No.5 第5次概報No.61	
332	4038-03	須恵器 杯蓋	4.8号墳 南溝	12.0	-	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・ロクロケズリ	密 微砂粒	やや粗 7.5Y8/1 灰白	口縁: 1/5	周溝II No.2		
333	5081-03	須恵器 杯蓋	4.8号墳 北溝	12.6	4.4	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	やや粗 ~3mm小石	良	2.5Y7/1 灰白	口縁: 1/10	周溝IV-①	
334	5081-06	須恵器 杯身	4.8号墳 北溝	10.4	4.6	受部径 12.2	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	やや粗 ~3mm小石	良	5Y4/1 灰	口縁: 1/5	周溝IV-① No.7	
335	4016-01	須恵器 杯身	4.8号墳 西溝	10.1	4.55	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	細砂粒含む	良	2.5Y6/3 にぶい黄	ほぼ完存	周溝III No.1 第4次概報No.29	
336	5038-01	須恵器 杯身	4.8号墳 北溝	10.2	5.4	受部径 12.2	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	~3mm小石	良	5Y6/1 灰 5Y5/1 灰	口縁: 1/2	周溝IV-① No.4	
337	5072-01	須恵器 有蓋高杯蓋	4.8号墳 南溝	11.0	5.5	2.8	つまり徑 2.8	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	やや粗 ~1mm砂粒	良	N5/0 灰	口縁: わずか	周溝I-②
338	5024-04	須恵器 無蓋高杯	4.8号墳 北溝	12.8	9.55	-	脚部径 9.55	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・ロクロケズリ	やや粗 ~2mm砂粒	良	N6/0 灰 N8/0 灰白	脚部: 完存	周溝IV-① No.2 第5次概報No.62
339	5025-02	須恵器 通	4.8号墳 北溝	11.2	-	体部径 9.8	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ	やや粗 微砂粒	良	N4/0 灰 N8/0 灰白 7.5Y4/3 暗オリーブ	口縁: 1/5	周溝IV-①	
340	5025-01	須恵器 通	4.8号墳 北溝	12.6	-	体部径 15.0	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・ロクロケズリ	やや粗 ~2mm砂粒	良	N5/0 灰 N6/0 灰	口縁: 3/8	周溝IV-① 第5次概報No.65	
341	4016-03	須恵器 短頸蓋	4.8号墳 西溝	6.9	6.3	体部径 10.0	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/3ロクロケズリ	細砂粒含む	良	5GY5/1 オリーブ灰	1/2	第4次概報No.30	
342	5025-03	須恵器 短頸蓋	4.8号墳 北溝	10.0	-	体部径 12.2	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・タタキ	やや粗 ~2mm砂粒	良	N7/0 灰白	2/3	周溝IV-① No.9 第5次概報No.64	
343	5024-01	須恵器 碗	4.8号墳 北溝	7.5	6.9	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・静止ハラケズリ	やや粗 ~2mm砂粒	良	N8/0 灰白 N5/0 灰	ほぼ完形	周溝IV-① No.3 第5次概報No.63	
344	4038-01	須恵器 碗	4.8号墳 西溝	24.0	-	-	内: ロクロナデ・タタキ・カキメ 外: ロクロナデ・タタキ・カキメ	やや粗 ~2mm細砂粒	良	5Y7/1 灰白	口縁: 3/8	周溝III No.2	
345	4058-01	須恵器 蓋	4.8号墳 南溝	21.5	-	体部径 41.0	内: ロクロナデ・タタキ 外: ロクロナデ・タタキ・カキメ	やや密	良	5Y5/1 灰~ 5Y7/2 灰白	口縁: ほぼ完形	周溝II No.1	
346	5104-01	須恵器 蓋	4.8号墳 東溝	30.5	-	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ	密	良	N4/0 灰白	口縁: 1/3	周溝I-① No.6	
347	5032-01	須恵器 蓋	4.8号墳 北溝	9.8	22.6	体部径 23.8	内: ロクロナデ・ケズリ 外: ロクロナデ・タタキ	密	不良	10YR6/2 灰黄褐	底部: 一部欠	周溝IV-① 第5次概報No.66	
357	4051-02	須恵器 杯蓋	4.9号墳 北溝	11.0	-	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・ロクロケズリ	微砂粒少量含	良	5Y7/3 浅黄	口縁: 1/5		
358	4040-05	須恵器 杯蓋	4.9号墳 北溝	12.4	-	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・ロクロケズリ	やや密 ~1.5mm砂粒	良	5Y5/1 灰	口縁: 1/4		
359	4035-03	須恵器 杯蓋	4.9号墳 北溝	13.0	-	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・ロクロケズリ	微砂粒	良	N5/0 灰	口縁: 1/4	周溝III No.11	
360	4038-04	須恵器 杯身	4.9号墳 北溝	9.4	-	受部径 11.6	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ	やや密 微砂粒	良	N7/0 灰白 N4/0 灰	口縁: 1/3	周溝III No.11	
361	4038-05	須恵器 杯身	4.9号墳 北溝	11.0	-	受部径 14.0	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・ロクロケズリ	やや密 ~1mm砂粒	良	5Y7/1・8/1 灰白 N6/1 灰 SPB4/1 暗青灰	口縁: わずか	周溝III No.11	
362	4038-06	須恵器 無蓋高杯	4.9号墳 北溝	11.0	-	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・ロクロケズリ	やや密 ~1mm砂粒	良	7.5Y7/1 灰白	口縁: 1/12	周溝III No.11	
363	4001-03	須恵器 有蓋高杯	4.9号墳 北溝	9.75	9.3	脚部径 8.2	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/5ロクロケズリ	微砂粒含む	良	5Y5/1 灰	1/2	周溝III No.6 長方形スカシ三方 第4次概報No.33	

第13表 古墳の周溝出土須恵器・土師器観察表(6)

No	登録番号	器種	遺構 出土位置	口径 cm	高 cm	その他の cm	調整技法の特徴	胎土	焼成	色調		残存	備考
384	4001-01	須恵器 有蓋高杯	49号墳 北溝	10.5	8.8	脚部径 8.9	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・1/5ロクロケズリ	微砂粒含む	良	10YR7/1	灰白	1/3	周溝Ⅲ No.6 長方形スカシ孔三方 第4次概報No.32
385	4001-02	須恵器 有蓋高杯	49号墳 北溝	9.8	8.3	脚部径 8.3	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・1/5ロクロケズリ	微砂粒含む	良	5Y6/1	灰	1/4	周溝Ⅲ No.2 長方形スカシ孔三方 第4次概報No.31
386	4035-01	須恵器 有蓋高杯	49号墳 北溝	-	-	脚部径 9.0	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・ロクロケズリ	微砂粒少量含む	良	N6/0	灰	脚部:1/8	周溝Ⅲ No.1
387	4040-01	須恵器 有蓋高杯	49号墳 北溝	-	-	脚部径 8.8	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・ロクロケズリ	密 ~1mm砂粒	良	N6/0 N5/0	灰 灰	脚部:1/2	周溝Ⅲ No.11 長方形スカシ三方 周溝Ⅲ
388	4040-03	須恵器 有蓋高杯	49号墳 北溝	-	-	脚部径 9.6	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・ロクロケズリ・カキメ	密 微砂粒	良	5Y8/1 N6/0	灰白 灰	脚部:わずか	周溝Ⅲ No.9 長方形スカシ三方
389	4035-02	須恵器 有蓋高杯	49号墳 北溝	-	-	脚部径 9.0	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・カキメ	細砂粒少量含む	良	N6/0	灰	脚部:1/8	周溝Ⅲ No.11
390	4003-03	須恵器 短頸壺	49号墳 東溝	9.4	5.4	体部径 10.8	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・1/2ヘラケズリ	砂粒多く含む	良	2.5Y4/1 5Y6/1	黄灰 灰	1/2	第4次概報No.35
391	4038-04	須恵器 壺	49号墳 北溝	10.2	-	体部径 11.6	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ	やや密 ~1mm砂粒	良	2.5Y7/1 5Y4/1	灰白 灰	口縁:わずか	周溝Ⅲ No.1
392	4040-06	須恵器 壺	49号墳 北溝	12.3	-	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ	やや密 ~1mm砂粒	良	N5/0	灰	口縁:1/4	周溝Ⅲ No.11
393	4001-04	須恵器 壺	49号墳 北溝	-	-	体部径 10.8	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ	細砂粒含む	良	2.5Y5/1	黄灰		周溝Ⅲ No.2 第4次概報No.34
394	4038-02	須恵器 壺	49号墳 北溝	17.8	-	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・カキメ	密 ~1.5mm砂粒	良	N7/0 N3/0	灰白 暗灰	口縁:1/4	周溝Ⅲ No.3
395	4038-01	須恵器 壺	49号墳 北溝	21.6	-	-	内:ロクロナデ・タタキ 外:ロクロナデ・タタキ	密 ~1.5mm砂粒	良	N5/0	灰		
396	4035-04	須恵器 器台	49号墳 北溝	34.0	-	-	内:ロクロナデ・タタキ 外:ロクロナデ・タタキ	細砂粒少量含む	良	N5/0	灰	口縁:1/8	周溝Ⅲ No.5
397	4058-02	須恵器 器台	49号墳 北溝	-	-	底部径 26.0	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・カキメ	密	良	2.5Y7/3	浅黄	脚部:1/8	周溝Ⅲ No.11
398	4058-01	須恵器 筒形器台	49号墳 東溝	9.5	-	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ	密	良	2.5Y7/3 5Y6/1・4/1	浅黄 灰	脚部:1/3	周溝Ⅰ No.24
399	4081-01	須恵器 筒形器台	49号墳 東溝	-	-	底部径 13.0	内:ロクロナデ・ユビオサエ	密	良	2.5Y7/3 5Y6/1・4/1	浅黄 灰	口縁:1/5	周溝Ⅰ No.21・24ほか
400	4058-01	土師器 壺	49号墳 東溝	18.0	-	体部径 28.8	内:ロクロナデ・ユビオサエ 外:ロクロナデ・ケズリ	やや粗 ~1mm砂粒	良	7.5YR8/4	浅黄橙	口縁:5/1 2	周溝Ⅳ No.1
401	4042-04	須恵器 壺	51号墳 東溝	13.0	-	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	細砂粒含む	良	7.5Y5/1	灰	口縁:1/1 0	
402	5078-01	須恵器 壺	51号墳 北溝	17.9	30.8	体部径 30.8	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・タタキ	やや密	やや不良	5Y5/1 10YR6/2	灰 灰黄褐		周溝Ⅲ-② No.1
403	4012-02	須恵器 杯身	53号墳 北溝	8.0	3.7	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	やや粗 ~1.5mm砂粒	良	N6/0	灰	口縁:3/4 その他:完存	第4次概報No.47
404	4014-04	須恵器 杯身	53号墳 北溝	-	-	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	細砂粒少量含む	良	5Y6/1	灰		周溝Ⅲ・IV No.13 第4次概報No.48
405	4012-04	須恵器 有蓋高杯蓋	53号墳 北溝	10.5	4.1	つまみ径 3.0	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	やや密 ~1mm砂粒	良	N5/0	灰	口縁:1/2	周溝Ⅲ・IV No.7
406	4011-08	須恵器 有蓋高杯蓋	53号墳 北溝	10.4	4.35	つまみ径 2.8	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	細砂粒少量含む	良	N7/0 N5/0	灰白 灰	7/8	周溝Ⅲ・IV No.5 第4次概報No.49
407	4011-04	須恵器 有蓋高杯蓋	53号墳 北溝	10.4	4.1	つまみ径 2.9	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	微砂粒含む	良	N6/0 N5/0	灰白 灰	体部:1/4	周溝Ⅲ・IV No.13
408	4014-02	須恵器 有蓋高杯蓋	53号墳 北溝	10.7	4.5	つまみ径 3.1	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	細砂粒含む	良	N5/0	灰	口縁:1/2	周溝Ⅲ・IV No.13
409	4011-02	須恵器 有蓋高杯蓋	53号墳 北溝	11.5	4.9	つまみ径 3.0	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	細砂粒含む	良	N8/0 N5/0 N4/0	灰白 灰白 灰	ほぼ完存	周溝Ⅲ・IV No.13 第4次概報No.51
410	4014-01	須恵器 有蓋高杯蓋	53号墳 北溝	11.6	5.0	つまみ径 2.9	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	細砂粒含む	良	N8/0 N5/0 N4/0	灰白 灰白 灰	4/5	周溝Ⅲ・IV No.13 第4次概報No.50
411	4013-01	須恵器 有蓋高杯蓋	53号墳 北溝	10.9	5.1	つまみ径 3.0	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	やや密 ~1mm砂粒	良	N7/0	灰白	口縁:4/5	周溝Ⅲ・IV No.13 第4次概報No.52
412	4014-03	須恵器 有蓋高杯蓋	53号墳 北溝	11.6	5.7	つまみ径 2.75	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	細砂粒少量含む	良	5Y5/1	灰	3/4	周溝Ⅲ・IV No.13 第4次概報No.52
413	4011-01	須恵器 有蓋高杯蓋	53号墳 北溝	9.6	8.95	脚部径 8.1	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・1/4ロクロケズリ	細砂粒含む	良	N7/0 N5/0	灰白 灰	ほぼ完存	周溝Ⅲ・IV No.11 長方形スカシ三方 第4次概報No.53
414	4011-05	須恵器 有蓋高杯蓋	53号墳 北溝	9.4	10.1	脚部径 8.8	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・1/4ロクロケズリ	細砂粒含む	一部 不良	N8/0 N7/0	灰白 灰白	ほぼ完存	周溝Ⅲ・IV No.5 長方形スカシ三方 第4次概報No.54
415	4011-03	須恵器 有蓋高杯蓋	53号墳 北溝	10.6	9.3	脚部径 8.7	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・1/4ロクロケズリ	細砂粒含む	良	2.5GY4/1	暗オリーブ灰	口縁:1/4 その他:完存	周溝Ⅲ・IV No.13 長方形スカシ三方 第4次概報No.56
416	4011-03	須恵器 有蓋高杯蓋	53号墳 北溝	10.0	9.4	脚部径 8.4	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	細砂粒含む	良	N7/0 N5/0	灰白 灰白	口縁:1/4 その他:完存	長方形スカシ三方
417	4015-01	須恵器 有蓋高杯	53号墳 北溝	9.8	9.15	脚部径 8.7	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・1/4ロクロケズリ	細砂粒含む	良	7.5Y7/1	灰白	完形	周溝Ⅲ・IV No.13 長方形スカシ三方 第4次概報No.55
418	4015-02	須恵器 有蓋高杯	53号墳 北溝	9.7	8.9	脚部径 8.2	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	細砂粒含む	良	2.5Y7/3	浅黄	口縁:3/8	周溝Ⅲ・IV No.13 長方形スカシ三方 周溝Ⅲ・IV No.1
419	4010-03	須恵器 短頸壺	53号墳 北溝	12.4	12.2	体部径 11.2	内:ロクロナデ・1/5指オサエ	微砂粒含む	良	10GY6/1 2.5Y7/3	緑灰 浅黄		周溝Ⅲ・IV No.6 第4次概報No.60
420	4058-03	須恵器 短頸壺	53号墳 北溝	8.2	-	体部径 11.6	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ	やや密 微砂粒含む	良	N5/0	灰	口縁:1/3	
421	4012-01	須恵器 短頸壺	53号墳 北溝	9.5	7.8	体部径 12.2	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・1/4ロクロケズリ	やや粗 ~1.5mm砂粒	良	5Y7/1 N5/0	灰白 灰	3/4	第4次概報No.58
422	4041-02	須恵器 短頸壺	53号墳 北溝	11.4	-	体部径 10.0	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ	細砂粒含む	良	7.5Y6/1	灰	口縁:わずか	周溝Ⅲ・IV No.9
423	4022-01	須恵器 壺	53号墳 北溝	16.0	23.0	体部径 22.4	内:ロクロナデ・同心円タタキ 外:ロクロナデ・タタキのちカキメ	微砂粒含む	良	10BG5/1 N6/0	青灰 灰		周溝Ⅲ・IV No.2 第4次概報No.59

第14表 古墳の周溝出土須恵器・土師器観察表 (7)

No.	登録番号	器種	遺構 出土位置	口径 cm	器高 cm	その他 cm	調整技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
417	4008-01	土師器蓋	5.3号墳 北溝	9.8	13.5	体部径 14.2	内: 口縁横ナデ・体部ナデ 外: 口縁横ナデ・ヘタミガキ・ケズリ	微砂粒含む	良	5YR 6/8 橙	完存	周溝Ⅲ-IV No.3 第4次概報No.5.7
418	4008-02	須恵器杯蓋	5.4号墳 北溝	13.4	4.0	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	微砂粒含む	良	2.5Y 6/1 黄灰 5Y 5/1 灰		外面天井部に電焼きの痕跡 第4次概報No.6.1
419	4041-02	須恵器杯蓋	5.5号墳 南溝	11.2	-	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・ロクロケズリ	細砂粒	良	7.5Y 7/1 灰白	口縁: 1/5	
420	4043-01	須恵器甕	5.5号墳 東溝	22.8	-	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・タクキ	細砂粒	良	2.5Y 7/2 灰黄	口縁: 1/7	
421	4043-03	須恵器甕	5.5号墳 東溝	33.8	-	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ	細砂粒	良	5Y 6/1 灰	口縁: 1/14	
426	5052-03	須恵器杯蓋	6.1号墳 北溝	11.9	3.6	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・ヘラケズリ	密 ~1mm長石	良		口縁: 2/5	周溝IV-①
427	5040-02	須恵器杯身	6.1号墳 北溝	14.2	-	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・ヘラケズリ	密	良	N 7/1 灰白	口縁: 1/2	周溝IV-①
428	5038-02	須恵器甕	6.1号墳 北溝	14.4	-	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ	~3mmの小石	良	2.5Y 6/1・5/1 黄灰 2.5Y 7/2・6/2 灰黄	口縁: 1/5	周溝III-②
429	5061-01	須恵器甕	6.1号墳 北溝	20.6	27.9	体部径 27.2	内: ロクロナデ・同心円タクキ 外: ロクロナデ・タクキ	やや密	良	N 3/0 暗灰 N 7/0 灰白	口縁: 1/2	周溝IV-①
430	5053-02	須恵器杯蓋	6.3号墳 西溝	10.8	-	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	密 ~1mm砂粒	良	N 7/0 灰白	口縁: 1/10	周溝III-① 下層
431	5038-04	須恵器杯蓋	6.3号墳 北溝	14.0	4.4	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	微砂粒多量含	良	5Y 6/1 灰 5Y 5/1 灰	口縁: 1/4	周溝IV-①
432	5038-05	須恵器杯蓋	6.3号墳 東溝	-	-	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	微砂粒少量含	良	5Y 6/1 灰	受部: 1/4	周溝IV-②
433	5038-03	須恵器杯蓋	6.3号墳 東溝	14.4	5.3	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	微砂粒含む	良	2.5Y 7/1 灰白 N 6/0 灰	口縁: 1/3	周溝IV-②
434	5010-01	須恵器杯蓋	6.3号墳 北溝	13.5	4.6	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	密	良	5Y 7/1 灰白	口縁: 1/2	周溝III-② 第5次概報No.2.0
435	5007-03	須恵器杯蓋	6.3号墳 北溝	13.2	4.1	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	やや粗 微砂粒含む	良	5Y 8/1 灰白	口縁: 1/6	周溝III-② No.1 第5次概報No.1.9
436	5007-02	須恵器杯蓋	6.3号墳 北溝	13.0	4.4	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	やや粗 ~1.5mm砂粒	良	N 7/0 灰白 N 6/0 灰	口縁: 1/4	周溝III-② No.1.1 第5次概報No.2.1
437	5051-04	須恵器杯蓋	6.3号墳 東溝	13.6	-	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	密 ~1mm長石	良		口縁: 2/5	周溝IV-②
438	5053-01	須恵器身	6.3号墳 北溝	12.7	-	受部径 15.7	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・ロクロケズリ	密 ~1.5mm砂粒	良	7.5Y 6/1 灰	口縁: 1/5	周溝III-②
439	5052-02	須恵器身	6.3号墳 北溝	12.4	4.7	受部径 15.0	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	密 ~1mm長石	良		口縁: 7/10	周溝III-②
440	5052-01	須恵器身	6.3号墳 北溝	10.2	4.1	受部径 12.4	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	密 ~1mm長石	不良		口縁: 3/5	周溝III-②
441	5051-05	須恵器身	6.3号墳 北溝	11.6	4.4	受部径 14.0	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/3ロクロケズリ	密 ~3mm長石	良		口縁: 2/5	周溝III-②
442	5051-07	須恵器身	6.3号墳 北溝	14.6	-	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	密	不良		口縁: 1/5	周溝III-② No.2
443	5007-05	須恵器身	6.3号墳 北溝	12.4	-	受部径 13.9	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	やや粗 ~1.5mm砂粒	良	N 7/0 灰白	1/3	周溝III-② No.7 第5次概報No.2.3
444	5007-04	須恵器身	6.3号墳 北溝	11.5	4.6	受部径 13.6	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・底部へラ切り未調整	やや粗 微砂粒含む	良	N 7/0 灰白 N 6/0 灰	2/3	周溝III-② No.8 第5次概報No.2.4
445	5010-02	須恵器身	6.3号墳 北溝	11.9	4.3	受部径 13.5	内: ロクロナデ・底部一定方向ナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	密 ~1mm砂粒	良	5Y 7/1 灰白 5Y 6/1 灰	口縁: 1/3	周溝III-② No.6 第5次概報No.2.2
446	5053-03	須恵器有蓋高杯蓋	6.3号墳 西溝	-	-	つまみ径 4.0	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・ロクロケズリ	やや粗 ~2mm砂粒	良	N 7/0 灰白 N 6/0 灰		周溝III-① No.4.2
447	5004-01	須恵器有蓋高杯蓋	6.3号墳 北溝	15.6	4.9	つまみ径 3.0	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	やや粗 ~1.5mm砂粒	良	N 6/0 灰	ほぼ完形	周溝III-② 第5次概報No.2.5
448	5051-06	須恵器有蓋高杯蓋	6.3号墳 北溝	13.4	-	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	密 ~1mm長石	不良		口縁: 1/3	周溝III-②
449	5008-02	須恵器高杯	6.3号墳 北溝	10.6	-	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ	やや密	良	N 2/0 黒	口縁: 1/6	周溝IV-② No.3.3 長方形スカシ三方 第5次概報No.2.6
450	5008-01	須恵器高杯	6.3号墳 北溝	11.6	-	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ	やや粗 微砂粒含む	良	N 5/0 灰	口縁: 1/4	周溝III-② 長方形スカシ三方 第5次概報No.2.7
451	5008-03	須恵器高杯	6.3号墳 北溝	13.0	11.5	脚部径 9.2	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・ロクロケズリ	やや粗 微砂粒含む	良	N 6/0 灰 N 8/0 灰白	口縁: 1/4 脚部: 2/3	周溝III-② 第5次概報No.2.8
452	5052-04	須恵器高杯	6.3号墳 東溝	-	-	脚部径 14.0	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ	密 ~2mm長石	良		脚部: 1/5	周溝IV-② 長方形スカシ三方
453	5010-03	須恵器甕	6.3号墳 北溝	-	-	体部径 9.0	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・ヘラケズリ後ナデ	密	良	5Y 7/1 灰白 N 6/0 灰	体部: ほぼ完形	周溝III-② No.2
454	5008-04	須恵器甕	6.3号墳 北溝	-	-	体部径 8.8	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・ロクロケズリ	やや粗 微砂粒含む	良	N 5/0 灰 N 7/0 灰白	体部: ほぼ完形	周溝III-② No.3.4.5 第5次概報No.3.0
455	5007-01	須恵器甕	6.3号墳 北溝	11.1	-	-	内: ロクロナデ 外: カキメ	やや粗 ~9mm砂粒	良	N 5/0 灰 N 7/0 灰白	口縁: 1/6	周溝III-② 第5次概報No.3.1
456	5008-01	須恵器甕	6.3号墳 北溝	13.2	-	-	内: ロクロナデ・同心円タクキ 外: ロクロナデ・タクキ・カキメ	やや粗 微砂粒少量含	良	5BG 7/1 明青灰 N 6/0 灰	口縁: 完存	周溝IV-① 第5次概報No.3.2
457	5053-05	須恵器付台蓋	6.3号墳 北溝	-	-	底部径 12.5	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・ロクロケズリ	やや密 ~2mm砂粒	良	7.5Y 7/1 灰白	脚部: 2/3	周溝III-②
458	5008-01	須恵器筒形器台	6.3号墳 西溝	16.5	-	筒部径 9.2	内: ロクロナデ・ナデ 外: ロクロナデ・タクキ	密	良	N 5/1 灰	口縁: 1/2	周溝III-① No.1
459	5001-01	須恵器杯蓋	6.5号墳 西溝	12.6	4.75	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	やや粗 ~1.5mm砂粒	良	5Y 6/1 灰	3/4	周溝III-① No.5 第5次概報No.3
460	5002-01	須恵器杯蓋	6.5号墳 西溝	13.0	4.7	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	やや粗 ~3mmの石	良	5Y 6/1 灰	完形	周溝III-① No.9 第5次概報No.1

第15表 古墳の周溝出土須恵器・土師器観察表 (8)

No.	登録番号	器種	遺構	口径 cm	器高 cm	その他 cm	調整技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
498	S001-02	須恵器 杯蓋	6.5号墳 西溝	12.9	4.6	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	やや粗 ~1.5mm砂粒	良	N7/0灰白	1/4	周溝III-① Na.7 第5次概報No.2
500	S002-02	須恵器 杯蓋	6.5号墳 西溝	12.8	4.7	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	やや粗 ~2mmの砂粒	良	5Y6/2灰オリーブ	完形	周溝III-① 第5次概報No.4
501	S028-03	須恵器 杯蓋	6.5号墳 西溝	11.8	4.3	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	やや密	良	N6/0灰	4/5	周溝III-① Na.11 第5次概報No.5
502	S053-04	須恵器 杯蓋	6.5号墳 西溝	13.8	-	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・ロクロケズリ	やや密 ~2.5mm小石	良	7.5Y7/1灰白 7.5Y6/1灰	口縁: 1/4	周溝III-①
503	S051-02	須恵器 杯蓋	6.5号墳 西溝	14.4	-	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・ロクロケズリ	並 ~1mmの小石	良		口縁: 1/5	周溝III-①
504	S051-03	須恵器 杯身	6.5号墳 西溝	9.6	-	受部径 12.0	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・ヘラケズリ	やや粗 ~1mmの長石	良		口縁: 1/6	周溝III-①
505	S002-04	須恵器 杯身	6.5号墳 西溝	10.1	4.6	受部径 12.2	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	やや粗 ~2mmの小石	良	2.5Y6/2灰黄	口縁: 1/8	周溝III-①
506	S002-03	須恵器 杯身	6.5号墳 西溝	10.5	5.25	受部径 12.8	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	やや密 ~2mmの石	良	5Y6/1灰	1/3	周溝III-① 第5次概報No.8
507	S001-03	須恵器 杯身	6.5号墳 西溝	10.2	4.9	受部径 12.9	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	やや粗 ~1.5mm砂粒	良	5B6/1青灰	1/2	周溝III-① Na.10 第5次概報No.9
508	S028-04	須恵器 杯身	6.5号墳 西溝	10.6	5.6	受部径 13.0	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	やや密	良	7.5Y6/1灰 N7/0灰白	3/4	周溝III-① Na.3 第5次概報No.10
509	S001-05	須恵器 杯身	6.5号墳 西溝	11.5	4.6	受部径 13.4	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	やや粗 ~1.5mm砂粒	良	2.5Y8/2灰白 N7/0灰白	2/3	周溝III-① Na.12 第5次概報No.6
510	S001-05	須恵器 杯身	6.5号墳 西溝	11.3	4.7	受部径 13.7	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	やや粗 ~1.5mm砂粒	良	N6/0灰	1/2	周溝III-① Na.4 第5次概報No.7
511	S001-04	須恵器 杯身	6.5号墳 西溝	12.8	5.6	受部径 13.0	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	やや粗 ~2mmの砂粒	良	N7/0灰白	ほぼ完形	周溝III-① Na.6 底部にへら記号あり
512	S003-01	須恵器 通	6.5号墳 西溝	12.7	10.5	体部径 11.0	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ	やや密	良	5Y5/1灰	完形	周溝III-① Na.2 第5次概報No.11
513	S051-01	須恵器 杯蓋	6.6号墳 西溝	11.9	4.6	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ヘラケズリ	やや粗	良	10BG5/1青灰	口縁: 1/10	周溝II-②
514	S081-05	須恵器 杯蓋	6.7号墳 南溝	12.2	5.2	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	やや粗 ~2mmの小石	良	5Y8/2灰白	口縁: 4/5	周溝I-② Na.7 天井部にへら記号
515	S004-03	須恵器 杯蓋	6.7号墳 南溝	12.2	5.0	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロナデ	やや密	不良	N6/0灰 5Y7/2灰白	口縁: 2/3	周溝I-②
516	S004-02	須恵器 有蓋高杯蓋	6.7号墳 東溝	11.0	5.6	つまり徑 3.0	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	やや密	良	5Y6/1灰	2/3	周溝IV-② Na.8 第5次概報No.12
517	S081-01	須恵器 有蓋高杯蓋	6.7号墳 東溝	11.7	5.5	つまり徑 3.3	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	やや密 ~5mmの小石	良	2.5Y8/1灰白	口縁: 1/2	周溝IV-② Na.4
518	S081-02	須恵器 有蓋高杯蓋	6.7号墳 東溝	12.3	5.4	つまり徑 3.7	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	やや粗 ~2mmの小石	良	2.5Y8/1灰白	口縁: 1/4	周溝IV-② Na.8
519	S002-05	須恵器 有蓋高杯	6.7号墳 東溝	9.6	8.1	脚部径 8.4	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	やや密 ~2mmの砂粒	良	7.5Y8/1灰白	口縁: 1/4 脚部: 完存	周溝IV-② Na.6 長方形スカシ三方 第5次概報No.14
520	S005-01	須恵器 有蓋高杯	6.7号墳 東溝	10.0	8.0	脚部径 8.9	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	やや密	良	5Y6/1灰	口縁: 1/2 脚部: 完存	周溝IV-② Na.8 長方形スカシ三方 第5次概報No.15
521	S005-02	須恵器 有蓋高杯	6.7号墳 東溝	10.1	9.0	脚部径 9.0	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	やや密	良	N6/0灰	完形	周溝IV-② Na.5 長方形スカシ三方 第5次概報No.13
522	S003-02	須恵器 通	6.7号墳 東溝	10.8	11.0	体部径 9.6	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・底部ロクロケズリ	やや密 ~6mmの石	良	10YR6/2灰黄褐色	完形	周溝IV-② Na.7 第5次概報No.16
523	S005-03	須恵器 通	6.7号墳 東溝	12.0	12.2	体部径 11.4	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・ロクロケズリ	やや密	良	5Y6/1灰	2/3	周溝IV-② Na.1 第5次概報No.17
524	S012-01	須恵器 子持通	6.7号墳 東溝	14.1	-	体部径 18.1	内: ロクロナデ・ユビオサエ	密	良	5Y7/1灰白	2/3	周溝I-① Na.3 器具部に小形4個体 第5次概報No.18
525	S082-02	須恵器 通	6.7号墳 東溝	16.8	-	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ	やや密	良	2.5Y6/1黄灰	口縁: 1/4 Na.5	周溝I-① Na.5
526	S082-01	須恵器 通	6.7号墳 東溝	-	-	体部径 4.5.4	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・タタキ	密	良	2.5Y6/2灰黃	体部: 完形	周溝I-① Na.5
527	S047-03	須恵器 有蓋高杯蓋	7.1号墳 南溝	13.0	5.5	つまり徑 2.2	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	並	やや軟	7.5Y5/1灰	わずか	周溝I-②
528	S050-01	須恵器 有蓋高杯蓋	7.1号墳 南溝	12.4	5.0	つまり徑 2.9	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・ロクロケズリ・ナデ	やや密	良	10YR6/1褐灰	口縁: 5/8	周溝I-②
529	S050-02	須恵器 有蓋高杯蓋	7.1号墳 北溝	12.0	5.6	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	やや密 微砂粒少量含	良	N7/0灰白 2.5-3/1黒褐	わずか	周溝IV-①
530	S047-02	須恵器 有蓋高杯蓋	7.1号墳 南溝	12.2	5.0	つまり徑 3.4	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	並	やや軟	7.5Y6/1灰	わずか	周溝I-②
531	S081-04	須恵器 有蓋高杯蓋	7.1号墳 南溝	13.2	-	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	やや粗	良	2.5Y8/2灰白	口縁: 1/2	周溝I-② Na.17
532	S050-05	須恵器 短頭蓋	7.1号墳 北溝	-	-	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1/2ロクロケズリ	やや密 微砂粒少量含	良	2.5Y7/1灰白	1/6	周溝I-① 天井部刺文巡る
533	S016-04	須恵器 短頭蓋	7.1号墳 南溝	9.7	4.8	つまり徑 3.0	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・カキメ	密	良	N7/08/0灰白	完形	周溝I-② Na.4 第5次概報No.46
534	S047-04	須恵器 短頭蓋	7.1号墳 南溝	9.4	-	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・カキメ	並	やや軟	2.5GY8/1灰白	わずか	周溝I-②
535	S015-01	須恵器 有蓋高杯	7.1号墳 南溝	9.2	10.2	脚部径 9.4	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・カキメ・ロクロケズリ	やや密 ~2mm砂粒	良	N6/05/0灰白 N7/0灰	口縁: 1/6 脚部: 2/5	周溝I-② Na.3 長方形スカシ三方 第5次概報No.51
536	S072-03	須恵器 有蓋高杯	7.1号墳 南溝	11.0	10.2	脚部径 10.0	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・カキメ・ロクロケズリ	密	良	2.5Y7/1灰白	口縁: 1/4 脚部: 1/8	周溝I-② 長方形スカシ三方
537	S016-01	須恵器 有蓋高杯	7.1号墳 南溝	11.1	-	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・カキメ・ロクロケズリ	やや密 ~1.5mm砂粒	良	N7/0灰白 N6/0灰	口縁: 1/8	周溝I-② Na.5 長方形スカシ三方 第5次概報No.52
538	S016-02	須恵器 有蓋高杯	7.1号墳 南溝	-	-	脚部径 10.2	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・ロクロケズリ	やや密 ~2mm砂粒	良	10Y5/1灰	脚部: 1/2	周溝I-② Na.3 長方形スカシ三方 第5次概報No.49

第16表 古墳の周溝出土須恵器・土師器観察表 (9)

No	登録番号	器種	遺出土位置	口徑 cm	器高 cm	その他 cm	調整技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考	
539	5016-03	須恵器 有蓋高杯	7 1号墳 南溝	10. 7	-	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・ロクロケズリ	やや密 ~1. 5mm砂粒	良	N 8 / 0 N 6 / 0	灰白~ 灰	口縁: 1 / 4	周溝 I -② Na 1 1 第5次発報No 4 8
540	5016-02	須恵器 有蓋高杯	7 1号墳 南溝	-	-	脚部径 9. 6	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・カキメ・ロクロケズリ	やや密 ~1. 5mm砂粒	良	N 7 / 0 N 6 / 0	灰白 灰	脚部: 2 / 5	周溝 I -② Na 7 長方形スカシ三方 第5次発報No 5 3
541	5016-03	須恵器 有蓋高杯	7 1号墳 南溝	9. 9	8. 8	脚部径 9. 0	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・ロクロケズリ	やや粗 ~2mm砂粒	良	N 6 / 0	灰	口縁: 1 / 2 脚部: 1 / 4	周溝 I -② Na 1 長方形スカシ三方 第5次発報No 4 7
542	5016-04	須恵器 有蓋高杯	7 1号墳 南溝	-	-	脚部径 9. 5	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ	やや密 ~1. 5mm砂粒	良	N 6 / 0	灰	脚部: 完存	周溝 I -② Na 1 長方形スカシ三方 第5次発報No 5 0
543	5016-05	須恵器 短頸壺	7 1号墳 南溝	9. 3	-	体部径 10. 0	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・ロクロケズリ	密 ~1. 5mm砂粒	良	5 Y 6 / 1 5 Y 5 / 1	灰 灰	口縁: 完形	周溝 I -② Na 5 第5次発報No 5 5
544	5013-03	須恵器 短頸壺	7 1号墳 南溝	8. 5	-	体部径 8. 6	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・カキメ	粗 ~2mm小石	良	7. 5 Y 7 / 1 5 Y 7 / 3	灰白 浅黄	体部: ほぼ完形	周溝 I -② Na 6 第5次発報No 5 6
545	5015-05	須恵器 短頸壺	7 1号墳 南溝	8. 4	-	体部径 11. 2	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・カキメ	密 ~1mm砂粒	良	N 8 / 0 5 Y 6 / 1	灰白 灰	口縁: 1 / 4	周溝 I -② Na 1 2 第5次発報No 5 7 概略No 54と同一個体
546	5013-04	須恵器 脚付短頸壺	7 1号墳 南溝	-	-	脚部径 8. 5	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ	粗 ~3mm小石	良	5 Y 6 / 1 2. 5 Y 8 / 1	灰白	脚部: 1 / 8	周溝 I -② Na 4 長方形スカシ三方 第5次発報No 5 4
547	5078-02	須恵器 脚付短頸壺	7 1号墳 北溝	8. 0	-	体部径 11. 4	内: ナデ 外: ナデ	やや密	良	5 Y 7 / 1 10 Y 5 / 1	灰白 灰		周溝 III -①
548	5014-01	須恵器 壺	7 1号墳 南溝	13. 1	-	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ	やや密	良	5 Y 6 / 1 10 Y R 7 / 3	灰 にぶい黄橙	口縁: 7 / 8	周溝 I -② Na 8 第5次発報No 5 9
549	5016-05	須恵器 壺	7 1号墳 南溝	12. 1	-	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ	密 ~2mm砂粒	良	N 6 / 0 ~ 4 / 0	灰	口縁: 1 / 4	周溝 I -② Na 1 3 第5次発報No 5 8
550	5050-04	須恵器 子壺	7 1号墳 南溝	-	-	体部径 8. 5	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ	やや密	良	2. 5 Y 7 / 1	灰白		周溝 I -② 長方形スカシ三方 状に四方
551	5075-01	須恵器 壺	7 1号墳 南溝	8. 4	-	体部径 21. 0	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・タタキ・カキメ	やや密 細砂粒含む		10 Y R 7 / 2 10 Y R 7 / 3	にぶい黄橙 にぶい黄橙	ほぼ完形	周溝 I -②
552	5014-02	須恵器 器台	7 1号墳 南溝	-	-	底部径 20. 4	内: ロクロナデ・指オサエ 外: ロクロナデ	やや密	良	N 6 / 0	灰	脚部: 3 / 8	周溝 I -② Na 9 三角形スカシ千鳥状 第5次発報No 6 0
553	5108-01	須恵器 台	7 1号墳 南溝	-	-	底部径 19. 6	内: ナデ 外: ナデ	やや密	良	N 7 / 0	灰白	脚部: 1 / 2	周溝 I -② 長方形スカシ四方
554	5107-01	土師器 筒形器台	7 1号墳 南溝	-	-	-	内: ナデ 外: ナデ	密	良	N 7 / 0	灰白	脚部: 1 / 2	周溝 I -② 長方形スカシ四方
555	5107-02	土師器 筒形器台	7 1号墳 南溝	-	-	-	内: ナデ 外: ナデ	密	良	N 7 / 0	灰白	脚部: 1 / 2	周溝 I -② 長方形スカシ四方
556	5107-03	土師器 筒形器台	7 1号墳 南溝	-	-	-	内: ロクロナデ 外:	密	良	N 7 / 0	灰白	脚部: 1 / 2	周溝 I -②
557	5073-02	土師器 壺	7 1号墳 南溝	-	-	体部径 9. 5	内: ヨコナデ・ナデ 外: ヨコナデ・ナデ	やや粗 ~1mm砂粒	良	7. 5 Y R 7 / 6	橙	1 / 4	周溝 I -②
558	5024-03	須恵器 杯	7 2号墳 東溝	11. 0	4. 3	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1 / 2ロクロケズリ	やや粗 ~1mm砂粒	良	N 7 / 0	灰白	口縁: 1 / 2	周溝 IV -②
559	5050-03	須恵器 有蓋高杯	7 3号墳 南溝	9. 6	7. 5	脚部径 7. 7	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・ロクロケズリ	やや粗 ~2mm砂粒	良	N 5 / 0 N 7 / 0	灰 灰白	口縁: 1 / 2	
560	5028-01	須恵器 有蓋高杯	7 3号墳 南溝	10. 8	8. 9	脚部径 8. 4	内: ロクロナデ・ロクロケズリ 外: ロクロナデ・カキメ	密	良	N 4 / 0 N 7 / 0	灰 灰白	脚部: 完形	円形スカシ三方
561	5078-01	土師器 台付甕	7 3号墳 南溝	-	-	底部径 9. 6	内: ナデ・ユビオサエ 外: ナデ	やや粗	良	10 Y R 8 / 4 5 Y R 8 / 4	淡黄橙 淡橙	脚部: 完形	周溝 II -① Na 1
562	5035-03	須恵器 蓋	7 4号墳 西溝	11. 0	4. 0	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・ロクロケズリ	やや粗 ~2mm砂粒	良	N 6 / 0	灰	口縁: 1 / 4	周溝 III -① Na 1
563	5035-02	須恵器 杯	7 4号墳 西溝	11. 1	4. 0	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・ロクロケズリ	やや粗 微砂粒少量含む	良	N 3 / 0 N 6 / 0	暗灰 灰	口縁: 3 / 8	周溝 III -① Na 9
564	5035-04	須恵器 杯	7 4号墳 西溝	11. 4	-	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・ロクロケズリ	やや粗 ~2mm砂粒	良	N 3 / 0 N 7 / 0	暗灰 灰白	口縁: 1 / 6	周溝 III -① Na 7 天井部外側ヘラ記号
565	5028-04	須恵器 杯	7 4号墳 西溝	9. 4	4. 5	受部径 11. 8	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1 / 2ロクロケズリ	やや密	良	N 6 / 0	灰	2 / 3	周溝 III -① 第5次発報No 6 7
566	5035-05	須恵器 杯身	7 4号墳 南溝	13. 0	5. 3	受部径 15. 2	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・ロクロケズリ	やや粗 ~2mm砂粒	良	5 Y 6 / 1	灰	口縁: 1 / 8	周溝 II -①
567	5038-04	須恵器 有蓋高杯	7 4号墳 西溝	12. 3	4. 6	つまみ径 3. 7	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・ロクロケズリ	密 ~3mm小石	良	N 7 / 0	灰白		周溝 III -①
568	5037-01	須恵器 有蓋高杯	7 4号墳 南溝	12. 2	5. 3	つまみ径 3. 5	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・ロクロケズリ	やや粗 ~4mm小石	良	N 7 / 0	灰白		周溝 II -①
569	5038-05	須恵器 有蓋高杯	7 4号墳 西溝	11. 2	5. 2	つまみ径 2. 8	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・ロクロケズリ	密 微砂粒含む	良	10 Y 6 / 1	灰		周溝 III -①
570	5028-03	須恵器 有蓋高杯	7 4号墳 西溝	11. 0	4. 8	つまみ径 2. 7	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1 / 2ロクロケズリ	密	良	5 Y 6 / 1	灰	1 / 2	周溝 III -① 第5次発報No 7 1
571	5028-02	須恵器 有蓋高杯	7 4号墳 西溝	11. 6	5. 3	つまみ径 2. 7	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1 / 2ロクロケズリ	密	良	5 Y 6 / 1	灰	1 / 2	周溝 III -① 第5次発報No 7 0
572	5028-01	須恵器 有蓋高杯	7 4号墳 北溝	11. 7	5. 3	つまみ径 3. 9	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・1 / 2ロクロケズリ	やや密	良	7. 5 Y 6 / 1	灰	2 / 3	周溝 III -② Na 4 第5次発報No 7 2
573	5028-05	須恵器 無蓋高杯	7 4号墳 西溝	13. 0	-	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・ロクロケズリ	やや密	良	N 5 / 0	灰	杯部: 1 / 3	周溝 II -② Na 7 第5次発報No 6 8
574	5031-03	須恵器 無蓋高杯	7 4号墳 北溝	14. 0	10. 0	脚部径 8. 5	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・カキメ	やや密	良	2. 5 Y 6 / 1	黄灰	1 / 2	周溝 IV -① Na 1 Na 4・Na 1 3 第5次発報No 6 9
575	5040-03	須恵器 無蓋高杯	7 4号墳 北溝	13. 0	10. 6	脚部径 8. 0	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・ロクロケズリ	やや粗 ~3mm小石	良	2. 5 Y 5 / 1	黄灰	口縁: 1 / 2	長方形スカシ四方
576	5038-02	須恵器 無蓋高杯	7 4号墳 北溝	11. 9	11. 7	脚部径 8. 6	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・ロクロケズリ	密 ~3mm小石	良	10 Y 6 / 1	灰	底部: 8 / 9	周溝 IV -① Na 1 円形スカシ三方
577	5017-01	須恵器 有蓋高杯	7 4号墳 北溝	9. 7	8. 9	脚部径 8. 7	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・カキメ	やや粗	良	5 Y 7 / 1 5 Y 5 / 1	灰白~ 灰	1 / 2	周溝 III -② Na 8 第5次発報No 7 3
578	5027-01	須恵器 有蓋高杯	7 4号墳 西溝	10. 2	-	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・カキメ	やや密	良	5 Y 7 / 2 5 Y 5 / 1	灰白 灰	口縁: 3 / 4	周溝 III -② Na 1 1 長方形スカシ三方

第17表 古墳の周溝出土須恵器・土師器観察表 (10)

No	登録番号	器種	遺構 出土位置	口径 cm	器高 cm	その他 cm	調整技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
598	5036-01	須恵器 有蓋高杯	7 4号墳 西溝	9. 4	8. 5 5	脚部径 8. 0	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・ロクロケズリ	密 ~2mm小石	良	5Y6/1 灰	底部: 3/4	周溝Ⅲ-① No. 9 長方形スカシ三方
599	5036-03	須恵器 有蓋高杯	7 4号墳 西溝	7. 8	8. 9	脚部径 8. 4	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・ロクロケズリ	密 微砂粒含む	良	N5/0 灰	底部: 1/2	周溝Ⅲ-① No. 21 長方形スカシ三方
600	5033-03	須恵器 有蓋高杯	7 4号墳 西溝	-	-	脚部径 8. 3	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・ロクロケズリ	やや密 微砂粒含む	良	N7/0 灰白	口縁: 5/9	周溝Ⅲ-① 長方形スカシ三方
601	5033-02	須恵器 有蓋高杯	7 4号墳 西溝	-	-	脚部径 8. 2	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・カキメ	やや粗 微砂粒含む	良	2. 5Y6/1 黄灰	口縁: 7/8	周溝Ⅲ-① 長方形スカシ三方
602	5033-01	須恵器 有蓋高杯	7 4号墳 北溝	-	-	脚部径 8. 4	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・カキメ	やや粗 ~3mm小石	良	5Y7/2 灰白	口縁: 3/4	周溝Ⅲ-② No. 5 長方形スカシ三方
603	5034-05	須恵器 有蓋高杯	7 4号墳 南溝	-	-	脚部径 9. 0	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ	やや粗 ~2mm砂粒	良	2. 5Y8/1 灰白 N8/0 灰白	脚部: わずか	周溝Ⅱ-① 長方形スカシ三方
604	5034-04	須恵器 有蓋高杯	7 4号墳 南溝	-	-	脚部径 8. 7	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ	やや粗 ~3mm砂粒	良	N6/0 灰 5Y6/1 灰	脚部: 完形	周溝Ⅱ-① 長方形スカシ三方
605	5034-02	須恵器 有蓋高杯	7 4号墳 北溝	-	-	脚部径 7. 7	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・カキメ	やや粗 ~2mm砂粒	良	N7/0 灰白 N5/0 灰	脚部: 完形	周溝Ⅳ-① No. 20 円形スカシ三方
606	5034-03	須恵器 有蓋高杯	7 4号墳 北溝	-	-	脚部径 7. 1	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・カキメ	やや粗 微砂粒少量含	良	N7/0 灰白	脚部: 2/3	周溝Ⅲ-② No. 4・8 円形スカシ三方
607	5032-02	須恵器 脚付短颈壺	7 4号墳 西溝	9. 7	10. 0	脚部径 9. 0	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ	やや密 ~1mm砂粒	良	N4/0 灰	2/3	周溝Ⅲ-① No. 8 第5次概報No. 7.4
608	5031-02	須恵器 壺	7 4号墳 北溝	9. 5	8. 8	体部径 7. 9	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ	やや粗 ~2mm石	良	2. 5Y5/1 黄灰	2/3	周溝Ⅳ-① No. 21 第5次概報No. 7.8
609	5037-03	須恵器 壺	7 4号墳 北溝	-	-	体部径 9. 4	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・ロクロケズリ	密 ~2mm小石	良	N5/0 灰 5Y6/2 灰オリーブ		周溝IV-①
610	5030-01	須恵器 子持壺	7 4号墳 北溝	15. 2	-	体部径 17. 4	内: ロクロナデ・オサエ 外: ロクロナデ・カキメ・タタキ	やや密	良	5Y5/1 灰	1/2	要部に小型壺4個体 第5次概報No. 7.9
611	5059-01	須恵器 器台	7 4号墳 北溝	30. 6	10. 1	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・タタキ	やや粗	やや不良	2. 5Y7/1 灰白 N3/0 暗灰	1/2	周溝IV-① No. 11
612	5023-01	須恵器 器台	7 4号墳 北溝	-	-	底部径 22. 0	内: ロクロナデ 外: キザミ状突帯	やや粗 ~1mm砂粒	良	5Y5/1 灰 N3/0 暗灰	1/3	周溝Ⅲ-② No. 6・7・10 第5次概報No. 8.0
613	5026-06	須恵器 蓋付壺	7 4号墳 北溝	6. 9 5	-	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ	やや粗	良	5Y6/1 灰	口縁: 完形	周溝Ⅲ-② No. 14
614	5027-03	須恵器 短頸壺	7 4号墳 北溝	9. 0	7. 7	体部径 11. 8	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・カキメ・ロクロケズリ	やや密	良	2. 5Y8/3 淡黄~ 5Y4/1 灰	ほぼ完形	周溝IV-①No. 2.9 底部外面へラ記号 第5次概報No. 7.5
615	5031-01	須恵器 壺	7 4号墳 北溝	-	-	体部径 12. 4	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ・カキメ	やや粗 ~4mm砂粒	良	10YR6/1 鍋灰	1/2	周溝Ⅲ-② No. 15 第5次概報No. 7.6
616	5057-02	須恵器 壺	7 4号墳 南溝	-	-	体部径 13. 4	内: ロクロナデ・タタキ 外: ロクロナデ・タタキ	やや密	良	N5/0 灰 7. 5Y6/1 灰		周溝 I-②
617	5059-02	須恵器 壺	7 4号墳 東溝	14. 4	7. 9	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ	密	良	10YR7/1 灰白	口縁: 3/4	周溝 I-①
618	5023-02	須恵器 台付壺	7 4号墳 南溝	14. 1	-	底部径 17. 9	内: ロクロナデ・タタキ	やや粗 ~2mm砂粒	不良	7. 5Y6/1 灰	2/3	周溝 II-① No. 1 第5次概報No. 7.7
619	5056-01	須恵器 壺	7 4号墳 東溝	14. 1	-	体部径 17. 6	内: ロクロナデ・ナデ 外: ロクロナデ・タタキ・カキメ	やや粗	良	2. 5GY6/1 オリーブ灰	口縁: 1/2	周溝 I-①
620	5034-01	須恵器 壺	7 4号墳 北溝	19. 0	-	-	内: ロクロナデ 外: ロクロナデ	やや粗 ~2mm砂粒	良	N4/0 灰 N7/0 灰白	口縁: 1/3	周溝Ⅲ-② No. 9
621	5066-01	須恵器 壺	7 4号墳 北溝	15. 7	21. 5	体部径 22. 6	内: ロクロナデ・ナデ 外: ロクロナデ・タタキ後カキメ	やや密 ~5mm小石	良	5Y4/1 灰	口縁: 5/8	周溝Ⅲ-② No. 1
622	5057-01	須恵器 壺	7 4号墳 南溝	14. 8	19. 9	体部径 21. 2	内: ロクロナデ・工具ナデ 外: ロクロナデ・タタキ	やや密 ~5mm小石	良	7. 5Y6/1 灰	口縁: 1/2	周溝 I-②
623	5055-01	須恵器 壺	7 4号墳 東溝	17. 1	-	体部径 23. 4	内: ロクロナデ・ナデ 外: ロクロナデ・タタキ	やや粗 ~4mm小石	良	7. 5YR8/3 浅黄橙 2. 5GY5/1 オリーブ灰	口縁: 4/5	周溝 I-①
624	5062-01	須恵器 壺	7 4号墳 南溝	19. 6	33. 6	体部径 32. 2	内: ロクロナデ・同心円タタキ 外: ロクロナデ・タタキ・カキメ	やや密 ~2mm砂粒	良	N7/0 灰白	口縁: 1/2	周溝 I-② No. 1
625	5058-01	須恵器 壺	7 4号墳 南溝	19. 5	-	体部径 36. 5	内: ロクロナデ・工具ナデ 外: ロクロナデ・タタキ	やや密 ~2mm砂粒	良	N7/0 灰白	口縁: 完形	周溝 I-② No. 2
626	5054-01	須恵器 壺	7 4号墳 北溝	22. 0	35. 5	体部径 34. 8	内: ロクロナデ・同心円タタキ 外: ロクロナデ・タタキ・カキメ	やや密 微砂粒含む	良	2. 5Y8/2 灰白 5Y8/1 灰白		周溝IV-① No. 7
627	5063-01	須恵器 壺	7 4号墳 西溝	21. 4	34. 8	体部径 36. 3	内: ロクロナデ・ナデ 外: ロクロナデ・タタキ	やや密 ~4mm小石	良	7. 5Y6/1 灰	口縁: 1/2	周溝II-②
628	5060-01	土師器 台付壺	7 4号墳 南溝	13. 0	21. 5	底部径 8. 5	内: ヨコナデ・ナデ 外: ヨコナデ・ハケメ	やや粗 ~5mm小石	良	7. 5YR7/6 橙	口縁: 1/3	周溝 I-② No. 3
629	5064-01	土師器 台付壺	7 4号墳 南溝	14. 0	-	体部径 20. 0	内: ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ 外: ヨコナデ・ハケメ	やや粗	良	7. 5YR7/6 橙	口縁: 1/2	周溝 I-② No. 4
630	5060-02	土師器 台付壺	7 4号墳 西溝	14. 6	-	-	内: ヨコナデ・ナデ 外: ヨコナデ・ハケメ	やや粗 ~4mm小石	良	2. 5Y4/1 黄灰	口縁: 1/4	周溝III-① No. 5
631	5067-01	土師器 台付壺	7 4号墳 北溝	15. 2	-	-	内: ヨコナデ・ナデ 外: ヨコナデ・ハケメ	やや密 ~3mm小石	良	7. 5YR7/3 ぶい橙	口縁: 1/6	周溝IV-①

第18表 古墳の周溝出土須恵器・土師器観察表 (11)

No.	登録番号	出土位置 遺構	法量 cm	タガ	透孔	外面調整	内面調整	胎土	焼成	色調	残存度	備考	
17	1027-01	26号墳 器高 底厚	口徑 形態 幅 高さ	—	形態 幅 高さ	—	不明	不明	3mm程度の砂粒含む	良		朝麗形埴輪	
18	1027-02	26号墳 器高 底厚	口徑 形態 幅 高さ	—	形態 幅 高さ	—	ハケ	ヨコハケ	2mm程度の砂粒含む	やや 良		朝麗形埴輪	
19	1027-03	26号墳 北溝	口徑 器高 底厚	—	形態 幅 高さ	—	不明	不明	1~2mmの砂粒含む	やや 良		朝麗形埴輪	
20	1025-01	26号墳 器高 底厚	口徑 形態 幅 高さ	M字状 1~5cm 0~5cm	形態 幅 高さ	—	ナナメハケ	ヨコハケ オサエ	粗 5mm大の砂粒多く含む	やや 不良	7.5YR8/4 浅黄橙	1/6 朝麗形埴輪	
21	1028-01	26号墳 東溝	口徑 器高 底厚	—	形態 M字状 1~5cm 0~5cm	円形 大きさ	径6cm	ナナメハケ ヨコハケ タテハケのちヨコハケ	指オサエ ナデ	粗 3mm程度の石英・長石多 く含む	やや 不良	7.5YR8/8 赤橙	肩部: 1/3 朝麗形埴輪部 脚部: 1/9
22	1027-04	26号墳 器高 底厚	口徑 形態 幅 高さ	—	形態 幅 高さ	—	ナナメハケ	不明	粗 5mm以下的小石多く含む	不良	7.5YR7/8 橙	1/18 朝麗形埴輪部	
23	1027-05	26号墳 器高 底厚	口徑 形態 幅 高さ	—	形態 幅 高さ	—	不明	不明	粗 3mm以下的小石多く含む	不良	7.5YR4/8 浅黄橙	1/18 朝麗形埴輪部 No.6	
24	1025-02	26号墳 器高 底厚	口徑 形態 幅 高さ	—	形態 幅 高さ	—	ナナメハケ	不明	粗 2~3mmの砂粒多く含む	不良	7.5YR8/4 浅黄橙	1/6 朝麗形埴輪部	
25	1012-01	26号墳 東溝	34.0	口徑 器高 底厚	形態 M字状 1~5cm 0~5cm	形態 幅 高さ	—	ヨコハケ	ヨコハケ オサエ	微砂粒多く含む	良	7.5YR8/8 橙	1/10 No.2
26	1011-01	26号墳 器高 底厚	32.0	口徑 形態 幅 高さ	形態 幅 高さ	—	タテハケのちヨコハケ ヨコハケ	ヨコハケのちナナメハケ オサエのちナデ	細砂粒多く含む	良	5YR6/6 橙	1/4 No.6	
27	1010-01	26号墳 器高 底厚	口徑 形態 幅 高さ	—	形態 M字状 1~5cm 0~5cm	形態 幅 高さ	—	ヨコハケ	ヨコハケ オサエ	細砂粒含む	良	7.5YR7/6 橙	No.6
28	1014-01	26号墳 西溝	—	口徑 形態 幅 高さ	—	形態 幅 高さ	—	ヨコハケ	ヨコハケ オサエ	細砂粒含む	良	5Y6/1 灰	
29	1013-01	26号墳 東溝	—	口徑 器高 底厚	形態 幅 高さ	—	ヨコハケ	ヨコハケ	微砂粒含む	良	7.5YR6/6 橙	No.2	
30	1009-02	26号墳 西溝	—	口徑 器高 底厚	形態 幅 高さ	—	ヨコハケ	ヨコハケ	細砂粒含む	良	7.5YR6/6 橙		
31	1009-03	26号墳 南溝	—	口徑 器高 底厚	形態 幅 高さ	—	ヨコハケ	ヨコハケ オサエ	砂粒含む	良	7.5YR7/6 橙		
32	1009-01	26号墳 北溝	—	口徑 器高 底厚	形態 幅 高さ	—	ヨコハケ	ヨコハケ	細砂粒含む	良	10YR7/3 に赤		
33	1010-02	26号墳 南溝	—	口徑 器高 底厚	形態 幅 高さ	—	ヨコハケ	ヨコハケ	細砂粒含む	良	7.5YR6/6 橙		
34	1009-03	26号墳 南溝	—	口徑 器高 底厚	形態 幅 高さ	—	ヨコハケ	ヨコハケ	微砂粒含む	良	7.5YR7/6 橙		
35	1003-03	26号墳 西溝	—	口徑 器高 底厚	形態 幅 高さ	—	ヨコハケ	オサエのちナデ	微砂粒含む	良	5Y5/1 灰		
36	1001-05	26号墳 南溝	—	口徑 器高 底厚	形態 幅 高さ	—	ヨコハケ	ナデ?	微砂粒含む	良	7.5YR7/4 に赤		
37	1001-07	26号墳 北溝	—	口徑 器高 底厚	形態 幅 高さ	—	ヨコハケ	オサエ	微砂粒多く含む	良	5YR7/6 橙		
38	1003-01	26号墳 器高	—	口徑 器高 底厚	形態 幅 高さ	—	ヨコハケ	オサエのちナデ	微砂粒含む	良	5Y6/1 灰	No.6	
39	1008-01	26号墳 器高	22.0	口徑 器高 底厚	形態 幅 高さ	—	ヨコハケ	オサエ	2~3mmの砂粒多く含む	良	7.5YR7/6 橙	1/4	
40	1004-01	26号墳 器高	21.2	口徑 器高 底厚	形態 幅 高さ	—	ヨコハケ	タテハケ	オサエ	2~3mmの砂粒多く含む	良	5YR6/6 橙	1/4
41	1005-01	26号墳 器高	19.2	口徑 器高 底厚	形態 幅 高さ	—	ヨコハケ	タテハケ	オサエ	2~3mmの砂粒多く含む	良	5YR6/4 に赤	1/12
42	1030-01	26号墳 器高	32.6	口徑 器高 底厚	形態 幅 高さ	—	ヨコハケ	タテハケ	ヨコハケ オサエ ヘラクゼリ	今や粗 5mm以下的小石含む	良	2.5Y6/2 灰黄	
43	1008-02	26号墳 北側	2.8.6	口徑 器高 底厚	形態 幅 高さ	—	ヨコハケ	ヨコハケ	細砂粒含む	良	7.5YR6/6 橙	1/14 包含層	
44	1014-02	26号墳 北側	—	口徑 器高 底厚	形態 幅 高さ	—	ヨコハケ	タテハケ	ヨコハケ オサエ	細砂粒含む	良	7.5YR6/6 橙	包含層
45	1008-01	26号墳 北側	2.8.6	口徑 器高 底厚	形態 幅 高さ	—	ヨコハケ	タテハケ	ヨコハケ	微砂粒含む	良	7.5YR7/4 に赤	1/10 包含層
46	1010-01	26号墳 南側	—	口徑 器高 底厚	形態 幅 高さ	—	ヨコハケ	ヨコハケ	微砂粒含む	良	7.5YR6/6 橙	包含層	
47	1001-04	26号墳 東側	—	口徑 器高 底厚	形態 幅 高さ	—	ヨコハケ	ナデ	微砂粒含む	良	5Y7/1 灰白	包含層	
48	1001-03	26号墳 南側	—	口徑 器高 底厚	形態 幅 高さ	—	ヨコハケ	ナデ	微砂粒含む	良	2.5Y7/2 灰黄	包含層	
49	1001-01	26号墳 東側	—	口徑 器高 底厚	形態 幅 高さ	—	ヨコハケ	ナデ	微砂粒含む	良	外: 7.5YR7/4 に赤 内: 5YR7/4 に赤	包含層	
50	1001-04	26号墳 北側	—	口徑 器高 底厚	形態 幅 高さ	—	ヨコハケ	ナデ	微砂粒含む	良	7.5YR7/3 に赤	包含層	
51	1002-04	26号墳 器高	—	口徑 器高 底厚	形態 幅 高さ	—	ヨコハケ	ナデ	微砂粒多く含む	良	外: 10YR7/3 に赤 内: 7.5YR8/4 浅黄橙	包含層	
52	1001-01	26号墳 北側	—	口徑 器高 底厚	形態 幅 高さ	—	ヨコハケ	ナデ	微砂粒含む	良	5Y8/1 灰白	包含層	
53	1002-01	26号墳 北側	—	口徑 器高 底厚	形態 幅 高さ	—	ヨコハケ	ナデ	微砂粒多く含む	良	外: 10YR7/3 に赤 内: 7.5YR6/3 に赤	包含層	
54	1002-02	26号墳 北側	—	口徑 器高 底厚	形態 幅 高さ	—	ヨコハケ	ナデ	微砂粒多く含む	良	5YR7/6 橙	包含層	
55	1001-01	26号墳 北側	—	口徑 器高 底厚	形態 幅 高さ	—	ヨコハケ	ナデ	微砂粒含む	良	2.5Y6/1 黄灰 7.5Y6/3 に赤	包含層	
56	1003-04	26号墳 東側	—	口徑 器高 底厚	形態 幅 高さ	—	ヨコハケ	ナデ	微砂粒含む	良	5Y5/1 灰白	包含層	
57	1002-01	26号墳 北側	—	口徑 器高 底厚	形態 幅 高さ	—	ヨコハケ	ナデ?	微砂粒多く含む	良	外: 5YR7/6 橙 内: 7.5YR7/6 橙	包含層	
58	1009-04	26号墳 東側	—	口徑 器高 底厚	形態 幅 高さ	—	ヨコハケ	ナデ	細砂粒含む	良	5YR6/6 橙	包含層	
59	1003-02	26号墳 器高	—	口徑 器高 底厚	形態 幅 高さ	—	ヨコハケ	ナデ	微砂粒含む	良	5Y6/1 灰白	表土除去	
102	2008-04	27号墳 西溝	31.1.4	口徑 器高 底厚	形態 幅 高さ	—	ヨコハケ (5本/cm)	ヨコハケ (7本/cm)	ナデ	今や粗 1~3mmの小石含む	良	5YR6/8 橙	朝麗形埴輪
103	2012-01	27号墳 西溝	—	口徑 器高 底厚	形態 幅 高さ	—	ヨコハケ (9本/cm)	ヨコハケ (7本/cm)	ナデ	今や粗 1~3mmの小石含む	良	7.5YR8/4 浅黄橙	口縁: 1/8
104	2008-03	27号墳 西溝	—	口徑 器高 底厚	形態 幅 高さ	—	ヨコハケ (11本/cm)	ナデ	今や粗 1~3mmの小石含む	良	7.5YR7/6 橙		
105	2008-02	27号墳 西溝	—	口徑 器高 底厚	形態 幅 高さ	—	ヨコハケ (11本/cm)	ナデ	今や粗 1~3mmの小石含む	良	7.5YR7/6 橙		

第19表 古墳の周溝出土円筒埴輪観察表 (1)

No	登録番号	出土位置 遺構	法量 cm	タガ	透孔	外側調整	内側調整	胎土	焼成	色調	残存度	備考	
106	2008-01	27号墳 西溝	口径 底径	—	形態 幅高さ	—	形態 大きさ	—	ナナメハケ(12本/cm)	ナデ	やや粗 1~4mmの小石含む	良 7.5YR6/6 標	
137	3043-01	28号墳 西溝	口径 底径	4.6. 1	形態 幅高さ	台形状 1.8cm 0.5cm	形態 大きさ	—	ナナメハケ (5~7本/cm)	ヨコハケ (8~9本/cm)	やや粗 ~5mm石含む	良 7.5YR8/4 浅黄緑	口縁: 1/4 朝顔形埴輪
138	3038-04	28号墳 北溝	口径 底径	—	形態 幅高さ	—	形態 大きさ	—	ヨコハケ(5本/cm)	ハケメ	細砂粒少量含む	良 10YR8/4 浅黄緑	口縁: 1/6
139	4044-01	28号墳 南溝	口径 底径	2.7. 0	形態 幅高さ	M字状 1.6cm 0.4cm	形態 円形 6.0cm	ヨコハケ(7本/cm)	オサエのちナデ	細砂粒含む	良 7.5YR8/4 浅黄緑	口縁: 1/6 周溝II No.1	
140	3016-01	28号墳 西溝	口径 底径	2.7. 4	形態 幅高さ	M字状 1.8cm 0.5cm	形態 円形 6.4cm	ヨコハケ (7~8本/cm)	ハケのちナデ	細砂粒含む	良 7.5YR6/8 標	口縁: 5/8 周溝I No.1	
141	3038-03	28号墳 南溝	口径 底径	—	形態 幅高さ	M字状 1.6cm 0.4cm	形態 大きさ	—	ヨコハケ	オサエのちナデ	砂粒含む	良 7.5YR6/8 標	
142	4048-03	28号墳 南溝	口径 底径	15.0	形態 幅高さ	—	形態 大きさ	—	タテハケ(6本/cm)	オサエのちナデ	黒色鉱物含む	良 7.5YR7/6 標	底部: 1/4 周溝II No.1
143	3036-01	28号墳 北溝	口径 底径	—	形態 幅高さ	M字状 1.6cm 0.4cm	形態 円形 6.4cm	ヨコハケ ナナメハケ タテハケ	オサエ・ケズリ	細砂粒少量含む	良 10YR7/6 明黄緑		
144	3037-01	28号墳 西溝	口径 底径	19.0	形態 幅高さ	台形状 1.6cm 0.4cm	形態 円形 6.4cm	ヨコハケ タテハケ	オサエのちナデ	細砂粒少量含む	良 7.5YR7/8 黄緑		
213	3041-01	31号墳 北溝	口径 底径	16.1. 2	形態 幅高さ	—	形態 大きさ	—	タテハケ(7本/cm)	ヨコハケ(7本/cm)	細砂粒含む	良 2.5Y8/3 淡黄	底部: 1/8 透輪切抜
265	5084-01	40号墳 南溝	口径 底径	4.2. 0	形態 幅高さ	—	形態 大きさ	—	ナナメハケ	ヨコハケ	やや密	良 10YR8/4 浅黄緑	口縁: 1/4 周溝II-① 朝顔形埴輪
266	5044-01	40号墳 西溝	口径 底径	—	形態 幅高さ	—	形態 大きさ	—	ヨコハケ	ヨコハケ			周溝III-①
267	5040-03	40号墳 南溝	口径 底径	21.1. 0	形態 幅高さ	M字状 2.0cm 0.4cm	形態 大きさ	—	ヨコハケ (7~8本/cm)	ヨコハケのちナデ	~5mm 長石・石英含む やや軟	10Y7/1 灰白 7.5YR8/6 浅黄緑	口縁: 1/4 周溝II-①
268	5041-01	40号墳 西溝	口径 底径	14.4	形態 幅高さ	—	形態 大きさ	—	タテハケ (5~6本/cm)	ナデ	~5mm 長石・石英含む やや密	7.5YR7/5 黄緑	底部: 1/4 周溝II-② No.2
269	5043-01	40号墳 西溝	口径 底径	16.0	形態 幅高さ	—	形態 大きさ	—	タテハケ (4本/cm)	オサエ・ナデ	3mm小石 1.5mm~砂粒	5YR7/4 によい標	底部: 1/4 周溝II-②
348	4037-01	4号墳 南溝	口径 底径	5.9. 8	形態 幅高さ	M字状 2.0cm 0.4cm	形態 大きさ	—	ナナメハケ ナデ	ナデ	やや粗 細砂粒含む	10YR8/4 浅黄緑	口縁: 1/3 朝顔形埴輪
349	4002-01	4号墳 西溝	口径 底径	27.6	形態 幅高さ	M字状 1.6cm 0.4cm	形態 大きさ	—	ヨコハケ (5~6本/cm)	ナデ ヨコハケ薄く残る	細砂粒含む	良 7.5YR8/4 浅黄緑	口縁: 1/2 ヘラ記号 第4次規範No.6
350	5073-01	4号墳 北溝	口径 底径	22.0	形態 幅高さ	—	形態 大きさ	—	ヨコハケ (5本/cm)	ナデ	やや密	10YR7/4 によい黄緑	口縁: 1/4 周溝III-②
351	4019-01	48号墳 西溝	口径 底径	25.0	形態 幅高さ	M字状 1.8cm 0.5cm	形態 円形 5.8cm	ヨコハケ (8本/cm)	オサエ	細砂粒多量含む	良 5YR7/4 によい標	周溝III-⑦ ヘラ記号あり 第4次規範No.6	
352	4018-01	48号墳 西溝	口径 底径	32.6	形態 幅高さ	M字状 1.8cm 0.4cm	形態 大きさ	—	ヨコハケ (7~10本/cm)	ナデ オサエ・ナデ	~3mm砂粒含む やや密	5YR8/8 黄緑 7.5YR7/6 標	口縁: 2/5 ヘラ記号 第4次規範No.6
353	4020-01	48号墳 西溝	口径 底径	—	形態 幅高さ	M字状 1.6cm 0.4cm	形態 円形 5.3cm	ヨコハケ (8~8本/cm)	オサエのちナデ	微砂粒含む	5YR7/4 によい標		周溝III-⑤ 第4次規範No.6
381	4049-02	49号墳 南溝	口径 底径	4.0. 0	形態 幅高さ	—	形態 大きさ	—	ヨコハケ (5本/cm)	ヨコハケ	やや粗 ~2mmの小石・細砂粒	7.5YR8/4 浅黄緑	口縁: 1/16 朝顔形埴輪
382	4049-01	49号墳 南溝	口径 底径	20.2	形態 幅高さ	M字状 1.4cm 0.4cm	形態 円形 6.8cm	タテハケのちヨコハケ (8本/cm)	ヨコハケ ナデ	~2mmの細砂粒多量含む ナデ	7.5YR8/4 浅黄緑 ~ 7.5YR7/6 標	口縁: 1/4	
422	4045-01	55号墳 南溝	口径 底径	5.4. 0	形態 幅高さ	M字状 1.4cm 0.4cm	形態 円形 5.3cm	ヨコハケ タテハケ(7~8本/cm)	オサエのちナデ	細砂粒含む	10YR8/3 浅黄緑	わずか 朝顔形埴輪	
459	5108-01	63号墳 北溝	口径 底径	—	形態 幅高さ	M字状 1.4cm 0.2cm	形態 大きさ	—	ヨコハケ	ヨコハケ	~5mm小石含む	10YR7/2 によい黄緑	周溝IV-①
460	5077-01	63号墳 西溝	口径 底径	32.0	形態 幅高さ	M字状 1.4cm 0.3cm	形態 円形 6.0cm	ヨコハケ	オサエのちナデ	やや密 1mm~砂粒	5YR7/6 標	口縁: 1/8 周溝III-① No.2	
461	5105-01	63号墳 西溝	口径 底径	33.0	形態 幅高さ	M字状 2.2cm 0.4	形態 円形 6.0cm	ヨコハケ (9本/cm)	オサエ	ナデ	3	7.5YR8/4 浅黄緑	口縁: 1/5 朝顔形埴輪
462	5093-01	63号墳 西溝	口径 底径	38.4	形態 幅高さ	M字状 0.2cm	形態 円形 6.0cm	ヨコハケ (8~12本/cm)	オサエ ナデ	やや密 ~2mm砂粒	5YR6/4 によい標 5YR5/4 によい赤褐 7.5YR7/6 標	周溝III-① No.4	
463	5049-01	63号墳 東溝	口径 底径	—	形態 幅高さ	M字状 1.4cm 0.2cm	形態 大きさ	—	ヨコハケ (10~13本/cm)	オサエ	やや粗 1~3mm	7.5YR7/6 標	周溝I-①
464	5109-01	63号墳 北溝	口径 底径	—	形態 幅高さ	M字状 1.2cm 0.3cm	形態 円形 7.0cm	ヨコナデのちヨコハケ	オサエのちナハケ	~6mm小石含む	7.5YR7/3 浅黄緑 ~ 7.5YR8/4 浅黄緑	周溝IV-①	
465	5083-01	63号墳 西溝	口径 底径	19.0	形態 幅高さ	M字状 1.2cm 0.3cm	形態 円形 8.0cm	ヨコハケ ナナメハケ	オサエ ナデ	やや密	5YR7/6 標	周溝III-① No.4	
558	5088-01	71号墳 南溝	口径 底径	4.6. 4	形態 幅高さ	—	形態 大きさ	—	タテハケ (7~8本/cm)	ヨコハケ	やや不良	2.5YR7/6 標 ~ 2.5YR8/6 淡黄緑 ~ 7.5YR8/6 淡黄緑 ~ 7.5YR7/6 標	周溝I-③ 朝顔形埴輪
559	5046-02	71号墳 西溝	口径 底径	4.8. 8	形態 幅高さ	台形状 2.0cm 0.4cm	形態 大きさ	—	ナナメハケ	ヨコハケ	~6mm長石含む	7.5YR8/6 浅黄緑	周溝III-① 朝顔形埴輪
560	5046-01	71号墳 西溝	口径 底径	36.4	形態 幅高さ	三角状 2.0cm 0.5cm	形態 大きさ	—	ナナメハケ	ヨコハケ オサエ	密 ~1mm長石含む	7.5YR8/4 浅黄緑 7.5YR5/3 によい褐色 2.5Y6/1 黄緑	口縁: 1/4 朝顔形埴輪
561	5074-01	71号墳 南溝	口径 底径	2.4. 5	形態 幅高さ	M字状 2.0cm 0.4cm	形態 大きさ	—	ヨコハケ (6本/cm)	ヨコハケ (5本/cm)	やや粗 1.5mm~砂粒含む	10YR7/4 によい黄緑	周溝II-①
562	5080-01	71号墳 南溝	口径 底径	15.4	形態 幅高さ	M字状 0.3cm	形態 大きさ	—	ヨコ・ナナメハケ (6~11本/cm) タテハケ(9~11本/cm)	オサエ ナデ	やや密 ~3mm砂粒含む	5YR7/4 によい標 5YR8/4 淡黄緑	周溝I-②
563	5079-02	71号墳 北溝	口径 底径	15.9	形態 幅高さ	—	形態 大きさ	—	ナナメハケ (7本/cm)	オサエ ナデ	やや粗 ~2.5mm砂粒含む	5YR7/6 標	底部: 1/2 周溝IV-①
564	5095-01	71号墳 東溝	口径 底径	15.5	形態 幅高さ	—	形態 大きさ	—	ヨコハケ ナナメハケ 崩滅の跡不明瞭	オサエ	やや粗 1.5mm~砂粒含む	5YR7/4 によい標	周溝IV-②
565	5097-01	71号墳 東溝	口径 底径	16.0	形態 幅高さ	M字状 0.4cm	形態 大きさ	—	ヨコハケ (6本/cm) ナナメハケ(6本/cm)	オサエのちナデ	やや密 1mm砂粒含む	7.5YR8/8 黄緑	周溝IV-②
566	5094-01	71号墳 東溝	口径 底径	14.8	形態 幅高さ	M字状 1.6cm 0.3cm	形態 大きさ	—	タテハケ 崩滅の跡不明瞭	オサエ ナデ	やや粗 5mm小石 1mm~砂粒	7.5YR7/6 標	底部: 3/4 周溝IV-②
567	5068-01	71号墳 東溝	口径 底径	14.4	形態 幅高さ	台形状 1.6cm 0.3cm	形態 大きさ	—	タテハケ	オサエ ナデ	やや粗 1mm~砂粒 3mm小石	7.5YR8/6 浅黄緑	周溝IV-②
568	5085-01	71号墳 東溝	口径 底径	14.7	形態 幅高さ	M字状 1.4cm 0.2cm	形態 大きさ	—	ヨコハケ タテハケ	オサエ ナデ	やや粗 ~6mm小石含む	10YR7/6 明黄緑	底部: わずか 周溝I-①
569	5089-01	71号墳 南溝	口径 底径	12.0	形態 幅高さ	—	形態 大きさ	—	タテハケ (5~6本/cm)	オサエのちナデ	~2mm砂粒 やや不良	5YR6/4 によい標	底部: わずか 周溝II-①
570	5045-01	71号墳 南溝	口径 底径	13.2	形態 幅高さ	—	形態 大きさ	—	タテ・ナナメハケ (7本/cm)	オサエ ナデ	やや密 1mm~砂粒 3mm小石	7.5YR7/6 標 ~ 7.5YR7/4 によい標	底部: 1/6 周溝I-②
571	5086-01	71号墳 南溝	口径 底径	14.2	形態 幅高さ	M字状 1.6cm 0.3cm	形態 大きさ	—	ヨコハケ タテハケ ナナメハケ	オサエ	やや粗 ~5mm小石含む	10YR7/6 明黄緑	底部: 2/3 周溝I-②
572	5098-01	71号墳 東溝	口径 底径	15.5	形態 幅高さ	台形状 1.8cm 0.4cm	形態 大きさ	—	ヨコハケ タテハケ(6本/cm)	ナデ	やや粗	7.5YR7/6 標	底部: 1/2 周溝IV-②

第20表 古墳の周溝出土円筒埴輪観察表 (2)

No.	登録番号	種類	遺構 出土位置	法量(cm)[現存値]	調査技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
60	1034-1-01 1034-2	馬形	26号壙	全長 111.5 (復元値)	内:ナデ 外:ハケメ	~2.0mmの細砂粒含む	良	7.5YR7/6 橙 7.5YR8/4 淡黄橙		
61	1035-1-01 1035-2 1035-3	馬形 鞍	26号壙	長さ [36.9×28.0] 厚み 0.8	内:ナデ 外:ハケメ	~2.0mmの砂粒含む	並	10YR7/3 にぶい黄橙		埴泥の両端に円形スカシ孔 直線と曲線の線刻あり
62	1033-01	馬形 前輪	26号壙	高さ [5.5]	内:ナデ 外:ハケメ	~1.0mmの砂粒含む	良	10YR7/3 にぶい黄橙		
63	1036-1-01 1036-2	馬形 頭	26号壙	長さ [24.5]×31.3 厚み 19.2	内:ナデ 外:ハケメ(10本/cm)	~2.0mmの砂粒含む	良	5YR6/4 にぶい橙 7.5YR7/4 にぶい橙	1/3	
64	1021-03	家形 堅魚木	26号壙	長さ [4.6×2.5] 厚み 2.6	内:オサエ 外:オサエ・ナデ	細砂粒子 少量含む	良	7.5YR6/6 橙	1/3	
65	1020-07	家形 堅魚木	26号壙	長さ [5.6×2.0] 厚み 2.0	内:オサエのちナデ 外:オサエ・ナデ	細砂粒子 少量含む	良	7.5YR6/8 橙	1/2	裏面剥離痕跡
66	1021-02	家形 堅魚木	26号壙	長さ [6.0×2.4] 厚み 2.0	内:オサエ 外:オサエ・ナデ	細砂粒子 少量含む	良	7.5YR7/6 橙	1/2	裏面剥離痕跡
67	1020-06	家形 堅魚木	26号壙	長さ [4.4×2.5] 厚み 2.0	内:オサエ・ナデ 外:オサエのちナデ	砂粒子 少量含む	良	7.5YR6/8 橙	1/2	裏面剥離痕跡
68	1021-01	家形 堅魚木	26号壙	長さ [4.2×2.5] 厚み 1.4	内:オサエ 外:ナデ	砂粒含む	良	5YR6/6 橙	1/2	裏面剥離痕跡
69	1020-04	家形 堅魚木	26号壙	長さ [5.0×2.3] 厚み 2.1	内:オサエ・ナデ 外:ナデ	砂粒含む	良	7.5YR6/8 橙	1/2	裏面剥離痕跡
70	1020-05	家形 堅魚木	26号壙	長さ [4.1×2.3] 厚み 1.2	内:オサエ・ナデ 外:オサエ・ナデ	砂粒含む	良	7.5YR7/8 黄橙	1/2	裏面剥離痕跡
71	1038-04	馬形 谷葉	26号壙	長さ [8.0×8.8] 厚み 1.0	内:指オサエ・ナデ 外:ハケメ(8本/cm)	密	良	内:5YR6/8 橙 外:5YR6/8 橙	1/4	杏葉の線刻表現 ペルトの剥離痕跡
72	1019-04	馬形 谷葉	26号壙	長さ [8.5×8.2] 厚み 0.9	内:ナデ 外:ハケメ	細砂粒子 多量含む	良	5YR6/6 橙	1/2	
73	1019-01-02	馬形 谷葉	26号壙	長さ [24.2×10.0] 厚み 1.0	内:ナデ 外:ナデ	細砂粒子 少量含む	良	5YR6/4 にぶい橙 7.5YR6/4 にぶい橙	1/2	
74	1022-01	馬形 谷葉	26号壙	長さ [13.0×12.0] 厚み 2.1	内:ナデ 外:ハケメ	密 ~2.0mm砂粒	良		1/3	
75	1019-03	馬形 李葉	26号壙	長さ [10.4×8.4] 厚み 1.0	内:ナデ 外:ハケメ	細砂粒子 少量含む	良	7.5YR8/6 淡黄橙 7.5YR7/6 橙	2/3	
76	1020-08	馬形	26号壙	長さ [10.4×8.2] 厚み 1.4	内:ナデ 外:ハケメ	細砂粒子 少量含む	良	10YR6/4 にぶい黄橙		
77	1038-01	馬形 耳	26号壙	長さ [7.8] 厚み 4.2	内:ハケメ・ナデ 外:ハケメ(10本/cm)	~1.0mm砂粒含む	良	10YR5/3 にぶい黄橙 10YR5/4 にぶい黄橙	耳部 完存	
78	1020-01	馬形 雲珠	26号壙	長さ [8.6×9.3] 厚み 0.8		砂粒 多量含む	良	7.5YR6/8 黄橙		
79	1038-02	人物 取	26号壙	長さ [4.6×3.9] 厚み 1.2	内:ナデ 外:ハケメ(8本/cm)	細砂粒子 少量含む	良	内:7.5YR6/8 淡黄橙 外:7.5YR6/8 橙		線刻による駆表現
80	1021-04	人物 鼻	26号壙	長さ [4.4×3.8] 厚み 2.2	内:ナデ 外:ナデ	細砂粒子 多量含む	良	2.5YR8/4 淡黄		
81	1038-03	家形	26号壙	長さ [6.8×7.0] 厚み 0.4	磨滅のため不明	1.0mmの小石、赤色斑粒含む	やや不良	内:7.5YR7/6 橙 外:7.5YR7/8 橙		上面に1本線刻あり
82	1020-03	人物 髪	26号壙	長さ [7.6×2.6] 厚み 2.0	内:ナデ 外:ナデ	細砂粒子 少量含む	良	7.5YR6/4 にぶい橙		
83	1020-02	人物 髪	26号壙	長さ [5.4×2.4] 厚み 1.6	内:ナデ 外:ナデ	微砂粒 少量含む	良	7.5YR7/6 橙 5YR6/6 橙		
84	1037-03	人物 大袴	26号壙	長さ [10.8×10.6] 厚み 0.8	内:ナデ・オサエ 外:ナデ・ハケメ(8本/cm)	~3.0mmの小石 少量含む	良	7.5YR7/6 橙		
85	1037-01	人物 首～肩	26号壙	長さ [7.6×13.2] 厚み 1.0	内:ナデ・オサエ 外:ナデ・ハケメ(8本/cm)	~3.0mmの小石 少量含む	良	7.5YR7/6 橙 7.5YR6/6 橙		上面に2本線刻あり
86	1037-02	人物 袖	26号壙	長さ [8.4×7.6] 厚み 0.9	内:ナデ・オサエ 外:ハケメ(9本/cm)	~1.0mm砂粒含む	良	7.5YR7/8 黄橙		
87	1039-01	人物 脛筋	26号壙	長さ [6.2×4.8] 厚み 0.7	内:ナデ 外:指オサエ・ハケメ(8本/cm)	~1.0mm砂粒含む	良	7.5YR7/6 橙 7.5YR7/8 黄色橙		
88	1039-03	人物 足	26号壙	長さ [8.8×10.6] 厚み 1.0	内:指オサエ	~1.0mm小石含む	良	5YR6/8 橙 5YR7/8 橙		丸い台の上にあり (近畿的)
89	1039-02	人物 靴	26号壙	長さ [5.5×5.4] 厚み 0.8	内:ナデ・オサエ 外:ナデ	~1.0mm砂粒含む	良	5YR6/6 橙 2.5YR6/8 橙		
107	2011-01	人物 大顎部	27号壙 西側	長さ [9.0×21.0] 厚み 1.0	内:ナデ 外:ハケメ	やや粗 0.1~0.4cm	良	2.5YR5/6 明赤褐	2/3	表面に線刻あり
108	2014-02	人物 脚筋	27号壙 西側	長さ [6.0×17.0] 厚み 0.8	内:ナデ 外:ハケメ	やや粗 0.1~0.4cm	良	5YR5/8 明赤褐		粘土剝離痕跡
109	2016-03	人物	27号壙 西側	長さ [5.0×9.0] 厚み 0.8	内:ナデ 外:ハケメ	やや粗 0.1~0.4cm	良	7.5YR7/6 橙		107の一部？ 表面に線刻あり
110	2014-05	人物	27号壙 西側	長さ [4.4×4.6] 厚み 0.8	内:ナデ 外:ハケメ	やや粗 0.1~0.4cm	良	10YR8/4 淡黄橙		107の一部？ 表面に線刻あり
111	2016-02	人物	27号壙 西側	長さ [5.6×8.2] 厚み 0.8	内:ナデ 外:ハケメ	やや粗 0.1~0.4cm	良	5YR5/8 明赤褐		107の一部？ 表面に線刻あり
112	2017-03	人物	27号壙 西側	長さ [6.8×5.6] 厚み 0.8	内:ナデ 外:ナデ	やや粗 0.1~0.2cm	良	5YR6/8 橙		107の一部？ 表面に線刻あり
113	2017-04	人物	27号壙 西側	長さ [5.2×3.6] 厚み 1.2	内:ナデ 外:ナデ	やや粗 0.1~0.2cm	良	2.5YR5/8 明赤褐		表面に線刻あり
114	2015-03	弓	27号壙 西側	長さ [12.4] 厚み 2.0	内:ナデ 外:ナデ	やや粗 0.1~0.2cm	良	5YR6/8 橙		表面に線刻あり
115	2016-01	人物 靴	27号壙 西側	長さ [3.8×6.6] 厚み 0.7	内:ナデ 外:ナデ	やや粗 0.1~0.3cm	良	7.5YR7/6 橙 5YR6/8 橙		表面に線刻あり
116	2015-01	人物 靴	27号壙 西側	長さ [14.4×9.4] 厚み 1.0	内:ナデ 外:ナデ	やや粗 0.1~0.3cm	良	5YR6/6 橙		表面に線刻あり
117	2015-02	人物 靴	27号壙 西側	長さ [5.0×8.8] 厚み 1.0	内:ナデ 外:ナデ	やや粗 0.1~0.3cm	良	5YR6/8 橙		116の一部？ 表面に線刻あり
118	2016-04	人物 靴	27号壙 西側	長さ [4.6×5.2] 厚み 0.8	内:ナデ 外:ナデ	やや粗 0.1~0.3cm	良	5YR6/8 橙		116の一部？ 表面に線刻あり
119	2017-02	鈴	27号壙 西側	長さ [2.6] 厚み 2.6	内:ナデ 外:ナデ	やや粗 0.1~0.3cm	良	10YR8/3 淡黄橙		
120	2017-01	鈴	27号壙 西側	長さ [3.0] 厚み 3.0	内:ナデ 外:ナデ	やや粗 0.1~0.3cm	良	5YR6/8 橙		
145	4004-01	武人 取	28号壙 南側	長さ [16.4×12.3] 厚み 2.8	内:ナデ 外:ナデ	細砂粒含む	良	7.5YR6/6 橙	取 完存	周溝 I №10 表面に線刻あり 裏面剥離 第4次瓶級 №71
146	4017-03	弓	28号壙 南側	長さ [25.0] 幅 3.2	内:ナデ 外:ナデ	細砂粒含む	良	10YR7/4 にぶい黄橙	4/5	周溝 I №10 ヘラ記号あり 裏面剥離 第4次瓶級 №70
147	4017-02	人物 手	28号壙 南側	長さ [5.3×4.0] 厚み 1.2	内:ナデ 外:ナデ	細砂粒 少量含む	良	5YR7/4 にぶい橙	4/5	周溝 I №9 人物埴輪の手か? 第4次瓶級 №69
148	4017-01	人物 盾	28号壙 南側	長さ [10.6×12.5] 厚み 5.0	外:ハケメ~8本/cm	細砂粒含む	良	10YR7/6 明黄橙	3/4	周溝 I №9 中空・2方向穿孔 第4次瓶級 №68
149	4066-01	人物 腕	28号壙 南側	長さ [17.6] 厚み 0.8	若干ハケメあり 塵滅著しく調整不明	1.0~3.0mm小石含む	不良	7.5YR7/6 橙		周溝 II №5 中空
150	4065-01	人物 女子	28号壙 南側	高さ [53.0]	内:ハケメ 外:ハケメ					周溝 II №8
225	3045-01	人物 男子	35号壙 北側	高さ [50.9]	内:ハケメ 外:ハケメ					円形スカン孔
270	5112-01	家形	40号壙 北側	高さ [81.8]	内:ハケメ 外:ハケメ					円形スカン孔

第21表 古墳の周溝出土形象埴輪観察表 (1)

No.	登録番号	種類	遺構 出土位置	法量(cm)[現存値]	調整技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
354	5029-02	人物	48号壙 西溝	長さ [13.8] 厚み 1.0	内:ハケメ 外:ハケメ	やや密	良	内:7.5YR8/4 浅黄橙 外:7.5YR7/6 橙	2/3	周溝III-① №56 中空 第5次報 №82
355	5028-05	人物	48号壙 西溝	長さ [5.0×5.0] 厚み 1.0	内:ナデ 外:ナデ	密	不良	内:7.5YR6/4 にぶい橙 外:7.5YR7/6 橙	2/3	周溝III-① №1 第5次報 №81
356	5029-03	家形 堅魚木	48号壙 東溝	長さ [4.2×2.0] 厚み 2.0	内:ナデ 外:ナデ	密	良	10YR8/4 浅黄橙	1/2	周溝I-① №1 第5次報 №83
383	4063-02	家形 堅魚木	49号壙	長さ 9.2×2.0 厚み 1.2	内:指オサエ 外:指オサエ	密	良	7.5YR7/4 にぶい橙		周溝I №7 裏面に刻み目あり
384	4064-03	人物	49号壙	長さ [5.6×8.4] 厚み 1.0	内:ナデ 外:不明	密	良	10YR8/4 浅黄橙		
385	4064-04	人物	49号壙	長さ [12.0×8.6] 厚み 1.0	内:ナデ 外:ナデ					周溝I №7 縁の剥離痕跡あり
386	4063-04	人物	49号壙	長さ [2.6×3.6] 厚み 1.2	内:ナデ 外:ナデ	密	良	10YR8/4 浅黄橙		
387	4063-05	人物 首飾り	49号壙	長さ [2.8]×2.8 厚み 0.6	内:ナデ 外:ナデ	密	良	7.5YR7/4 にぶい橙		
388	4063-03	人物	49号壙	長さ [4.3]×2.3 厚み 1.4	内:ナデ 外:ナデ	密	良	7.5YR7/6 橙		下げ美豆良
389	4064-01	人物	49号壙	長さ [7.6×2.8] 厚み 1.6	内:指オサエ・ナデ 外:ナデ	密	良	7.5YR7/6 橙		下げ美豆良
390	4063-01	人物	49号壙	長さ [13.0]×4.2 厚み 1.8	内:指オサエ・ナデ 外:指オサエ・ナデ	密	良	7.5YR7/6 橙		
391	4025-04	動物	49号壙 南溝	高さ [12.5]	内:ナデ 外:ナデ	細砂粒含む	良	10YR7/6 明黄橙	首部のみ	第4次報 №66
392	4004-02	馬形 辻金具	49号壙 南溝	長さ 4.5×4.3 厚み 1.0	内:ナデ 外:ナデ	細砂粒含む	良	7.5YR7/6 橙	充存	第4次報 №67
393	4064-02	馬形	49号壙	長さ [8.6] 厚み 3.6	内:シボリメ 外:タガハケ	密	良	7.5YR7/6 橙		
423	4062-01	人物	55号壙 南溝	長さ [11.4×19.0] 厚み 0.8	内:ナデ 外:ナデ	密 ~2.0mm小石	良	5YR8/4 淡橙 5YR7/6 橙		表面に線刻あり
424	4062-02	人物	55号壙 南溝	長さ [4.9×3.2] 厚み 2.0	内:ナデ 外:ナデ	密 ~1.0mm小石	良	7.5YR8/4 浅黄色橙 7.5YR7/6 橙		
425	4062-03	家形 堅魚木	55号壙 南溝	長さ [8.0]×2.2 厚み 2.0	内:ナデ 外:ナデ	密 微砂粒含む	良	5YR7/6 橙	1/2	
466	5114-01	家形 堅魚木	63号壙 西溝	長さ 12.0×2.8 厚み 2.7	内:ナデ・ハケメ 外:ナデ・オサエ	1.0mm~3.0mm小石含む	良	5YR8/4 にぶい橙 7.5YR6/6 橙		周溝III-① №3 表面に線刻あり
467	5017-01	家形 堅魚木	63号壙 北溝	高さ [18.6×11.8] 厚み 1.2	内:オサエ・ナデ 外:ハケメ(10本/cm)	やや密 ~5.0mm小石含む	良	2.5YK1/6 紫 2.5YR6/4 にぶい橙 5YR7/6 橙		周溝III-② 剥離痕跡
468	5020-01	家形 堅魚木	63号壙 北溝	高さ [17.6×11.0] 厚み 1.0	内:ナデ・ケズリ 外:ハケメ	やや粗 0.3mm砂粒	良	7.5YR8/4 浅黄橙		周溝III-② 表面に線刻目 第5次報 №88
469	5019-01	家形 堅魚木	63号壙 西溝	高さ [13.4×9.4] 厚み 1.2	内:ナデ・指オサエ 外:ハケメ	やや密 ~1.5mm小石含む	良	5YR7/4 にぶい橙		周溝III-① №36 表面に線刻 第5次報 №89
470	5069-01	家形 堅魚木	63号壙 西溝	高さ [16.4×13.4] 厚み 4.4	内:ナデ 外:ハケメ	やや粗	良	7.5YR8/6 浅黄橙		周溝III-① №7
471	5020-02	家形 堅魚木	63号壙 北溝	長さ 10.6×2.0 厚み 1.6	内:ナデ 外:ナデ	やや粗 0.2mm砂粒含む	良	5YR7/6 橙	充存	周溝III-② 上面に1本線刻あり 第5次報 №84
472	5018-03	家形 堅魚木	63号壙 西溝	長さ 10.6×2.2 厚み 2.0	内:ナデ 外:ナデ	やや密	良	5YR7/4 にぶい橙	充存	周溝III-① 上面に1本線刻あり 第5次報 №85
473	5018-02	家形 堅魚木	63号壙 北溝	長さ 11.4×2.2 厚み 1.8	内:ナデ 外:ナデ	やや密	良	5YR6/4 にぶい橙	充存	周溝III-② 上面に1本線刻あり 第5次報 №86
474	5018-05	家形 堅魚木	63号壙 北溝	長さ [6.4]×2.2 厚み 2.2	内:ナデ 外:ナデ	密	良	5YR7/4 にぶい橙		
475	5018-04	家形 堅魚木	63号壙 西溝	長さ [6.8]×2.2 厚み 1.6	内:ナデ 外:ナデ	やや密	良	10YR8/6 黄橙		周溝III-① №17 上面に1本線刻あり
476	5019-03	家形 堅魚木	63号壙 西溝	長さ [9.4]×2.0 厚み 2.0	内:ナデ 外:ナデ	やや密 微砂粒含む	良	7.5YR7/6 橙	2/3	周溝III-① 上面1本線刻 側面4本 線刻 第5次報 №87
477	5019-04	堅魚木?	63号壙 西溝	長さ [9.2]×2.2 厚み 2.0	内:ナデ 外:ナデ	やや粗	良	7.5YR7/6 橙		周溝III-① №8 側面に5本線刻あり
478	5115-03	堅魚木?	63号壙 西溝	長さ [11.2] 厚み 2.6	内:ナデ 外:ナデ	~3.0cmの小石含む	不良	7.5YR7/8 黄橙		上面に4本線刻あり
479	5070-03	堅魚木? 鹿角?	63号壙 西溝	長さ [8.4] 厚み 1.8	内:ナデ 外:ナデ	やや密	良	5YR7/8 橙		周溝III-① №19
480	5113-01	人物	63号壙 西溝	高さ 62.0 幅 38.0	内:ナデ 外:ハケメ	密	良			周溝III-① №5
481	5116-02	人物 鎧甲	63号壙 西溝	長さ [11.8×11.2] 厚み 0.8	内:ナデ 外:ナデ	密	不良	5YR5/6 明赤褐		周溝III-① №13 表面に線刻・四角形刺突文
482	5115-02	人物 鎧甲	63号壙 西溝	長さ [8.6×4.0] 厚み 0.6	内:ナデ 外:ナデ	密	不良	7.5YR6/6 橙		周溝III-① №9 細線刻・角形刺突文
483	5018-01	人物	63号壙 西溝	長さ [6.8×11.8] 厚み 0.6	内:ナデ・指オサエ 外:ナデ	やや粗 ~1.5cm砂粒含む	良	5YR6/6 橙 7.5YR7/6 橙		周溝III-① №35 中空 表面線刻・裏面剥離 第5次報 №90
484	5116-01	人物 靴先	63号壙 西溝	長さ [8.4×3.8] 厚み 3.2	内:ナデ 外:ナデ	密	良	5YR6/8 橙		周溝III-① №39 表面に線刻あり
485	5115-01	人物 頭?	63号壙 南溝	長さ [6.7×8.2] 厚み 0.8	内:ナデ 外:ナデ	~3.0cm小石含む	良	7.5YR6/8 橙		周溝II-① №11 表面に入れ墨線刻あり
486	5071-01	人物	63号壙 西溝	長さ [5.5×3.3] 厚み 2.2	内:ナデ 外:ナデ	やや粗 ~1.0cm砂粒含む	やや 不良	5YR6/6 橙 5YR7/4 にぶい橙		周溝III-① №14 下げ美豆良
487	5071-02	人物	63号壙 西溝	長さ [6.2×3.0] 厚み 2.0	内:ナデ 外:ナデ	やや粗 ~1.0cm砂粒含む	やや 不良	5YR6/6 橙 7.5YR8/8 黄橙 7.5YR7/4 にぶい橙		周溝III-① №32 下げ美豆良
488	5071-03	人物	63号壙 東溝	長さ [5.4×3.0] 厚み 2.2	内:ナデ 外:ナデ	やや粗 ~2.0cm砂粒含む	やや 不良	5YR7/6 橙 7.5YR5/3 にぶい橙		周溝IV-② 下げ美豆良
489	5111-01	人物	63号壙 西溝	長さ [18.2×22.8] 厚み 9.0	内:オサエ・ナデ 外:ナデ・ハケメ	やや粗 ~2.0cm砂粒含む	良	5YR7/6 橙		周溝III-① №3 中空・縁の剥離痕跡
490	5017-03	鹿形	63号壙 西溝	長さ 14.2	内:ナデ 外:ナデ	やや粗	良	10YR8/4 浅黄橙 10YR8/6 黄橙	充存	周溝III-① №11 獣形 第5次報 №91
491	5114-03	馬形	63号壙 西溝	長さ [7.6×2.4] 厚み 1.0	内:ナデ 外:ナデ	1.0~3.0cm小石含む	良	5YR6/8 橙		周溝III-① 表面直弧文風線刻
492	5114-02	馬形 鏡板	63号壙 西溝	長さ [6.2×4.4] 厚み 0.8	内:ナデ 外:ナデ	~3.0cm小石含む	良	5YR5/6 明赤褐	1/3	周溝III-① №10 表面直弧文風線刻
493	5068-02	馬形 杏葉	63号壙 西溝	長さ 18.2×9.6 厚み 0.8	内:ナデ 外:ナデ	~2.0cm小石含む	良	5YR7/6 橙		周溝III-① №29 表面直弧文風線刻・裏面剥離 第5次報 №92
494	5019-02	馬形 杏葉	63号壙 西溝	長さ 18.0×9.0 厚み 0.8	内:ナデ 外:ナデ	やや密 細砂粒含む	良	5YR7/6 橙 5YR6/4 にぶい橙		周溝III-① №1 中空・裏面粘土紐接合 第5次報 №93
495	5017-02	馬形 脚	63号壙 西溝	長さ [18.4×7.2] 厚み 0.8	内:ナデ 外:ナデ・ハケメ	やや密	良	5YR7/6 橙 5YR6/4 にぶい橙	1/2	周溝IV-② 頭部後ろ表現特異 第5次報 №94
496	5117-01	馬形	63号壙 東溝	全長 110.0 距高 80.0	内:ナデ 外:ハケメ	やや密	良	5YR7/6 橙 5YR6/4 にぶい橙		周溝IV-① №1
573	5070-04	人物 鼻	71号壙 北溝	長さ [5.8×4.6] 厚み 1.8	内:ナデ 外:ナデ	密	良	7.5YR6/8 橙		周溝III-① №1
574	5116-03	人物 頭	71号壙 西溝	長さ [5.6×4.4] 厚み 2.6	内:ナデ 外:ナデ	密	良	10YR6/4 にぶい黄橙		周溝I-② №1 表面に線刻あり
575	5070-02	不明	71号壙 南溝	長さ [14.6] 厚み 2.6	内:ナデ 外:ナデ	やや密	良	10YR6/4 にぶい黄橙		周溝I-① №1 表面に線刻あり
576	5071-04	家形 堅魚木	71号壙 東溝	長さ 8.2×2.5 厚み 1.8	内:ナデ 外:ナデ	~3.0cm小石含む	やや 不良	10YR8/6 黄橙 10YR7/4 にぶい黄橙		周溝I-① №1
632	5070-01	人物 脛	74号壙 南溝	長さ [10.4] 厚み 1.0	内:ナデ 外:ハケメ	やや粗	良	7.5YR8/6 浅黄橙		周溝II-① 中空

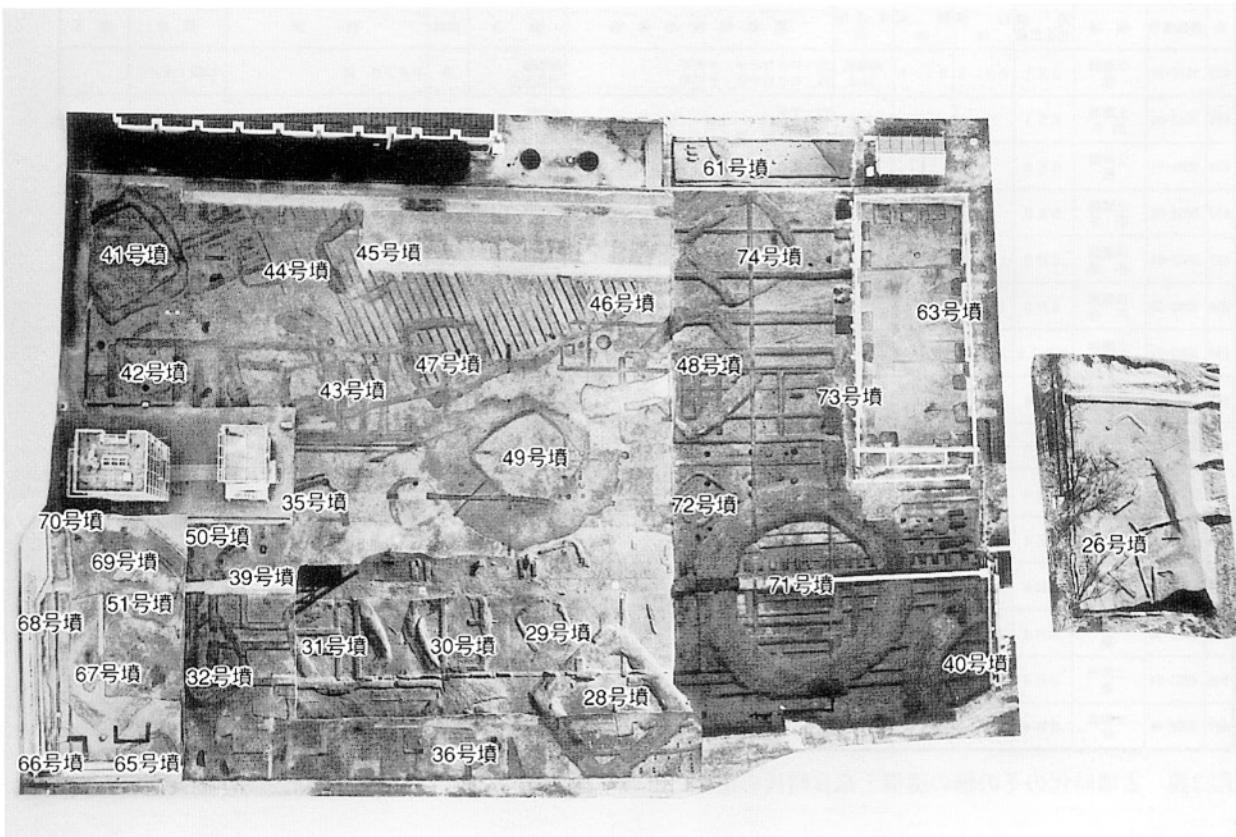
第22表 古墳の周溝出土形象埴輪観察表（2）

No.	登録番号	器種	遺構 出土位置	口径 cm	器高 cm	その他 cm	調整技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存	備考
633	3015-01	須恵器 蓋	S X 1	2 3 . 2	5 1 . 5	体部径 52.0	内：ロクロナデ・タタキ 外：ロクロナデ・タタキ	細砂粒 少量含む	良	N 6 / 0 灰	口縁：1 / 2	
634	3042-04	土師器 把手	S X 1	-	-	-	内：ナデ 外：ナデ	やや粗 ~ 1. 5 mm砂粒	良	10 Y R 8 / 3 浅黄橙		
635	2004-01	土師器 瓶	S K 8	-	-	-	内：ナデ・ヨコハケメ (5本/cm) 外：ナデ・タテハケメ (5本/cm)	粗 ~ 2. 5 mm砂粒	良	2. 5 Y R 8 / 3 浅黄橙 5 Y R 7 / 4 にぶい橙		
636	2004-02	土師器 把手	S K 8	-	-	-	内：ナデ 外：ナデ	やや粗 ~ 1. 5 mm砂粒	良	10 Y R 8 / 3 浅黄橙		
637	2002-04	須恵器 蓋	S H 3	1' 3 . 8	-	-	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	やや密 ~ 2 mm砂粒	良	N 6 / 0 灰	口縁：わずか	
638	2002-05	須恵器 身	S H 3	1 5 . 4	-	-	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	やや密 ~ 2 mm砂粒	良	10 Y R 5 / 1 褐灰 10 Y R 8 / 3 浅黄橙		
639	2003-02	土師器 蓋	S K 1 2	2 0 . 6	-	-	内：ナデ 外：ナデ	やや粗 ~ 1. 5 mm砂粒	良	7. 5 Y R 7 / 6 橙	口縁：1 / 6	
640	2002-01	須恵器 蓋	S H 4	1 5 . 8	3 . 3	つまり徑 2. 9	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ・ロクロケズリ	密 ~ 1 mm砂粒	良	5 Y 7 / 1 · N 8 / 0 灰白	口縁：1 / 1 0	
641	2002-02	須恵器 身	S H 4	1 3 . 0	3 . 7	底部径 8. 9	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ・ロクロケズリ	密 ~ 1. 5 mm砂粒	良	N 8 / 0 · N 7 / 0 灰白	口縁：1 / 2	No. 1
642	2003-01	土師器 蓋	S H 4	1 4 . 2	-	-	内：ナデ 外：ナデ	やや粗 ~ 1. 5 mm砂粒	良	7. 5 Y 6 / 3 にぶい橙	口縁：1 / 4	
643	2003-05	土師器 蓋	S H 4	-	-	-	内：ナデ 外：ナデ	粗 ~ 2 mm砂粒	良	10 Y R 8 / 4 浅黄橙	口縁：わずか	No. 1
644	2012-03	土師器 蓋	S H 4	2 2 . 0	-	-	内：ナデ 外：ナデ・ハケメ (5本/cm)	やや粗 ~ 2 mm砂粒	良	10 Y R 8 / 3 浅黄橙		
645	2012-02	土師器 蓋	S H 4	2 6 . 6	-	-	内：ナデ・ハケメ 外：ナデ・ハケメ	やや粗 ~ 3 mm砂粒	良	10 Y R 8 / 4 浅黄橙	口縁：わずか	No. 6
646	2003-04	土師器 蓋	S H 4	-	-	-	内：ナデ 外：ナデ・ハケメ (5本/cm)	やや粗 ~ 3 mm砂粒	良	7. 5 Y 7 / 3 にぶい橙	口縁：わずか	No. 8
647	2002-06	土師器 杯	S H 4	1 4 . 2	2 . 6	-	内：ナデ 外：ナデ・ユビオサエ	やや粗 ~ 1. 5 mm砂粒	良	2. 5 Y 7 / 6 橙 5 Y R 6 / 6 · 6 / 8 橙	口縁：1 / 3	No. 7

第23表 古墳時代のその他の遺構・奈良時代の遺構出土遺物観察表

No.	登録番号	器種	遺構 出土位置	口径 (cm)	器高 (cm)	その他 (cm)	胎土	焼成	色調	残存	備考
649	5047-05	陶磁器 柄	2B2-4 包含層	11. 8	-	-	密	良	5YR8/2灰白	口縁1/20	陸軍の星印
650	4050-03	陶磁器 柄	IA20-13 擾乱土坑	16. 5	6. 8	底径 10. 0	密	良	白	1/8	陸軍の星印
651	4051-01	陶磁器 柄	IA20-13 擾乱土坑	16. 5	-	底径 14. 0	密	良	白	7/8	陸軍の星印
652	2009-01	陶磁器 皿	B-32 擾乱層	9. 5	4. 5	底径 7. 5	密	良	白	4/5	陸軍の星印「名陶」
653	4050-02	陶磁器 柄	IA20-13 擾乱土坑	10. 0	7. 0	厚み 1. 8	密	良	白	1/2	「名陶」
654	4052-01	瓦 平瓦	IA10-22 擾乱	-	-	厚み 1. 4	密	良	N3/0暗灰		「群馬2」刻印
655	5021-03	瓦 平瓦	J地区D- 5包含層	-	-	厚み 1. 5	密	良	5Y8/1灰白 N4/0灰～N3/0暗灰		「埼玉11」刻印
656	5101-05	瓦 平瓦	2B7-7 包含層	-	-	厚み 1. 8	密	粗	N4/0灰		「埼玉11」刻印
657	5101-03	瓦 平瓦	2B3-6 包含層	-	-	厚み 1. 8	良	粗	5GY3/1暗紺ワーブ灰		「埼玉11」刻印
658	2010-02	瓦 平瓦	B-32 擾乱層	-	-	厚み 1. 8	良	粗	N3/0暗灰		「埼玉35」刻印
659	2010-01	瓦 平瓦	B-32 擾乱層	-	-	厚み 1. 8	良	粗	N3/0暗灰		「埼玉5」刻印
660	5100-02	瓦 平瓦	1B21-25 包含層	-	-	厚み 2. 0	やや密	良	表N4/0灰 裏N3/0暗灰		「埼玉75」刻印
661	4053-03	瓦 平瓦	IA11-24 土坑	22. 6	18. 4	-	微砂粒 含む	良	N4/0灰～N7/0灰白		「埼玉30」刻印
662	4051-07	陶器 柄	IA20-13 擾乱土坑	5. 0	4. 0	-	密	良	内N2/0黑 外 2.5Y8/2灰白	口縁1/2	「岐388」刻印
663	4051-04	陶器 柄	IA20-13 擾乱土坑	4. 5	4. 0	-	密	良	内N2/0黑 外 2.5Y8/2灰白	口縁5/6	「岐682」刻印
664	4051-03	陶器 柄	IA20-13 擾乱土坑	4. 6	3. 8	-	密	良	2.5Y7/1灰白	完存	「岐388」刻印
665	4051-06	陶器 柄	IA20-13 擾乱土坑	4. 6	3. 9	-	密	良	7.5Y7/1灰白	完存	「岐682」刻印
666	5102-01	陶器 土管	J地区 SD11	長さ 47. 2	高さ 7. 4	幅 14. 2	粗小石 含む	良	2.5YR3/2～3/6暗赤褐		「實用新案209609」刻印
667	5103-01	陶器 土管	J地区 SD11	長さ 47. 2	高さ 7. 4	幅 14. 3	粗小石 含む	良	2.5YR3/2～3/6暗赤褐		「實用新案209609」刻印

第24表 近代の遺構出土遺物観察表



調査区全景（第1次～第5次調査区垂直写真の合成・右上が北）



調査区全景（第4次調査区・西方上空から）



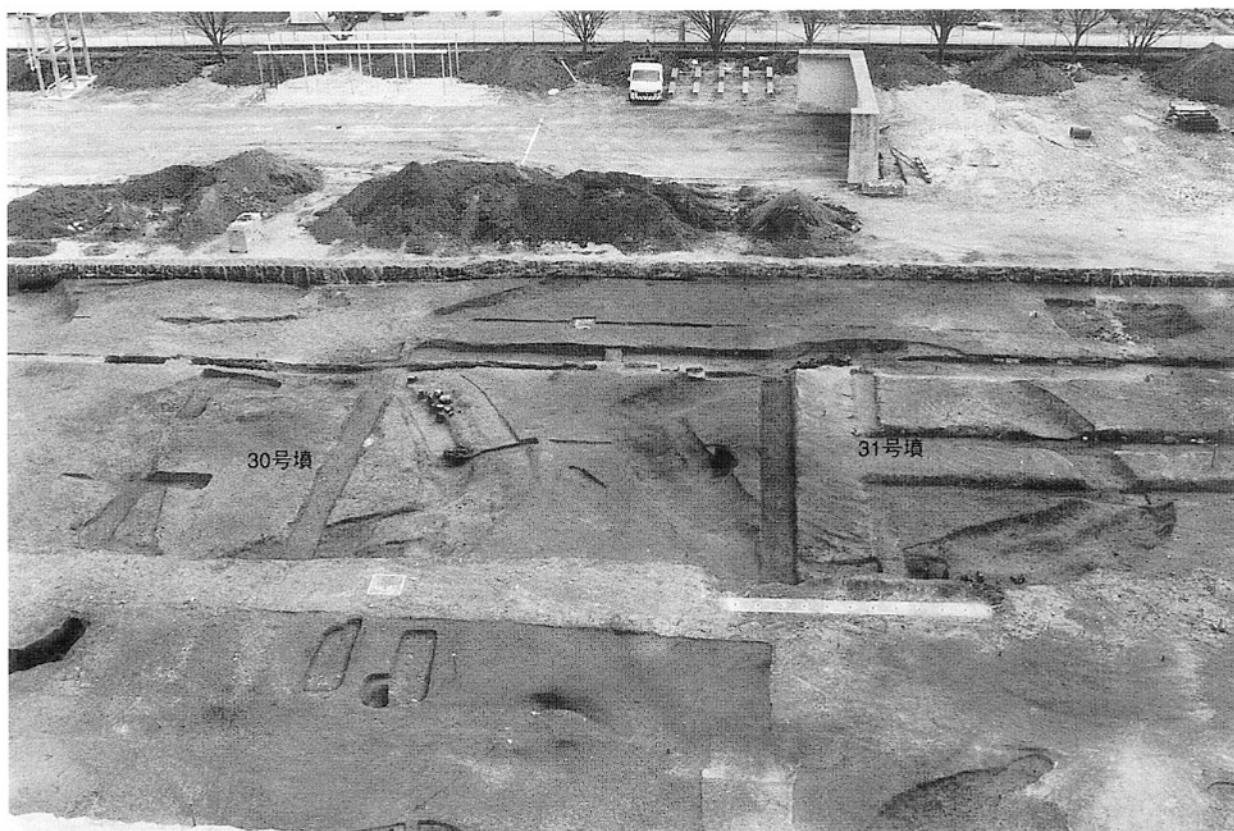
26号墳全景（東から）



27号墳全景（南から）



調査区全景（第3次調査区・西から）



調査区全景（第3次調査区・北西から）



28号墳北溝遺物出土状況（南から）



30号墳北溝遺物出土状況（南から）



28号墳南溝遺物出土状況（東から）



30号墳西溝遺物出土状況（西から）



28号墳南溝遺物出土状況（南から）



31号墳西溝遺物出土状況（南から）



30号墳南溝遺物出土状況（西から）



31号墳西溝遺物出土状況（南から）



31号墳東溝遺物出土状況（西から）



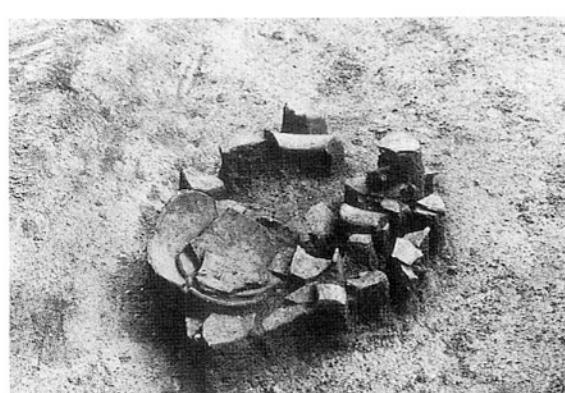
31号墳東溝遺物出土状況（西から）



31号墳東溝遺物出土状況（北から）



31号墳東溝遺物出土状況（南から）



32号墳東溝遺物出土状況（南から）



38号墳全景（北から）



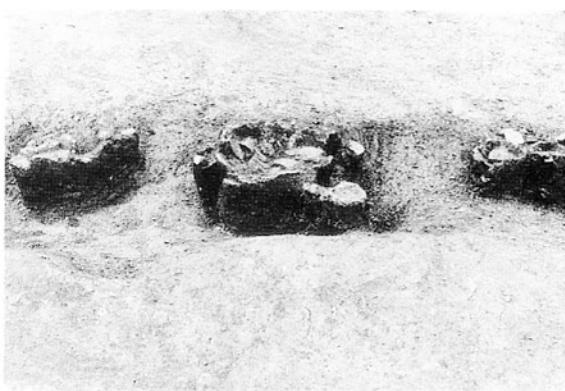
38号墳南溝遺物出土状況（北から）



39号墳全景（南から）



38号墳南溝遺物出土状況（西から）



39号墳西溝遺物出土状況（西から）



調査区全景（第4次調査区・垂直から・右上が北）



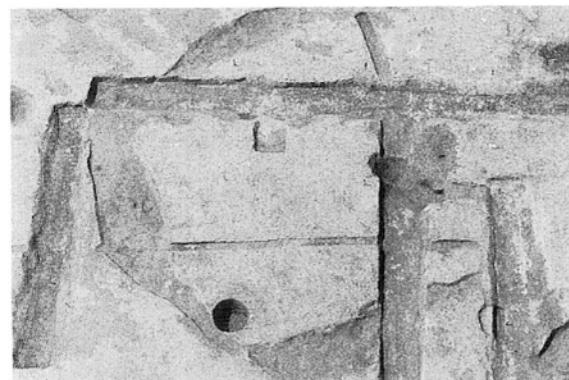
40号墳西溝～南溝（西から）



41号墳南溝遺物出土状況（南から）



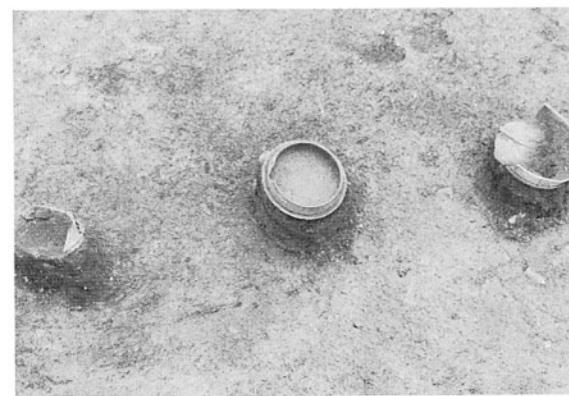
40号墳南溝遺物出土状況（東から）



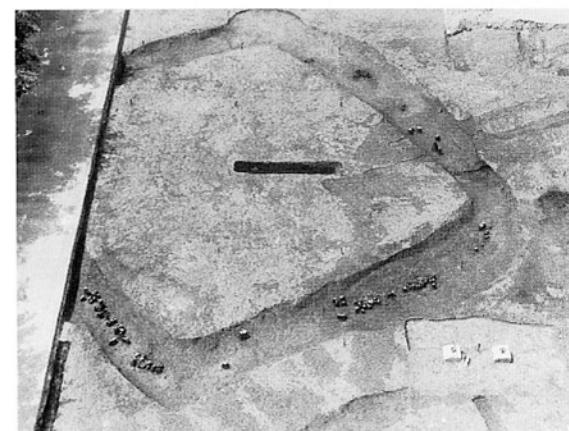
42号墳全景（南東から）



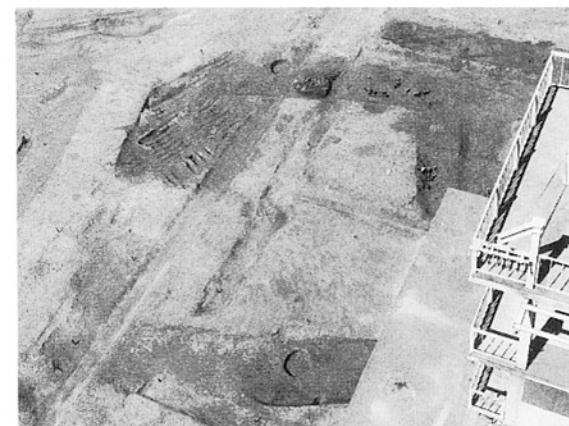
40号墳南溝遺物出土状況（南から）



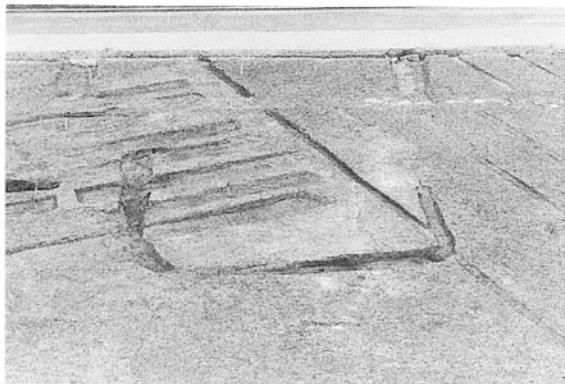
42号墳東溝遺物出土状況（東から）



41号墳全景（南東から）



43号墳全景（南から）



44号墳全景（東から）



45号墳全景（南から）



44号墳東溝遺物出土状況（南から）



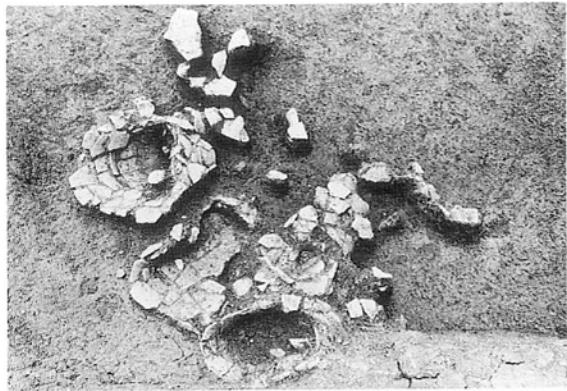
45号墳東溝遺物出土状況（南から）



49・47・45号墳全景（東から）



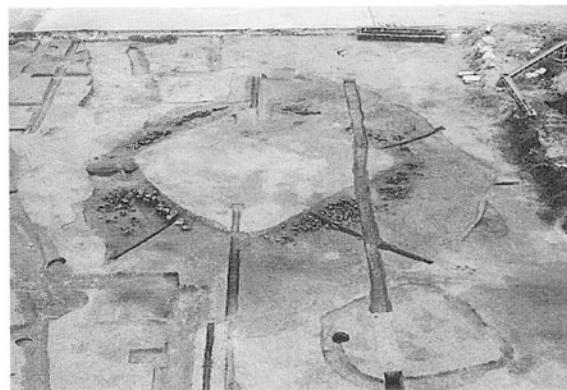
47号墳全景（西から）



48号墳西溝遺物出土状況（北から）



48号墳南・西溝全景（南から）



49号墳全景（南西から）



48号墳東溝遺物出土状況（東から）



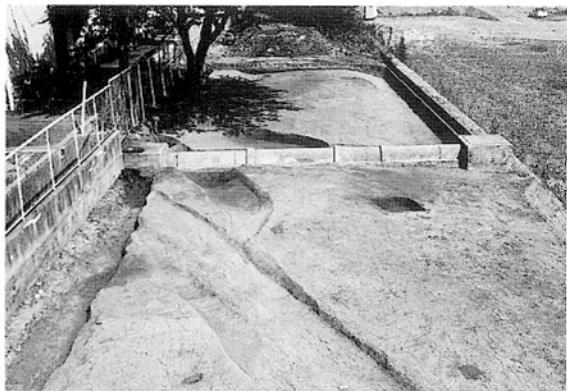
49号墳北溝遺物出土状況（西から）



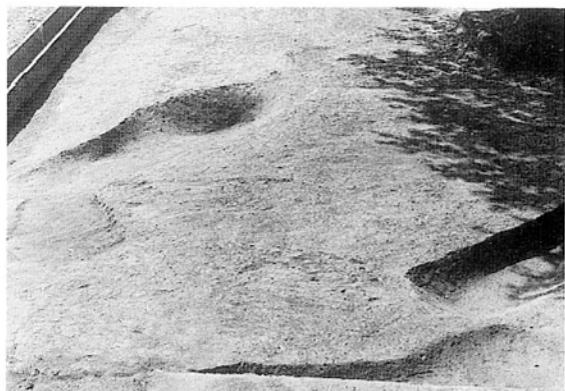
48号墳南溝遺物出土状況（南から）



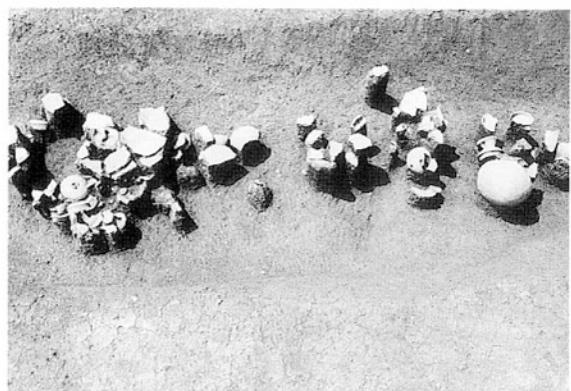
51号墳北溝遺物出土状況（西から）



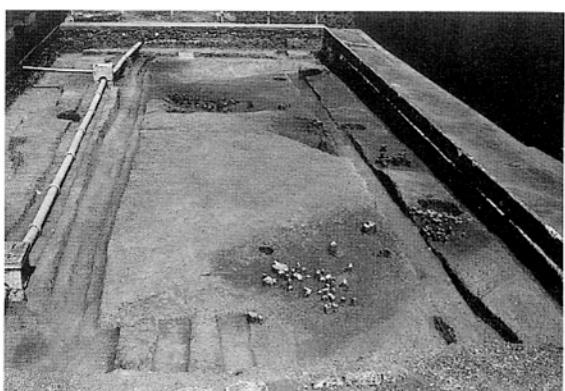
53号墳全景（東から）



54号墳全景（北西から）



53号墳北溝遺物出土状況（北から）



55号墳全景（南西から）



63号墳東溝～北溝（東から）



63号墳東溝馬形埴輪出土状況（東から）



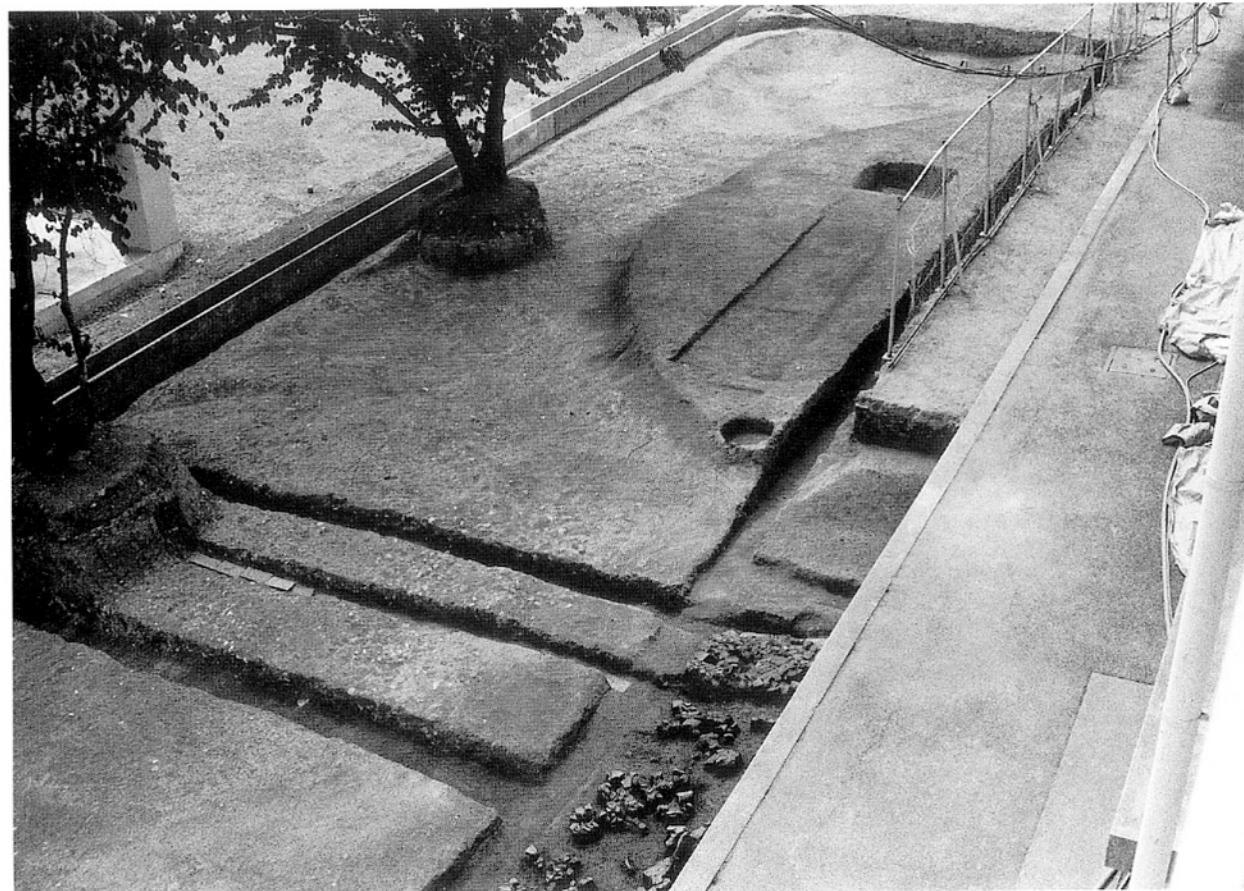
63号墳北溝遺物出土状況（北西から）



63号墳東溝馬形埴輪出土状況（東から）



63号墳西溝遺物出土状況（西から）



63号墳北溝～東溝（北から）



65号墳全景（南から）



67号墳東溝遺物出土状況（南から）



65号墳西溝遺物出土状況（東から）



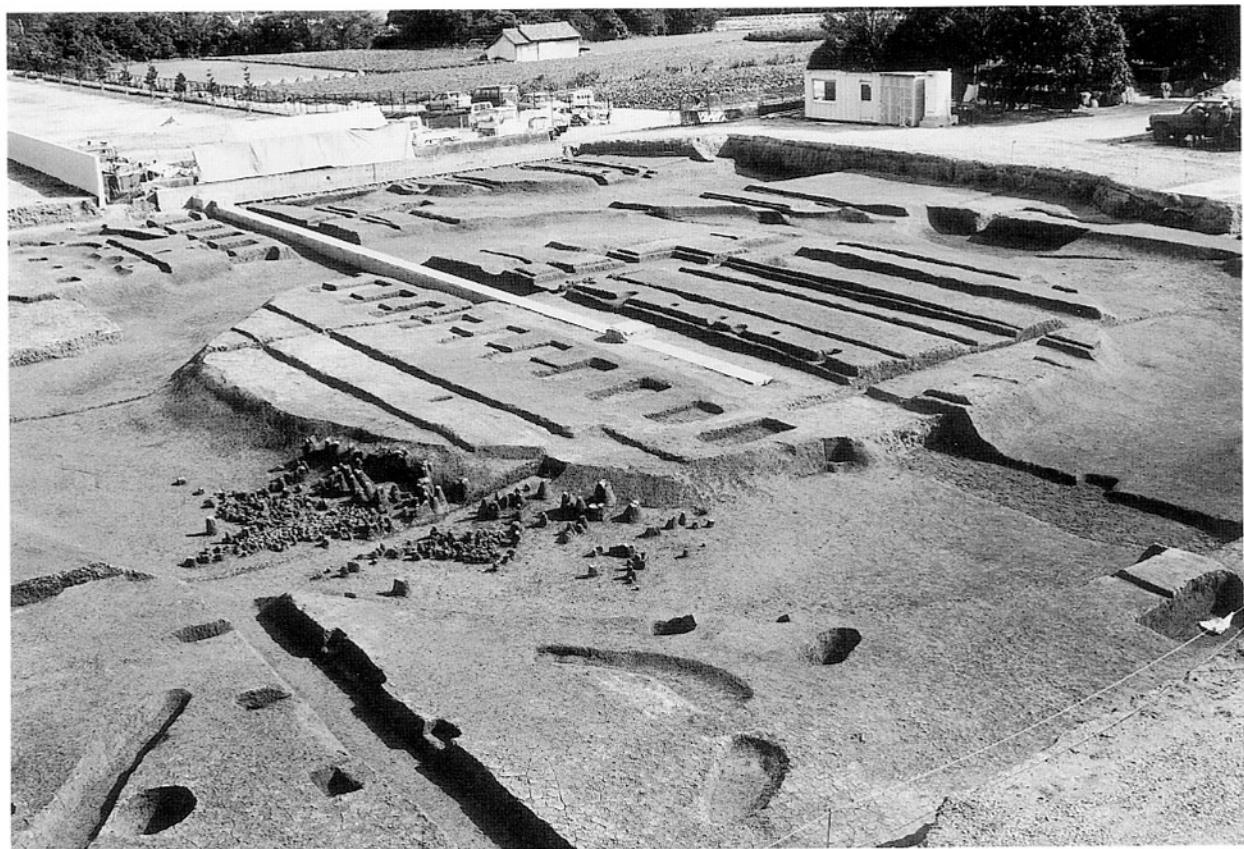
67号墳東溝遺物出土状況（南から）



調査区全景（第5次調査H地区・南上空から）



調査区全景（第5次調査Ⅰ地区・北西上空から）



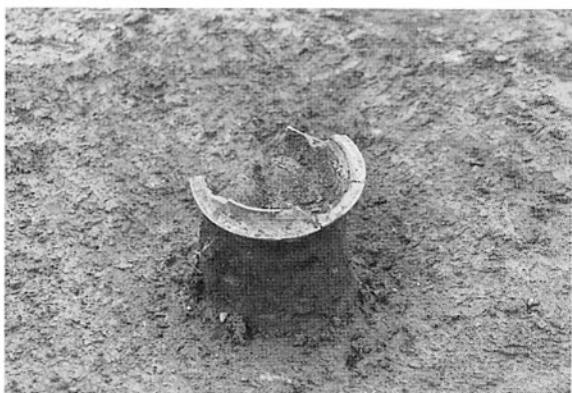
71号墳全景（西から）



71号墳全景（北から）



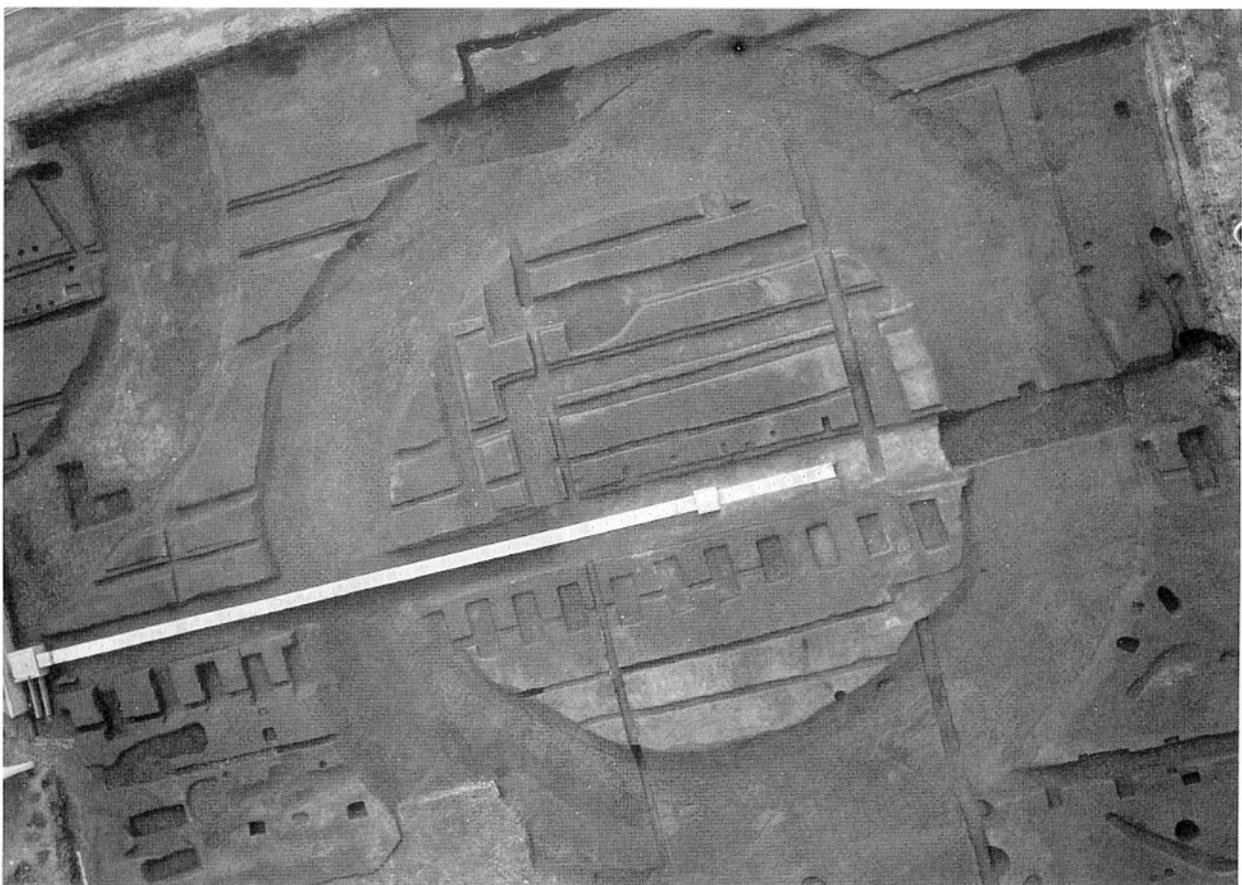
74号墳南溝遺物出土状況（南から）



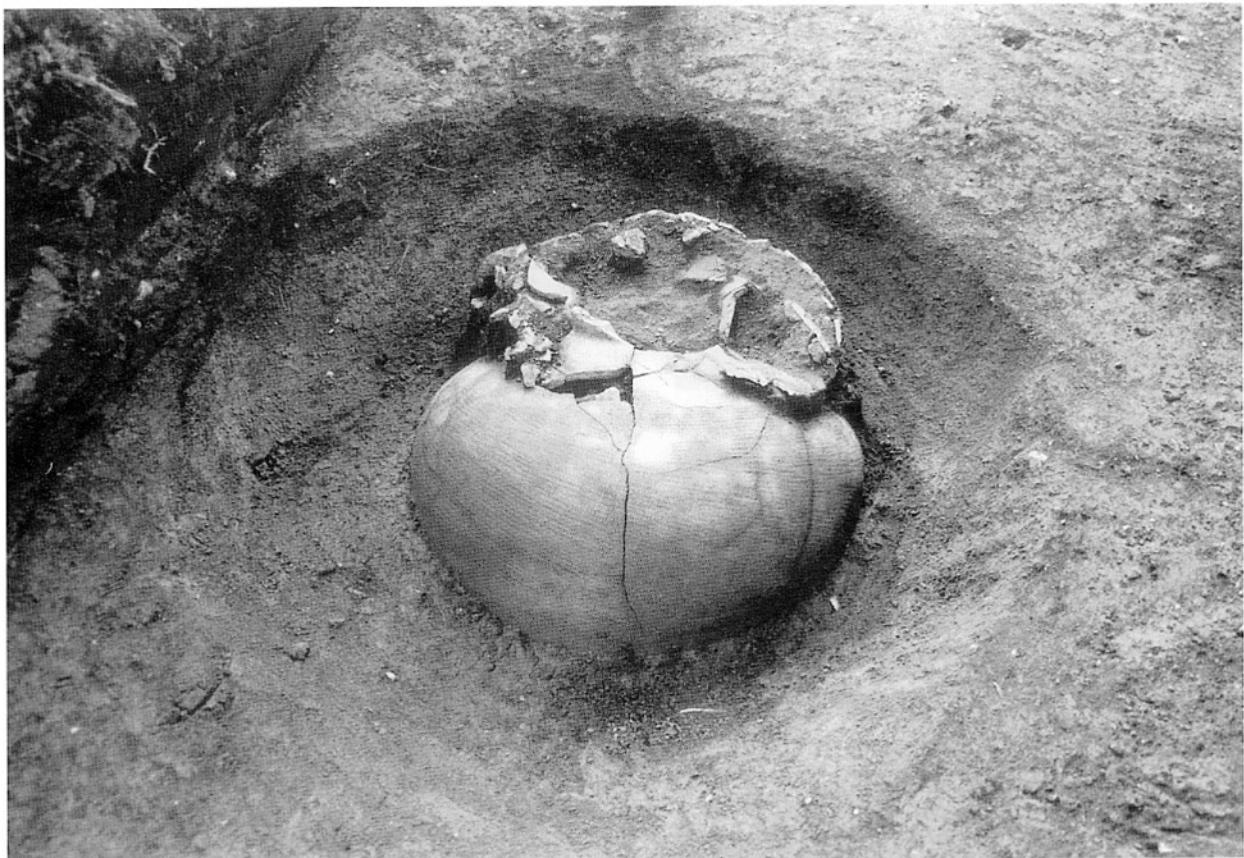
72号墳東溝遺物出土状況（東から）



74号墳北溝遺物出土状況（北から）



71号墳全景（真上から・左下が北）



S X 1 遺物出土状況（西から）



S H 3 全景（南から）



S H 4・5全景（西から）



S H 2 全景（西から）



S H 4 カマド全景（南から）



調査区全景（第5次調査J地区・南東から）



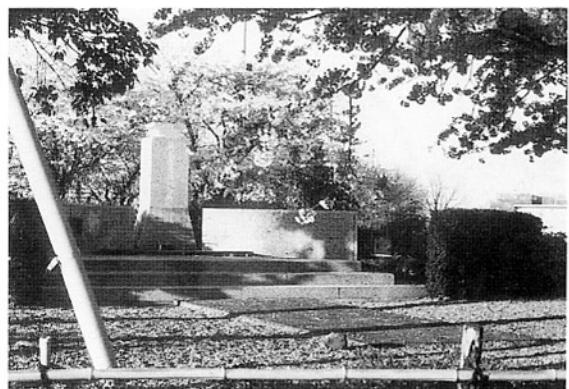
S B 6 全景（南から）



待避壕・66号墳（北西から）



S D 11 全景（南東から）



第一気象連隊記念碑（南から）



1



5



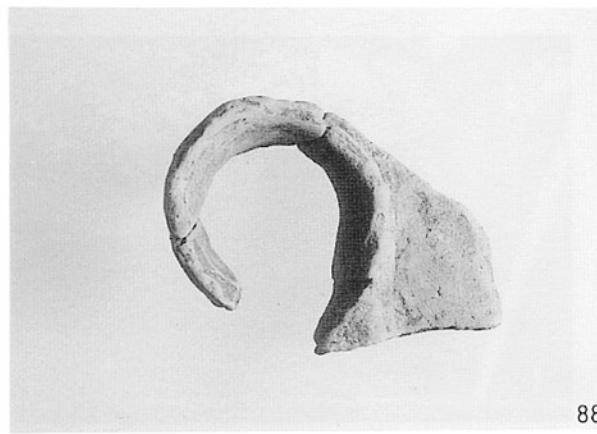
4



3



6

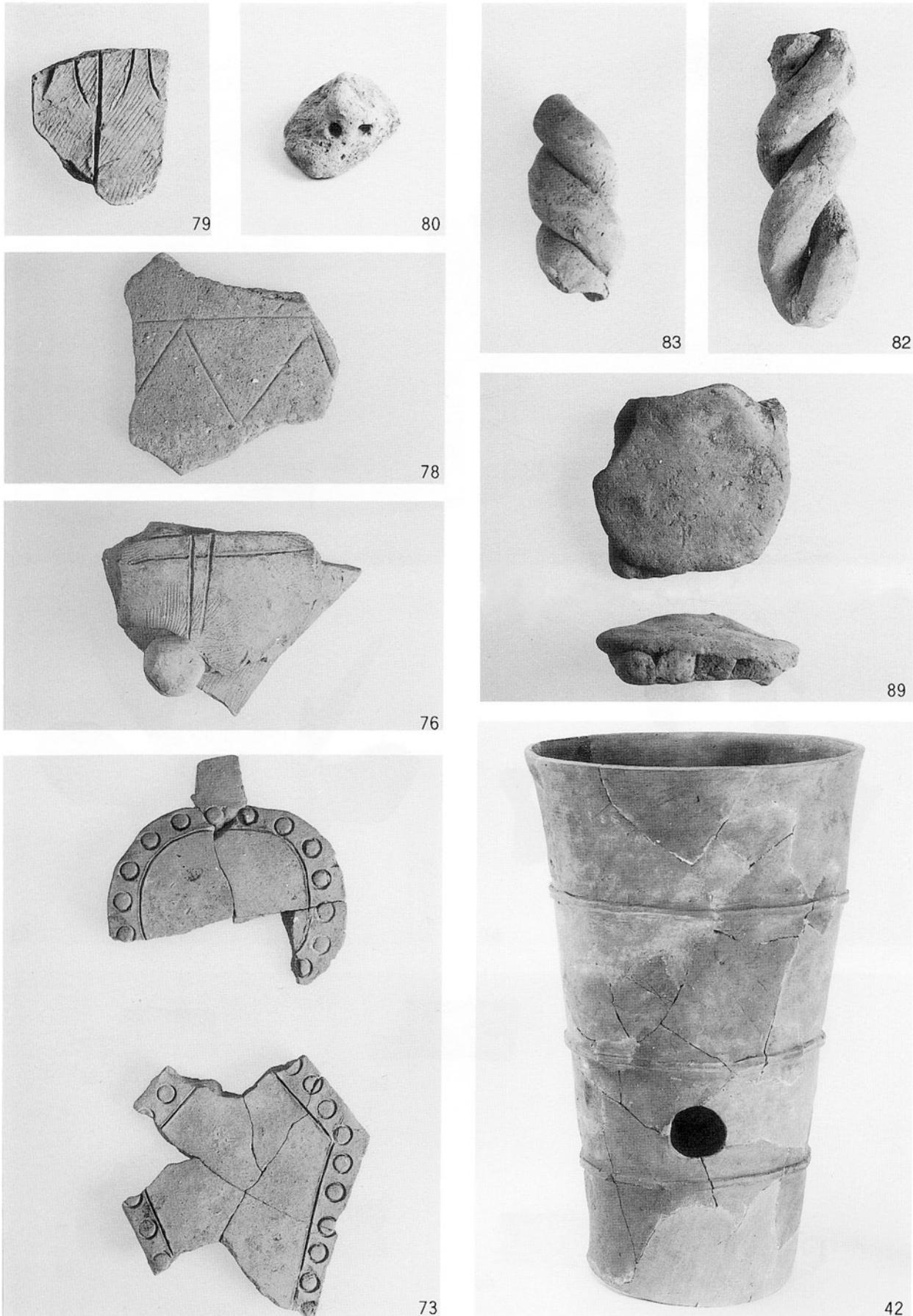


88



16

26号墳出土遺物



26号墳出土遺物



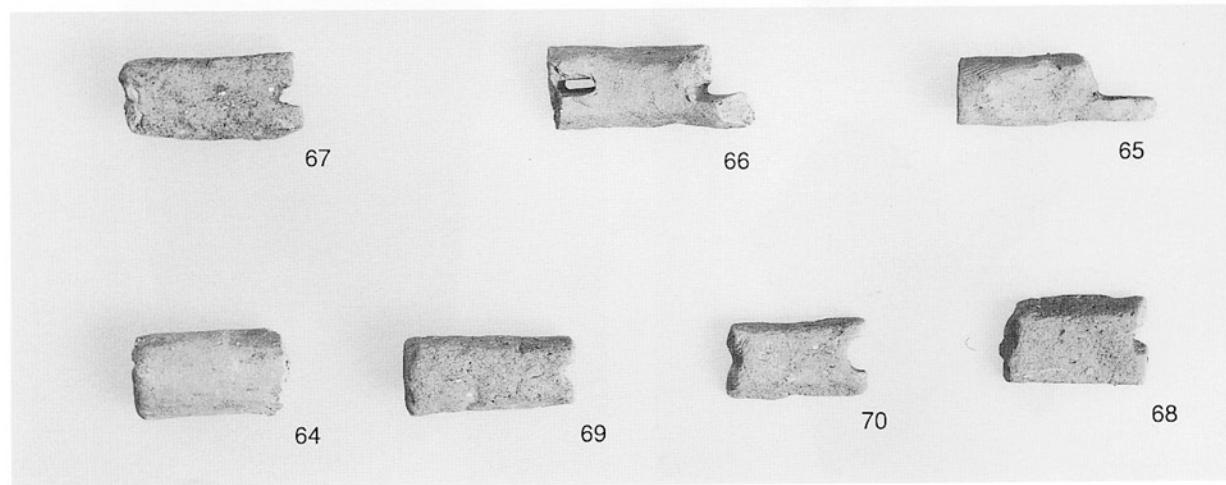
60



61



63



67

66

65

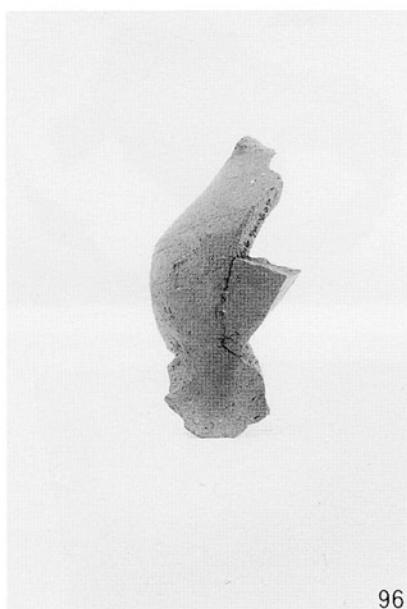
64

69

70

68

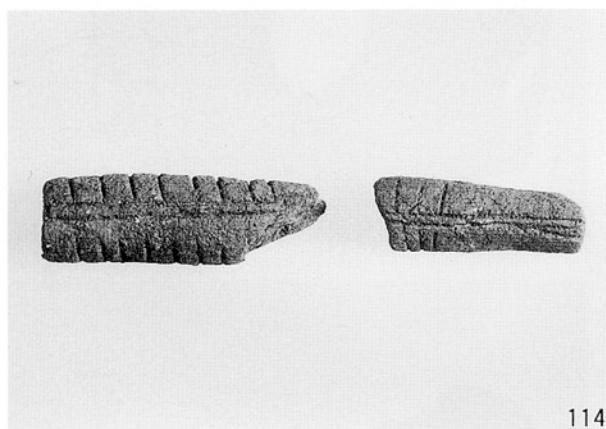
26號墳出土遺物



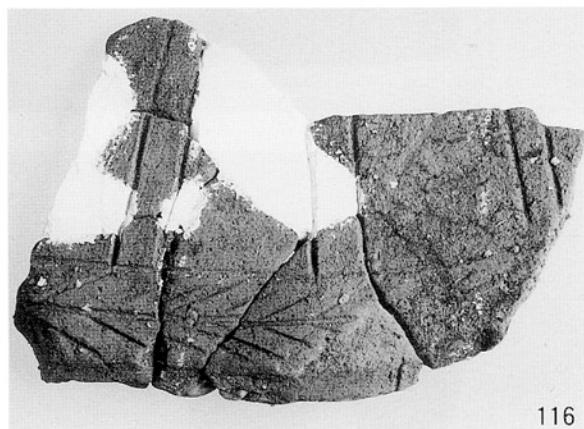
96



99



114

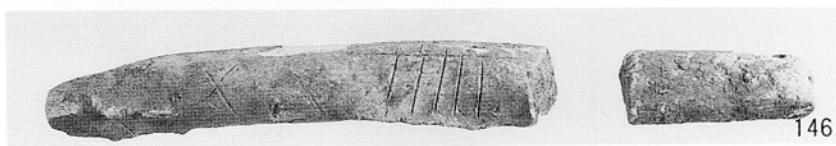
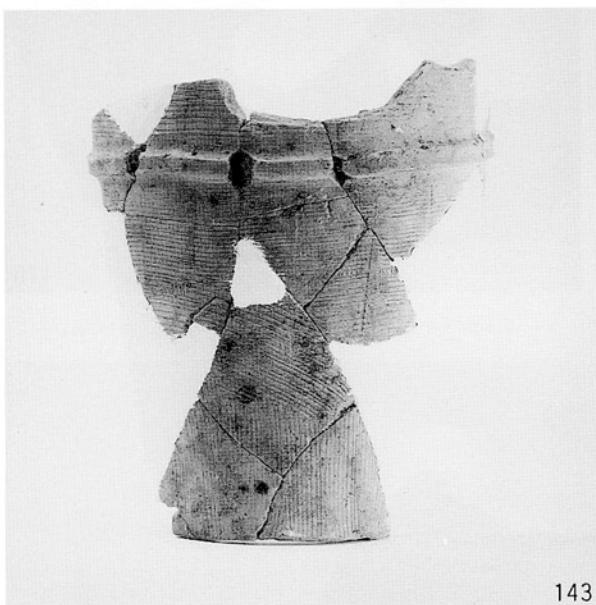
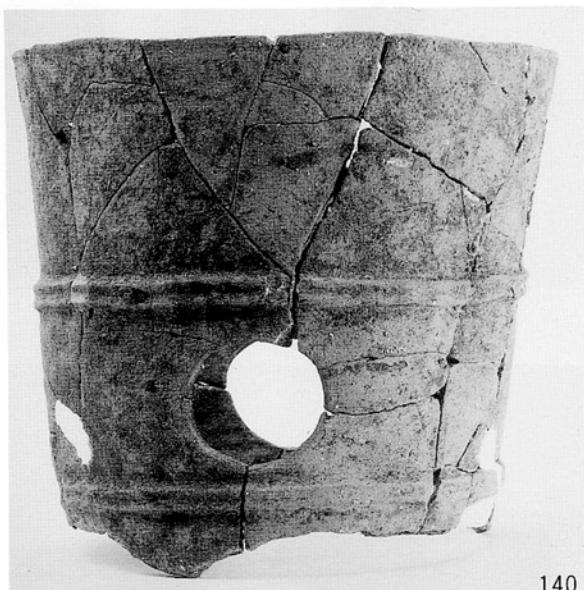
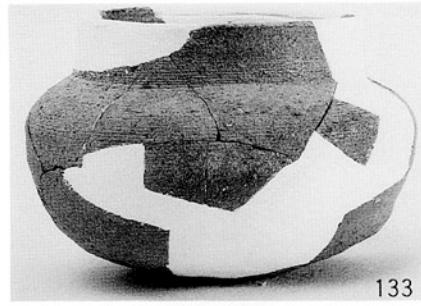
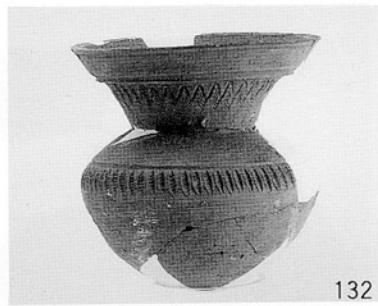
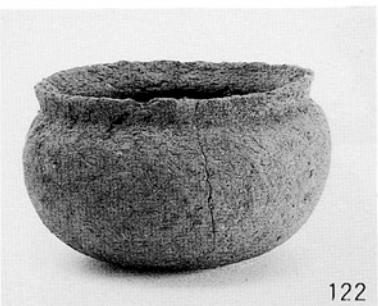


116

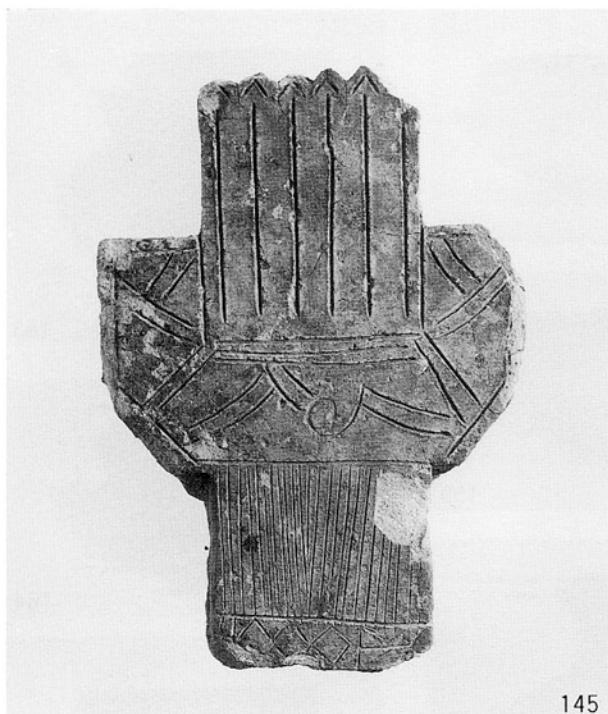


107

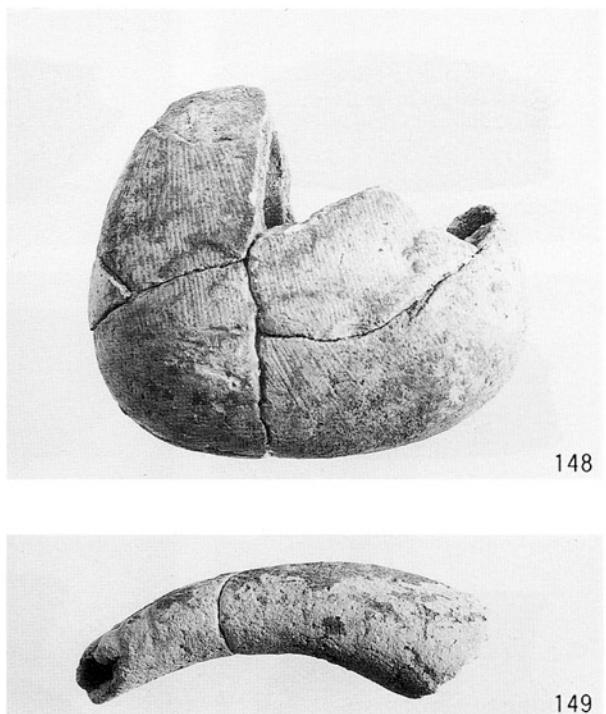
27号墳出土遺物



28号墳出土遺物



145



148

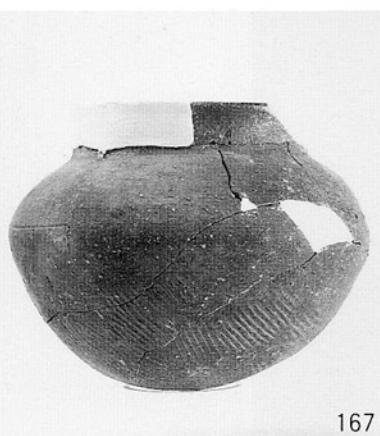
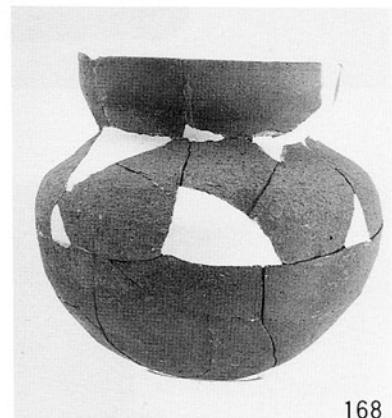
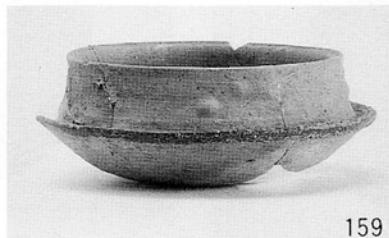
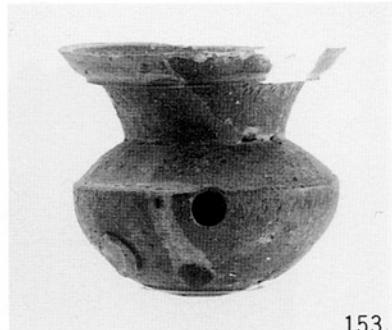
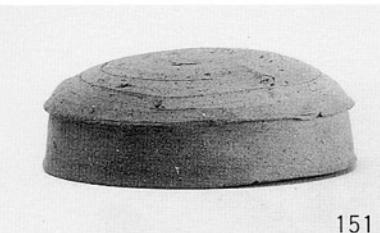


149

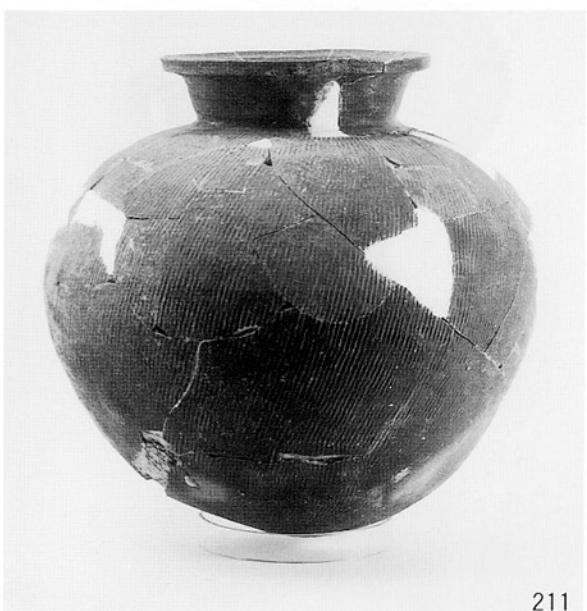
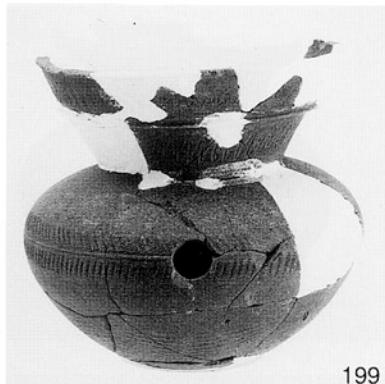
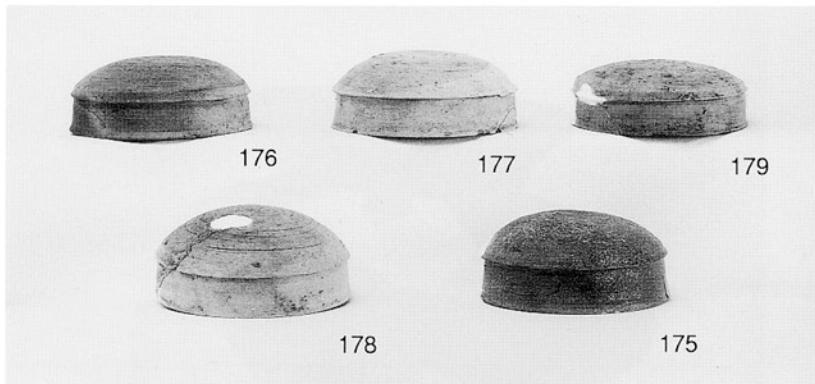


150

28号墳出土遺物



29・30号墳出土遺物

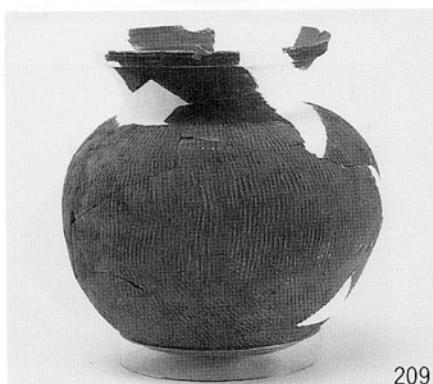


31号墳出土遺物

— 189 —



208



209



219

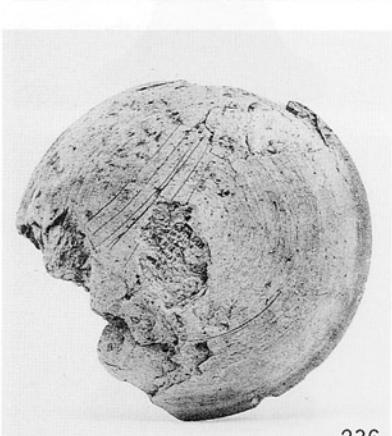
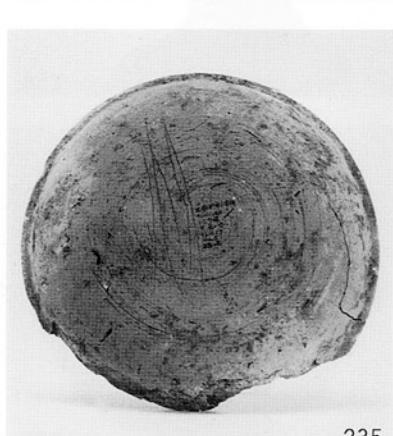
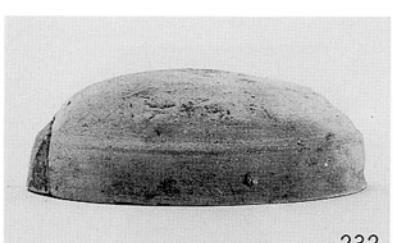
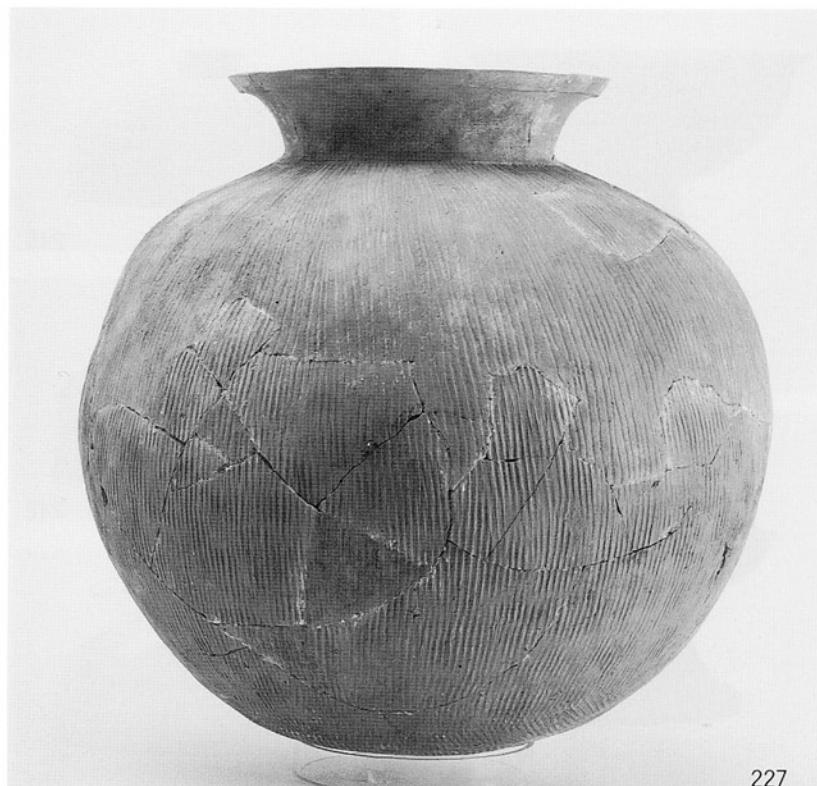
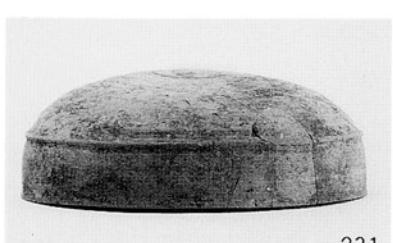
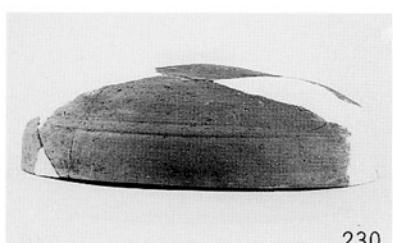


225



225

31・32・35号墳出土遺物

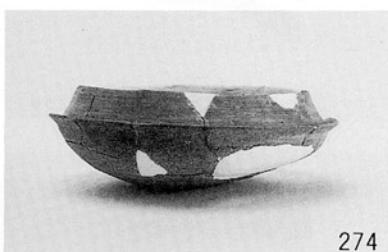
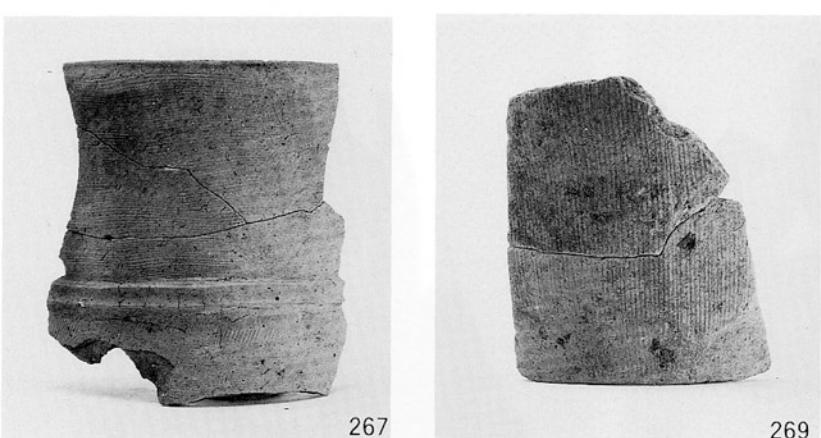


37・38号墳出土遺物

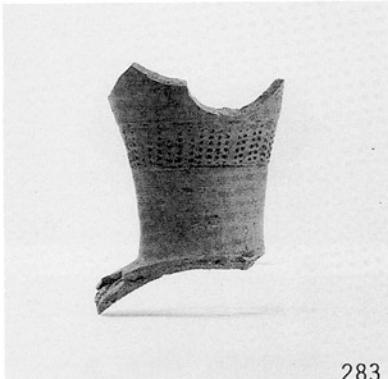
圖版26



38・40号墳出土遺物



40・41号墳出土遺物



283



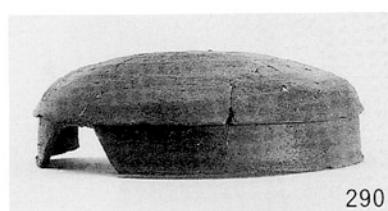
285



288



289



290



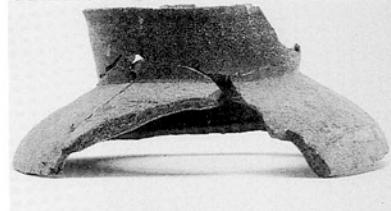
291



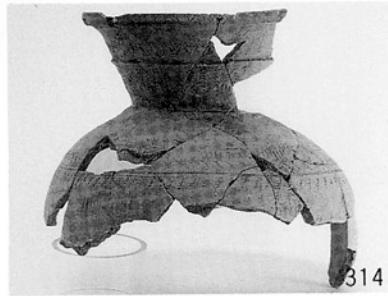
303



292



313



314



316

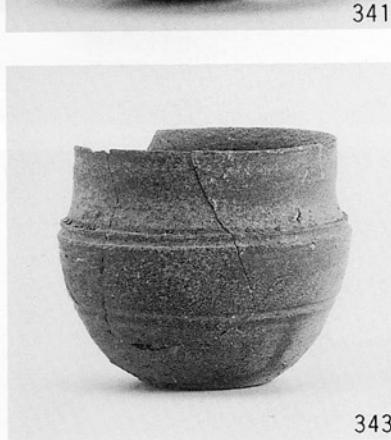
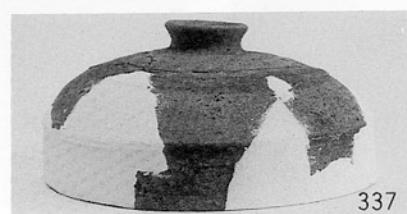
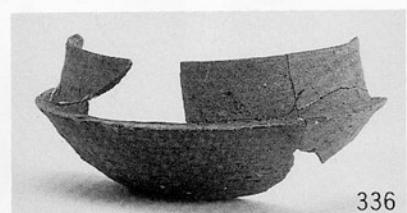


315

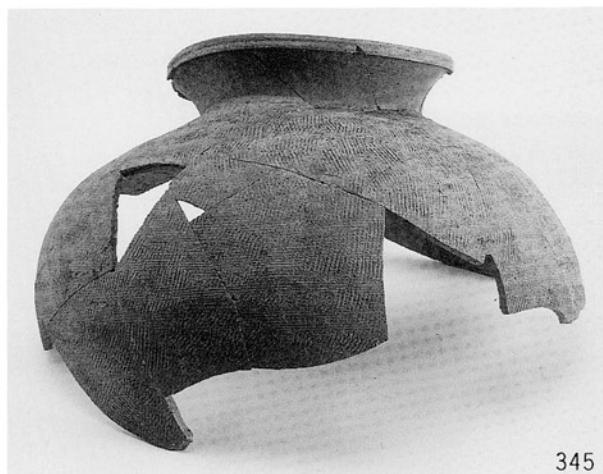


317

41・42・43号墳出土遺物



44・45・47・48号墳出土遺物



345



346



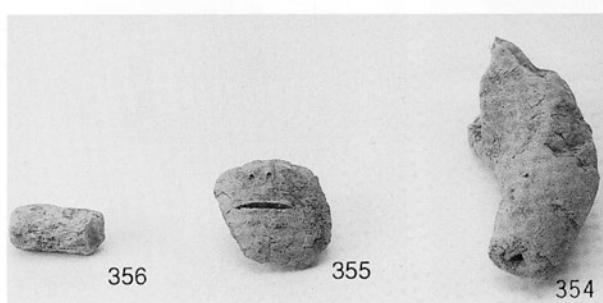
351



347



352

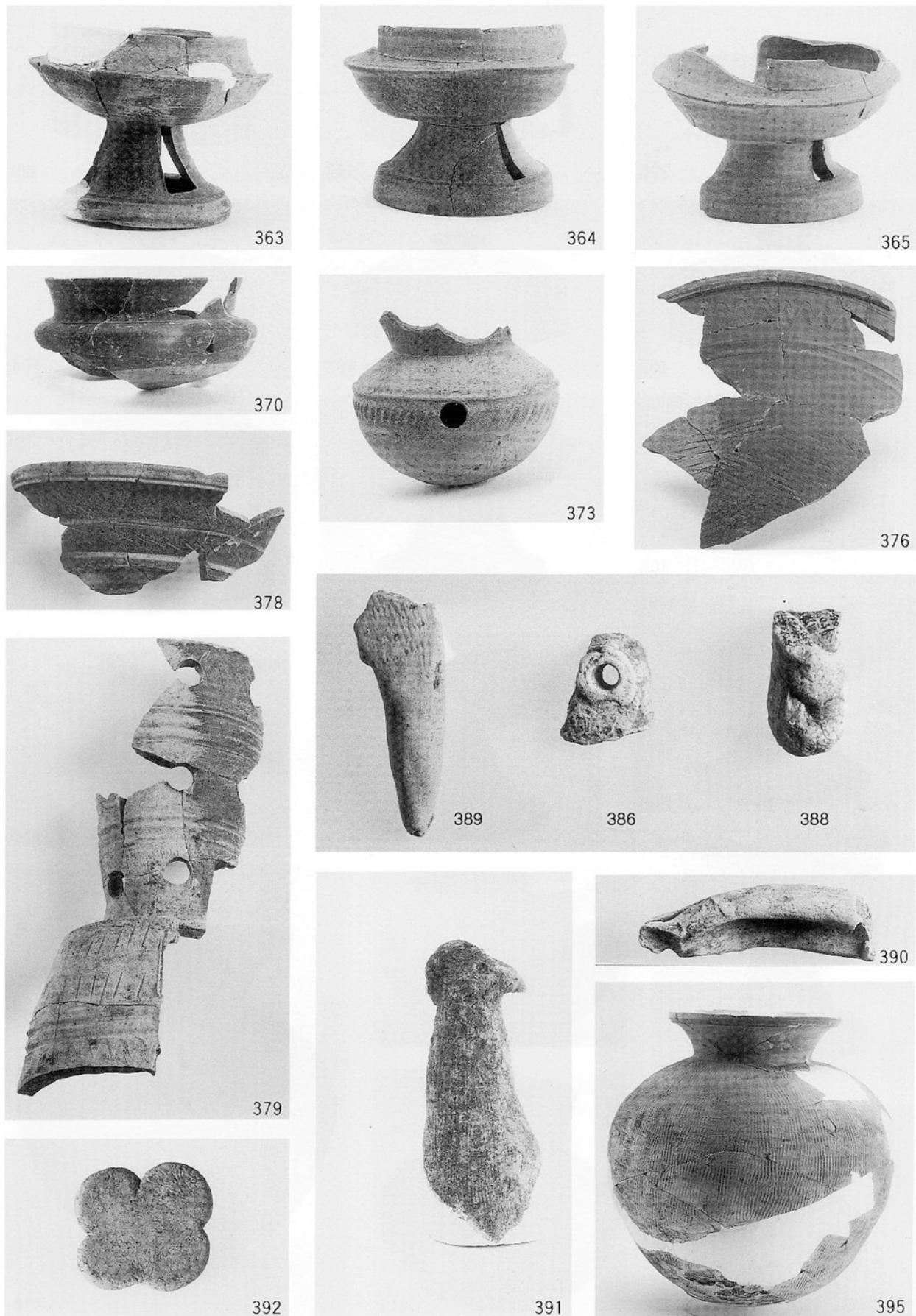


356

355

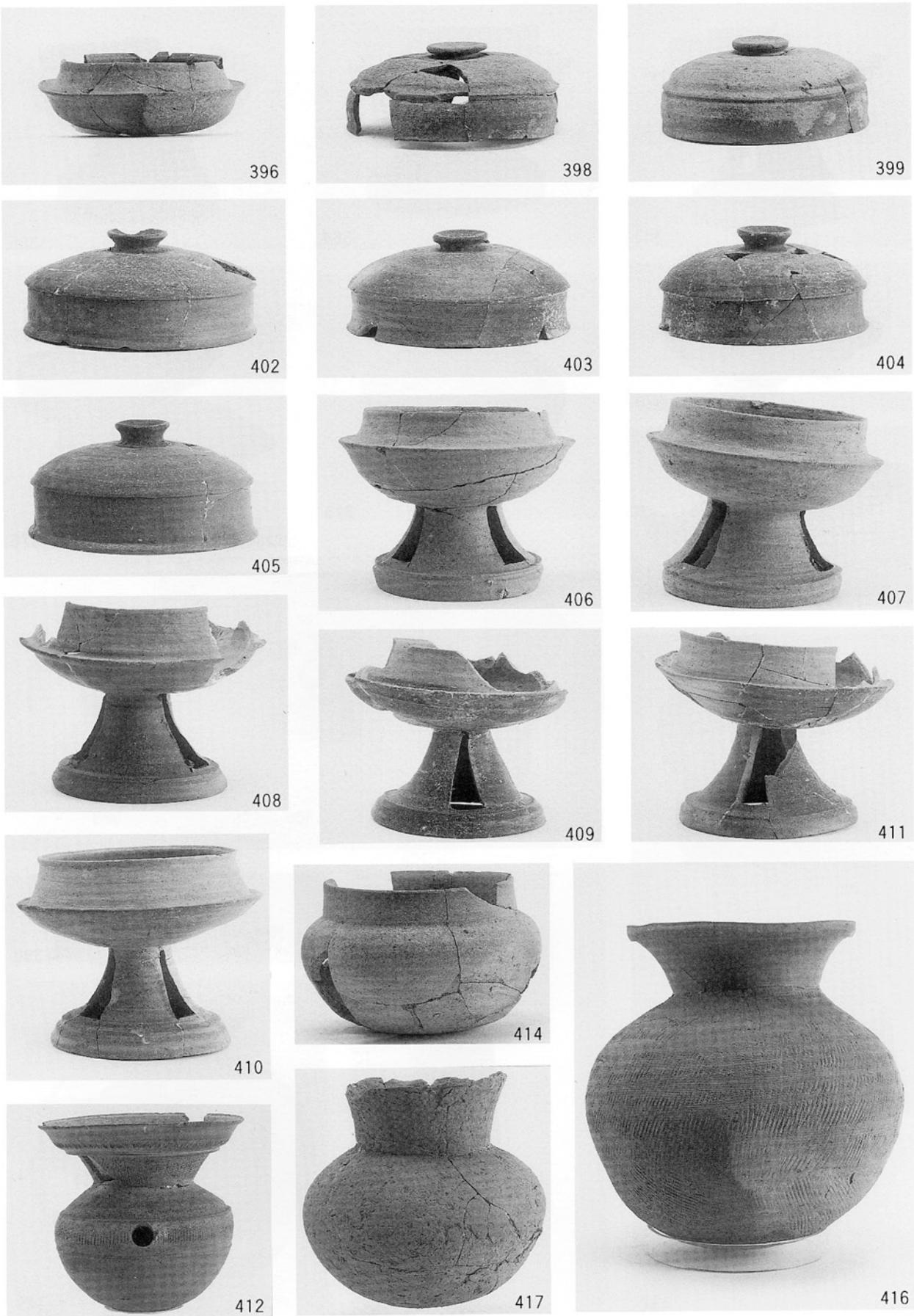
354

48号墳出土遺物



49・51号墳出土遺物

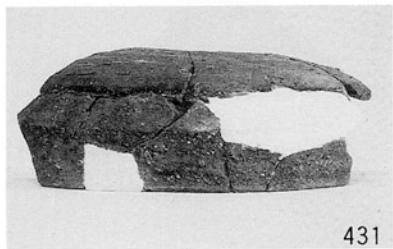
圖版三十二



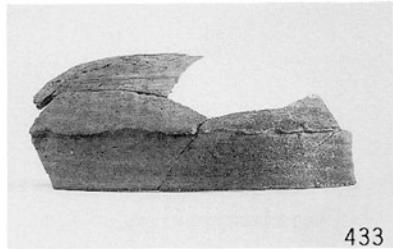
53号墳出土遺物



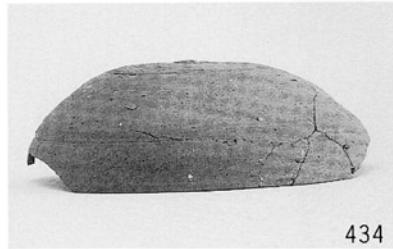
418



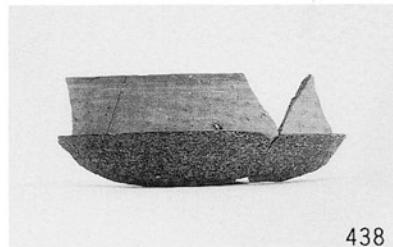
431



433



434



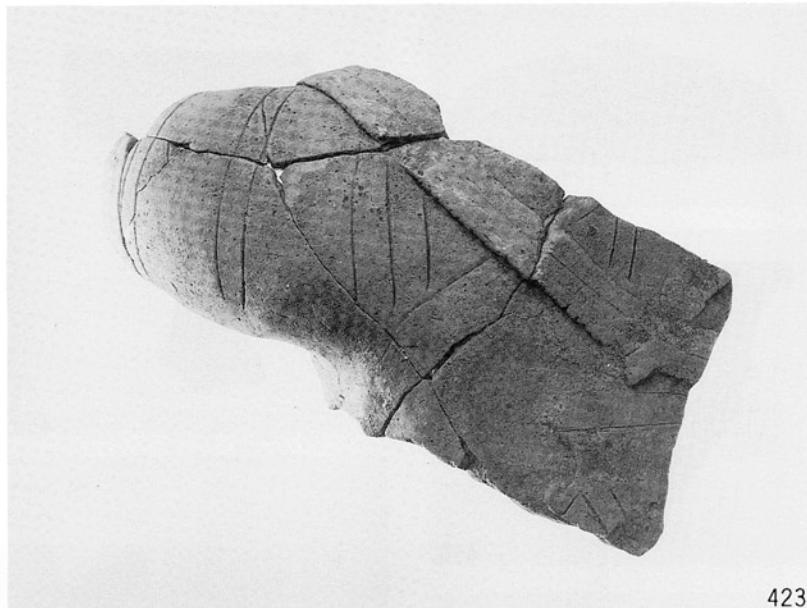
438



440



444



423



429



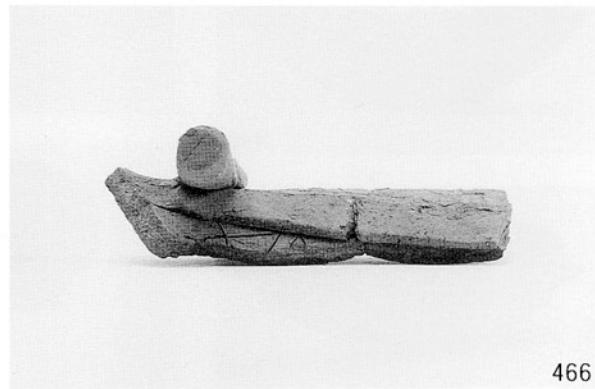
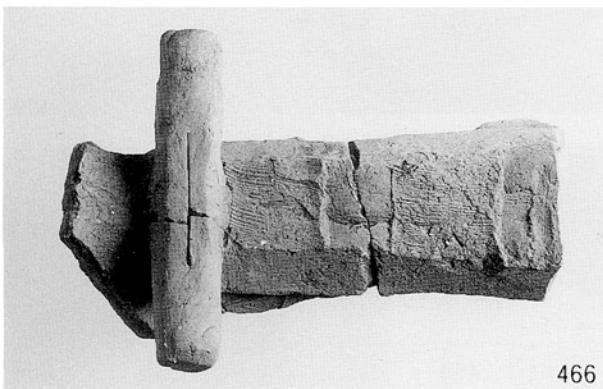
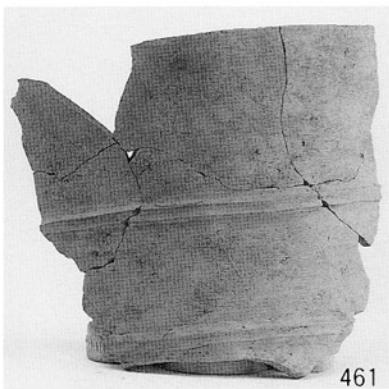
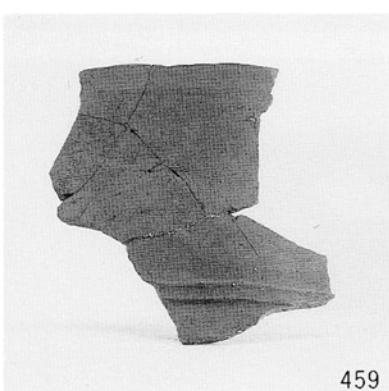
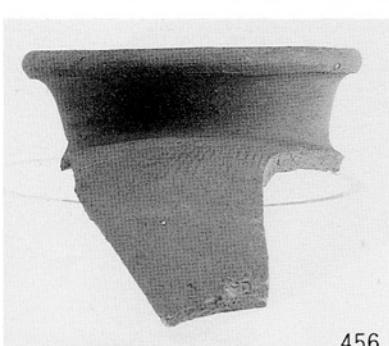
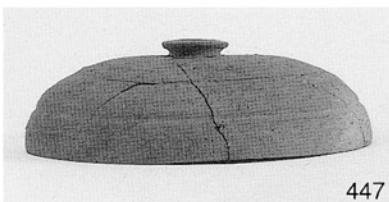
453



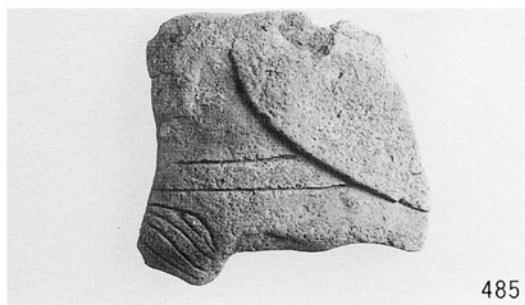
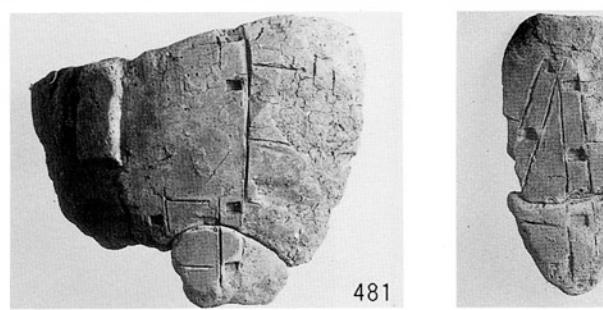
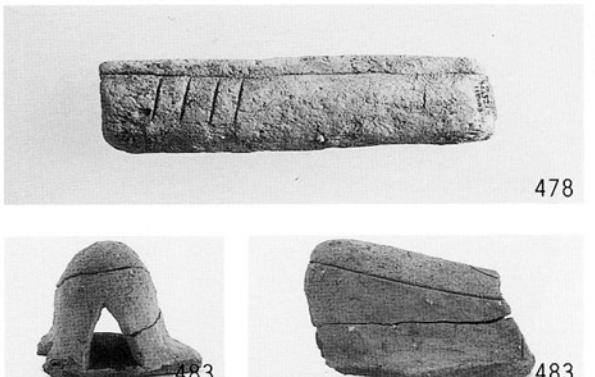
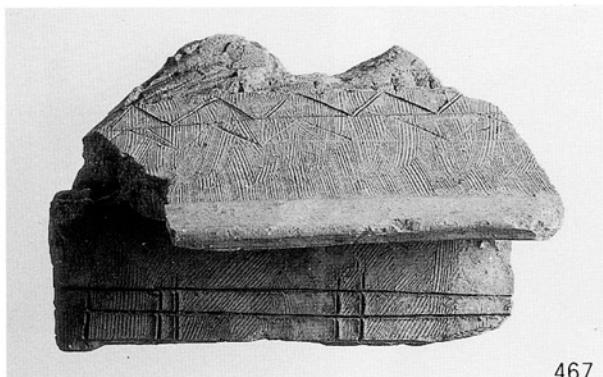
454

54・55・61・63号墳出土遺物

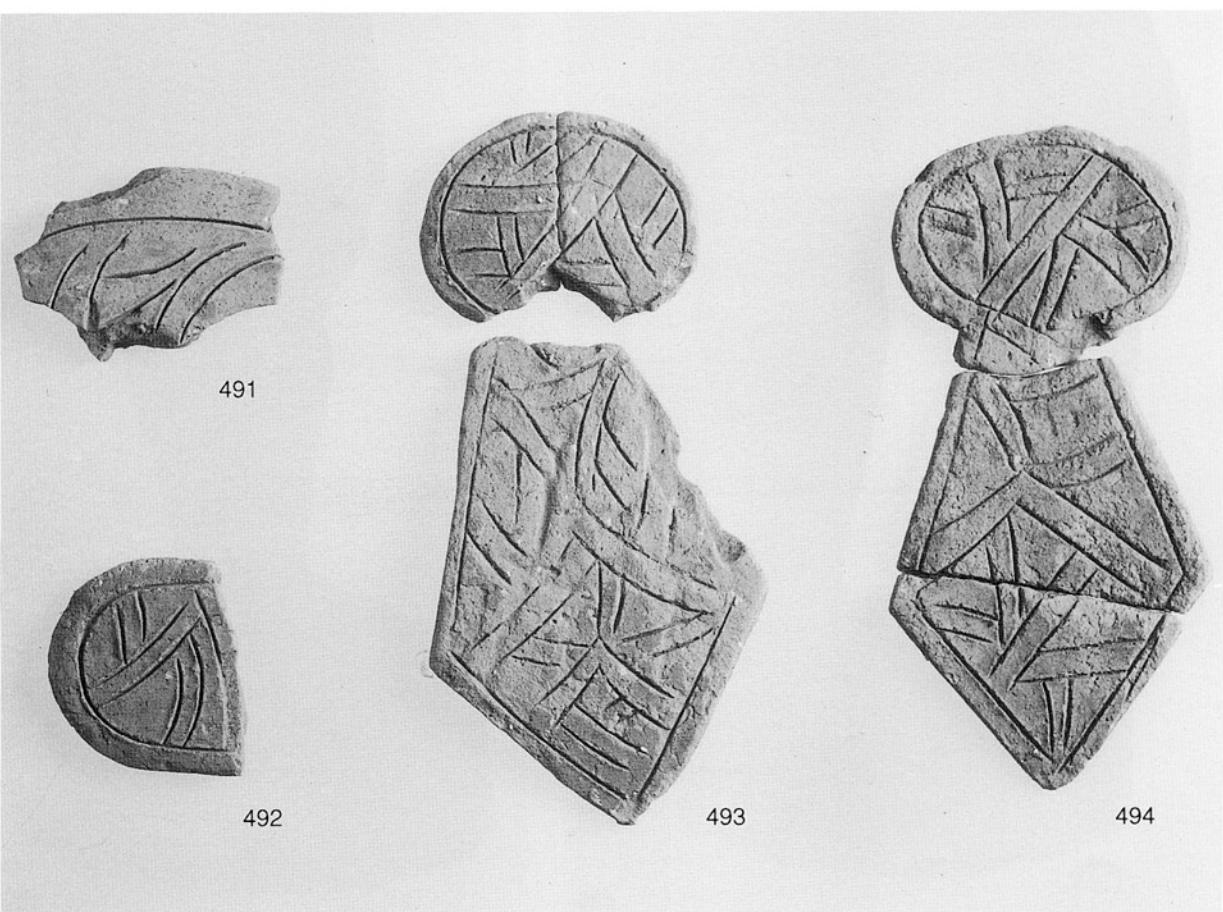
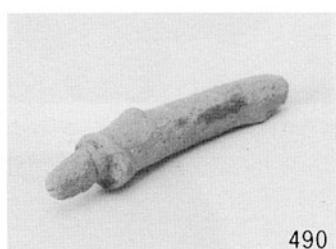
參照上出發



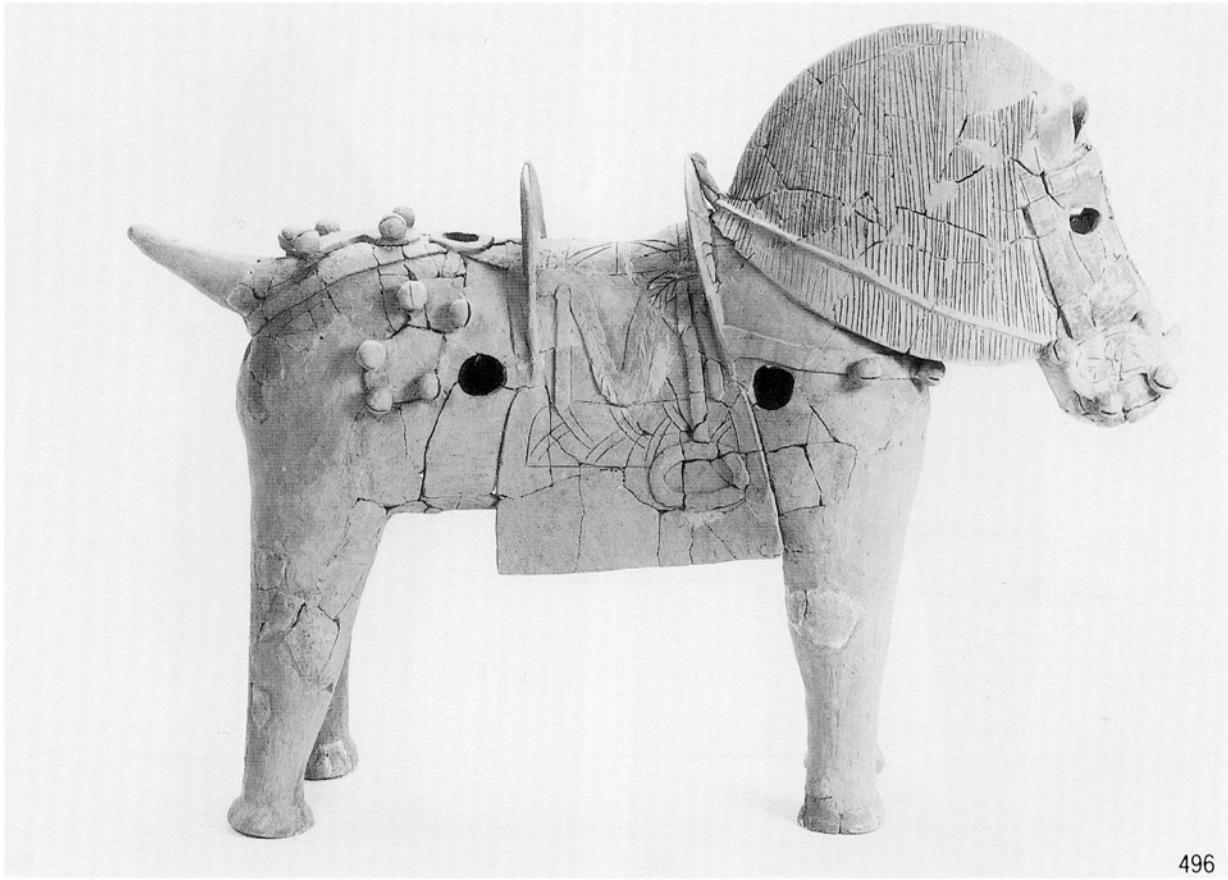
63号墳出土遺物



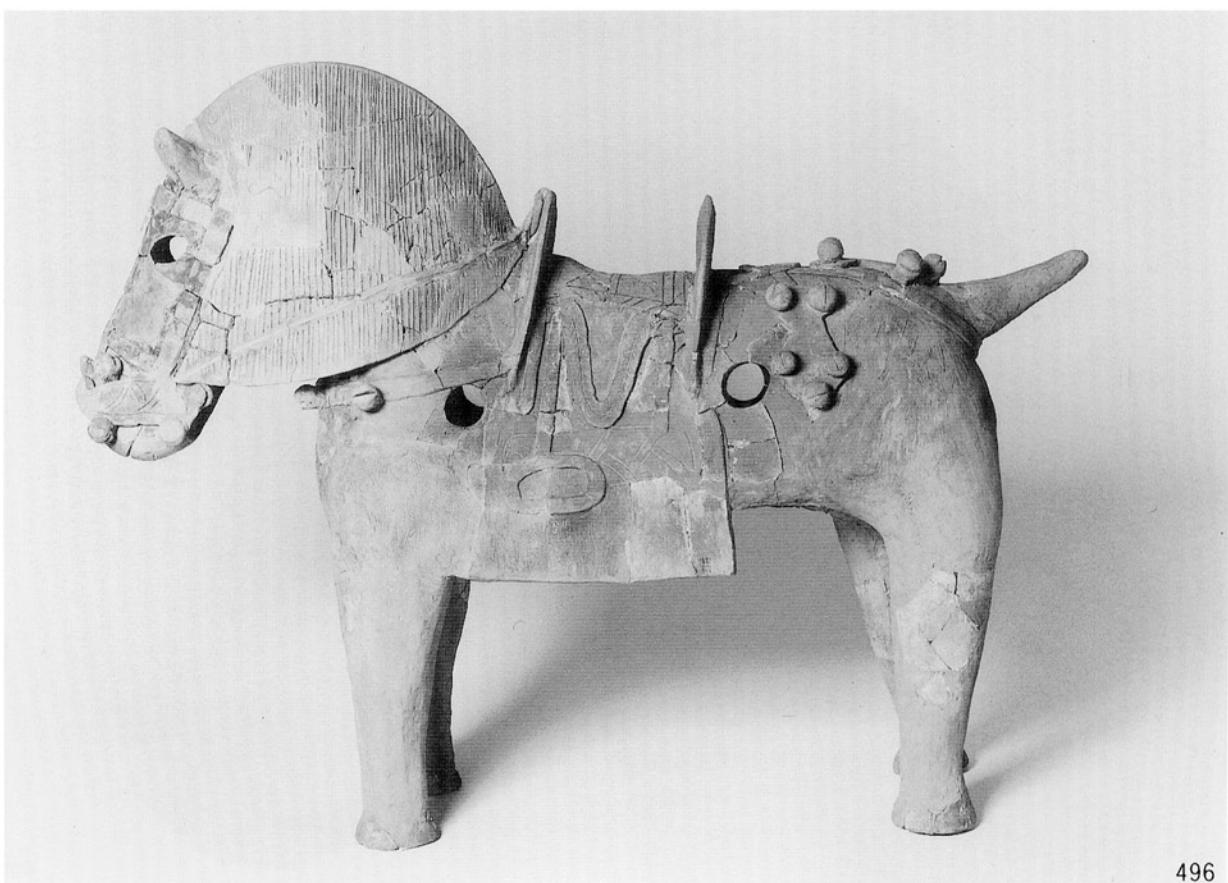
63号墳出土遺物



63号墳出土遺物



496



496

63号墳出土遺物



496

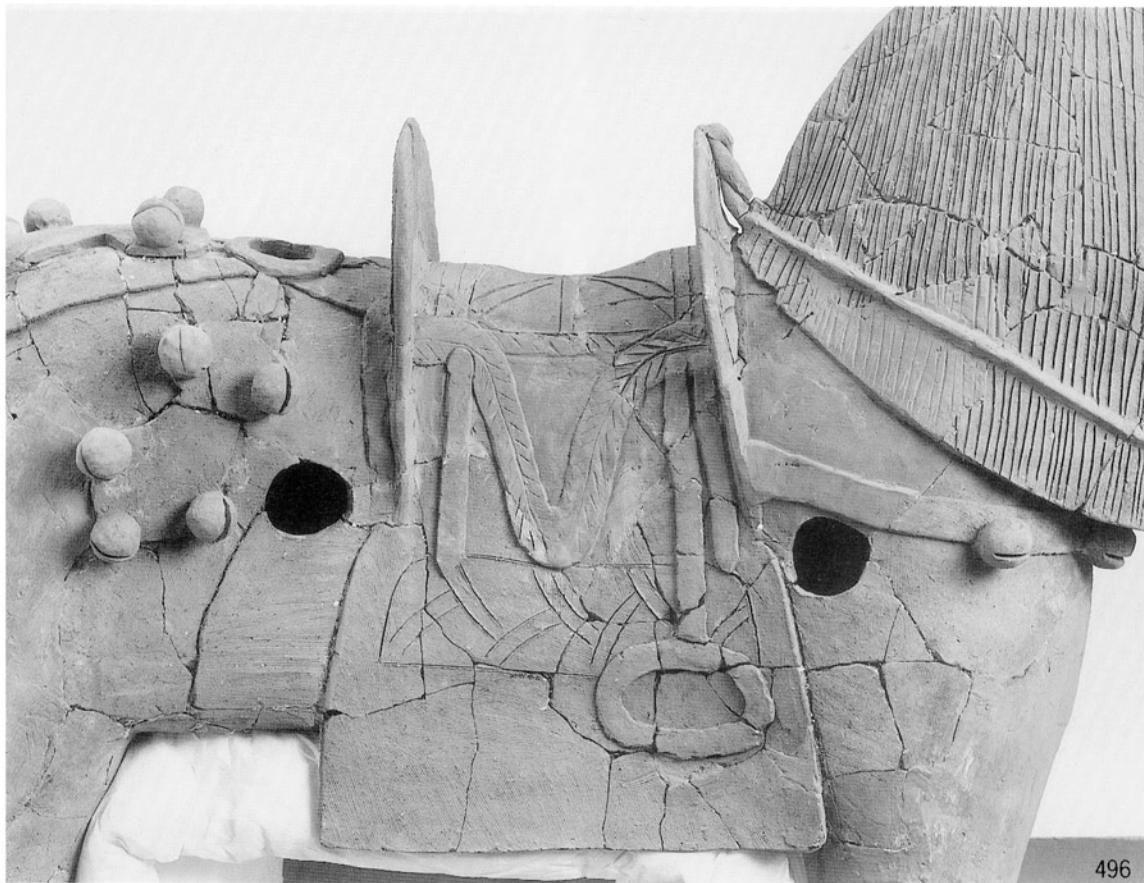


496

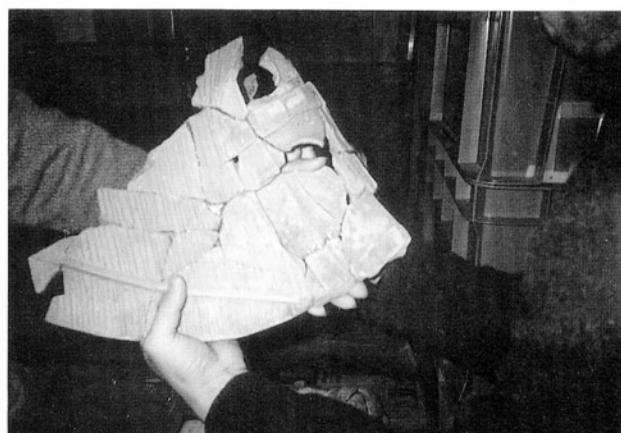


496

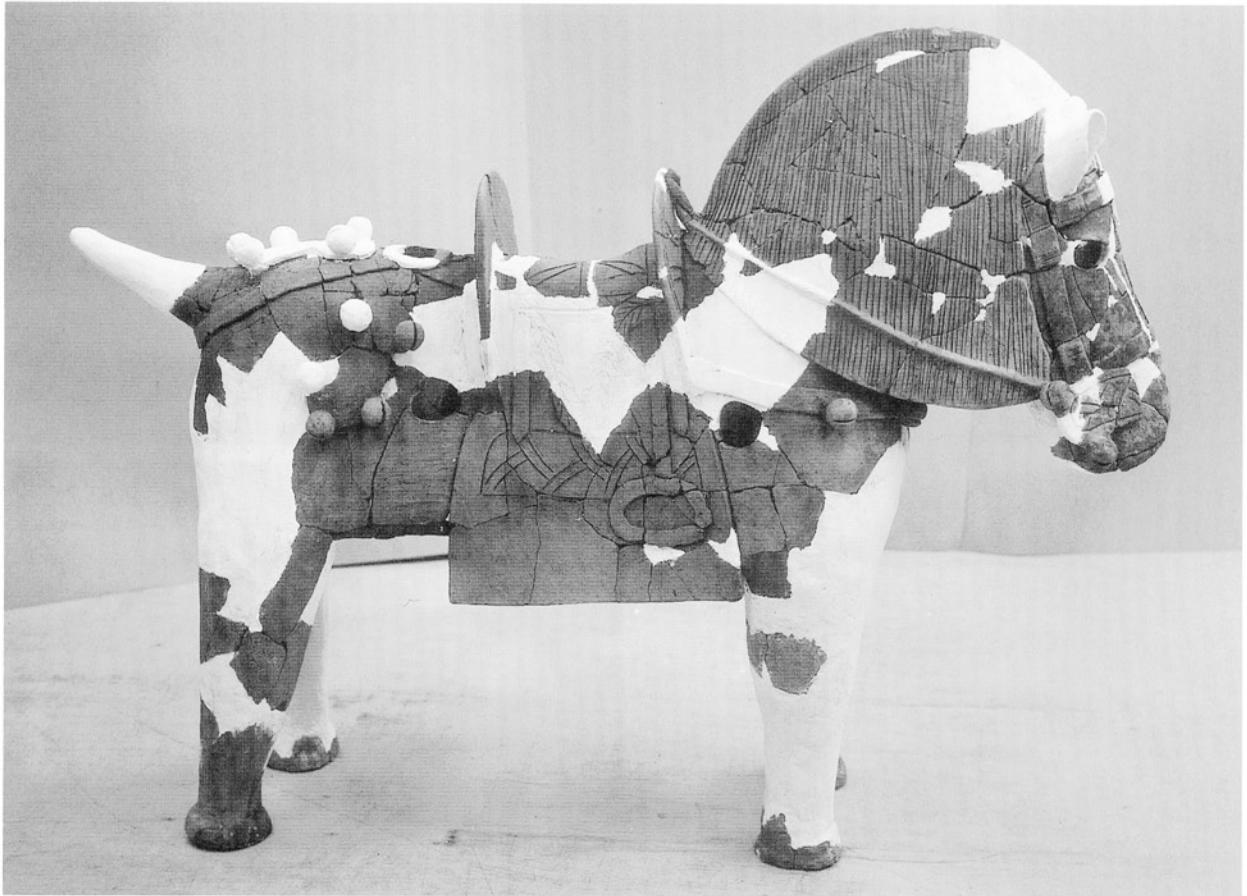
63号墳出土遺物



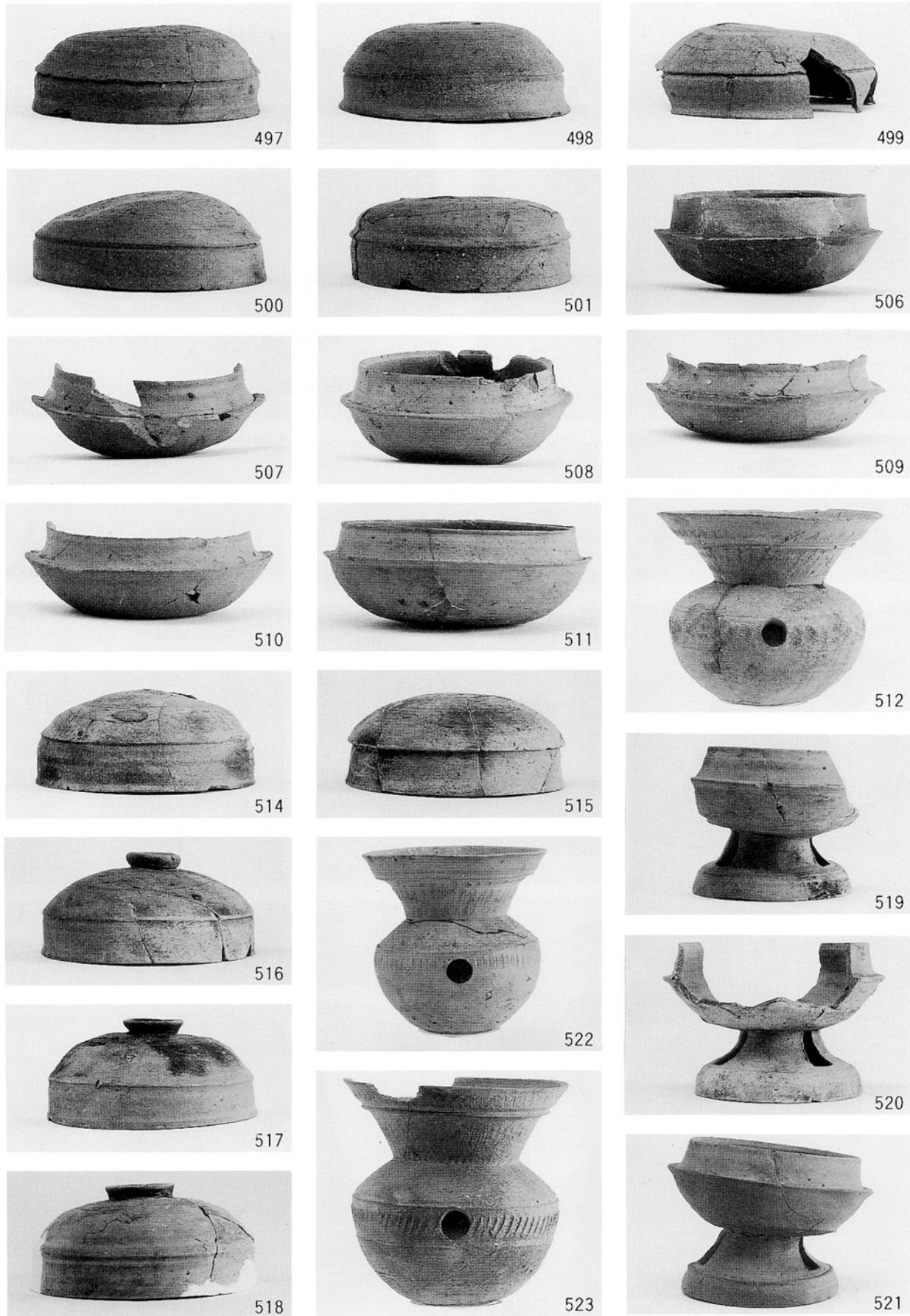
496



63号墳出土遺物



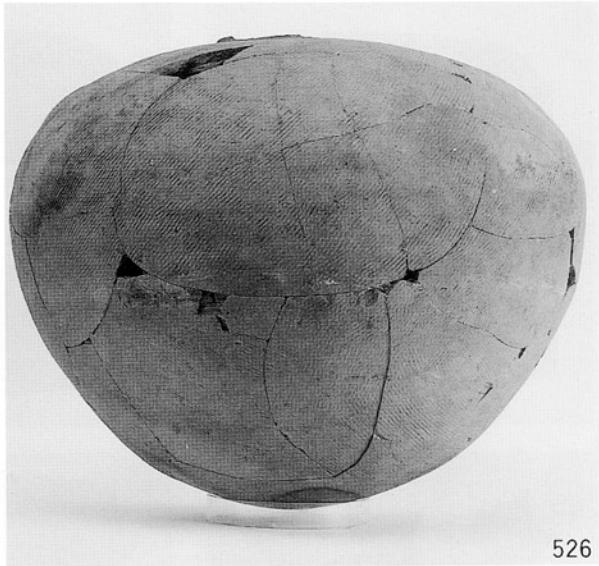
63号墳出土遺物



65・67号墳出土遺物



524



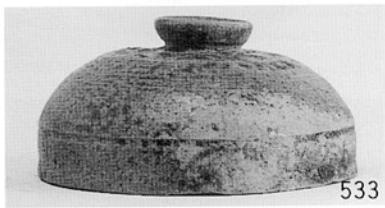
526



528



532



533



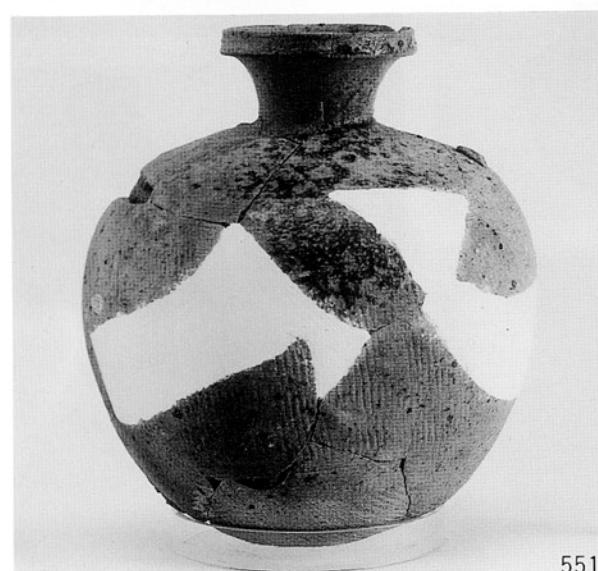
535



536



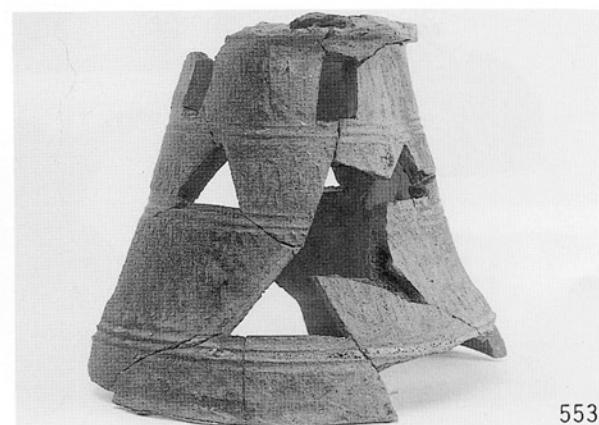
541



551



550



553



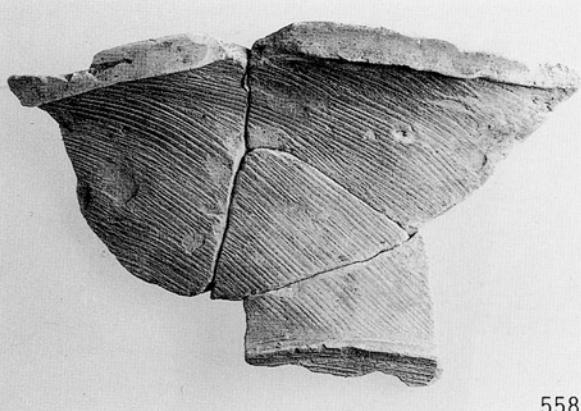
554



555



556



558



561



562



565

71号墳出土遺物



566



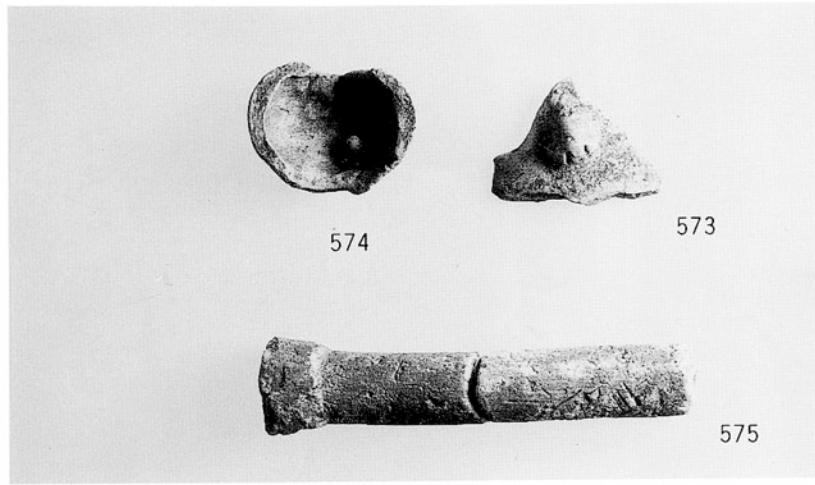
567



569



572

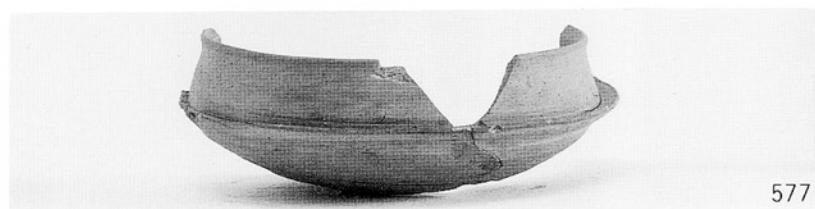


574

573



578

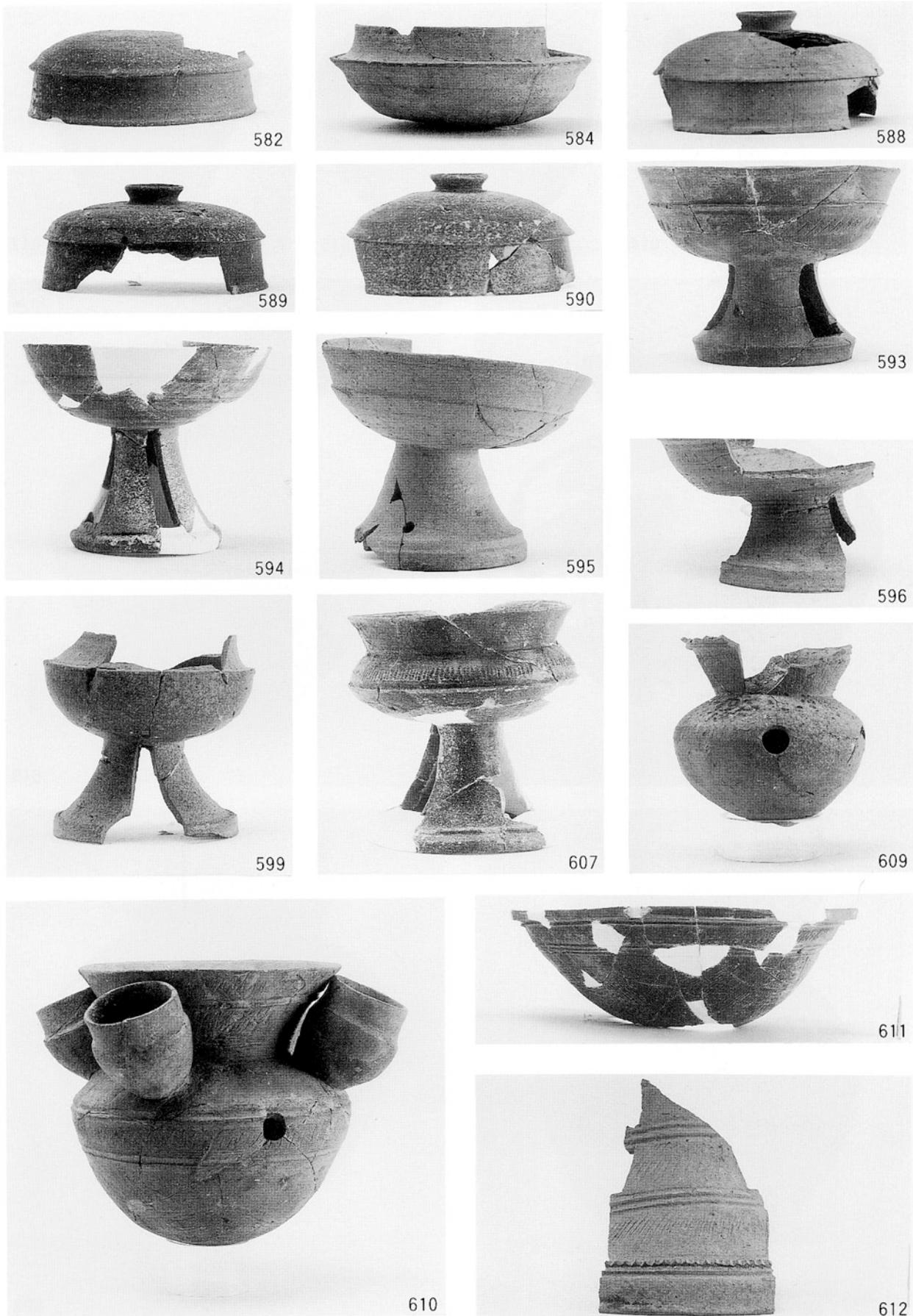


577



579

71・72・73号墳出土遺物



74号墳出土遺物



614



615



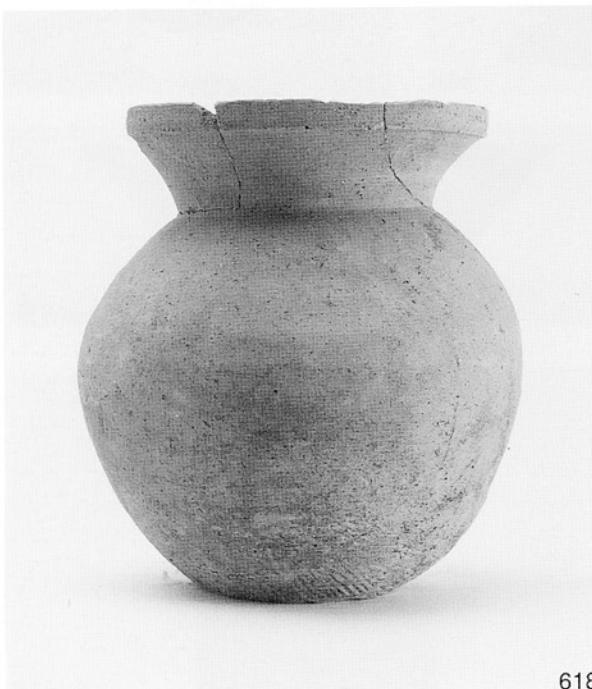
617



621



619

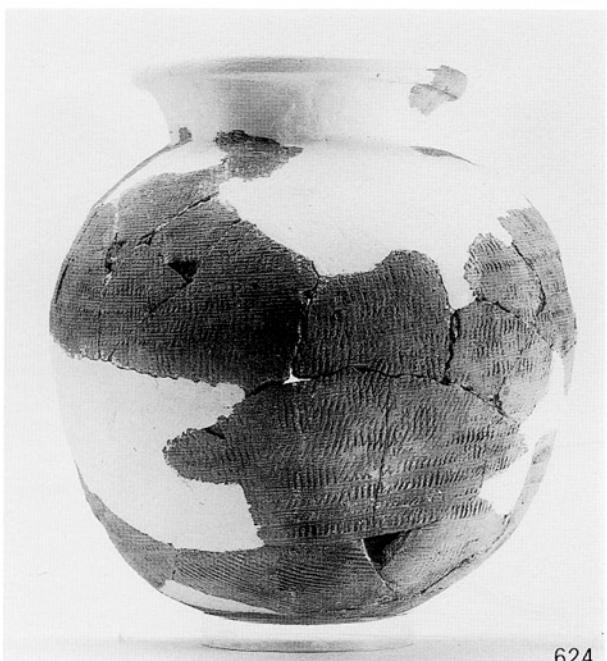


618



622

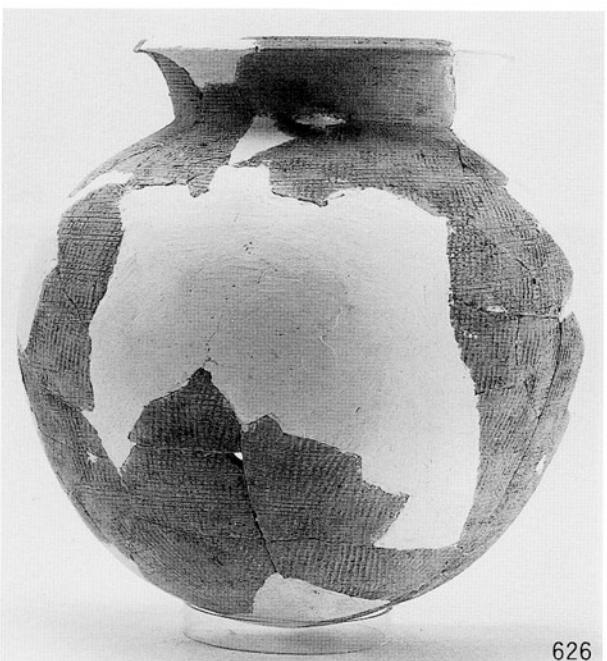
74号墳出土遺物



624



625



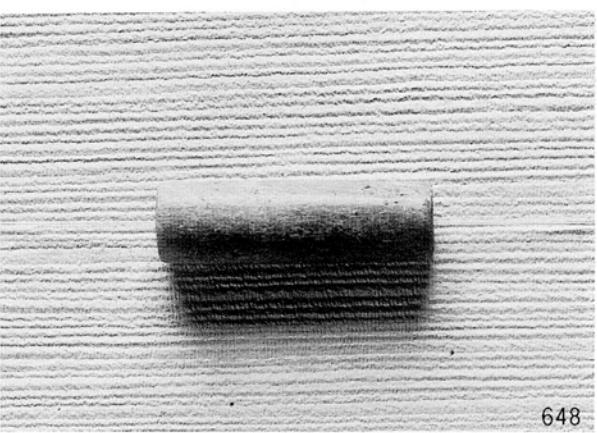
626



627

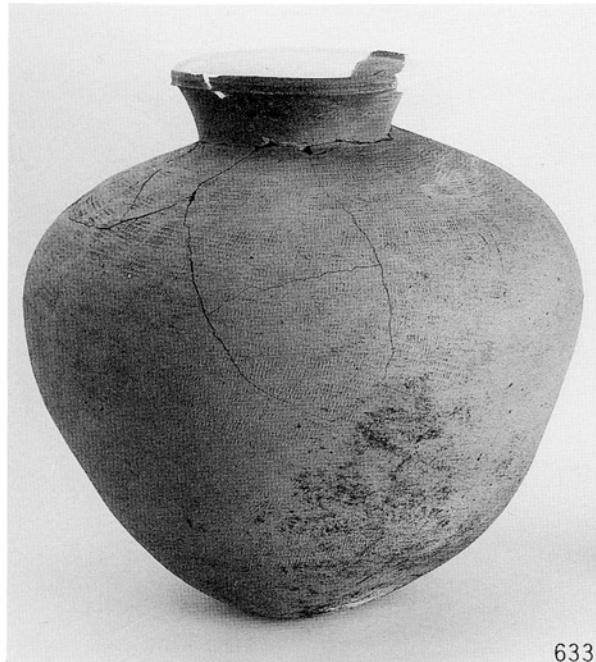


629

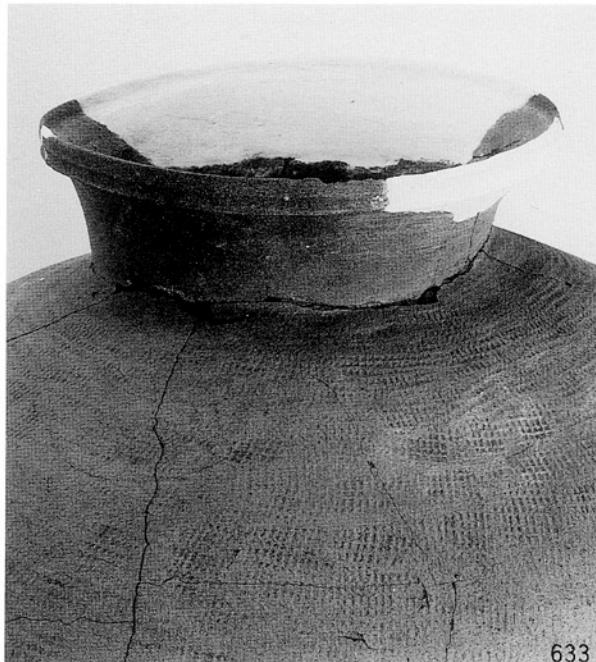


648

74号墳・S D 10出土遺物



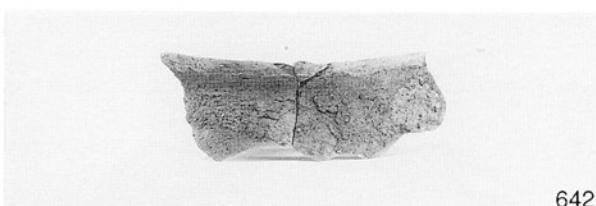
633



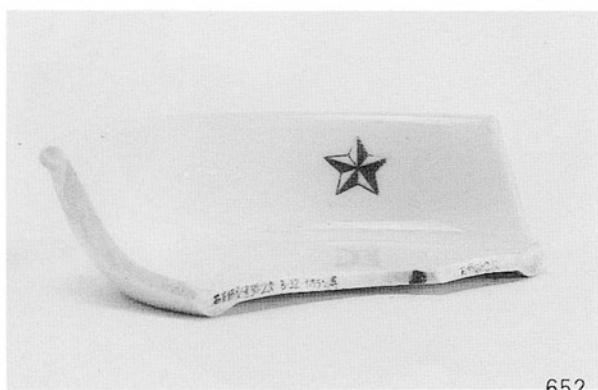
633



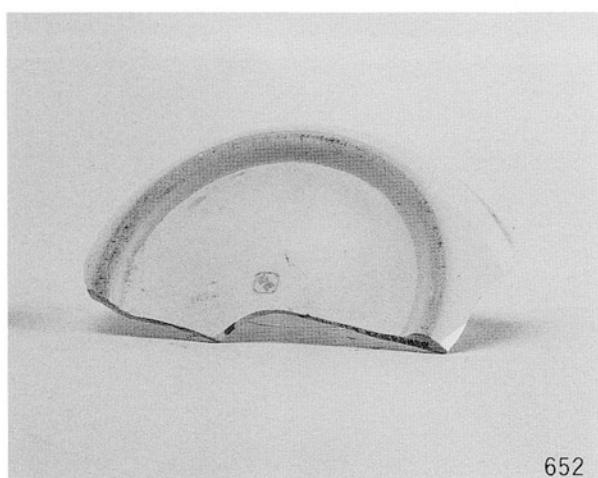
641



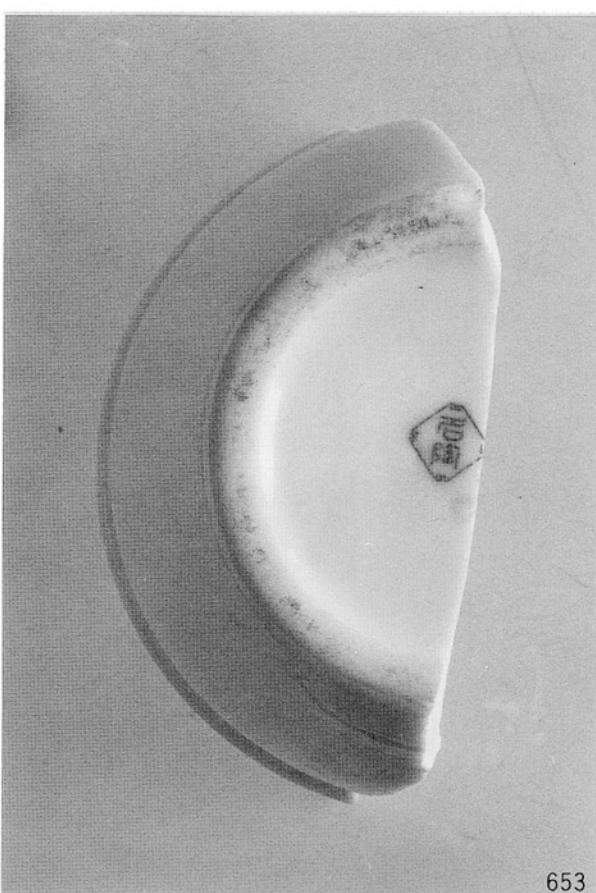
642



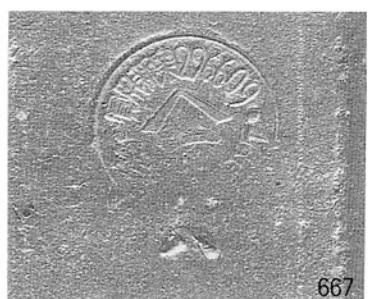
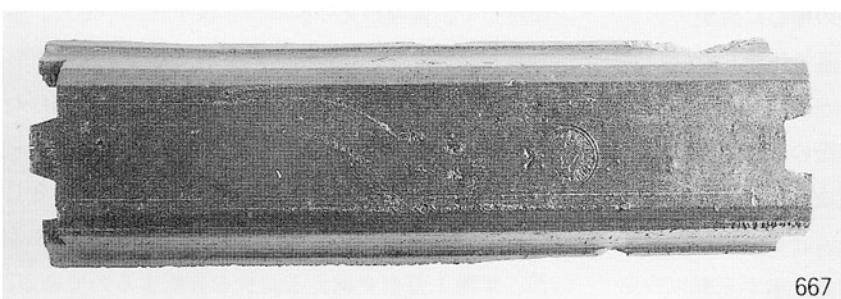
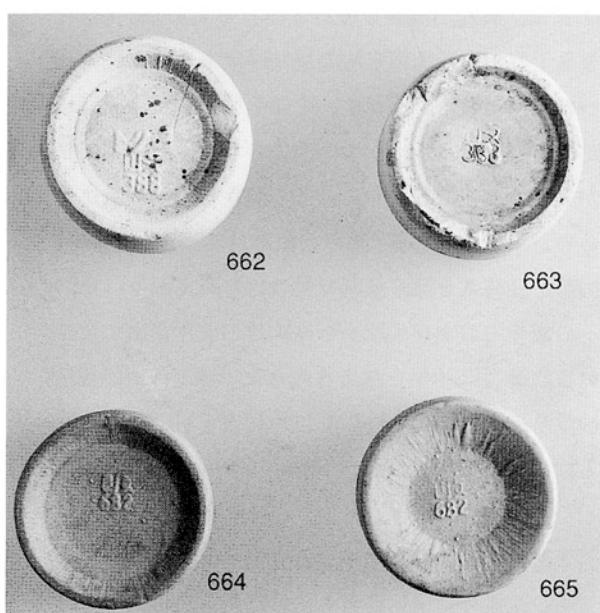
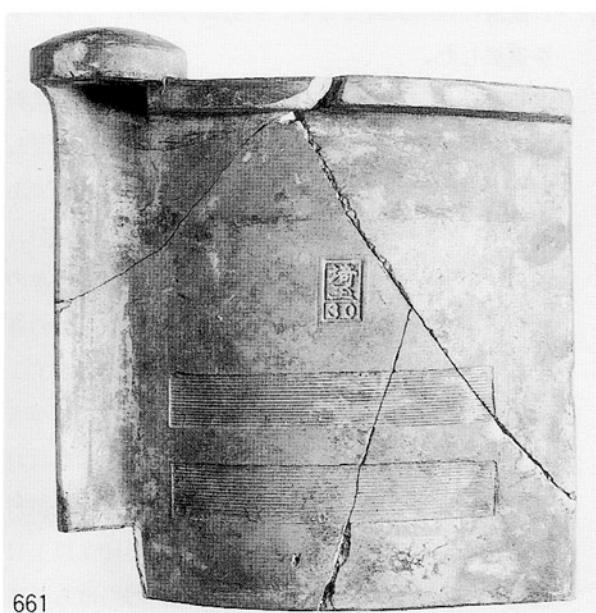
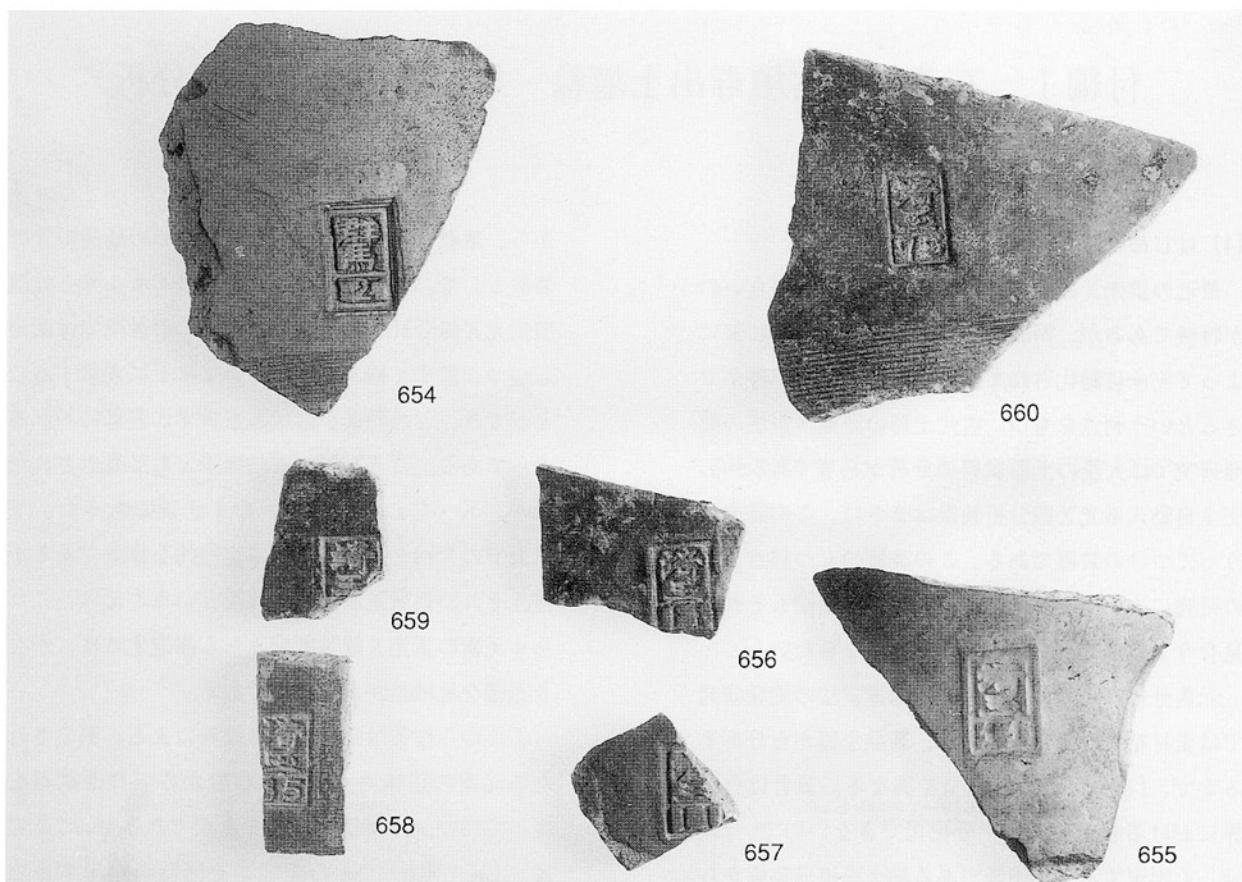
652



652



653



近代遺構出土遺物

付編 I 石薬師東古墳群出土埴輪・須恵器の蛍光X線分析

奈良教育大学 三辻 利一

(1) はじめに

最近の蛍光X線分析装置は極めて安定性が良いのが特徴であるが、同時に、コンピューターの制御によって完全自動化されており、大量の試料処理ができるという利点をもつ。古代土器の産地推定法の開発研究では大量の土器試料の分析が必要であるから、完全自動式蛍光X線分析装置はまさに、この研究にうってつけの装置である。この装置のもつ利点をこの研究に生かすためには、データー処理法もそれに見合うように改良しておかなければならぬ。

元素分析による古代土器の産地推定法の開発研究では素材粘土から分析するか、製品土器から分析するかで、「産地」の定義は全く異なる。筆者は自然界における粘土分布が十分把握できないので、「産地」を固定する上に困難である粘土を出発物質からはずし、製品土器から分析することにした。ただ、製品土器から産地推定法の開発研究を進めるには一つの条件がある。それは、土器を製作した場所（窯跡）が残っており、かつ、そこから大量の土器試料が入手できることである。この条件をすべて満足するのが須恵器である。須恵器窯跡は北海道、神奈川、山梨、長崎県を除く全県で見つけられており、かつその窯体内および灰原からは大量の破片が出土している。筆者は20年を越える歳月をかけて、全国各地の窯跡出土須恵器を分析し、地域差を有効に表示する因子として、K・Ca・Rb・Srの4元素を見出した。

元素分析による産地推定法の開発研究では、必ずしも、主成分元素に着目するとは限らない。岩石学分野におけるように、鉱物組成を考察の中心に置かないからである。1,000°C以上もの高温で焼成した須恵器では顕微鏡観察による鉱物固定が難しく、クリストバライトやムライトなどの高温型の鉱物に変換している場合もある。むしろ高温焼成によって胎土内から蒸発して逸散する元素はほとんどないところから、微量元素も含めて地域差を有効に示す元素を探し出すことの方が必要である。こうした考え方

から、筆者は有効因子を探査するための最適の分析装置として、2次ターゲット方式のエネルギー分散型蛍光X線分析装置を使用した。この装置では測定しつつ、蛍光X線スペクトルをTV上に表示することができ、どの元素が地域差を表すか容易にわかるからである。こうして、有効因子として見出されたのが、K・Ca・Rb・Srの4元素であった。TV上でのスペクトルの比較は定性的な作業であるから、それで地域差が認められたということは、これら4元素の蛍光X線強度をきちん測定すれば、かなり明確な地域差があるはずである。

ここから作業は定量分析の段階に入る。測定された各元素の正味の蛍光X線強度から、標準試料を使って%やppm濃度に変換する訳であるが、ここでK・Ca・Rb・Srの4元素を同時に定量する上に最適の標準試料として、岩石標準試料、JG-1を選択した。

筆者が使用している自動試料交換器は48個の試料が1セットとして搭載できる。48試料を毎日測定している訳である。その中の1個は必ずJG-1である。JG-1の各元素の蛍光X線強度を毎日測定し、そのデーターを比較することによって、装置自身の安定性を調べることができる。1年間を通しての各元素の蛍光X線強度のばらつきは変動係数にして1%程度であるが、軽元素Na・K・CaのばらつきはFe・Rb・Srに比べてやや大きい。これに対して、通常、1基の窯跡から50~100点程度の試料を採集して分析すると、変動係数にして10%以上はばらつく。したがって、窯跡出土須恵器のばらつきに対して、装置自身のばらつきは十分に小さく、きわめて安定性の良い装置であることがわかる。

このような基礎データーを踏まえて、長期間にわたって大量の分析データーを処理するための便法を考案した。通常の蛍光X線分析では標準試料を介して蛍光X線強度から%やppm濃度を求めるのであるが、年間1万点を越える試料を分析するのである。いちいち、%やppm濃度に変換しなくとも、普遍的

な蛍光X線強度を出しておけば、どの装置を使っても、どんな条件下で測定しても、共通の地域差が得られるはずである。その方法として、J G - 1による標準化法が考案された。J G - 1による標準化値とは試料の各元素の蛍光X線強度を、同時に測定したJ G - 1の対応する元素の蛍光X線強度で割った値である。装置が打ち出してくる蛍光X線強度はK cps（キロカウント、1秒間当たり）という単位をもつが、J G - 1による標準化値は、単位のない量である。もし、この値を%やppm濃度表示にしたければ、各元素のJ G - 1による標準化値にそれぞれ、K・Ca・Rb・Srを乗ずれば、Na₂O・K₂O・CaO・Fa₃O₄としての%濃度が得られ、181・184を乗ずれば、微量元素Rb・Srとしてのppm濃度が得られる。

筆者は通常、J G - 1による標準化値を使って、K・Ca分布図とRb・Sr分布図を作成し、分布図上で特定の土器集団の化学特性を比較している。この作業は定性的な比較であるとはいえ、データー解読上、きわめて重要な意味をもつ。遺跡出土土器の産地問題も、この段階である程度的にしほられる。次の段階では考古学的諸条件を入れて、産地対象にならない母集団は切り捨てられる。しほられた幾つかの産地候補の母集団から2つずつとり出し、2群間判別分析を行う。産地推定も2群間判別分析の応用として適用される。

以上が筆者が開発した須恵器産地推定法の概略である。4因子以外の元素は微量元素も含めて、地域差があることが確認された段階で使用することにしている。つまり、地域差を有効に示すことが確認されれば、全元素を受け入れるという基本姿勢である。それまではK・Ca・Rb・Srの4因子で産地推定のデーター解読を行う。

一部の埴輪は穴窯で焼成される。その窯跡も残存しており、多数の試料片も入手できる。この場合には、須恵器と同様にして産地問題を取り扱うことができる。しかし、多くの埴輪についてはそれらを焼成した窯跡は残っていない。所謂、野焼きである。この場合には産地問題というよりもっと話題を拡大して、埴輪の胎土研究という立場から、胎土の比較研究を行う。石薬師東古墳群の埴輪はまさに、こ

のような立場から取り上げられた。古墳群内に共通の化学特性をもつ埴輪はあるのかどうか、外部地域から搬入されたと推定される埴輪を主成分としてもつ古墳はあるのかどうか、これらはいずれも、埴輪胎土から考古学を展開する上に重要な問題である。

本報告では石薬師東古墳群から出土した埴輪と須恵器胎土の蛍光X線分析の結果について報告する。

(2) 分析結果

全分析値は第1～9表にまとめられている。これらの分析値の数値計算のみで一挙にデーター解読することは現状では困難である。それで、K・Ca・Rb・Sr分布図をセットにして描き、各古墳出土埴輪胎土を比較することとした。

はじめに、共通の分布領域に分布する埴輪を抽出するため、両分布図に1つの領域を設定してみた。これを仮りにA領域とする。A領域を長方形に描いてあるのは特に意味はない。描き易いためである。したがって、その領界については特に定量的（統計学的）意味はない。それでも、A領域を描くことによって、共通の胎土をもつ埴輪を抽出することはできる。

第1図には35号墳出土埴輪の両分布図を示す。No.50はRb・Sr分布図で3点の他の埴輪からずれて分布するが、それでも、一応、A領域に分布するので、A群と分類しておいた。

第2図には41号墳出土埴輪の両分布図を示す。No.78とNo.82の2点はA領域をずれるが、他の試料はまとまってA領域に分布しており、A群埴輪と分類した。

第3図には42号墳出土埴輪の両分布図を示す。No.92は両分布図でA領域をずれるが、他の試料はA群と分類した。A群と分類された埴輪にはNa量が少なく、Fe量が多いという共通の特徴があることが第1表よりわかる。これに対して、A群に分類されなかったNo.92にはNa量が多く、逆にFe量は少ない。No.92は明らかにA群埴輪とは異なる胎土をもつことがわかる。No.92は41号墳のNo.78と類似した胎土をもつことは、第2表の分析値を比較すればよくわかる。

第4図には43号墳出土埴輪の両分布図を示す。全

試料がA群と分類された。

第5図には47号墳の埴輪の両分布図を示す。須恵質埴輪も土師質埴輪と同様、A群であることがわかる。Na因子はA群の共通の特徴をもつものの、Fe因子は35号、41号、42号、43号墳の埴輪とは少し異なる。

第6図には49号墳の埴輪の両分布図を示す。全試料がA領域に分布しており、A群と分類された。Na因子はA群の共通の特徴をもつものの、Fe因子はJG-1による標準化値にして2.0~3.3の範囲でばらつく。A群は同じ素材粘土を使っていると思われるが、Fe因子はばらついている。Fe因子は小地域内でも変動する場合があり、データー解析に使用するとき注意を要する。

第6図をみると、須恵質埴輪は土師質埴輪に比べてK、Rb量が少ない傾向がある。必ずしも、同じ素材粘土ではない可能性もある。しかし、一応、A群領域に分布するという点で、ここではA群として分類しておく。

第7図には55号墳の埴輪の両分布図を示す。全試料はA群に分類された。Na、Fe因子もA群の共通の特徴をもつ。須恵質埴輪は49号墳の場合と同様、K、Rb量は少ない。

第8図には63号墳の埴輪の両分布図を示す。全資料はA群と分類された。Na、Fe因子もA群の共通の特徴をもつ。

このようにして、両分布図でA群領域を設定することによって、共通の化学特性をもつ埴輪が抽出された訳である。すなわち、35号墳・41号墳・42号墳・43号墳・47号墳・49号墳・55号墳・63号墳の大部分の埴輪はA群型の胎土をもつことが判明した。しかもこのA群型は石薬師東古墳の埴輪胎土の主成分である可能性が高い。そうであれば、これらの主成分埴輪は石薬師東古墳群周辺で作られた埴輪ということになり、これ以外の胎土をもつ埴輪は外部地域からの搬入品として摘出することができる。

次に、明らかに複数の胎土の埴輪をもつ古墳の例を示そう。

第9図には40号墳出土埴輪の両分布図を示す。No 55・56・58・59・60の5点の試料は明らかにA群領域をずれる。しかもまとまって分布しており、Na

Fe因子からみても1群を形成すると判断してよい。これをB群とした。No64を除く他の試料は両分布図でA群領域に分布しており、A群と分類された。もちろん、Na因子でもA群の特徴をもつ。No64はK-Ca分布図ではA群領域に分布するものの、Rb-Sr分布図ではA群領域をずれ、B群に近い。Na因子もB群に対応するが、Fe因子ではむしろ、A群に対応する。このように、No64はあいまいな化学特性をもつので、分類では不明としておいた。

第10図には48号墳出土埴輪の両分布図を示す。明らかに2種類の胎土があることがわかる。そのうちの一つはA群であるが、もう一つはB群である。Na・Fe因子でもB群に対応する。No 117・120・121・130・131・132の形象埴輪はすべてB群であることが注目される。A、B両型の胎土の埴輪があるという点で48号墳は40号墳に類似するが、40号墳の形象埴輪No 61・62・63・65・66はすべて、A群型胎土である点が異なる。

次に、石薬師東古墳群の埴輪の主成分胎土とみられるA群型を全くもたない古墳の例を示す。

第11図には26号墳出土埴輪の両分布図を示す。須恵質胎土と土師質胎土の間には化学特性の差異は認められず、両者ともA群型胎土でないことは明白である。第9図と比較すると、26号墳の埴輪の両分布図における分布位置は少しずれていることがわかる。Na・Fe因子でもB群型胎土とは異なる。それでこれらの埴輪胎土をC群型とした。C群胎土のみの埴輪をもつという点で、26号墳は石薬師東古墳群の中で特異的である。被葬者の性格と深い関わりがあるものと推察される。

第12図には27号墳出土埴輪の両分布図を示す。両図から須恵質胎土と土師質胎土の間に差異が認められる。須恵質胎土にはNa量がより多く、逆に、Fe量はより少ないことが第1表からわかる。したがって、須恵質胎土は土師質胎土とは異なることがわかる。別の粘土が素材として使用されている訳である。須恵質胎土はC群型胎土に類似しているが、試料が2点しかなく、C群型胎土と断定してよいのかどうかわからないので、ここではC'型と分類しておいた。土師質胎土もC群型に似ているが、第11図と比較すると少し分布位置が違うことがわかる。

それで、ここではC”としておいた。40号墳のNo.64は不明としておいたが、ここでC”群胎土と比較すると、全因子でよく似ていることがわかる。それで、No.64を不明からC”群型へと変更することにした。C’、C”はともに、C群型系の胎土であることに相違ない。

第13図には28号墳出土埴輪の両分布図を示す。須恵質胎土と土師質胎土の間に特に差異は認められない。両者ともK-Ca分布図ではA群領域の右端部分に分布するがRb-Sr分布図では明らかにA群領域をずれる。したがって、A群型胎土ではない。第12図と比較すると、C”型胎土に類似することがわかる。28号墳の埴輪胎土は27号墳の土師質埴輪の胎土と類似する点が注目される。ここでは一応、28号墳の埴輪胎土をC”と分類しておいた。

第11図の26号墳の埴輪胎土はA群型とは全く異なり、この古墳だけが異質の胎土の埴輪をもつものかと思われたが、第12・13図をみると同じC系統の胎土があることがわかった。C・C’・C”は同じC系統の胎土である。C・C’・C”という具合に少しずつ、化学特性が異なるということは素材粘土の採掘場所が少しずつずれていることを物語る。したがって、石薬師東古墳群にはA群型とC群系の2つの型の胎土があることがわかった。いずれも、石薬師東古墳群埴輪の2大主成分胎土である可能性が高い。そうすると、石薬師東古墳群は埴輪胎土によってA群系の35号墳・40号墳・41号墳・42号墳・43号墳・47号墳・48号墳・49号墳・55号墳・63号墳とC群系の26号墳・27号墳・28号墳に2大別することができる。古墳の数からみると、A群系が主力である。そして、B群系は40号墳・48号墳にしかみられない。

第14図には71号墳出土埴輪の両分布図を示す。やはり、ばらつきが大きいが、その分布位置からC群系と判断される。

最後に、寺谷古墳群出土埴輪の両分布図を第15図に示す。3号墳・6号墳の円筒埴輪はすべて、A群型胎土をもつ。Na-Fe因子でも対応する。17号墳の人物埴輪の胎土もA群型であるが、3点の動物埴輪の胎土はC系統である点が興味深い。これに対して、4号墳の円筒埴輪の胎土は異なる。C群の分布領域よりもさらに、右下側へずれる。これをD群

とした。D群型の胎土は今回分析した埴輪の中で唯一の例である。これと同じ胎土をもつ埴輪が今後、どの古墳から出土するのか注目される。現段階では特例の胎土であるという他ない。

以上の結果から、石薬師東古墳群の埴輪の主成分胎土はA群型である。そして、それはまた、寺谷古墳群の埴輪の主成分胎土でもあることがわかった。C系統の胎土もまた、石薬師東古墳群の第2主成分であり、寺谷古墳群の17号墳の動物埴輪にみられる。A群系統とC群系統の埴輪胎土による古墳の分類結果は何を意味するのか興味深いものがあるが、これには考古学的諸条件を入れて考察することが必要である。

今回は埴輪の胎土研究の方法について重要な問題を提起することになった。1基の古墳出土埴輪を胎土分析するよりも、古墳群中の多数の古墳から出土した埴輪胎土を比較することによって、より多くの情報が引き出されることが判明した。今後、古墳群間でも埴輪胎土を比較研究することも考えられる。ここに、埴輪の胎土研究を考古学研究に活用していくための、研究方法の方向が示されることになった。この点で、石薬師東古墳群の埴輪の胎土研究は重要な意味をもつことになった。

最後に、須恵器の分析結果について説明する。分析値は第6・7表に埴輪とともにまとめられている。K-Ca-Rb-Srの4因子を使って計算したD²(陶邑)、D²(猿投)の値も表1に示してある。多くの試料はD²(陶邑) ≤ 10という陶邑群への帰属条件を満足したので、陶邑産と推定した。

他方、石薬師東古墳群出土須恵器の両分布図を第16図に、また、稻生遺跡出土須恵器の両分布図を第17図に示す。両図を比較してみると、数値計算通り単純に割り切れないものを感じる。任意に描いたA、B領域に全試料はまとめて分布しているように思われる。決して、陶邑領域にまとめて分布していないのである。むしろ、多くの須恵器は陶邑領域の左下部分にまとめて分布する。これらを包含するようにしてA群領域を任意に描いてある。そして、石薬師東古墳群でも、稻生遺跡でもA群の須恵器が主成分である。これらは陶邑産でも、猿投産でもない可能性が高い。三重県内に産地が求められよう。

B群の須恵器は少数派である。Rb – Sr 分布図では陶邑領域の中央付近に分布するが、K – Ca 分布図では陶邑領域の右端付近に分布しており、やはり、陶邑産でも、猿投産でもない可能性が高い。これも三重県内に産地を求められよう。そうすると、三重県内の 2か所の須恵器がこれらの古墳群に供給されたことになる。当然、A 産地、B 産地はどの窯跡群か探査しなければならない訳であるが、今回はこれ以上のデーター解読をしないことにした。三重県内の同時期の古墳出土須恵器のデーターを集積して、胎土の比較研究が出来るのを待つことにした。その方がより正確な結論が引き出されるであろう。土器胎土の考古学研究は胎土の比較研究が主体である。比較研究ができるまで、根気強くデーターを集積しなければならないだろう。

No	出土古墳	位 置	器 種	質	色 調	K	Ca	Fe	Rb	Sr	Na	分類	備 考
1	26号墳	E 6 e	円筒 体部	須恵質	H 7. 5 YR 6 / 6 橙	0.380	0.141	2.41	0.360	0.300	0.185	C	
2	26号墳	No. 6	円筒 体部	須恵質	H 7. 5 YR 6 / 4 にぶい橙	0.378	0.132	2.23	0.347	0.295	0.171	C	
3	26号墳	I 6 o	円筒 体部	須恵質	H 7. 5 YR 6 / 6 橙	0.384	0.159	2.75	0.359	0.299	0.191	C	
4	26号墳	I 3 e	円筒 体部	須恵質	H 7. 5 YR 6 / 3 にぶい橙	0.417	0.113	2.43	0.434	0.296	0.161	C	
5	26号墳	Na 6 A	円筒 体部	須恵質	H 7. 5 YR 6 / 6 橙	0.380	0.125	2.87	0.413	0.285	0.164	C	
6	26号墳	F 7	円筒 体部	須恵質	H 7. 5 YR 6 / 8 橙	0.387	0.198	3.30	0.354	0.347	0.205	C	
7	26号墳	J 3 b	円筒 底部	須恵質	H 7. 5 YR 6 / 4 にぶい橙	0.425	0.195	2.32	0.441	0.384	0.263	C	
8	26号墳	Na 6 B	円筒 底部	須恵質	5 YR 6 / 2 灰オリーブ	0.482	0.238	2.36	0.471	0.439	0.312	C	
9	26号墳	H 2	円筒 突帯	須恵質	H 7. 5 YR 6 / 6 橙	0.440	0.156	1.88	0.440	0.369	0.245	C	
10	26号墳	E 4 g	円筒 体部	土師質	H 7. 5 YR 7 / 6 橙	0.424	0.178	2.56	0.358	0.361	0.197	C	
11	26号墳	I 6 o	円筒 体部	土師質	H 5 YR 6 / 6 橙	0.502	0.193	3.77	0.443	0.332	0.242	C	
12	26号墳	I 3 n	円筒 体部	土師質	H 7. 5 YR 7 / 6 橙	0.400	0.150	1.92	0.374	0.339	0.179	C	
13	26号墳	I 2	円筒 体部	土師質	H 7. 5 YR 6 / 6 橙	0.396	0.160	2.01	0.378	0.361	0.192	C	
14	26号墳	I 2 e	円筒 体部	土師質	H 7. 5 YR 6 / 6 橙	0.402	0.123	2.84	0.387	0.289	0.150	C	
15	26号墳	I 2 d	円筒	土師質	H 7. 5 YR 6 / 6 橙	0.379	0.117	2.41	0.390	0.287	0.144	C	
16	26号墳	J 5	円筒 底部	土師質	H 7. 5 YR 6 / 8 橙	0.498	0.190	2.54	0.481	0.373	0.260	C	
17	26号墳	F 6	円筒 底部	土師質	H 7. 5 YR 6 / 8 橙	0.464	0.198	2.34	0.440	0.398	0.243	C	
18	26号墳	Na 4 B	円筒 突帯	土師質	H 7. 5 YR 7 / 6 橙	0.405	0.223	2.56	0.341	0.429	0.214	C	
19	26号墳	G 7 a	形象 馬形	土師質	H 7. 5 YR 7 / 8 黄橙	0.397	0.200	3.26	0.321	0.355	0.187	C	
20	26号墳	Na 5 B	形象 馬形	須恵質	H 7. 5 YR 5 / 6 明褐	0.440	0.201	3.06	0.432	0.374	0.257	C	
21	26号墳	E 4 b	形象 鹿形	須恵質	H 7. 5 YR 6 / 3 にぶい褐	0.392	0.179	3.18	0.443	0.340	0.187	C	
22	26号墳	E 2 b	形象 鹿形	須恵質	H 7. 5 YR 6 / 3 にぶい褐	0.374	0.163	2.99	0.431	0.333	0.196	C	
23	26号墳	G 6	形象	土師質	H 7. 6 YR 7 / 8 黄橙	0.440	0.236	2.74	0.398	0.435	0.245	C	
24	27号墳	Y - 11	円筒 口縁	須恵質	H 7. 5 YR 6 / 4 にぶい褐	0.383	0.200	1.62	0.382	0.412	0.247	C'	
25	27号墳	Y - 11	円筒 突帯	須恵質	H 7. 5 YR 6 / 3 にぶい褐	0.417	0.197	1.50	0.421	0.419	0.276	C'	
26	27号墳	Y - 11	円筒 口縁	土師質	H 5 YR 7 / 8 橙	0.419	0.094	2.59	0.310	0.263	0.116	C"	
27	27号墳	Y - 11	円筒 突帯	土師質	H 5 YR 7 / 8 橙	0.417	0.089	2.52	0.316	0.264	0.108	C"	
28	27号墳	Y - 11	円筒 口縁	土師質	H 7. 5 YR 7 / 6 橙	0.423	0.156	2.80	0.332	0.315	0.147	C"	
29	27号墳	Y - 11	円筒 突帯	土師質	H 7. 5 YR 7 / 4 にぶい褐	0.413	0.121	2.94	0.290	0.277	0.128	C"	
30	27号墳	Y - 11	形象	土師質	H 5 YR 5 / 8 明赤褐	0.426	0.106	3.05	0.333	0.270	0.115	C"	
31	27号墳	Y - 11	形象	土師質	H 5 YR 5 / 8 明赤褐	0.426	0.107	2.87	0.347	0.281	0.117	C"	
32	27号墳	Y - 11	形象	土師質	H 7. 5 YR 6 / 8 橙	0.391	0.105	2.84	0.287	0.259	0.114	C"	
33	27号墳	Y - 11	形象 不明	土師質	H 7. 5 YR 7 / 6 橙	0.371	0.108	2.94	0.273	0.255	0.112	C"	
34	28号墳	周溝IV	形象 人物	土師質	H 7. 5 YR 8 / 6 浅黄橙	0.418	0.117	2.27	0.262	0.237	0.115	C"	
35	28号墳	周溝 I	円筒 突帯	須恵質	H 7. 5 YR 6 / 8 橙	0.458	0.099	2.13	0.459	0.265	0.124	C"	
36	28号墳	周溝 I	円筒 口縁	土師質	H 7. 5 YR 6 / 6 橙	0.493	0.069	1.50	0.448	0.263	0.098	C"	
37	28号墳	周溝 I	円筒 円透	土師質	H 7. 5 YR 7 / 8 黄橙	0.461	0.107	2.05	0.459	0.264	0.128	C"	
38	28号墳	周溝 II	円筒 突帯	須恵質	H 7. 5 YR 7 / 4 にぶい褐	0.390	0.078	1.56	0.355	0.251	0.095	C"	
39	28号墳	周溝 II	円筒 円透	須恵質	H 7. 5 YR 7 / 3 にぶい褐	0.382	0.073	1.61	0.354	0.234	0.099	C"	
40	28号墳	周溝 II	円筒 口縁	土師質	H 7. 5 YR 8 / 4 浅黄橙	0.374	0.076	1.69	0.291	0.244	0.080	C"	
41	28号墳	周溝 II	円筒 底部	土師質	H 7. 5 YR 7 / 6 橙	0.446	0.110	2.38	0.350	0.280	0.116	C"	
42	28号墳	周溝 IV	円筒 底部	土師質	H 7. 5 YR 7 / 4 にぶい橙	0.367	0.074	1.55	0.329	0.240	0.087	C"	
43	28号墳	周溝 IV	円筒 突帯	土師質	H 7. 5 YR 7 / 6 橙	0.399	0.081	1.59	0.350	0.247	0.095	C"	
44	28号墳	周溝 II	形象 人手	土師質	H 7. 5 YR 7 / 8 黄橙	0.457	0.111	2.27	0.339	0.283	0.109	C"	
45	28号墳	周溝 I	形象 不明	土師質	H 7. 5 YR 6 / 6 橙	0.471	0.052	1.86	0.489	0.201	0.072	C"	
46	28号墳	周溝 IV	円筒 体部	土師質	H 10 YR 8 / 4 浅黄橙	0.470	0.078	1.40	0.444	0.265	0.118	C"	
47	35号墳	周溝 IV	形象 不明	土師質	H 7. 5 YR 6 / 8 橙	0.351	0.075	4.44	0.258	0.171	0.065	A	
48	35号墳	周溝 IV	形象 不明	土師質	H 7. 5 YR 6 / 8 橙	0.370	0.075	4.99	0.238	0.171	0.060	A	
49	35号墳	周溝 IV	円筒 体部	須恵質?	H 7. 5 YR 7 / 4 にぶい褐	0.317	0.038	1.98	0.331	0.179	0.047	A	

第1表 石薬師東古墳群出土埴輪胎土分析表(1)

No	出土古墳	位置	器種	質	色調	K	Ca	Fe	Rb	Sr	Na	分類	備考
50	35号墳	周溝IV	形象人物	土師質 にぶい橙	H7. 5 YR 7/4	0.389	0.047	3.06	0.498	0.153	0.049		
51	40号墳	III-②	円筒体部	土師質 橙	H7. 5 YR 7/6	0.342	0.037	2.79	0.284	0.141	0.037	A	
52	40号墳	III-②	円筒体部	土師質 浅黄橙	H7. 5 YR 8/6	0.355	0.029	2.64	0.304	0.138	0.033	A	
53	40号墳	III-②	円筒口縁	土師質 黄橙	H7. 5 YR 7/8	0.334	0.038	3.00	0.254	0.147	0.035	A	
54	40号墳	III-②	円筒突帯	土師質 黄橙	H7. 5 YR 7/8	0.331	0.039	2.67	0.278	0.152	0.031	A	
55	40号墳	III-②	円筒突帯	土師質 (須)	H7. 5 YR 6/6	0.405	0.097	1.62	0.463	0.314	0.135	B	
56	40号墳	II-①	円筒口縁	土師質 橙	H7. 5 YR 7/6	0.489	0.156	1.50	0.547	0.344	0.188	B	
57	40号墳	II-①	円筒口縁	土師質 黄橙	H7. 5 YR 7/8	0.372	0.065	2.55	0.395	0.145	0.046	A	
58	40号墳	II-①	円筒突帯	土師質 橙	H7. 5 YR 6/6	0.490	0.192	1.56	0.533	0.366	0.224	B	
59	40号墳	II-①	円筒突帯	土師質 橙	H7. 5 YR 6/6	0.488	0.141	1.52	0.550	0.353	0.207	B	
60	40号墳	II-①	円筒体部	土師質 にぶい橙	H7. 5 YR 6/4	0.503	0.171	1.53	0.566	0.367	0.224	B	
61	40号墳	III-②	形象家形	土師質 橙	H7. 5 YR 6/8	0.400	0.037	3.78	0.338	0.143	0.047	A	
62	40号墳	IV-①	形象家形	土師質 橙	H7. 5 YR 6/8	0.413	0.050	3.90	0.334	0.172	0.056	A	
63	40号墳	IV-①	形象家形	土師質 橙	H7. 5 YR 6/8	0.424	0.043	3.65	0.381	0.142	0.061	A	
64	40号墳	IV-①	形象家形	土師質 浅黄橙	H7. 5 YR 8/6	0.408	0.149	3.04	0.366	0.297	0.159	不明 (C)	
65	40号墳	II-①	形象不明	土師質 橙	H7. 5 YR 7/6	0.402	0.046	3.76	0.343	0.148	0.053	A	
66	40号墳	IV-①	形象家形	土師質 橙	H7. 5 YR 6/8	0.402	0.048	4.03	0.326	0.159	0.046	A	
67	41号墳	周溝IV	円筒体部	土師質 浅黄橙	H7. 5 YR 8/6	0.421	0.040	3.12	0.370	0.146	0.050	A	
68	41号墳	周溝IV	円筒体部	土師質 浅黄橙	H7. 5 YR 8/6	0.432	0.046	2.93	0.386	0.160	0.063	A	
69	41号墳	周溝IV	円筒突帯	土師質 橙	H7. 5 YR 7/6	0.431	0.039	3.08	0.364	0.152	0.051	A	
70	41号墳	周溝IV	円筒体部	土師質 橙	H7. 5 YR 7/6	0.431	0.040	3.00	0.375	0.145	0.051	A	
71	41号墳	周溝IV	円筒体部	土師質 橙	H7. 5 YR 7/6	0.425	0.037	3.02	0.362	0.156	0.054	A	
72	41号墳	周溝IV	円筒突帯	土師質 橙	H7. 5 YR 7/6	0.421	0.036	2.93	0.355	0.145	0.044	A	
73	41号墳	周溝IV	形象不明	土師質 浅黄橙	H7. 5 YR 8/6	0.447	0.043	3.09	0.304	0.125	0.058	A	
74	41号墳	周溝IV	円筒体部	土師質 橙	H7. 5 YR 7/6	0.432	0.043	3.27	0.307	0.119	0.044	A	
75	41号墳	周溝IV	円筒突帯	土師質 橙	H7. 5 YR 7/6	0.420	0.038	3.05	0.366	0.132	0.052	A	
76	41号墳	周溝IV	円筒突帯	土師質 橙	H7. 5 YR 7/6	0.420	0.040	3.01	0.364	0.147	0.049	A	
77	41号墳	周溝IV	円筒体部	土師質 黄橙	H7. 5 YR 7/8	0.411	0.039	2.15	0.441	0.148	0.046	A	
78	41号墳	周溝IV	円筒体部	土師質 橙	H7. 5 YR 6/6	0.570	0.224	2.42	0.404	0.412	0.259		
79	41号墳	周溝IV	形象不明	土師質 橙	H7. 5 YR 6/6	0.427	0.050	2.98	0.367	0.159	0.068	A	
80	41号墳	周溝IV	形象不明	土師質 橙	H7. 5 YR 6/6	0.441	0.049	2.86	0.375	0.160	0.065	A	
81	41号墳	周溝III	円筒 円筒	土師質 浅黄橙	H7. 5 YR 8/3	0.337	0.066	3.00	0.357	0.197	0.060	A	
82	41号墳	周溝III	円筒体部	土師質 黄橙	H7. 5 YR 7/8	0.220	0.029	3.52	0.182	0.101	0.019		
83	42号墳	周溝I	円筒体部	土師質 橙	H7. 5 YR 7/6	0.426	0.039	2.91	0.417	0.150	0.059	A	
84	42号墳	周溝I	円筒突帯	土師質 橙	H7. 5 YR 6/6	0.412	0.141	3.30	0.375	0.159	0.054	A	
85	42号墳	周溝I	円筒口縁	土師質 橙	H7. 5 YR 7/6	0.435	0.039	3.05	0.415	0.142	0.063	A	
86	42号墳	周溝I	円筒口縁	土師質 橙	H7. 5 YR 7/6	0.441	0.054	3.08	0.398	0.174	0.063	A	
87	42号墳	周溝I	円筒突帯	土師質 橙	H7. 5 YR 7/6	0.424	0.055	2.97	0.401	0.155	0.065	A	
88	42号墳	周溝I	円筒突帯	土師質 黄橙	H7. 5 YR 7/8	0.423	0.040	3.00	0.402	0.152	0.053	A	
89	42号墳	周溝I	円筒口縁	土師質 橙	H7. 5 YR 7/6	0.439	0.048	3.17	0.415	0.153	0.067	A	
90	42号墳	周溝I	円筒口縁	土師質 橙	H7. 5 YR 7/6	0.404	0.033	3.16	0.366	0.136	0.053	A	
91	42号墳	周溝I	円筒突帯	土師質 橙	H7. 5 YR 7/6	0.426	0.043	2.97	0.417	0.143	0.059	A	
92	42号墳	1A21-5	形象不明	土師質 浅黄橙	H7. 5 YR 8/4	0.477	0.219	1.48	0.412	0.482	0.207		
93	43号墳	周溝I	円筒突帯	須恵質 にぶい橙	H7. 5 YR 6/4	0.259	0.043	3.26	0.285	0.137	0.029	A	
94	43号墳	周溝I	円筒突帯	土師質 橙	H7. 5 YR 7/6	0.394	0.035	3.10	0.381	0.127	0.048	A	
95	43号墳	周溝I	円筒口縁	土師質 橙	H7. 5 YR 7/6	0.396	0.029	3.34	0.351	0.135	0.042	A	
96	43号墳	周溝I	円筒突帯	土師質 黄橙	H7. 5 YR 7/8	0.428	0.047	2.96	0.424	0.155	0.065	A	
97	43号墳	周溝I	円筒口縁	土師質 橙	H7. 5 YR 7/6	0.428	0.046	3.06	0.410	0.153	0.056	A	
98	43号墳	周溝I	円筒突帯	土師質 浅黄橙	H7. 5 YR 8/4	0.397	0.028	3.13	0.367	0.131	0.043	A	

第2表 石槨師東古墳群出土埴輪胎土分析表(2)

No	出土古墳	位置	器種	質	色調	K	Ca	Fe	Rb	Sr	Na	分類	備考
99	43号墳	周溝 I	円筒 突帯	土師質	H7. 5 YR 7/6 黄橙	0.402	0.030	3.08	0.396	0.129	0.047	A	
100	43号墳	周溝 I	円筒 突帯	土師質	H7. 5 YR 8/8 黄橙	0.423	0.036	3.00	0.387	0.149	0.050	A	
101	43号墳	周溝 I	円筒 口縁	土師質	H7. 5 YR 7/8 黄橙	0.439	0.038	3.08	0.398	0.147	0.056	A	
102	43号墳	周溝 I	円筒 突帯	土師質	H7. 5 YR 8/6 浅黄橙	0.423	0.044	3.06	0.361	0.160	0.049	A	
103	43号墳	周溝 I	円筒 体部	土師質	H7. 5 YR 8/6 浅黄橙	0.405	0.037	3.26	0.336	0.150	0.047	A	
104	43号墳	周溝 I	円筒 突帯	土師質	H7. 5 YR 8/6 浅黄橙	0.401	0.043	3.18	0.325	0.152	0.042	A	
105	43号墳	周溝 I	円筒 突帯	土師質	H7. 5 YR 8/4 浅黄橙	0.313	0.045	3.25	0.268	0.155	0.051	A	
106	43号墳	周溝 I	円筒 底部	土師質	H7. 5 YR 7/6 黄橙	0.396	0.043	2.89	0.406	0.133	0.055	A	
107	43号墳	周溝 I	円筒 体部	土師質	H7. 5 YR 7/6 黄橙	0.391	0.045	2.93	0.380	0.125	0.050	A	
108	43号墳	周溝 I	円筒 体部	土師質	H7. 5 YR 7/8 黄橙	0.409	0.042	3.00	0.414	0.137	0.051	A	
109	47号墳	周溝 IV	円筒 底部	土師質	H7. 5 YR 7/8 黄橙	0.397	0.035	1.92	0.443	0.171	0.052	A	
110	47号墳	周溝 IV	円筒 突帯	土師質	H7. 5 YR 7/8 黄橙	0.394	0.033	1.95	0.452	0.161	0.051	A	
111	47号墳	周溝 IV	円筒 底部	土師質	H7. 5 YR 8/8 黄橙	0.390	0.034	1.91	0.445	0.163	0.044	A	
112	47号墳	周溝 I	円筒 内透	須恵質	外:H7.5YR8/8 黄橙 内:H7.5YR6/3 にぶい褐	0.354	0.040	1.98	0.417	0.192	0.057	A	
113	47号墳	周溝 I	円筒 突帯	土師質	H7. 5 YR 7/6 黄橙	0.399	0.042	1.92	0.502	0.171	0.049	A	
114	47号墳	周溝 I	円筒 突帯	土師質	H7. 5 YR 7/6 黄橙	0.408	0.041	2.42	0.441	0.171	0.044	A	
115	47号墳	周溝 IV	円筒 底部	土師質	H7. 5 YR 7/6 黄橙	0.413	0.038	1.92	0.418	0.166	0.051	A	
116	47号墳	周溝 IV	円筒 突帯	土師質	H7. 5 YR 7/6 黄橙	0.400	0.011	2.00	0.437	0.164	0.049	A	
117	48号墳	III-①	形象 不明	土師質	H7. 5 YR 6/8 黄橙	0.470	0.135	1.70	0.448	0.311	0.183	B	
118	48号墳	周溝 I	朝顔 突帯	土師質	H7. 5 YR 7/8 黄橙	0.305	0.044	2.16	0.267	0.176	0.046	A	
119	48号墳	周溝 I	朝顔 突帯	土師質	H7. 5 YR 7/8 黄橙	0.297	0.046	2.47	0.247	0.162	0.045	A	
120	48号墳	周溝 I	形象	土師質	H7. 5 YR 7/4 にぶい橙	0.433	0.099	1.63	0.596	0.332	0.159	B	
121	48号墳	周溝 I	形象	土師質	H7. 5 YR 6/6 黄橙	0.441	0.094	1.60	0.562	0.307	0.136	B	
122	48号墳	周溝 I	朝顔 突帯	土師質	H7. 5 YR 6/8 黄橙	0.356	0.052	2.02	0.305	0.198	0.060	A	
123	48号墳	周溝 I	朝顔 体部	土師質	H7. 5 YR 6/8 黄橙	0.377	0.052	2.04	0.295	0.197	0.061	A	
124	48号墳	周溝 III	円筒 突帯	土師質	H7. 5 YR 7/6 黄橙	0.454	0.056	1.74	0.470	0.199	0.091	A	
125	48号墳	周溝 III	朝顔 体部	土師質	H7. 5 YR 8/6 浅黄橙	0.455	0.052	2.15	0.471	0.185	0.070	A	
126	48号墳	周溝 III	円筒 突帯	土師質	H7. 5 YR 7/6 黄橙	0.453	0.063	1.82	0.496	0.201	0.088	A	
127	48号墳	周溝 III	円筒 口縁	土師質	H7. 5 YR 8/8 黄橙	0.442	0.057	1.91	0.472	0.202	0.076	A	
128	48号墳	周溝 III	円筒 突帯	土師質	H7. 5 YR 7/6 黄橙	0.427	0.121	1.48	0.447	0.323	0.159	B	
129	48号墳	周溝 III	円筒 突帯	土師質	H7. 5 YR 7/6 黄橙	0.431	0.111	1.53	0.475	0.325	0.161	B	
130	48号墳	III-①	形象 不明	土師質	H7. 5 YR 6/8 黄橙	0.476	0.120	1.66	0.478	0.311	0.175	B	
131	48号墳	III-①	形象 不明	土師質	H7. 5 YR 6/6 黄橙	0.508	0.163	1.71	0.546	0.313	0.185	B	
132	48号墳	III-①	形象 不明	土師質	H7. 5 YR 7/6 黄橙	0.469	0.117	1.66	0.494	0.301	0.191	B	
133	49号墳	周溝 I	円筒 内透	須恵質	外:H2.5YR7/1 明赤灰 内:H10YR7/3 にぶい黄橙	0.267	0.028	2.41	0.304	0.138	0.032	A	
134	49号墳	周溝 I	円筒 底部	須恵質	外:H2.5YR7/1 明赤灰 内:H10YR7/3 にぶい黄橙	0.280	0.030	2.37	0.291	0.153	0.036	A	
135	49号墳	周溝 I	円筒 内透	須恵質	H7. 5 YR 6/8 黄橙	0.255	0.033	2.75	0.272	0.163	0.031	A	
136	49号墳	周溝 I	円筒 底部	須恵質	H7. 5 YR 6/8 黄橙	0.255	0.027	2.59	0.247	0.133	0.030	A	
137	49号墳	周溝 I	円筒 体部	土師質	H7. 5 YR 8/8 黄橙	0.271	0.029	2.63	0.268	0.166	0.024	A	
138	49号墳	周溝 I	円筒 体部	土師質	H7. 5 YR 7/6 黄橙	0.417	0.036	2.14	0.452	0.165	0.058	A	
139	49号墳	周溝 II	円筒 突帯	須恵質	H7. 5 YR 7/6 黄橙	0.313	0.034	2.28	0.326	0.170	0.036	A	
140	49号墳	周溝 II	円筒 突帯	須恵質	H7. 5 YR 7/6 黄橙	0.320	0.037	2.47	0.336	0.167	0.036	A	
141	49号墳	周溝 II	円筒 突帯	土師質	H7. 5 YR 7/8 黄橙	0.396	0.037	2.25	0.470	0.157	0.044	A	
142	49号墳	周溝 II	円筒 体部	土師質	H7. 5 YR 7/6 黄橙	0.281	0.028	2.71	0.288	0.159	0.032	A	
143	49号墳	周溝 III	円筒 突帯	土師質	H7. 5 YR 7/6 黄橙	0.388	0.028	2.20	0.383	0.166	0.037	A	
144	49号墳	周溝 III	円筒 内透	土師質	H7. 5 YR 7/8 黄橙	0.380	0.035	1.95	0.540	0.165	0.044	A	
145	49号墳	周溝 III	円筒 底部	須恵質	H7. 5 YR 6/6 黄橙	0.336	0.037	2.39	0.354	0.164	0.047	A	
146	49号墳	周溝 IV	円筒 口縁	土師質	H7. 5 YR 7/6 黄橙	0.402	0.039	1.97	0.496	0.166	0.052	A	
147	49号墳	周溝 IV	円筒 内透	土師質	H7. 5 YR 7/6 黄橙	0.371	0.028	2.00	0.382	0.148	0.037	A	

第3表 石槨師東古墳群出土埴輪胎土分析表(3)

No	出土古墳	位置	器種	質	色調	K	Ca	Fe	Rb	Sr	Na	分類	備考
148	49号墳	周溝 I	形象馬 鈴	土師質	H 7. 5 YR 6 / 8 橙	0.377	0.050	3.33	0.415	0.133	0.051	A	
149	49号墳		形象角	土師質	H 7. 5 YR 8 / 4 浅黄橙	0.362	0.034	3.09	0.302	0.134	0.038	A	
150	49号墳		形象馬 軸	土師質	H 7. 5 YR 8 / 6 浅黄橙	0/383	0.036	2.42	0.322	0.175	0.035	A	
151	49号墳	周溝 I	形象人 手	土師質	H 7. 5 YR 7 / 6 橙	0.409	0.033	2.36	0.375	0.196	0.035	A	
152	49号墳	周溝 I	形象人 服	土師質	H 7. 5 YR 8 / 4 浅黄橙	0.398	0.032	2.18	0.366	0.163	0.041	A	
153	49号墳	周溝 I	形象家形	土師質	H 7. 5 YR 7 / 4 にぶい橙	0.375	0.042	2.99	0.481	0.155	0.049	A	
154	49号墳	周溝 I	形象家形	土師質	H 7. 5 YR 8 / 6 浅黄橙	0.376	0.040	1.98	0.472	0.178	0.049	A	
155	49号墳	周溝 I	形象不明	土師質	H 7. 5 YR 7 / 6 橙	0.371	0.041	3.11	0.428	0.133	0.046	A	
156	49号墳	周溝 I	形象不明	土師質	H 7. 5 YR 8 / 4 浅黄橙	0.376	0.041	3.32	0.386	0.128	0.053	A	
157	55号墳	周溝 I	円筒 口縁	須恵質	H 7. 5 YR 6 / 6 橙	0.307	0.045	3.74	0.324	0.153	0.038	A	
158	55号墳	周溝 I	円筒 突帯	須恵質	H 7. 5 YR 6 / 4 にぶい橙	0.266	0.040	3.84	0.289	0.136	0.027	A	
159	55号墳	周溝 I	円筒 口縁	土師質	H 7. 5 YR 8 / 8 黄橙	0.380	0.069	3.64	0.313	0.195	0.057	A	
160	55号墳	周溝 I	円筒 突帯	土師質	H 7. 5 YR 7 / 8 黄橙	0.367	0.066	3.53	0.336	0.195	0.058	A	
161	55号墳	周溝 II	円筒 突帯	土師質	H 7. 5 YR 7 / 6 橙	0.392	0.170	3.24	0.415	0.155	0.062	A	
162	55号墳	周溝 II	円筒 口縁	土師質	H 7. 5 YR 7 / 6 橙	0.384	0.058	3.57	0.322	0.163	0.050	A	
163	55号墳	周溝 IV	円筒 口縁	土師質	H 7. 5 YR 6 / 8 橙	0.426	0.132	3.56	0.375	0.181	0.064	A	
164	55号墳	周溝 IV	円筒 底部	須恵質	H 7. 5 YR 6 / 6 橙	0.294	0.045	3.68	0.301	0.146	0.037	A	
165	55号墳	周溝 I	形象 不明	土師質	H 7. 5 YR 7 / 8 黄橙	0.354	0.070	3.63	0.257	0.191	0.070	A	
166	55号墳	周溝 IV	形象 不明	土師質	H 7. 5 YR 7 / 6 橙	0.394	0.120	3.35	0.364	0.231	0.056	A	
167	55号墳	周溝 IV	形象 棒状	土師質	H 7. 5 YR 8 / 6 浅黄橙	0.372	0.073	3.31	0.308	0.180	0.055	A	
168	55号墳	III - ①	円筒 突帯	土師質(須)	H 7. 5 YR 6 / 4 にぶい橙	0.324	0.055	3.61	0.331	0.174	0.042	A	
169	55号墳	III - ①	円筒 突帯	土師質	H 7. 5 YR 6 / 8 橙	0.373	0.039	3.23	0.409	0.113	0.044	A	
170	55号墳	III - ①	円筒 体部	土師質	H 7. 5 YR 7 / 6 橙	0.362	0.041	3.91	0.299	0.141	0.035	A	
171	63号墳	IV - ①	円筒 口縁	土師質	H 7. 5 YR 6 / 8 橙	0.438	0.078	3.89	0.340	0.180	0.093	A	
172	63号墳	IV - ①	円筒 口縁	土師質	H 7. 5 YR 6 / 8 橙	0.361	0.069	5.31	0.249	0.152	0.066	A	
173	63号墳	IV - ①	円筒 体部	土師質	H 5 YR 6 / 8 橙	0.437	0.096	3.96	0.368	0.166	0.111	A	
174	63号墳	IV - ①	円筒 突帯	土師質	H 7. 5 YR 7 / 8 黄橙	0.436	0.088	3.62	0.402	0.172	0.111	A	
175	63号墳	IV - ①	円筒 突帯	土師質	H 7. 5 YR 8 / 8 黄橙	0.363	0.092	4.09	0.308	0.192	0.078	A	
176	63号墳	IV - ①	円筒 口縁	須恵質	H 7. 5 YR 6 / 4 にぶい橙	0.341	0.068	3.15	0.314	0.175	0.081	A	
177	63号墳	IV - ①	円筒 突帯	須恵質	H 7. 5 YR 6 / 4 にぶい橙	0.401	0.083	3.49	0.399	0.204	0.103	A	
178	63号墳	IV - ①	円筒 体部	須恵質	H 7. 5 YR 5 / 3 にぶい褐	0.373	0.078	3.61	0.380	0.207	0.082	A	
179	63号墳	I - ①	形象 家形	土師質	H 7. 5 YR 6 / 8 橙	0.386	0.080	2.85	0.384	0.210	0.096	A	
180	63号墳	III - ①	形象 家形	須恵質	H 5 YR 6 / 8 橙	0.367	0.074	2.87	0.379	0.201	0.089	A	
181	63号墳	III - ①	形象 家形	土師質	H 5 YR 5 / 8 明示褐	0.373	0.077	2.77	0.390	0.208	0.088	A	
182	63号墳	IV - ②	形象 人物	土師質	H 5 YR 6 / 8 橙	0.422	0.064	4.81	0.325	0.145	0.098	A	
183	63号墳	IV - ②	形象 人物	土師質	H 5 YR 6 / 8 橙	0.405	0.064	4.93	0.305	0.145	0.088	A	
184	63号墳	II - ②	形象 人物	土師質	H 5 YR 6 / 6 橙	0.442	0.138	3.08	0.404	0.199	0.111	A	
185	63号墳	II - ②	形象 人物	土師質	H 5 YR 6 / 8 橙	0.442	0.072	3.07	0.431	0.174	0.097	A	
186	63号墳	IV - ①	形象 馬形	土師質(須)	H 5 YR 5 / 6 明赤褐	0.298	0.062	3.72	0.266	0.144	0.062	A	
187	63号墳	IV - ①	形象 馬形	土師質	H 5 YR 7 / 8 橙	0.444	0.101	3.09	0.375	0.195	0.104	A	
188	63号墳	III - ①	形象 馬形	土師質	H 7. 5 YR 7 / 8 黄橙	0.459	0.072	3.26	0.353	0.180	0.103	A	
189	63号墳	IV - ①	形象 馬形	須恵質	H 7. 5 YR 6 / 6 橙	0.337	0.072	4.20	0.297	0.165	0.075	A	
190	63号墳	III - ①	形象 馬形	土師質	H 7. 5 YR 6 / 8 橙	0.429	0.074	3.23	0.334	0.196	0.087	A	
191	63号墳	IV - ①	形象 馬形	土師質	H 7. 5 YR 7 / 8 黄橙	0.424	0.077	2.63	0.385	0.188	0.092	A	
192	63号墳	III - ①	形象 馬形	土師質	H 7. 5 YR 6 / 8 橙	0.434	0.065	3.44	0.441	0.170	0.078	A	
193	63号墳	IV - ①	形象 馬形	土師質	H 7. 5 YR 7 / 6 橙	0.359	0.082	2.93	0.297	0.197	0.079	A	
194	63号墳	III - ①	形象 馬形	土師質	H 7. 5 YR 8 / 8 黄橙	0.295	0.053	4.02	0.218	0.140	0.005	A	
195	63号墳	III - ①	形象 不明	土師質	H 7. 5 YR 6 / 8 橙	0.374	0.055	3.65	0.280	0.170	0.044	A	
196	63号墳	III - ①	形象 不明	土師質	H 7. 5 YR 8 / 8 黄橙	0.384	0.073	3.45	0.256	0.182	0.086	A	

第4表 石槨師東古墳群出土埴輪胎土分析表(4)

No.	出土古墳	位置	器種	質	色調	K	Ca	Fe	Rb	Sr	Na	分類	備考
197	71号墳	IV-②	円筒 体部	土師質	H 7. 5 YR 6/8 橙	0.469	0.242	1.73	0.443	0.364	0.197	C	
198	71号墳	IV-②	円筒 体部	土師質	H 7. 5 YR 7/6 橙	0.399	0.163	2.13	0.283	0.330	0.153	C	
199	71号墳	IV-②	円筒 突帯	土師質	H 7. 5 YR 7/8 黄橙	0.449	0.141	1.98	0.465	0.335	0.189	C	
200	71号墳	III-①	円筒 口縁	土師質	H 7. 5 YR 7/8 黄橙	0.329	0.099	1.91	0.284	0.277	0.085	C	
201	71号墳	III-①	円筒 口縁	土師質	H 10 YR 8/4 黄橙	0.378	0.111	1.71	0.412	0.308	0.126	C	
202	71号墳	III-①	円筒 突帯	土師質	H 7. 5 YR 8/6 浅黄橙	0.376	0.105	1.95	0.308	0.255	0.090	C	
203	71号墳	IV-②	円筒 口縁	須恵質	H 2. 5 Y 6/7 灰黄	0.404	0.107	1.75	0.460	0.300	0.133	C	
204	71号墳	IV-②	円筒 体部	須恵質	H 2. 5 Y 5/3 灰黄	0.492	0.168	1.82	0.429	0.395	0.233	C	
205	71号墳	IV-②	円筒 口縁	須恵質	H 2. 5 Y 6/3 にぶい黄	0.449	0.119	1.57	0.533	0.352	0.140	C	
206	71号墳	IV-②	円筒 体部	須恵質	H 2. 5 Y 6/3 にぶい黄	0.448	0.186	1.83	0.459	0.419	0.227	C	
207	71号墳	III-②	形象 家形	土師質	H 7. 5 YR 7/8 黄橙	0.363	0.154	1.86	0.273	0.348	0.153	C	
208	71号墳	I-①	形象 家形	土師質	H 7. 5 YR 7/6 黄	0.340	0.181	2.33	0.228	0.331	0.144	C	
209	71号墳	III-②	形象 家形	土師質	H 7. 5 YR 8/3 浅黄橙	0.333	0.142	2.77	0.186	0.268	0.147	C	
210	71号墳	III-②	形象 家形	土師質	H 7. 5 YR 7/6 黄	0.355	0.152	2.66	0.243	0.327	0.147	C	
211	71号墳	IV-②	形象 人物	土師質	H 7. 5 YR 8/8 黄橙	0.474	0.159	2.05	0.388	0.386	0.191	C	
212	71号墳	I-①	形象 人物	土師質	H 7. 5 YR 7/8 黄橙	0.434	0.210	1.67	0.438	0.225	0.089	C	
213	71号墳	IV-②	形象 馬形	土師質	H 7. 5 YR 6/8 黄	0.432	0.136	1.91	0.368	0.291	0.173	C	
214	71号墳	IV-①	形象 不明	土師質	H 7. 5 YR 7/8 黄	0.456	0.165	1.76	0.435	0.361	0.204	C	

第5表 石薬師東古墳群出土埴輪胎土分析表(5)

No.	出土古墳	位置	器種	色調	K	Ca	Fe	Rb	Sr	Na	陶邑	狼投	推定産地
215	28号墳	周溝IV	甕	5 Y 5/1 灰	0.379	0.095	3.27	0.415	0.178	0.061	7.4	30.0	陶邑
216	28号墳	周溝IV	杯蓋	2. 5 YR 6/1 黄灰	0.379	0.060	3.05	0.488	0.221	0.137	1.8	6.0	陶邑
217	30号墳	周溝IV	杯蓋	2. 5 YR 6/2 黄灰	0.359	0.042	2.12	0.425	0.144	0.058	4.4	20.0	陶邑
218	30号墳	周溝I	杯身	10 YR 7/4 にぶい黄褐	0.401	0.224	5.97	0.275	0.220	0.078	48.0	110.0	不明
219	30号墳	周溝IV	短頸甕	2. 5 Y 7/1 灰白	0.461	0.039	1.94	0.512	0.214	0.041	4.0	9.0	陶邑
220	31号墳	周溝IV	杯蓋	7. 5 Y 5/1 灰	0.303	0.057	2.12	0.370	0.149	0.051	7.2	21.0	陶邑
221	31号墳		杯蓋	5 GY 7/1 明オリーブ灰	0.282	0.094	1.88	0.400	0.275	0.102	11.0	13.0	陶邑(?)
222	31号墳		甕	2. 5 GY 4/1 暗オリーブ灰	0.577	0.062	2.45	0.715	0.230	0.150	13.0	13.0	不明
223	32号墳	西溝	杯蓋	7. 5 Y 6/1 灰	0.297	0.032	2.36	0.336	0.129	0.043	7.8	22.0	陶邑
224	32号墳	西溝	甕	2. 5 Y 5/1 黄灰	0.325	0.036	1.93	0.367	0.159	0.051	5.7	16.0	陶邑
225	35号墳	西溝	甕	2. 5 YR 5/1 赤灰	0.328	0.045	2.31	0.457	0.175	0.099	4.0	10.0	陶邑
226	37号墳	西溝	甕	7. 5 YR 5/1 灰	0.475	0.159	3.40	0.692	0.306	0.158	6.9	17.0	陶邑
227	38号墳	西溝	杯身	5 YR 8/2 灰白	0.427	0.159	3.28	0.542	0.353	0.100	2.7	9.7	陶邑
228	38号墳	西溝	杯蓋	2. 5 Y 8/2 灰白	0.466	0.179	3.05	0.495	0.306	0.105	9.8	27.0	陶邑
229	38号墳	西溝	甕	5 Y 5/1 灰 5 Y 8/1 灰白	0.576	0.181	2.41	0.695	0.344	0.208	11.0	18.0	陶邑
230	39号墳	西溝	杯蓋	7. 5 YR 6/1 灰	0.341	0.052	3.05	0.434	0.184	0.064	3.6	11.0	陶邑
231	39号墳	西溝	高杯	5 Y 6/1 灰	0.364	0.035	2.93	0.464	0.177	0.047	2.9	9.2	陶邑
232	40号墳	II-①	有蓋 蓋	N 6/0 灰 N 7/0 灰白	0.278	0.084	2.09	0.313	0.233	0.124	12.0	16.0	不明
233	40号墳	II-①	有蓋 高杯	N 8/0 灰白	0.266	0.084	2.02	0.242	0.171	0.120	16.0	31.0	不明
234	45号墳	北溝	杯身	5 Y 7/1 · 6/1 灰白	0.329	0.116	2.15	0.247	0.133	0.089	76.0	69.0	不明
235	45号墳	北溝	杯身	5 Y 7/1 · 7/2 灰白	0.45	0.258	1.40	0.520	0.372	0.242	23.0	46.0	不明
236	45号墳	東溝	筒形 器台	7. 5 Y 7/1 灰白 5 Y 7/1 灰白									
237	48号墳	IV-①	甕	10 YR 6/2 灰黄褐	0.366	0.044	2.33	0.420	0.163	0.066	3.9	16.0	陶邑
238	48号墳	IV-①	碗	N 8/0 灰白 N 5/0 灰	0.386	0.091	2.03	0.606	0.256	0.092	2.9	6.6	陶邑
239	49号墳	I	筒形 器台	2. 5 Y 7/3 浅黄	0.364	0.205	2.16	0.412	0.378	0.158	14.0	25.0	不明
240	53号墳	北溝	有蓋 蓋	5 Y 5/1 灰	0.338	0.037	2.16	0.439	0.146	0.066	4.1	15.0	陶邑
241	53号墳	北溝	有蓋 高杯	2. 5 GY 4/1 暗オリーブ灰	0.337	0.035	2.00	0.437	0.134	0.048	4.5	18.0	陶邑
242	63号墳	III-②	甕	N 5/0 灰 N 7/0 灰白	0.485	0.181	2.22	0.502	0.383	0.236	4.2	15.0	陶邑
243	65号墳	III-①	杯蓋	N 6/0 灰	0.563	0.188	2.38	0.788	0.403	0.234	7.2	11.0	陶邑

第6表 石薬師東古墳群出土須恵器胎土分析表(1)

No	出土古墳	位置	器種	色調	K	Ca	Fe	Rb	Sr	Na	陶邑	猿投	推定產地
244	65号墳	III-①	杯身	2.5Y8/2 N7/0 灰白	0.483	0.195	2.56	0.647	0.358	0.172	7.4	18.0	陶邑
245	67号墳	I-①	子持壺	5Y7/1 灰白	0.283	0.030	2.52	0.308	0.102	0.035	9.8	30.0	陶邑
246	71号墳	I-②	壺	5Y6/1 灰	0.314	0.106	1.84	0.438	0.287	0.101	8.1	11.0	陶邑
247	71号墳	I-②	短頸壺	5Y6/1 灰 5Y5/1 灰	0.432	0.265	1.95	0.521	0.367	0.135	27.0	52.0	不明
248	74号墳	IV-①	子持壺	5Y5/1 灰	0.547	0.162	2.40	0.706	0.354	0.202	5.0	8.3	陶邑
249	74号墳	III-①	台付 短頸壺	N4/0 灰	0.389	0.033	2.16	0.478	0.156	0.068	3.3	14.0	陶邑
250	74号墳	III-②	器台										

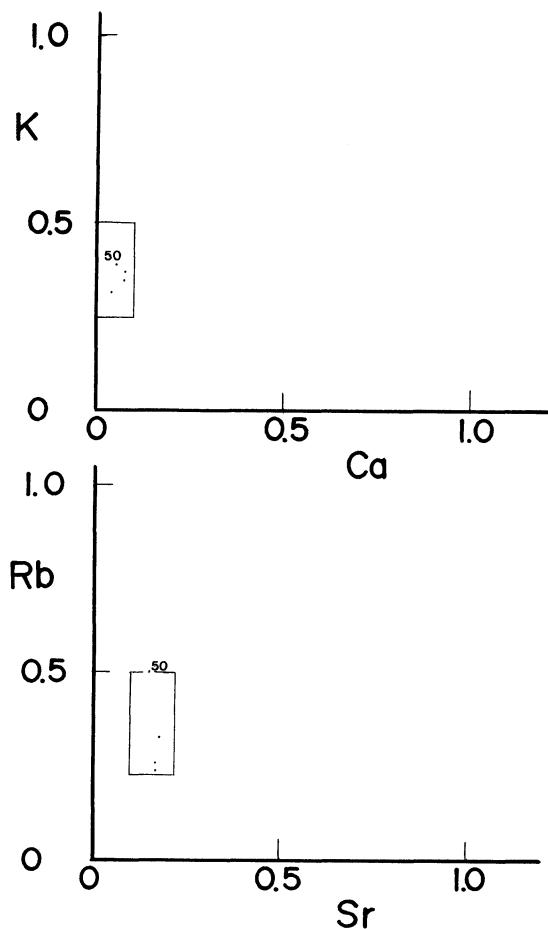
第7表 石葉師東古墳群出土須恵器胎土分析表(2)

No	出土古墳	位置	器種	質	色調	K	Ca	Fe	Rb	Sr	Na	陶邑	猿投	推定產地
251	S D40	A V 2 0	杯身	須恵器	7.5GY4/1 暗綠灰	0.411	0.052	2.24	0.491	0.179	0.103	2.9	14.0	陶邑
252	S D40	A V 2 0	杯蓋	須恵器	H10Y5/2 オリーブ灰	0.445	0.133	2.34	0.470	0.308	0.195	2.7	12.0	陶邑
253	S D40	A T 1 9	甕	須恵器	H10Y6/1 灰	0.388	0.156	4.02	0.429	0.272	0.143	9.1	25.0	陶邑
254	S D40	A T 1 9	甕	須恵器	N6/0 灰	0.309	0.030	1.97	0.382	0.177	0.033	6.3	11.0	陶邑
255	S D40	A V 2 1	杯蓋	須恵器	10GY5/1 綠灰	0.541	0.263	2.66	0.716	0.459	0.229	14.0	28.0	不明
256	S D40	A V 2 1	甕	須恵器	10GY4/1 暗綠灰	0.601	0.189	2.45	0.659	0.317	0.266	20.0	36.0	不明
257	S D40	A V 2 0	杯身	須恵器	10GY4/1 暗綠灰	0.245	0.027	3.08	0.296	0.126	0.057	12.0	22.0	不明
258	S D40	A V 2 0	甕	須恵器	H7.5Y8/3 淡黃	0.354	0.032	2.72	0.368	0.142	0.039	5.9	22.0	陶邑
259	S D40	A V 2 0	甕	須恵器	H10Y6/1 灰	0.309	0.033	2.13	0.344	0.175	0.034	7.2	14.0	陶邑
260	S D40	A V 2 0	甕	須恵器	10GY5/1 綠灰	0.325	0.038	3.21	0.361	0.189	0.125	6.1	12.0	陶邑
261	S D40	A W 2 1	甕	須恵器	10GY6/1 綠灰	0.400	0.039	2.21	0.471	0.163	0.056	3.4	15.0	陶邑
262	S D40	A W 2 1	杯身	須恵器	10GY6/1 綠灰	0.435	0.092	2.93	0.492	0.224	0.080	3.6	17.0	陶邑

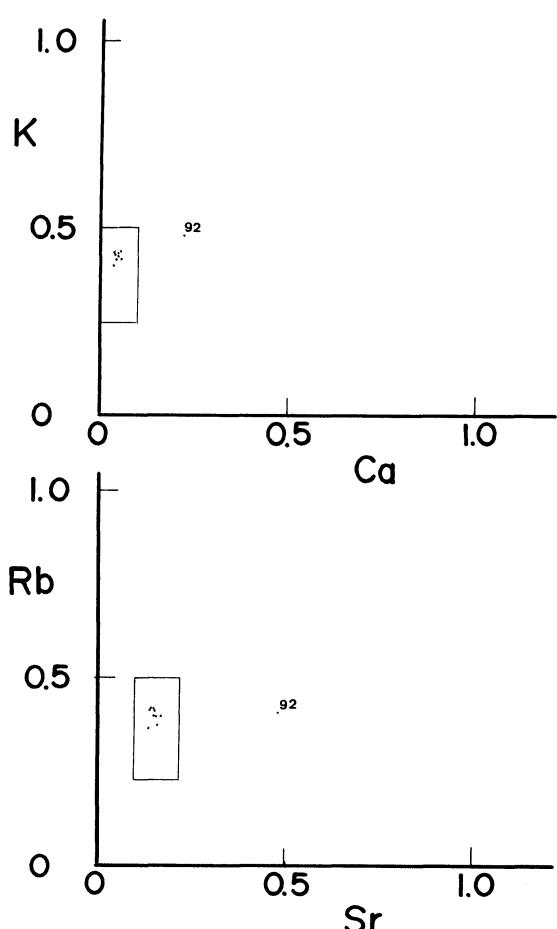
第8表 稲生遺跡出土須恵器胎土分析表

No	出土古墳	器種	質	色調	K	Ca	Fe	Rb	Sr	Na	分類	備考
263	3号墳	円筒	土師質	7.5YR7/8 黄灰	0.457	0.038	2.25	0.427	0.191	0.051	A	
264	3号墳	円筒	土師質	7.5YR7/4 にぶい橙	0.341	0.033	2.81	0.334	0.167	0.035	A	
265	3号墳	円筒	土師質	7.5YR6/8 橙	0.374	0.039	2.49	0.401	0.174	0.047	A	
266	3号墳	円筒	土師質	5YR7/8 橙	0.442	0.063	3.03	0.442	0.209	0.089	A	
267	3号墳	円筒	土師質	7.5YR8/4 淡黄橙	0.353	0.038	2.71	0.340	0.168	0.039	A	
268	4号墳	円筒	土師質	7.5YR8/6 淡黄橙	0.368	0.143	1.42	0.321	0.441	0.158	D	
269	4号墳	円筒	土師質	7.5YR7/4 にぶい橙	0.304	0.209	1.35	0.285	0.446	0.151	D	
270	4号墳	円筒	土師質	10Y8/3 淡黄橙	0.293	0.215	1.32	0.268	0.440	0.169	D	
271	4号墳	円筒	土師質	2.5Y8/4 淡黄	0.308	0.197	1.49	0.235	0.469	0.133	D	
272	4号墳	円筒	土師質	10Y8/6 黄橙	0.287	0.205	1.40	0.258	0.419	0.157	D	
273	6号墳	円筒	土師質	5YR6/8 橙	0.315	0.046	2.42	0.479	0.178	0.071	A	
274	6号墳	円筒	土師質	5YR6/8 橙	0.415	0.050	2.57	0.528	0.193	0.074	A	
275	6号墳	円筒	土師質	7.5YR7/6 橙	0.321	0.035	2.56	0.359	0.155	0.032	A	
276	6号墳	円筒	土師質	7.5YR7/4 にぶい橙	0.406	0.029	2.55	0.369	0.159	0.046	A	
277	6号墳	円筒	土師質	7.5YR6/8 橙	0.416	0.046	2.41	0.504	0.185	0.067	A	
278	17号墳	人物	土師質	5YR7/4 にぶい橙	0.464	0.088	3.48	0.502	0.224	0.112	A	
279	17号墳	人物	土師質	5YR7/4 にぶい橙	0.462	0.085	3.04	0.534	0.211	0.106	A	
280	17号墳	人物	土師質	5YR6/6 橙	0.426	0.053	3.85	0.457	0.158	0.061	A	
281	17号墳	動物	土師質	10YR7/6 明黄褐	0.377	0.124	3.02	0.346	0.270	0.107	C	
282	17号墳	動物	土師質	10YR8/6 黄褐	0.389	0.125	3.11	0.354	0.280	0.104	C	
283	17号墳	動物	土師質	10YR7/6 明黄褐	0.389	0.137	3.05	0.339	0.286	0.107	C	

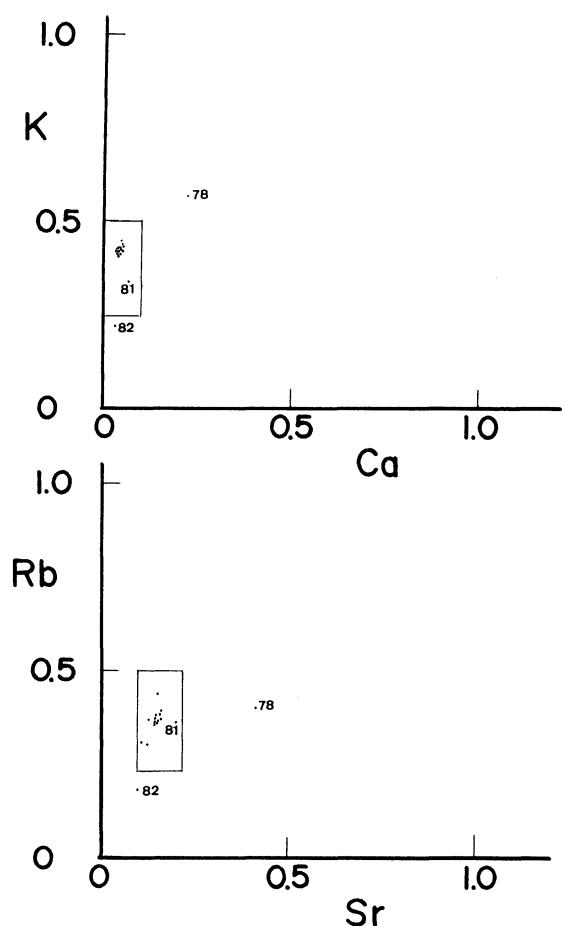
第9表 寺谷古墳群出土埴輪胎土分析表



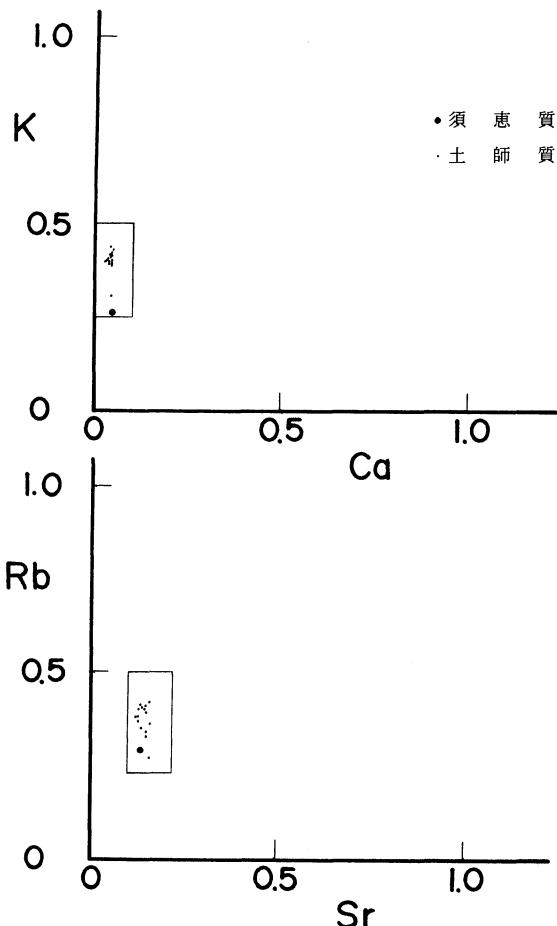
第1図 35号墳出土埴輪 K-Ca・Rb・Sr分布図



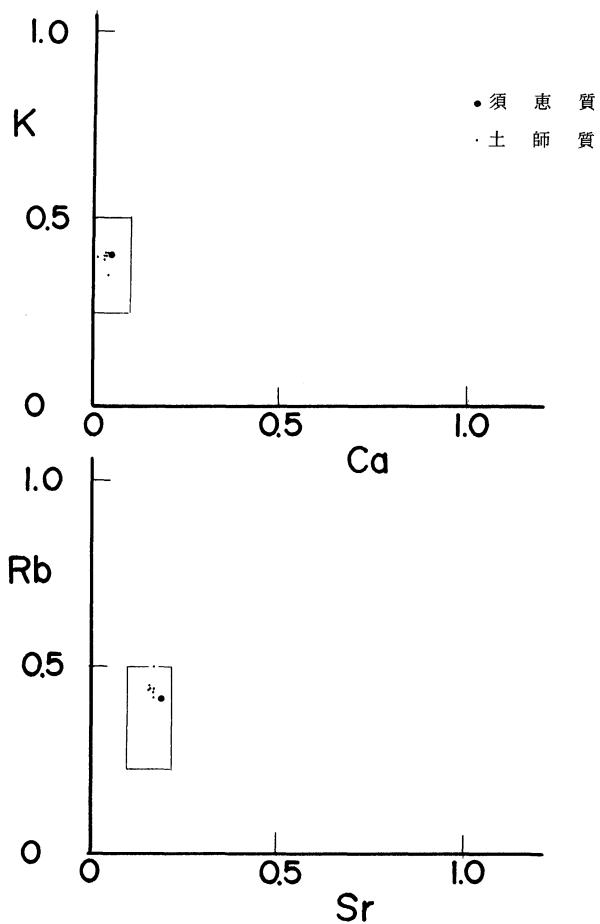
第3図 42号墳出土埴輪 K-Ca・Rb・Sr分布図



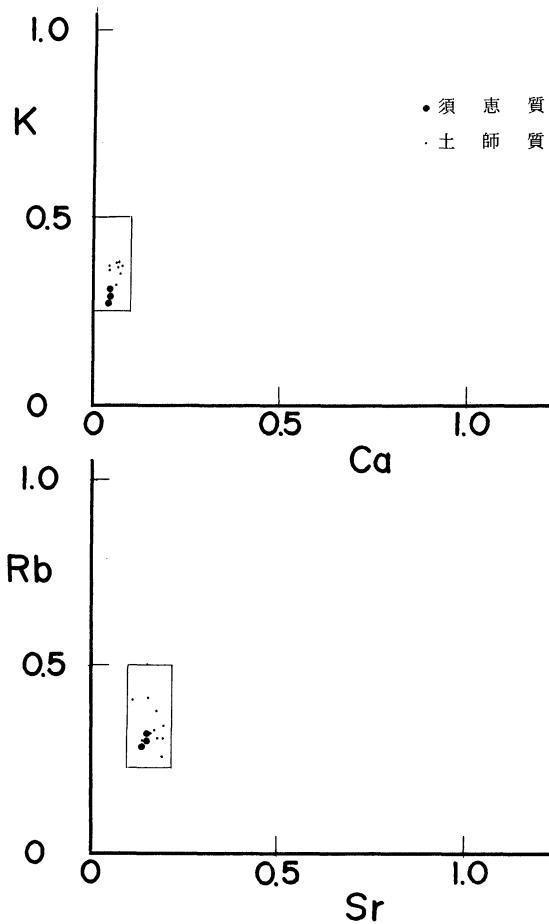
第2図 41号墳出土埴輪 K-Ca・Rb・Sr分布図



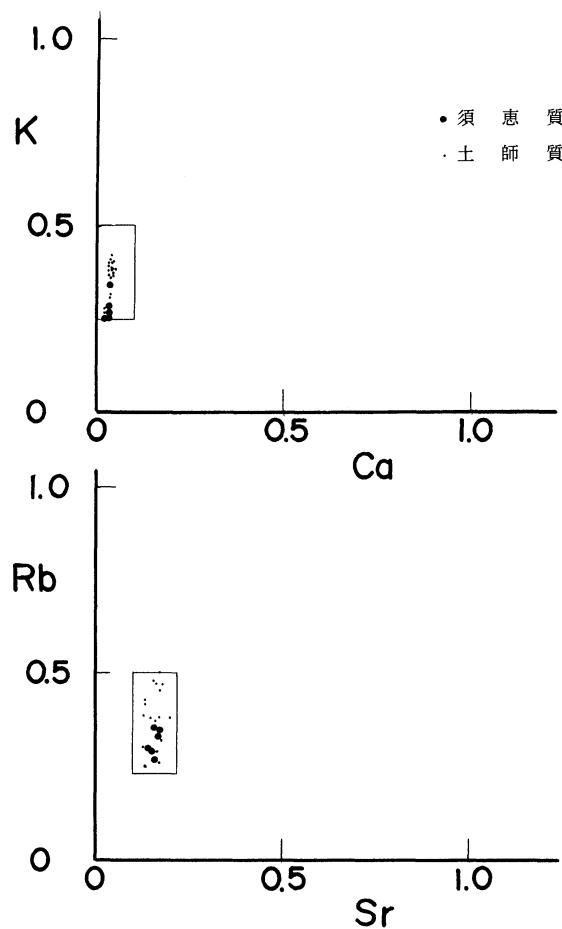
第4図 43号墳出土埴輪 K-Ca・Rb・Sr分布図



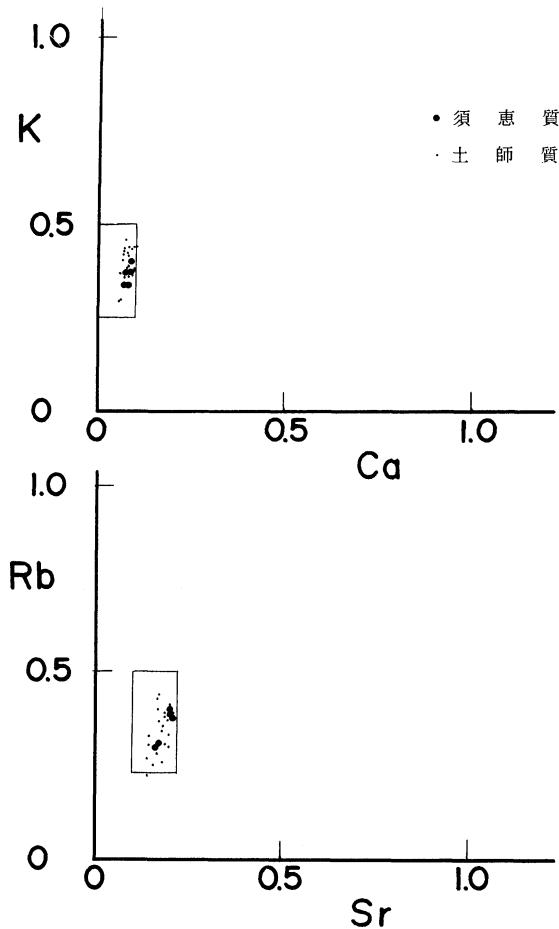
第5図 47号墳出土埴輪 K-Ca・Rb・Sr分布図



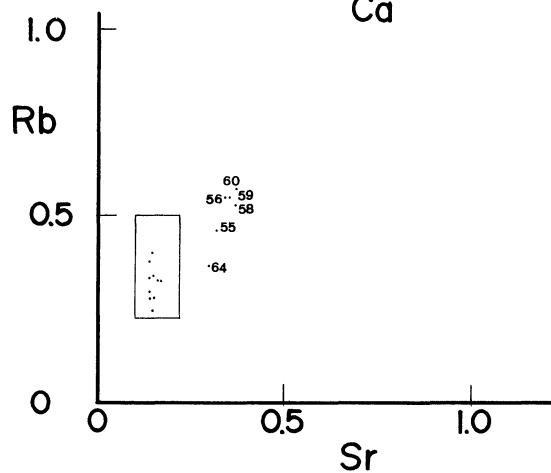
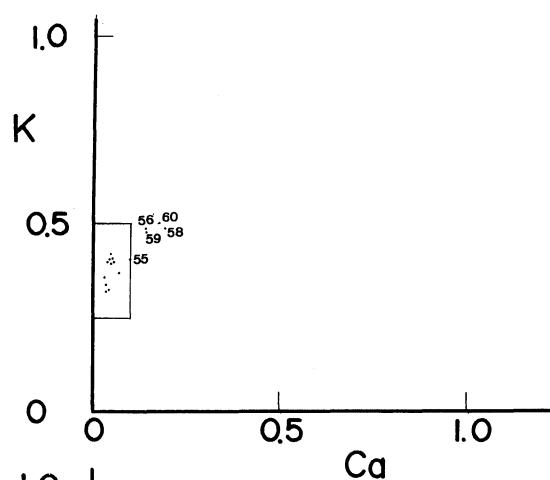
第7図 55号墳出土埴輪 K-Ca・Rb・Sr分布図



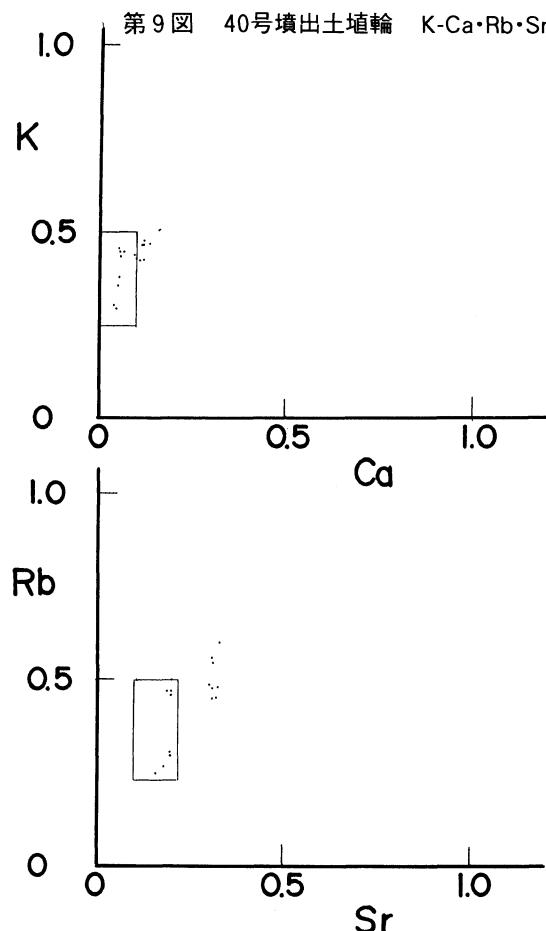
第6図 49号墳出土埴輪 K-Ca・Rb・Sr分布図



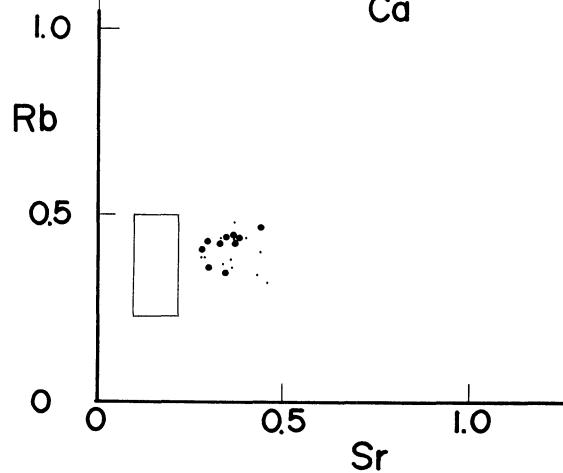
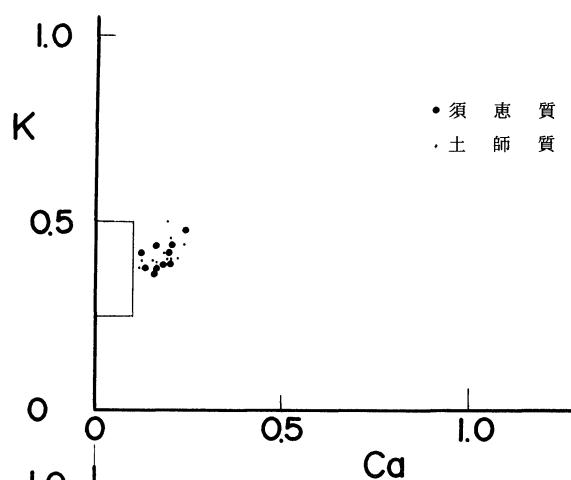
第8図 63号墳出土埴輪 K-Ca・Rb・Sr分布図



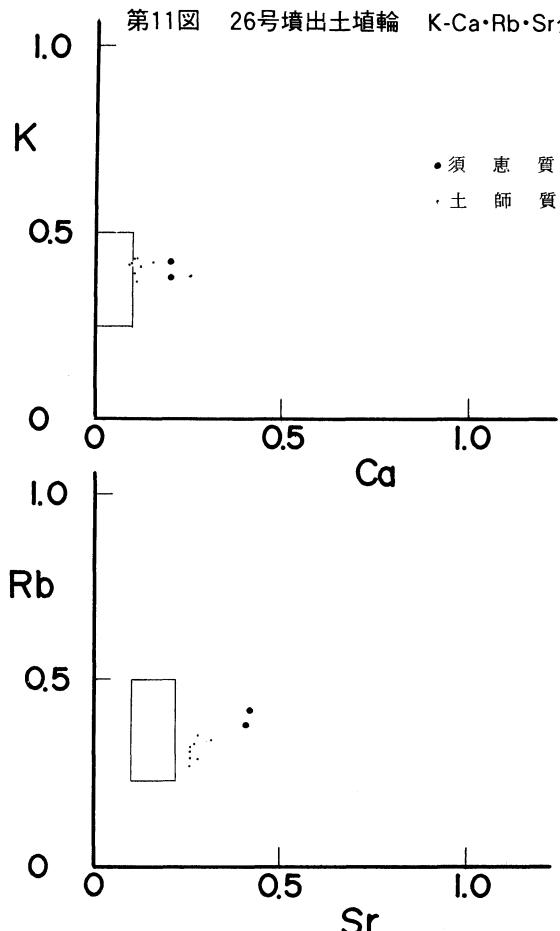
第9図 40号墳出土埴輪 K-Ca・Rb・Sr分布図



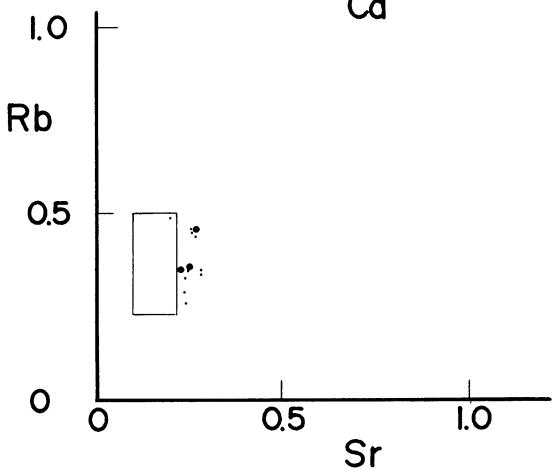
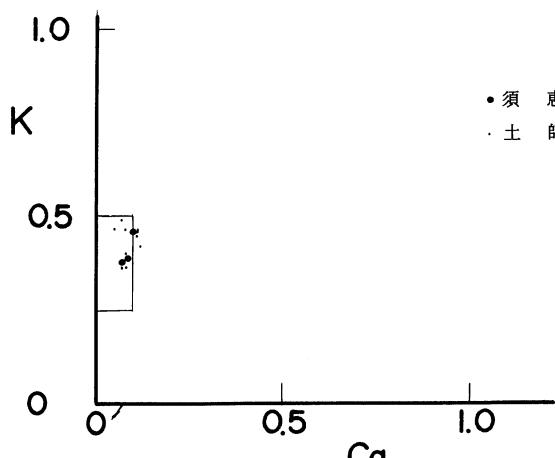
第10図 48号墳出土埴輪 K-Ca・Rb・Sr分布図



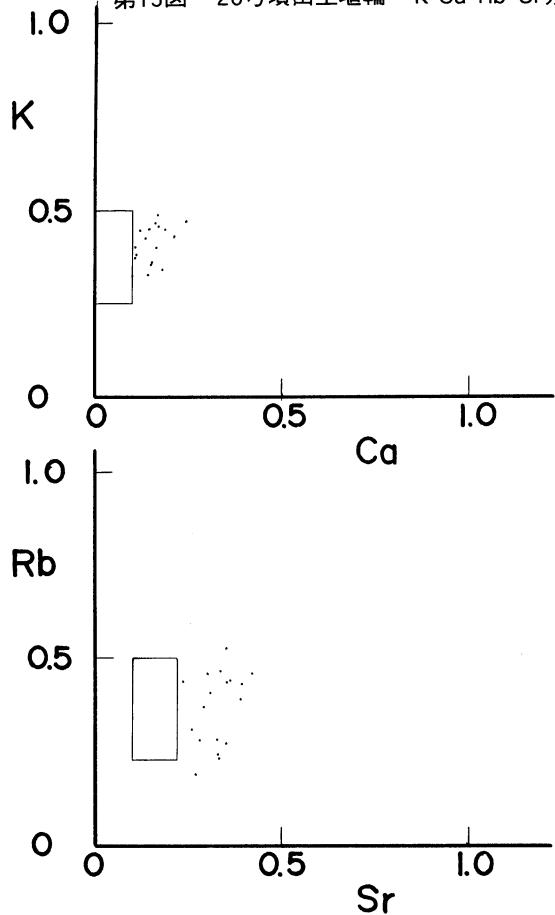
第11図 26号墳出土埴輪 K-Ca・Rb・Sr分布図



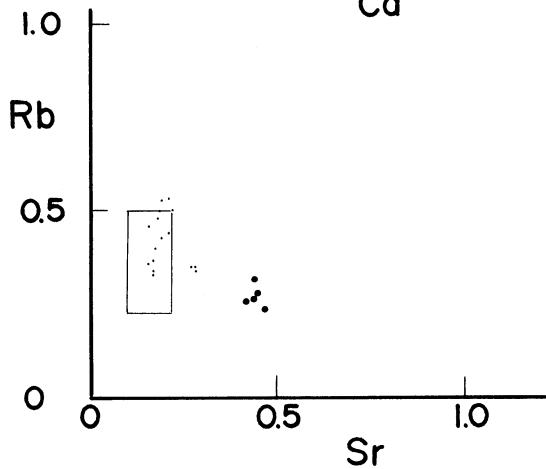
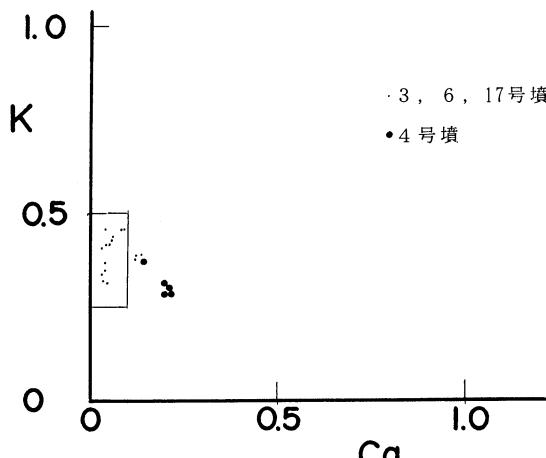
第12図 27号墳出土埴輪 K-Ca・Rb・Sr分布図



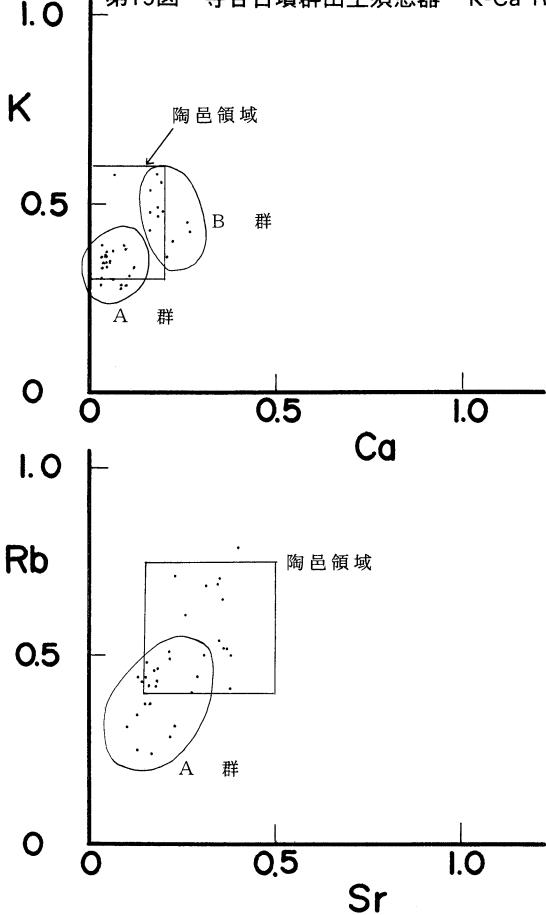
第13図 28号墳出土埴輪 K-Ca・Rb・Sr分布図



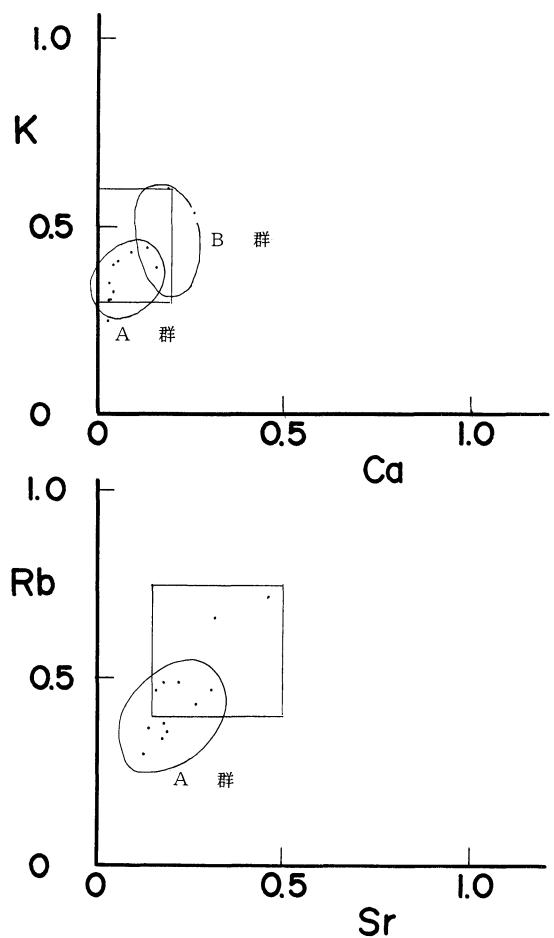
第14図 71号墳出土埴輪 K-Ca・Rb・Sr分布図



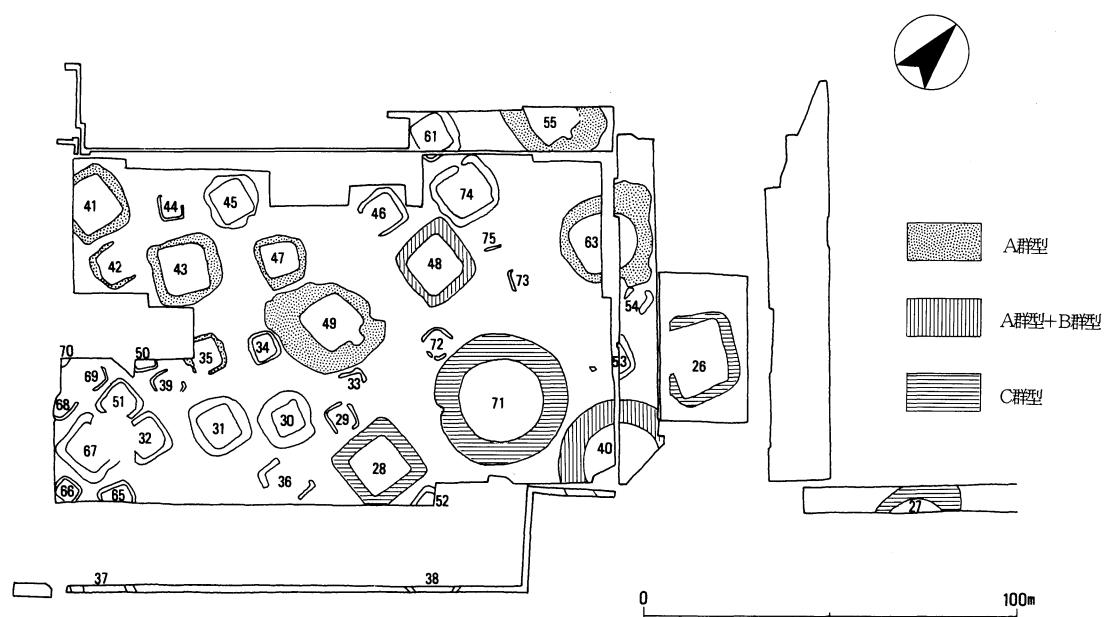
第15図 寺谷古墳群出土須恵器 K-Ca・Rb・Sr分布図



第16図 石薬師東古墳群出土須恵器 K-Ca・Rb・Sr分布図



第17図 稲生遺跡出土須恵器 K-Ca・Rb・Sr分布図



第18図 出土埴輪別古墳群配置図 (1 : 2,000)

付編Ⅱ 石薬師東古墳群の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

1. はじめに

石薬師東古墳群はかつて25基からなる古墳群と考えられていたが、調査の結果、約50基の古墳周溝が検出され、その分布は周囲にも広がっていたと推定されている。今回対象としたのは、石薬師東40号墳の下層から検出された須恵器・有蓋高杯で、5世紀後半と考えられている。蓋は外見上密着しているように見えることから、供物など当時の内部の状況が保存されている可能性がある。そこで、その内容物を推定する目的で、種実同定ならびに土壤理化学分析を行う。土壤理化学分析に関しては、特に動物質の供物の存在を想定して、遺体等に多い成分である炭素、リン酸、カルシウム、亜鉛の各含有量を調べることにした。

2. 試料

試料は、石薬師東40号墳の下層から検出された須恵器・有蓋高杯一对である。外部に付着した土壤を剥がし、内部との比較試料に用いた。蓋はしっかりとしまっていたが、多少の隙間は存在していた。蓋を剥がすと、内部には土がすき間なく詰まっていた。土質は外部のものにはほぼ等しく、内部には土壤生物（ミミズなど）が通った跡とみられる空隙が多數みられた。そこで、内部の土を採取・分割し半分を種実同定に、残りを土壤理化学分析に用いた。

3. 方法

(1) 種実同定

半割した試料全量（約300cc）について、数%の水酸化ナトリウムを加え一昼夜ほど浸し、0.5mmの篩を通して水洗いして残渣を集めた。残渣を双眼実体顕微鏡下で観察を行い、種実を抽出、同定を行った。

(2) 土壤理化学分析

有機炭素はチューリン法、全窒素は硫酸分解－水蒸気蒸留法、リン酸・亜鉛は共に硝酸・過塩素酸で分解し、リン酸はバナドモリブデン酸比色法、亜鉛は原子吸光度法（土壤標準分析・測定法委員会、1986；渋谷ほか、1978）でそれぞれ行った。

以下に、各項目の工程を示す。

a. 有機炭素量 (Org-C)

微粉碎試料0.100～0.500gを100mℓ三角フラスコに正確に秤りとり、0.4Nクロム酸・硫酸混液10mℓを正確に加え、約200℃の砂浴上で正確に5分間煮沸する。冷却後、0.2%フェニルアントラニル酸液を指示薬に0.2N硫酸第1鉄アンモニウム液で滴定した。滴定値および加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりの有機炭素量 (Org-c乾土%) を求めた。

b. 全リン酸 (T-P₂O₅)

風乾細土試料5.00gをケルダールフラスコに秤りとり、はじめに硝酸(HNO₃)10mℓを加えて加熱分解した。放冷後、過塩素酸(HClO₄)20mℓを加えて再び加熱分解を行った。分解終了後、蒸溜水で100mℓに定容し、ろ過した。ろ液の一定量を試験管に採取し、リン酸発色液（バナドモリブデン酸・硝酸液）を加えて分光光度計によりリン酸(P₂O₅)濃度を測定した。この測定値と加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりのリン酸含量(P₂O₅mg/g)を求めた。

c. カルシウム

リン酸測定用分解液について別に、ろ液の一定量を試験管に採取し、干渉抑制剤を加えた後に原子吸光光度計によりカルシウム(CaO)濃度を測定する。この測定値と加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりのカルシウム含量(CaO mg/g)を求める。

d. 亜鉛 (Zn)

リン酸測定用分解液について、原子吸光光度計により亜鉛(Zn)の濃度を測定した。これら測定値と加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりの亜鉛(Zn mg/K kg)含量を求めた。

4. 結果

(1) 種実同定

分析残渣はほとんどが砂であり、種実遺体は検出されなかった。

(2) 土壤理化学分析

a. 有機炭素

土壤は、一般に無機成分と有機成分に大別され、

後者の給源は動植物の遺体、根、微生物などである。したがって、地表面が安定しており、植生が長く維持されると、表層には多くの有機物が集積することになる。有機物は、一般に堆積物あるいは土壌の表層（地表面）へ供給されるだけであるから、埋没現象のない単元土壌では有機物量は下層になるほど漸減する。このことから、下層に有機物量が多い層が認められる場合は、過去に表層であったことが指摘される。一方、遺跡で検出される遺構などの覆土は、人為的な影響も含めて異地性のものが多く、表層から下層へ有機物量が漸減する現象は必ずしも当てはまらない。しかし、有機物量の多い覆土が特徴的な場合、そこには給源物質として動植物遺体の存在が指摘されることもある。ところで、土壌の有機物量は分析によって直接測定することはできないので、一般には有機物の構成成分である炭素量を測定し、その測定値から有機物量を知ることができる。ただし、土壌中の炭素は有機物の構成成分の他に、炭酸カルシウムなど無機成分としても存在する。一般に、前者を有機炭素、後者を無機炭素と呼び、その合計を全炭素と呼ぶ。したがって、厳密に炭素量から有機物量を換算する場合は、有機炭素量に係数1.724（土壌有機物中の平均炭素割合が58%である。）を乗じて求める。今回の結果では、土器の内部・外ともほぼ同じ1.2%程度であった。

表1 土壌理化学分析結果

試料名	リン酸 含量 P_2O_5 mg/g	カルシウム 含量 CaO mg/g	亜鉛 含量 Zn mg/k	腐殖 値 C %	土色	土性
土器内の土	0.59	0.63	68	1.25 3/4暗褐	7.5YR L ~ C L	
土器外の土	0.68	0.66	74	1.12 3/4暗褐	10YR L ~ C L	

注. (1) 土色：マンセル表色系に準じた新版標準土色帖（農林省農林水産技術

会議監修, 1967) による。

(2) 土性：土壌調査ハンドブック（ペドロジスト懇談会編, 1984）の野外土性の判定法による。

L……壤土（砂と粘土を半々に感じる。）

C L…埴壤土（わずかに砂を感じるがかなり粘る。）

b. 全リン酸・カルシウム

土壌中におけるリン酸の移動性はきわめて小さく、揮散性のリン酸はほとんどない。土壌中のリン酸は植物の根によって呼吸され、植物に移行する。その植物は草食動物に食べられて動物の体に移り、草食動物は肉食動物に食べられる。さらに、動植物の死がいや動物の排泄物が微生物によって分解され、リン酸塩となって土壌にもどってくる。自然界におけるリン酸の循環は、岩石→土壌→植物→海→岩石の経路をたどるが、その循環はきわめておそい。また、わが国の土壌は、火山灰土壌やその影響の強い土壌が多く、リン酸吸収係数（リン酸固定力）の高い土壌では、リン酸の溶脱はほとんどない。したがって、土壌中に高含量のリン酸が認められる場合は、それが動植物、特に人を含めた動物を給源としている可能性が高い。また、農耕地においてはその給源として、人為的な施肥による可能性が指摘される。

土壌中に自然に存在するリン酸含量、すなわち天然賦存量は $3.0P_2O_5\text{mg/g}$ で、最大でも $5.0P_2O_5\text{mg/g}$ と推定される。(Bowen, 1983; Boltand Bruggenwert, 1980; 川崎ほか, 1991; 天野ほか, 1991)。今回の試料では、土器の内外ともに $0.6P_2O_5\text{mg/g}$ であり、上記の最大値よりも低い。

一方、カルシウムも骨などに多くみられる元素である。土壌中のカルシウム含量は普通 $1\sim 50\text{CaOmg/g}$ (藤貫, 1979)といわれ、天然賦存量の含量幅がリン酸よりも大きい。今回の結果は、土器の中・外とともに約 0.6CaOmg/g であり、これも上記と比べて低い。

c. 亜鉛

重金属類元素の土壌中における自然含有量、いわゆる天然賦存量はきわめて微量である。しかし、これら重金属類は人間の生活行為(廃棄物の投棄など)によって、局所的な濃集が容易に起こる。人間は食

物を体内に蓄積し、その成分を排泄物として土壤に還元するが、この行為によって自然界に微量であつた成分（重金属類元素）は土壤中に蓄積し、濃集する。重金属類元素の中で、亜鉛は現在のド水汚泥や家畜ふんなどに多量に含まれており、汚染指標元素となっている。今後、リン酸とともに人の生活行為の痕跡の指標として利用出来る可能性が高い。

亜鉛の土壤中における天然賦存量は、中央値90mg/kg (Bowen,1983)との報告がある。今回の結果は、土器の中・外ともに70mg/kg程度であり、上記の値よりやや低い。

5. 考察

今回4つの項目に関して分析を実施したが、土器の内部の土と外側に付着していた土との間で、大きな差が見られなかった。これは、双方の土の性質に大きな違いがみられなかつたことを意味する。土器内にミミズなどの土壤生物の通った穴が多く認められたことから、蓋の隙間から土壤生物や水等の影響によって土壤が入り込み攪乱されたため、均質になつた可能性もある。したがつて、今回の結果はからみるかぎり、当時の内容物を推定するのは難しい。仮に、埋納されていたとしても、土壤生物により分解されてしまった可能性もある。

〈文献〉

- 天野洋司・太田健・草場敬・中井信(1991)中部日本以北の土壤型別蓄積リンの形態別計量、農林水産省農林水産技術会議事務局編 土壤蓄積リンの再生循環利用技術の開発, 149p:p.20-36
- Bowen.H.J.M.(1983)環境無機化学－元素の循環と生化学－浅見輝男・茅野充男訳, 369p,:p.297, 博友社 [Bowen.H.J.M.(1979) Environmental Chemistry of Elements]
- Bolt.G.H·Bruggenwert,M.G.M.(1980)土壤の化学, 岩田進午・三輪容太郎・井上隆弘・陽捷行訳, 309p., 学会出版センター[Bolt.G.H·Bruggenwert,M.G.M.(1976) SOIL CHEMISTRY], p. 235-236. 土壤標準分析・測定法委員会編(1986) 土壤標準分析・測定法, 354p., 博友社
- 土壤標準分析・測定法委員会編(1986) 土壤標準分析・測定法, 354p., 博友社

藤貫 正(1979) カルシウム, 地質調査所化学分析法, 52:57-61, 地質調査所

川崎 弘・吉田 澄・井上恒久(1991)九州地域の土壤型別蓄積リンの形態別計量、農林水産省農林水産技術会議事務局編 土壤蓄積リンの再生循環利用技術の開発, 149p:p.23-27

渋谷政夫・小山雄生・渡辺久男(1978)重金属測定法－土壤汚染元素と定量法の解説-,331p.,博友社

報告書抄録

ふりがな	いしやくしひがしこふんぐん・いしやくしひがしいせき はっくつちょうさほうこく						
書名	石薬師東古墳群・石薬師東遺跡 発掘調査報告						
副書名							
卷次							
シリーズ名	三重県埋蔵文化財調査報告						
シリーズ番号	200-2						
編著者名	服部芳人・船越重伸・稻森剛・吉田利弘・三辻利一・(株)パリノサーヴェイ						
編集機関	三重県埋蔵文化財センター						
所在地	〒515-0325 三重県多気郡明和町竹川503番地 TEL 0596-52-1732						
発行年月日	西暦2000年3月31日						

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 。' "	東経 。' "	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
いしやくしひがしこふんぐん 石薬師東古墳群	みえけんすずかし 三重県鈴鹿市 いしやくしちょうあざてらひがし 石薬師町字寺東	24207	1197~1226 1227~1229 1252~1262 1264~1265	34° 54' 10"	136° 33' 30"	1993.11.08 ~	19,344	三重県消防学校施設・設備整備事業に伴う事前調査
いしやくしひがしいせき 石薬師東遺跡		24207	727			1996.12.20		

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
石薬師東古墳群	古墳	古墳時代(5世紀後半~6世紀前半)	古墳周溝(円墳4基・方墳42基) 土器棺1基	須恵器(筒形器台・子持甕など)・土師器・円筒埴輪・形象埴輪(人物・家形・馬形・鹿形埴輪等)	周溝内での祭祀の痕跡 頭部の後ろの表現が特異な馬形埴輪
石薬師東遺跡	集落跡	奈良時代 昭和時代	竪穴住居・掘立柱建物 第一氣象連隊建物基礎・待避壕	須恵器・土師器 軍用食器・土管・瓦	

三重県埋蔵文化財調査報告200-2

石薬師東古墳群・石薬師東遺跡

発掘調査報告

—三重県鈴鹿市石薬師町—

2000.3

編集・発行 三重県埋蔵文化財センター

印 刷 東海印刷株式会社

